(財)岐阜市教育文化振興事業団報告書第15集

鷺山蝉・鷺山仙道遺跡

－岐阜市鷺山第二土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査－

2007

岐阜市鷺山第二土地区画整理組合
(財)岐阜市教育文化振興事業団

蝉土手城館跡から金華山・福光をのぞむ

蝉土手城館跡の堀（鷺山蝉遺跡B3区）

屋敷地出土遺物（戦国時代、鷲山蝉遺跡A区）

蝉土手城館跡出土遺物（戦国時代、鷲山蝉遺跡B区）

鷺山蝉遺跡A1区SD14将棋駒出土状況

将棋駒（戦国時代）

鷺山蝉遺跡F2区Pit252巡方出土状況

巡方（奈良～平安時代）

住居跡出土遺物（奈良～平安時代、鷺山蝉遺跡F区）

例　　言

1．本書は、岐阜市大字鷺山字西蟬、字東蟬、字雨屋に所在する埋蔵文化財包蔵地、鷺山蟬遺跡・鷺山仙道遺跡の発掘調査報告書である。

2．本調査は、鷺山第二土地区画整理事業における公共施設用地建設に伴う緊急発掘調査として、業務委託契約に基づき、委託者・岐阜市鷺山第二土地区画整理組合の調査経費負担により、受託者・（財）岐阜市教育文化振興事業団が実施した。

3．調査期間は下記の通りである。

現地調査　平成15年5月29日～平成16年3月15日
　　平成16年5月31日～平成17年3月15日
　　平成17年5月27日～平成18年3月15日
整理・報告　平成17年5月27日～平成18年3月15日
　　平成18年5月23日～平成19年3月15日

4．調査組織は下記の通りである。

調査主体者　（財）岐阜市教育文化振興事業団　理事長　佐藤俊正（平成15～16年度）
　　多田喜代則（平成17年度）
　　河合　浩（平成18年度）
　　埋蔵文化財調査事務所　所　長　今尾隆嘉（平成15年度）
　　西村覺良（平成16～18年度）

調査担当　朝田公年〔（財）岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所、平成15～18年度－発掘調査・整理報告〕
　　熊田朝美〔同上、平成16年度－発掘調査〕
　　山田真靖〔同上、平成17年度－発掘調査・整理報告〕
　　大嵩崎泰明〔同上、平成18年度－整理報告〕

調査補助員（五十音順）青木小夜・川橋靖子・倉持和美・沢田伊一郎・高木優子・棚橋英子・辻　啓子・村瀬清則・森　和子・横井聡子・和田啓子

作業員（五十音順）新井千鶴・石田久夫・岩田敏一・上田たかえ・江崎隆己・太田美代治・大野美智子・大洞勝巳・大山敏郎・大山幸子・蔭山寿一郎・加藤久淳・河合弘公・川嶋隆文・北川政栄・木村久美雄・後藤信行・佐藤一成・鷲見米子・田中義彦・竹村　進・谷口正洋・戸田春雄・富成紀美子・久野紀男・広瀬孝一・前田博司・三島　彰・宮部敏子・武藤二三子・山口友治・山田　孝・山田秀雅・吉田松枝・渡辺健一・桐山裕美子・増田啓子・松久康子

5．調査の進行及び本書の作成は、内堀信雄（岐阜市教育委員会社会教育室）、恩田裕之、井川祥子、高木　晃、山田宜久（（財）岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所）の指導および協力の下、朝田が行い、大嵩崎がこれを補佐した。また、調査に関する事務処理及び調査経費の執行は、朝田と吉田陽子（（財）岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所）が行った。

6．整理作業は平成17年は朝田と山田真靖が、平成18年度は朝田と大嵩崎が行った。

7．本書の執筆は、第２章第１節を内堀信雄が、第６章第１節を新山雅弘が、第２節を植田弥生・野村敏江が、第１節と第４節を藤根　久が、第１節・第５節を黒澤一男〔それぞれ（株）パレオ・ラボ〕が、第２節・第３節を（株）吉田生物研究所が、残りを朝田が行った。また、全体の編集は朝田と大嵩崎が行った。

8．自然科学分析全般は（株）パレオ・ラボに委託した。

9．木製品・銅製品の保存処理、樹種同定の一部及び漆膜構造分析は（株）吉田生物研究所に委託した。

10．調査区の写真測量は㈱愛知玉野情報システム及び㈱イビソクに委託した。

11．遺物の写真撮影は佐藤右文氏に依頼した。

12．出土遺物については下記の各氏にご教示を頂いた（敬称略）。

縄文晩期土器	岩瀬彰利（豊橋市教育委員会）
須恵器	渡辺博人（各務原市教育委員会木曽川学研究所）
灰釉陶器・中国産磁器	尾野善裕（京都国立博物館）
山茶碗・古瀬戸・大窯	藤澤良祐（愛知学院大学）
中世～近世土師器・近世陶器	金子健一（(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター）
常滑	中野晴久（常滑市歴史民俗資料館）
古代銅製品	松村恵司（奈良文化財研究所）
石器全般	西村勝広（各務原市埋蔵文化財センター）

13．調査、現地公開及び報告書作成の過程で、下記の各氏及び各機関にご指導、ご協力を賜った。深く御礼申し上げる次第である。

小野木学・大熊厚志・近藤大典・中井　均・三宅唯美・山上雅弘・山田哲也・鈴木正貴・贄　元洋・中川尚子・高木　洋・高橋方紀・筧真理子・岐阜市教育委員会・岐阜市まちづくり推進部区画整理室・岐阜市歴史博物館・鷺山小学校・青山中学校・長良西小学校・長良中学校（敬称略）

14．写真などの調査記録及び出土遺物は（財）岐阜市教育文化振興事業団が管理している。これら資料を広く活用されたい。

凡　　例

＜遺構＞

1　遺構の略号は下記のとおり用いた。

SB：竪穴住居、SD：溝、SK：土坑、SE：井戸、SA：土塁・柱穴列、SS：通路、Pit：柱穴・小穴、SX：その他の遺構

2　遺構実測図の縮尺は１/50を原則とし、１/25、１/80、１/100、１/200、１/400、１/5,000である。また、別添図の縮尺は全て１/100である。

3　遺構実測図に示すトーンの範囲は以下に示すとおりである。

炭の範囲　焼土の範囲

4　遺構の方位は真北を示し、座標は日本測地系第Ⅶ系に準拠した。標高はT.P.（東京湾平均海面）を

用いた。

5　本書における遺跡名の略称は鷺山蝉遺跡を「SS２」、鷺山仙道遺跡を「SYS２」とした。また、遺構番号は発掘調査時の番号を用いた。

遺構説明に関しては鷺山蝉遺跡の場合「鷺山蝉遺跡（またはSS２）－調査区名－遺構番号」とし、鷺山仙道遺跡の場合は「鷺山仙道遺跡（またはSYS２）－調査区名－遺構番号」のように表記を行う。ただし、鷺山蝉遺跡A区・B区といった調査区単位毎に番号を1から付与したため、調査区名が異なると、同一の遺構番号であっても全く別の遺構を示している。

＜例１＞「鷺山蝉遺跡Ａ１区SD01」と「鷺山蝉遺跡Ｂ１区SD01」のように、調査区名が異なる場合、全く別の遺構を示している。

＜例２＞「鷺山蝉遺跡Ａ１区SD01」と「鷺山蝉遺跡Ａ３区SD01」のように、調査区がA区の範囲内の場合、調査隣接地であるため同一の遺構を示している。

＜遺物＞

1　出土遺物実測図の縮尺は１/３を原則とし、一部金属製品・土製品が1/2、一部大型木製品が1/8である。

2　回転ヘラ削り範囲は実線で記した。施釉範囲は一点鎖線で記し、断面のみの図では引き出し線で位置を示した。

3　土師器皿の横ナデ調整の範囲は実線で記し、断面のみの図では引き出し線で位置を示した。

4　土師器皿の黒く塗った部分はタール痕である。また遺物図中のスクリーントーン部分は、土器の場合は赤彩の範囲を、土製品・石製品の場合は鉱滓付着の範囲を、漆器椀の場合は朱漆の範囲を、金属製品の場合は黒漆の範囲を示し、各図面に対応するキャプションの通りである。

5　石器実測図中の破線は磨面の範囲を示し、断面に使用面を矢印の範囲で示した。

6　遺物観察表中の法量欄の口径・底径に関しては復元値を含み、その値を（　）で示す。器高に関しては残存高を含み、その値を（　）で示す。また土師器皿の口径、器高は最大値と最小値の平均で求めた。

7　遺物集計表の集計値は接合後の破片数である。

目　　次

第１章　遺跡の立地と環境
第１節　遺跡の立地 …… 1
第２節　周辺の遺跡 …… 1
第３節　既往の調査 …… 4
第２章　発掘調査の経過
第１節　発掘調査に至る経緯 …… 6
第２節　発掘調査の経過 …… 6
第３章　遺跡の概要
第１節　基本層序 …… 9
第２節　遺構の時期区分 …… 14
第３節　遺物の分類と時期区分 …… 14
第４章　遺構と遺物
第１節　１期（縄文時代晩期～弥生時代）の遺構と遺物 …… 19
第２節　２期（古墳時代～古代）の遺構と遺物 …… 23
第３節　３期（鎌倉時代～室町時代）の遺構と遺物 …… 60
第４節　４期（戦国時代）の遺構と遺物 …… 75
第５節　５期（近世）の遺構と遺物・各層出土その他遺物 …… 134
第５章　まとめ …… 229
第６章　自然科学分析
第１節　土壌自然科学分析 …… 235
第２節　樹種同定 …… 252
第３節　漆膜構造調査 …… 260
第４節　土器付着物の材質分析 …… 263
第５節　出土動物遺体の同定 …… 267
巻末　　報告書抄録
別添図　鷺山蝉遺跡・鷺山仙道遺跡発掘調査遺構全体図・土層断面図

挿図目次

第1図　周辺遺跡分布図 …… 2
第2図　遺跡の立地と標高推移模式図 …… 3
第3図　鷺山蝉遺跡試掘地点位置図 …… 4
第4図　調査区地区割図 …… 7
第5図　土層断面模式図その1(鷺山仙道遺跡A・B区、鷺山蝉遺跡A・C区) …… 10
第6図　土層断面模式図その2(鷺山蝉遺跡B区) …… 11
第7図　土層断面模式図その3(鷺山蝉遺跡D・E・F区) …… 12
第8図　主要遺物分類図 …… 16
第9図　鷺山蝉遺跡B8区SD88・89、SX33土器集積実測図 …… 19
第10図　鷺山蝉遺跡A1・2区SX05自然流路、SX10土器集積、SD11・13実測図 …… 20
第11図　鷺山仙道遺跡A1区SX09落ち込み実測図 …… 21
第12図　鷺山蝉遺跡B6区SD24、B7区SD30実測図 …… 23
第13図　鷺山蝉遺跡D1区SK06・08・10・15実測図 …… 24
第14図　鷺山蝉遺跡D3区SB01、SK65実測図 …… 25
第15図　鷺山蝉遺跡F3区SK54実測図 …… 26
第16図　鷺山仙道遺跡A2区SB01・02実測図 …… 27
第17図　鷺山仙道遺跡A1区SB03実測図 …… 28
第18図　鷺山仙道遺跡A1区SD10・15・17・23実測図 …… 29
第19図　鷺山仙道遺跡B1区SB01～03、SD06・07、SK10平面実測図 …… 30
第20図　鷺山仙道遺跡B1区SB01～03、SD06・07、SK10断面実測図 …… 31
第21図　鷺山蝉遺跡B2区SX02落ち込み、SK01、SD05・08・09、Pit74実測図 …… 33
第22図　鷺山蝉遺跡B4区SD53実測図 …… 34
第23図　鷺山蝉遺跡F1区SB01・06・09実測図 …… 36
第24図　鷺山蝉遺跡F1区SB02・08・10・12、SK12・15・20・27実測図 …… 37
第25図　鷺山蝉遺跡F1区SB03、SK10・25実測図 …… 38
第26図　鷺山蝉遺跡F1区SB04・14実測図 …… 39
第27図　鷺山蝉遺跡F1区SB07・11・13、SK11実測図 …… 41
第28図　鷺山蝉遺跡F1区SB14～16、SK19、SD15、SX02落ち込み実測図 …… 42
第29図　鷺山蝉遺跡F1区SK08実測図 …… 44
第30図　鷺山蝉遺跡F2区SB60・65、Pit319実測図 …… 46
第31図　鷺山蝉遺跡F2区SB61～64、SK98実測図 …… 47
第32図　鷺山蝉遺跡F2区SK79～83、SD40、SX20落ち込み実測図 …… 48
第33図　鷺山蝉遺跡F3区SB20～25・29、SK35・37・38・49平面実測図 …… 51
第34図　鷺山蝉遺跡F3区SB20～25・29、SK35・37・38・49断面実測図 …… 52
第35図　鷺山蝉遺跡F3区SB26～28、SK39・51・52・55・59実測図 …… 53
第36図　鷺山仙道遺跡A1区SD05・06・08・14実測図 …… 56
第37図　鷺山仙道遺跡A2区SK10、SD13実測図 …… 57
第38図　鷺山蝉遺跡B1区SD11・12・14、SK08・10実測図 …… 61
第39図　鷺山蝉遺跡B2・3区SD01・02・06実測図 …… 63
第40図　鷺山蝉遺跡B4区SD55・57・73～75、SK50・54実測図 …… 64
第41図　鷺山蝉遺跡B4区SK38、SD62・64・65・67実測図 …… 66
第42図　鷺山蝉遺跡B4・5区SK35～37・41～45・47・48・51・52・57、SD68・70実測図 …… 67
第43図　鷺山蝉遺跡B6区SD23・27・34・77・78実測図 …… 69

第44図　鷺山蝉遺跡B7区SD21断面実測図 ……71
第45図　鷺山蝉遺跡C1・2区SX02自然流路実測図 ‥72
第46図　鷺山蝉遺跡C2区SD16、SK10実測図 ……73
第47図　鷺山蝉遺跡F1区SD11実測図 ……74
第48図　鷺山仙道遺跡A2区SD11・12実測図 ……75
第49図　鷺山蝉遺跡A区戦国時代遺構配置図 ……77
第50図　鷺山蝉遺跡A1・3区SD01、柱穴列実測図 ‥78
第51図　鷺山蝉遺跡A2・3区SD02実測図 ……79
第52図　鷺山蝉遺跡A1区SD14・15、
Pit23～26・43、SS01通路実測図 ……80
第53図　鷺山蝉遺跡A4区SD26、SX28石積、SS02通路
実測図 ……81
第54図　鷺山蝉遺跡A2・3区SD28・30実測図 ……83
第55図　鷺山蝉遺跡A1・2区SK07・12・13、SD08、
SX06・08・21落ち込み、柱穴列実測図 ‥‥84
第56図　鷺山蝉遺跡A1・2区SK07・12・13、SD08、
SX06・08・21落ち込み断面実測図 ……85
第57図　鷺山蝉遺跡A1・2区柱穴列Pit実測図 ……86
第58図　鷺山蝉遺跡A2～4区建物、柱穴列実測図 ‥‥88
第59図　鷺山蝉遺跡A2～4区建物、柱穴列
エレベーション実測図 ……89
第60図　鷺山蝉遺跡A2～4区建物、柱穴列Pit
実測図 ……90
第61図　鷺山蝉遺跡A3区SX22落ち込み実測図 ‥‥91
第62図　鷺山蝉遺跡A2・3区SK15・34・35・37・
38実測図 ……92
第63図　鷺山蝉遺跡A3区SE05、SX23落ち込み
実測図 ……93
第64図　鷺山蝉遺跡B1区SK02～07・09・13～16
実測図 ……95
第65図　鷺山蝉遺跡B2区柱穴列実測図 ……96
第66図　鷺山蝉遺跡B2区SD04，B3区SD07、
SK11実測図 ……97
第67図　鷺山蝉遺跡B区戦国時代遺構配置図 ……99
第68図　鷺山蝉遺跡B3・5区SA02土塁実測図 ‥‥100
第69図　鷺山蝉遺跡B3区SD03実測図 ……101
第70図　鷺山蝉遺跡B4区SD32実測図 ……102
第71図　鷺山蝉遺跡B8区SD85、SA01土塁実測図 ‥‥103
第72図　鷺山蝉遺跡B4・5区SD50～52・54、
SX23落ち込み実測図 ……105
第73図　鷺山蝉遺跡B5区SX21石積施設、柱穴列
実測図 ……106
第74図　鷺山蝉遺跡B5区SX21石積施設、柱穴列
Pit断面実測図 ……107
第75図　鷺山蝉遺跡B6区SD22、SX20石積、
柱穴列実測図 ……110
第76図　鷺山蝉遺跡B6区SK31実測図 ……111
第77図　鷺山蝉遺跡B6区SK33実測図 ……112
第78図　鷺山蝉遺跡B6区SE01、SK32実測図 ……113
第79図　鷺山蝉遺跡C1区SD02、SX03土師器皿集積
実測図 ……114
第80図　鷺山蝉遺跡C2区SD17実測図 ……115
第81図　鷺山蝉遺跡D2・3区SD01・03、D4区SD16
実測図 ……116
第82図　鷺山蝉遺跡D1・2区SK02・03・05・11
実測図 ……117
第83図　鷺山蝉遺跡E1区SD02・03・05・06・08・15
実測図 ……119
第84図　鷺山蝉遺跡E1区SD03実測図 ……120
第85図　鷺山蝉遺跡F1区SD13実測図 ……123
第86図　鷺山蝉遺跡F1区SD12、SK07実測図 ‥‥124
第87図　鷺山蝉遺跡F1区SK03～06実測図 ……125
第88図　鷺山蝉遺跡F2区SK76・77・93～95
実測図 ……127
第89図　鷺山蝉遺跡F3区SK30～32・34・36、SD21、
Pit173実測図 ……128
第90図　鷺山仙道遺跡A1区SK05・06・13～18、SD09
実測図 ……130
第91図　鷺山仙道遺跡A1区SK06・13～18、SD09断面
実測図 ……131
第92図　鷺山仙道遺跡A2区SD02・03・04・07、
SK01・03・08実測図 ……132

第93図　鷺山蝉遺跡A1区SE01実測図 ……135
第94図　鷺山蝉遺跡A1区SE02・03実測図 ……136
第95図　鷺山蝉遺跡D2区SE01・02実測図 ……137
第96図　鷺山仙道遺跡A2区SX01池状遺構、
B1区SE01実測図 ……139
第97～136図　遺物実測図(1)～(40)　……143～182
第137図 3期の遺構配置 ……230
第138図 4期の遺構配置 ……232
第139図 花粉化石分布図（平成17年度報告）……239
第140図 鷺山仙道遺跡A2区SX01、
鷺山蝉遺跡B3区SD03堆積物中の
珪藻化石分布図 ……244
第141図 堆積物中の珪藻化石分布図 ……246
第142図 鷺山蝉遺跡のプラント・オパール
分布図 ……250
第143図 付着物の赤外分光スペクトル図 ……266

別添図目次

別添図１　鷺山蝉遺跡A1～3区全体図、土層断面図
別添図２　鷺山蝉遺跡A2～4区全体図、土層断面図
別添図３　鷺山蝉遺跡B1～3区全体図
別添図４　鷺山蝉遺跡B4・6・8区全体図
別添図５　鷺山蝉遺跡B5～7区全体図
別添図６　鷺山蝉遺跡B区土層断面図
別添図７　鷺山蝉遺跡C区全体図、土層断面図
別添図８　鷺山蝉遺跡D・E区全体図
別添図９　鷺山蝉遺跡F区全体図
別添図10　鷺山蝉遺跡D・E・F区土層断面図
別添図11　鷺山仙道遺跡A2区全体図、土層断面図
別添図12　鷺山仙道遺跡A1・B1区全体図、
土層断面図

表　目　次

第１表　発掘調査に伴う届出 ……6
第２表　発掘調査工程表 ……8
第３表　本書における時期区分 ……14
第4表～21表　遺物観察表(1)～(18)　……183～200
第22表～31表　遺物集計表(1)～(10)　……201～210
第32表～49表　遺構一覧表(1)～(18)　……211～228
第50表　花粉化石産出一覧表（平成15年度報告）‥236
第51表　花粉化石産出一覧表（平成16年度報告）‥237
第52表　花粉化石産出一覧表（平成17年度報告）‥240
第53表　鷺山仙道遺跡A2区SX01、鷺山蝉遺跡B3区
SD03堆積物中の珪藻化石産出表 ……244
第54表　資料の概要とその堆積環境 ……244
第55表　珪藻化石産出表 ……246
第56表　プレパラートの観察により検出された
珪藻化石 ……247
第57表　資料1g当たりのプラント・オパール
個数 ……250
第58表　鷺山蝉遺跡出土木製品樹種同定結果
（平成15～18年度報告）……254
第59表　鷺山蝉遺跡出土木製品器種ごとの
樹種集計（平成17年度報告）……254
第60表　鷺山蝉遺跡出土井戸側材樹種同定結果
（平成16・18年度報告）……257
第61表　漆膜構造分析調査試料 ……261
第62表　断面観察結果 ……262
第63表　付着物の材質分析を行った試料とその
詳細 ……264
第64表　生漆の吸収位置とその強度 ……264
第65表　鷺山蝉遺跡出土動物遺体同定結果 ……267

図版目次

図版1 ……269

鷺山蟬遺跡A1～4区全景（モザイク写真、上方が北）

図版2 ……270

鷺山蟬遺跡B1～8区全景（モザイク写真、上方が北）

図版3 ……271

鷺山蟬遺跡D1～4区全景（モザイク写真、上方が北）

鷺山蟬遺跡E1区全景（上方が北）

鷺山蟬遺跡F2・3区全景（モザイク写真、上方が北）

鷺山蟬遺跡F1区全景（上方が北）

図版4 ……272

鷺山蟬遺跡C1・2区全景（モザイク写真、上方が北）

鷺山仙道遺跡B1区全景（上方が北）

鷺山仙道遺跡A1・2区全景（モザイク写真、上方が北）

図版5　鷺山蟬遺跡A区 ……273

A1区SD14・15、SS01通路完掘状況（東から）

A1区SD14将棋駒出土状況（南から）

A1区SD15断面（北から）

A1区SD14断面（南から）

A1・3区SD01掘削状況（北から）

A3区SD28掘削状況（東から）

A1・3区SD02完掘状況（西から）

図版6　鷺山蟬遺跡A区 ……274

A4区SD26、SX28石積、SS02通路完掘状況（北から）

A4区SX28石積完掘状況（北から）

A4区SD26曲物出土状況（東から）

A1・2区南側完掘状況（西から）

A3・4区北側完掘状況（北から）

A3区SX22落ち込み遺物出土状況（西から）

A3区SK37遺物出土状況（南から）

図版7　鷺山蟬遺跡A区 ……275

A2区SK07犬形土製品出土状況（東から）

A3区SK35鉄製品出土状況（南から）

A3区SE05井戸側検出状況（東から）

A3区SE05井戸側内掘削状況（北から）

A3区SE05井戸側内完掘状況（北から）

A1区SE01完掘状況（南から）

A1区SE02完掘状況（南から）

A1区SE03完掘状況（南から）

図版8　鷺山蟬遺跡B区 ……276

B8区下層遺構面完掘状況（北から）

B8区SX33土器集積出土状況（東から）

B6区SD24完掘状況（南西から）

B7区SD30完掘状況（北東から）

B2区北側完掘状況（北から）

B4区SD53ロクロ土師器出土状況（西から）

B7区SD21・27完掘状況（東から）

B7区SD21断面（東から）

図版9　鷺山蟬遺跡B区 ……277

B1区SD12・14完掘状況（北東から）

B2区SD01完掘状況（南から）

B6区SD77・78完掘状況（西から）

B4区北側完掘状況（東から）

B4区南側完掘状況（南から）

B1区完掘状況（南から）

B3区東側完掘状況（北東から）

図版10　鷺山蟬遺跡B区 ……278

B3区SD03完掘状況（北から）

B3区SD03石出土状況（南から）

B3区SD03古瀬戸小壺出土状況（北から）

B3区SD03漆器椀出土状況（北から）

B3区SD03漆器椀出土状況（東から）

B3区SD03漆器椀出土状況（東から）

B4区SD32完掘状況（東から）

B4区SD32断面（西から）

図版11　鷺山蟬遺跡B区 ……279

B8区SA01土塁、SD85完掘状況（北から）

B8区SA01土塁、SD85完掘状況（東から）

B8区SA01土塁断面（西から）

B8区SD85断面（西から）
B5区SX21石積施設掘削状況（西から）
B5区SX21石積施設残存状況（南から）
B5区SX21石積施設完掘状況（西から）
図版12　鷺山蝉遺跡B区……280
B2区SD04遺物出土状況（東から）
B3区SD07掘削状況（南から）
B6区SD22、SX20石積掘削状況（西から）
B5・6区SK31遺物出土状況（南から）
B6区SK33遺物出土状況（西から）
B6区SE01井戸側検出状況（東から）
B6区SE01井戸側内完掘状況（東から）
図版13　鷺山蝉遺跡C区……281
C1区SX02自然流路掘削状況（北から）
C2区SD16完掘状況（西から）
C2区SK10完掘状況（西から）
C1区SD02掘削状況（東から）
C1区SX03土師器皿集積出土状況（南から）
C2区SD17完掘状況（東から）
C2区SD17遺物出土状況（北から）
図版14　鷺山蝉遺跡D区……282
D1区SK08遺物出土状況（南から）
D3区SD01、SB01完掘状況（南から）
D2区SD01完掘状況（東から）
D4区SD16完掘状況（南から）
D1区SK05掘削状況（南から）
D4区柱穴列完掘状況（西から）
図版15　鷺山蝉遺跡E・F区……283
E1区SD03完掘状況（北から）
E1区SD03断面、遺物出土状況（南から）
E1区SD08遺物出土状況（南から）
F1区西側掘削状況（西から）
F1区SB01完掘状況（南から）
F1区SB02完掘状況（南から）
図版16　鷺山蝉遺跡F区……284
F1区SB03完掘状況（南から）
F1区SB04、SK08完掘状況（南から）
F1区SB07・11完掘状況（東から）
F1区SB04カマド掘削状況（西から）
F2区西側完掘状況（東から）
F2区SB61～64完掘状況（西から）
F2区SD40、SK78掘削状況（東から）
図版17　鷺山蝉遺跡F区……285
F2区巡方出土状況（東から）
F2区SK98遺物出土状況（南から）
F2区Pit319遺物出土状況（南から）
F2区Pit319掘削作業状況（西から）
F3区完掘状況（北から）
F3区SB23完掘状況（東から）
F3区SK35完掘状況（北から）
F3区SB23カマド掘削状況（東から）
図版18　鷺山蝉遺跡F区……286
F1区SD13掘削作業状況（西から）
F1区SD11・13完掘状況（西から）
F1区SD13遺物出土状況（南から）
F1区SD13漆器鉢出土状況（北から）
F1区SK04遺物出土状況（北から）
F1区SD12遺物出土状況（北から）
図版19　鷺山蝉遺跡F区、鷺山仙道遺跡A区……287
F1区SK03断面（北から）
F1区SK03古瀬戸出土状況（北から）
F2区SK76・77掘削状況（東から）
F3区SK30完掘状況（南から）
A1区SB03、SX09完掘状況（南から）
A2区SB01完掘状況（東から）
A1区SD15完掘状況（南東から）
A1区中央完掘状況（北から）
図版20　鷺山仙道遺跡A・B区……288
A2区SD04掘削作業状況（北から）
A1区SK05掘削状況（北東から）
A2区SD03・04完掘状況（西から）
A1区SX01池状遺構掘削状況（東から）

B1区SB01完掘状況（南から）
B1区SB02、SD06・07完掘状況（南から）
B1区SB01内SX04炉跡掘削状況（南から）
B1区SE01井戸側内完掘状況（北東から）
図版21～40　遺物写真（1）～（20）……289～308
図版41　産出した花粉化石（平成15・16年度報告）……309
図版42　産出した花粉化石（平成17年度報告）、鷺山蝉遺跡B5区SX21石積施設遺構試料の顕微鏡写真……310
図版43　堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真（平成15・17年度報告）……311
図版44　分析した土器片と付着珪藻化石（平成17年度報告）……312
図版45　鷺山蝉遺跡のプラント・オパール、鷺山蝉遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真（鷺山蝉遺跡A1区SD14将棋駒）……313
図版46　鷺山蝉遺跡出土漆容器材組織の光学顕微鏡写真（平成15年度報告）……314
図版47　鷺山蝉遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真（平成17年度報告）……315
図版48　鷺山蝉遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真（平成17・18年度報告）……316
図版49　鷺山蝉遺跡B6区SE01井戸側部材材組織の光学顕微鏡写真（平成16年度報告）……317
図版50　鷺山蝉遺跡A3区SE05井戸側部材の材組織光学顕微鏡写真（平成18年度報告）……318
図版51・52　鷺山蝉遺跡出土動物遺体（1）・（2）……319・320
図版53～55　漆膜構造調査断面顕微鏡写真（1）～（3）……321～323
図版56　漆膜構造調査断面顕微鏡写真（4）、付着物の外観と実体顕微鏡写真……324

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の立地

濃尾平野は東側、西側及び北側を尾張から連なる丘陵地帯、養老山地及び美濃山地に囲まれ、南側は伊勢湾に面している。濃尾平野を流れる木曽三川（長良川、木曽川、揖斐川）の沖積作用、あるいは幾度も流路の移動、合流、分流を繰り返しながら現在の地形を形成していった。

岐阜市はこの濃尾平野の北端に位置する。その地勢を概観した場合、北部は美濃山地、中部から南部は濃尾平野に分けることができる。木曽三川の一つである長良川は岐阜市を横断するように北東から南西に流れ、岐阜市中河原付近を扇頂とする半径約６km、高度差約15mの緩扇状地を形成した。遺跡が立地する岐阜市鷺山周辺は扇端付近に相当し、その現地表高はT.P.14～15m程度である。この扇状地の北限は、岐阜市鷺山にある独立小丘陵鷺山の北麓を通る東西の延長線までで、それより北側には鳥羽川まで後背湿地状の低地が広がる。今回報告する鷺山蝉遺跡・鷺山仙道遺跡は岐阜市鷺山に所在する複数の遺跡（鷺山遺跡群）の東側に位置する。地形的には長良川扇状地の北端および後背湿地状の低地部に立地する。

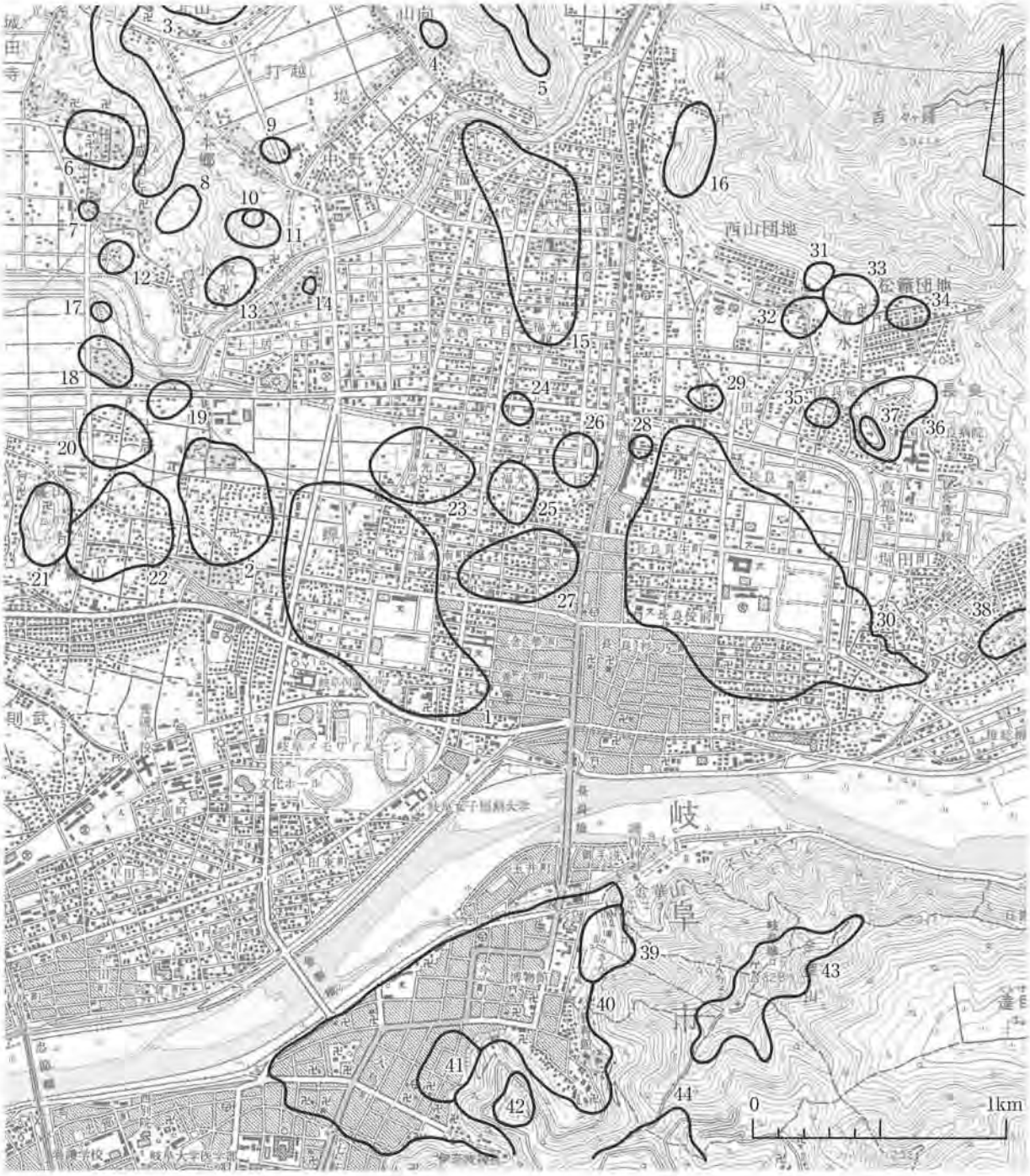
第２節　周辺の遺跡（第１・２図）

鷺山蝉遺跡・鷺山仙道遺跡が位置する岐阜市の中・北部域では、平成２年～平成７年度に行われた岐阜市遺跡詳細分布調査により、縄文時代から近世までの遺跡が多数確認されている。

縄文時代の遺跡では、長良川右岸自然堤防上に立地する西野々遺跡がある。縄文時代中期から晩期にかけての土器片が採集されており、その後平成5年度には区画整理事業にともなう発掘調査が実施された。

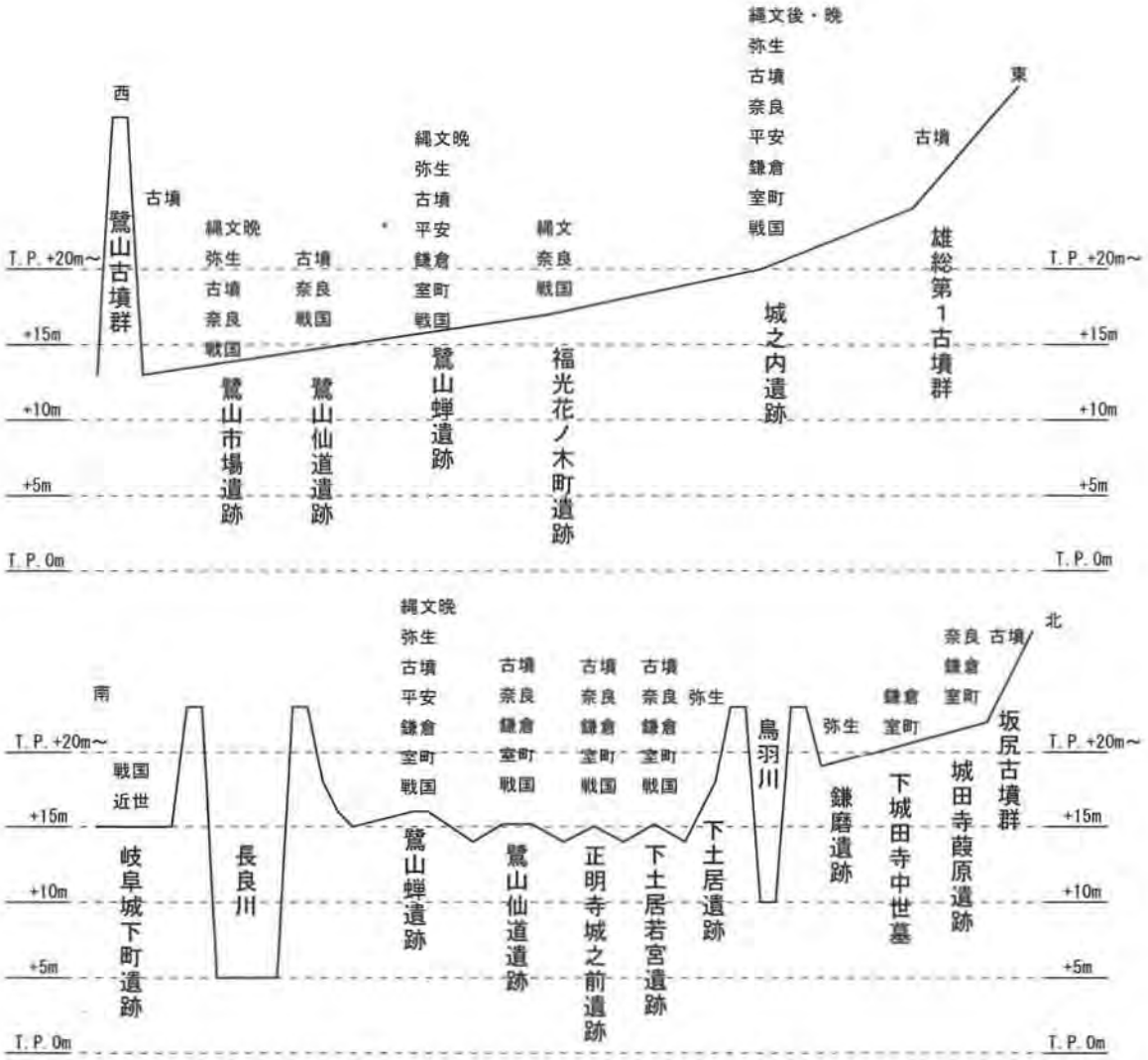
弥生時代から古墳時代にかけては城之内遺跡が最も代表的である。長良川右岸の扇状地上に立地し、計10回以上の発掘調査が実施され、当該時期の遺構・遺物が多数見つかっている。また、鷺山蝉遺跡等に近接する地域では、東側の太田遺跡で弥生時代中期から後期にかけての遺物が、北東側の城田寺丘陵の一帯でも弥生土器が出土している。現地表高による検討となるが、弥生時代の遺構・遺物が確認される遺跡はT.P.15m以上の地域に分布する傾向が見られる。城之内遺跡では古墳時代中期以降も集落が継続して営まれた。古墳時代後期になると、城之内遺跡の北側、鷺山遺跡群の北側の城田寺丘陵一帯では多数の横穴式石室が、金華山西麓の岐阜城千畳敷遺跡等でも横穴式石室が１基確認されている。これら横穴式石室は山麓部分のT.P.20m以上の標高に分布する傾向が見られる。

古代には城之内遺跡の範囲に長良廃寺が造営され、多数の瓦が出土した。中でも人面瓦の出土が希少例としてあげられる。また、この城之内遺跡付近に方県駅の存在が想定されており、ここを通り美濃国府（岐阜県垂井町）まで通ずる古代東山道のルートが推定されている。この古代東山道推定ルート付近には、福光花ノ木町遺跡、鷺山蝉遺跡、鷺山仙道遺跡、鷺山市場遺跡といった古代の遺構・遺物が確認される遺跡が立地しており、古代交通のルート上、あるいはその付近に遺跡が集中する傾向が見て取れる。鷺山遺跡群の発掘調査では、古墳時代から古代にかけての住居跡が100棟以上確認さ



1．鷺山蝉遺跡
2．鷺山仙道遺跡
3．坂尻古墳群
4．山向古墳群
5．鶴山古墳群
6．城田寺葭原遺跡
7．下城田寺中世墓
8．鎌磨古墳群
9．打越遺跡
10．下城田寺遺跡
11．中野古墳群
12．鎌磨遺跡
13．西屋敷古墳群
14．富塚古墳
15．八代遺跡
16．岩崎第２古墳群
17．下土居遺跡
18．下土居若宮遺跡
19．下土居北門遺跡
20．正明寺城之前遺跡
21．鷺山古墳群
22．鷺山市場遺跡
23．鷺山治郎丸遺跡
24．福光東B遺跡
25．太田遺跡
26．福光東A遺跡
27．福光花ノ木町遺跡
28．長良天神遺跡
29．西野々遺跡
30．城之内遺跡
31．西山第２古墳群
32．長良福泉遺跡
33．西山第１古墳群
34．西山洞古墳群
35．龍門寺遺跡
36．龍門寺古墳群
37．長良窯跡群
38．雄総第１古墳群
39．岐阜城千畳敷遺跡
40．岐阜城下町遺跡
41．岐阜奉行所跡
42．北洞古墳群
43．岐阜城跡
44．上加納山古墳群

第１図　周辺遺跡分布図〔国土地理院発行1：25,000地形図（岐阜北部）使用〕



第2図　遺跡の立地と標高推移模式図

れている。住居跡は主に微高地上に集中し、多数の切り合いがあることから、複数回立て替えが行われたことがうかがえる。また、鷺山蝉遺跡においては、平成10年度の試掘調査において9世紀前葉の住居跡とともに、二彩陶器や緑釉陶器が出土しており、古代の方県郡衙が周辺に存在すると推定されている。このように、郡衙等の立地と古代交通との関連でも注目できる。

鎌倉時代では下城田寺丘陵から西へ延びる尾根上に下城田寺中世墓が立地する。前述の分布調査時には、埋葬に使用された古瀬戸四耳壺、美濃須衛産四耳壺が採集されている。また、岐阜城千畳敷遺跡2次調査では当該時期の地鎮遺構が確認されている。

戦国時代では、岐阜市内を守護所が移動していく様相が先行研究で指摘されている。順に、革手・加納、福光（鷺山遺跡群）、枝広（城之内遺跡）、大桑（岐阜県山県市）と所在が移ってゆく。特に、長良川右岸地域には、城館推定地が数多く存在し、これらも近年の発掘調査等成果からその存在が明確になりつつある。

鷺山の東麓、鷺山市場遺跡の範囲には鷺山館をはじめとして、その東0.5kmの鷺山蝉遺跡の範囲には蝉土手城館（蝉封彊（とて））、鷺山から東3Kmの城之内遺跡の範囲には守護館枝広館がそれぞれ比定されている。この城之内遺跡から鷺山遺跡群にかけての範囲（東西約3Km、南北約1Km）では、戦国期

の土師器皿（かわらけ）が大量に採集でき、江戸時代の文献「中島両以記文」の中の、鷺山から堀田（城之内遺跡近辺）までの間に侍屋敷と百姓屋敷が入り交じって散々にあったという記述に合致する、との見解もある。特に、鷺山遺跡群関連の記述を文献に求めると、鷺山蝉遺跡南端に所在する崇福寺が15世紀後半頃にすでに建立されていたとの記載があり、また1496年の城田寺合戦がこの鷺山地域でも繰り広げられたと記されている。城田寺合戦の舞台の中心となる舎衛寺は、鷺山仙道遺跡の北北西約1.5km、城田寺葭原遺跡の範囲内に所在する。また、平成17年度の試掘調査では、鷺山館の堀と土塁に比定される遺構を確認しており、鷺山遺跡群とほぼ同時期に機能していた可能性が考えられる。

一方、長良川左岸地域では、岐阜城千畳敷遺跡で15世紀から16世紀にかけての遺構が複数確認されている。３次調査で15世紀に比定できる鋳造遺構が確認されている。また、16世紀に該当する遺構としては、虎口・巨石列・石垣（１次調査）、竈・石積み施設（２次調査）、階段・通路・井戸（３次調査）等が見つかっている。この他、岐阜城下町遺跡でも平成７年・９年の試掘調査で大窯製品（１～３段階）、山茶碗（東濃型、生田２号窯式）、15世紀～16世紀に比定できる土師器皿が出土している。

近世以降では、平成９年度に岐阜奉行所跡の調査で17世紀～19世紀中頃、19世紀中頃以降（近現代）の2時期の遺構が存在し、そのうち後者の遺構として濃尾震災に伴う廃棄土坑が確認されている。

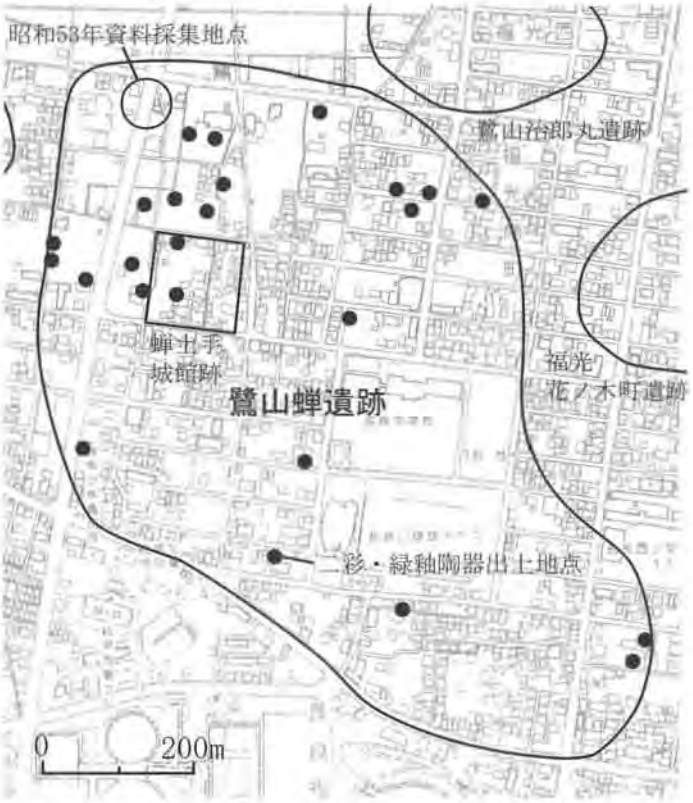
第３節　既往の調査（第３図）

鷺山蝉遺跡・鷺山仙道遺跡では、鷺山第二土地区画整理事業にともなう本調査以前に、試掘調査、確認調査を段階的に実施してきた。また、当区画整理予定地以外の地点でも、平成７年度の分布調査以降、幾度も試掘調査がなされている。これらによって得られた成果は、各年度の「岐阜市市内遺跡発掘調査報告書」により公となっている。

当遺跡発見の最初の契機となったのは、1978年（昭和53年）岐阜市鷺山字雨屋地内で行われた道路工事中に、戦国時代の古瀬戸・大窯製品、土師器皿、中国産磁器が個人により採集されことである。

その後、平成10年度試掘調査において、９世紀前葉の竪穴住居2棟が確認され、二彩陶器・緑釉陶器といった貴重な遺物が出土している。この付近には方県郡衙が比定されており、遺物と郡衙の存在との関連で注目すべき成果と言える。

平成11年度からは、岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合の区画整理事業に伴う発掘調査が先行して行われている。鷺山仙道遺跡では古墳時代から戦国時代の



第３図　鷺山蝉遺跡試掘地点位置図

この図は岐阜市の承認を得て、岐阜市白地図の複製したものである。
平成19年2月7日　承認番号第29号

遺構が多数確認されている。現在も引き続き継続的に調査が行われており、詳細な遺構・遺物データが蓄積されている。

当調査区域では、平成14年度より鷺山第二土地区画整理組合区画整理事業に伴う確認調査を実施した。

これら近接遺跡の発掘調査、確認調査や試掘調査で得られたデータを元に今回の発掘調査を実施した。その結果、鷺山蝉遺跡・鷺山仙道遺跡では縄文時代晩期（今から約2,500年以上前）より人が暮らし始めていたことが分かり、これまで蓄積されたデータ以上の成果が得られている。

＜参考文献＞

岐阜市教育委員会　1996　『岐阜市遺跡詳細分布調査報告書』

岐阜市　1979『岐阜市史　史料編　考古・文化財』

岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2002　『鷺山仙道遺跡－岐阜市鷺山・下土居土地区画整理事業における太平町下西郷線建設に伴う緊急発掘調査－』

岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2005　『鷺山仙道遺跡Ⅱ－岐阜市鷺山・下土居土地区画整理事業における太平町下西郷線建設に伴う緊急発掘調査－』

内堀信雄・高田徹　1994　「美濃における一五・十六世紀代の守護所の変遷」『守護所から戦国城下へ－地方政治都市論の試み－』名著出版

内堀信雄・鈴木正貴・仁木宏・三宅唯美編　2006　『守護所と戦国城下町』高志書院

岐阜市教育委員会　1996　『堀田・城之内』

（財）岐阜市教育文化振興事業団1997　『堀田・城之内Ⅱ』

岐阜市教育委員会　1999　『城之内遺跡－長良公園整備事業に伴う緊急発掘調査－（第1分冊）』

岐阜市教育委員会　2000　『城之内遺跡－長良公園整備事業に伴う緊急発掘調査－（第2分冊）』

岐阜市教育委員会　1999　『城之内遺跡－北町堀田線・宮口町高見線街路事業に伴う緊急発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会　1990　『千畳敷－織田信長居館跡伝承地の発掘調査と史跡整備』

岐阜市教育委員会　1991　『千畳敷Ⅱ－財団法人加藤栄三・東一記念館建設に係わる緊急発掘調査の記録－』

（財）岐阜市教育文化振興事業団　2000　『千畳敷Ⅲ－岐阜公園再整備事業に伴う岐阜城千畳敷遺跡の緊急発掘調査－』

内堀信雄　1991「鷺山雨屋採集の陶磁器について」『千畳敷Ⅱ－財団法人加藤栄三・東一記念館建設に係わる緊急発掘調査の記録－』岐阜市教育委員会

井川祥子　1997　「15世紀後半から16世紀前葉の土師器Ⅲ－中濃地域を中心として－」『美濃の考古学』第2号　美濃の考古学刊行会

岐阜市教育委員会　1996　『平成５～７年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会　1998　『平成９年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会　1999　『平成９・10年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2000　『平成10・11年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2001　『平成11・12年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2002　『平成12・13年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2003　『平成13・14年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2004　『平成12・14・15年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2005　『平成15・16年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2006　『平成16・17年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

第２章　発掘調査の経過

第１節　発掘調査に至る経緯（第１表）

平成７年度、岐阜市都市計画部区画整理課（当時）から岐阜市教育委員会文化課（当時）に対して岐阜市鷺山第二土地区画整理事業に関連する埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。当教育委員会は、事業予定地が鷺山仙道遺跡及び鷺山蝉遺跡の範囲内に及ぶことから、文化財保護法上の手続きと本調査前の試掘調査等について説明を行った。平成14年10月から平成15年１月にかけて行った試掘調査によって、古代～戦国時代の遺構、遺物が広範囲で確認された。試掘調査の結果を受けて、平成15年度から発掘調査（調査主体は（財）岐阜市教育文化振興事業団）を実施することとした。

平成15年２月13日付けで岐阜市鷺山第二土地区画整理組合理事長から岐阜県教育委員会教育長あてに文化財保護法第57条の２第１項の規定による工事の届出がなされた。これに対し、平成15年2月18日付けで岐阜県教育委員会教育長から区画整理組合理事長あてに工事着手前の発掘調査実施の指示があった。これを受けて平成15年5月29日付けで（財）岐阜市教育文化振興事業団理事長から岐阜県教育委員会教育長あてに文化財保護法第57条の規定による発掘調査の届出がなされ、平成15年６月３日付けで岐阜県教育委員会教育長から（財）岐阜市教育文化振興事業団理事長あてに発掘調査を慎重に実施する旨の指示があった。平成15年５29日付けで岐阜市鷺山第二土地区画整理組合、岐阜市教育委員会、（財）岐阜市教育文化振興事業団の３者間で「鷺山第二土地区画整理（公共施設用地）にともなう埋蔵文化財の取り扱いについて」の協定書を締結した。

平成15年度以降の発掘調査に伴う届出は下記のとおりである。

根拠法令	届出者	届出日	指示者	指示日	指示内容
法57条	(財)岐阜市教育文化振興事業団理事長	H15.5.29	岐阜県教育委員会教育長	H15.6.3	発掘調査を慎重に実施
〃	〃	H16.6.4	〃	H16.6.8	〃
〃	〃	H17.1.5	〃	H17.1.26	〃
法92条	〃	H17.5.27	〃	H17.6.9	〃

第１表　発掘調査に伴う届出

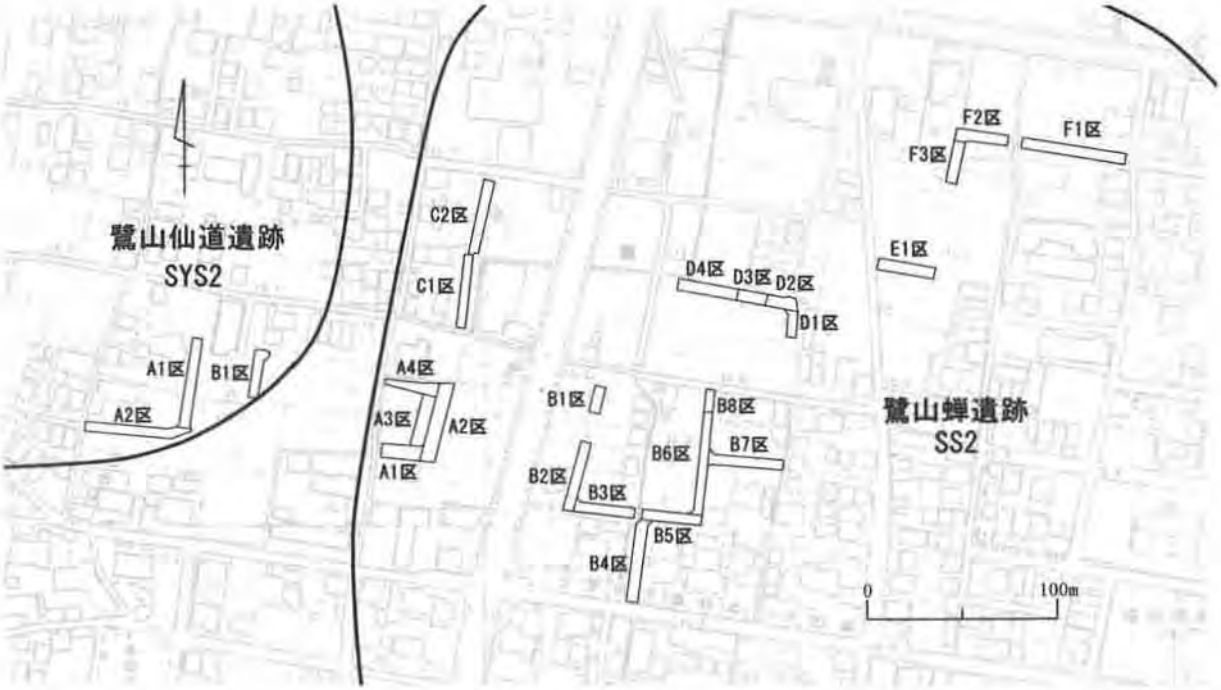
第２節　発掘調査の経過（第４図、第２表）

発掘調査は平成15年度から平成17年度まで計３カ年にわたり実施し、調査総面積は3,958㎡（計25調査区）に及んだ（第４図、第１表）。平成15年度は３カ所（計７調査区）で計1,322㎡、平成15年６月16日に着手し、平成16年３月15日に終了した。平成16年度調査は９カ所（計13調査区）で計2038.5㎡、平成16年６月14日に着手し、平成17年3月15日に終了した。平成17年度は５カ所（計５調査区）で計597.5㎡、平成17年６月13日に着手し、平成18年３月15日に終了した。各調査区の調査終了時には岐阜市教育委員会社会教育室による調査確認を実施している。調査確認を経た後、岐阜市鷺山第二土地区画整理組合あてに部分完了届を提出し、その後組合の既履行部分検査を受けた。また、各年度の業務終了時には組合の完了検査を受けた。

調査区は公共施設予定地（区画道路・用水路等）に既設している基準杭をもとに設定した。調査区あるいは仮排土置場の周囲は安全対策のためフェンスで囲い、公道に面する部分は安全灯を設置した。

掘削作業では表面の耕土・盛土等を重機掘削により除去し、その後人力による包含層掘削、遺構検出、遺構掘削作業を行った。記録作業では土層堆積状況の記録（断面実測図）、遺構あるいは出土遺物の詳細な記録（平面実測図）、写真撮影を随時行った。また、効率的な記録作業を行うため、ラジコンヘリによる空中撮影作業を計17回実施した。整理作業は平成17年度より発掘調査と並行して行い、平成18年度には整理作業および報告書刊行作業を行った。

また、発掘調査の期間中に岐阜市教育委員会主催の現地公開を平成16年１月17日、平成16年10月２日、平成17年９月３日の計３回実施した。また、小中学生を対象とした発掘体験を平成16年10月30日、平成17年10月１日、８日の計３回実施した。



第４図　調査区地区割図

この図は岐阜市の承認を得て、岐阜市作成の地図を複製したものである。
平成19年2月7日　承認番号第39号

平成15年度	区＼月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
鷲山仙道遺跡	A1・A2区	6/16				10/8					
鷲山蝉遺跡	B1～B3区					10/9		12/17			
鷲山蝉遺跡	A1・A2区							12/18			3/10

平成16年度	区＼月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
鷲山仙道遺跡	B1区	6/14	7/20								
鷲山蝉遺跡	B6・B7区	6/14				10/29					
鷲山蝉遺跡	B4・B5区		7/21			10/29					
鷲山蝉遺跡	D1・D2区						11/1	12/3			
鷲山蝉遺跡	E1区							12/4	1/13		
鷲山蝉遺跡	F1区						11/1		1/13		
鷲山蝉遺跡	C1区								1/14	2/14	
鷲山蝉遺跡	A3・A4区								1/14		3/10
鷲山蝉遺跡	F3区									2/15	3/10

平成17年度	区＼月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
鷲山蝉遺跡	F2区	6/13	7/25								
鷲山蝉遺跡	D4区		7/26	8/22							
鷲山蝉遺跡	B8区			8/23		10/11					
鷲山蝉遺跡	C2区				9/30		11/28				
鷲山蝉遺跡	D3区								1/20	2/10	
整理作業	―	6/13									3/10

平成17年度	区＼月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
整理・報告書作業	―	6/1									3/15

第2表　発掘調査工程表

第３章　遺跡の概要

第１節　基本層序（第5～7図）

第１章で述べたが、鷺山蝉遺跡・鷺山仙道遺跡は長良川扇状地の扇端に立地している。扇端部は地下水位が高く、集落や生産域を形成しやすい地理条件にあるが、同時に低い土地であることから洪水の危険度が高くなるという相反する特徴を持つ。

今回の調査区域内では、扇状地が形成した凹凸に富む地形を確認でき、遺構はこれら堆積が形成した微高地上に集中している。対して、微高地に挟まれた低地部分は遺構密度が希薄で、遺物出土量も少ない。低地域へ人間活動が本格的に及ぶのは中世以降と考えられる。鎌倉～室町時代の低地域の土層よりイネのプラントオパールが確認され、生産域として利用されていたことが明らかとなった（詳細は第6章第1節参照）。その後、戦国時代でもなお低地であった地点も存在する。このように、地理的条件と土地利用の関係に注目しながら、基本となる層序について説明する。

＜基本となる層序＞

０層（現代盛土）調査開始直前まで使用されていた住宅、駐車場等の基礎となる盛土で、山土や粗礫がメインとなる。鷺山蝉遺跡B8区、Ｃ２区、Ｄ３区、Ｆ１～Ｆ３区、鷺山仙道遺跡Ａ１・２区で確認した。

Ⅰ層（現代耕作土）調査開始直前まで利用されていた耕作土で、畑の耕土相当部では灰褐色シルト混細砂（砂質土）、水田耕土相当部では暗灰色細砂混シルト（粘質土）がメインとなる。調査区域全体で確認した。

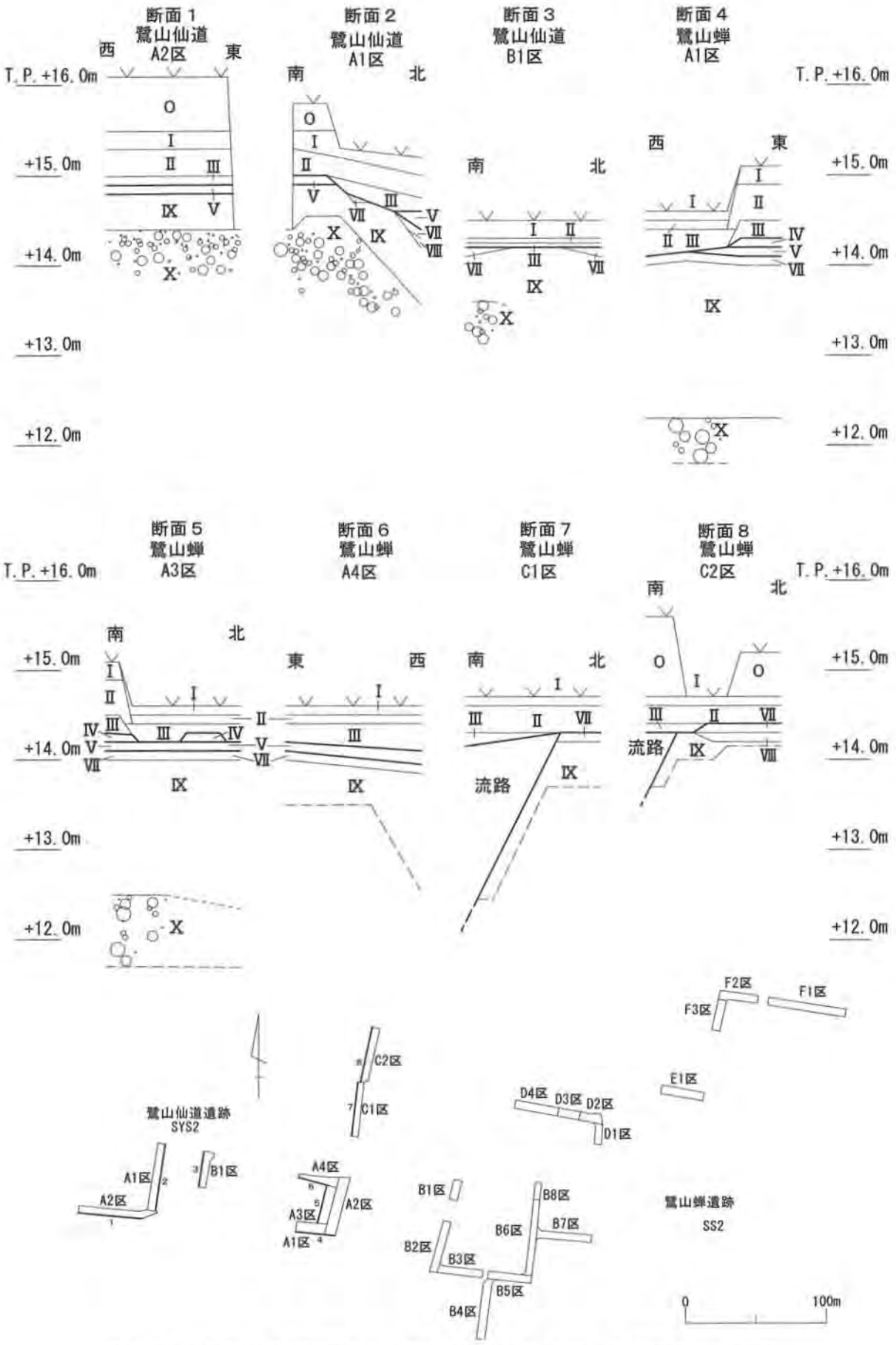
Ⅱ層（近現代耕作土）近現代以降に形成された土層で、Ⅰ層と同様、水田もしくは畑の耕作土として利用されていたと考えられる。黄褐色シルト混細砂（砂質土）～細砂混シルト（粘質土）がメインとなる。上層（Ⅰ層）が水田の場合、鉄分やマンガン粒の沈着が著しい。調査区域全体で確認した。

Ⅲ層（近世耕作土）近世以降に形成された土層で、Ⅱ層と同様上層が水田の場合、鉄分やマンガン粒の沈着が著しい。灰褐色シルト混細砂（砂質土）～細砂混シルト（粘質土）がメインとなる。近世の遺物とともに鎌倉～戦国時代の遺物も含むことから、下層のⅣ～Ⅴ層を起源として形成された可能性が高い。水田もしくは畑の耕作土として利用されていたと考えられる。調査区域全体で確認した。

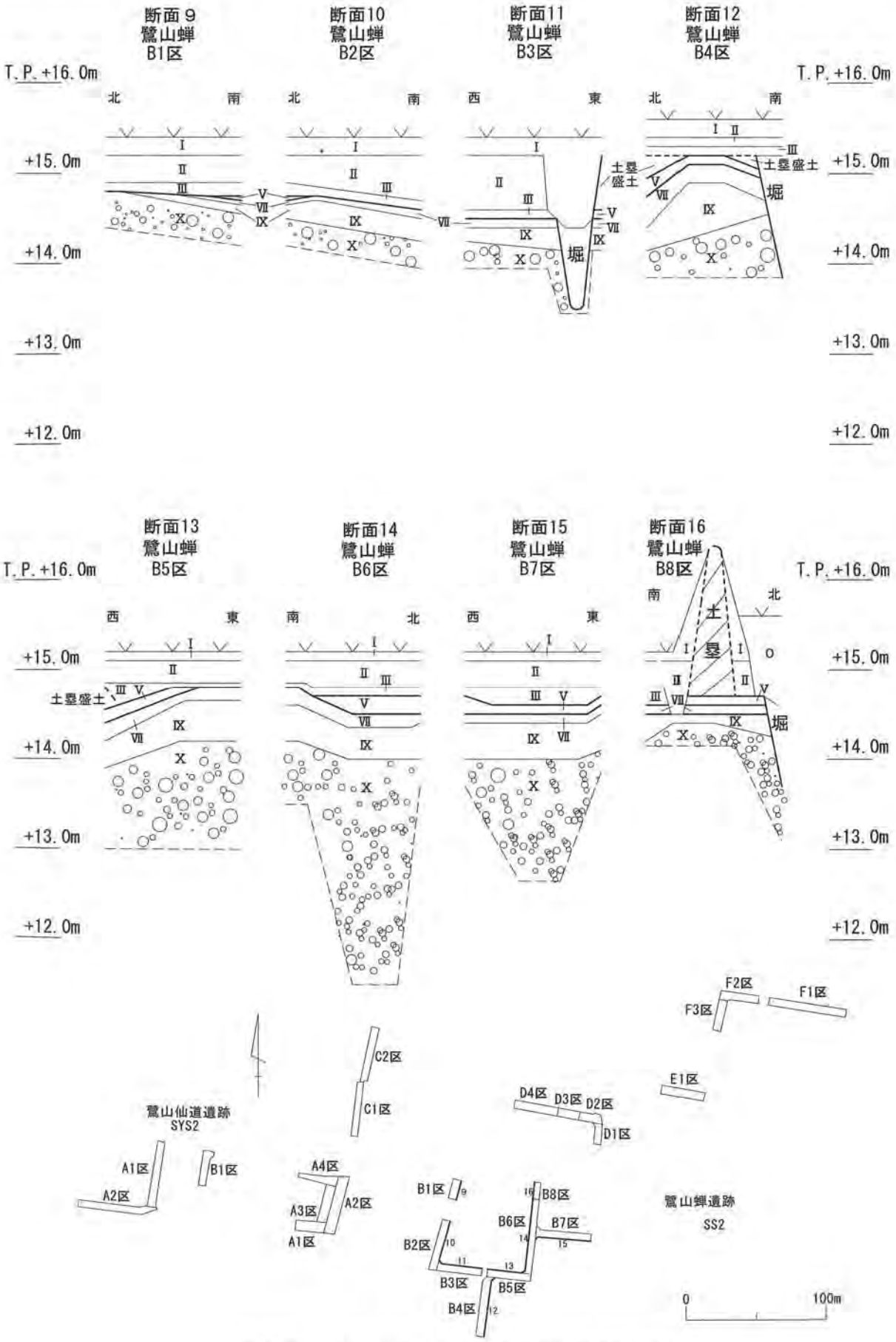
Ⅳ層（戦国時代整地層）炭や焼土混の土層で、整地層の可能性が高い。黄褐色シルト混細砂～小礫（砂質土）がメインとなる。主に鷺山蝉遺跡A区で確認した。

Ⅴ層（古代～室町時代遺物包含層）本層は基本的に遺物包含層として認識でき、ややしまりのある黄褐色～黄灰色細砂混シルト（粘質土）がメインとなる。鷺山蝉遺跡B区が顕著で、この他鷺山蝉遺跡Ａ・Ｃ・Ｄ・Ｅ区など広範囲に確認できた。特に、鷺山蝉遺跡では本層の土壌分析によりイネのプラントオパールが検出され、水田に利用された範囲が明らかとなった。

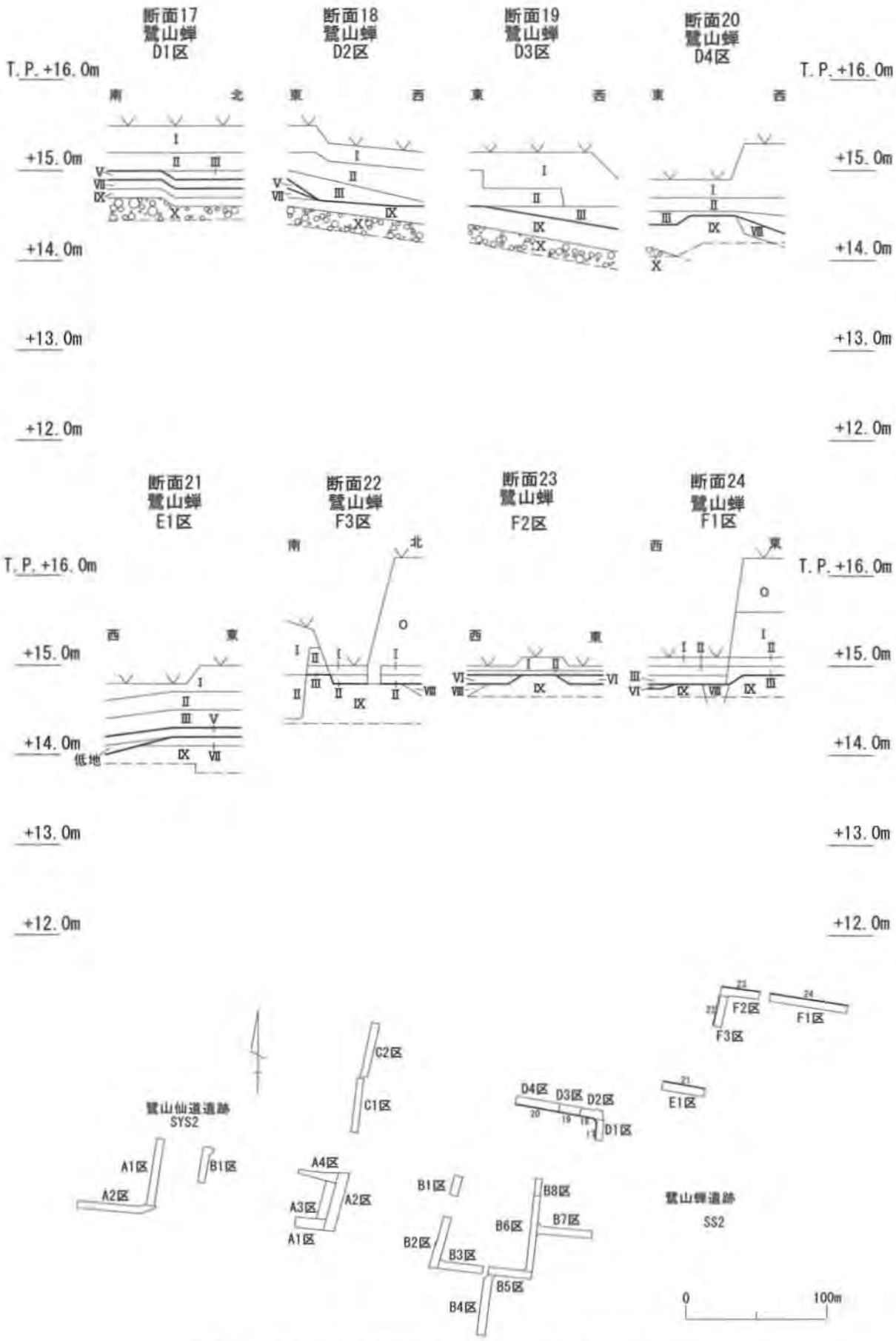
Ⅵ層（古代遺物包含層）古代の遺物を多量に含む包含層。茶褐色シルト混極細砂～細砂（砂質土）がメインとなる。地山層直上（Ⅷ・Ⅸ層直上）に存在する。鷺山蝉遺跡F区で確認した。本層中から弥生時代～古墳時代の遺物もわずかに出土することから、地山層だけでなくⅦ層を起源として形成された可能性が考えられる。



第５図　土層断面模式図その１（鷺山仙道遺跡A・B区、鷺山蝉遺跡A・C区）



第６図　土層断面模式図その２（鷺山蝉遺跡B区）



第７図　土層断面模式図その３（鷺山蝉遺跡D・E・F区）

Ⅶ層（縄文時代晩期～古墳時代遺物包含層）主に地山層を起源とした土層で、微高地上では暗褐色極細砂～小礫（Ⅸ・Ⅹ層起源、砂質土）、低地部分では暗褐色シルト（Ⅷ層起源、粘質土）がメインとなる。局所的な様相であるが、鷺山蝉遺跡B区ではⅦ層中より縄文時代晩期の遺物が出土すること、鷺山蝉遺跡E区のⅦ層上面より古墳時代前期の遺物が出土することから、それぞれをもって本層序形成時期の上限および下限に比定した。本層は黒色土壌化が顕著であり、表土として長期間安定して存在したと考えられる。基本的に調査区域全体で確認できるが、鷺山蝉遺跡F区のみ本層を確認できなかった。

Ⅷ層（地山層上層）扇状地を形成する堆積で、本層以下より遺物は出土しないことから、縄文時代晩期以前に形成された地山層と判断できる。地山層の上層に相当し、黄褐色細砂混シルト（粘質土）がメインとなる。本調査区域では鷺山蝉遺跡C区・D区・F区、鷺山仙道遺跡A区の、特に低地域へと移行していく地点で確認した。

Ⅸ層（地山層中層）扇状地を形成する堆積で、本層は地山層の中層に相当する。黄灰色極細砂～粗砂（砂層）がメインとなる。本層は調査区域全体に存在し、縄文時代晩期以降形成される遺構の大半は本層が形成する微高地上に集中している。

Ⅹ層（地山層下層）扇状地を形成する堆積で、本層は地山層の下層に相当する。灰色礫まじり粗砂（砂礫層）がメインとなる。本層に関しては、その凹凸が後世の地形や遺構の広がりに大きく影響を与えていると言えよう。

本層を確認できる最も高い地点は鷺山蝉遺跡B1区で、T.P.14.8m付近まで砂礫層が堆積している。なお、この鷺山蝉遺跡B区付近は戦国時代の蝉土手城館跡に相当する調査区域であり、B5調査区ではT.P.14.6m付近、B8調査区ではT.P.14.7m付近と、比較的高いレベルまで砂礫層が堆積している。

対して、本層を確認できる最も低い地点は鷺山蝉遺跡A1区で、T.P.12.3～12.5m付近で砂礫層を確認している。このように、当調査区域内だけでも本層の比高差は約2.5mもあることが分かる。また、鷺山蝉遺跡A4区西端の遺構内では砂礫層を全く確認できないことから、鷺山蝉遺跡A区と鷺山仙道遺跡B区との間に、砂礫層が大きく落ち込む谷状の地形が存在するものと推定される。

なお、鷺山蝉遺跡A区の遺構検出面はT.P.14.2～14.4m付近で、鷺山蝉遺跡B区の砂礫層堆積レベルより下であった。以上のように、本層が高いレベルで確認できる鷺山蝉遺跡B区付近が洪水等の影響を受けにくい安定した地理的条件にあるからこそ、古くは縄文時代晩期から人々が生活を始め、集落あるいは拠点となる城館等が形成されたと考えることができよう。

第２節　遺構の時期区分（第3表）

鷺山蝉遺跡・鷺山仙道遺跡では、縄文時代晩期から近世に至るまでの遺構・遺物を確認している。このため本報告においては、各遺構および出土遺物の説明に必要な時期を区分した。時期区分では既刊の鷺山仙道遺跡発掘調査報告書を参考とした。本報告書ではやや時期幅や差はあるが、１～５期の区分を用いて報告する。１期は縄文時代晩期から弥生時代後期、２期は古墳時代初頭から古代、３期は鎌倉時代から室町時代、４期は戦国時代、５期は近世以降とした。

第３節　遺物の分類と時期区分（第8図）

遺構時期を決定する上での出土遺物の分類および時期比定に関しては、すでに分類・編年研究が行われており、それら各文献に従った。

古墳時代～古代の土器（主要なもの）

＜凡例＞　ゴシック：本書で扱う出土遺物　　特に出土遺物の多い時期

本書の時期区分	城之内遺跡時期区分	時代	基準となる土器編年				実年代
			縄文土器	弥生土器			
1期（縄文晩期～弥生時代）	1期	縄文晩期	稲荷山（中葉） ＜突帯文＞西之山・五貫森・馬見塚（後葉）				
	2期	弥生前期		＜条痕文系＞櫻王・水神平（美濃Ⅰ） ＜遠賀川系＞貝殻山・西志賀（美濃Ⅰ）			
	3～5期	弥生中期		朝日・貝田町・高蔵（美濃Ⅱ～Ⅳ）			
	6期	弥生後期		フォーラム編年Ⅰ期（山中式併行、美濃Ⅴ）			0
			土師器	須恵器	灰釉陶器		
2期（古墳時代～古代）	7期	弥生末～古墳初	フォーラム編年Ⅱ期（欠山式・廻間Ⅰ式併行、美濃Ⅵ）				200
	8期		フォーラム編年Ⅲ期（元屋敷式・廻間Ⅱ式併行、美濃Ⅵ）				300
	9期	古墳前期	フォーラム編年Ⅳ期（廻間Ⅲ式・松河戸Ⅰ式併行）				
	10期		フォーラム編年Ⅴ期（松河戸Ⅱ式併行）				400
	11期	古墳中期	フォーラム編年Ⅵ期（宇田式併行）	東山48・11（猿投）			500
	12期	古墳後期		美濃須衛Ⅱ期・東山61・44・50（猿投）			600
	13期	飛鳥時代		美濃須衛Ⅲ期			700
	14期	奈良時代		美濃須衛Ⅳ期			800
	15期	平安時代		美濃須衛Ⅴ期	黒笹14		
	16期				黒笹90 折戸53（大原2） 東山72（虎渓山1・丸石2） 百代寺（明和27・西坂1）		900 1000
			山茶碗（東濃型）	山茶碗（尾張型）	古瀬戸	土師器皿	
3期（鎌倉時代～室町時代）	17期	鎌倉時代		第3型式 第4型式			1100
	18期			第5型式	前Ⅰ期		1200
			白土原1 明和1	第6型式 第7型式	前Ⅱ期～前Ⅲ期		
	19期	室町時代	大畑大洞4 大畑大洞4新 大洞東1 脇之島3	第8型式 第9型式 第10型式 第11型式	前Ⅳ期・中Ⅰ期～中Ⅱ期 中Ⅲ期～中Ⅳ期・後Ⅰ期 後Ⅱ期～後Ⅲ期 後Ⅳ期古	Ⅰ期	1300 1400
4期（戦国時代）		戦国時代前半	山茶碗（東濃型） 生田2		古瀬戸・大窯 後Ⅳ期古～新	土師器皿 Ⅱ期	1500
	20期				後Ⅳ期新～大窯第１段階	Ⅲ期	
	20期以降	戦国時代後半			大窯第１～第３段階 大窯第２～第４段階	Ⅳ期 Ⅴ期	1600
5期（近世以降）	近世	近世	連房				

第３表　本書における時期区分

S字状口縁台付甕：いわゆるS字甕で、口縁部が受け口状に屈折し、上外方に伸びる台付甕。口縁部の形態でA～Dの４形態に分けられる。

A類：口縁部第２段の外面に押し引き刺突をもつもの。

BC類：A・D類以外のS字甕。従来の定義では両者の区別が困難なため、ここでは両者を一括してあつかう。

D類：口縁端部が肥厚するか、もしくは肥厚して先端部に面を持つもの。

伊勢型甕1類：丸底甕で、口縁端部を上方に鋭くつまみ上げる。頸部から口縁部にかけては肥厚し、端部外面は面を形成するもの、沈線を施すものがある。体部外面、内面上半部にはハケ調整、内面下半部はケズリ調整が施される。

伊勢型甕２類：１類と同じ丸底甕であるが、胎土、口頸部形状、調整方法などが異なるもの。体部内面を全面ヘラケズリや横ナデ調整を施すものが多い。

濃尾型甕：平底甕で器壁が薄く、口縁部は弧状に外反し、口縁内面は横ハケ、口縁外面は横ナデ調整が施される。体部外面は粗いハケ調整が施される。

焼塩土器：美濃式製塩土器とよばれる固形塩製作専用の土師質土器。破砕するため完形品は皆無である。口縁部は直立するもの、外反するものがある。今回底部は確認できなかったが、丸底と考えられている。美濃式１類は器壁が薄く、２類は厚い。

ロクロ土師器：ロクロ成形で、高台あるいは糸切り底を持つ土師質土器。碗、脚付皿、皿が見られる。

清郷型鍋：厚手丸底の土師質鍋。口縁部が水平方向にL字状に折れ、断面形状菱形となる。胴部は指頭圧痕、指ナデ調整が顕著。

須恵器：美濃須衛産が主であるが、猿投産や畿内系、北部伊勢産の可能性のあるものも出土している。

鎌倉時代～室町時代の土器（主要なもの）

土師器皿M類：内部底面一方向ナデ後、内面から外面口縁部を横ナデ調整する。大小２法量を基本とする。時代が新しくなるにつれナデ手法の簡略化、器壁の薄化、大型品の口径の縮小化等の傾向が見られる。

M１類：外面ナデが２段あるいは１段のしっかりしたもの。厚手が多い。

M２類：外面１段ナデが基本。大型品では口縁端部に独立したナデ調整が施され、口縁端部に面あるいは丸みを持つものが多い。器壁はM１類より薄くなる傾向がある。

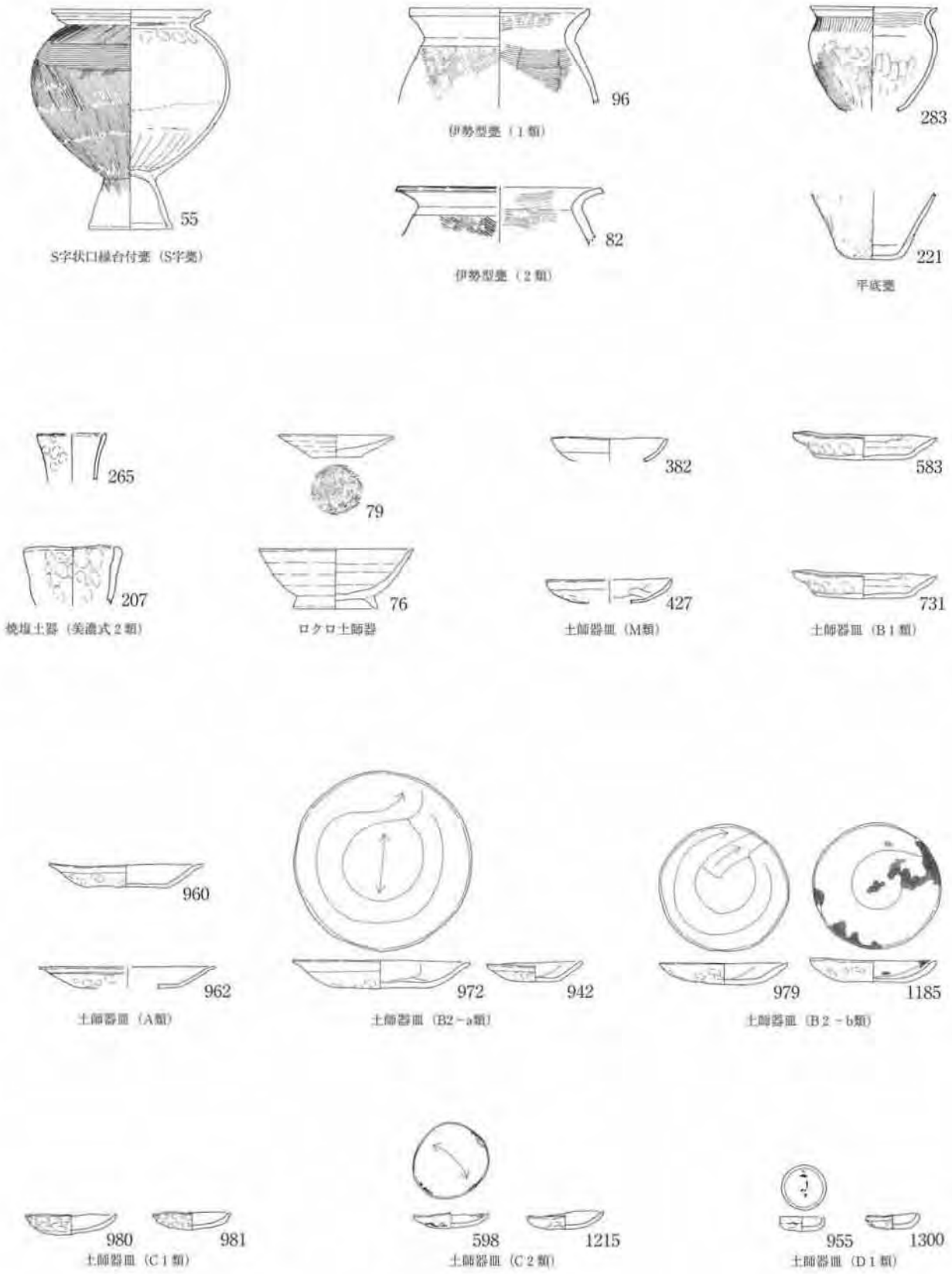
M３類：底部内面に一方向のナデを施した後、体部内面～口縁部外面に横ナデ調整を施す。外面のナデは1段。体部は丸く立ち上がり、口縁端部は丸みを持つもの、尖るものがある。器壁はM２類よりさら薄く、器形も深いものが主となる。

M４類：底部内面に一方向のナデを施した後、体部内面～口縁部外面に横ナデ調整を施す。外面のナデは１段。体部は丸く立ち上がる。M３類より器壁はさらに薄くなる。

戦国時代の土師器皿

土師器皿A２類：京都および美濃以外の地域からの搬入品、もしくは忠実に模倣した在地産の土師器皿。体部は外反する。器壁は２～３mm程度で薄く、体部内面、口縁部外面に横ナデ調整を施す。

土師器皿B１類：京都系の土師器皿を模倣した在地産製品とされるもののうち、体部が外反するもの。


55
S字状口縁台付甕（S字甕）
96
伊勢型甕（1類）
82
伊勢型甕（2類）
283
221
平底甕
265
79
382
583
207
焼塩土器（美濃式2類）
76
ロクロ土師器
427
土師器皿（M類）
731
土師器皿（B1類）
960
962
土師器皿（A類）
972
942
土師器皿（B2－a類）
979
1185
土師器皿（B2－b類）
980
981
土師器皿（C1類）
598
1215
土師器皿（C2類）
955
1300
土師器皿（D1類）

第8図　主要遺物分類図

底部内面に一方向ナデを施した後、体部内面、口縁部外面に横ナデ調整を施す。器壁は厚い。

土師器皿B２－a類：京都系の土師器皿を模倣した在地産製品とさせるもののうち、体部が直線的なもの。底部内面に一方向ナデを施した後、体部内面、口縁部外面に横ナデ調整を施す。口縁部外面の横ナデ調整は忠実に施されるもの、範囲が狭いもの、部分的にしか施さないものがあり、底部内面の一方向ナデを省略するものがある。

土師器皿B２－b類：京都系の土師器皿を模倣した在地産製品とさせるもののうち、体部が直線的なもの。底部内面に一方向ナデを施した後、体部内面に横ナデ調整を施す。外面は未調整で、指頭圧痕が残る。底部内面の一方向ナデを省略するものがある。

土師器皿C１類：京都系の土師器皿に原型を求められない、在地産製品のもの。体部はやや丸く立ち上がる。内面に一方向ナデを施す。口縁部外面は未調整で、外面は凹凸が顕著。

土師器皿C２類：C１類と同様に京都系の土師器皿に原型を求められない、在地産製品のもの。体部はやや丸く立ち上がる。内面に一方向ナデを施す。口縁部外面は未調整だが、外面は凹凸が少ない。法量はC1類より小さいものが主。

土師器皿D１類：径５cm以下の小型品で、体部が直立気味に立ち上がる。内面底部に一方向ナデ、体部内面～口縁部外面に横ナデ調整を施す。口縁端部は丸く収めるものと尖るものがある。

その他

土製品：土錘は古代～戦国時代、土鈴と犬形土製品は戦国時代の遺構より出土している。

（参考文献）

内堀信雄　1999　「第2章第3節　遺物の分類」『城之内遺跡（第1分冊）』岐阜市教育委員会

高木　晃　2002　「第3章第3節　遺物の分類」『鷺山仙道遺跡』（財）岐阜市教育文化振興事業団

岩瀬彰利　1996　「縄文時代後期～晩期の煮炊具－美濃・尾張・三河・遠江における変遷－」『鍋と釜そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

藤田英博・高木宏和　2002　「美濃（飛騨）地域」『弥生土器の様式と編年～東海編』木耳社

内堀信雄・横幕大祐　1998　「山中－宇田式併行期の美濃西部地域土器編年」『土器・墓が語る美濃の独自性～弥生から古墳へ～』東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会

渡辺博人　1984　「美濃須衛古窯跡群における須恵器編年」『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』各務原市教育委員会

内堀信雄・井川祥子　1996　「美濃における古代土師器煮炊具の様相」『鍋と釜そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

森　泰通　1997　「東海地方における消費地出土の製塩土器－特に固形塩の問題をめぐって－」『シンポジウム製塩土器の諸問題－古代における塩の生産と流通－資料集』塩の会シンポジウム実行委員会

尾野善裕　2003　「古代の尾張・美濃における緑釉陶器生産」『古代の土器研究　平安時代の緑釉陶器－生産地の様相を中心に－』古代の土器研究会編

尾野善裕　2006　「古代土器の編年と暦年代観－10～11世紀を中心に－」『第14回京都府埋蔵文化財研究会資料集』京都府埋蔵文化財研究会

伊藤裕偉　1990　「南伊勢系土師器の展開と中世土器工人」『研究紀要第1号』三重県埋蔵文化財センター

北村和宏　1996　「尾張平野における鎌倉・室町時代の煮沸具の編年」『平成7年度年報』（財）愛知県埋蔵文化財センター

藤澤良祐　1994　「山茶碗の現状と課題」『研究紀要』第3号　三重県埋蔵文化財センター

小森俊寛・上村憲章　1996　「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要第3号』（財）京都市埋蔵文化財研究所

横田賢次郎・森田　勉　1978　「太宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』

小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2

上田秀夫　1982　14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2

上田秀夫　1982　「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2

中野晴久　1994　「赤羽・中野「生産地における編年について」」『全国シンポジウム「中世常滑をおって」資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所

井川祥子　1997　「15世紀後半から16世紀前葉の土師器皿－中濃地域を中心にして－」『美濃の考古学』第２号
井川祥子　2006　「美濃中世後期土師器皿の分類と編年」『守護所と戦国城下町』高志書院
藤澤良祐　1991　瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗博物館研究紀要Ⅹ』瀬戸市歴史民俗博物館
藤澤良祐　2002　「瀬戸・美濃大窯の再検討」『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要　第10輯』(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター
鈴木正貴　1996　「東海地方の内耳鍋・羽付鍋・釜」『鍋と釜そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
金子健一　1996　「尾張・三河地方のホウロク」『鍋と釜そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
(財) 大阪府文化財センター編　2006　『古式土師器の年代学』
中世土器研究会編　1995　『概説　中世の土器・陶磁器』

第４章　遺構と遺物

第１節　１期（縄文時代晩期～弥生時代）の遺構と遺物

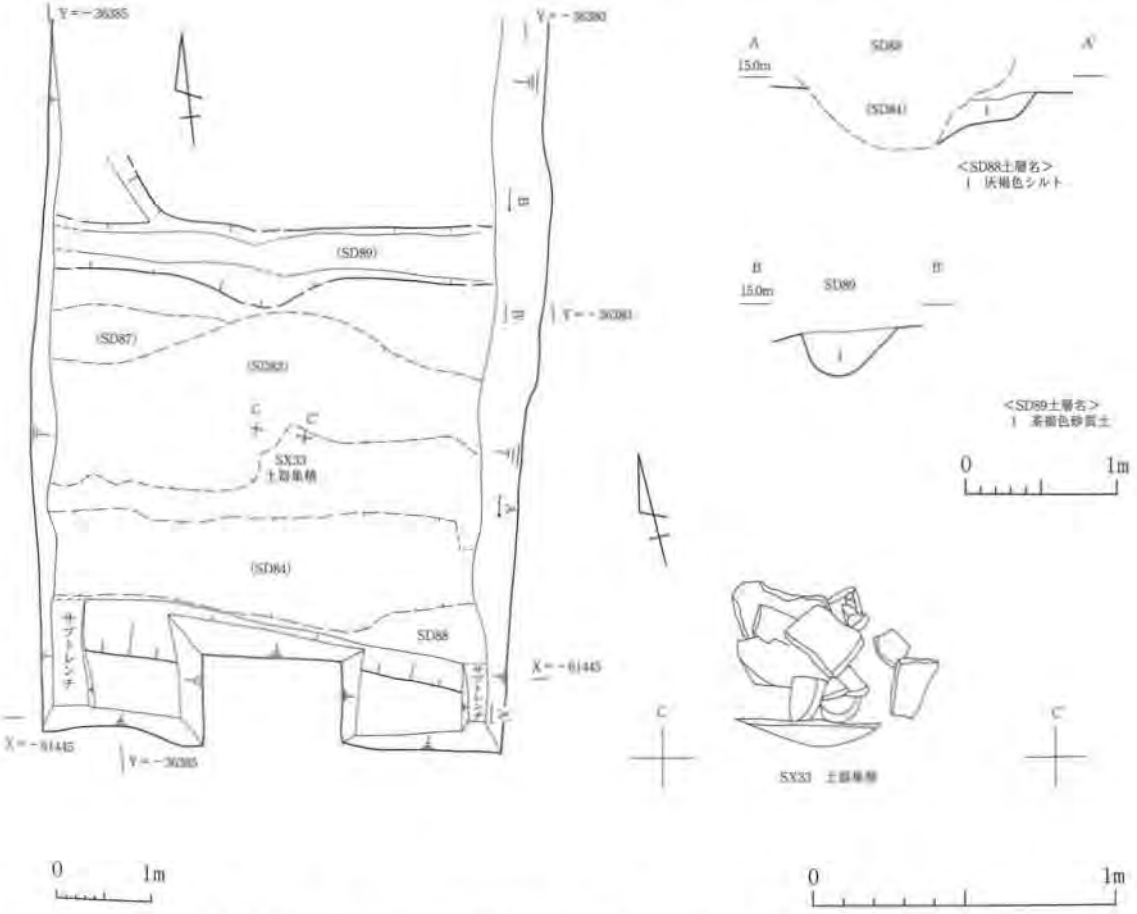
1期の遺構は鷺山蝉遺跡A・B区、鷺山仙道遺跡A・B区で、特に微高地上で確認できた。主にⅨ層（砂層地山層）上面、Ⅶ層（縄文時代～古墳時代遺物包含層）上面で遺構を検出した。

鷺山蝉遺跡B区

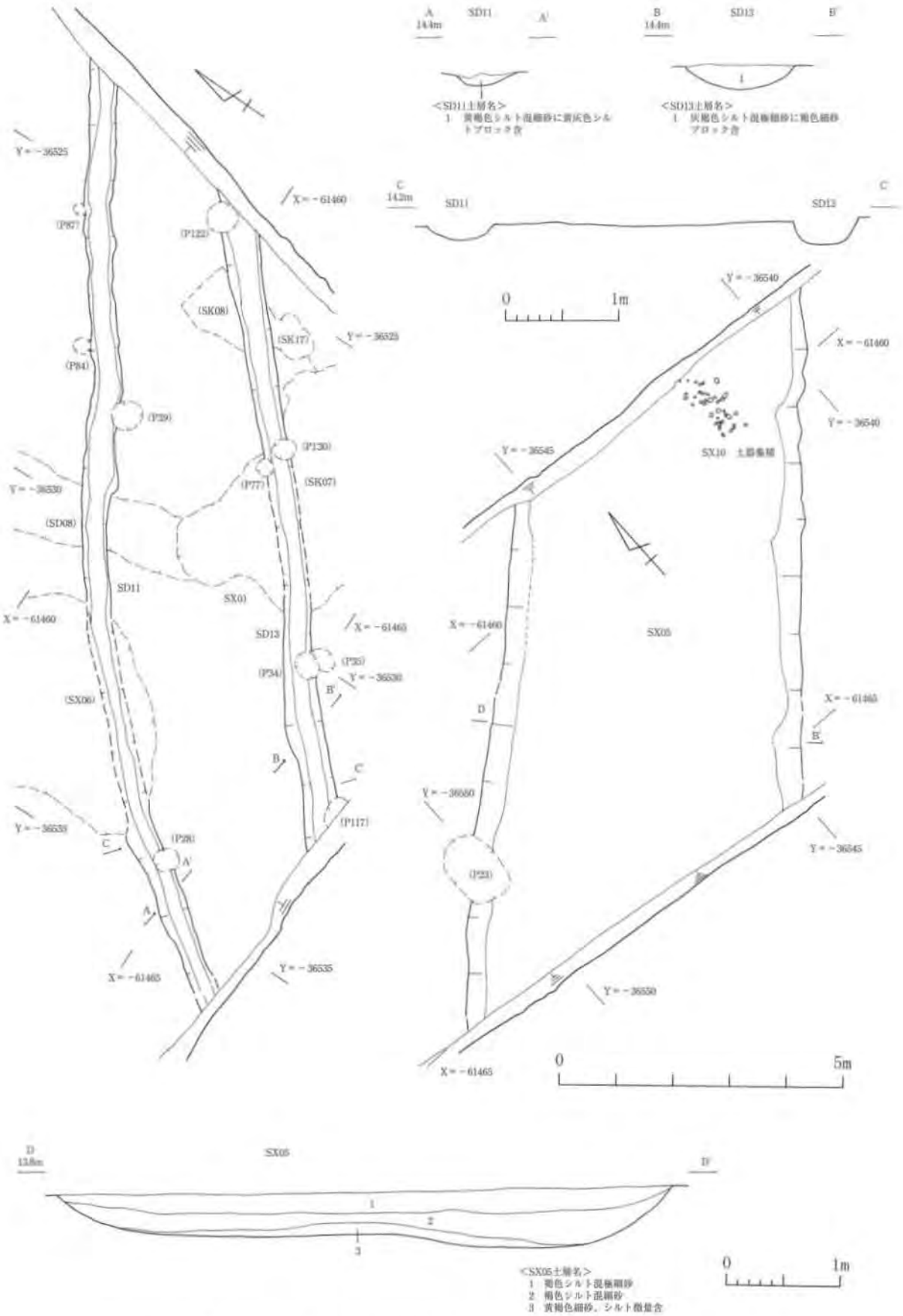
SX33土器集積（第９図・97図１・２）

B8区南側で確認した。後世の撹乱を受け大半は失われていたが、一定の大きさに復元可能な土器がまとまって2個体出土した。出土状況としては、体部片（第97図２）が下で、その上に口縁～体部片（第97図１）が被うように出土した。検出当初より土器棺等の埋納遺構である可能性を想定して、出土遺物周辺を幾度も精査したが、掘り方等を確認するには至らなかった。１は条痕文土器の深鉢で、外面全体に貝殻条痕文が施される。弥生前期併行の樫王式に相当する。２は縄文土器の深鉢体部で、貝殻条痕の後にケズリ調整が施される。縄文晩期中葉の稲荷山式に相当する。

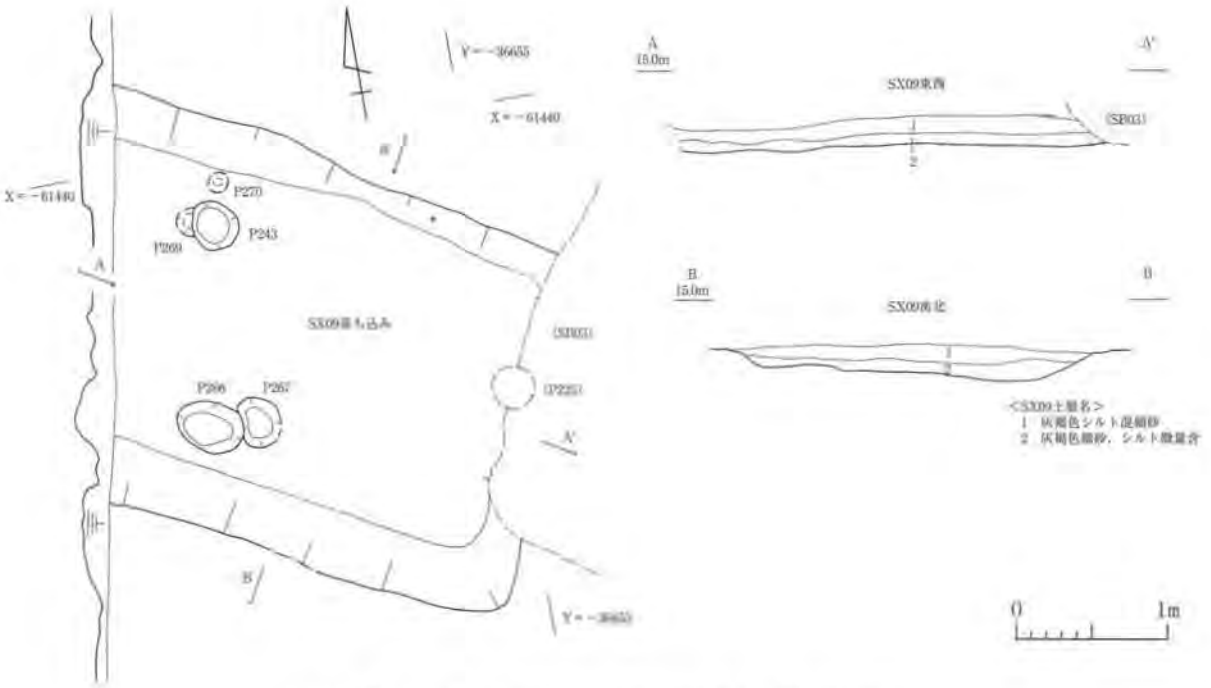
このように、一括して出土した両遺物ではあるが、時期的には大きな隔たりがあった。これら両出土遺物の編年観に大きな齟齬があるとは考えられないため、本土器集積の形成時期は樫王式の時期で



第９図　鷺山蝉遺跡B8区SD88・89、SX33土器集積実測図



第10図　鷲山蟬遺跡Ａ１・２区SX05自然流路、SX10土器集積、SD11・13実測図



第11図　鷺山仙道遺跡A1区SX09落ち込み実測図

ある蓋然性が高い。また、包含層中（Ⅶ層中）にも稲荷山式の土器が出土していることから（本章第5節参照）、本遺構のごく近接地で縄文土器を採取し、異なる2時期の土器を組み合わせて一括埋納した可能性が考えられよう。いずれにせよ、本土器集積が土器棺というところまでは断言できないが、埋納行為の一事例として取り上げておきたい。

SD88・SD89（第9・97図3）

両溝ともB8区南側で確認した。流向はともに東－西方向。北側SD89の規模は確認部分で長さ5.7m、幅0.4～0.5m、深さ0.3m。断面形状は皿状。3は縄文土器五貫森式の鉢である。口縁内外面に沈線が巡り、外面は丁寧なミガキ調整が施される。出土遺物からSD89の時期は縄文時代晩期後葉と判断できる。南側のSD88はSD89と同様Ⅸ層上面で検出した。5期（近世）のSD84により切られており全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.7m、深さ0.3m。断面形状は部分的ではあるが下に凸状と推定される。埋土は上層のⅦ層とは異なることから本時期に相当すると判断したが、顕著な遺物は出土しなかったため、詳細な時期は不明である。

鷺山蝉遺跡A区

SX05自然流路・SX10土器集積（第10図・97図4～9・98図10～27）

A1西側で確認した。A1区では北側および南側は調査区外で、A3区では戦国時代の溝SD02の壁面部分で断面を確認するにとどまった。流向は北東－南西方向。規模は確認部分で長さ約13m、幅約5.4m、深さ0.5m。両肩部分とも傾斜が緩やかであったこと、埋土の堆積状況などから流路と判断した。傾斜から判断すると南西方向へ流れていたと推定される。SX05の南肩付近で遺物が多く出土し（SX10土器集積）、それ以外はほぼ均一に遺物が出土していた。4～24がSX05、25～27がSX10出土遺物である。4は縄文土器の深鉢である。晩期中葉稲荷山式に相当する。5・6は突帯文系の深鉢である。晩期後

葉から末頃に比定できる。7・8は条痕文土器の甕体部である。体部の上半部で、波状文が施される。水神平式に相当する。9は壺体部片と推定される。太い沈線で文様が施される。中部山岳系の土器か。10～15は遠賀川系の甕口縁および底部、16は遠賀川系の壺底部である。ともに弥生時代前期後葉に相当する。17～19は弥生土器の壺体部片である。弥生時代中期前葉の朝日式に相当する。20は石核調整時の剥片である。21は打製石斧の剥片か。22は二次加工のある剥片である。23は打製石斧である。小型品で砂岩製である。24は敲石である。中央部の敲打痕が顕著である。

25は縄文土器深鉢である。晩期後葉の五貫森式に相当する。26・27は遠賀川系の甕口縁である。ヘラ描沈線が施される。弥生時代前期後葉に相当する。

このように、本遺構に関しては縄文時代晩期から弥生時代前期、中期前葉と出土遺物に時期幅があり、このことも流路であることの証左と言えよう。おそらく弥生時代中期頃には埋没したものと推定される。

SD11・SD13（第10図）

A1区東側・A2区南側で確認した。両溝とも流向は北東－南西方向で、先述のSX05流路とほぼ平行する。両溝とも北東側、南西側は調査区外で全体のプランは不明。西側SD11の規模は確認部分で幅0.5～0.6m、深さ0.1m。東側SD13の規模は確認部分で幅0.5～0.7m、深さ0.4m。両溝とも断面形状は皿状。これら両溝は先述のSX05流路と同一方向で、同じⅦ層上面から掘り込まれていたこと、溝埋土が上層のⅤ層（鎌倉時代～室町時代包含層）とは異なることから本時期に相当すると判断した。ただし顕著な遺物が出土しなかったため、詳細な時期は不明である。本時期あるいは2期（古墳時代～古代）に下る可能性も考えられる。

鷲山仙道遺跡A区

SX09落ち込み（第11・98図28）

A1区南側で確認した。検出当初は方形に近いプランを確認し、竪穴住居と判断したが、断面形態が浅い皿状であることから、住居の可能性は低いと認識した。また、SX09内でPit243・266・267・269・270を検出したが、本遺構埋没後に上層より掘り込まれたPitである可能性が高い。本報告ではこれらをふまえて報告する。本遺構は土坑状の落ち込みと考えられ、西側は調査区外、東側は古墳時代の住居SB03に切られ、全体のプランは不明。規模は確認部分で東西3.4m、南北2.5m、深さ0.2m。

28は縄文土器の深鉢である。体部には貝殻条痕が、口縁端部には貝殻を押し当てた刻目が施される。晩期中葉の西之山式に相当する。

鷲山仙道遺跡B１区

SX02・SX03低地（第98図29、別添図12）

SX02はB1区北側、SX03はB1区南側で確認した。ともに低地状の地形で、遺物がわずかながら出土している。29はSX02低地出土の縄文土器深鉢で、口縁端部に貝殻による刻目が施される。縄文晩期中葉稲荷山式に相当する。

第２節　２期（古墳時代～古代）の遺構と遺物

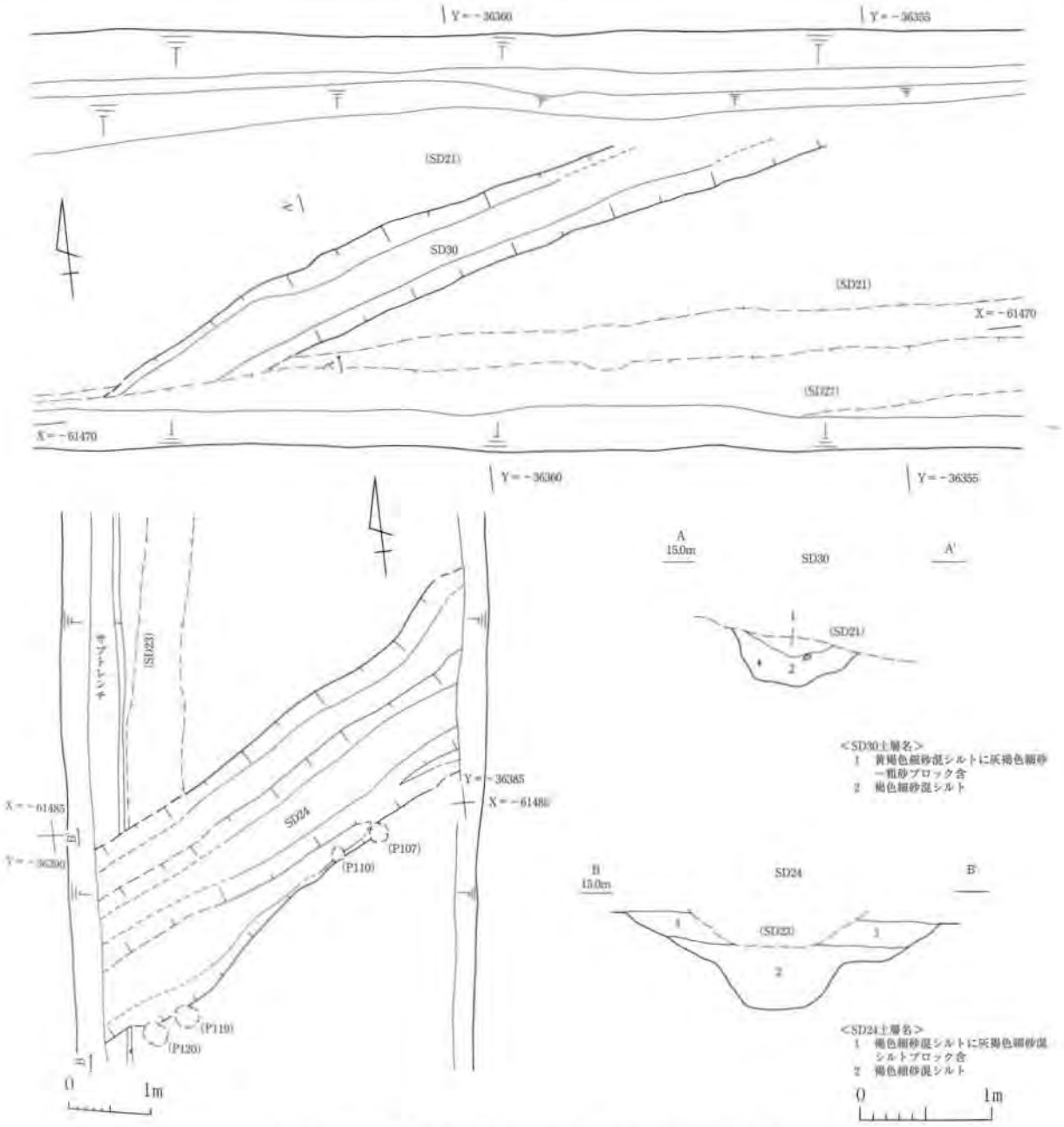
２期の遺構は鷺山蝉遺跡B～F区、鷺山仙道遺跡A・B区で、特に微高地上で確認できた。主にⅨ層（砂層地山層）上面、Ⅶ層（縄文時代～古墳時代遺物包含層）上面で遺構を検出した。

＜古墳時代前期の遺構・遺物＞

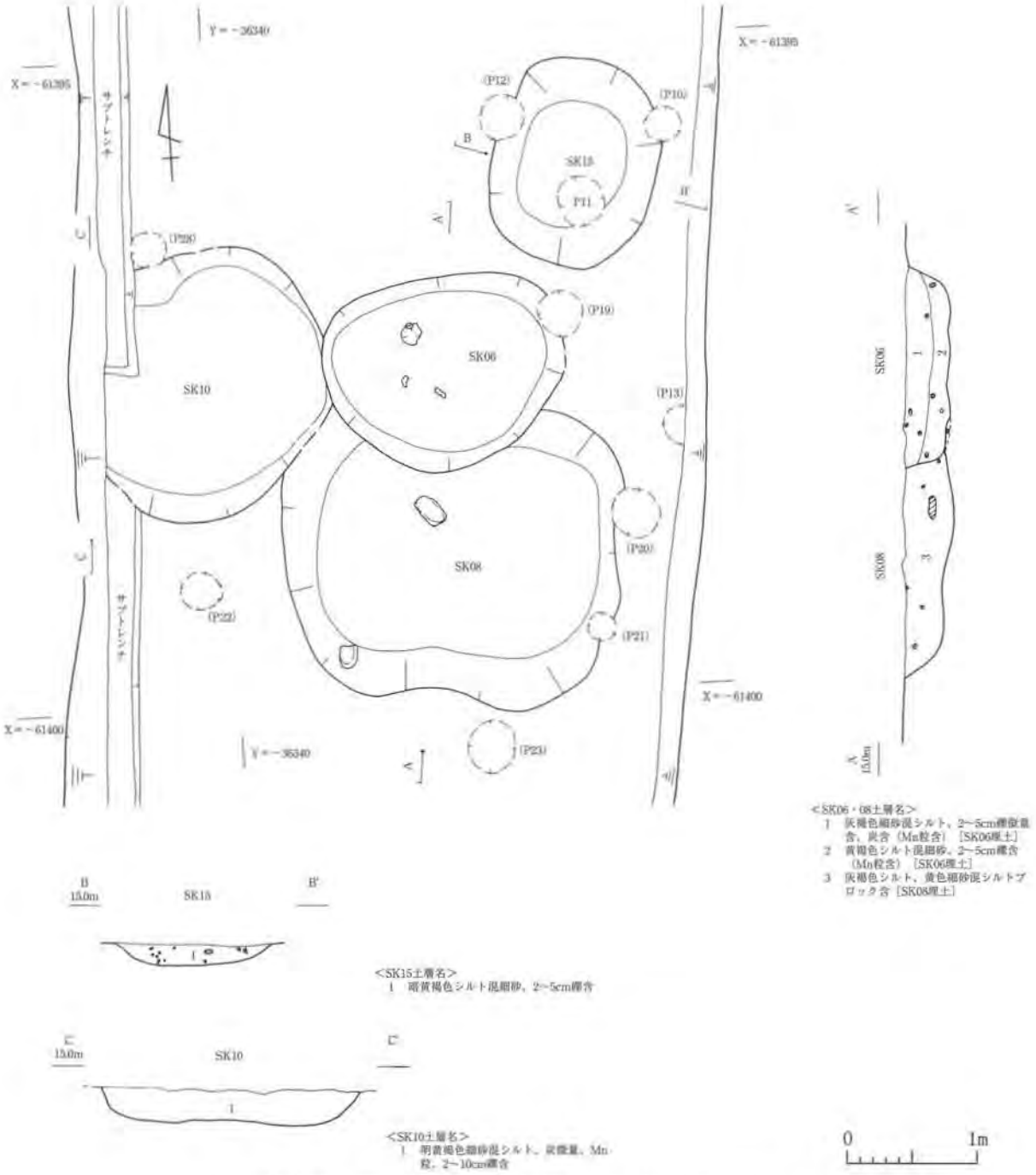
鷺山蝉遺跡B区

SD24・SD30（第12・99図30）

SD24はB6区南側、SD30はB7区東側でそれぞれ確認した。ともに流向は北東－南西方向。別番号であるが、同一延長線上に位置することから、同一溝の可能性が考えられる。それらを踏まえて報告す



第12図　鷺山蝉遺跡B6区SD24、B7区SD30実測図

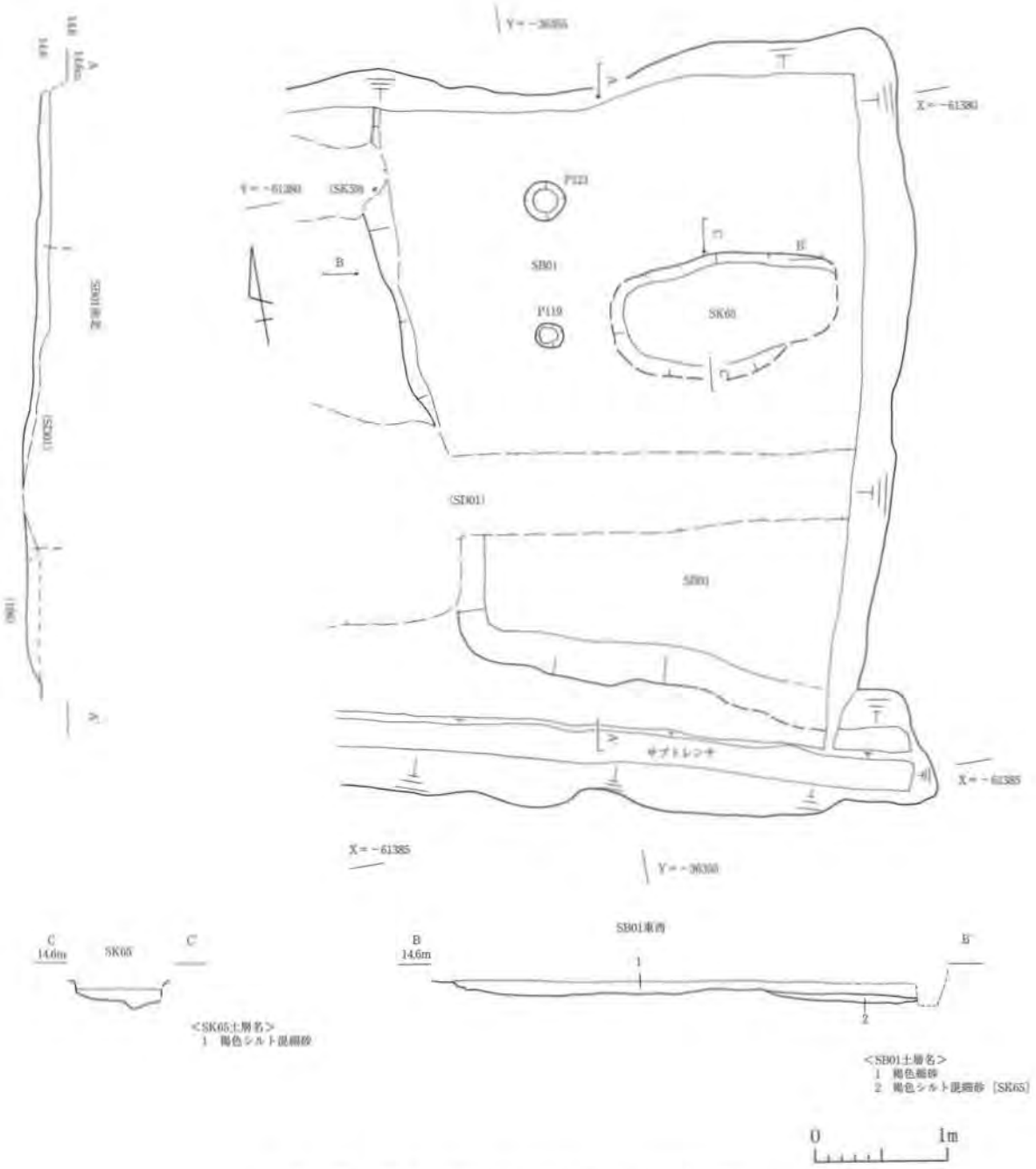


第13図　鷺山蝉遺跡D1区SK06・08・10・15実測図

る。規模はSD24が確認部分で長さ4.5m、幅1.2～1.3m、深さ0.7m。SD30の規模は確認部分で長さ5.6m、幅0.6m、深さ0.4m。断面形状はSD24が下に凸形、SD30は上部をSD21に切られているため、確認部分ではU字形を呈する。本遺構の埋土はテラスより上まで自然堆積が及んでいた（2層）。テラスより上層部分にはブロック土か含まれ（1層）、人為的な埋め戻しの可能性が考えられる。30は土師器有段高杯の杯部。31は剥片で、石材は下呂石。32は石核調整時の剥片で、石材はチャート。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

鷺山蝉遺跡D区

SK06（第13・99図33～37）

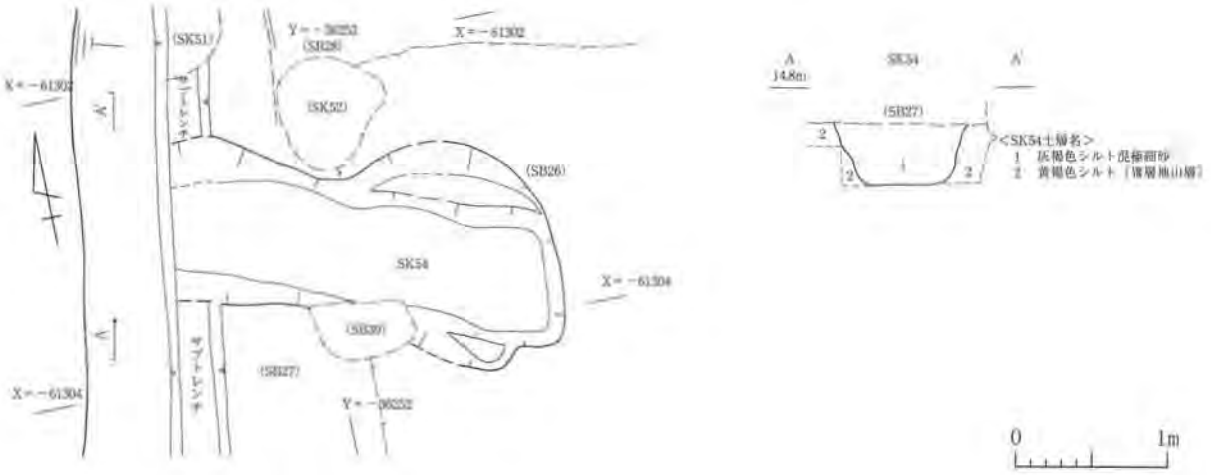


第14図 鷺山蝉遺跡D3区SB01、SK65実測図

D1区南側で確認した。Pit19に切られる。プランは楕円形。規模は長軸1.9m、短軸1.5m、深さ0.35m。埋土に礫を含み、本遺構を完掘するとX層（礫層地山層）を確認できた。33・34はS字甕口縁部である。35はS字甕口縁から体部にかけての破片で、体部上方が最大径となる。36は器台脚部破片。37は高杯の杯部破片。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

SK08（第13・99図38～42）

D1区南側で確認した。Pit20・21に切られる。プランは隅丸長方形。規模は長辺2.6m、短辺2.3m、深さ0.4m。SK06等と同様、埋土に礫を含み、完掘するとX層（礫層）を確認できた。38・39はS字甕口縁片で、38は端部立ち上がりが受口状となる。40はS字甕脚部。41は土師器鉢。42は小型壺の口縁片。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。



第15図　鷺山蝉遺跡F３区SK54実測図

SK10（第13・99図43）

D1区南側で確認した。西側は調査区外のためプランは不明だが、楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸2.1m、短軸1.6m、深さ0.25m。埋土に礫を含む。43は土師器屈折脚高杯の脚部片である。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

SK15（第13図）

D1区南側で確認した。Pit10～12に切られる。プランはほぼ楕円形。規模は長軸1.6m、短軸1.3m、深さ0.15m。埋土に礫を含む。実測可能な遺物は出土しなかったが、S字甕細片が出土することから、本遺構の時期は古墳時代前期に相当すると判断した。

SB01（第14・99図44～47）

D3区東側で確認した。埋土に炭・焼土等は含まれず、炉跡等は確認できなかったが、遺構の立ち上がり形状および遺構底面が平坦であることから住居と判断した。西側立ち上がりと南側の一部分のみ遺存。北側は調査区外、南側の大部分がSD01よる撹乱のため全体のプランは不明であるが、一辺4.4m以上の方形と推定される。深さは0.1m。本遺構内でPit119・121、SK65を確認した。44は土師器壺の口縁片。45～47はS字甕脚部片。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

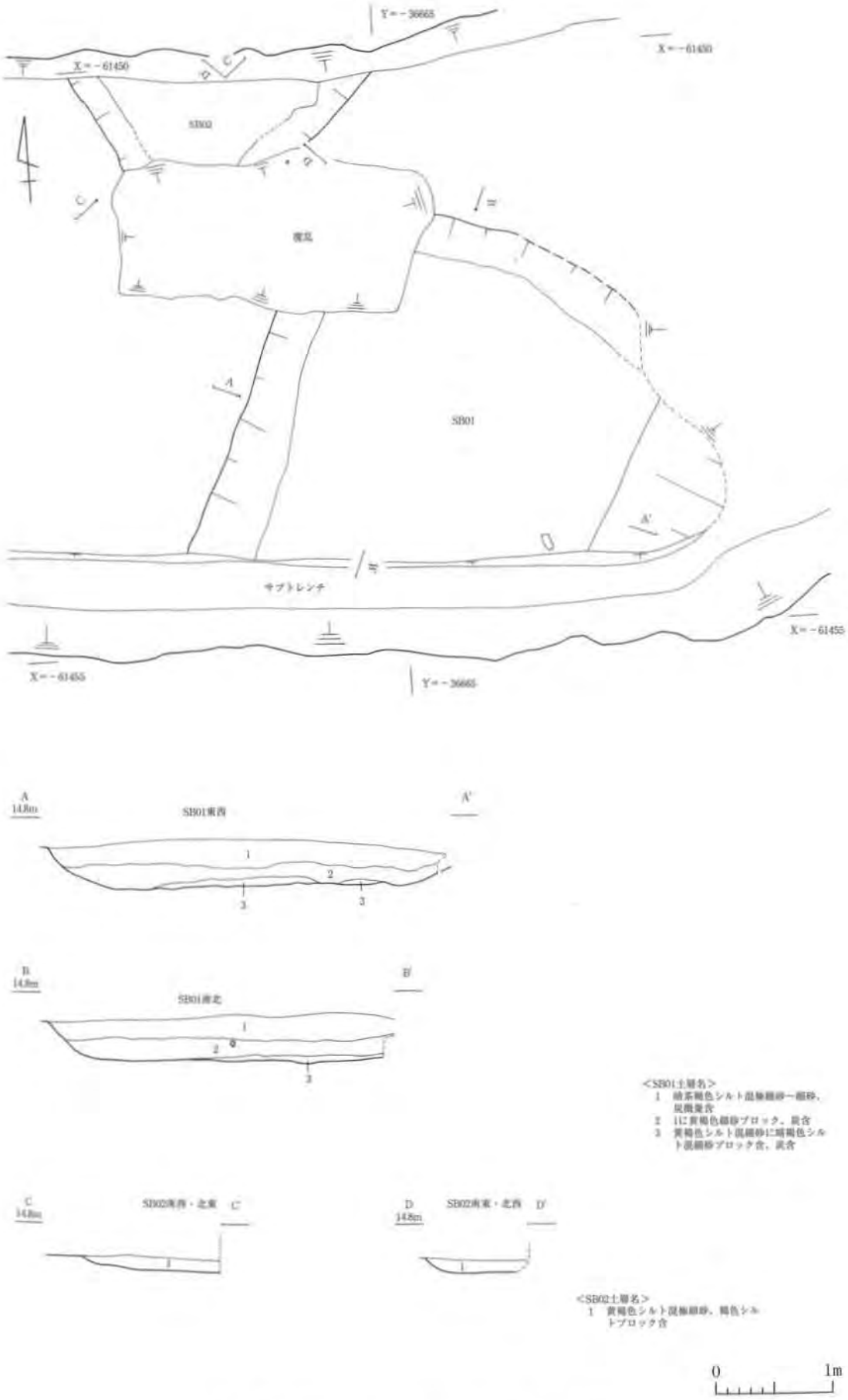
鷺山蝉遺跡E区

SX04低地（第99図48～50、別添図８）

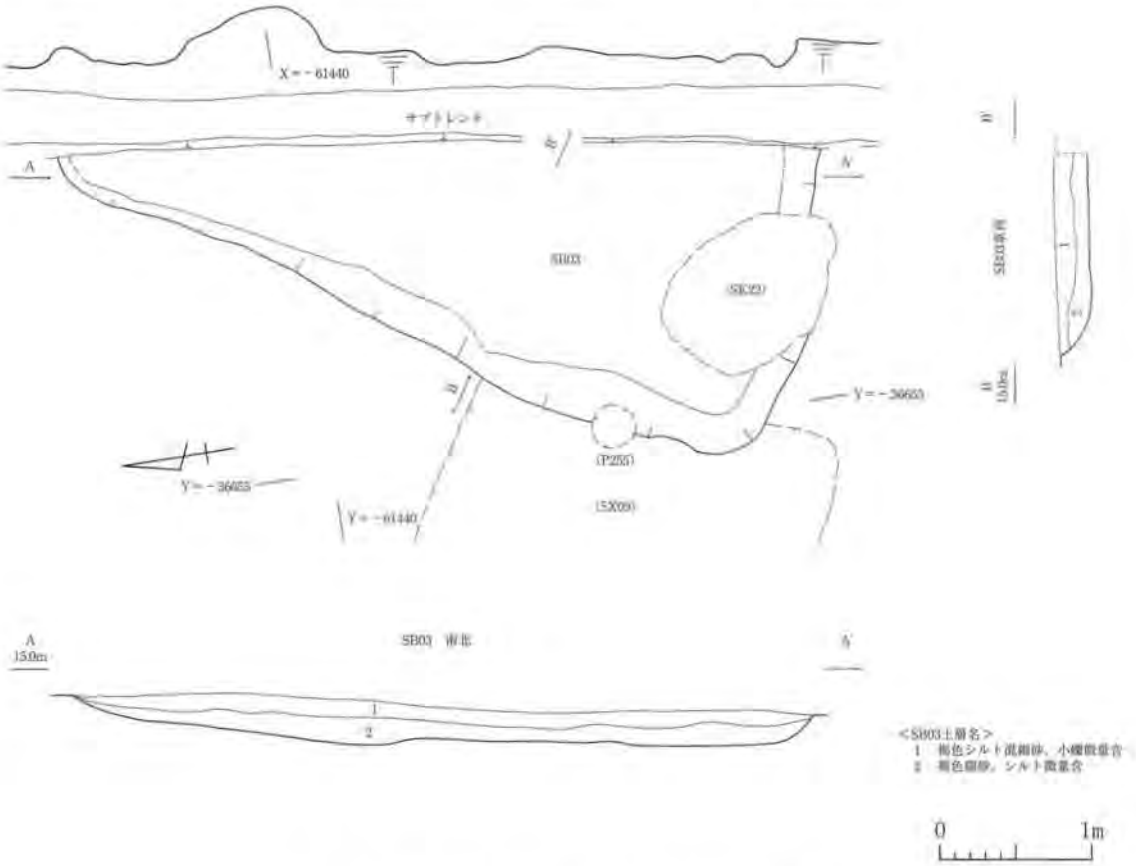
E1区西側で確認した。調査区南西側へ下がってゆく低地で、埋土最下部で古墳時代の遺物が出土した。48はS字甕口縁から体部にかけての破片で、体部中央が最大径となる。49は壺体部片で、肩部に櫛描文とヘラ工具による刺突が施される。50は高杯の杯部破片。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。なお、低地域にも人間活動が及んでいた可能性を想定して、本遺構の埋土に関しては自然化学分析を実施したところ、若干ながらイネのプラント・オパールが検出された。（詳細は第6章第1節参照）。

鷺山蝉遺跡F区

SK54（第15・99図51）



第16図　鷲山仙道遺跡A２区SB01・02実測図



第17図　鷺山仙道遺跡Ａ１区SB03実測図

F3区北側で確認した。SB26・27、SK39に切られる。西側は調査区外のため全体のプランは不明であるが、隅丸長方形状と推定される。規模は確認部分で長辺2.6m、短辺1.0～1.2m、深さ0.4m。51はS字甕脚部片である。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

Pit232出土遺物（第99図52）

52はF3区西側Pit232出土のS字甕脚部。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

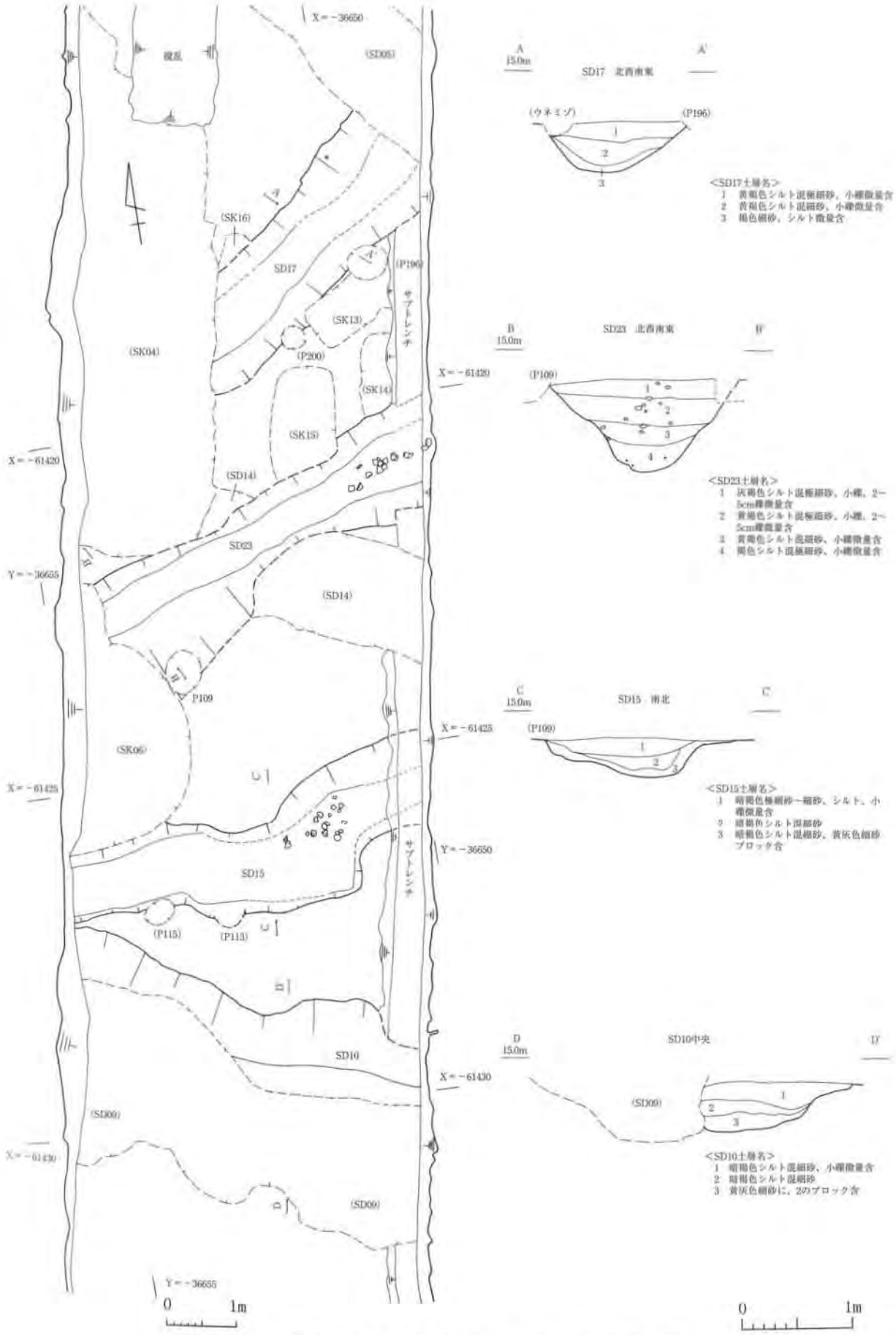
鷺山仙道遺跡A区

SB01（第16・100図53・54）

A2区東側で確認した。西側と北側で立ち上がりの一部のみ遺存。南側は調査区外、東側は撹乱のため全体のプランは不明だが、一辺4.1m以上の方形と推定される。深さは0.4m。埋土に炭を含むが、炉跡等は確認できなかった。断面で貼床状の土層が確認できたが、プランでは明確に確認できなかった。53はS字甕口縁片。54は高杯脚部。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

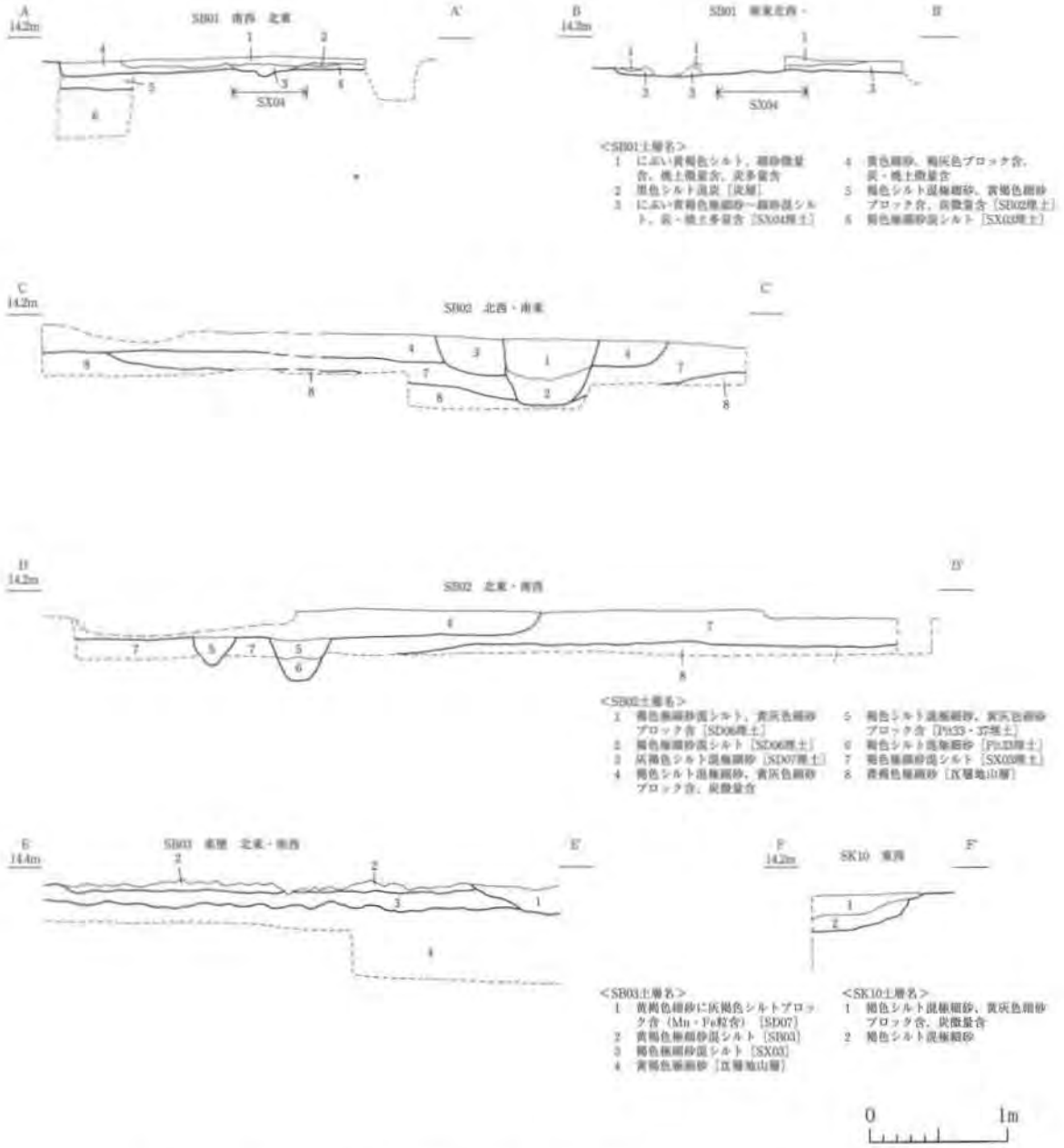
SB02（第16図）

A2区東側で確認した。住居のコーナ部分と推定される一部のみ遺存。北側は大半が調査区外で全体のプランは不明だが、一辺2.0m以上の方形と推定される。深さは0.1m。埋土に炭は含まれていなかった。本遺構の時期はSB01と同じⅦ層上面で検出したこと、埋土が上層のⅤ層とは異なることから本時期に相当すると判断したが、顕著な遺物は出土しておらず詳細な時期は不明である。



第18図　鷲山仙道遺跡A１区SD10・15・17・23実測図

第19図　鷺山仙道遺跡B1区SB01～03、SD06・07、SK10平面実測図



第20図　鷺山仙道遺跡B1区SB01～03、SD06・07、SK10断面実測図

SB03（第17・100図55）

A1区南側で確認した。SK23に切られ、SX09落ち込みを切る。西側と南側立ち上がりの一部のみ遺存。東側は調査区外のため全体のプランは不明だが、一辺5.0mの方形と推定される。深さ0.3m。埋土に炭は含まれていなかった。55はS字甕。図上でほぼ全体が復元でき、体部上方が最大径となる。内面下部にはコゲが付着する（図中破線より下）。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

SD10（第18・100図56～59）

A1区中央で確認した。流向はやや蛇行する北西－南東方向。溝の両側は調査区外。北肩のみ遺存し、南肩は戦国時代のSD09に切られて全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.6m、遺存幅0.8～1.8m、深さ0.4m。断面形は遺存部分のみであるが逆台形状に近い。56・57はS字甕口縁片。58は縄文土器で西之山式に比定できる。59は剥片で、石材は下呂石。この他実測可能遺物は無かったが、S字甕体

部片が出土することから本遺構の時期は古墳時代前期に相当すると判断した。

SD15（第18・100図60～67）

A1区中央で確認した。流向は蛇行する東－西方向。SK06、Pit113・115に切られる。溝の両側が調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.6m、幅1.2～1.6m、深さ0.35m。断面形は皿状に近い。60は土師器壺口縁。61は小形丸底壺で、内外面に細かいヘラミガキが施される。62はS字甕脚部。63・64はS字甕口縁。65はS字甕体部で体部中央付近が最大径となる。66は丸底甕で、一見すると畿内の布留系甕に類似しているが、器壁は布留系甕より厚い。また外面に細かいヘラミガキが施される点で布留系甕と異なる。67は丸底鉢体部片。出土遺物から古墳時代前期と判断した。

SD17（第18図）

A1区北側で確認した。流向は北東－南西方向。SK05・13・16に切られるため、確認できるプランは少ない。規模は確認部分で長さ4.4m、幅1.3m、深さ0.45m。SD23に並行する。実測可能な遺物は無かったが、S字甕体部片が出土していることから古墳時代前期に相当すると判断した。

SD23（第18・100図68～73）

A1区中央で確認した。SD14、SK05・14・15に切られる。流向は東北東－西北西方向。古代の溝SD14掘削中に、その肩部分で溝の断面形を検出した。SD14とはほぼX字状に交差して切り合うため、確認できたプランは少ない。規模は確認部分で長さ5.2m、幅1.2～1.7m、深さ0.8m。断面形は逆台形状に近い。68は器台脚部。69はS字甕。70は壺口縁片。71は柳ヶ坪型壺口縁片。72は鉢底部で、細かいヘラミガキが施される。73は小形丸底壺体部。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

鷲山仙道遺跡B区

SB01・SX04炉跡（第19・20・100図74）

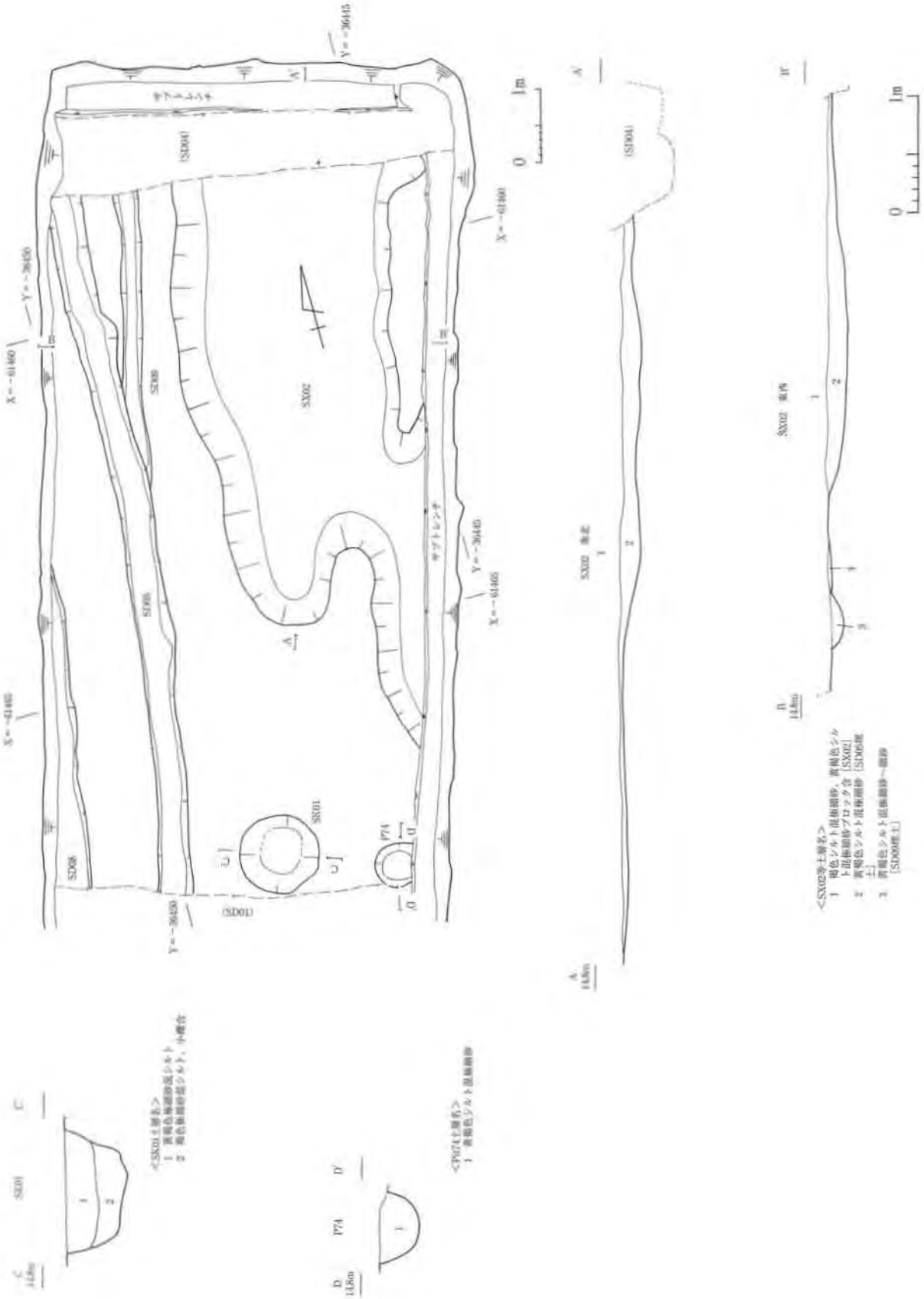
B1区南側で確認した。SB01は北東側、北西側の立ち上がり一部を確認できた。南側は調査区外、西側はSE01に切られ全体のプランは不明であるが、一辺3.5m以上の方形と推定される。深さ0.1m。本遺構内でSX04炉跡を確認した。地床炉と考えられ、プランは隅丸長方形に近い。規模は長辺0.6m、短辺0.45m、深さ0.1m。炉跡埋土は顕著な炭層を確認でき、また炉跡周辺にも炭の範囲が確認できたが、被熱痕跡は認められなかった。74はS字甕口縁である。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

SB02（第19・20・100図75）

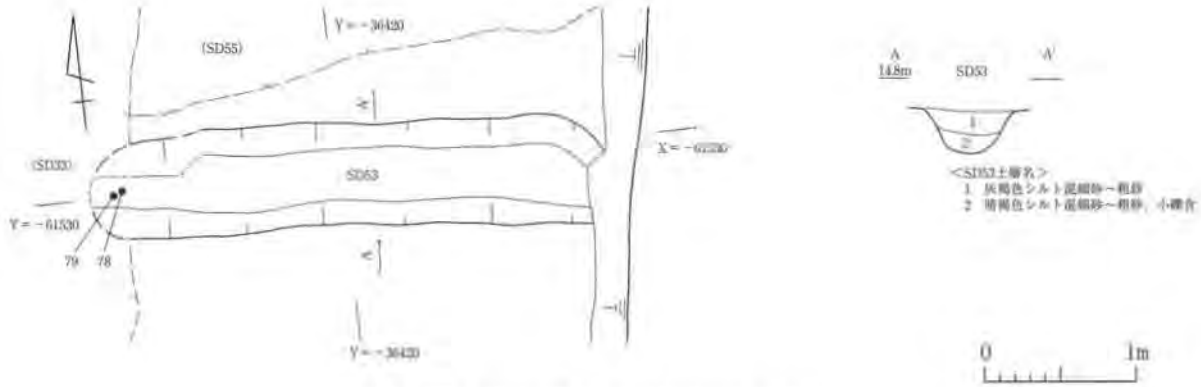
B1区南側で確認した。東側はSD06・07、SB01に切られる。西側は調査区外のため全体のプランは不明であるが、一辺4.9m以上の方形と推定される。深さ0.2m。埋土中に炭をわずかに含むが、炉跡等は確認できなかった。75はS字甕口縁片。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代前期と判断した。

SB03（第19・20図）

B1区中央で確認した。SD07に切られる。東側は調査区外で全体のプランは不明だが、一辺2.9m程度の隅丸方形と推定される。深さ0.1m。本遺構の時期はSB01・02と同じSX03低地埋土の上面で検出したこと、埋土がSB02に似ることから本時期に相当すると判断したが、顕著な遺物が出土しておらず詳細な時期は不明である。SB03→SD07→SB01の順に変遷することから、本遺構の時期はSB02と同時期



第21図　鷺山蝉遺跡B2区SX02落ち込み、SK01、SD05・08・09、Pit74実測図



第22図　鷺山蝉遺跡B4区SD53実測図

の古墳時代前期、もしくはそれ以前の可能性が考えられる。

SD06・07（第19・20図）

B1区南側で確認した。SD07が先行する溝で、掘り直してSD06を形成したと考えられる。SB02・03を切り、SB01に切られる。流向はともに北東－南西方向。北東側は調査区外、南東側はSB01に切られ全体のプランは不明。規模はSD06が確認部分で長さ7.2m、幅0.7m、深さ0.5m。SD07が長さ8.0m、残存幅0.5m、深さ0.25m。断面形状はSD06がU字状、SD07が浅い皿状。両溝からは顕著な遺物は出土しなかったが、SB02→SD07→SD06→SB01の順に遺構変遷すること、SB01・02で古墳時代前期の遺物が出土することから、本遺構の時期は両溝とも古墳時代前期の範疇に収まると判断した。

SK10（第19・20図）

B1区南側で確認した。東側は調査区外のため全体のプランは不明だが、楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.25m。本遺構の時期はSB01等と同じSX03低地埋土上面で検出したこと、埋土がSB02に似ていることから本時期に相当すると判断したが、顕著な遺物は出土しておらず詳細な時期は不明である。

＜古墳時代後期～古代の遺構・遺物＞

鷺山蝉遺跡B区

SK01（第21・101図76）

B2区北側で確認した。プランはほぼ円形。規模は直径1.1m、深さ0.5m。埋土下層掘削中に土器を確認した。76は全形の分かるロクロ土師器の椀。本遺構の時期は出土遺物から平安時代末から鎌倉時代初め頃と判断した。

Pit74（第21図、別添図3）

B2区北側で確認した。SD01に切られる。東側はサブトレンチ掘削で一部を切られる。規模は確認部分で直径0.65m、深さ0.35m。実測可能な遺物は無かったが、ロクロ土師器細片が出土することから、本遺構の時期は平安時代末から鎌倉時代初め頃に相当すると判断した。

SX02落ち込み（第21・101図77）

B2区北側で確認した。北側は戦国時代のSD04に切られ、東側は調査区外のため全体のプランは不明。不整形状の落ち込みと推定される。規模は確認部分で南北8.0m、東西3.9m、深さ0.15m。77はロク

ロ土師器底部である。本遺構の時期は出土遺物から平安時代末から鎌倉時代初め頃と判断した。

SD05・08・09（第21図）

B2区北側で確認した。いずれも流向は北－南方向。SD05はSD08とほぼ平行し、SD09を切る。また、SD05・09の南側はSD01に切られ、北側はSD04に切られるが、さらに調査区外へと伸びると推定される。全体のプランは不明。規模はSD05が確認部分で長さ9.6m、幅0.45m、深さ0.1m。SD08が確認部分で長さ4.5m、残存幅0.45m、深さ0.1m。SD09が確認部分で長さ4.0m、幅0.25m、深さ0.05cm。いずれの溝も断面形状は浅い皿状である。実測可能な遺物は無かったが、ロクロ土師器細片が出土することから本遺構の時期は平安時代末から鎌倉時代初めに相当すると判断した。

SD53（第22・101図78・79）

B4区南側で確認した。流向は東－西方向。西側はSD33に切られ、東側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ3.4m、幅0.7m、深さ0.3m。断面形状はU字状。本遺構内から土器が2点まとまって出土した。78・79はともにロクロ土師器。底部に糸切痕がある。本遺構の時期は出土遺物から平安時代末から鎌倉時代初め頃と判断した。

SX26落ち込み（第101図80、別添図5）

B5区中央で確認した。東側はSX21石積施設に切られ、南側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で東西2.0m、南北1.8m、深さ0.1m。80は須恵器鉢で美濃須衛Ⅴ期第1小期。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

鷲山蝉遺跡C区

SK01（第101図81、別添図7）

C1区北側で確認した。南側は試掘トレンチに切られており全体のプランは不明だが、不整楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.15m。81は土師器平底甕の口縁部破片。本遺構の時期は出土遺物から8～9世紀頃に相当すると判断した。

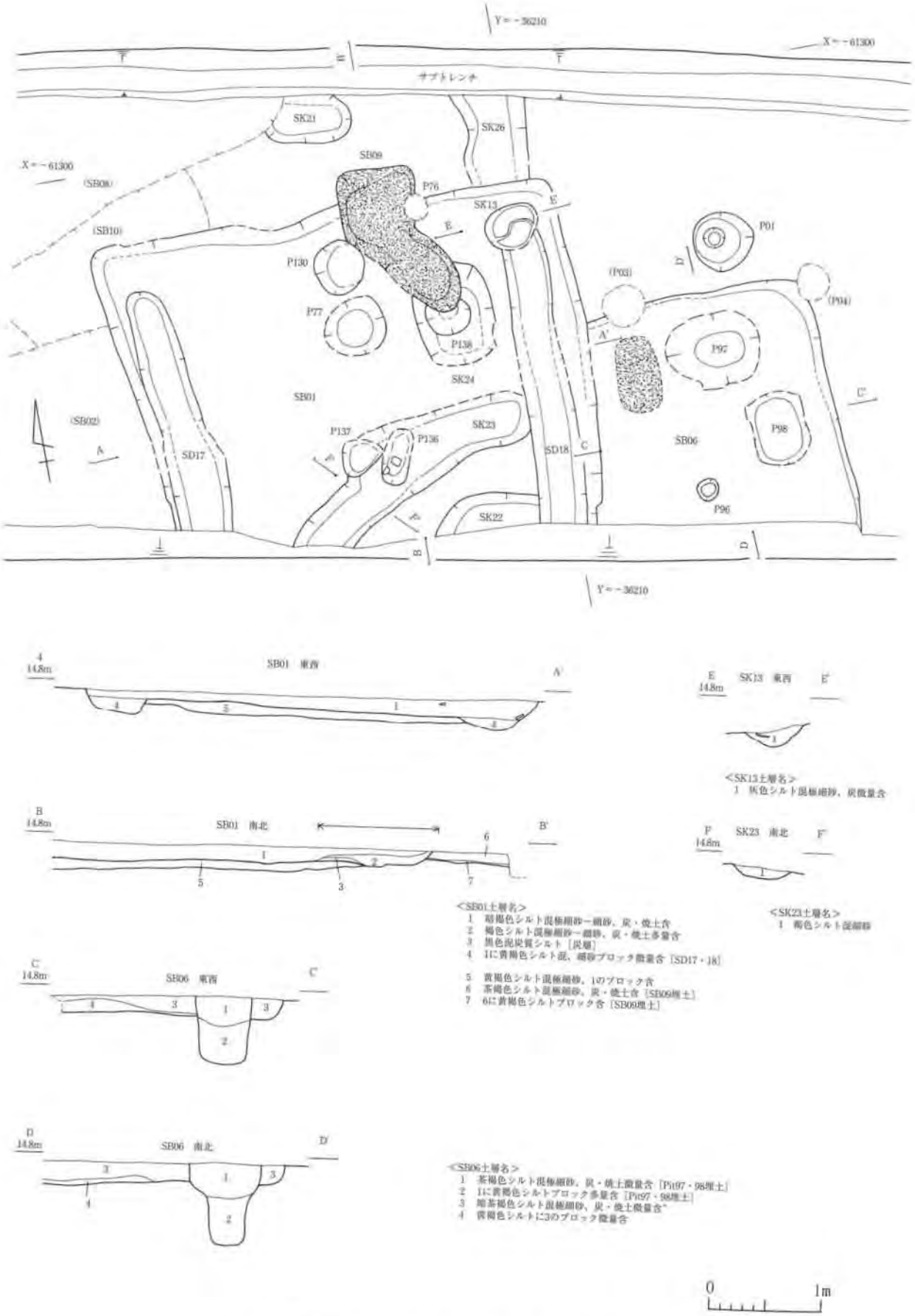
Pit27（第101図82、別添図7）

C2区中央で確認した。プランは楕円形。規模は長軸0.6m、短軸0.4m、深さ0.2m。82は伊勢型甕口縁破片で、口縁端部形状がやや異なる2類。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代後期頃と判断した。

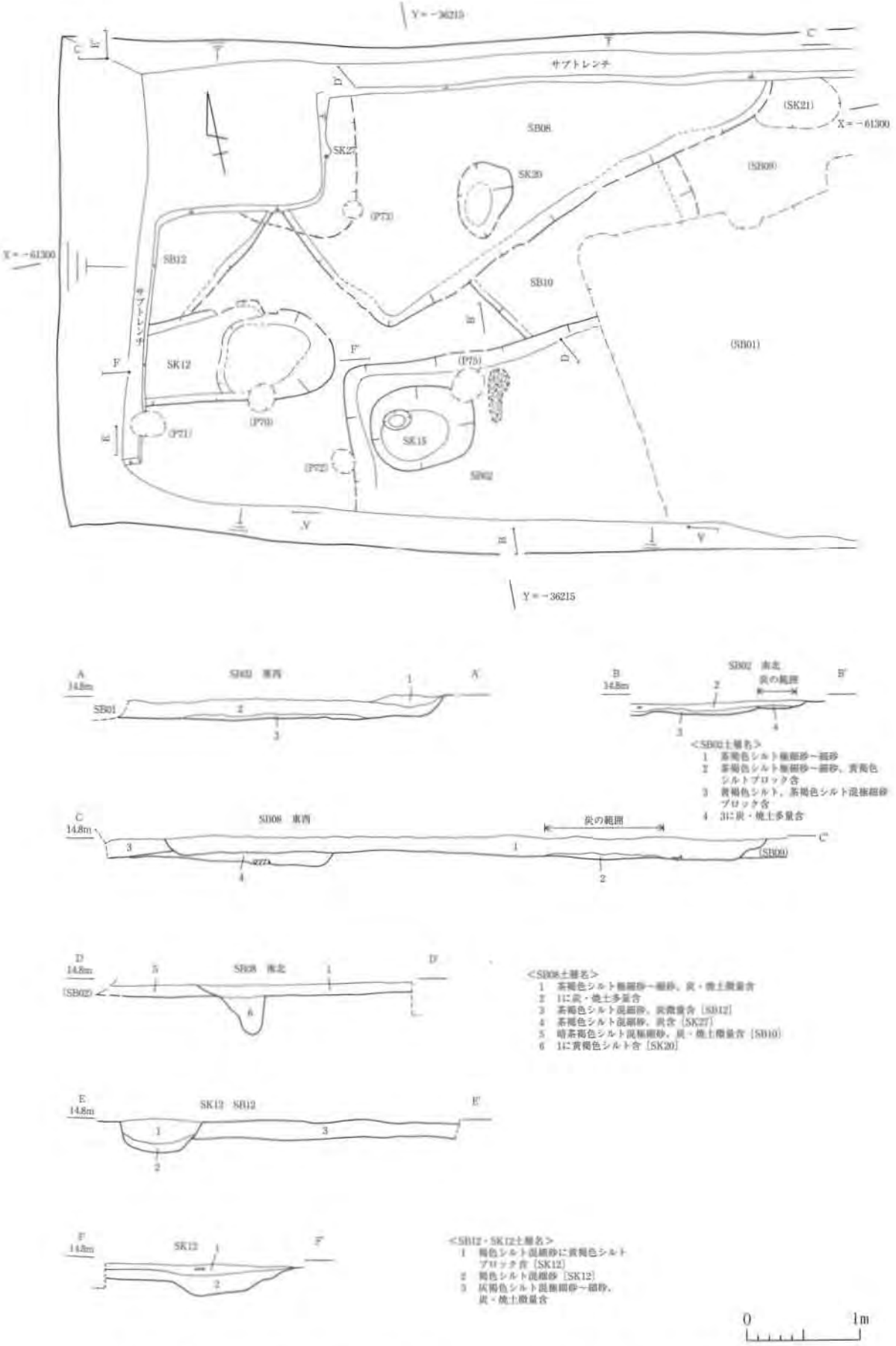
鷲山蝉遺跡F1区

SB01（第23・101図83～98）

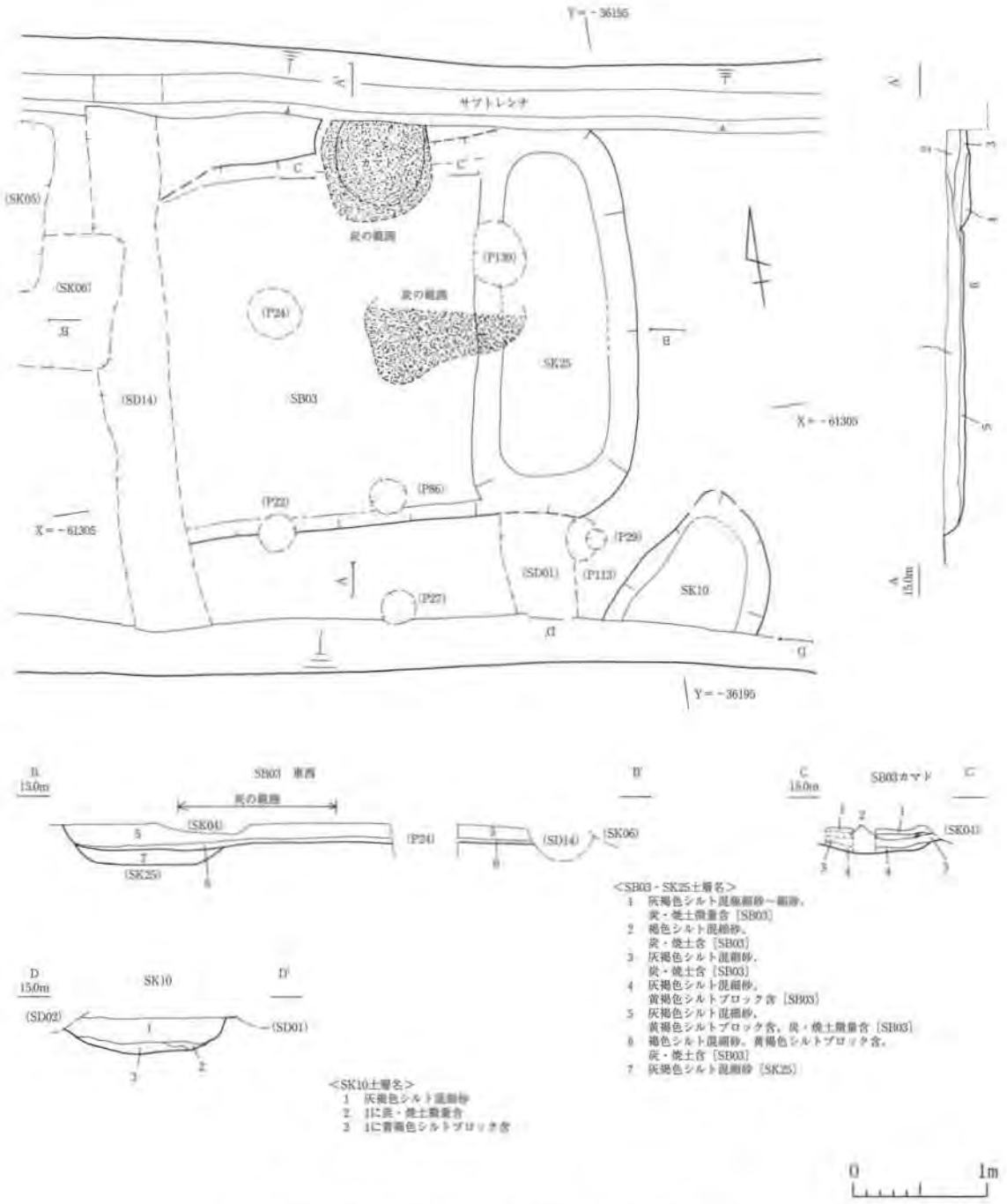
F1区西側で確認した。SB02・06・09・10、SK26を切る。立ち上がりの3方向が遺存していた。南側は調査区外で全体のプランは不明だが、一辺4.2m以上の方形と推定される。深さは0.25m。住居の北側でカマドを確認した。プランは北側突出部が隅丸方形状で、南側は不整形状を呈する。規模は長辺0.65m、短辺0.45m、深さ0.2m。埋土に炭を多く含む。断面で貼床状の土層を確認できるが（5層）プランでは明確に確認できなかった。住居内で確認できた遺構のうち、SD17・18は貼床状の土層を切って形成されており、住居に伴う壁溝の可能性が考えられる。本遺構内ではこの他SK13を確認した。また5層より下でSK22～24、Pit136～138を確認できたことから、これらはSB01に先行する遺構の可能性が高い。



第23図　鷺山蝉遺跡F1区SB01・06・09実測図



第24図　鷲山蝉遺跡F1区SB02・08・10・12、SK12・15・20・27実測図

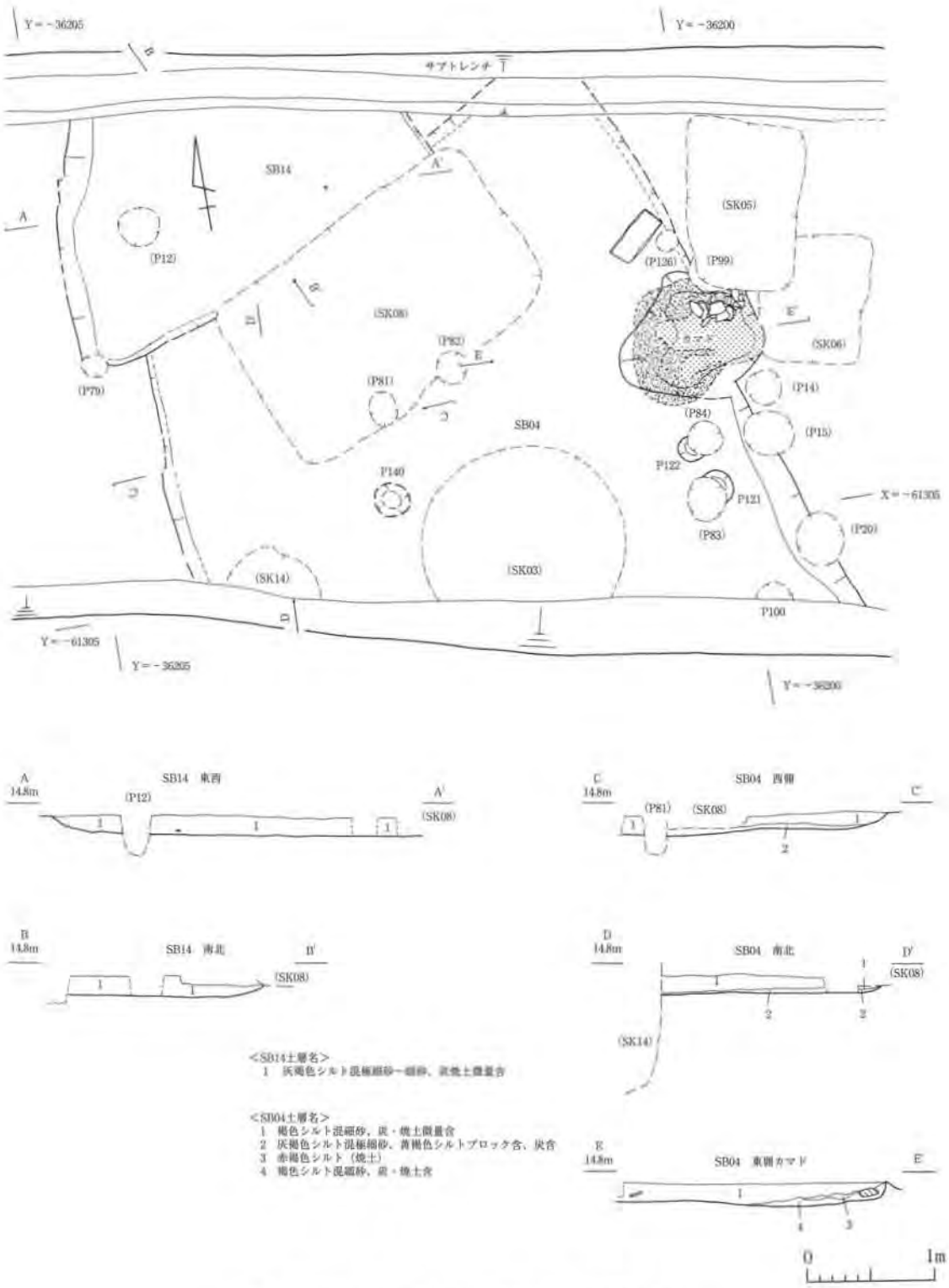


第25図　鷺山蝉遺跡F1区SB03、SK10・25実測図

83～91は須恵器である。83は無台杯。84は有台杯。85は盤。86は盤脚部。87～90は杯蓋。91は盤皿。92は土師器平底甕口縁破片。93は美濃式2類の焼塩土器。94は砥石で、石材は砂岩。95は土製品の土錘。96は伊勢型甕口縁破片。97は須恵器直口壺、98は須恵器杯である。須恵器はほぼ美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB02（第24・101図101）

F1区西側で確認した。SB01に切られ、SB10を切る。立ち上がりの北側・西側の一部が遺存。東側はSB01に切られ、南側は調査区外のため全体のプランは不明だが、一辺2.4m以上の方形と推定される。深さは0.15m。断面で貼床状の土層を確認できたが、プランでは明確に確認することができなかった。住居の北側に顕著な炭の範囲が見られるが、カマドと認定するには至らなかった。本遺構内でSK15を



第26図　鷲山蝉遺跡F1区SB04・14実測図

確認した。SK15はプランが楕円形状。規模は長軸0.95m、短軸0.75m、深さ0.3m。埋土に炭をわずかに含む。101は土師器平底甕口縁片。本遺構の時期は出土遺物から8～9世紀頃と判断した。

SB06（第23・101図99・100）

F1区西側で確認した。Pit03・04・97・98に切られる。立ち上がりの北側・東側の一部が遺存。西側をSB01に切られ、南側は調査区外のため全体のプランは不明だが、一辺2.5m以上の方形と推定される。深さは0.2m。断面で貼床状の土層を確認できたが（4層）、プランでは明確に確認することができな

かった。住居北側に顕著な炭の範囲が認められるが、カマドと認定するには至らなかった。本遺構内でPit96を確認した。99は須恵器高杯脚部で美濃須衛Ⅴ期第1小期。100は須恵器甕口縁破片で美濃須衛Ⅲ期後半。この他実測可能な遺物は無かったが、美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する須恵器細片が出土することから本遺構の時期は9世紀初頭と判断した。

SB08（第24・104図159・160）

F1区西側で確認した。P73に切られ、SB09・10、SK27を切る。立ち上がりの東側・南側が遺存。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、一辺4.2m以上の方形と推定される。深さは0.15m。北側断面で顕著な炭層が確認でき、カマドの可能性が考えられる。しかし断面部分のみで、プランでは炭の広がりを確認できなかった。本遺構内でSK20を確認した。159は須恵器甕口縁破片で美濃須衛Ⅲ期後半。160は須恵器有台杯で美濃須衛Ⅴ期第1小期。この他実測可能な遺物は無かったが、美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する須恵器細片が出土することから本遺構の時期は9世紀初頭と判断した。

SB09（第23図）

F1区西側で確認した。東側立ち上がりのみ遺存。南側はSB01に、西側はSB08・10に切られる。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、一辺3.0m以上の方形と推定される。深さは0.1m。本遺構内でSK21・26を確認した。断面で貼床状の土層を確認できたが（7層）、プランでは明確に確認することができなかった。実測可能な遺物は無かったが、須恵器細片、土師器平底甕細片が出土することから、本遺構の時期は8～9世紀頃に相当すると判断した。

SB10（第24図）

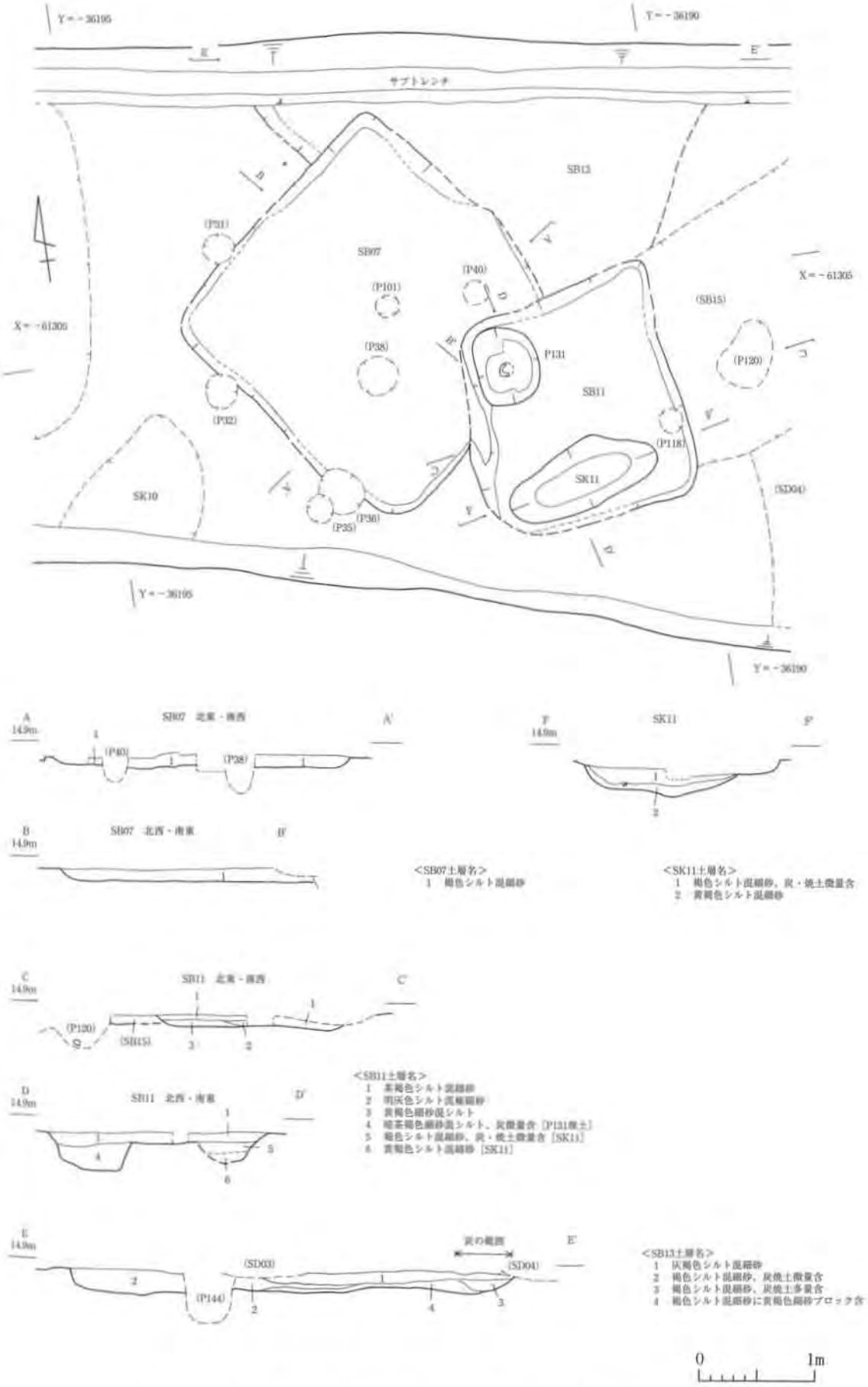
F1区西側で確認した。西側・東側立ち上がりの一部のみ遺存。南側はSB01・02に、北側はSB08に切られており全体のプランは不明だが、方形と推定される。規模は確認部分で長辺2.0m、短辺0.9m、深さ0.1m。実測可能な遺物は無かったが、須恵器細片、土師器平底甕細片が出土することから、本遺構の時期は8～9世紀頃に相当すると判断した。

SB12（第24・104図161）

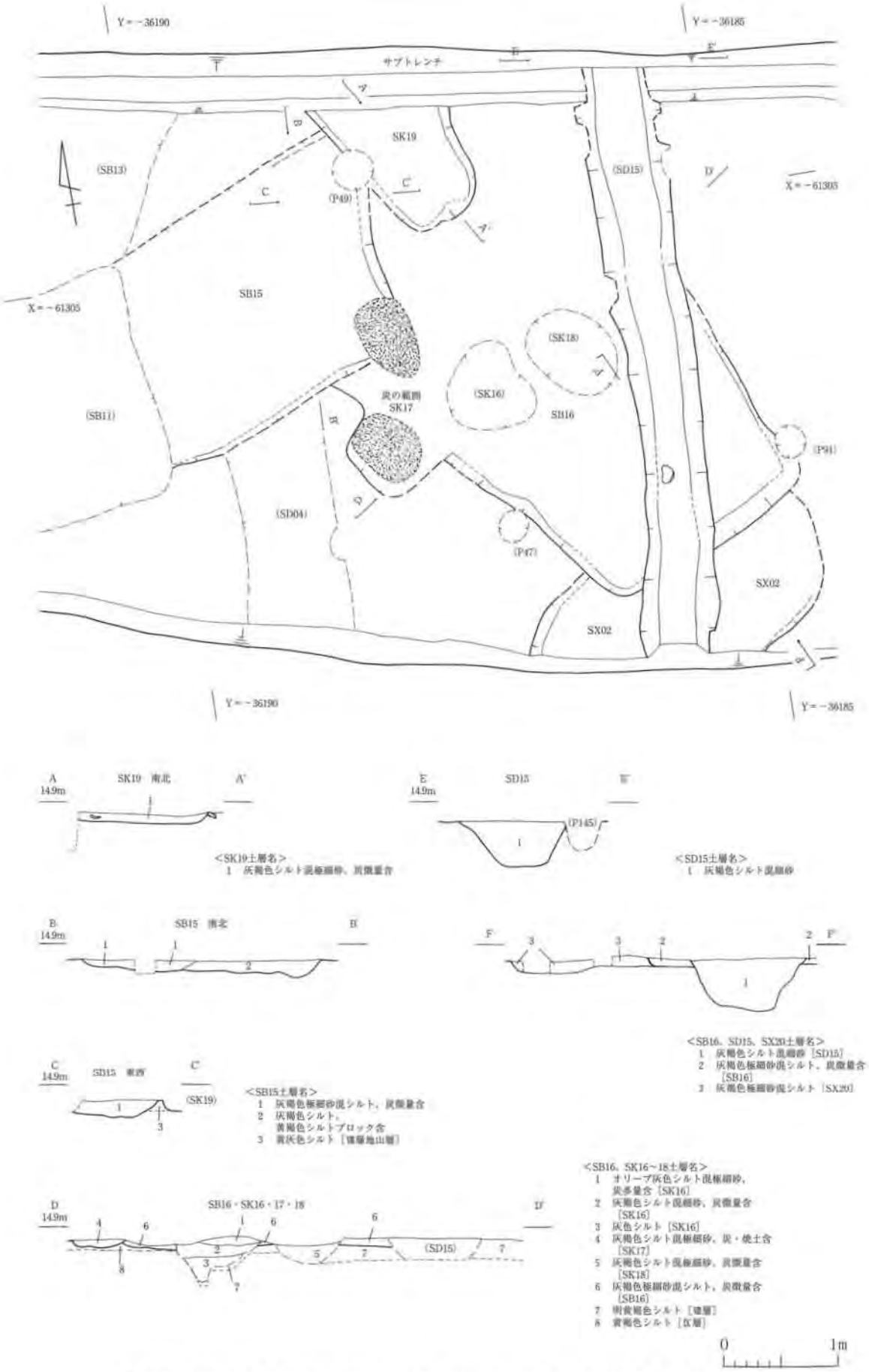
F1区西側で確認した。南側立ち上がりの一部のみ遺存。南側はSK12に切られる。北側はサブトレンチ、西側は調査区外のため全体のプランは不明だが、一辺1.6m以上の方形と推定される。深さは0.15m。161は須恵器甕口縁破片で岩崎41号～高蔵寺2号窯式期（猿投産）である。本遺構の時期は出土遺物から7世紀末～8世紀初め頃と判断した。

SB03（第25・102図102～122）

F1区中央で確認した。SK04に切られ、SK25を切る。立ち上がりの3方向が遺存。西側はSD14に切られ全体のプランは不明だが、長辺3.5m以上の長方形と推定される。短辺3.0m、深さ0.2m。断面で貼床状の土層を確認できたが（6層），プランでは明確に確認することができなかった。住居の北側でカマドを確認した。北側をサブトレンチに切られるが、プランは北側突出部も含め楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸0.85m、短軸0.75m、深さ0.2m。埋土は2・3層に炭を多く含んでいた。また住居中央部にも炭の範囲が認められた。102は土師器平底甕。103・104は須恵器杯。105～107は須恵器無台杯で、106・107にはヘラ記号有り。108～111は須恵器有台杯。112は須恵器杯蓋で、内面に焼成後の記号有り。113～118は須恵器盤で、このうち113はヘラ記号有り。118は脚部に十字透かし有り。119・120は



第27図　鷲山蝉遺跡F1区SB07・11・13、SK11実測図



第28図　鷺山蝉遺跡F1区SB14～16、SK19、SD15、SX02落ち込み実測図

須恵器甕で、このうち120は内面に十字刻みのある同心円タタキが施される。121・122は須恵器甕口縁破片。須恵器はすべて美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB04（第26・103図123～140・104図141～157）

F1区中央で確認した。検出当初西側をSB04、東側をSB05と切り合いのある住居と判断したが、断面では切り合いが無く同一の住居と判断した。SK03・05・06・08・14に切られる。西側・東側の立ち上がりのみ遺存。北側をSB14に切られるが、コーナ付近を北壁断面で確認できた。南側は調査区外のため全体のプランは不明だが、長方形に近いと推定される。規模は確認部分で長辺5.0m、短辺4.5m、深さ0.2m。断面で貼床状の土層を一部確認できたが（2層）、プランでは明確に確認することができなかった。住居の東側でカマドを確認した。カマドの北側には原位置をとどめていないと考えられる被熱を受けた石を確認できた。カマドは北側をSK05に切られるが、プランは東側突出部分も含め不整楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸1.2m、短軸1.0m、深さ0.1m。埋土は4層が炭・焼土を含み、3層が焼土のみであった。本遺構内でPit121・122・140を確認した。123～157がSB04出土遺物で、このうち123～140は東側カマド周辺、141～157は西側と出土地点を限定できる。123～138は須恵器で、123～125は無台杯。126・130は有台杯。127～129・131～133は杯蓋。134は壺口縁で井ヶ谷78号窯式期（猿投産、9世紀初頭）。135～137は盤。138は甕。139は砥石で、石材は砂岩。140は砥石で、石材は安山岩。141は土師器平底甕口縁破片。142～157は須恵器で、142は杯蓋宝珠つまみ部分。143～147は無台杯。148～151は有台杯で、このうち150・151にはヘラ記号有り。152・153は盤。154は片口鉢。155は甕。156は壺。157は杯。須恵器はほぼ美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB07（第27・104図158）

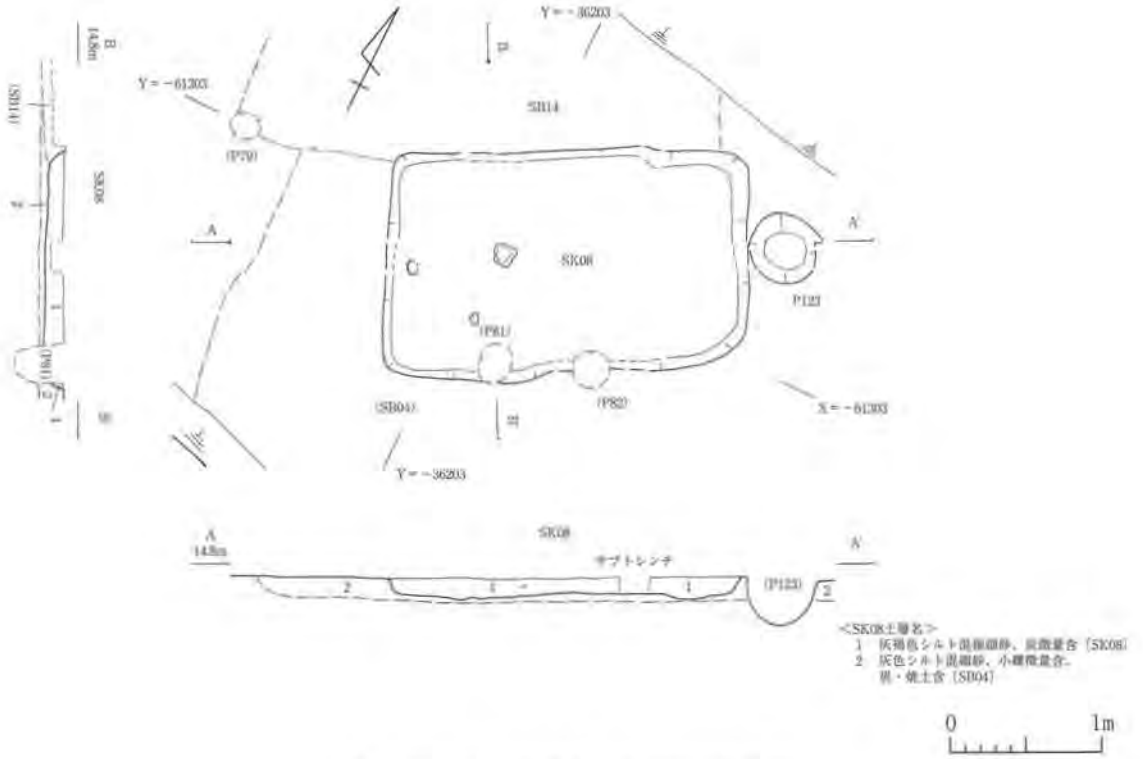
F1区中央で確認した。SB13を切る。立ち上がり4方のほとんどが遺存。東側の一部をSB11に切られるが、プランはほぼ方形。規模は一辺2.6m、深さ0.1m。158は受部を有する須恵器杯で、美濃須衛Ⅲ期後半。本遺構の時期は出土遺物から7世紀後半と判断した。

SB11（第27図）

F1区中央で確認した。SB07を切る。立ち上がり4方のほとんどが遺存。プランはほぼ方形。規模は一辺1.9m、深さ0.1m。本遺構内でPit131・SK11を確認した。実測可能な遺物は無かった。時期不明の土師器・須恵器細片が出土することから、本遺構の時期は古墳時代後期から古代に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

SB13（第27・104図162～165）

F1区中央で確認した。調査時にSB13の東側を下げすぎ、東側立ち上がりをプランで確認することができなかった。また、東側でSB15を確認し、掘削の順序とは逆に、SB13→SB15の順で切り合うことが判明した。これらを踏まえて報告する。SB13は立ち上がりの西側のみ遺存。南側をSB07・11、東側をSD04に切られており、全体のプランは不明であるが、方形と推定される。規模は確認部分および断面からの復元で長辺3.5m、短辺2.2m、深さ0.2m。断面で貼床状の土層を確認できたが（4層）、プランでは明確に確認することができなかった。また断面で顕著な炭層が確認でき（3層）、カマドの可能



第29図　鷺山蝉遺跡F1区SK08実測図

性が考えられる。しかし断面部分のみで、プランでは炭の広がりを確認できなかった。162は伊勢型甕口縁破片。163は伊勢型甕で、口縁欠損後平滑に削ったものと考えられる。164は受部を有する須恵器杯。165は須恵器蓋。須恵器は美濃須衛Ⅲ期後半に相当する。本遺構の時期は出土遺物から7世紀後半と判断した。

SB14（第26・104図166～170）

F1区中央で確認した。Pit12・79に切られ、SB04を切る。立ち上がりの西側・南側と東側のごく一部が遺存。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、台形状に近い。規模は確認部分で長辺3.2m、短辺2.1m、深さ0.15m。166は土師器平底甕口縁破片である。167は須恵器無台杯。168・169は須恵器有台杯で、168にはヘラ記号有り。170は須恵器盤脚部。須恵器は美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB15（第28図）

F1区中央で確認した。SB13を切り、SD04、SK19に切られる。立ち上がりの北側・東側・南側の一部のみ遺存。西側はSB11に切られており全体のプランは不明だが、長方形と推定される。規模は確認部分で長辺2.4m、短辺2.0m、深さ0.1m。住居南西隅に顕著な炭の範囲が認められるが、カマドと認定するには至らなかった。実測可能な遺物は無かったが、土師器・須恵器細片が出土する。本遺構の時期は古墳時代後期から古代に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

SB16（第28・105図171～174）

F1区中央で確認した。SK16・18・19に切られる。立ち上がりの北東・南東・南西側の一部のみ遺存。北西側をSB15、東側をSD15に切られており、全体のプランは不明だが、長方形と推定される。規模は確認部分で長辺3.2m、短辺2.5m、深さ0.05m。住居の南西側でカマドを確認した（SK17）。プラン

は楕円形。規模は長辺0.7m、短辺0.5m、深さ0.1m。埋土に炭・焼土が含まれていた。171は須恵器有台杯。172は須恵器甕。173は須恵器台杯盤脚部で、特殊形状の透かしを有する。174は灰釉陶器椀で大原2号窯式期。この他実測可能遺物は無かったが、須恵器はほぼ美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当することから、本遺構の時期は9世紀初頭と判断した。

SX02（第28図）

F1区中央で確認した。立ち上がりの北西・南西側の一部のみ遺存。北側はSB16、SD15に切られ、南側は調査区外で全体のプランは不明。楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸3.0m、短軸1.8m、深さ0.1m。実測可能な遺物は無かった。土師器伊勢型甕細片・時期不明の須恵器細片が出土することから本遺構の時期は古墳時代後期から古代に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

SD15（第28・105図175・176）

F1区中央で確認した。SB16、SX02を切る。流向は北－南方向。北側および南側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.3m、幅0.65m、深さ0.4m。断面形状は逆台形状。175は灰釉陶器皿で折戸53号窯式期。176は須恵器甕もしくは鉢底部である。SB16等の遺物が混じる可能性も考えられるが、本遺構の時期は出土遺物から9世紀代～10世紀前半と判断した。

SK08（第29・105図177～180）

F1区中央で確認した。SB04・14を切る。プランは隅丸長方形。規模は確認部分で長辺2.4m、短辺1.5m、深さ0.15m。粘質の埋土であったことから土坑と判断したが、立ち上がりが垂直に近いことから住居の可能性も考えられる。177は灰釉陶器椀で大原2号窯式期。178は土師器平底甕口縁破片。179は須恵器無台杯。180は須恵器壺。181は須恵器鉢。SB04・14の遺物が混じる可能性も考えられるが、本遺構の時期は出土遺物から9世紀代～10世紀前半と判断した。

SK12（第24・105図181・182）

F1区西側で確認した。Pit70に切られ、SB12を切る。西側は調査区外のため全体のプランは不明だが、不整楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸1.7m、短軸0.9m、深さ0.3m。181は須恵器無台杯。182は鉄製品刀子。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SK19（第28・105図183）

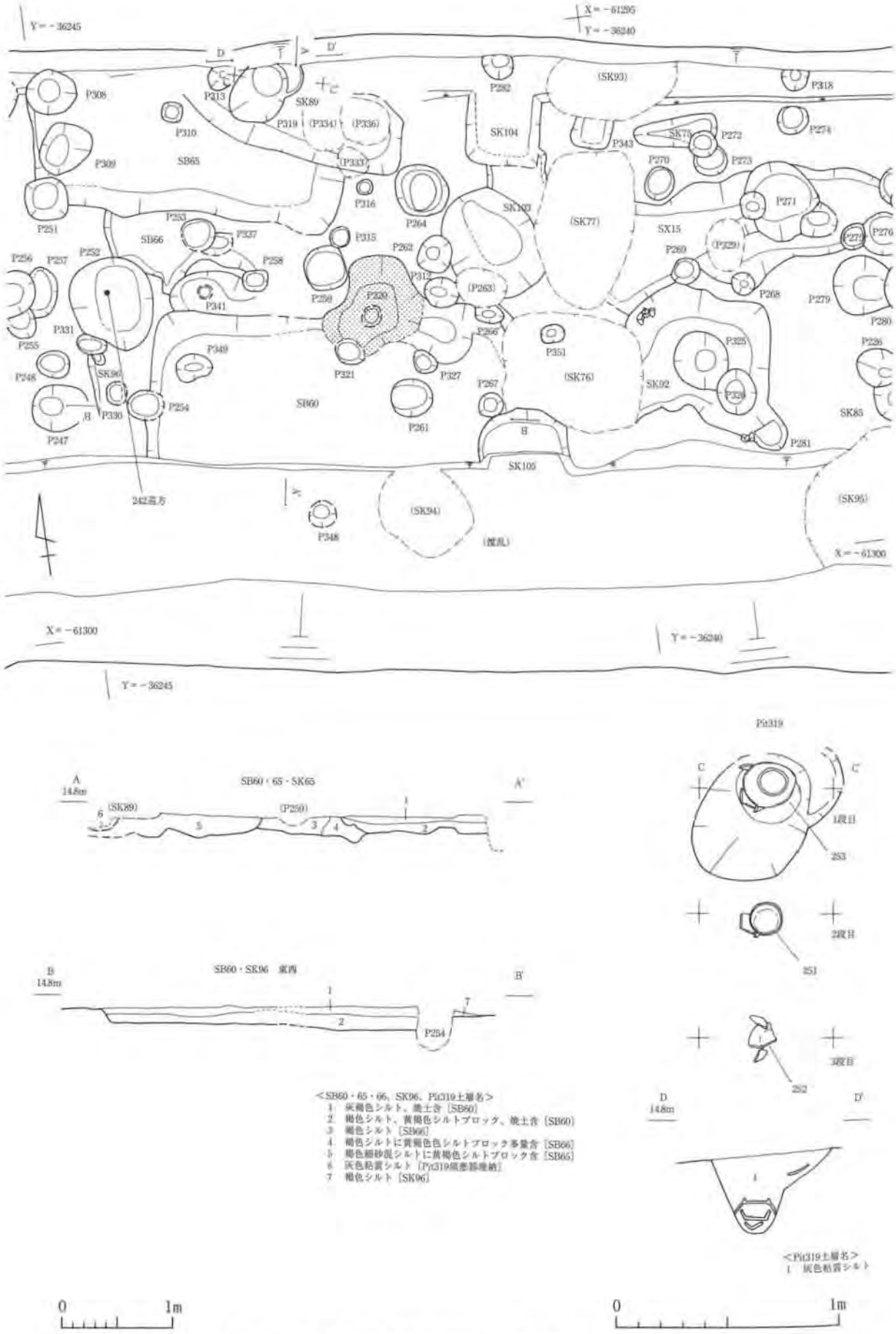
F1区中央で確認した。Pit49に切られ、SB15・16を切る。北側は調査区外のためプランは不明だが、楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸1.4m、短軸0.9m、深さ0.1m。183は底部に糸切痕を残す須恵器無台杯で、美濃須衛Ⅳ期第3小期～Ⅴ期第1小期相当。本遺構の時期は出土遺物から8世紀末～9世紀初頭と判断した。

SK23（第23・105図184）

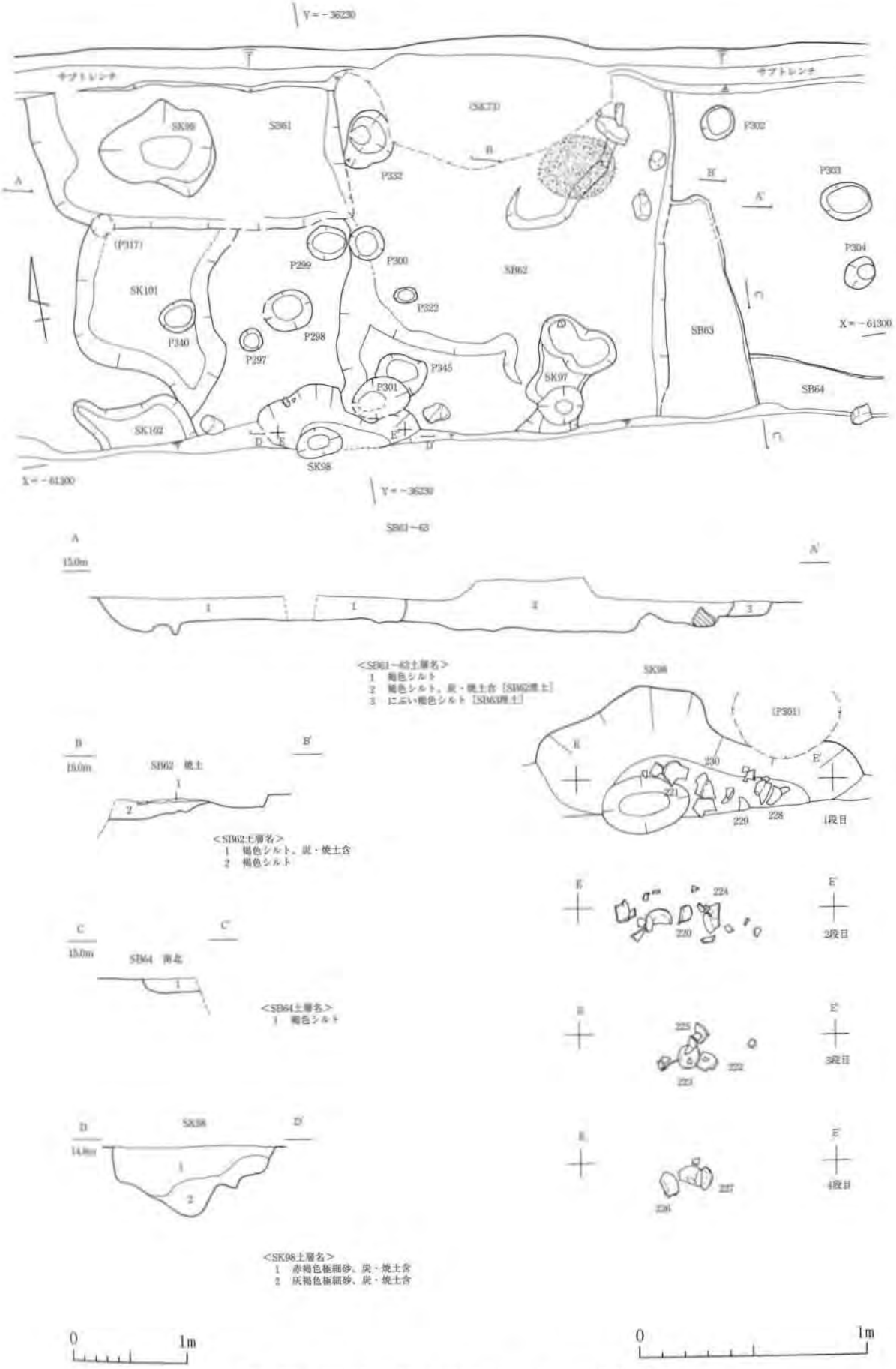
F1区西側で確認した。SB01内で検出した土坑であるが、住居に先行する遺構の可能性が高い。Pit136・137に切られる。北側はサブトレンチ、南側は調査区外のため全体のプランは不明だが、不整形と推定される。規模は確認部分で長軸2.5m、短軸0.7m、深さ0.05m。184は土師器伊勢型甕口縁部である。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代後期頃と判断した。

SK25（第25・105図185～191）

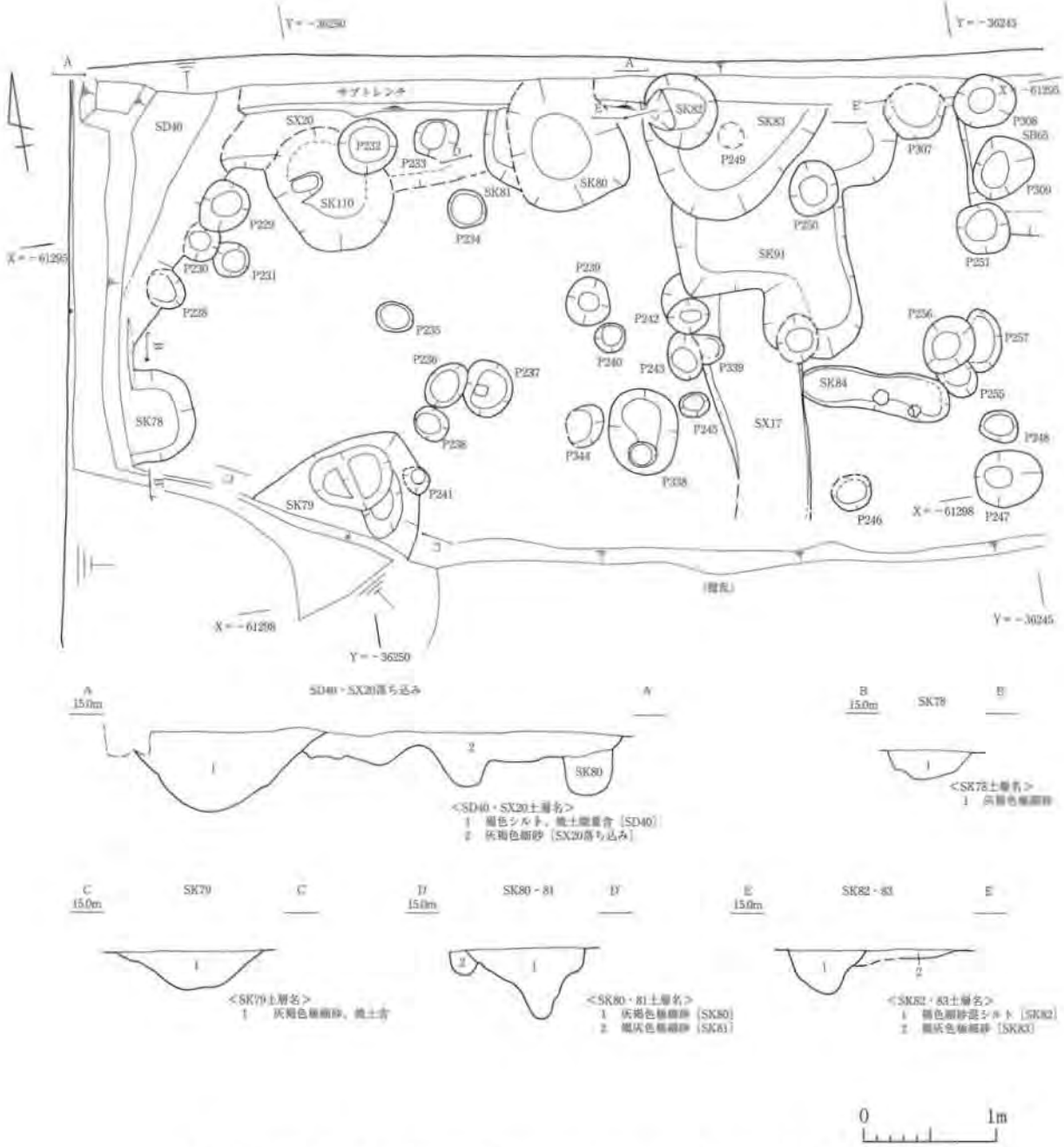
F1区中央で確認した。SB03内で検出した土坑であるが、住居に先行する遺構の可能性が高い。



第30図 鷺山蝉遺跡F2区SB60・65、Pit319実測図



第31図　鷺山蝉遺跡F2区SB61～64、SK98実測図



第32図　鷺山蝉遺跡F2区SK79～83、SD40、SX20落ち込み実測図

Pit139に切られる。プランは隅丸長方形。規模は長辺2.9m、短辺1.2m、深さ0.1m。185～190は須恵器で、185・186は無台杯。187・188は有台杯。189・190は蓋。このうち190は金属器写しの製品と考えられる。191は土師器平底甕。須恵器は美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

Pit出土遺物（第105図192～196、別添図9）

192はPit01出土の須恵器短頸壺で美濃須衛Ⅲ期後半。193はF1区中央Pit20出土の灰釉陶器で折戸53～東山72窯式期。194はF1区中央Pit59出土の須恵器杯で、北部伊勢産の可能性が考えられる。195はF1区西側Pit98出土の灰釉陶器把手付瓶で折戸53～東山72窯式期。196はF1区中央Pit140出土の須恵器平瓶把手で美濃須衛Ⅴ期第1小期。

鷲山蝉遺跡F2区

SB60（第30図）

F2区中央で確認した。SK76・105に切られ、SB66を切る。北側・西側立ち上がりの一部のみ遺存。南側は撹乱により全体のプランは不明だが、一辺3.2m以上の方形と推定される。深さは0.2m。断面で貼床状の土層を確認できるが（2層）、炭をわずかに含んでおり住居埋土の可能性が高い。住居の北側でカマドを確認した。プランは突出部も含め不整形状で、規模は長辺0.95m、短辺0.8m、深さ0.2m。埋土には炭がまばらに含まれていた。本遺構内でPit320・321・327・349を確認した。実測可能な遺物は無かった。時期不明の須恵器細片・土師器伊勢型甕細片が出土することから、本遺構の時期は古墳時代後期頃～古代に相当すると判断した。

SB65（第30・106図197～200）

F2区中央で確認した。Pit319、SK89・110に切られ、SB66を切る。立ち上がりの南側と、東側・西側のごく一部のみ遺存。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、一辺2.8m以上の方形と推定される。深さは0.2m。カマド等は確認できなかった。197は須恵器杯蓋の宝珠つまみ部分。198は須恵器杯蓋。199は須恵器無台杯で美濃須衛Ⅴ期第1小期。200は土師器伊勢型甕口縁部である。須恵器は美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB66（第30図）

F2区中央で確認した。SK96に切られる。西側の立ち上がりのごく一部のみ遺存。北側をSB65、南側をSB60に切られており、全体のプランは不明だが、一辺2.0m以上の方形と推定される。深さ0.15m。カマドは確認できなかった。本遺構内でPit341を確認した。実測可能な遺物は無かった。土師器伊勢型甕細片が出土することから、本遺構の時期は古墳時代後期頃と判断した。

SB61（第31図）

F2区東側で確認した。立ち上がり南側、西側の一部のみ遺存。北側は調査区外で全体のプランは不明だが、一辺2.7mの方形と推定される。深さは0.2m。本遺構内でSK99を確認した。実測可能な遺物は無かった。伊勢型甕細片が出土することから本遺構の時期は古墳時代後期頃と判断した。

SB62（第31・106図201～207）

F2区東側で確認した。Pit300・301、SK73に切られる。立ち上がりの西側・東側のみ遺存。北側は調査区外、南側は撹乱により全体のプランは不明だが、長方形と推定される。規模は確認部分で長辺3.2m、短辺2.8m、深さ0.45m。住居北東側にカマドの痕跡と考えられる焼土の範囲と被熱を受けた石を確認した。カマドは原形をとどめておらず、支脚あるいは焚口等に利用された石も原位置でない可能性が高い。本遺構内でPit322・332・345、SK97を確認した。201は土製品の土錘。202・203は須恵器杯。204は大型の須恵器杯。205は須恵器椀。206は須恵器杯。207は須恵器杯蓋である。須恵器は美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB63（第31図）

F2区東側で確認した。SB64を切る。立ち上がりの北側・東側の一部のみ遺存。西側をSB62に切られ、南側は撹乱により全体のプランは不明だが、一辺3.9m以上の方形と推定される。深さは0.15m。遺構底面が平坦で立ち上がりが垂直に近いことから住居と判断した。実測可能な遺物は無かった。土師器伊勢

型甕細片が出土することから本遺構の時期は古墳時代後期頃に相当すると判断した。

SB64（第31図）

F2区東側で確認した。立ち上がり北側の一部のみ遺存。遺構底面が平坦で立ち上がりが垂直に近いことから住居と判断した。西側をSB63に切られ、東側は調査区外、南側は撹乱により全体のプランは不明だが、一辺1.2m以上の方形と推定される。深さは0.1m。実測可能な遺物は無かった。時期不明の須恵器・土師器伊勢型甕細片が出土することから本遺構の時期は古墳時代後期～古代に相当すると判断した。

SD40（第32図）

F2区西側で確認した。Pit228～230、SK78に切られる。流向は北東－南西方向。溝の両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ2.0m、幅1.0m、深さ0.6m。断面形状はU字形に近い。実測可能な遺物は出土しなかったが、美濃須衛Ⅴ期第１小期の須恵器、土師器細片が出土することから本遺構の時期は9世紀初頭に相当すると判断した。

SK78（第32・106図208～211）

F2区西側で確認した。SD40を切る。西側は調査区外のため全体のプランは不明だが、楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸残存長0.55m、短軸0.7m、深さ0.3m。208・209は美濃式2類の焼塩土器。210は須恵器杯。211は砥石で、石材は泥岩である。須恵器は美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SK79（第32・106図212）

F2区西側で確認した。P241に切られる。南側は撹乱により全体のプランは不明だが、楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸残存長0.9m、短軸1.1m、深さ0.3m。埋土に炭をわずかに含む。212は美濃式2類の焼塩土器である。この他実測可能遺物は無かった。美濃須衛Ⅴ期第1小期の須恵器が出土することから、本遺構の時期は9世紀初頭に相当すると判断した。

SK87（第106図213、別添図9）

F2区中央で確認した。南側は撹乱により全体のプランは不明だが、円形と推定される。規模は直径0.75m、深さ0.45m。213は須恵器杯で、美濃須衛Ⅴ期第1小期。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SK89（第106図214、別添図9）

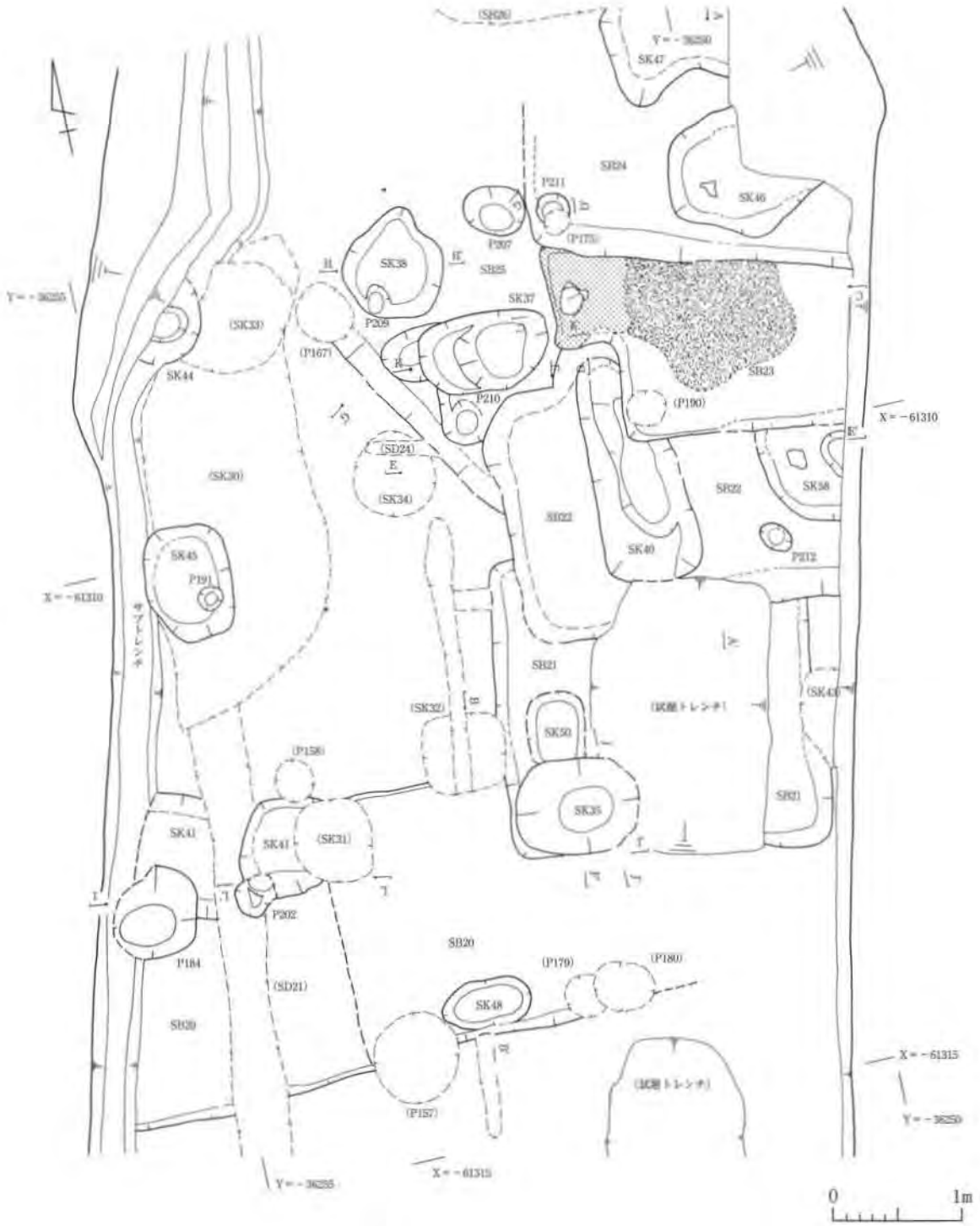
F2区中央で確認した。P319・SB65を切る。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、不整長方形状と推定される。規模は確認部分で東西2.0m、南北0.8m、深さ0.15m。214は灰釉陶器虎渓山1号窯式期の皿。本遺構の時期は出土遺物から10世紀後半頃と判断した。

SK90（第106図215、別添図9）

F2区中央で確認した。Pit294に切られる。北側は調査区のため全体のプランは不明だが、不整楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸1.3m短軸0.9m深さ0.25m。215は須恵器蓋つまみで、美濃須衛Ⅲ期後半。本遺構の時期は出土遺物から7世紀後半頃と判断した。

SK92（第31・106図216）

F2区中央で確認した。Pit281・325・326に切られる。西側はSK76に切られ、全体のプランは不明だ

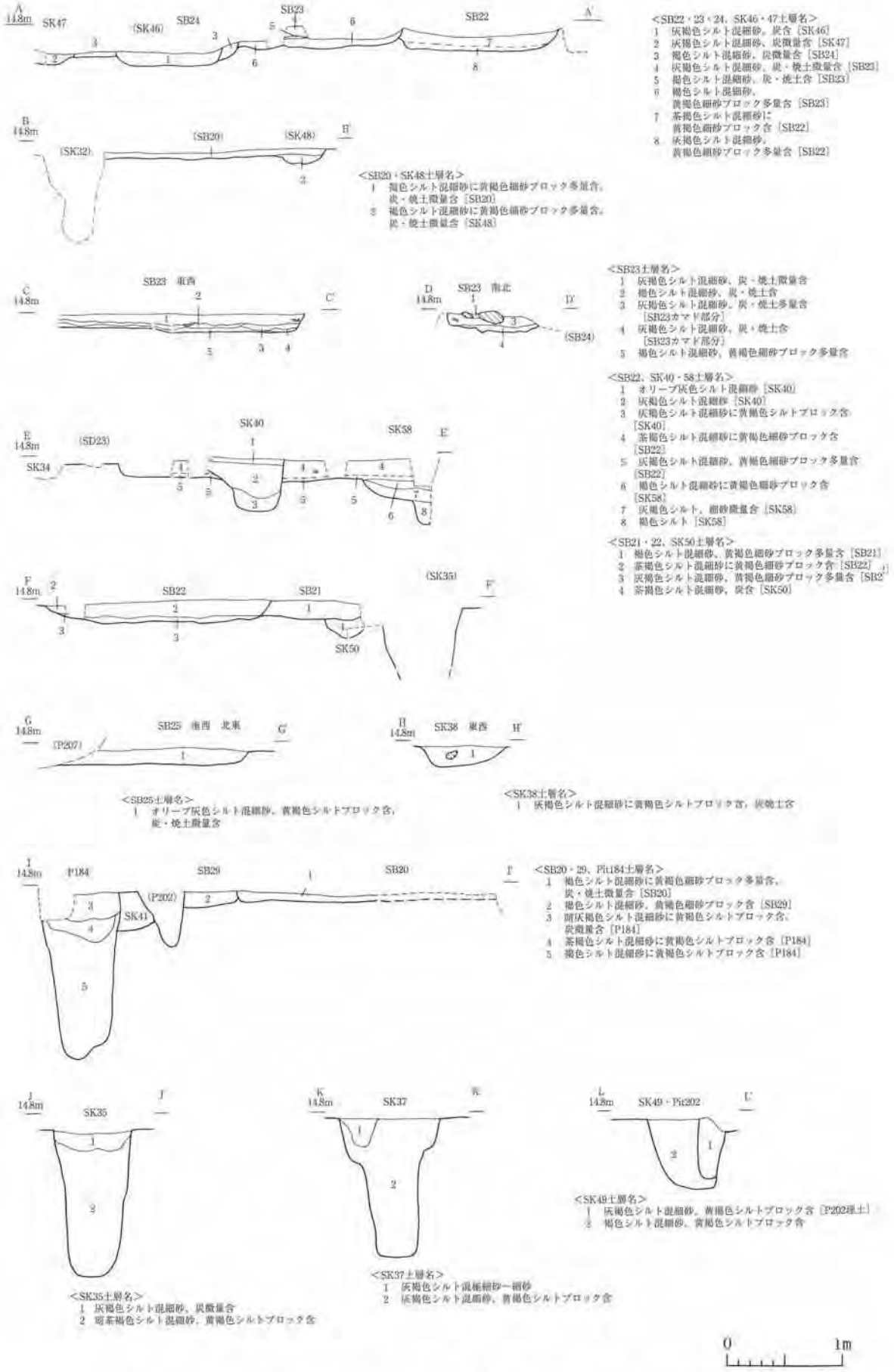


第33図　鷺山蝉遺跡F3区SB20～25・29、SK35・37・38・49平面実測図

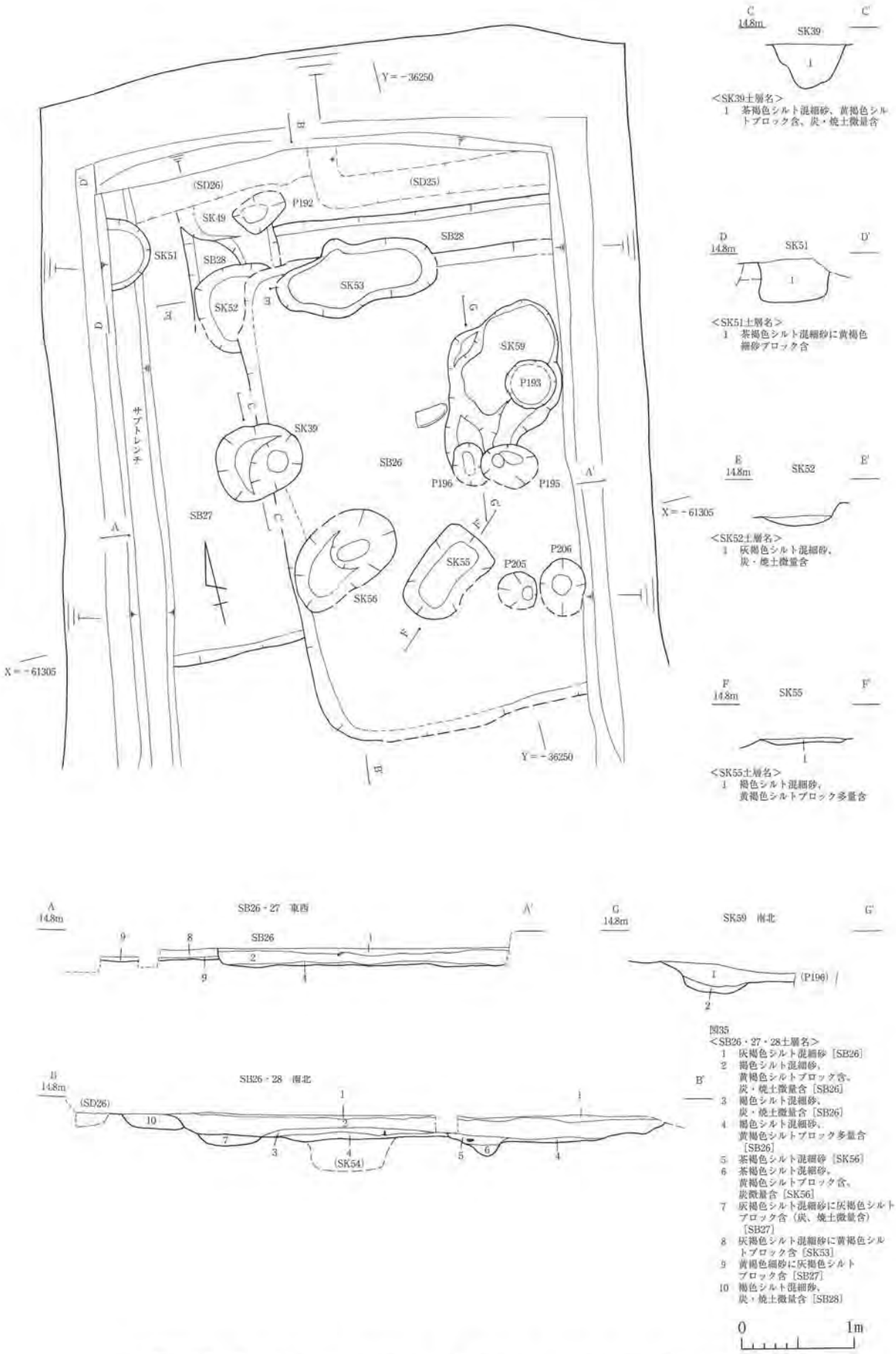
が、隅丸方形状と推定される。規模は確認部分で長辺1.3m、短辺1.2m、深さ15cm。216は灰釉陶器大原2号窯式期の椀である。本遺構の時期は出土遺物から10世紀前半頃と判断した。

SK95（別添図9）

F2区中央で確認した。南側は調査区外で、遺構上部は攪乱を受け全体のプランは不明。不整円形と推定される。規模は確認部分で東西1.6m、南北1.3m、深さ1.8m。実測可能な遺物は無かった。美濃須衛Ⅴ期第1小期相当の須恵器片が出土しており、本遺構の時期は9世紀初頭と判断した。また出土須恵器片に黒色付着物が認められ、分析結果から漆であることが判明した（詳細は第6章第4節）。



第34図　鷺山蝉遺跡F3区SB20～25・29、SK35・37・38・49断面実測図



第35図　鷲山蝉遺跡F3区SB26～28、SK39・51・52・55・59実測図

SK96（第30・106図217～220）

F2区中央で確認した。Pit252・254・330・331に切られる。東側はSB60に切られ、南側は撹乱により全体のプランは不明。規模は確認部分で長辺0.7m、短辺0.5m、深さ0.05cm。217は美濃式2類の焼塩土器。218は須恵器杯。219は須恵器短頸壺。220は土師器直口壺。須恵器はほとんどが美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SK97（別添図9）

F2区東側で確認した。プランは不整形。規模は東西0.7m、南北0.8m、深さ0.25m。実測可能な遺物は無かった。美濃須衛Ⅴ期第１小期相当の須恵器片が出土しており、本遺構の時期は9世紀初頭に相当すると判断した。また出土焼塩土器細片を分析したところ、海水種の珪藻化石が認められ、藻塩法により作られた塩の痕跡を認めることができた（詳細は第6章第4節）。

SK98（第31・106図221～232）

F2区東側で確認した。SB62を切る。南側は撹乱により全体のプランは不明だが、不整楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸1.4m、短軸残存長0.6m、深さ0.6m。本遺構内では土器が幾層も重なるように出土した。221は土師器平底甕口縁。222は土師器平底甕底部。223～229は須恵器無台杯。このうち、224・226・228には底部にヘラ記号が見られる。230は須恵器有台杯。231は須恵器盤。232は土師器伊勢型甕である。須恵器は美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SK103（第107図233～235）

F2区中央で確認した。SK77・104に切られる。全体のプランは不明だが、不整形状と推定される。233はやや薄手の焼塩土器で、美濃式1類に相当か。234・235は須恵器杯蓋。須恵器は美濃須衛Ⅲ期後半に相当する。本遺構の時期は出土遺物から7世紀後半頃と判断した。

SK105（第30・107図236）

F2区中央で確認した。SK76、SB60を切る。南側は撹乱のため全体のプランは不明だが、円形と推定される。規模は確認部分で直径0.85m、深さ0.3m。236は須恵器有台杯で美濃須衛Ⅴ期第1小期。本遺構の時期は出土遺物から９世紀初頭と判断した。

SX20落ち込み（第32図）

F2区西側で確認した。北壁断面では東側の立ち上がりを確認できるが、プランでは確認できなかった。SK80・81を切る。西側はSD40に切られる。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、方形状と推定される。規模は確認部分で長辺2.0m、短辺1.0m、深さ0.25m。埋土中に炭をわずかに含み、プランから住居の可能性も考えられるが、遺構底面に凹凸が見られることから落ち込みと判断した。実測可能な遺物は無かった。美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する須恵器細片・土師器細片が出土することから本遺構の時期は9世紀初頭と判断した。

SX15落ち込み（第30・107図237）

F2区中央で確認した。SK92に切られる。西側はSK77に切られ、全体のプランは不明だが、不整形と推定される。規模は確認部分で長辺2.4m、短辺1.0m、深さ0.2m。237は須恵器杯蓋宝珠つまみで、美濃須衛Ⅳ期第1小期。本遺構の時期は出土遺物から８世紀初頭と判断した。

SX18落ち込み（第107図238、別添図９）

F2区東側で確認した。全体のプランは不明だが、不整形と推定される。238は須恵器杯蓋で美濃須衛Ⅲ期後半後半。本遺構の時期は出土遺物から7世紀後半と判断した。

Pit252（第30・107図242・243）

F2区中央で確認した。遺構検出の際、銅製品がほぼ完全な状態で出土した。出土地点の精査を行ったところ、直下で本遺構を確認した。プランは楕円形で、規模は長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.4m。242は銅製品の巡方である。縦3.3cm、横3.7cm高さ６mm。布や金属等の装飾をぶら下げる長方形の孔が下部に存在する。孔は縦3mm、横2.3cm。裏面には革帯に固定するための鋲足が６カ所存在する。この巡方は鋳造により制作されたもので、孔、鋲足ともに最初から鋳出されたと考えられる。なお表面には遺存状態は良くないが黒漆が塗布されていた（図中トーン範囲、詳細は第６章第３節参照）。243は美濃式2類の焼塩土器である。この他実測可能遺物は無かった。美濃須衛Ⅴ期第1小期相当の須恵器細片が出土することから、本遺構の時期は9世紀初頭に相当すると判断した。

Pit319（第30・107図248～254）

Ｆ２区中央で確認した。北側の一部は調査区外であるが、プランは双円形と推定される。規模は確認部分で長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.35m。埋土を除去すると、１段目に須恵器有台杯（253）が口縁を下方に向けた倒立状態で出土した。１段目の須恵器の中には、２段目に須恵器有台杯（251）が口縁を上方に向け正位で埋納されていた。251の須恵器には泥状の内容物が含まれていた。この内容物の分析を行ったが、内容物は不明であった。埋納須恵器のさらに下、３段目に割れた状態で須恵器無台杯が出土した（252）。この須恵器の体部には墨書が存在する。248は須恵器杯、249・250は須恵器有台杯である。251須恵器有台杯で、２段目の容器として利用されたものである。252は3段目の須恵器無台杯で、体部に墨書が存在する。墨書は３文字で「長 厘（重カ） 郎」と判読できた。253は須恵器有台杯で、１段目の蓋として利用されたものである。254は美濃式2類の焼塩土器である。須恵器は美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

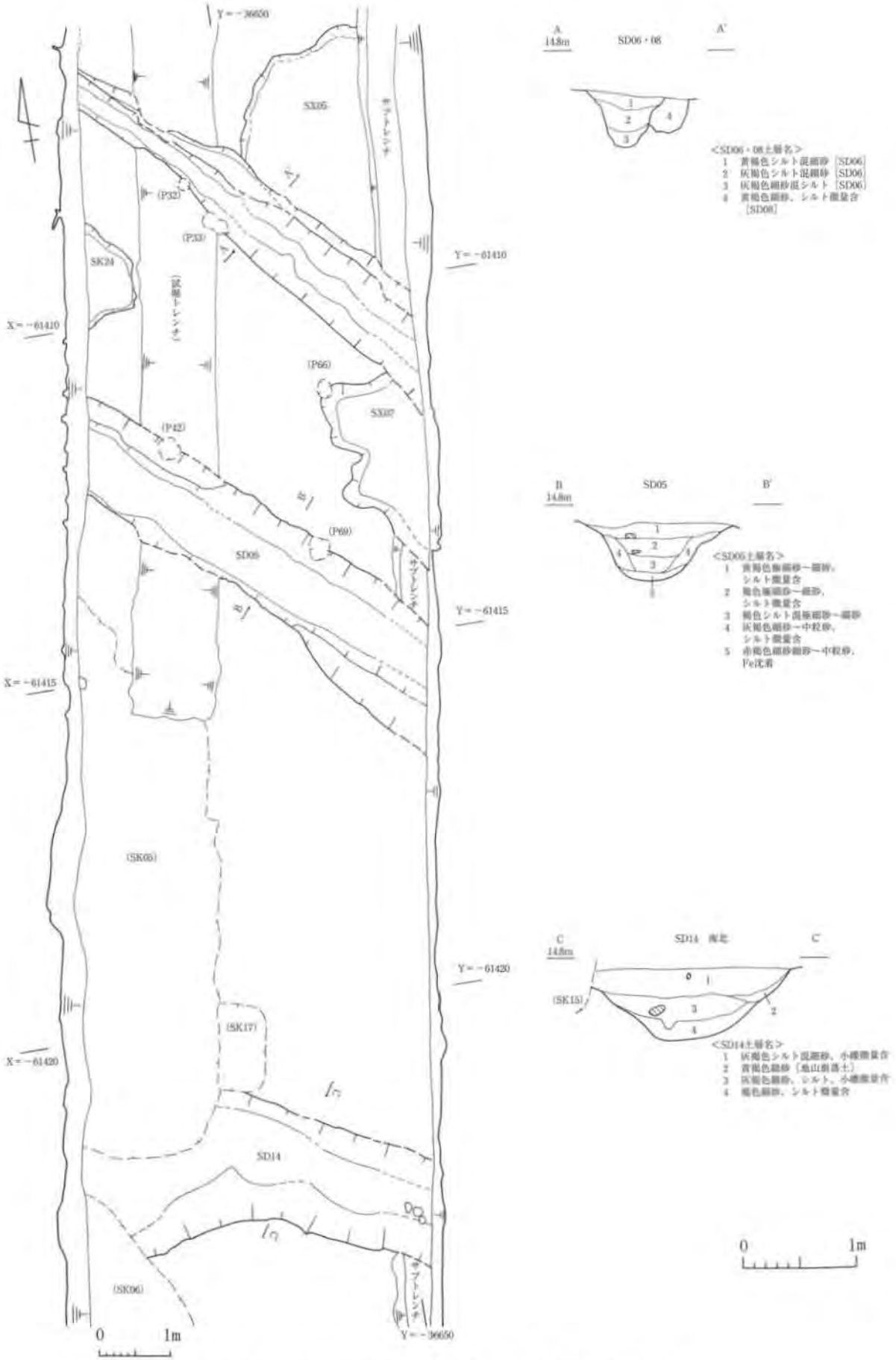
Pit出土遺物（第107図239・240・244～247、別添図９）

239はF2区西側Pit247出土の須恵器有台杯、240はF2区西側Pit248出土の須恵器杯蓋で、いずれも美濃須衛Ⅴ期第1小期。241はF2区中央Pit251出土の灰釉陶器椀で黒笹90号窯式期。244はF2区中央Pit259出土の砥石で、石材は泥岩もしくはホルンフェルス。245はF2区Pit264出土の須恵器有台杯、246・247はF2区中央Pit279出土の須恵器高杯と須恵器把手付杯の把手で、いずれも美濃須衛Ⅴ期第1小期。

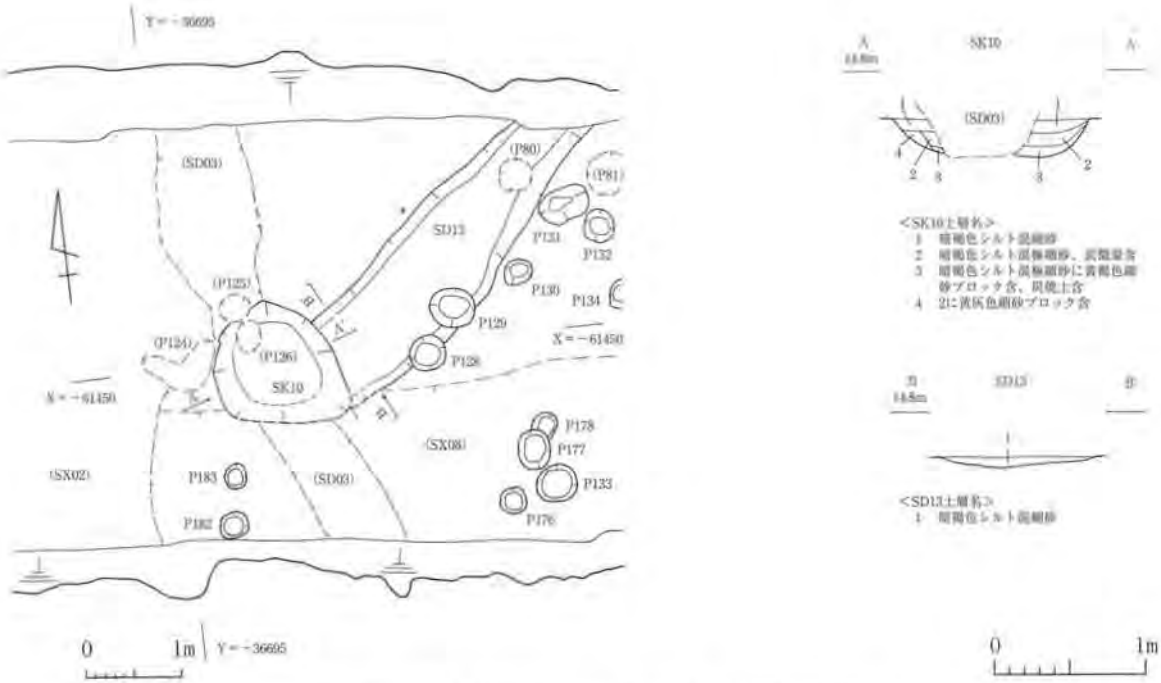
鷲山蝉遺跡F3区

SB20・SK48（第33・107図255）

F3区中央で確認した。SK31・32に切られる。SB20は西側の立ち上がりがプランで明確に検出されず、断面のみの確認となった。北側・南側の立ち上がりが遺存。東側はSB21と試掘トレンチに切られて全体のプランは不明だが、長方形と推定される。規模は確認部分で長辺2.0m、短辺1.6m、深さ0.08m。本遺構内でSK48を確認した。埋土に炭を含み、カマドの可能性が考えられる。プランは楕円形状。規模は長辺1.2m、短辺60cm、深さ0.1m。255は伊勢型甕口縁破片である。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代後期頃と判断した。



第36図　鷲山仙道遺跡A1区SD05・06・08・14実測図



第37図　鷺山仙道遺跡A2区SK10、SD13実測図

SB21・SK50（第33・34・107図256）

F3区中央で確認した。SK32・35・43に切られ、SB20を切る。立ち上がり西側・南側のみ遺存。北側はSB22に切られ全体のプランは不明だが、一辺2.5m以上の方形と推定される。深さは0.15m。本遺構内でSK50を確認した。SK50は埋土に炭を含み、カマドの可能性が考えられる。SK35に切られるが、プランは楕円形状と推定される。規模は確認部分で長辺0.9m、短辺0.8m、深さ0.05cm。256は須恵器杯蓋破片である。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB22（第33・34・107図257）

F3区中央で確認した。SK40に切られ、SB21・25を切る。立ち上がり西側・南側の一部が遺存。東側は調査区外で、北側はSB23、南側は試掘トレンチに切られ全体のプランは不明だが、長方形と推定される。規模は確認部分で長辺2.6m、短辺2.2m、深さ0.2m。断面で貼床状の土層を確認できるが（3層）プランでは明確に確認できなかった。本遺構内でPit212、SK58を確認した。257は須恵器有台杯で、美濃須衛Ⅴ期第1小期。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB23（第33・34・107図258～261）

F3区中央で確認した。Pit190に切られ、SK40、SB22・25を切る。南側・西側の立ち上がりの一部が遺存。東側は調査区外、北側をSB24に切られ全体のプランは不明だが、一辺2.4m以上の方形と推定される。短辺1.5m、深さ15cm。断面で貼床状の土層を確認できるが（5層）プランでは明確に確認できなかった。住居の西側でカマドを確認した。プランは西側突出部も含め隅丸方形状、規模は確認部分で長辺1.1cm、短辺0.9cm、深さ0.2m。カマド中央で被熱を受けた石を確認できた。支脚あるいは焚口に利用された可能性が考えられるが、原位置を保っていないと判断した。埋土は3・4層に焼土・炭を多量に含み、カマド周辺で炭の広がりを確認できた。258は須恵器有台杯。259は須恵器盤。260は須恵器甕口縁。261は須恵器甕頸部片である。須恵器はほとんどが美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の

時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB24（第33・34・108図262）

F3区中央で確認した。Pit172に切られ、SB23を切る。南側・西側立ち上がりのごく一部のみ遺存。東側は調査区外、北側は撹乱により全体のプランは不明だが、方形と推定される。規模は確認部分で長辺2.5m、短辺0.5m、深さ0.1m。本遺構内でPit211、SK46・47を確認した。262は須恵器甕で美濃須衛Ⅴ期第1小期。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB25（第33・34・108図263）

F3区中央で確認した。Pit167、SK37に切られる。南東側立ち上がり部分のみ遺存。北側は撹乱により、東側はSB22～24に切られ全体のプランは不明だが、方形と推定される。規模は確認部分で長辺2.0m、短辺1.65m、深さ0.15m。本遺構内でSK38、Pit207・209・210を確認した。263は須恵器甕で美濃須衛Ⅴ期第1小期。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB29（第33・34・108図264）

F3区中央で確認した。SK31・41・49に切られる。南側立ち上がりの一部のみ遺存。西側は調査区外、東側はSB20に切られ全体のプランは不明だが、一辺1.9m以上の方形と推定される。深さは0.15m。264は伊勢型甕口縁破片である。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代後期頃と判断した。

SB26（第35・108図265～268）

F3区北側で確認した。SK39に切られる。立ち上がりの北側と西側、南側のごく一部のみ遺存。南側は撹乱、東側は調査区外により全体のプランは不明だが、一辺4.4m以上の方形と推定される。深さ0.2m。断面で貼床状の土層を確認できるが（3・4層）、プランでは明確に確認できなかった。本遺構内でPit193・195・196・205・206、SK53・55・56・59を確認した。265は美濃式2類の焼塩土器。266は須恵器蓋。267は須恵器鉢。268は須恵器甕。須恵器はほぼ美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SB27（第35・108図269）

F3区北側で確認した。SK39・SK51に切られる。立ち上がりの南側のみ遺存。西側および北側は調査区外、東側はSB26に切られ全体のプランは不明だが、一辺4.3m以上の方形と推定される。深さは0.1m。断面で貼床状の土層を確認できるが（9層）、プランでは明確に確認できなかった。269は受部を有する須恵器杯で美濃須衛Ⅲ期後半。本遺構の時期は出土遺物から7世紀後半と判断した。

SB28（第35・108図270）

F3区北側で確認した。SK49・52に切られる。SB27検出時に切り合いを確認したが、東側は立ち上がりを確認できなかった。立ち上がりの北側と西側の一部のみ遺存。南側はSB26に切られており、全体のプランは不明だが、一辺3.2m以上の方形と推定される。深さは0.15m。本遺構にはSK53を伴う。270は伊勢型甕口縁破片である。本遺構の時期は出土遺物から古墳時代後期頃と判断した。

SK35（第33・34・108図271～273）

F3区中央で確認した。SB21を切る。東側は試掘トレンチに切られるがプランは楕円形と推定される。規模は長軸0.95m、短軸0.75m、深さ1.25m。271は須恵器瓶類の脚。272は土師器伊勢型甕口縁。273は須恵器杯蓋。須恵器は美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当するが、SB21を切ることから本遺構の時期は9世紀初

頭、あるいはそれ以降に下る可能性が考えられる。

SK37（第33・34・108図274・275）

F3区中央で確認した。SB25を切る。プランは楕円形。規模は長軸1.0m、短軸0.6m、深さ1.2m。274は須恵器甑の底部。275は須恵器高杯杯部。先述のSK35と同規模であり、2つで柱穴列となる可能性も考えられる。須恵器は美濃須衛Ⅲ期後半に相当するが、SB25を切ることから本遺構の時期は7世紀後半かそれ以降、あるいはSK35と同時期ならば9世紀初頭以降に下る可能性も考えられる。

SK40（第33・34・108図276～278）

F3区中央で確認した。SB22を切り、SB23に切られる。プランは隅丸長方形に近い。規模は長軸1.8m、短軸0.7m、深さ0.45m。276は須恵器無台杯。277は須恵器無台杯で、体部に墨書があり「四」と判読できる。278は土師器平底甕。須恵器は美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SK46（第33・34・108図279）

F3区中央で確認した。SB24を切る。東側は調査区外のため全体のプランは不明だが、不整楕円形と推定される。規模は確認部分で長辺1.2m、短辺1.0m、深さ0.1m。279は須恵器高杯脚部である。須恵器は美濃須衛Ⅴ期第1小期に相当する。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

SK49（第33・34・108図280・281）

F3区中央で確認した。SB28を切る。北側はSD26に切られ全体のプランは不明だが、不整形と推定される。規模は確認部分で長軸0.75m、短軸0.6m、深さ0.2m。280は受部を有する須恵器杯、281は須恵器杯蓋で、いずれも美濃須衛Ⅲ期後半に相当する。本遺構の時期は出土遺物から7世紀後半と判断した。

SK56（第35・108図282～285）

F3区北側で確認した。SB26内で検出した。プランは楕円形。規模は長軸1.1m、短軸0.7m、深さ0.2m。282は美濃式2類の焼塩土器。283・284は土師器平底甕。285は須恵器杯蓋で美濃須衛Ⅴ期第1小期。本遺構の時期は出土遺物から9世紀初頭と判断した。

Pit出土遺物（第33・35・108図286・287、第9図）

286はF3区北側Pit192出土の鉄製品刀子。287はF3区中央Pit207出土の須恵器甕口縁で美濃須衛Ⅲ期後半。

鷲山仙道遺跡A区

SD05（第36図）

A1区北側で確認した。流向は北西－南東方向。両側は調査区外で全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.6m、幅1.3m、深さ0.55m。断面形状は逆台形状。実測可能な遺物は無かった。土師器細片が出土することから古墳時代前期～古代に相当すると考えられるが、詳細な時期は不明である。

SD06・08（第36・108図291）

A1区北側で確認した。SD08がSD06を切る。ともに流向は北西－南東方向。両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模はSD06が確認部分で長さ6.3m、残存幅0.2m、深さ0.3m。SD08が確認部分で長さ6.4m、幅0.95m、深さ0.45m。断面形状はSD06が両側に段を持つU字形、SD08はU字形。291は剥片で、石材はチャート。この他実測可能な遺物は無かった。土師器細片が出土することから本遺構の時期は古

墳時代前期～古代に相当すると考えられるが、詳細な時期は不明である。

SD14（第36・108図288～290）

A1区中央で確認した。古墳時代前期のSD23を切り、SK05・17に切られる。流向は一部屈折するがほぼ西北西－東南東方向。両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.2m、幅1.7m、深さ0.65m。断面形状は皿状。288は須恵器高杯。289は受口状壺口縁。290は土師器器台。須恵器は美濃須衛Ⅲ期後半に相当する。本遺構の時期は出土遺物から7世紀後半と判断した。

SK10（第37図）

A2区西側で確認した。SD03・SX08に切られる。プランは不整楕円形状。規模は長軸1.6m、短軸1.2m、深さ0.25m。実測可能な遺物は無かった。土師器伊勢型甕細片が出土することから、本遺構の時期は古墳時代後期頃に相当すると判断した。

SD13（第37図）

A2区西側で確認した。南側はSK10・SX08に切られ、北側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ3.2m、幅1.2m、深さ0.1m。実測可能な遺物は無かった。土師器伊勢型甕細片、須恵器細片が出土することから、本遺構の時期は古墳時代後期に相当すると判断した。

第3節　3期（鎌倉時代～室町時代）の遺構と遺物

3期の遺構は調査区域全体で、特に微高地上で確認できた。主にⅦ層（縄文時代～古墳時代遺物包含層）上面、Ⅴ層（鎌倉時代～室町時代遺物包含層）上面で遺構を検出した。

鷺山蝉遺跡A区

SK10（第109図292、別添図1）

A2区中央で確認した。試掘トレンチにより全体のプランは不明だが、長方形と推定される。規模は確認部分で長辺2.6m、短辺1.9m、深さ0.15m。292は瓦質土器羽釜の口縁破片である。

SK21（第109図293、別添図1）

A2区中央で確認した。プランは不整楕円形。規模は長軸1.05m、短軸0.95m、深さ0.25m。293は山茶碗底部破片である。

鷺山蝉遺跡B区

SD11（第38図）

B1区北側から中央で確認した。後述するSD12とほぼ並行の位置関係で、流向は東北東－西南西方向。SK02に切られ、SK10・SD14を切る。規模は確認部分で長さ6.0m、幅1.0m、深さ0.35m。断面形状はほぼU字形である。実測可能な遺物は出土しなかったが、北部系山茶碗・土師器皿M類細片等が出土することから本時期に相当すると判断した。

SD12（第38図）

B1区北側から中央で確認した。先述のSD11とほぼ並行の位置関係で、流向は東北東－西南西方向。SK09・13・14に切られ、SD14を切る。規模は確認部分で長さ5.6m、幅4.3m、深さ0.55m。断面形状は皿状を呈する。実測可能な遺物は出土しなかったが、北部系山茶碗・土師器皿M類細片が出土するこ

とから本時期に相当すると判断した。

SD14（第38図）

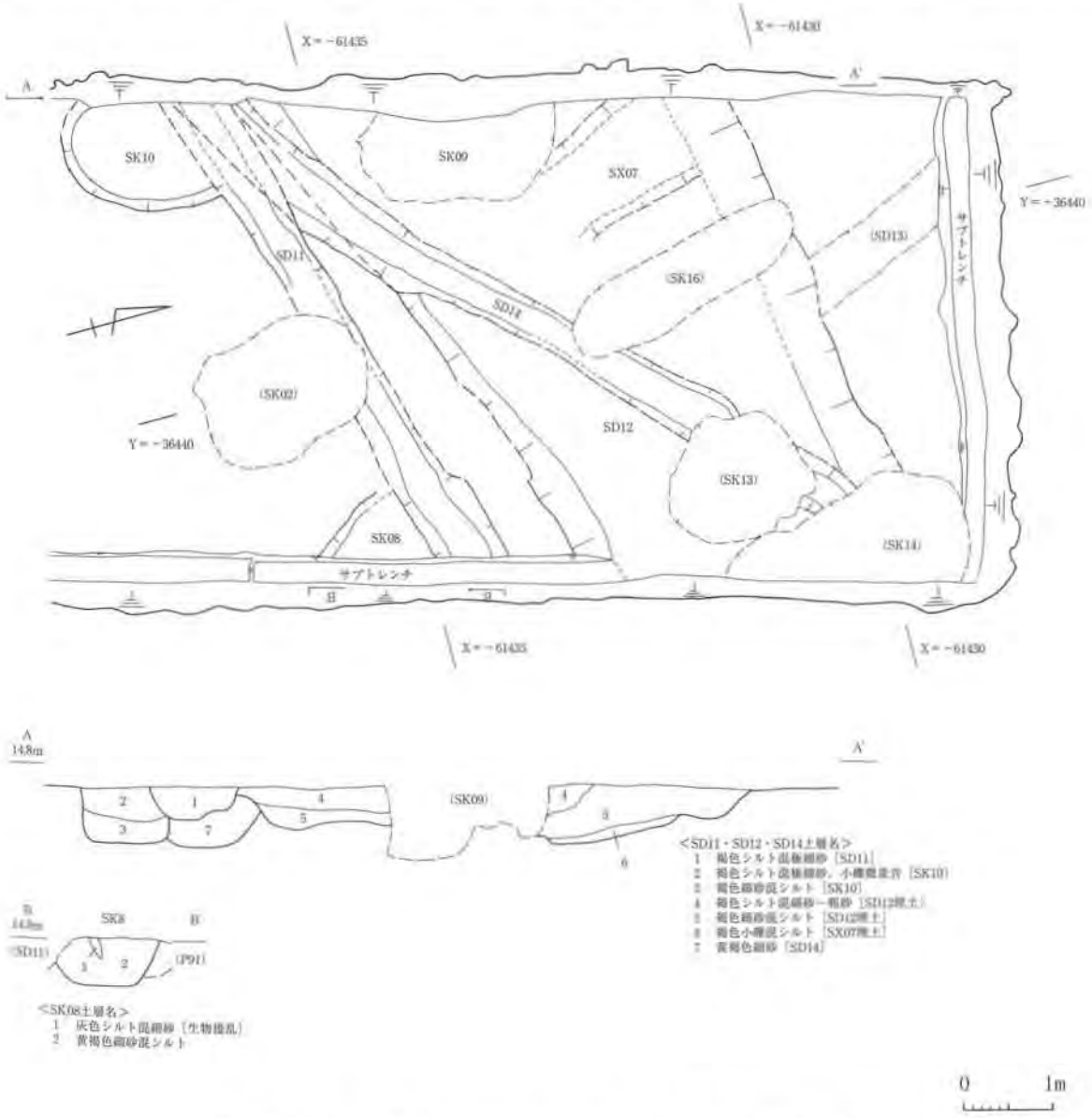
B1区北側から中央で確認した。流向は北東－南西方向。SK10・13・14・16、SD11・12に切られる。規模は確認部分で長さ8.4m、幅0.45m、深さ0.65m。断面形状は台形状を呈する。実測可能な遺物は出土しなかったが、北部系山茶碗細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SK08（第38図）

B1区北側で確認した。北側はSD11に切られ、Pit94を切る。東側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で東西0.8m、南北1.3m、深さ0.55m。実測可能な遺物は出土しなかったが、北部系山茶碗細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SK10（第38図）

B1区中央で確認した。SD11に切られ、SD14を切る。西側は調査区外のため全体のプランは不明だが、楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸1.5m、短軸1.2m、深さ0.6m。実測可能な遺物は出土しな



第38図　鷺山蝉遺跡B1区SD11・12・14、SK08・10実測図

かったが、北部系山茶碗細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SD01（第39・109図294～340）

B2区中央から南側で確認した。プランはL字状を呈する溝である。流向は主に北－南方向がメインで、調査区北側で真東へ折れる。溝は調査区外へ伸びることから、プランがT字状になる可能性も考えられる。規模は南北方向が確認部分で長さ22m、最大幅6.4m、深さ0.8m。東西方向は確認部分で長さ5.5m、幅6.0m、深さ0.6m。南北方向の溝は掘り直しと考えられる複数の凹凸が溝底に存在する。また、後述するSD02を切る。埋土は下層の４～６層に泥状の堆積が認められる。上層の１～３層は礫を含む埋土で、人為的に埋め戻された可能性が高い。

294～340がSD01出土遺物で、このうち334～340がSD01北側の東西方向溝に相当する。294は中国産白磁の口禿皿、295は中国産青磁の椀、296は中国産青磁の鉢もしくは香炉破片で、体部に鳥花文が施される。297～302は南部系山茶碗の碗。301～303は南部系山茶碗の大平鉢。304～320は北部系山茶碗で、304～315、317～320は碗、316は皿。321は古瀬戸系施釉陶器の水注で山茶碗5型式併行。322は古瀬戸中Ⅰ期～Ⅱ期の卸皿。323は古瀬戸後Ⅳ期の袴腰形香炉。324～327は常滑の甕で、324は5型式古相、325は6a型式、326は6a～6b型式併行、327は5～6型式併行。328はM類の土師器皿。329は須恵器杯。330は須恵器壺。331～333はロクロ土師器。334～336は南部系山茶碗の碗。337は北部系山茶碗の碗。338は常滑の甕。339は須恵器杯蓋。340はロクロ土師器。

SD02（第39・109図341）

B2中央から南側で確認した。流向は北－南方向。SD01に切られる。規模は確認部分で長さ18.2m、幅1.2m、深さ0.55m。断面形状は逆台形状。埋土はほとんどが砂層で、洪水等で埋没した可能性が考えられる。341は灰釉陶器椀である。この他実測可能遺物は無かったが、南部系山茶碗細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SD06（第39・109図342）

B3区西側で確認した。流向は北－南で、断面形状は皿状。規模は確認部分で長さ5.0m、幅1.6m、深さ0.4m。後世に発生した地震の噴砂により埋土が切られている。342は北部系山茶碗の碗である。

SD55（第40図）

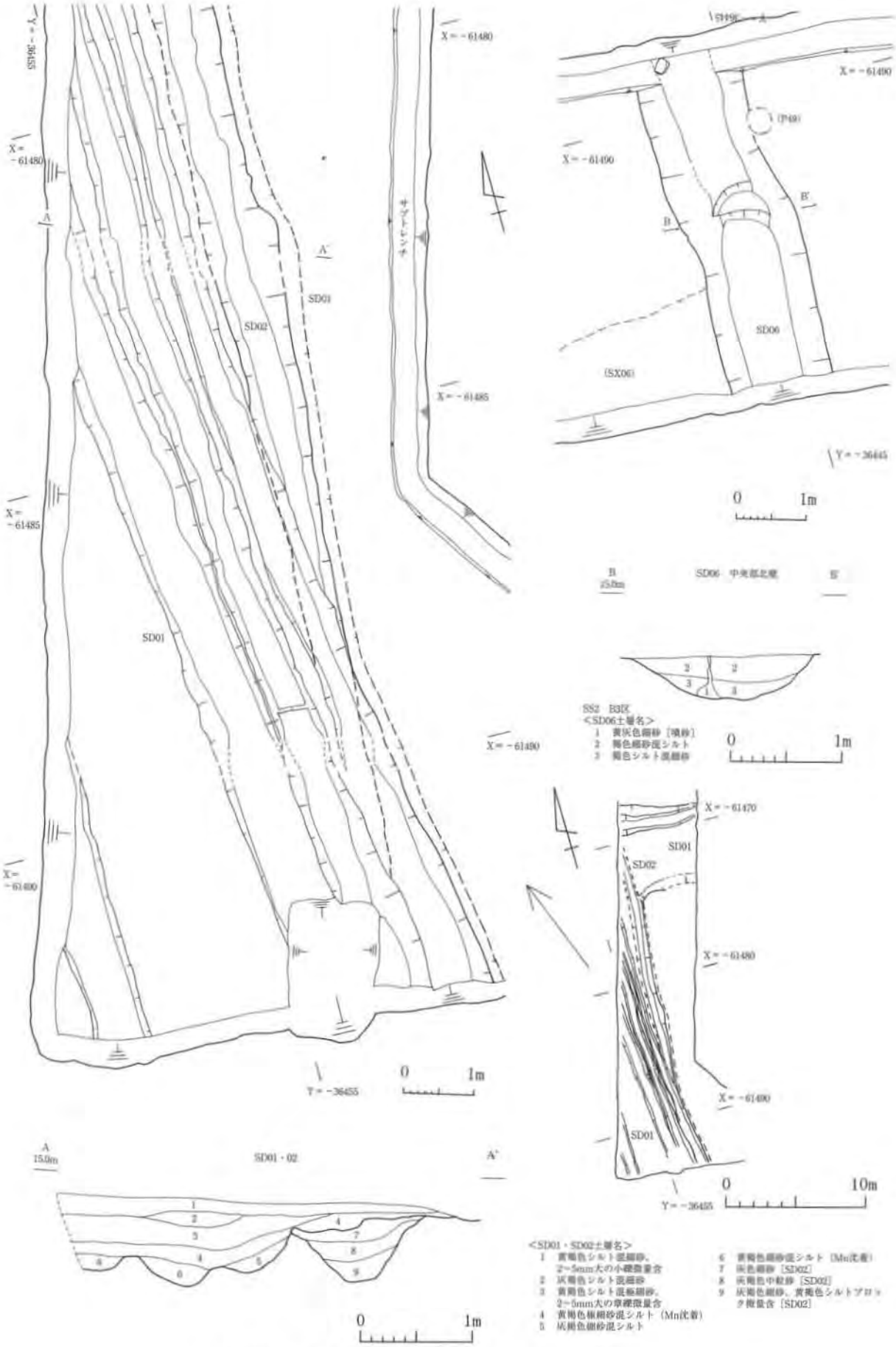
B4区南側で確認した。流向は東－西方向。西側をSD33に切られ、東側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ3.0m、幅1.5m、深さ0.35m。断面形状は皿状。埋土に炭化物が含まれており、人為的に埋め戻されたと考えられる。実測可能な遺物は出土しなかったが、南部系山茶碗細片が出土していることから本時期に相当すると判断した。

SD56（第40・110図362）

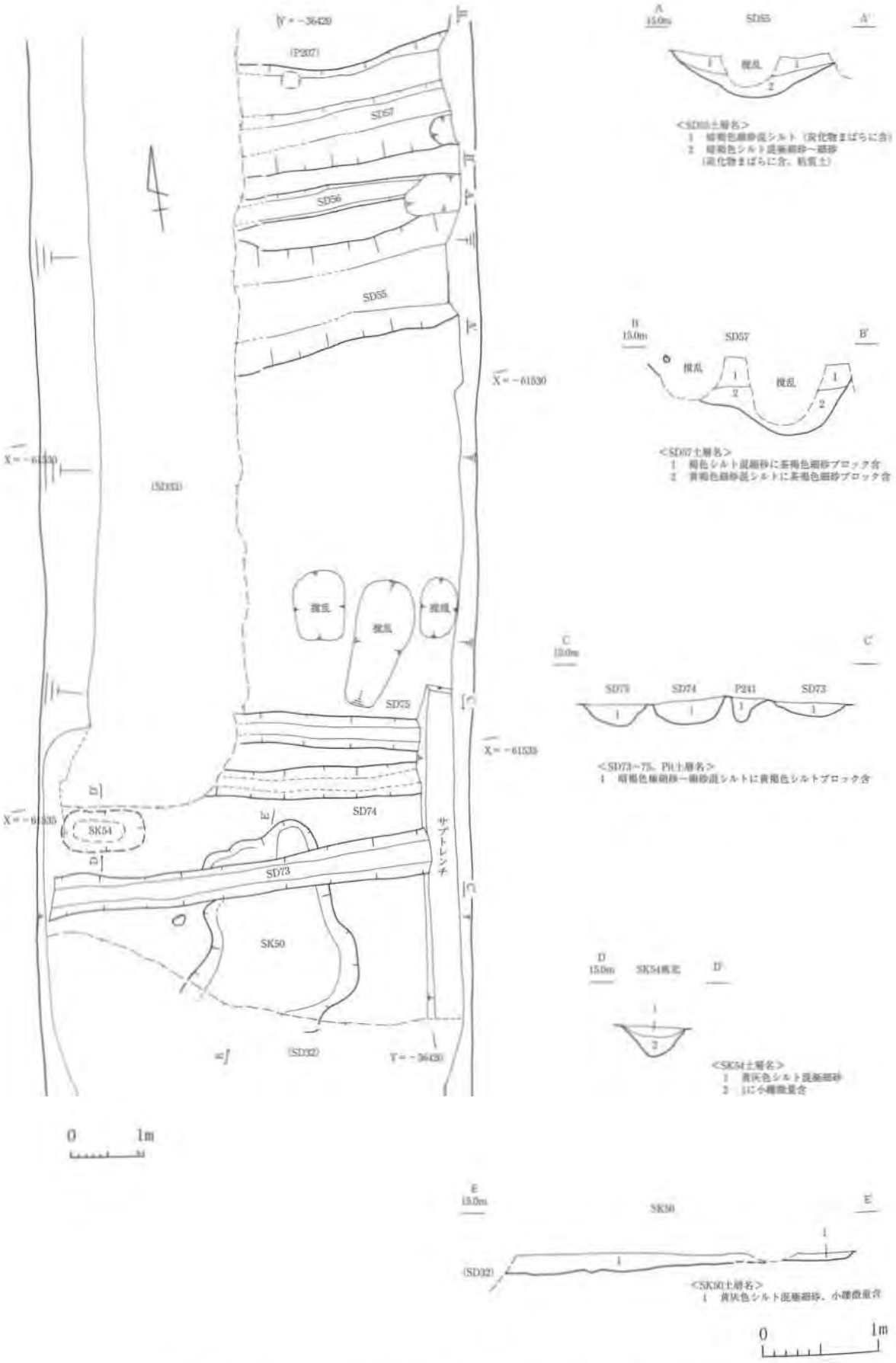
B4区南側で確認した。流向は東－西方向。西側をSD33に切られる。規模は確認部分で長さ2.6m、幅0.45m、深さ0.1m。断面形状は浅い皿状。362は古瀬戸縁釉小皿である。

SD57（第40・110図363）

B4区南側で確認した。流向は東－西方向。西側をSD33に切られ、東側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ2.95m、幅1.35m、深さ0.6m。断面形状は北側にテラスを有する。埋土にブロックが含まれており、人為的に埋め戻されたと考えられる。363は古瀬戸縁釉小皿である。



第39図　鷺山蝉遺跡B2・3区SD01・02・06実測図



第40図　鷺山蝉遺跡B4区SD55・57・73～75、SK50・54実測図

SD62（第41図）

B4区中央で確認した。流向は東－西方向。西側でSD33、Pit195に切られ、東側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ3.0m、幅0.7m、深さ0.55m。断面形状は箱掘状。実測可能な遺物は無かったが、北部系山茶碗細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SD63（第41・110図364）

B4区中央で確認した。流向は東－西方向。西側をSD33に切られ、東側は調査区外のため全体のプランは不明。364は北部系山茶碗である。

SD64（第41・110図365～367）

B4区中央で確認した。流向は東－西方向。西側でSD33、Pit194に切られ、中央でPit210・211を切る。東側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ3.3m、幅1.0m、深さ0.45m。断面形状は深い皿状。365は南部系山茶碗の大平鉢。366は北部系山茶碗。367はM類の土師器皿。

SD65（第41・110図368～372）

B4区中央で確認した。流向は東－西方向。西側はSD33に切られ、東側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ2.9m、幅1.55m、深さ0.4m。断面形状は北側の一部にテラスを持つ。368は中国産磁器の青磁碗。369・371は北部系山茶碗の碗。370は北部系山茶碗の皿。372は古瀬戸の袴腰形香炉。

SD67（第41図）

B4区中央で確認した。流向は東－西方向。西側でSD33に切られ、東側は調査区外のため全体のプランは不明。また先述のSD65にも切られる。規模は確認部分で長さ3.0m、遺存幅1.0m、深さ0.45m。断面形状は皿状。図化可能な遺物は出土しなかったが、北部系山茶碗細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SD68・69（第42・110図373～378）

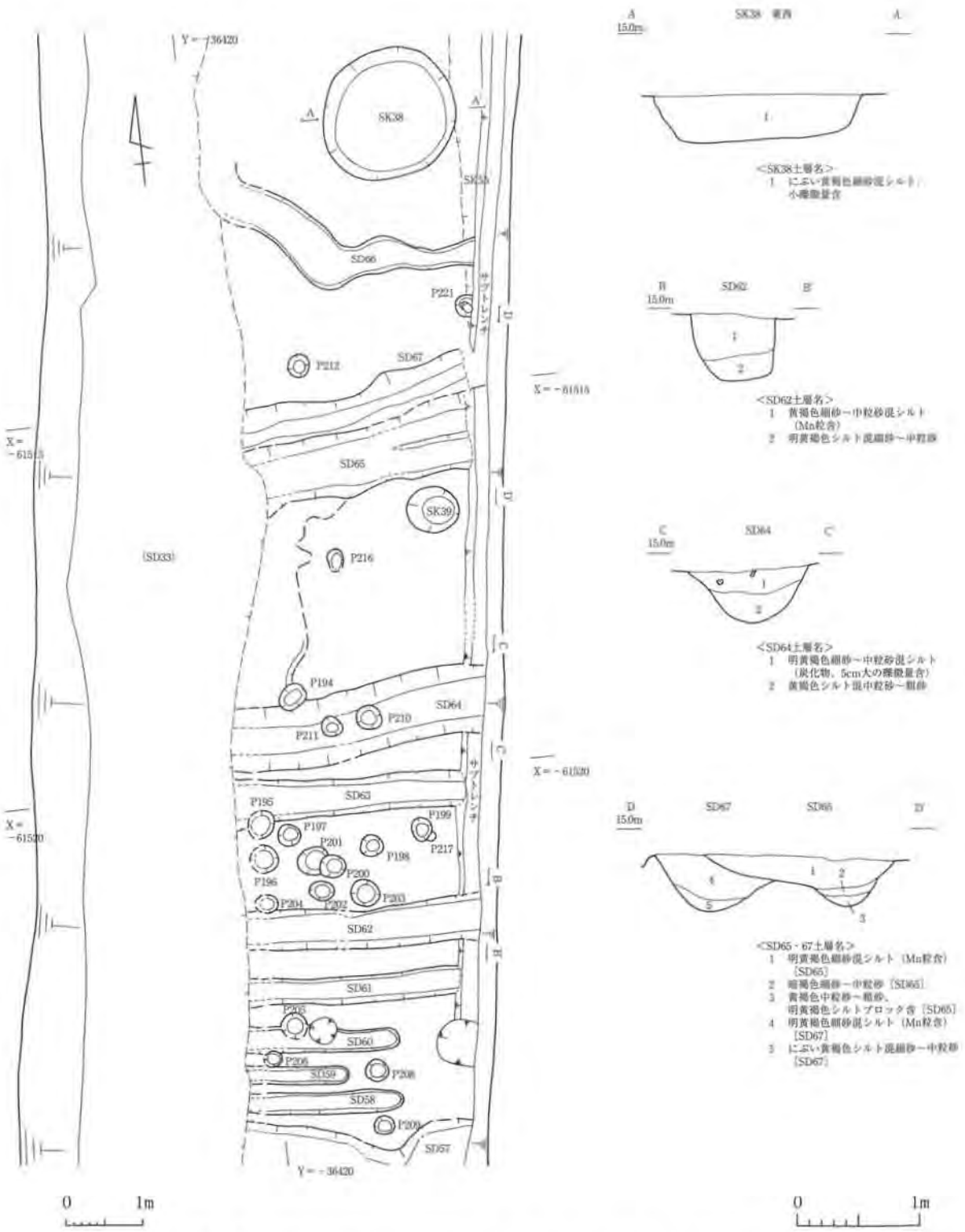
B4区北側で確認した。プランがL字状を呈する溝で、SD68が北－南、SD69が東－西方向の溝となる。SD51、SK43・44に切られる。西側はSD33に切られ、北側は調査区外のため全体のプランは不明。規模はSD68が確認部分で長さ5.5m、幅1.25m、深さ0.35m。SD69が長さ2.0m、幅0.5m、深さ0.2m。断面形状はともに皿状。373は南部系山茶碗の大平鉢。374～376は北部系山茶碗の碗。377・378は北部系山茶碗の皿で、いずれも墨書が見られるが、判読はできなかった。

SD70（第42・68・110図379～382）

B5区西端で確認した。流向は東－西方向。西側は戦国時代のSD03に切られる。東側はSD50に切られるが、それより東には伸びず行き止まると考えられる。、全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ2.6m、幅1.75m、深さ0.65m。断面形状は逆台形状。379は北部系山茶碗の碗、380は皿で、ともに同一の花押と考えられる墨書が見られる。381は北部系山茶碗の皿。382はM類の土師器皿。

SD73～75（第40図）

B4区南側で確認した。流向はいずれも東－西方向。SD74・75は西側をSD33に切られ、東側は調査区外。SD76は両側が調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分でSD73が長さ5.4m、幅0.6m、深さ10cm、SD74が長さ3.0m、幅0.6m、深さ0.2m、SD75が長さ3.0m、幅0.55m、深さ0.2m。断面形状

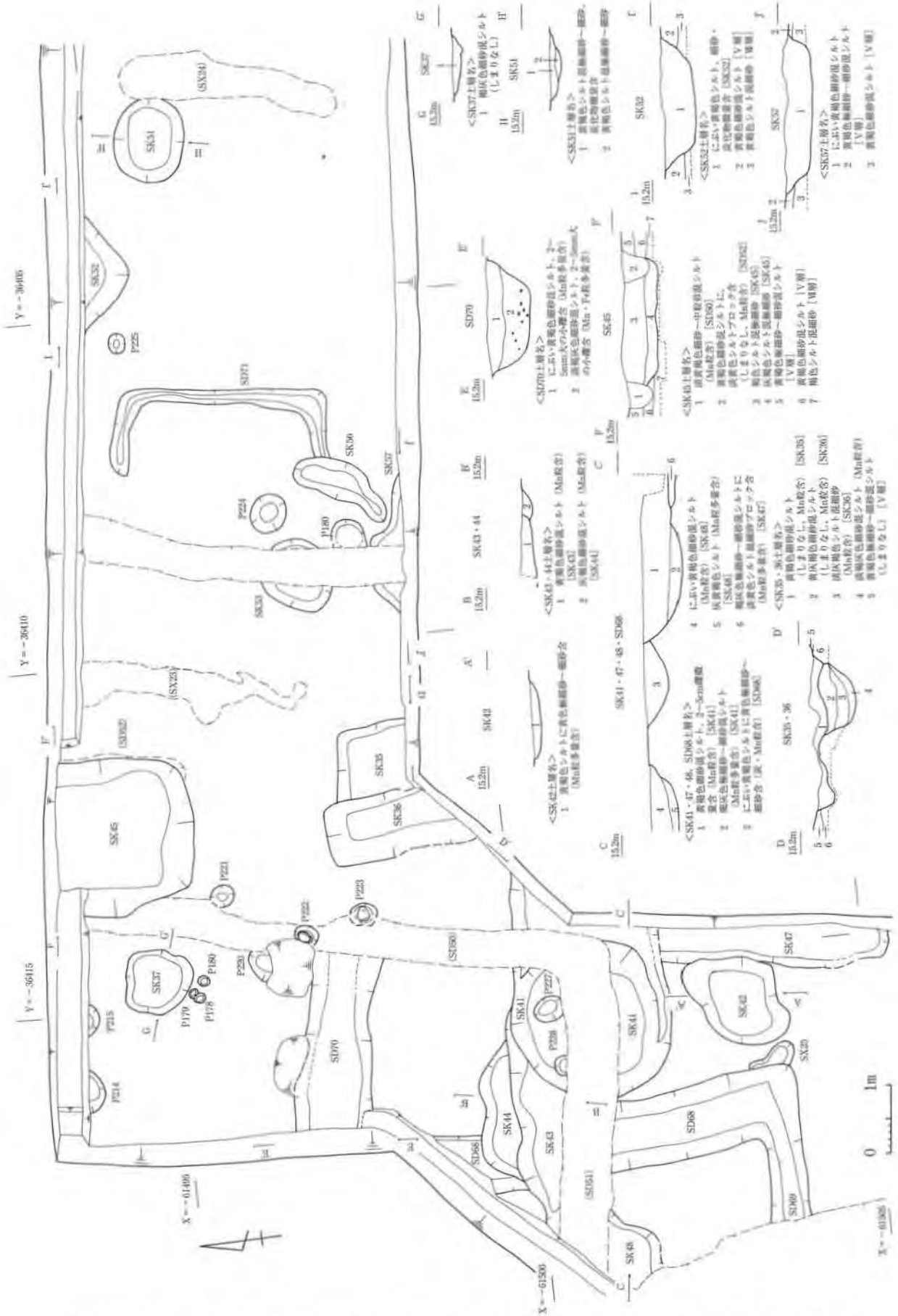


第41図　鷺山蝉遺跡B４区SK38、SD62・64・65・67実測図

はいずれも皿状。いずれの溝も埋土にブロック状の土が含まれ、人為的に埋め戻されたと考えられる。SD55・57等と埋土が似ていることから本時期に相当すると判断したが、顕著な遺物は出土しておらず詳細な時期は不明である。古代にさかのぼる可能性も考えられる。

SK35（第42・110図390～397）

B5区西側で確認した。SK36を切る。南側は調査区外のため全体のプランは不明だが、プランは方形状を呈する。規模は確認部分で長辺2.2m、短辺1.1m、深さ0.15cm。390～393は北部系山茶碗。394は古



第42図　鷺山蝉遺跡B４・5区SK35～37・41～45・47・48・51・52・57、SD68・70実測図

瀬戸縁釉小皿。395はM類の土師器皿。396は土師器内彎型羽釜。397は土製品の土錘。

SK37（第42・110図398～401）

B5区西側で確認した。プランは不整円形。規模は東西0.95m、南北1.0m、深さ0.15m。398・399は北部系山茶碗の碗。400は土師器伊勢型鍋口縁。401はM類の土師器皿。

SK38（第41図）

B4区中央で確認した。形状はほぼ円形。規模は直径1.6m、深さ0.4m。実測可能な遺物は無かったが、北部系山茶碗・土師器皿M類細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SK41（第42・110図402～405）

B4区北側で確認した。SD50・51に切られ、SK43・47を切る。東側は調査区外のため全体のプランは不明だが、不整楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸2.4m、短軸2.3m、深さ0.55m。402～404は北部系山茶碗で、それぞれ墨書が見られる。402・403の墨書は判読できなかった。404は丸に十を組み合わせた記号だが、意味は不明である。405は土師器内彎型羽釜。

SK42（第42・111図416～419）

B4区北側で確認した。SK47を切る。不整形状の土坑で、規模は長軸1.75m、短軸1.25m、深さ0.15m。416は南部系山茶碗の大平鉢。417は北部系山茶碗の皿。418・419は北部系山茶碗の碗。

SK43（第42・110図406～415）

B4区北側で確認した。SD68を切る。南側の大半をSD51、SK41に切られ、東側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長辺5.2m、短辺0.8m、深さ0.25m。406は北部系山茶碗の碗。407～409は北部系山茶碗で、それぞれ墨書が見られる。408は「一」と判読できるが、意味は不明である。407・409の墨書は判読できなかった。410・411は南部系山茶碗の大平鉢。412は土師器内彎型羽釜。413は古瀬戸擂鉢。414は常滑の広口壺。415はM類の土師器皿。

SK44（第42・111図420～422）

B4区北側で確認した。SD68を切る。南側の大半をSK43に切られるため全体のプランは不明。規模は確認部分で長辺2.1m、短辺0.4m、深さ0.15m。420は北部系山茶碗の碗、421は北部系山茶碗の皿で、それぞれ墨書が見られる。420の墨書は丸に十、421の墨書は判読できなかった。422は北部系山茶碗の碗。

SK45（第42・111図423～428）

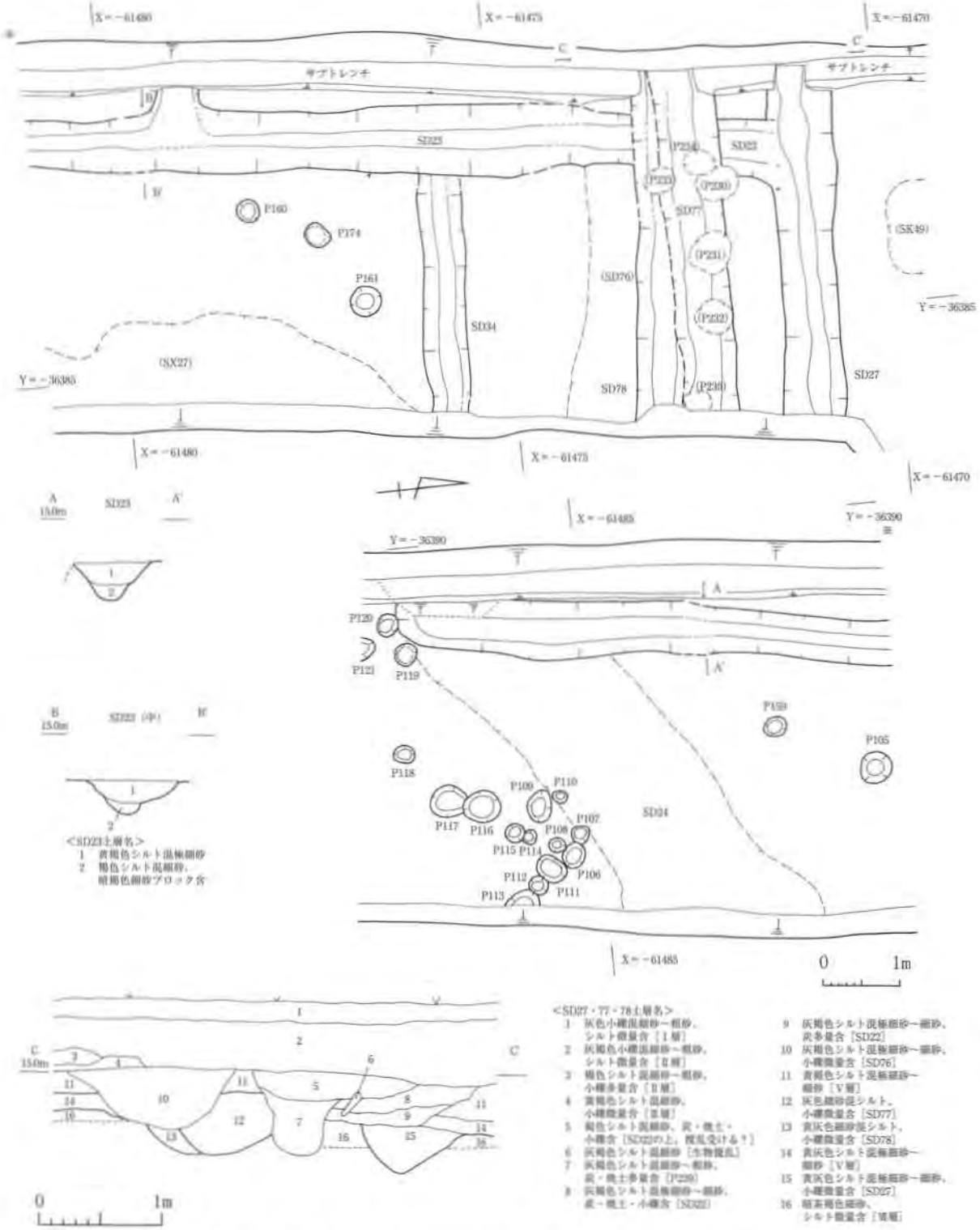
B5区西側で確認した。西側をSD50、東側をSD52に切られる。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、隅丸方形状と推定される。規模は確認部分で東西2.3m、南北2.0m、深さ0.9m。423～425は北部系山茶碗の皿で、423・425はともに同一の花押と考えられる墨書が見られる。426は山茶碗の碗。427・428はM類の土師器皿。

SK46（第111図429、別添図５）

B6区中央で確認した。SD21を切る。東壁壁面のみで確認したため全体のプランは不明。429はC１類の土師器皿である。

SK48（第42図）

B4区北側で確認した。西側をSD33に、北側をSD51に切られるため全体のプランは不明。規模は確認部分で長辺1.35m、短辺0.8m、深さ0.4m。実測可能な遺物は無かったが、山茶碗細片が出土しており、



第43図　鷺山蝉遺跡B6区SD23・27・34・77・78実測図

SD68、SK43と同一面上で検出したことから、本時期に相当すると判断した。

SK50（第40図）

B4区南側で確認した。SD73 に切られる。南側をSD32に切られ全体のプランは不明だが、形状は不整形と推定される。規模は確認部分で長辺2.8m、短辺2.4m、深さ0.15m。実測可能な遺物は無かったが、山茶碗細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SK54（第40図）

B4区南側で確認した。プランは隅丸長方形に近い。規模は長軸1.2m、短軸0.55m、深さ0.25m。実測可能な遺物は無かったが、山茶碗細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SD23（第43・110図343・344）

B6区中央で確認した。流向は北－南方向。SD77・78に切られ、SD34を切る。北端ではSD27に切られると判断したが、SD23が14層の上から、SD27が14層の下から掘りこまれること、また出土遺物からもSD27→SD23となるため、本来の切り合いが逆の可能性が高い。ただしSD23はSD27より北に延びないことから、SD27を切る行き止まりの溝と考えられる。規模は確認部分で長さ16.0m、幅0.8m、深さ0.3m。343は北部系山茶碗の碗。344は古瀬戸後Ⅳ期古段階の緑釉小皿。

SD27（第43・110図359～361）

B6区中央とB7区東側で確認した。流向は東－西方向。SD21と平行の位置関係にある。2カ所でプランを確認したが、同一の溝と判断した。先述のSD23に切られる。全体のプランは不明。規模は西側確認部分で長さ4.7m、幅0.8m、深さ0.4m。東側確認部分で長さ14.6m、幅0.8m、深さ0.55m。断面形状はやや尖るU字形。359は南部系山茶碗の皿で、360は碗。361は須恵器有台杯。

SD34（第43図）

B6区中央で確認した。流向は東－西方向。SD23に切られるが、SD23の西側には伸びないことから、SD23と同時期に機能した、あるいは行き止まりの溝のいずれかの可能性が考えられる。東側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ3.1m、幅0.6m、深さ0.2m。断面形状は浅い皿状。顕著な遺物は出土しなかったが、SD23と切り合いを有し、同一面上で検出したことから本時期に相当すると判断した。

SD77・78（第43・110図383～389）

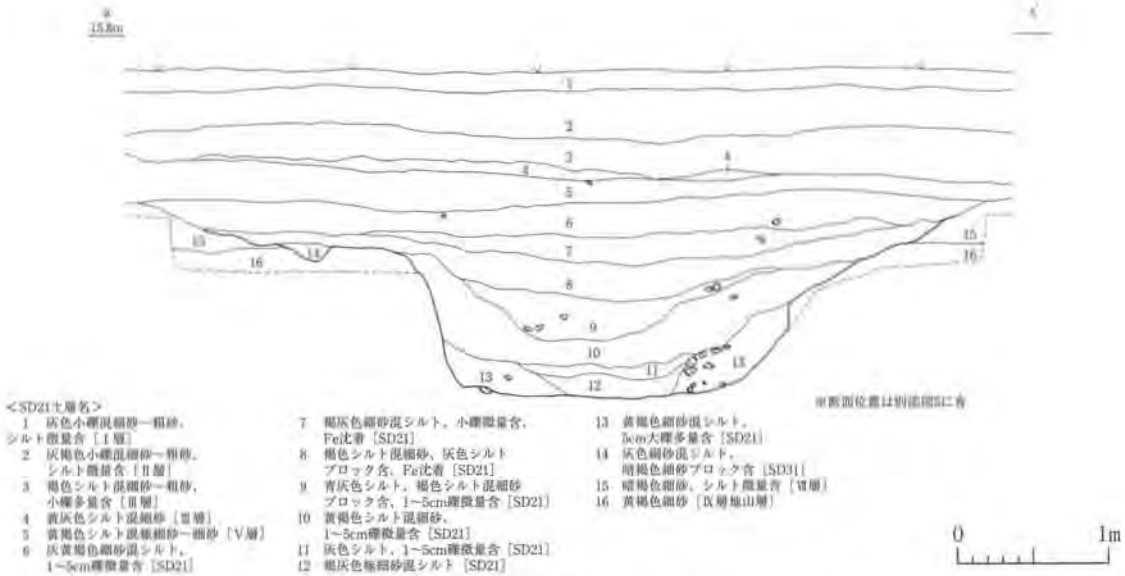
ともにB6区中央で確認した。当初同一溝として遺構掘削を行ったが、底部で切り合うことが確認できたため、別々の溝であることが判明した。しかし、取り上げた遺物は分離することができなかった。これらを踏まえて報告する。SD77の流向は東－西方向。SD23・77を切り、Pit231～235に切られる。規模は確認部分で長さ4.5m、幅0.7m、深さ0.5m。SD78の流向は東－西方向。SD23を切り、SD76・77、Pit231～235に切られる。規模は確認部分で長さ4.5m、遺存幅0.6m、深さ0.5m。383はM類の土師器皿。384～388は南部系山茶碗の碗。389は北部系山茶碗の碗。

SD21（第44・110図345～358）

B6区中央およびB7区全域で確認した。流向は東－西方向。規模は確認部分で長さ44m、幅5.6m、深さ1.3m。断面形状は下に凸状で、両肩部分にテラスを有する。埋土は下層の10～13層が泥状の堆積であることから自然埋没したと考えられ、上層の6～9層は小礫を含むことから人為的な埋め戻しと考えられる。345は中国産磁器の白磁皿。346は中国産磁器の青磁碗。347～353は南部系山茶碗の碗。このうち347は墨書があり、「上」の鏡文字と考えられる。354は南部系山茶碗の大平鉢。355は南部系山茶碗の皿。356はM類の土師器皿。357は土師器皿の耳皿。358は縄文土器突帯文深鉢。

Pit出土遺物（第42・111図430～433）

430はB5区西側Pit215出土の北部系山茶碗の碗。431はPit215出土のM類土師器皿。432はB5区西側Pit220出土の北部系山茶碗の皿。433はPit220出土の南部系山茶碗大平鉢。



第44図　鷺山蝉遺跡B7区SD21断面実測図

鷺山蝉遺跡C区

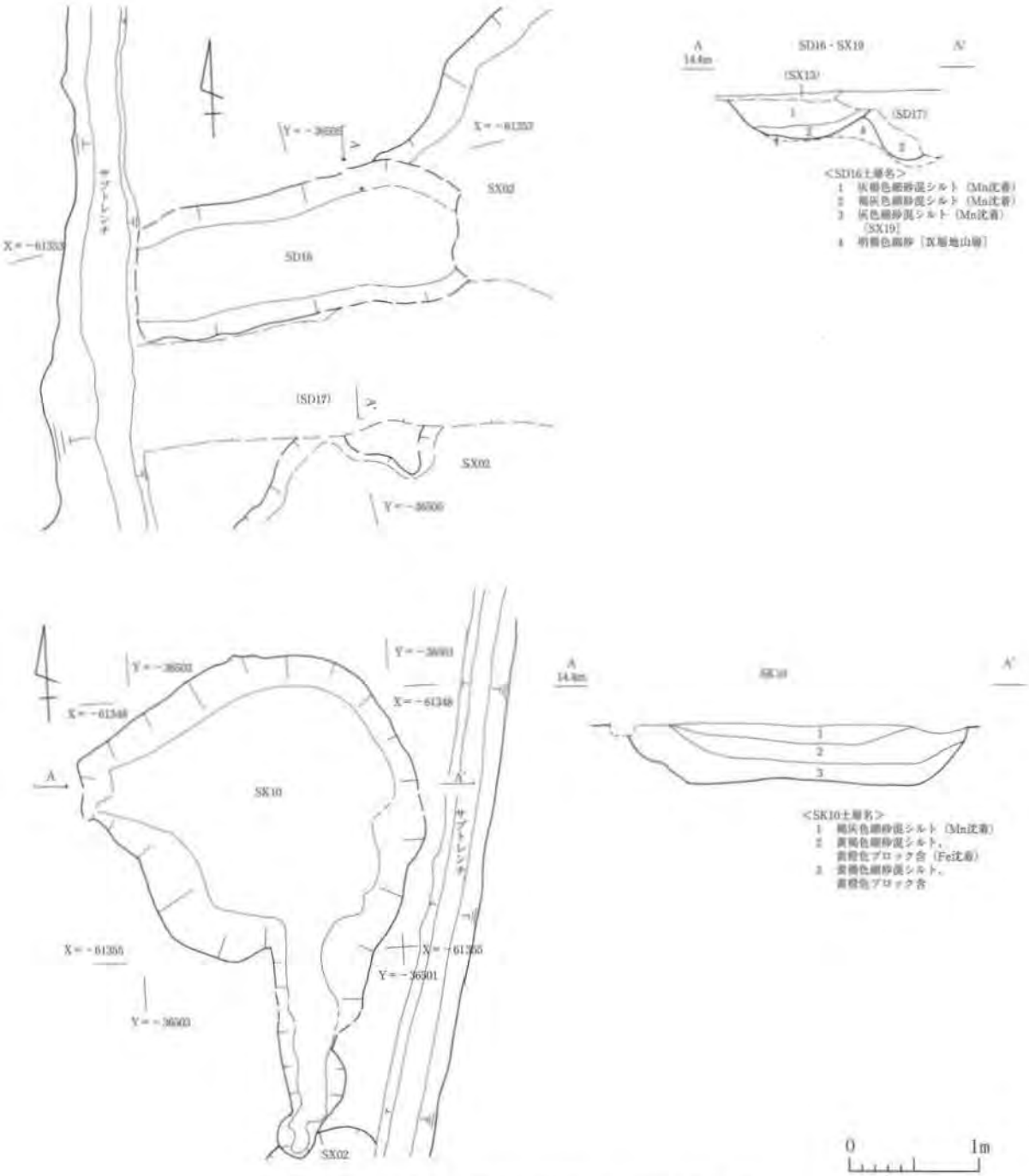
SX02自然流路（第45・111図434～466・112図467～491）

C1区全域、C2区南側で確認した。大規模な流路で、北肩の一部分を確認できるが、大半が調査区外にある。C2区南側でやや蛇行するが、流向はおおよそ北北東－南南西方向。人力掘削により１～６層は掘削できたが、７層以下はトレンチ掘削による土層確認にとどまった。断面形状は最深部まで確認できていないが、確認部分では一部テラスを有する皿状と推定される。規模は確認部分で長さ約50m、幅6.0m、深さ2.2m。埋土は最下層部分の層番11、12で砂層を確認できるが、これより上層の2～10層はシルト～極細砂といった泥状の後背湿地状の堆積を呈している。戦国時代にSX02を切るようにSD02が、近世にSD01が形成される。またSX02出土遺物に戦国時代の遺物が一部混じるが、検出できなかった遺構があると考えられる。434～491がSX02出土遺物で、434～482がC1区、483～491がC2区出土に分けられる。

434はパレス壺体部で、赤彩が施される。435はS字甕口縁。436は土師器高杯。437は須恵器高杯。438は須恵器無台杯。439は須恵器杯で、受部を有する。440は須恵器台付瓶の脚部。441は須恵器甕。442は平瓶の体部片。443は須恵器甕の頸部破片。444は軒平瓦で、縄目タタキを有する。445は灰釉陶器椀。446は灰釉陶器長頸瓶の体部片。447は土師器清郷型鍋。448～451は銅銭で、448は「太平通宝」、449は「嘉祐元宝」、450は「景徳元宝」、451は「政和通宝」。452は北部系山茶碗大平鉢。453は古瀬戸小杯。454・455は古瀬戸折縁深皿。456は常滑甕。457・458はM類の土師器皿。459は中国産磁器の鉢もしくは大皿。460は古瀬戸卸目付大皿。461は土師器内耳鍋。462はB２－a類の土師器皿。463はC1類の土師器皿。464・465は土製品土錘。466は砥石で、石材は砂岩。

467は灰釉陶器段皿。468は中国産磁器の白磁碗。469は古瀬戸縁釉小皿。470は古瀬戸擂鉢。471は大窯の縁釉挟み皿。472は南部系山茶碗の碗、473は大平鉢。474は北部系山茶碗の碗。475は北部系山茶碗大平鉢。476は古瀬戸四耳壺。477・478は土製品土錘。479は砥石で、石材は泥岩もしくはホルンフェルス。480は土師器内耳鍋。481はB１類の土師器皿。482はB2－b類の土師器皿で、内面に墨書が見られるが、判読はできなかった。483～486は南部系山茶碗の碗。そのうち486は内面にコゲ状の黒斑が見られる。

第45図　鷺山蝉遺跡C１・２区SX02自然流路実測図



第46図　鷺山蝉遺跡C２区SD16、SK10実測図

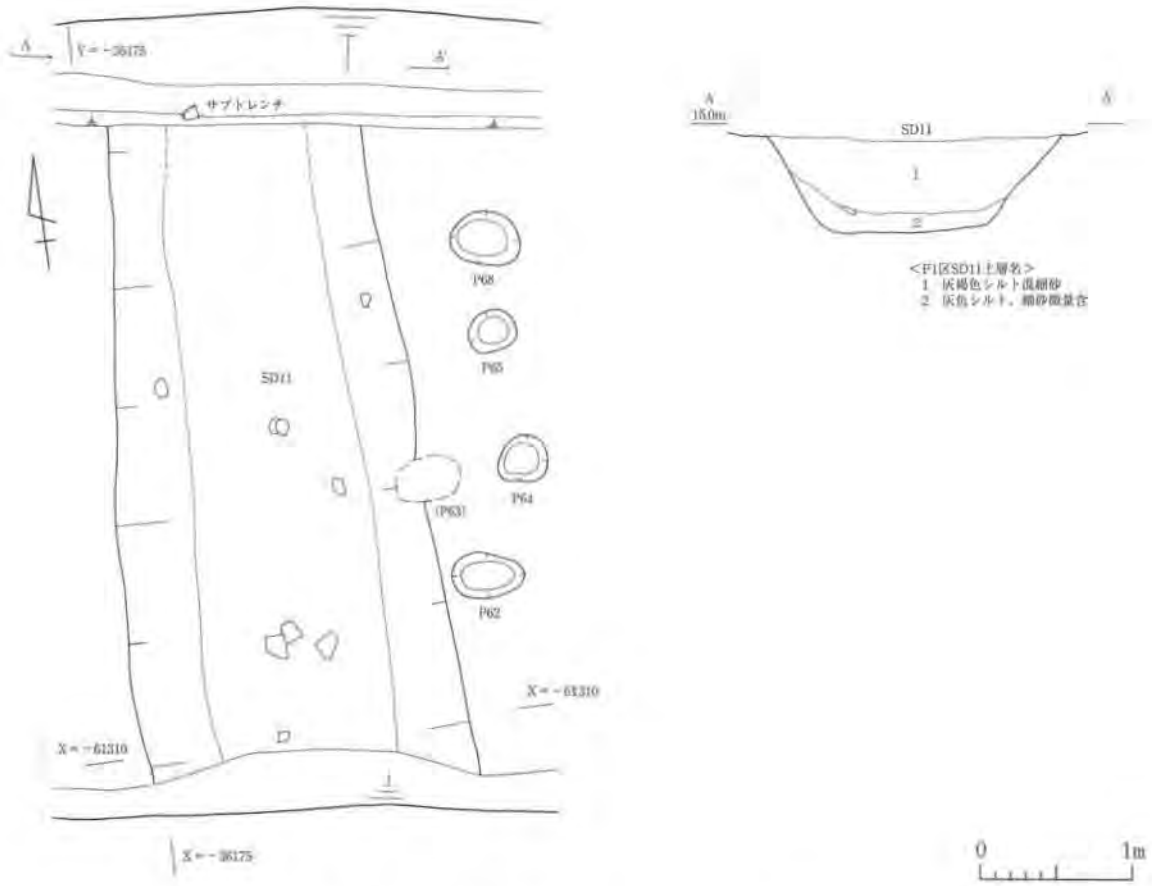
487は土製品の土錘。488は無茎石鏃で、石材はサヌカイト。489は須恵器高杯。490は須恵器台杯盤。491は銅製品で、龍をあしらった刀装具と考えられる。表面に鍍金の痕跡は認められなかった。

SD16（第46・112図492～495）

C2区南側で確認した。流向は東－西方向。西側は調査区で、東側セクション部分ではSX02を切っているが、さらに東側へプランが延びているかは確認できなかった。戦国時代のSD17に切られる。行き止まりの溝の可能性も考えられる。規模は確認部分で長さ2.6m、幅1.0m、深さ0.3m。埋土は泥状の堆積で自然埋没したと考えられる。492・493は南部系山茶碗の椀。494は須恵器無台杯。495は須恵器平瓶。

SK10（第46図）

C2区南側で確認した。北側は不整円形状で、南側では溝状の突出部分を有する。SX02流路を切る。



第47図　鷺山蝉遺跡F１区SD11実測図

規模は確認部分で長軸約3.9m、短軸2.6m、深さ0.4m。埋土は粘質土がメインであった。図化可能な遺物は無かったが、北部系山茶碗細片等が出土することから本時期に相当すると判断した。

鷺山蝉遺跡D区

Pit12（第112図496）

D1区中央で確認した。規模は直径40cm、深さ0.25m。埋土上層部で土器が出土した。496は中国産磁器の白磁碗で、口縁が玉縁状となる。

鷺山蝉遺跡F区

SD11（第47・112図497～509）

F1区東側で確認した。流向は北－南方向。北側、南側ともに調査区外。規模は確認部分で長さ4.8m、幅2.1m、深さ0.6m。断面形状は逆台形。埋土は下層の2層のみ泥状の堆積で、1層は人為的な埋め戻しの可能性が考えられる。497～500は南部系山茶碗の碗で、501は皿。502は古瀬戸の仏餉具。503はM類の土師器皿。504はロクロ土師器で、高台を削り取って加工している。505～507は土製品の土錘。508は須恵器の甑底部。509は須恵器甕。

Pit出土遺物（第112図510～512）

第48図　鷲山仙道遺跡A２区SD11・12断面実測図

510はF1区中央Pit24出土の南部系山茶碗の碗。511はF1区中央Pit31出土の南部系山茶碗の碗。512はF1区中央Pit81出土の古瀬戸内耳鍋底部。

鷲山仙道遺跡A区

SD11（第48図）

A2区東側で確認した。流向は北東－西北西方向で、やや弧状。溝の両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ12.2m、幅1.2～1.5m、深さ0.3～0.55m。断面形状は皿状に近い。実測可能な遺物はなかったが、南部系山茶碗細片等が出土することから本時期に相当すると判断した。

SD12（第48・112図513）

A2区東側で確認した。流向は西北西－東南東方向。西側はSD11に切られ、東側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ9.0m、幅1.0m、深さ0.35m。断面形状は皿状に近い。513は南部系山茶碗の碗である。

第４節　４期（戦国時代）の遺構と遺物

４期の遺構は本調査区域全体で確認できた。主にⅤ層（鎌倉時代～室町時代遺物包含層）、Ⅳ層（戦国時代整地層）上面で遺構を検出した。Ⅳ層は鷲山蝉遺跡A区で確認でき、遺構はほとんどがⅣ層上面より掘り込まれる。特に北側建物・柱穴列周辺、および南側柱穴列周辺ではⅣ層が約15cmと比較的厚く、それ以外の範囲ではⅣ層が全く確認できない状況であった。

鷲山蝉遺跡A区

SD01・SA05柱穴列（第49・50・113図514～525）

A1・A3区で確認した。流向が北－南方向の区画溝で、北側は地山を掘り残して行き止まる。南側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ9.7m、幅1.3m、深さ0.9m。断面形状はU字形。溝内には人頭大程度（30～50cm大）の川原石を多数確認できた。溝底や掘り方に接することなく埋土に含まれており、溝を埋める際に溝に沿ってあった石積みの構築物を埋めた可能性が高い。なお、埋土には泥等の堆積が無く、構築後それほど時間を経ることなく埋没したと推定される。

溝の西側には同方向でSA05柱穴列（Pit237・48・47・46・45・44・124）を確認した。規模は南北６間以上、柱間1.5m。SD01に切られている。Pit237・48で根石を確認した。514～525はSD01出土遺物で、514は景徳鎮窯の青磁皿。515は古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁釉小皿、516・517は古瀬戸後Ⅳ期新段

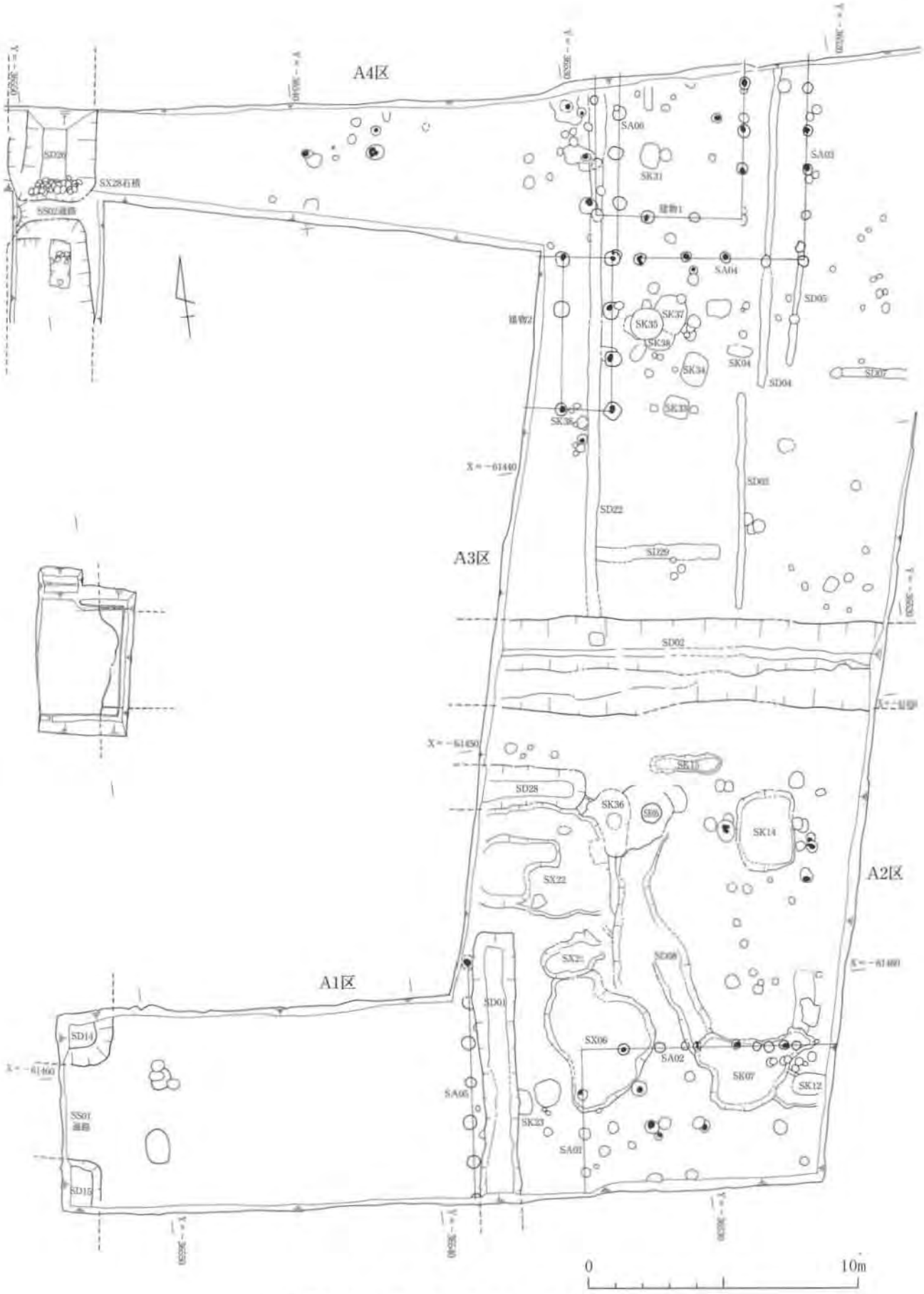
階の腰折皿である。519～523は土師器皿で、519はB2－a類、520～522はB２－b類、523はC２類である。524は土製品の土鈴。525は碁石と考えられ、石材は砂岩である。

SD02（第49・51・113図526～545・114図546～582）

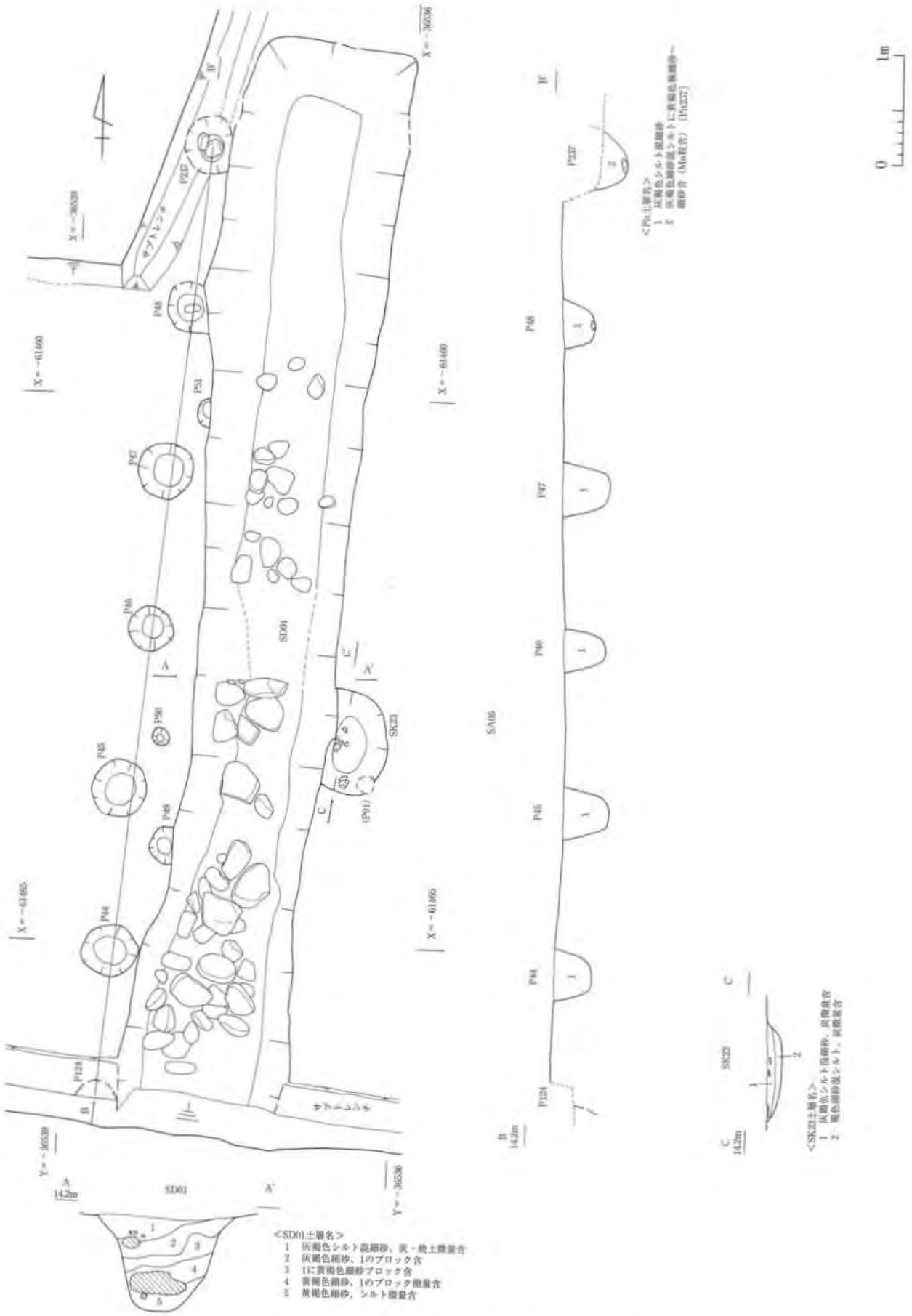
A2・A3区中央で確認した。流向が東－西方向の区画溝で、溝の両側は調査区外で全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ14.6m、幅3.2～3.5m、深さ1.6m。断面はほぼV字形（薬研形）である。本遺構には、北側の建物群から伸びるSD22が接しており、SD02の北肩にはSD22からの流水によって形成されたと考えられるSX29窪みが存在する。このSX29窪みの存在から、SD22とSD02が同時期に機能していると判断した。埋土は下層で泥等の堆積が認められ（西壁12・13層、東壁9～12層）、上層は人為的に埋め戻されたと考えられる（西壁10・11層、東壁７・８層）。526～582がSD02出土遺物で、このうち526～545が下層出土遺物、546～555と557・558が上層出土遺物と限定できる資料であるが、上・下層とも古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯第１段階のものが出土しており、顕著な時期差はない。526は中国産磁器の白磁Ⅴ類。527は天目茶碗、528～531は擂鉢で、いずれも古瀬戸後Ⅳ期新段階。532は大窯第１段階の擂鉢。533は大窯第１段階の口広有耳壺。534は石製品の硯。535は漆器椀で、内黒外黒。外面に朱漆で紋様が描かれる。536～544は土師器皿。536はB２－a類、537はB２－b類、538～541はC２類。542・543は土師器皿B２－b類で、内面に十字状のヘラ描が施されている。544は土師器皿B2－b類で、内外面に墨書が存在する。遺存部分のみであるが、内面の文字は右列より「無一人（ひとりなし）」、「如仰（おおせのごとく）」と判読できる。545は須恵器杯蓋。546は中国産磁器の青磁で同安窯系碗Ⅰ類、547は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。548は大窯第１段階の端反皿。549は土師器皿B1類。550は石製品のふいご羽口で、鉱滓が付着することから炉側の先端部分と判断できる。551は縄文土器突帯文深鉢。552は須恵器杯蓋。553は縁釉小皿、554は折縁中皿でいずれも古瀬戸後Ⅳ期古段階。555は腰折皿で古瀬戸後Ⅳ期新段階。556は把手付桶で古瀬戸後Ⅳ期古段階。557は土師器内耳鍋。558・559北部系山茶碗の碗。560は卸皿で古瀬戸後Ⅳ期古段階。561は縁釉小皿。562～565は擂鉢。566は口広有耳壺で古瀬戸後Ⅳ期新段階。567・568は瓦質土器。569～577は土師器皿で、569～571はB１類、572はB２－a類、573はB２－b類、574～577はC２類である。578は土師器内耳鍋口縁片。579は近世陶器（瀬戸窯）丸碗。580は木製品折敷の底板。581は木製品で蓋あるいは栓などに用いられたものか。582は砥石で２面使用、石材は砂岩。

SD14・15、SS01（第49・52・115図583～615）

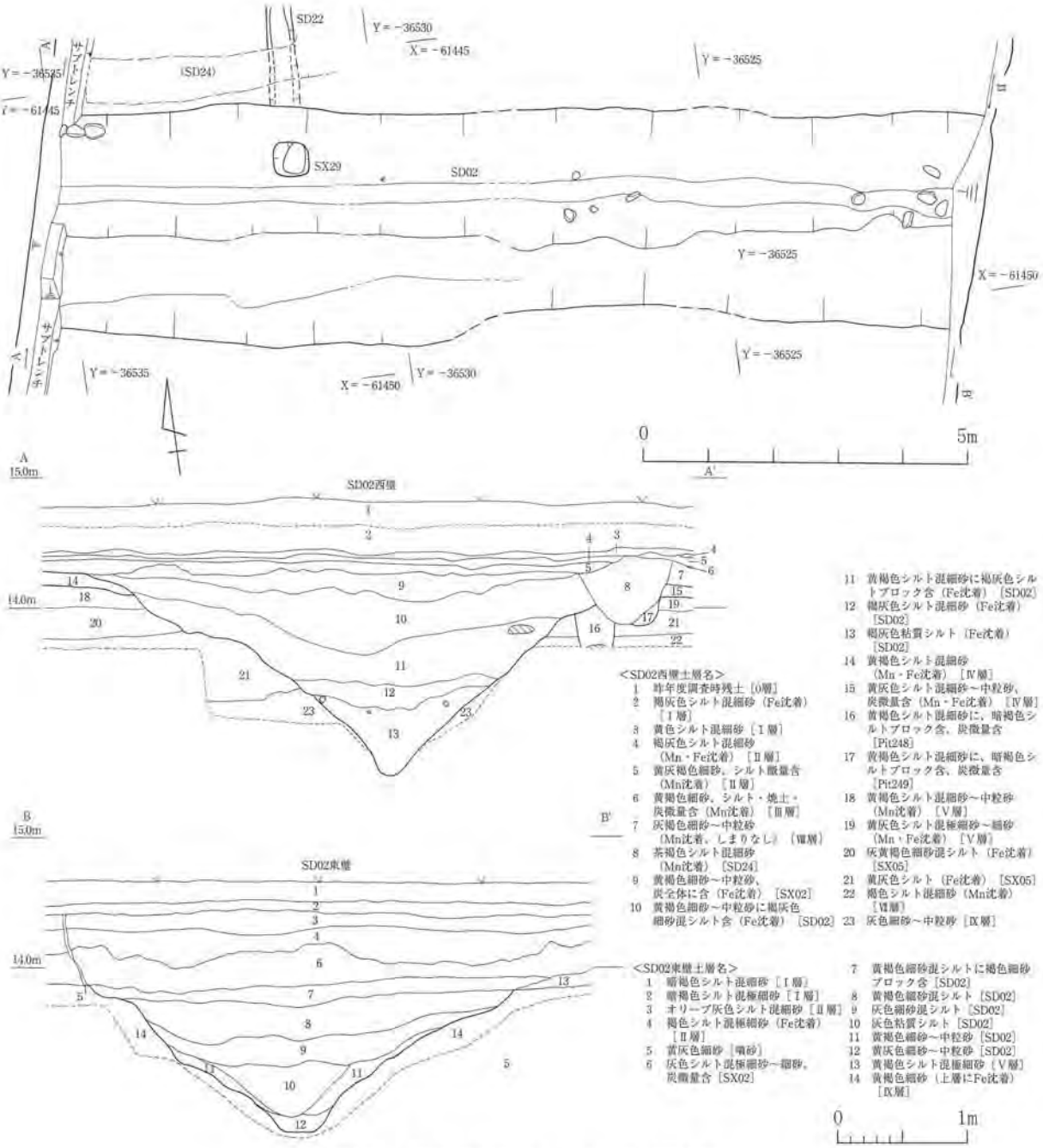
A1区西端で確認した。いずれも流向は北－南方向で、両溝とも地山層を掘り残して行き止まりとなる。現存部分でSD14は長さ1.7m、幅1.8m、深さ1.5m、SD15は長さ1.9m、幅1.3m、深さ1.6m。断面形状はSD14は全体が不明で、SD15が逆台形に近い。また、掘り残し部分は屋敷地外側に存在した街路と屋敷地を結ぶ通路と考えられる。SS01通路は上部幅2.0m、基部幅3.8mである。SS01の東にはPit23・24・25・43を確認でき、これらが門などの構築物であった可能性が考えられる。583～610がSD14出土遺物、611～615がSD15出土遺物である。583～601は土師器皿で、583～588はB１類、589～591はB２－a類、592～595はB２－b類、596～601はC２類である。このうち、596～599は内面に、589・591は内外面にタールが付着する。602は瓦質土器火鉢の脚部で、底部に人為的な打ち欠きが認められる。603は漆器杯で内赤外黒。604は漆器椀で内黒外黒。603・604の外面に朱漆で草花紋（ある



第49図　鷺山蝉遺跡A区戦国時代遺構配置図



第50図　鷺山蝉遺跡A1・3区SD01、柱穴列実測図

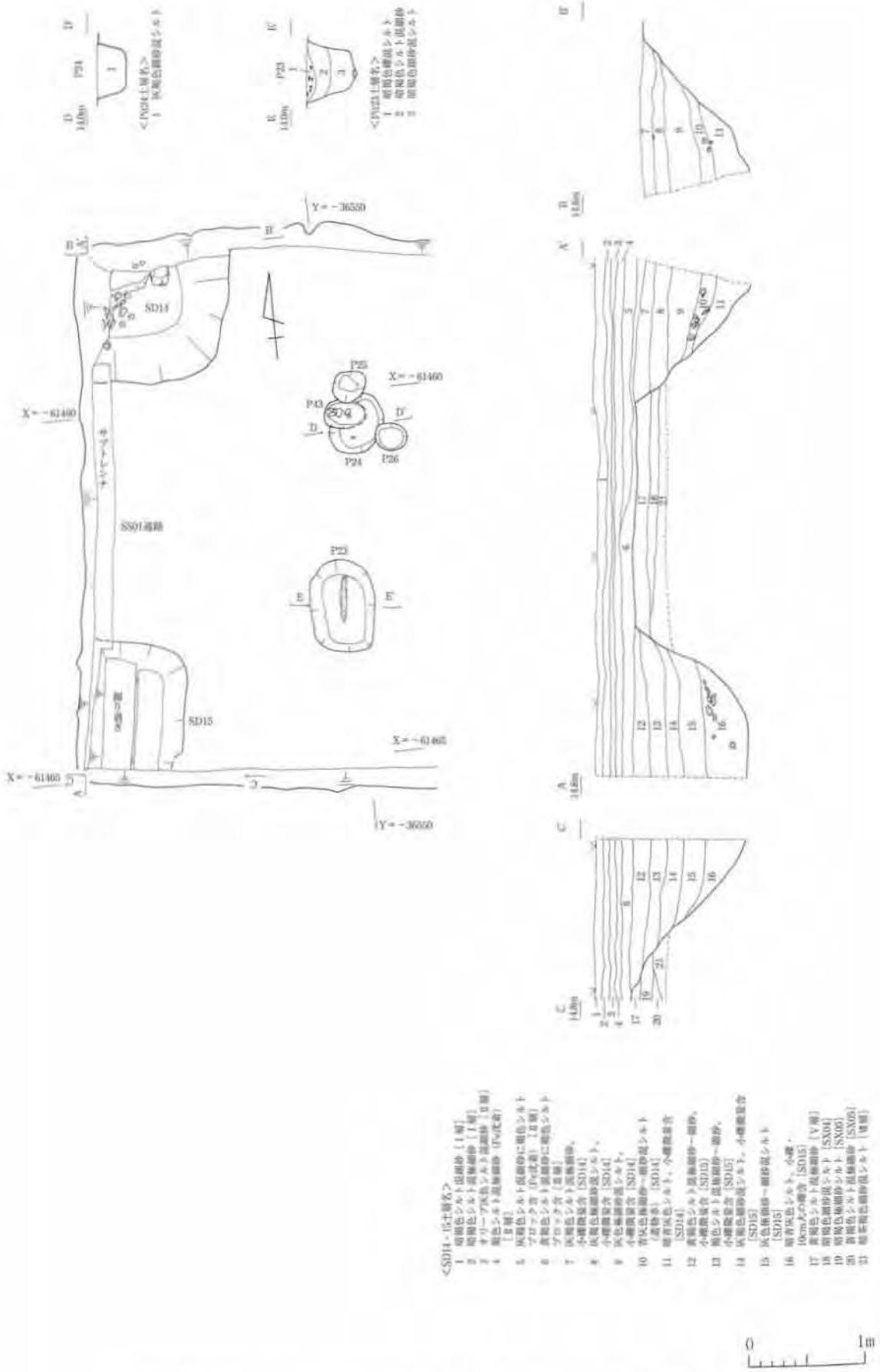


第51図　鷺山蝉遺跡A2・3区SD02実測図

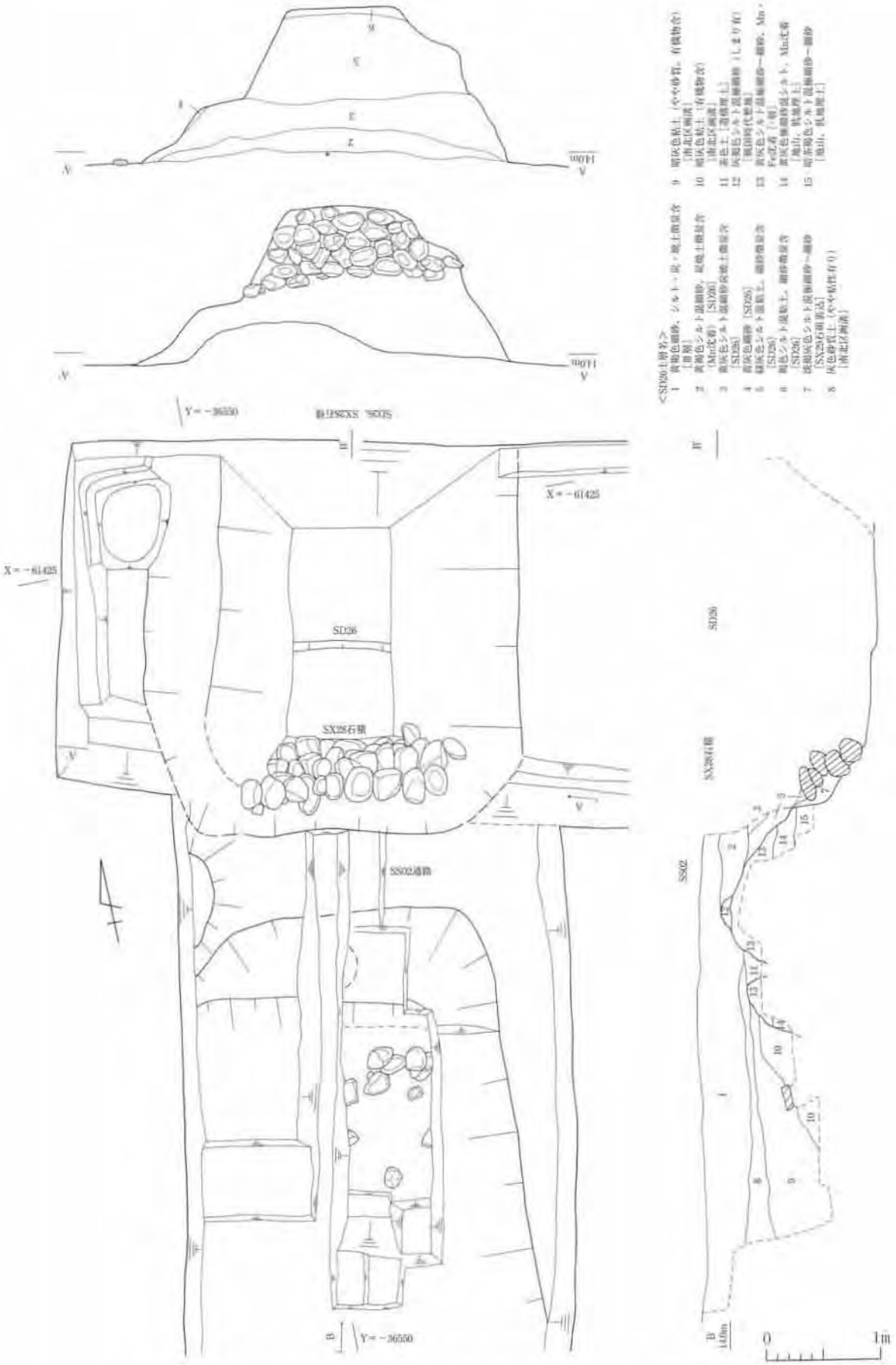
いは鶴などの蓮菜紋か）が描かれる。605・606は箸。607は将棋の駒で、駒の表面に「王将」の墨書がある。また駒の上部および右側面に墨点があり、これらは駒の進行方向を示す、という説もある。左側面に墨点は無かった。樹種はヒノキ科アスナロ属。608は2カ所の抉りを有する木製品。木や竹のゆがみを修整したり、矢の生産などにも用いられる道具「矯木」か。609・610は折敷底板の破片。611は擂鉢で大窯第1段階。612は土師器皿C2類。613は箸。614・615は柄杓（ひしゃく）のような小型曲物の底板と考えられる。なおSD14からはこの他、貝（アカニシ）といった動物遺体が出土している（詳細は第6章第4節参照）。

SD26・SX28石積・SS02通路（第49・53・116図616～639）

A4区西端で確認した。SD26は南北方向の溝で、先述のSD14・15と同様、地山層を掘り残して南側



第52図　鷲山蝉遺跡A1区SD14・15、Pit23～26・43、SS01通路実測図



第53図　鷺山蝉遺跡A4区SD26、SX28石積、SS02通路実測図

は行き止まりとなる。現存部分で長さ3.3m、幅3.3m、深さ1.2m。、断面形状は西側にテラスを有し、逆台形に近い。埋土は下層の５・６層が堀機能時の泥等の堆積で、上層の１～３層は人為的な埋め戻しと考えられる。下層埋土を除去すると南側に人頭大の川原石を組み合わせたSX28石積を確認した。この石積は土橋の北面に相当し、護岸施設として機能していたと推定される。SX28石積の規模は現存部分で幅1.95m、高さ0.8m。石積の裏込め土として７層を確認できた。また南側の溝底に段状の高まりが存在し、この部分を掘り残して石積の基礎とした可能性が考えられる。なおSD26・SX28の南側は土橋全体の構造確認のため、平成16年度市内遺跡調査において確認調査を実施した。確認調査では、土橋の大部分と土橋南側で南北方向溝が確認された。土橋南側も地山層を掘り残して形成されていた。土橋の規模は基底部で幅3.2m、上部で幅1.6mであった。土橋南側の南北方向溝内には、石積に使用されたと考えられる石材が転落しており、土橋南側が大きく削られていたことも合わせて、本来存在した石積が壊されたと推測される。また街路と屋敷地を結ぶと考えられるSS02通路では整地層と判断できる12層を確認できた。また確認調査では、南北方向溝がSD14と同一である可能性が高いこと、南北方向溝がSD02を切ることが確認された。

616は天目茶碗、617は縁釉小皿、618・619は擂鉢で、いずれも古瀬戸後Ⅳ期新段階。620は瓶子で古瀬戸前期Ⅳ段階。621～632は土師器皿である。621～625はＢ２－a類、626～629はＢ２－b類、630～632はＣ２類。このうち、625・627は内面に、629は内外面にタールが付着する。633は須恵器甕底部。634は灰釉陶器の把手付瓶。635は古瀬戸後Ⅳ期新段階の丸碗で、加工円板に転用したもの。636は近世磁器の色絵小杯。637は大窯第4段階後半の志野丸碗。638は折敷底板。639はほぼ全形の分かる曲物で、底板を固定するために「クレゾコ木釘留」という手法を用い、外側から７方向木釘を打ち込んでいる。

SD03・04（第49・58・116図640～644）

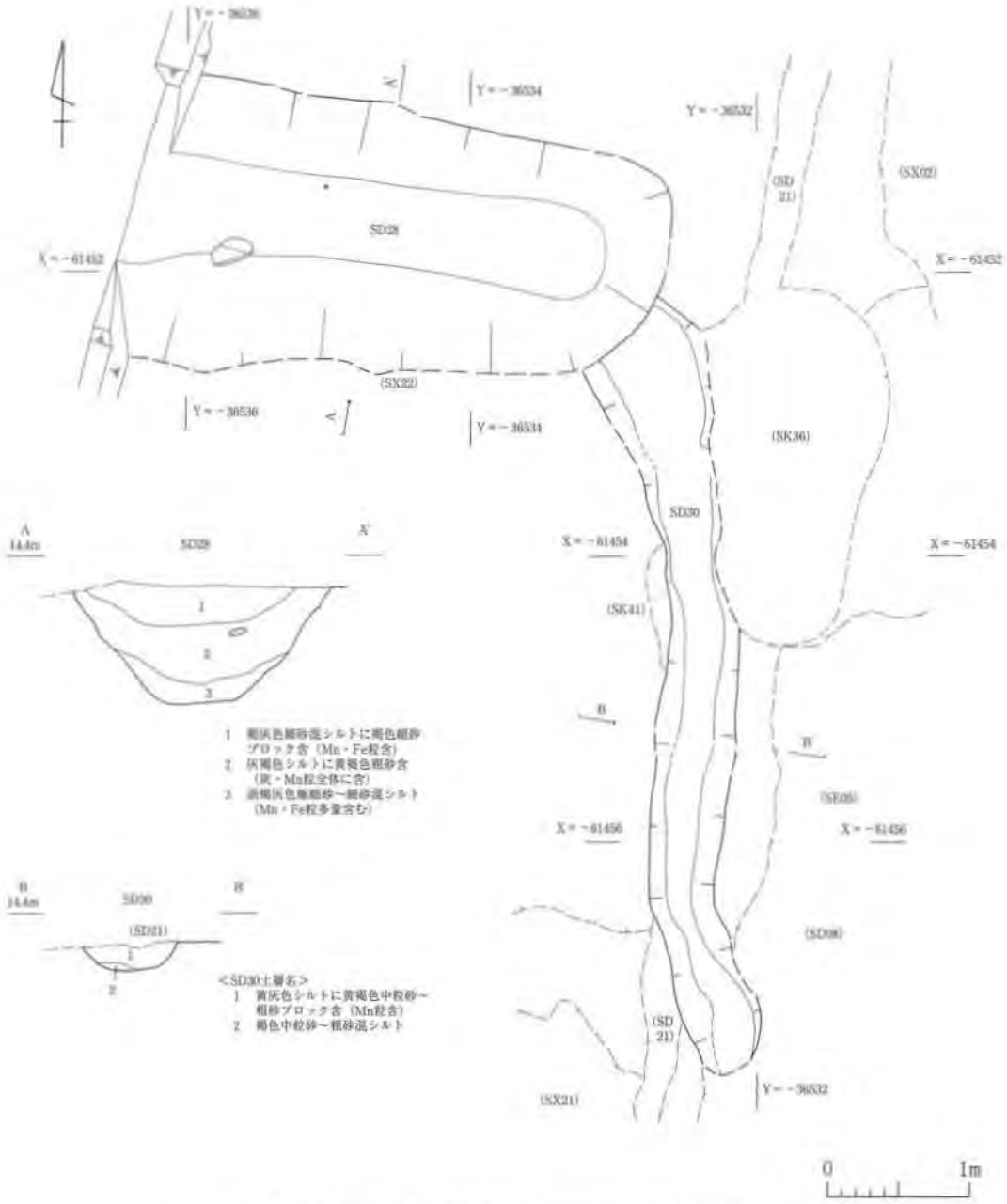
A2区北側で確認した。それぞれ流向が北－南方向の溝でSD03は両端が行き止まり、SD04の北側は調査区外、南側は行き止まりとなる。確認部分でSD03は長さ8.4m、幅0.3m、深さ0.25m。SD04は長さ12m、幅0.3m、深さ0.25m。ともに断面形状はU字状である。640は土師器皿B2－b類。641は南部系山茶碗。642・643は土師器皿Ｂ２－a類、644は土師器皿Ｂ２－b類。

SD08（第49・55・116図645～654）

A2・A3区南側で確認した。調査区境に位置し、年度をまたいで調査を行ったため正確なプランを検出できなかった。これらを踏まえて報告する。やや蛇行する南北方向の溝で、SD30を切り、SK07に切られる。規模は確認部分で長さ9.1m、幅1.1～2.2m、深さ0.2m。断面形状は浅い皿状。埋土中に礫が含まれており、人為的に埋められた可能性が高い。645は古瀬戸後Ⅳ古段階の天目茶碗。646は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。647は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢。648は北部系山茶碗の碗。649は土師器皿B1類、650は土師器皿Ｂ２－a類、651・652は土師器皿Ｂ２－b類。653は瓦質土器風炉。654は土鈴。

SD28（第49・54・117図655～681）

A3区南側で確認した。SX22落ち込みに切られ、SD30を切る。東－西方向の区画溝で、東側は地山を掘り残して行き止まり、西は調査区外。確認部分で長さ3.8m、幅1.8m、深さ0.85m。断面形状は逆



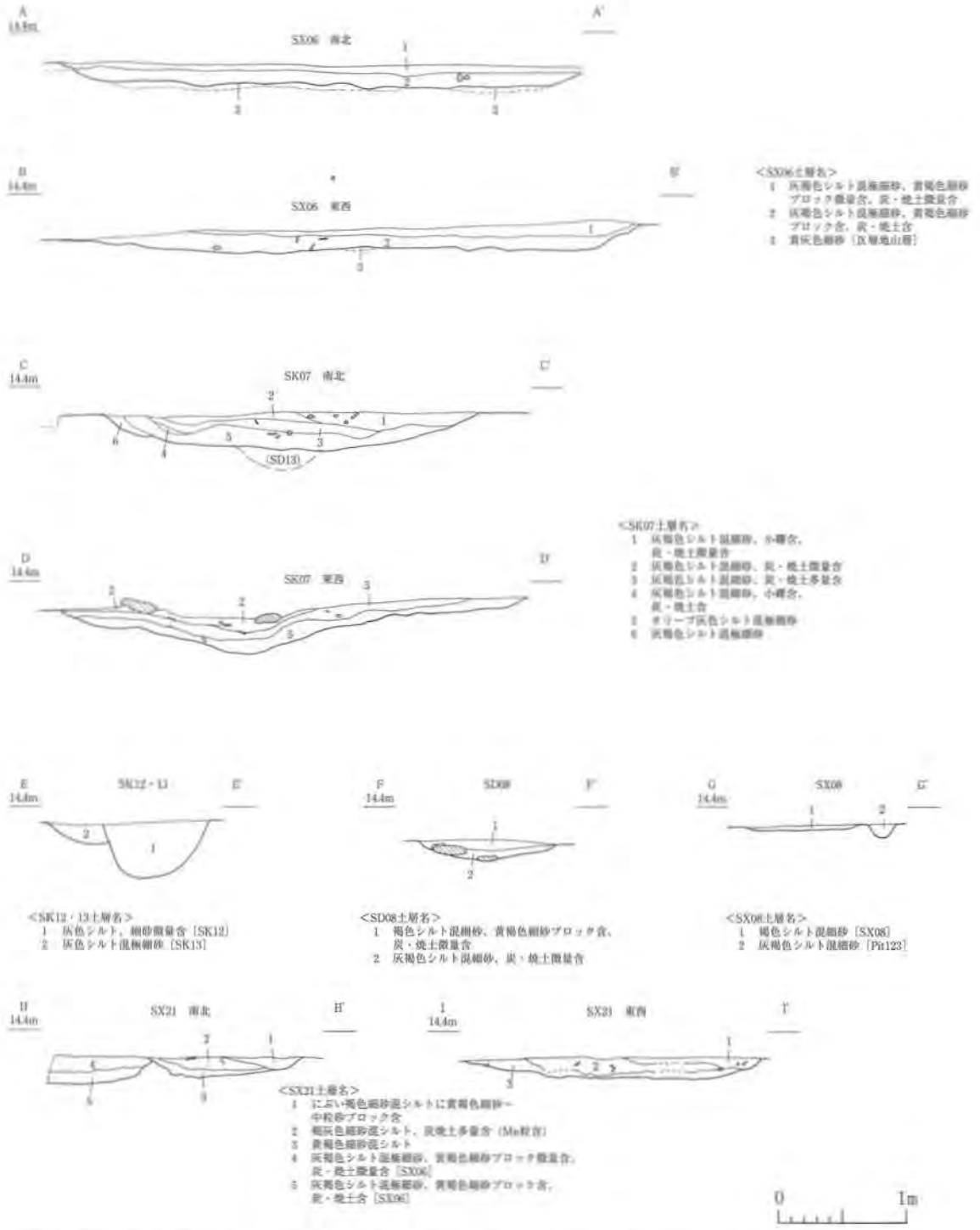
第54図　鷺山蝉遺跡A2・3区SD28・30実測図

台形に近い。655は中国産磁器の龍泉窯系青磁碗。656は北部系山茶碗の碗。657は古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁釉小皿。658は古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯第１段階の擂鉢。659・660は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢。661は大窯第１段階の擂鉢。662は古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯第１段階の擂鉢。663は外面錆釉、内面鉄釉で、古瀬戸後Ⅳ期新段階の茶入と考えられる。664は瓦質土器火桶で、スタンプ文が施される。665は砥石。２面使用されており、うち１面はノミ状工具に使用したと推定される溝状の強い擦痕が残る。666～679は土師器皿で、666～670はＢ２－a類、671～677はＢ２－b類、678・679はＣ２類。このうち、677・679はタール付着。680は須恵器杯蓋。681は灰釉陶器椀。

SD30（第49・54・117図682～684）

A3区南側で確認した。北側はSD28に、南側はSD08にそれぞれ切られる。やや蛇行する南北方向の溝で、確認部分で長さ5.5m、幅0.65m、深さ0.2m。断面形状は浅い皿状となる。682は大窯第1段階の

第55図　鷺山蟬遺跡A1・2区SK07・12・13、SD08、SX06・08・21落ち込み、柱穴列実測図

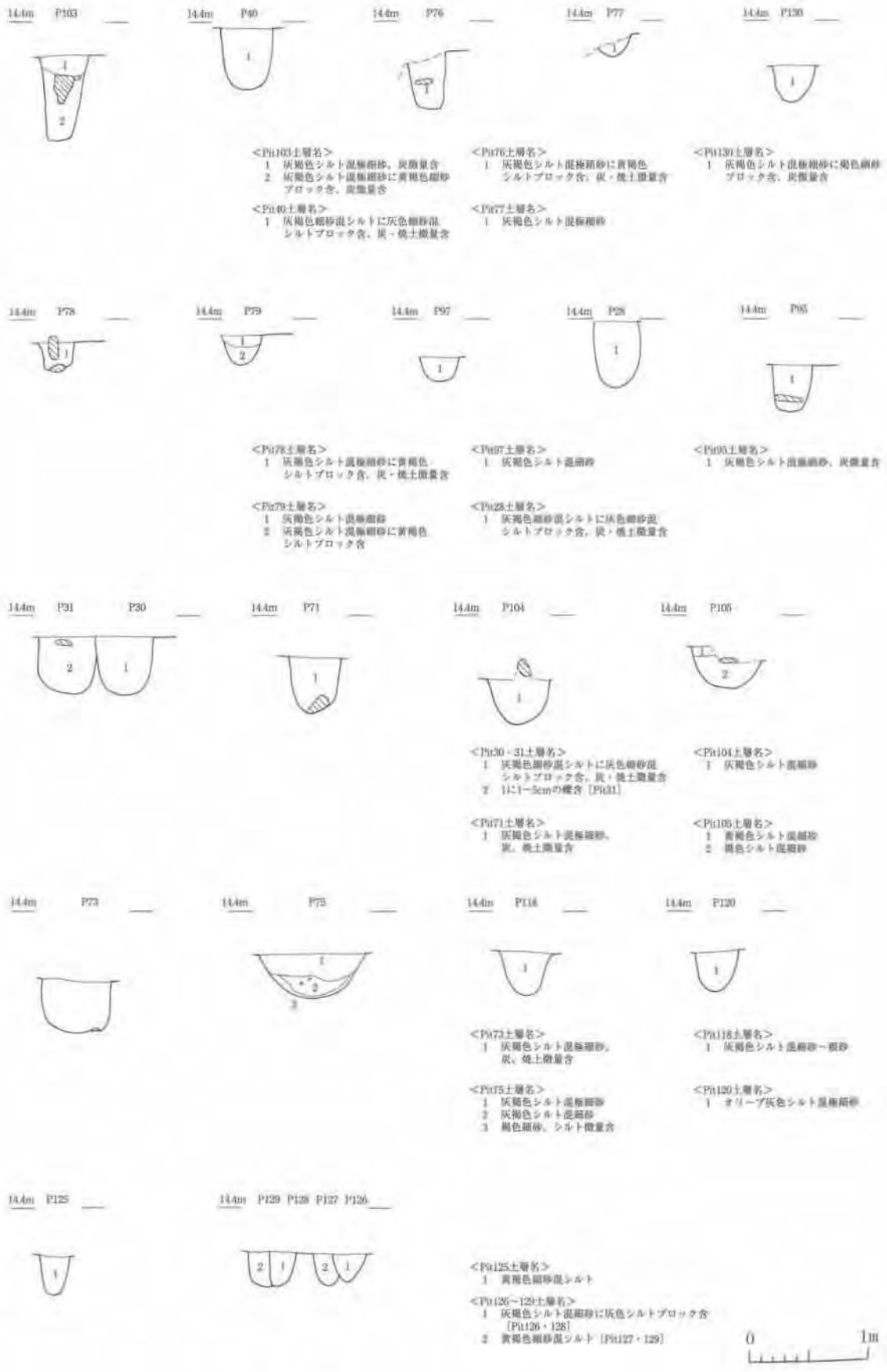


第56図　鷺山蝉遺跡A1・2区SK07・12・13、SD08、SX06・08・21落ち込み断面実測図

擂鉢。683は土師器皿B２－a類、684は土師器皿C２類。

SD22（第49・51・58・117図685～691）

A3区北側で確認した。北側は調査区外のため全体のプランは不明。南側は先述のSD02と切り合うが、SD02の北肩にはSD22からの流水によって形成されたと考えられる窪み（SX29）が存在することから、SD22とSD02がほぼ同時期に機能していると判断した。確認部分で長さ19.3m、幅0.5m、深さ1.25m。断面形状はU字状となる。686～691は土師器皿で、686～688はB2－a類、685・689・690はB2－b類、691はC２類。このうち、689の内面にタールが付着する。



第57図　鷺山蝉遺跡A1・2区柱穴列Pit実測図

南側柱穴列（第49・55・57図）

A1区東側、A2区南側で確認した。柱穴列はSX06・SK07に切られて構築されていた。南北方向のSA01はPit95・28・97で構成され、確認部分で南北3間以上、柱間1.5m。Pit95のみ根石を確認した。東西方向のSA02はPit103・40・131・76・78で構成され、確認部分で東西6間以上、柱間1.5～1.6m。Pit103・131・76・78で根石を確認した。2つを合わせると南北5.2m以上、東西8m以上で、全体の規模は不明であるが、塀もしくは掘立柱建物の可能性が考えられる。

SK07（第49・55・56・118図692～720）

A2区南側で確認した。遺構検出当初より遺物や石材が露出しており、掘削の進捗に従って下部に炭層を含む土坑であることが判明した。プランは不整形。規模は東西4.6m、南北3.0m、深さ0.3m。埋土中に炭・焼土を含む（3・4層）が、被熱の痕跡や硬化面等は認められなかった。692は中国産磁器の白磁碗Ⅴ類。693は大窯第1段階の平椀。694は擂鉢。695は土師器皿A類で、口縁端部外面に強い横ナデを施す。696～708は土師器皿で、696～699はB2－a類、700～703がB2－b類、704～708がC2類。このうち、702・703は内外面、708は内面にタール痕が付着する。709は土師器伊勢型鍋の口縁端部。710は犬形土製品で、脚を欠損するが顔や尾などの表現がよく分かる資料である。711は土製品の土鈴。712は土錘。713～720はSK07検出時のもので、713は中国産磁器の龍泉窯系青磁碗。714は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。715は大窯第1段階の擂鉢。716～718は土師器皿で、716はB2－a類、717はB2－b類、718はC2類。719は北部系山茶碗の碗。720は古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期の平椀。

SK12（第49・55・56・118図721・722）

A2区南側で確認した。SK13を切る。規模は東西1.0m、南北0.8m、深さ0.45m。721は土師器皿B2－b類、722は有茎の五角形鏃で、石材はチャート。

SK15（第49・62・118図723～742）

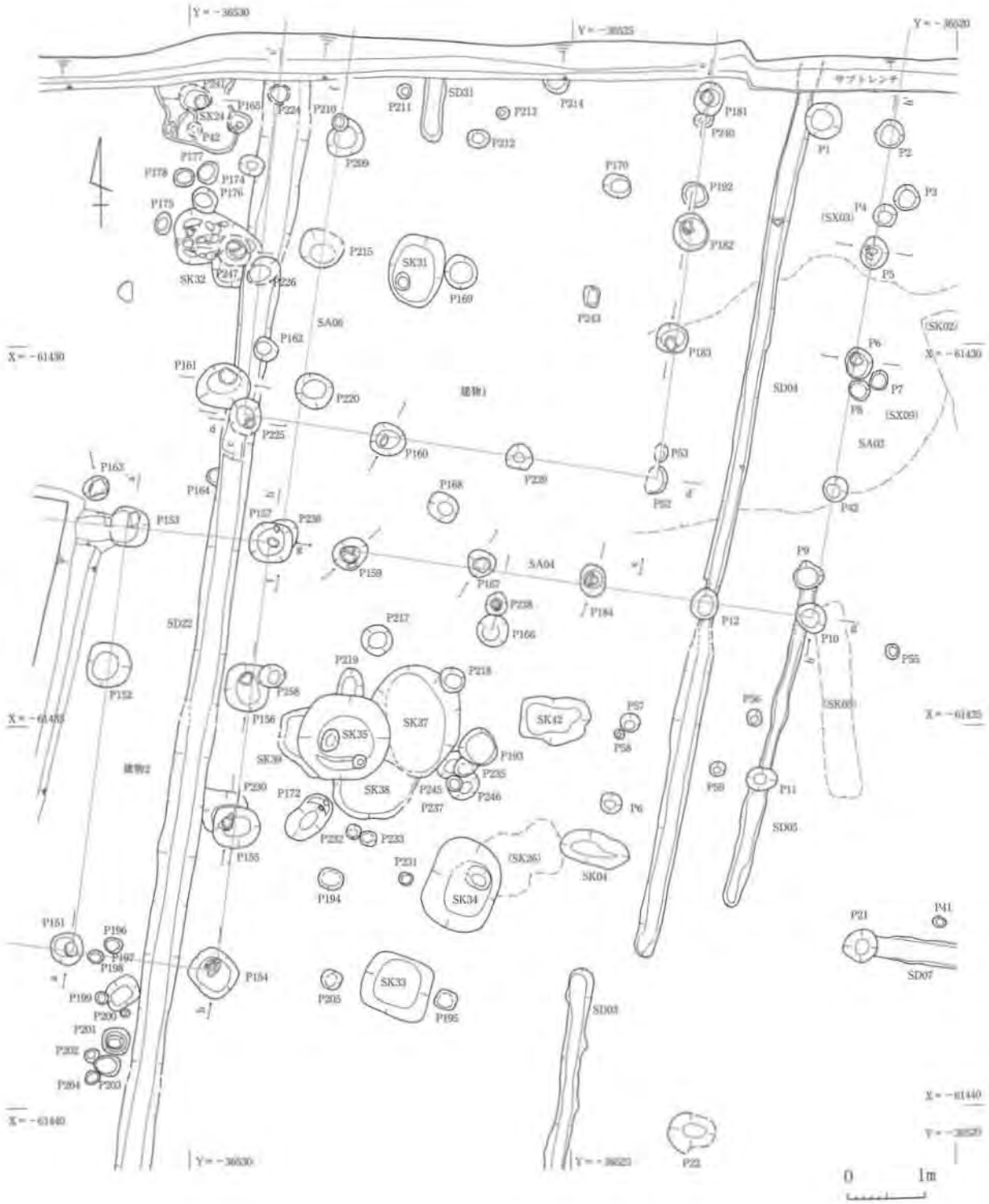
A2区・A3区南側で確認した。平面形は東西に長い隅丸長方形。規模は東西2.6m、南北0.7m、深さ0.2m。埋土は2層に炭・焼土を多く含む。723は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢。724は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。725は大窯第1段階の擂鉢。726～742は土師器皿で、726～732はB1類、733・734はB2－a類、735～740はB2－b類、741・742はC2類。このうち、738・740は内外面、741は内面にタール付着。

SK23（第49・50・119図743・744）

A1区東側で確認した。西側をSD01に切られ、全体のプランは不明だが楕円形と推定される。規模は確認部分で東西0.55m、南北0.9m、深さ0.15m。743は土師器皿C2類で、外面にタール付着。744は土師器皿B2－b類。

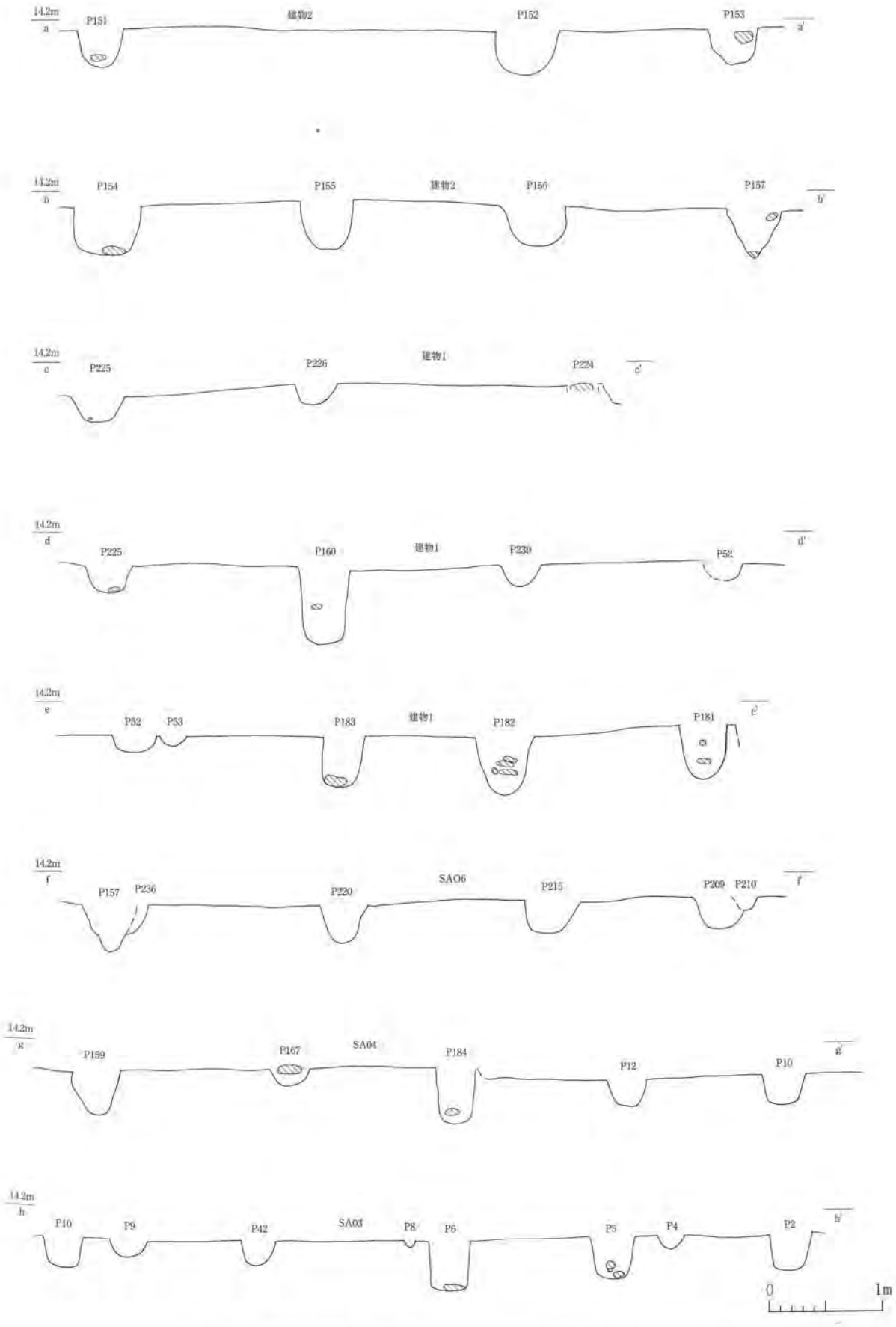
北側柱穴列、建物（第49・58～60図）

A2・A3区北側、A4区東側で確認した。南北方向の柱穴列SA03はPit02・05・06・42・10で構成され、確認部分で南北4間以上、柱間1.5～1.6m。Pit05・06で根石が確認できた。東西方向の柱穴列SA04はPit10・12・184・167・159で構成され、確認部分で東西4間、柱間1.5～1.6m。Pit184・167で根石を確認できた。これら柱穴列の内側で建物跡と推定できるプランを確認した。建物1は掘立柱建物で、東側をPit181・182・183・52、南側をPit52・239・160・225、西側をPit225・226・224で構成

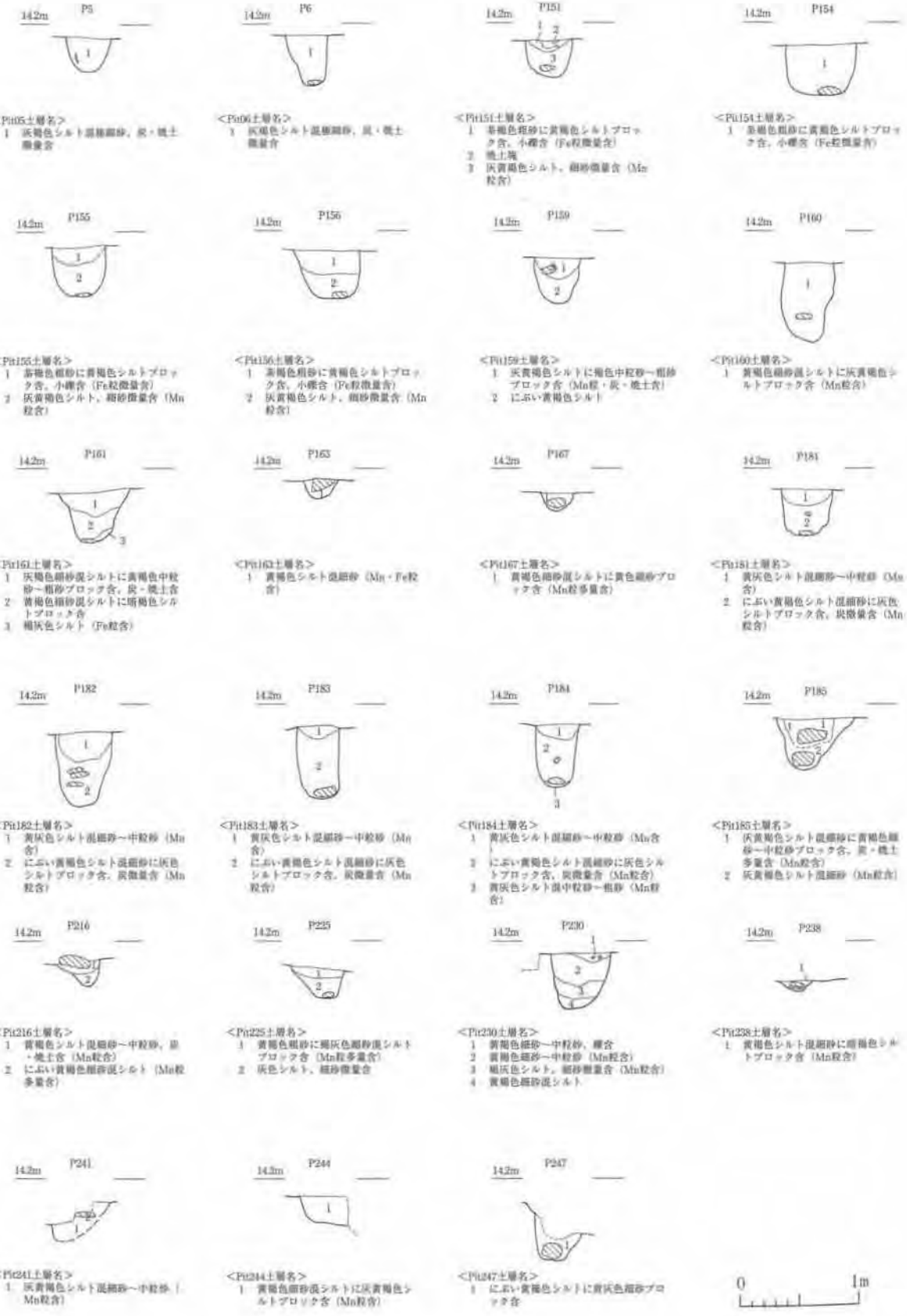


第58図　鷺山蝉遺跡A2～4区建物、柱穴列実測図

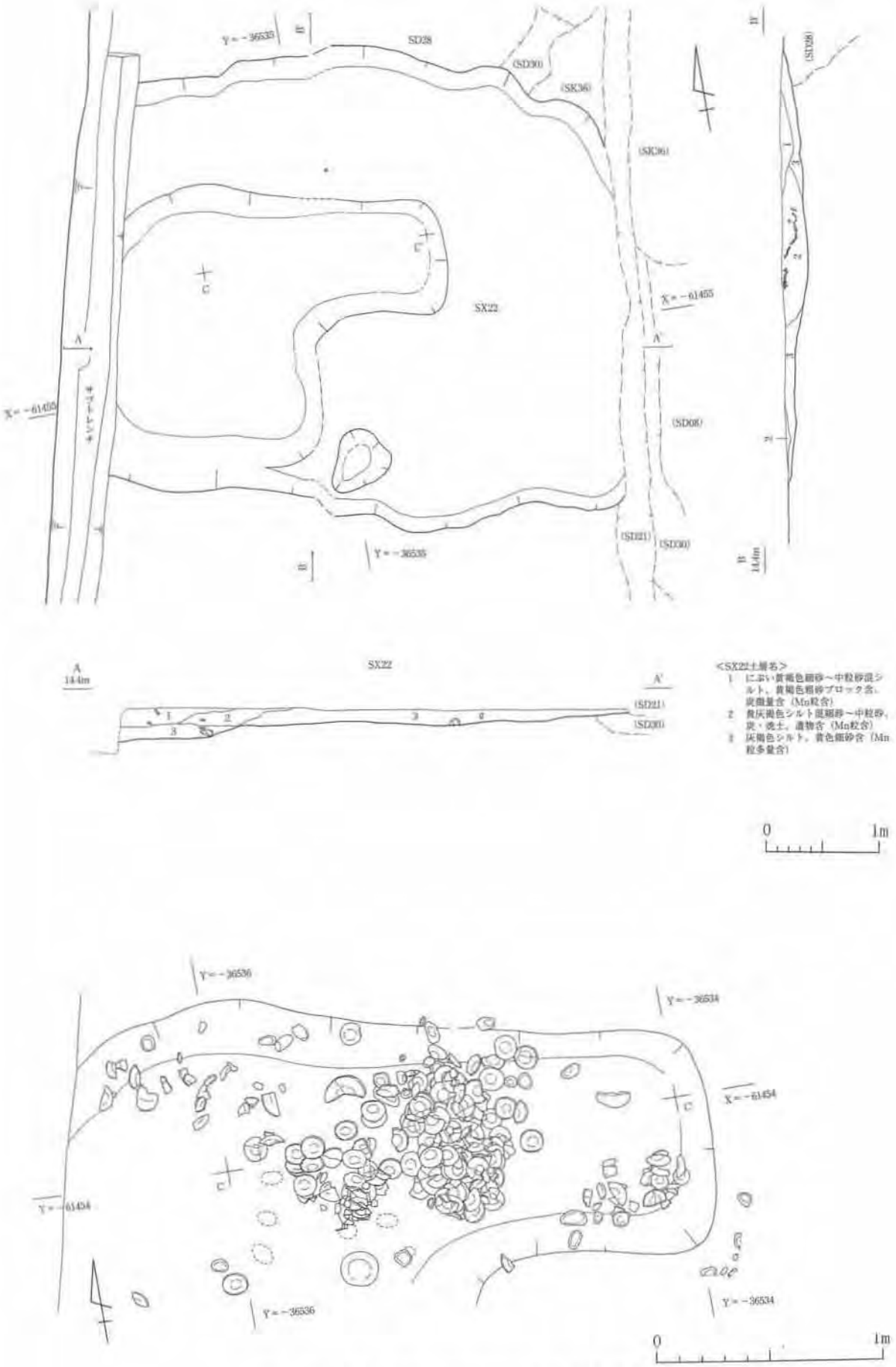
される。確認部分で東西3間、南北3間以上、柱間1.6～1.8m、規模は東西5.6m、南北5.6m以上となる。Pit181・182・183・160・225・224で根石を確認できた。またSA03・04柱穴列および建物１の南西側でも建物跡と推定できるプランを確認した。建物２は掘立柱建物で、北側をPit153・157、東側をPit154・155・156・157、南側をPit154・151で構成される。確認部分で東西2間以上、南北3間、柱間2.0m、規模は東西2.8m以上、南北6.0mとなる。Pit151・153・154・155・156・157で根石を確認でき



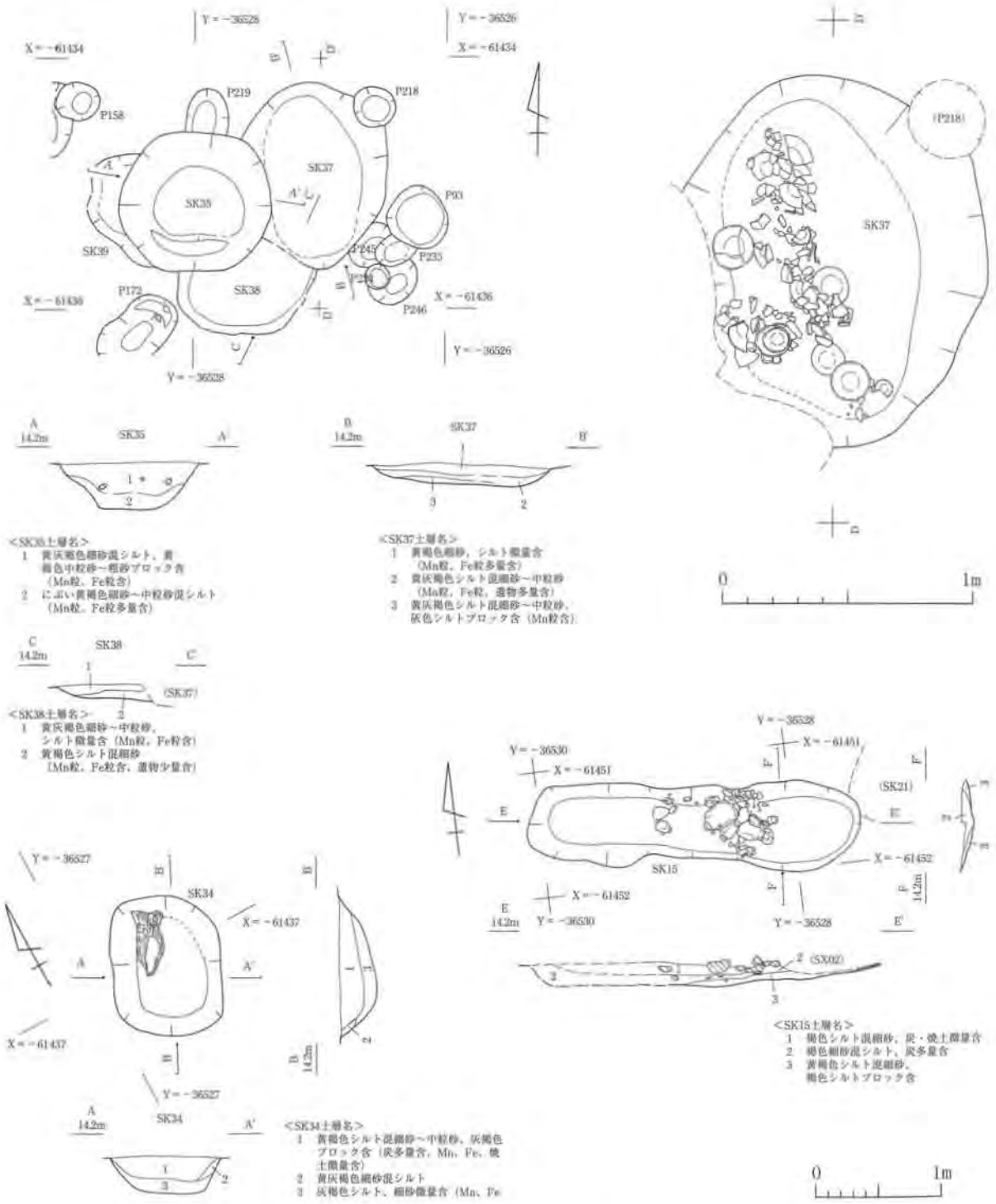
第59図　鷺山蝉遺跡A2～4区建物、柱穴列エレベーション実測図



第60図　鷺山蝉遺跡A2～4区建物、柱穴列Pit実測図



第61図　鷺山蝉遺跡A3区SX22落ち込み実測図



第62図　鷺山蝉遺跡A2・3区SK15・34・35・37・38実測図

た。いずれの遺構もⅣ層（戦国時代整地層）上面から構築されているが、切り合いに関してはSA04がSD04を、建物1がSD22を切るのみで、建物それぞれの時期の前後関係は不明である。

SK32（第58・119図745・746）

A4区東側で確認した。東側をSD22を切る。平面形は不整楕円形。規模は長軸1.2m、短軸0.75m、深さ0.3m。埋土に拳大の礫を含む。745は土師器皿B２－a類。746は土師器皿C２類。

SK34（第58・62図）

A3区北側で確認した。平面形は隅丸方形に近い。規模は長辺1.1m、短辺0.6m、深さ0.3m。本遺構内１層下部で炭化材が出土しており、１層中に炭を多く含む。実測可能な遺物は無かったが、土師器皿細片が出土すること、SK35・37と埋土が似ることから本時期に相当すると判断した。だが詳細な時期は不明である。

SK35（第58・62・119図747）

A3区北側で確認した。SK37を切る。平面形はほぼ円形。規模は直径1.2m、深さ0.35m。埋土に炭をわずかに含む。747はリング状の鉄製品で、馬具の可能性が考えられる。この他実測可能な遺物は無かったが、B２類・C２類の土師器皿細片が出土することから、本時期に相当すると判断した。

SK37（第58・62・119図748～761）

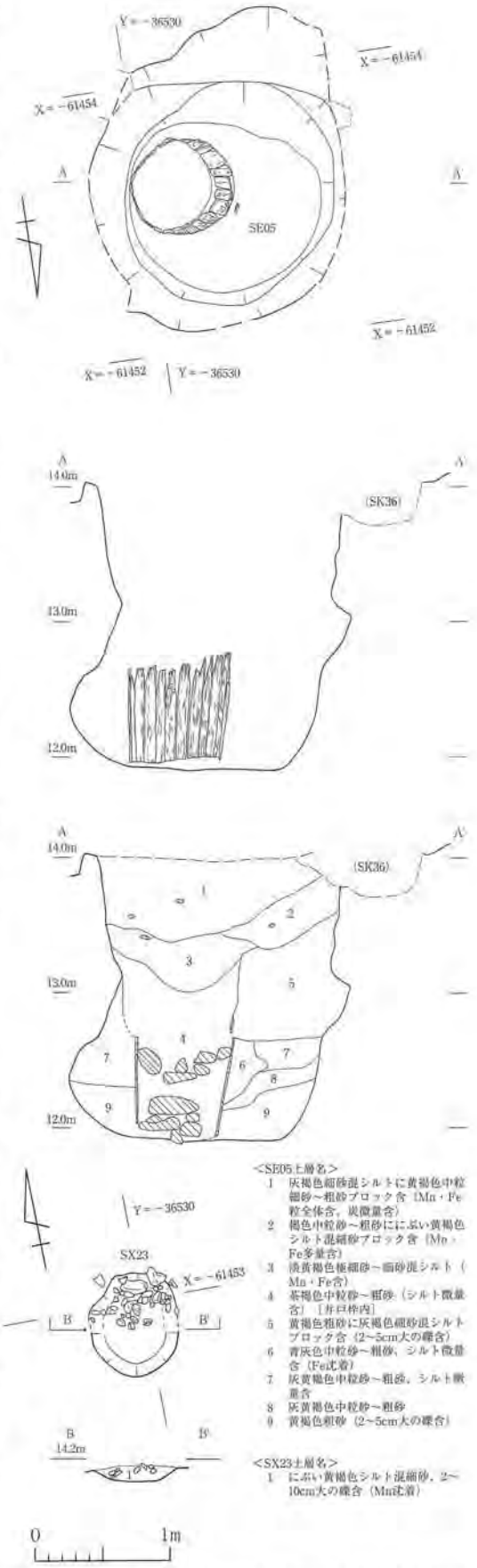
A3区北側で確認した。SK38を切る。SK35に切られ全体のプランは不明だが、楕円形状と推定される。規模は長軸1.5m、短軸1.15m、深さ0.2m。本遺構内で土師器皿集積を確認した。集積は遺構内西側に集中し、西側から廃棄されたと考えられる。土師器皿は直径13cm以上の大型品が目立つ。748～761は土師器皿で、748～754がB２－a類、755～759がB２－b類、760・761がC２類。このうち759の内面にタール付着。

SX06落ち込み（第49・55・56・119図762～768）

A1区東側で確認した。遺構検出当初より不整形状の炭化物が含まれる範囲を確認できた。北側をSX21に切られる。プランは不整形。規模は確認部分で東西4.2m、南北5.2m、深さ0.2m。北側でSX21、中央部で近世の井戸SE02・03に切られる。埋土は１・２層とも均一に炭を含んでいた。762は天目茶碗、763は平椀で、いずれも古瀬戸後Ⅳ期新段階。764は大窯第１段階の擂鉢。765は土師器皿B2－a類、766・767は土師器皿B２－b類。このうち766の内面にタール付着。768は砥石で2面使用。石材は泥岩。

SX08落ち込み（第55・56・119図769）

A2区南側で確認した。南側をSK07に切られるため全



第63図　鷺山蝉遺跡A3区SE05、SX23落ち込み実測図

体のプランは不明だが、不整形と推定される。規模は確認部分で南北2.8m、東西1.0m、深さ0.1m。769は北部系山茶碗の碗。

SX21落ち込み（第49・55・56・119図770～779）

A3区南端で確認した。SX06を切る。平面形は不整楕円形状。規模は長軸2.4m、短軸1.2m、深さ0.15m。SX06を切る。埋土は４・５層に炭を含む。770・771は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。772は北部系山茶碗の碗。773～779は土師器皿で、773はB２－a類、774～776はB２－b類、777～779はC2類。

SX22落ち込み（第49・61・120図792～810）

A3区南側で確認した。東側はSD21に切られ、SD28・30を切る。西側は調査区外で全体のプランは不明だが、隅丸方形状と推定される。規模は確認部分で東西4.6m、南北3.7m、深さ0.25m。埋土は１・２層に炭を含む。本遺構西側、２・３層中で土師器皿集積を確認できた。土師器皿は直径10cm以下の小型品が目立つ。792は大窯第1段階の平椀。793は古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯第1段階の擂鉢。794は土鈴の中の土玉か。795～810は土師器皿で、795～797がB２－a類、798～806・810がB２－b類、807～809がC２類。このうち810は内外面にタール付着。

SX23落ち込み（第63・120図811）

A3区南側で確認した。SE05を切る。プランは不整楕円形。規模は長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.1m。SE05と重複する位置にあり、井戸側抜き取り痕の可能性も考えられたが、埋土がSE05とは異なることから別遺構と判断した。埋土に５～10cm大の礫を多く含んでいた。811は大窯第１段階の擂鉢。

SX24落ち込み（第120図812、別添図1）

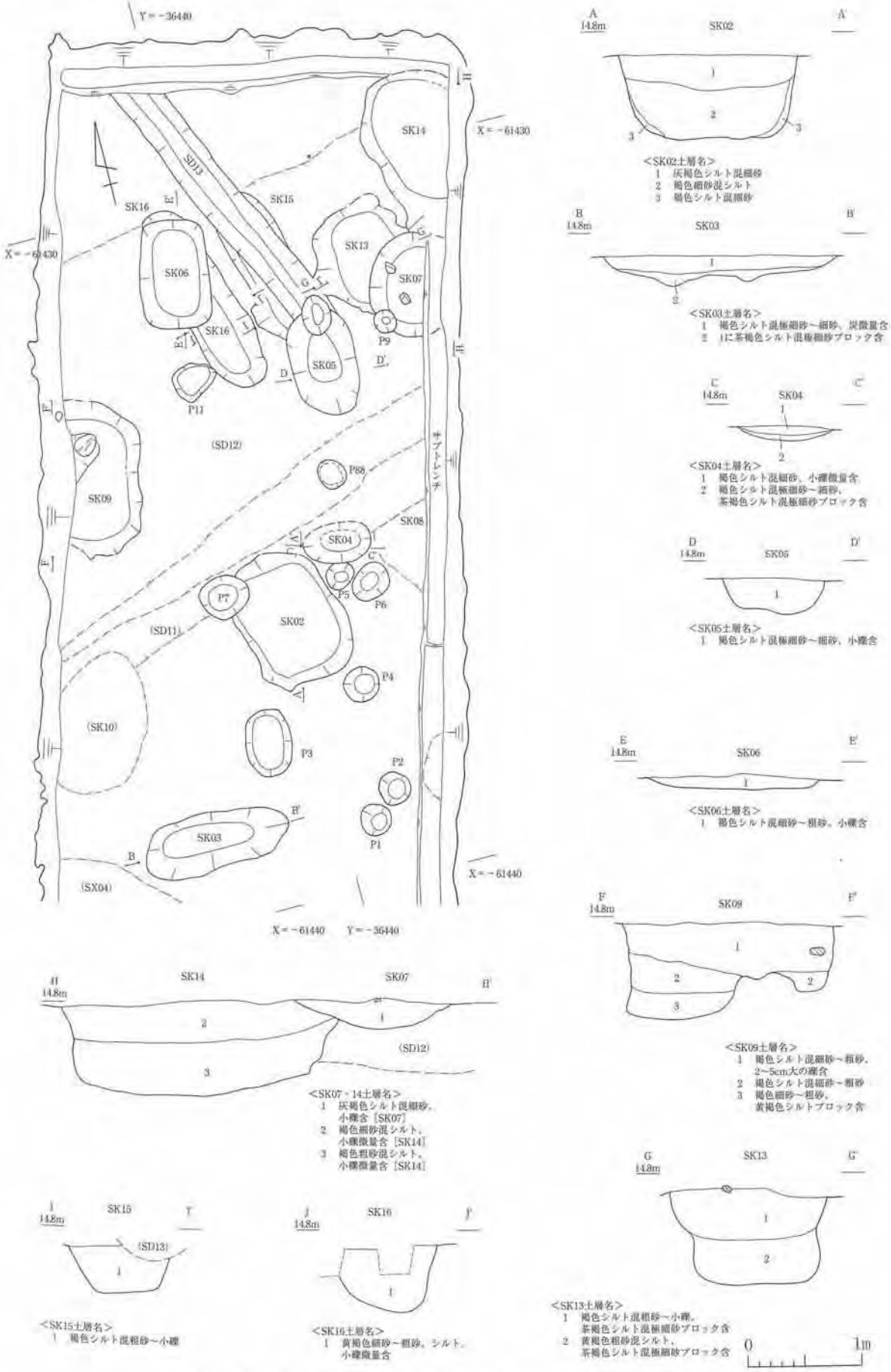
A4区東側で確認した。北側は調査区外のため全体のプランは不明。不整形と推定される。規模は確認部分で東西0.9m、南北1.1m、深さ0.15m。812は土師器皿B２－a類。

SE05（第49・63・120図813～815）

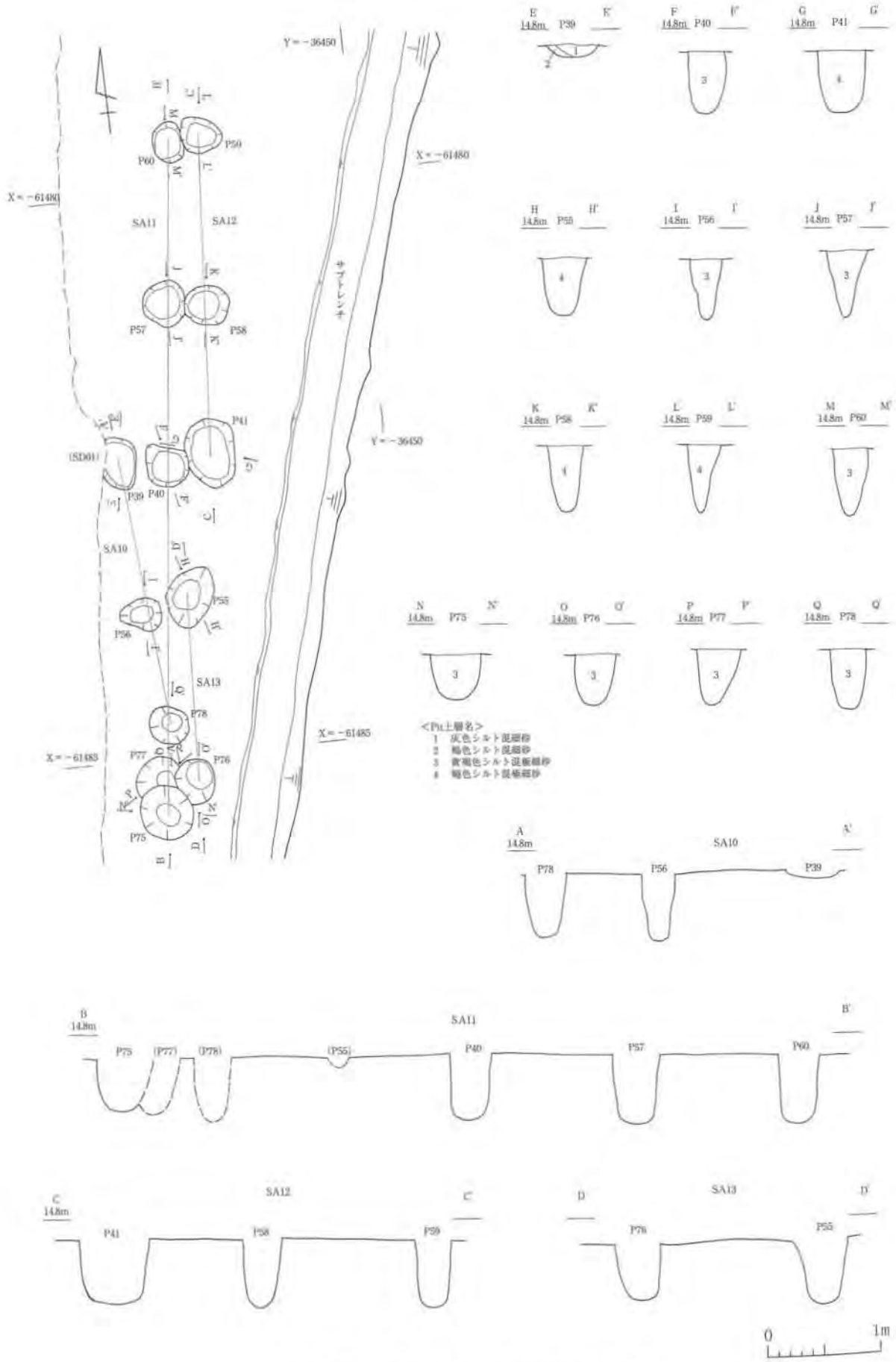
A3区南側で確認した。Ⅹ層砂礫層を掘り抜いて構築した井戸で、西側をSK36に切られる。掘り方の規模は確認部分で東西1.9m、南北2.5m、深さ2.1m。結桶積みの井戸で、井戸側最下段のみ遺存していた。側板は22枚で一周する。井戸側の規模は直径0.75m、高さ0.8m。上部に抜き取った痕跡が認められることから、本来は2段以上存在したと考えられる。井戸側内は拳大程度の石によって埋められており、これらを除去すると井戸底を確認できた。井戸底レベルはT.P.12.4m。813～815は井戸側板である。樹種は813がサワラ、814がスギ、815がサワラである。この他実測可能な遺物は無かった。土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

Pit出土遺物（第119図780～791、別添図１・２）

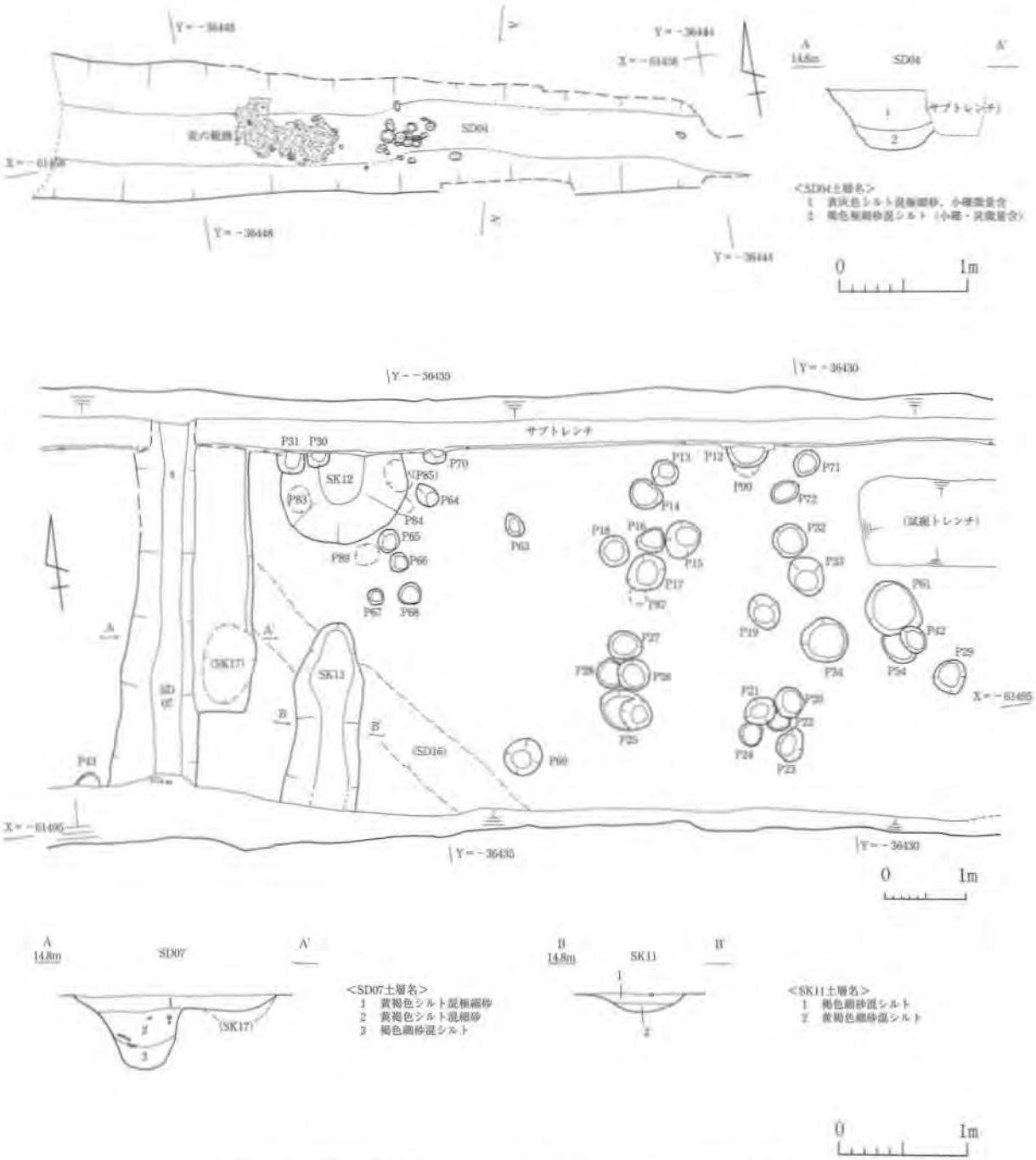
780・781はA2区北側Pit05出土の土師器皿で、ともにB２－b類。内外面にタール付着。782はA2区南側Pit32出土の古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢。783はA2区南側Pit34出土の古瀬戸後Ⅳ期新段階の袴腰形香炉。784がA2区南側Pit35出土の土師器皿B２－b類。785はPit42出土の土鈴。786・787はA2区南側Pit79出土の天目茶碗と、土師器皿C２類。788はA2区Pit117出土の古瀬戸後Ⅳ期の縁釉小皿。789はA4区Pit157出土の土師器皿B２－a類。790はA4区Pit239出土の土師器皿B１類。791はA3区Pit245出土の土師器皿B２－a類。



第64図　鷺山蝉遺跡B1区SK02～07・09・13～16実測図



第65図　鷺山蝉遺跡B2区柱穴列実測図



第66図　鷺山蝉遺跡B2区SD04、B3区SD07、SK11実測図

鷺山蝉遺跡B区

SK13（第64・121図834～836）

B1区で確認した。蝉土手城館跡の外部に位置する。SK07・Pit09に切られる。プランは楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸1.6m、短軸1.3m、深さ0.85m。834～836は土師器皿で、834はB２－a類、835はB２－b類、836はC２類。

Pit07（第64・121図837）

B1区で確認した。蝉土手城館跡の外部に位置する。SD11・SK02を切る。プランはほぼ円形。規模は直径0.6m、深さ0.3m。837はB２－b類の土師器皿。

B2区柱穴列（第65図）

B2区南側で確認した。SA10はPit78・56・39で、SA11はPit75・40・57・60で、SA12はPit41・58・59で、SA13はPit76・55で構成される。SA11とSA12・13は一部切り合いを有するが、南北4間、柱間1.4mに復元できる。SA10はSD01との切り合いから本柱穴列に含まれない可能性が高い。いずれも顕著な遺物は出土しなかった。戦国時代の区画溝SD07と同一方向であることから、本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

SD04（第66・121図816～823）

B2区北端で確認した。流向は東－西方向。溝の両端は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.4m、幅1.1m、深さ0.45m。断面形状はU字形。本遺構内で土師器皿集積を確認できた。集積は直径10cm以下の小型品が目立つ。また埋土の２層上面で炭の集中する範囲が見られた。816は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢。817は古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯第１段階の擂鉢。818～822は土師器皿で、818・819はB2－b類、820～822がC2類。823は北部系山茶碗の碗。

SD07（第66・121図824～831）

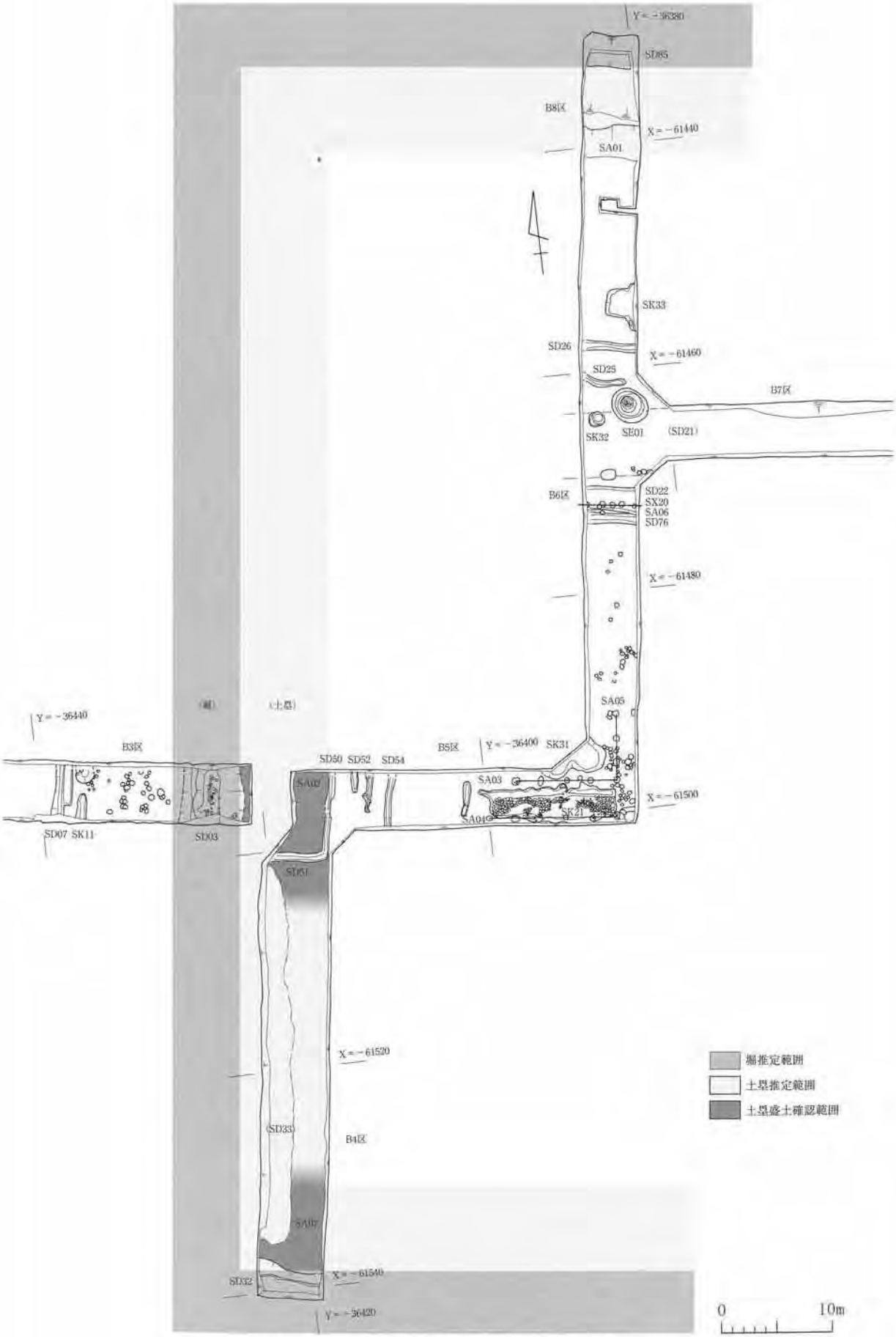
B3区中央で確認した。流向は北－南方向。両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.0m、幅1.6m、深さ0.55m。断面形状は東側のみにテラスを有するU字形であるが、上部を浅く掘り直した可能性も考えられる。本遺構内には土師器皿が廃棄されていた。土師器皿は直径10cm以下の小型品が目立つ。824～831は土師器皿で、824～826はB2－a類、827～830はB２－b類、831はC２類。このうち、830の底部外面には墨書が見られ、「十三□（書カ）」と判読できる。

SK11（第66・121図832・833）

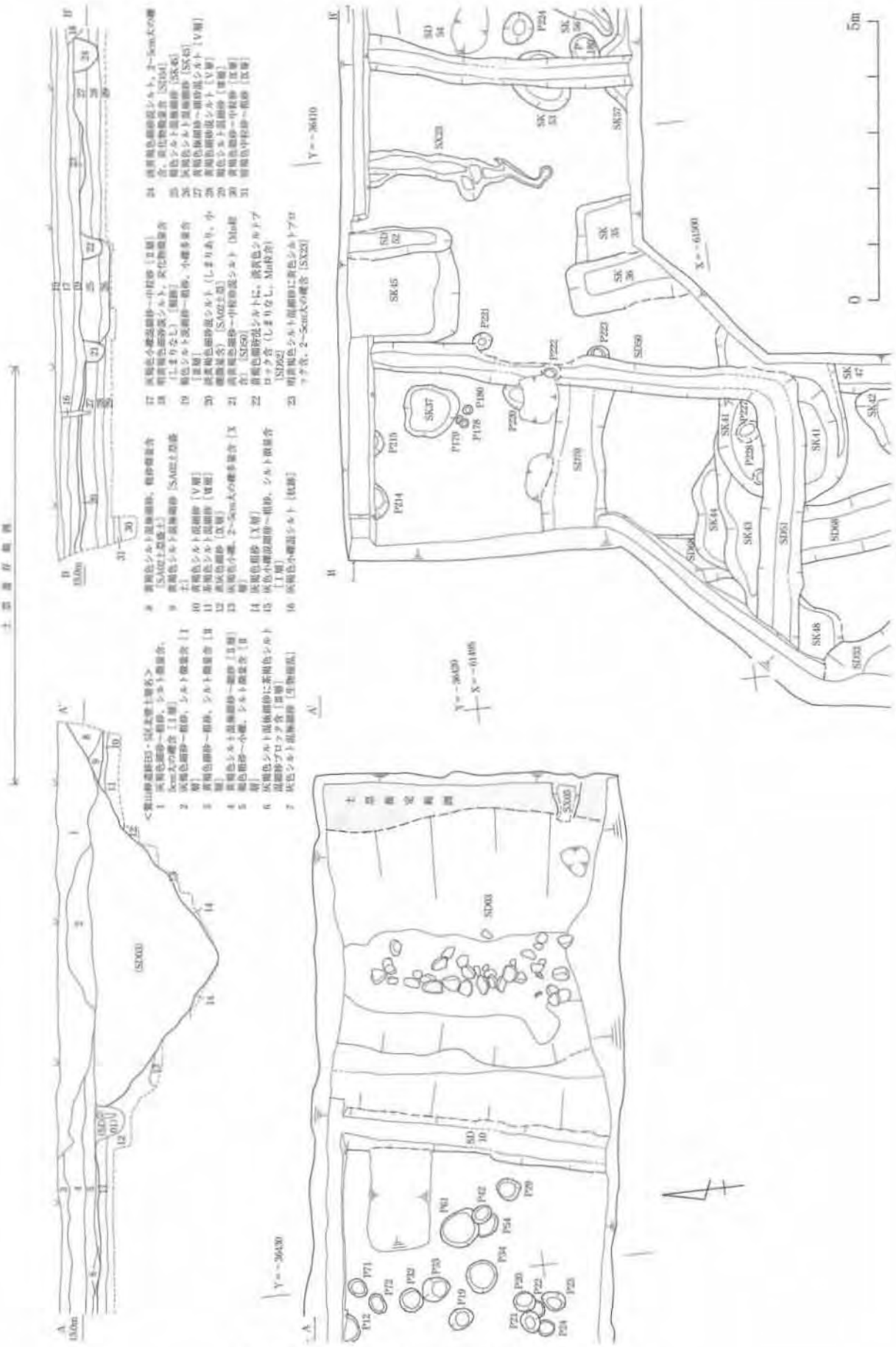
B3区中央で確認した。蟬土手城館跡の外部に位置し、先述のSD07の東側に位置する。南側は調査区外のため全体のプランは不明だが、隅丸長方形と推定される。規模は確認部分で東西0.8～1.0m、南北2.4m、深さ0.2m。832・833はC2類の土師器皿で、832は外面に、833は内面にタールが付着する。

SD03（第67～69・121・122図838～867）

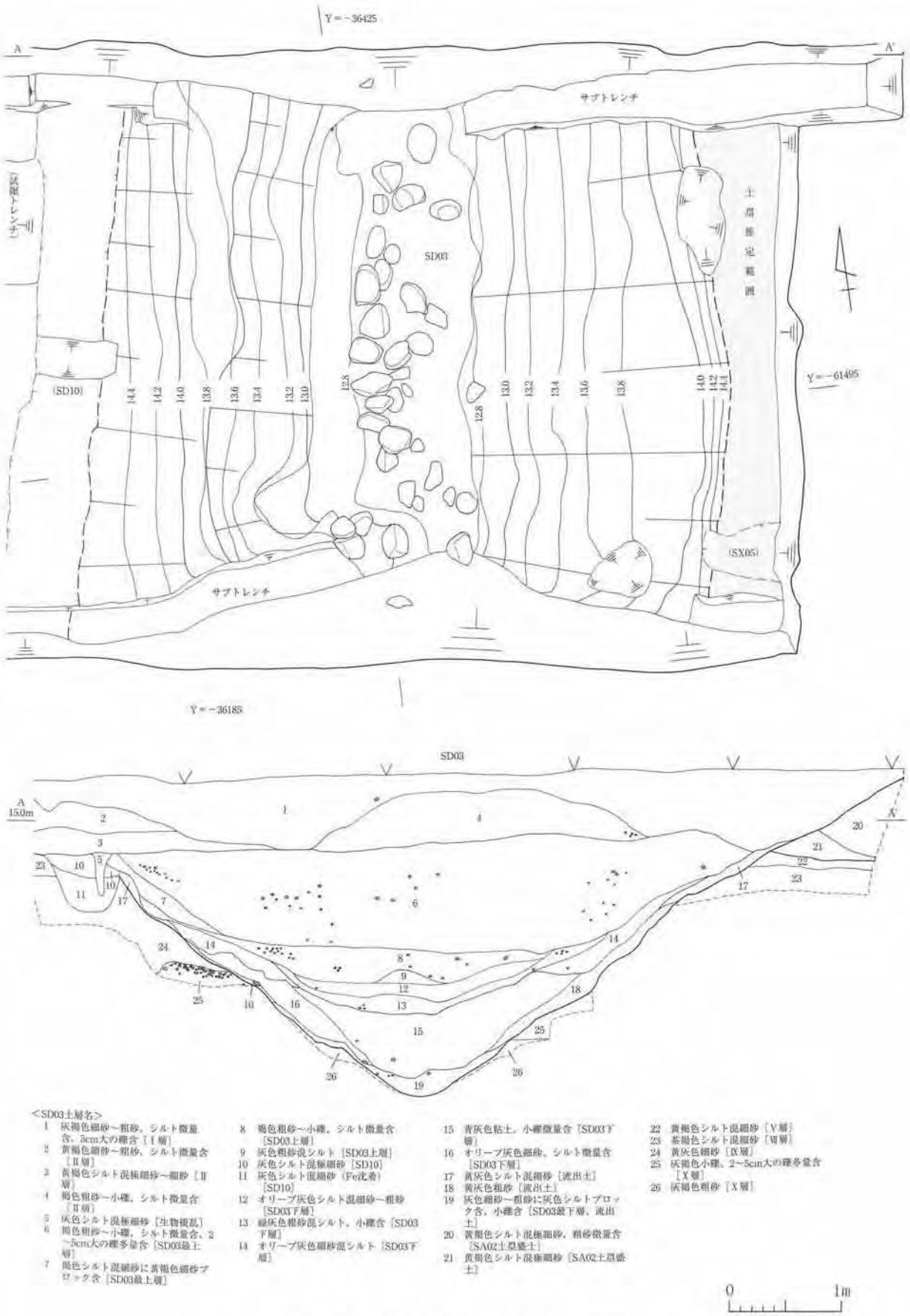
B3区東側で確認した。蟬土手城館跡の西辺を区画する南北方向の堀で、両端とも調査区外に伸びるため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ6.0m、幅7.0m、深さ2.5m。断面形状は薬研形（V字形）。埋土上層の６～９層では近世陶磁器が出土しており、近世以降に土塁を壊して埋め戻した可能性が高い。埋土下層の12～19層は堀機能時の泥状堆積で、１m近い厚さで堆積していた。この泥状堆積中からは木製品が良好な状態で出土した。また堀底付近15層中で人頭大の石を複数確認した。石は堀底に接しておらず、堀の西肩寄りに位置し、西側から投棄されたと考えられる。近接地に石組をともなう構築物が存在した可能性が高い。838は古瀬戸後Ⅳ期の小壺で、肩部に波状文が施される。839は大窯第1段階の擂鉢。840～842は土師器皿で、840は外面底部に墨書が見られるが、判読不能。841はB２－b類。842はB２－b類で、内外面に顕著なタール付着。843は土師器内耳鍋。844は中国産磁器の同安窯系白磁碗Ⅳ－１類。845は古瀬戸中期様式口縁端部。846～848は北部系山茶碗。このうち、847には墨書あり。849は木製品箸。850～867は漆器。850・851は内赤外黒の椀で、樹種はいずれもトチノキ。852は内赤外赤の椀で木質部分は遺存せず、漆膜のみ遺存。樹種は不明。853～855は内黒外黒の椀で高台を欠損する。樹種はいずれもトチノキ。このうち854・855は外面体部に朱漆で紋様



第67図　鷺山蝉遺跡B区戦国時代遺構配置図



第68図　鷺山蝉遺跡B3・5区SA02土塁実測図

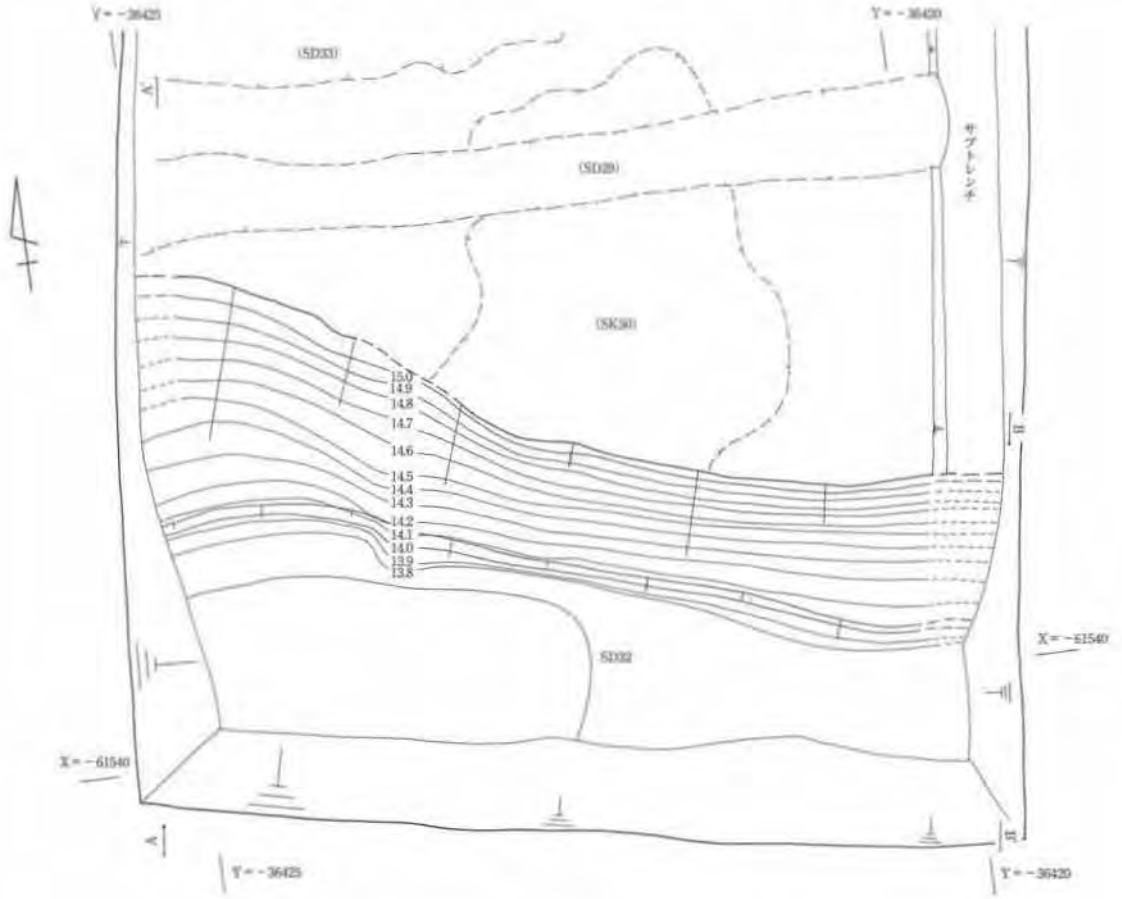


<SD03土層名>

1 灰褐色細砂～粗砂、シルト微量含、5cm大の礫含〔Ⅰ層〕
2 黄褐色細砂～粗砂、シルト微量含〔Ⅱ層〕
3 黄褐色シルト混極細砂～細砂〔Ⅱ層〕
4 褐色粗砂～小礫、シルト微量含〔Ⅱ層〕
5 灰色シルト混極細砂〔生物擾乱〕
6 褐色粗砂～小礫、シルト微量含、2～5cm大の礫多量含〔SD03最上層〕
7 褐色シルト混細砂に黄褐色細砂ブロック含〔SD03最上層〕
8 褐色粗砂～小礫、シルト微量含〔SD03上層〕
9 灰色粗砂混シルト〔SD03上層〕
10 灰色シルト混極細砂〔SD10〕
11 灰色シルト混細砂（Fe沈着）〔SD10〕
12 オリーブ灰色シルト混細砂～粗砂〔SD03下層〕
13 緑灰色粗砂混シルト、小礫含〔SD03下層〕
14 オリーブ灰色細砂混シルト〔SD03下層〕
15 青灰色粘土、小礫微量含〔SD03下層〕
16 オリーブ灰色細砂、シルト微量含〔SD03下層〕
17 黄灰色シルト混細砂〔流出土〕
18 黄灰色粗砂〔流出土〕
19 灰色細砂～粗砂に灰色シルトブロック含、小礫含〔SD03最下層、流出土〕
20 黄褐色シルト混極細砂、粗砂微量含〔SA02土層盛土〕
21 黄褐色シルト混極細砂〔SA02土層盛土〕
22 黄褐色シルト混細砂〔Ⅴ層〕
23 茶褐色シルト混細砂〔Ⅶ層〕
24 黄灰色細砂〔Ⅸ層〕
25 灰褐色小礫、2～5cm大の礫多量含〔Ⅹ層〕
26 灰褐色粗砂〔Ⅹ層〕

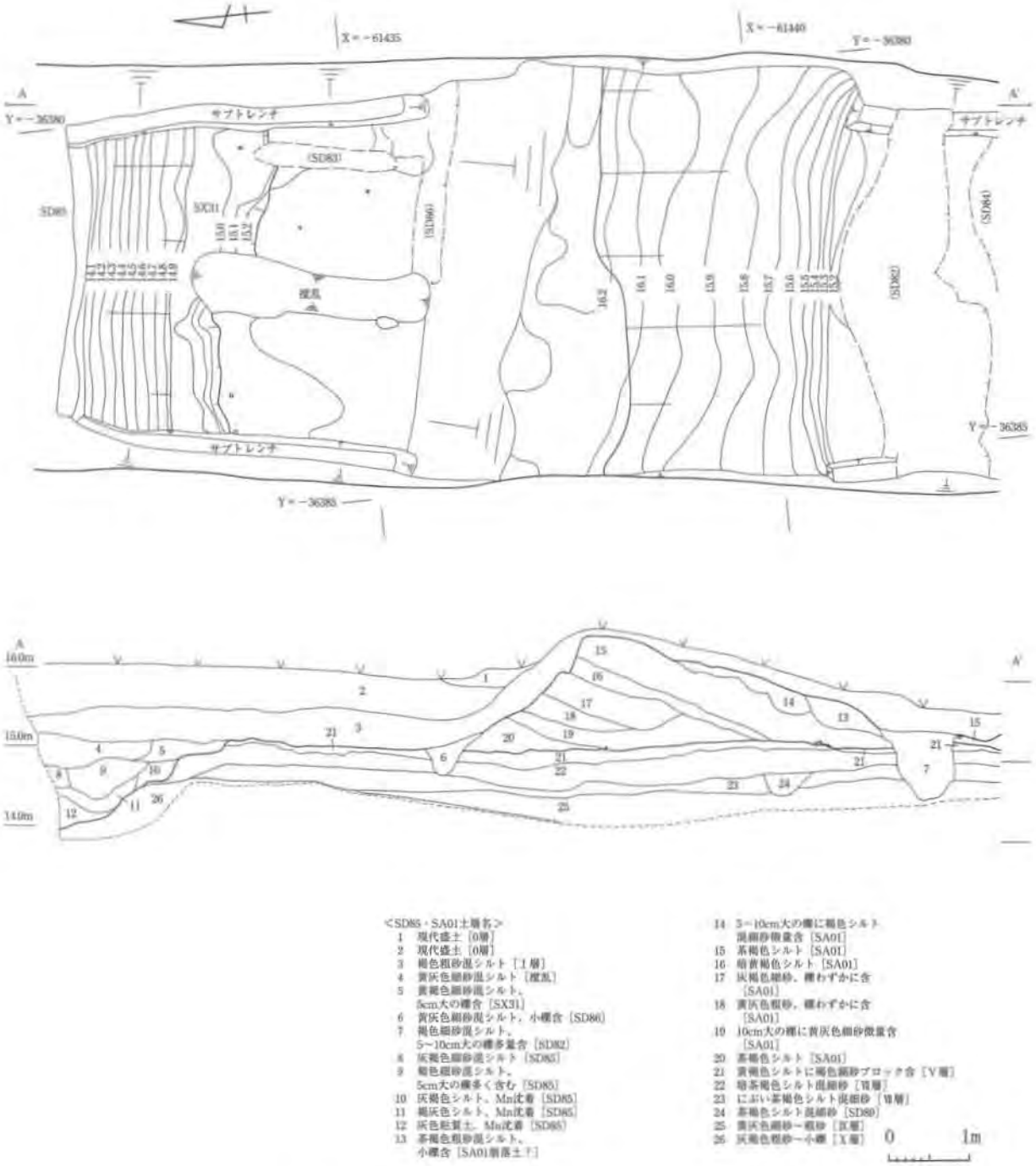
0　1m

第69図　鷺山蝉遺跡B3区SD03実測図



<SD32土層名>
1 黄褐色粗砂混シルト、2~20cm大の礫含
2 にぶい黄褐色中粒砂混じりシルト、
2~10cm大の礫微量含
3 灰黄褐色シルト、2~5cm大の礫含
4 黄褐色細砂混シルトに褐灰色シルト
塊粗砂ブロック含（Mn・Fe粒含）
5 明灰褐色シルト混粗砂（Mn・Fe粒含）
6 黄褐色シルト混細砂（Mn粒全体に含）
7 暗褐色中粒砂、シルト微量含、2~5cm大の礫含
8 黄褐色礫、シルト微量含（Mn・Fe粒含
9 黄褐色細砂混シルトに黄色粗砂含、
3~5cm大の礫含［土草盛土］
10 黄褐色細砂混シルト［土草盛土］
11 黄褐色極細砂~細砂混シルト［Ⅴ層］
12 暗褐色シルト混細砂~中粒砂［Ⅶ層］

第70図　鷺山蝉遺跡B4区SD32実測図



第71図　鷺山蝉遺跡B8区SD85、SA01土塁実測図

が描かれる。856～859・861・864は内黒外黒の椀で高い高台を有する。樹種は857がモクレン属で、それ以外はトチノキ。それぞれ外面体部に朱漆で紋様が描かれており、856は亀（蓬莱紋）が描かれる。860・862・863・865・866は内黒外黒の椀で、高台を欠損するが低い高台と推定される。樹種は860がカバノキで、それ以外はトチノキ。それぞれ外面体部に朱漆で紋様が描かれており、860・862・866は鶴（蓬莱紋）が描かれる。863・865・866は内面見込みに朱漆で紋様が描かれる。867は高台部分のみ遺存。外面に不定方向の刻みがあり、内面見込みに朱漆で紋様が描かれる。樹種はトチノキ。SD03からはこの他動物遺体（貝・骨）が出土している（詳細は第６章第５節参照）。

SD32（第67・70・123図868～876）

B4区南側で確認した。蟬土手城館跡の南辺を区画する東西方向の堀で、両側、南側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.2m、幅2.2～3.9m、深さ1.4m。断面形状は断面Aライン上では不明、Bライン上では逆台形状。868は中国産磁器の青磁碗。869は古瀬戸後Ⅳ期新段階擂鉢。870は常滑玉縁口縁壺。871は瓦質土器火鉢脚部。872・873は土師器皿で、872はB2類、873はC2類。874は大窯第3段階擂鉢、875は大窯第3段階丸皿。876は砥石で石材はホルンフェルス。

SA02・07土塁（第67・68・70・123図878～922）

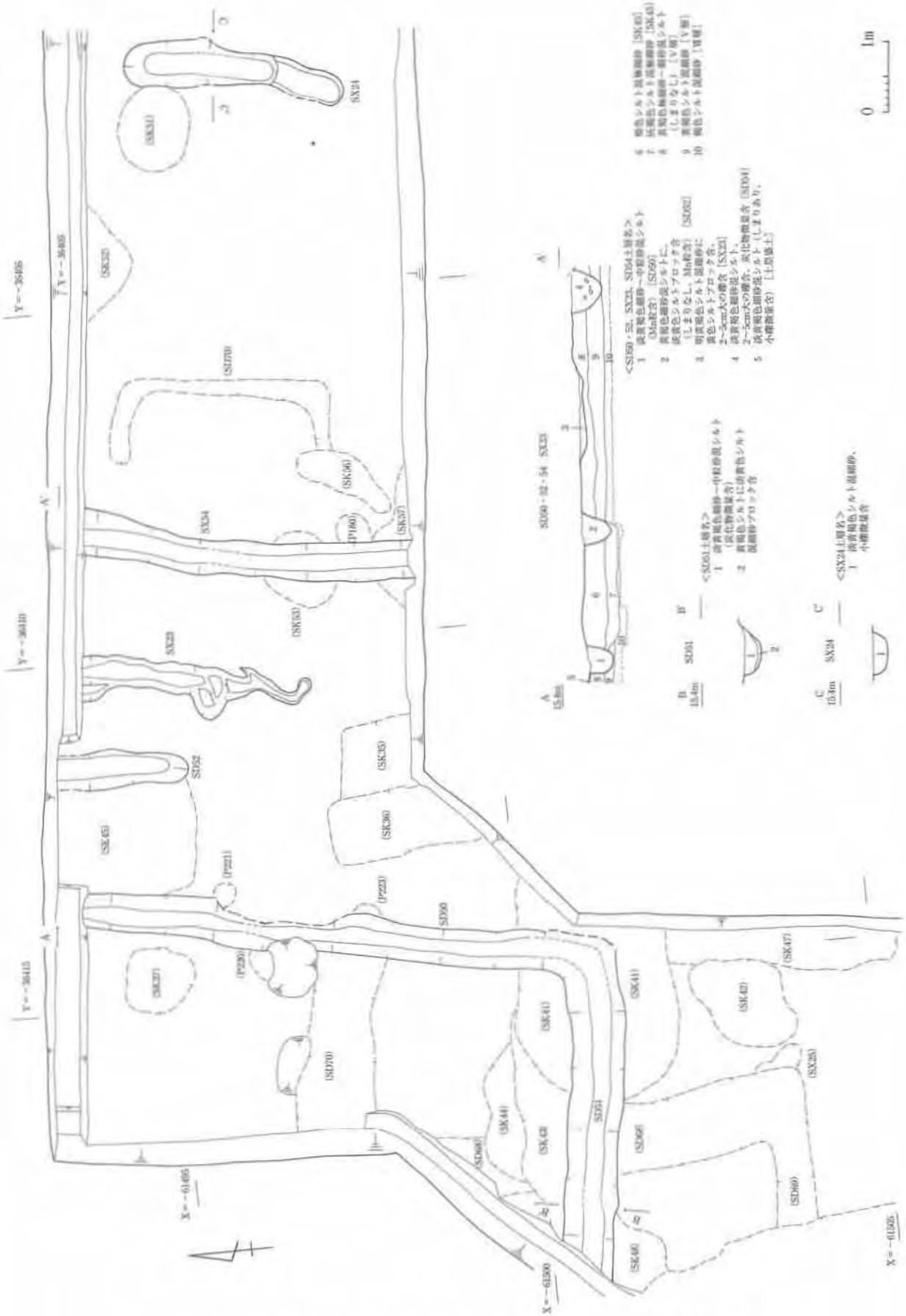
SA02はB3区東側、B4区北側、B5区西側で、SA07はB4区南側で確認した。B3区では堀SD03の東側断面でしまりのある土層（68図８・９層）を現地表下15cm付近まで確認できた。一方B4区北側、B5区西側、B4区南側は削平を受けていたが、断面で層厚５～20cm程度のしまりのある土層（68図20層、70図9・10層）を確認できた。SA02の遺存範囲は東西幅4.5m、南北長10m。SA02の東端でSD50を確認しており、土塁の周囲を区画する可能性が考えられる。またSD51の南側は土塁盛土が遺存しており、土塁が続くと考えられる。B4区中央は盛土を全く確認できなかった。SA07の遺存範囲は東西幅3.2m、南北長12m。878は条痕文土器体部片。879は須恵器杯蓋。880は灰釉陶器椀。881はロクロ土師器椀。882は土師器清郷型鍋。883は中国産磁器白磁碗。884は中国産磁器青磁皿。885～889は北部系山茶碗の皿。890は南部系山茶碗の碗。891～893・898～901は北部系山茶碗の碗。894・895は墨書が見られる北部系山茶碗の碗で、判読不能。896・897は墨書が見られる北部系山茶碗の皿で、897の墨書は判読不能、896は花押と考えられる。902は古瀬戸中期の卸皿。903～906は古瀬戸後期の縁釉小皿で、903・904は後Ⅰ期、905は後Ⅱ期、906は後Ⅳ期古段階。907は後Ⅳ期古段階の四耳壺。908は古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期の蓋。909は古瀬戸後Ⅱ期の内耳鍋。910は古瀬戸後Ⅰ期の折縁深皿。911は常滑甕。912・913は土師器伊勢型鍋。914は瓦質羽釜。915～917は土師器内彎型羽釜。918・920・921はM類の土師器皿、919はC１類の土師器皿。922はふいごの破片。

SD85・SA01土塁（第67・71・123図877・923～925）

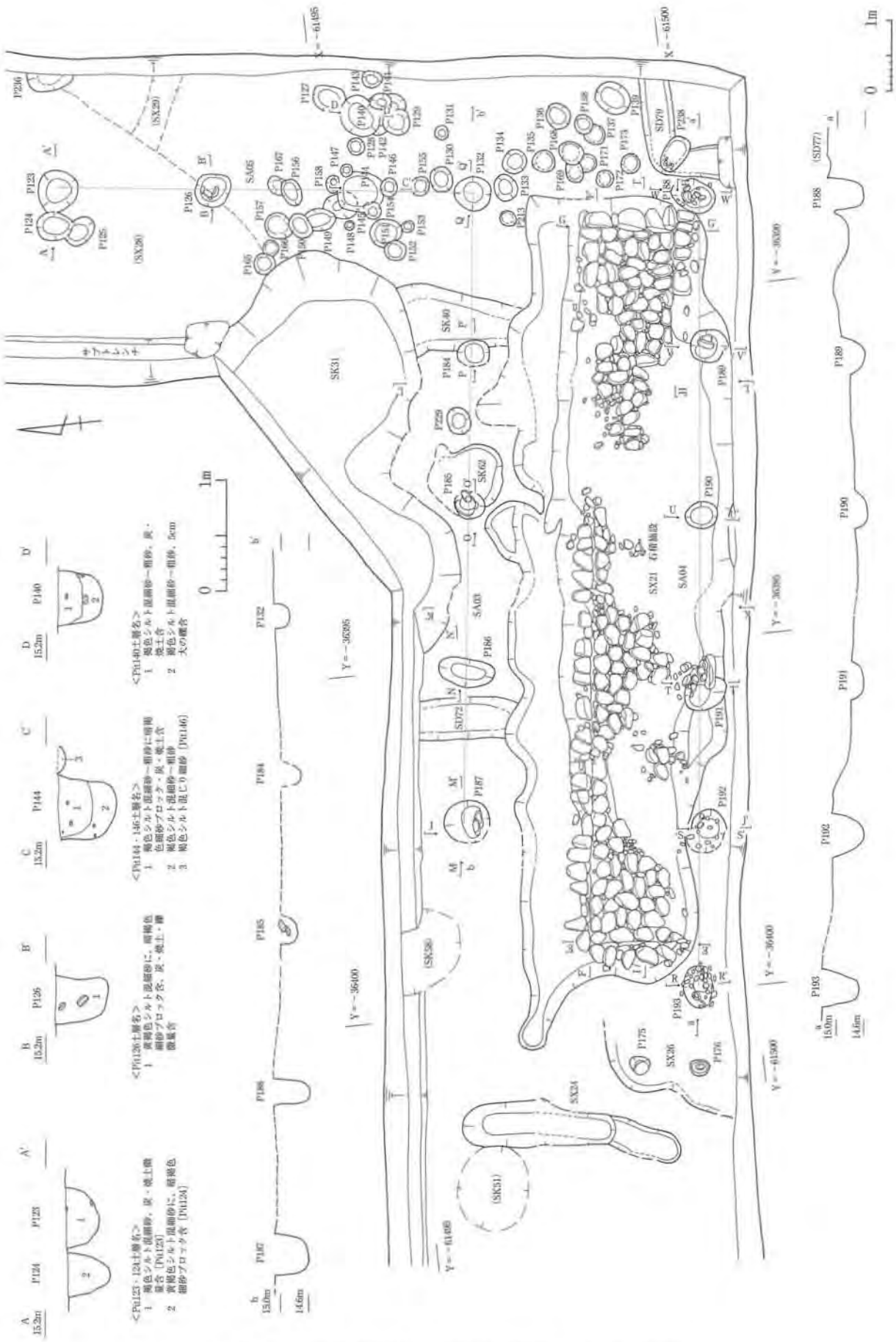
B8区で確認した。蟬土手城館の北辺を区画する堀とその内部に築かれた土塁に相当する。SD85は流向が東－西方向。溝の両側および北側は調査区外のため全体のプランは不明。堀底も調査区外のため確認できなかった。規模は確認部分で長さ4.7m、幅2.4m、確認最深部までの深さ1.2m。埋土は10～12層で堀機能時の泥状堆積を確認でき、上層の８・９層は近世以降の埋め戻し、４・５層は現代の撹乱であった。SA01は北側が土塁ベース面となる21層（Ⅴ層）まで後世の撹乱を受けており、原形をとどめていない。規模は基部残存幅6.8m。SD85南肩部まで土塁基底部が遺存した場合、復元幅は9mとなる。また堀の確認最深部からの高さ2.4m、ベース面からの高さ1.5mとなる。

SA01の構築状況を考えると、まず21層（Ⅴ層）をベース面としており、堀の南肩部分に沿うように20層（21～23層に由来する）を盛土し、続いて19層（25・26層に由来する地山砂礫層）を盛土として基礎となる堤状の高まりを先に構築する。その後堤状の高まり南側の傾斜に沿って17・18層（砂礫）と15・16層（粘質土）を交互に盛土していく。明確な版築は認められないが、粘質土はしまりが見られた。盛土南側の傾斜角度は20度程度で、この傾斜角度が土塁斜面と同一と仮定するならば、土塁の高さはベース面となる21層から推定2m近くに及ぶ。

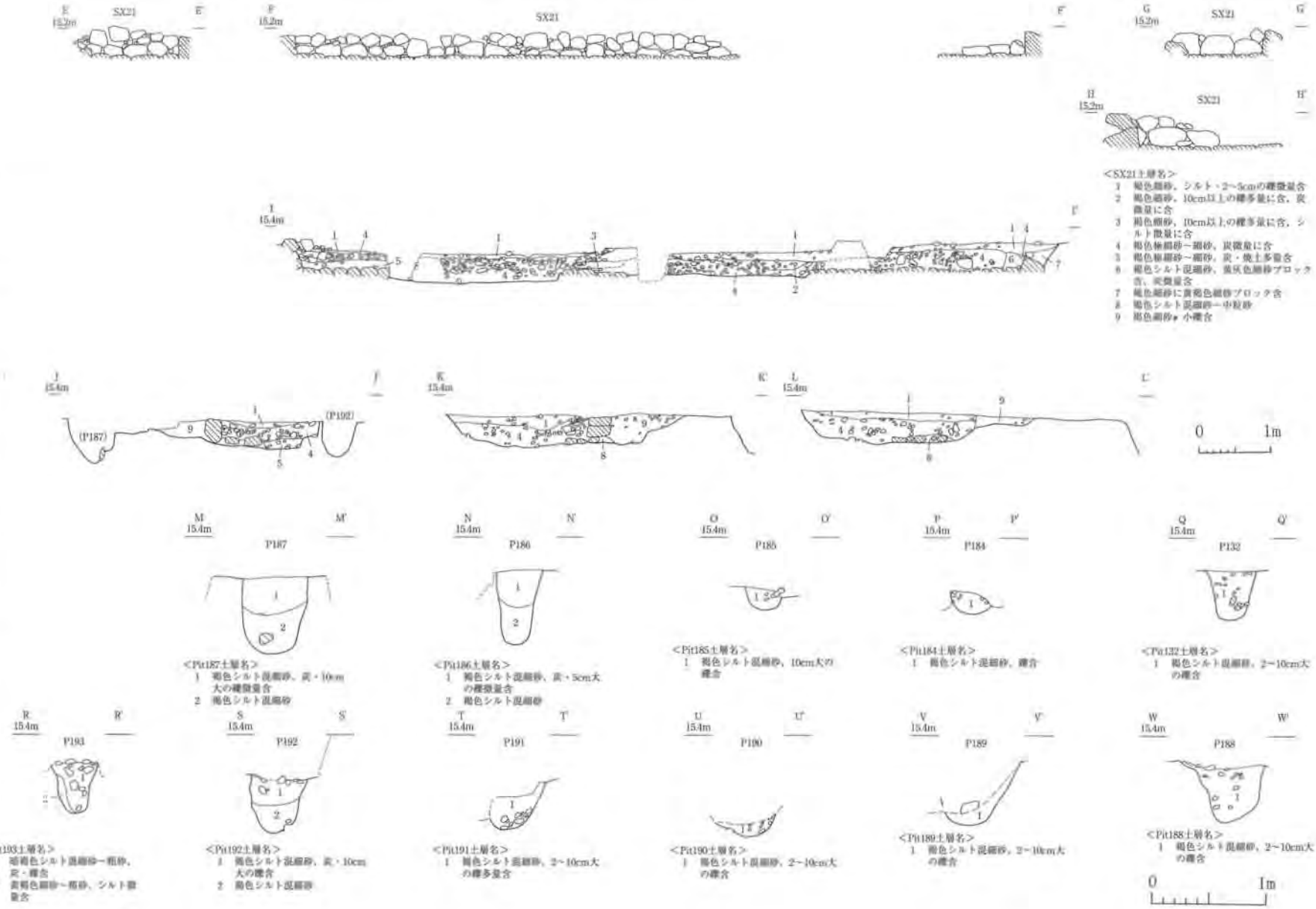
なお、このSA01に関しては本調査地点の西側で平成16年度市内遺跡調査で試掘調査を実施してい



第72図　鷺山蝉遺跡B4・5区SD50～52・54、SX23落ち込み実測図



第73図　鷺山蝉遺跡B5区SX21石積施設、柱穴列実測図



第74図　鷲山蝉遺跡B5区SX21石積施設、柱穴列Pit断面実測図

る。報文では土塁の確認部分の規模は幅6.5m、高さ1.4m以上。土塁構築に関しては堀に沿った盛土の高まりと、その南側の砂礫と粘質土の互層状の盛土が確認されていることから、本調査地点も同様の構築方法を行っていることが確認できた。877がSD85出土遺物、923～925がSA01出土遺物である。877は鋳造遺構の炉壁破片で、鉱滓付着部分と被熱部分があることから炉壁内面に比定できる。また、ふいご接合部と考えられる部分も確認できる。923は南部系山茶碗の碗、924は北部系山茶碗の碗で、土塁盛土中から出土した。925は古瀬戸後Ⅳ期新段階の平椀で、土塁表土から出土した。

SD50・51（第67・68・72・126図1010）

B5区西側で確認した。プランL字状を呈する溝で、流向はSD50が北－南方向、SD51が東－西方向。溝の両端は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分でSD50が長さ7.6m、幅0.5m、深さ0.3m、SD51が長さ4.5m、幅0.6m、深さ0.3m。断面形状はU字形。SD50の東側では盛土が確認できないことから、SA02土塁の東端部を区画する溝の可能性が考えられる。またSD51の南側は土塁盛土が遺存しており、土塁が続くと考えられる。1010はB２－a類の土師器皿である。

SD52・54（第67・68・72図）

B5区西側で確認した。ともに北－南方向の溝で、SD52は南側で行き止まりとなる。溝の両端は調査区外のため全体のプランは不明。規模はSD52が確認部分で長さ2.0m、幅0.5m、深さ0.4m。SD54は確認部分で長さ5.0m、幅0.5m、深さ0.45m。いずれも断面形状はU字形。実測可能な遺物は無かったが、土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SX21石積施設・SA03～05柱穴列（第67・73・74・126図992～1002）

B5区西側で確認した。四壁を人頭大程度の川原石の石積みで囲んだ穴蔵状の遺構である。壁面の石積は2段遺存しており、底面も平坦な石敷きがなされていた。南側底面および壁面は後世に撹乱されており全体のプランは不明。石積部分の規模は東西11.0m、南北1.6m、高さ0.35m。埋土には大量の礫が含まれており（１～４層）、一部で炭の混じる埋土（５・６層）を確認できた。また石積の裏込となるの土層（８層）と石積外側に施設構築時の掘り方を確認できた（９層）。掘り方の規模は東西12.3m、南北3.5m、深さ0.45m。この石積施設を囲むように柱穴列SA03～05を確認した。北側のSA03柱穴列はPit132・184・185・186・187から構成され、確認部分で東西4間、柱間2.3m。Pit185・187では根石を確認できた。南側のSA04柱穴列はPit188・189・190・191・192・193で構成され、確認部分で東西5間、柱間2.3m。Pit188・189・191・192・193では根石を確認できた。東側のSA05柱穴列はPit123・126・144・132で構成され、確認部分で南北3間、柱間2.3m。Pit126のみ根石が確認できた。全体のプランおよび規模は確認できないが、これらが石積施設に伴う建物の可能性が高い。992～1002はSX21石積施設出土遺物である。992～994は古瀬戸後Ⅳ期新段階で、992・993は仏餉具、994は徳利。995は大窯第１段階の擂鉢。996～999は土師器皿で、996はB２－a類。997・998はB２－b類。999はC2類。997・998は内外面にタールが付着する。1000は北部系山茶碗の皿、1001は砥石で、石材は泥岩。1002は剥片で、石材は頁岩。

SD22・SX20石積・SA06柱穴列（第67・75・126図1003～1009、1020・1021）

B6区中央で確認した。溝と石積、柱穴列からなる遺構で、蝉土手城館跡の内部を区画すると考えられる。位置的には北からSD22－SX20－SA06の関係となり、これら３つの遺構を合わせると北側

に溝を伴う石積と柱穴列からなる東西方向の構築物と考えられる。SD22は流向が東－西方向。溝の両端は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ4.9m、幅1.2m、深さ0.3m。SD22、SX20の上部は撹乱を受けており（西壁６層、東壁３層）、本層中で石積に由来する川原石を多数確認した。これらを除去すると石列を確認した。石列は石積最下段に相当し、本来は２段以上積まれてSD22南肩の護岸として機能していたと考えられる。SA06柱穴列は西からPit239・230・231・232・235で構成され、Pit234・233は柱穴列の南にずれる。確認部分で東西4間、柱間1.0～1.2m。この柱穴列はSD22、SX20石積構築後にほぼ同じ位置に作られたと考えられる。1003は古瀬戸後Ⅳ期新段階腰折皿。1004・1005は大窯第1段階擂鉢。1006～1008は土師器皿で1006・1007はB２－a類、1008はC２類。このうち1007は内外面にタール付着。1009は北部系山茶碗の碗。1020はPit231出土の古瀬戸後Ⅳ期新段階腰折皿。1021はPit231出土の土師器皿C2類。

SD76（第67・75・126図1011）

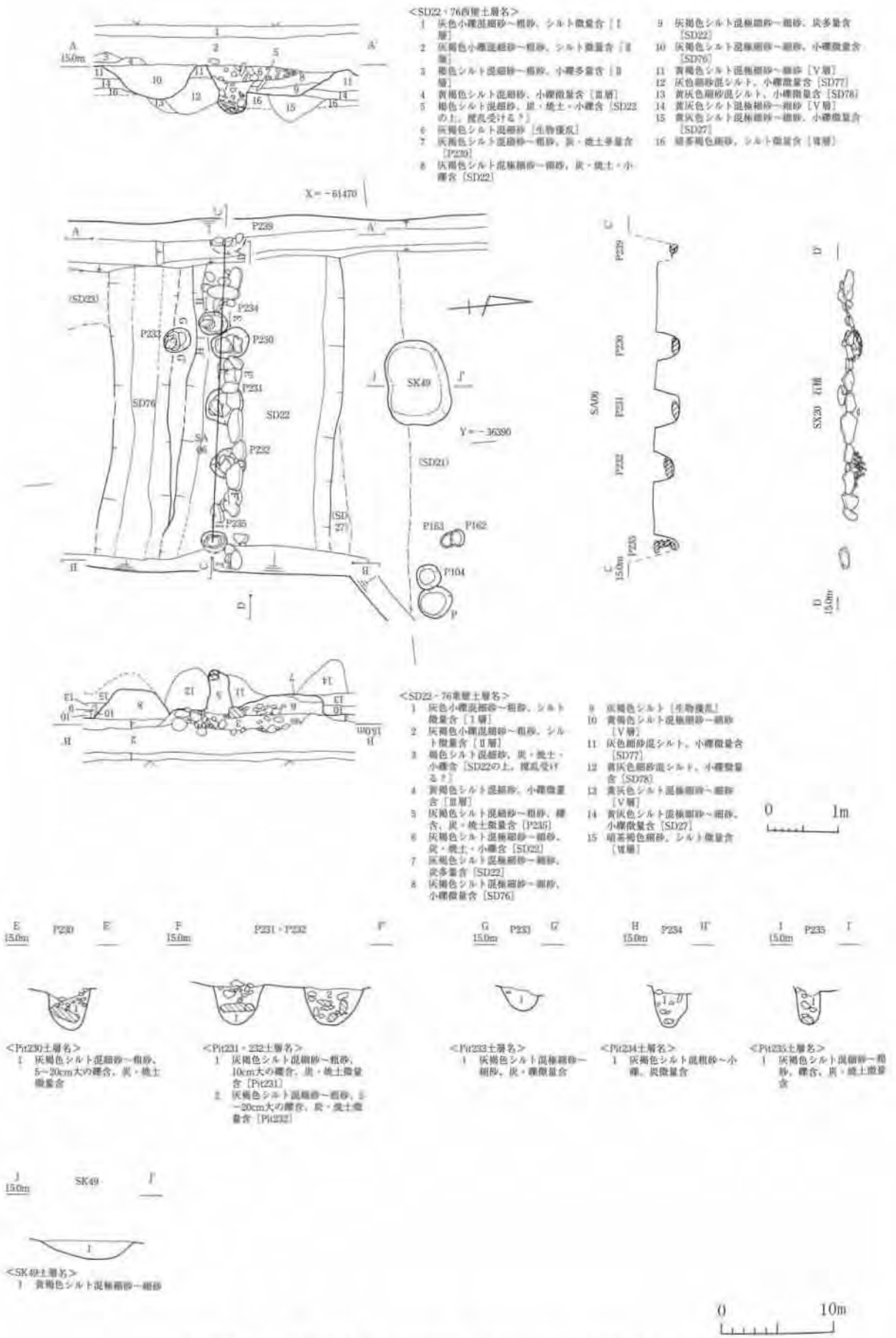
B6区中央で確認した。蟬土手城館跡の内部を区画する可能性が考えられる溝で。先述のSD22・SX20石積・SA06柱穴列の南側に位置する。北肩は撹乱によってSD22との前後関係は不明である。Pit233に切られる。流向は東－西方向。溝の両側は調査区外のため、全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ4.8m、幅1.1m、深さ0.45m。1011はC2類の土師器皿である。

SK31（第67・76・124図926～956）

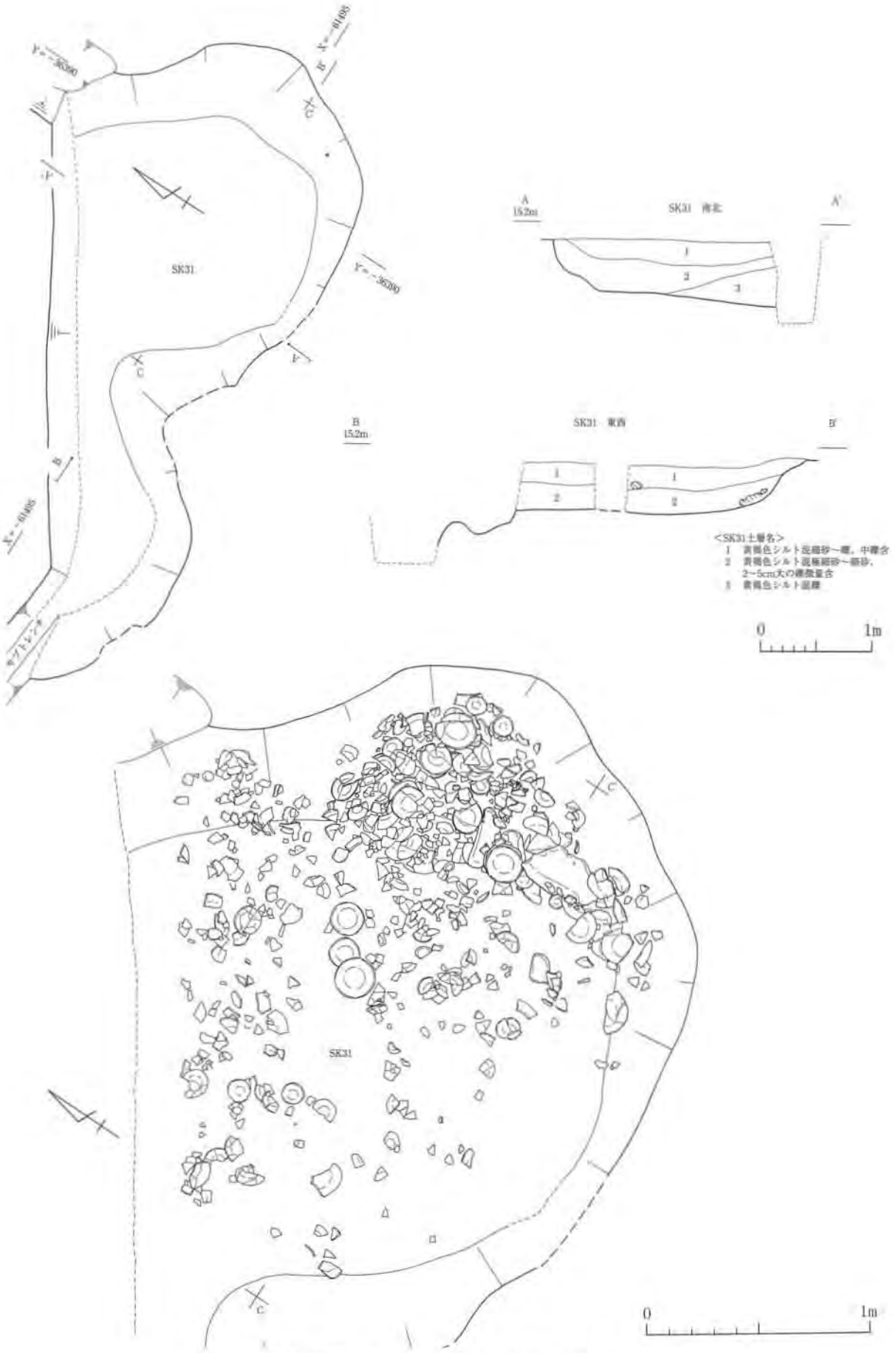
B5区西側・B6区南側で確認した。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、不整形状と推定される。規模は確認部分で長辺3.5m、短辺1.65m、深さ0.35m。本遺構中で土師器皿集積を確認した。集積は２層上部、２層下部で確認でき、２回以上廃棄されたと推定される。また東側に集中することから、東側から廃棄されらと推定される。集積の土師器皿は直径13cmの大型品が目立つ。926は銅銭で、「天禧通宝」である。927は古瀬戸後Ⅳ期古段階の折縁中皿。928は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。929～931はA類の土師器皿。932～935はB１類の土師器皿。936～944はB２－a類の土師器皿で、944は内外面にタール付着。945～949はB2－b類の土師器皿で、945・946は内外面にタール付着。950は墨書の見られる土師器皿で、「傳」（伝の旧字体）と判読できる。951～953はC２類の土師器皿。954・955はD１類の土師器皿で、このうち955は墨書が見られるが判読不能であった。956は須恵器無台杯で、底部に糸切痕が見られる。

SK33（第67・77・125図957～991）

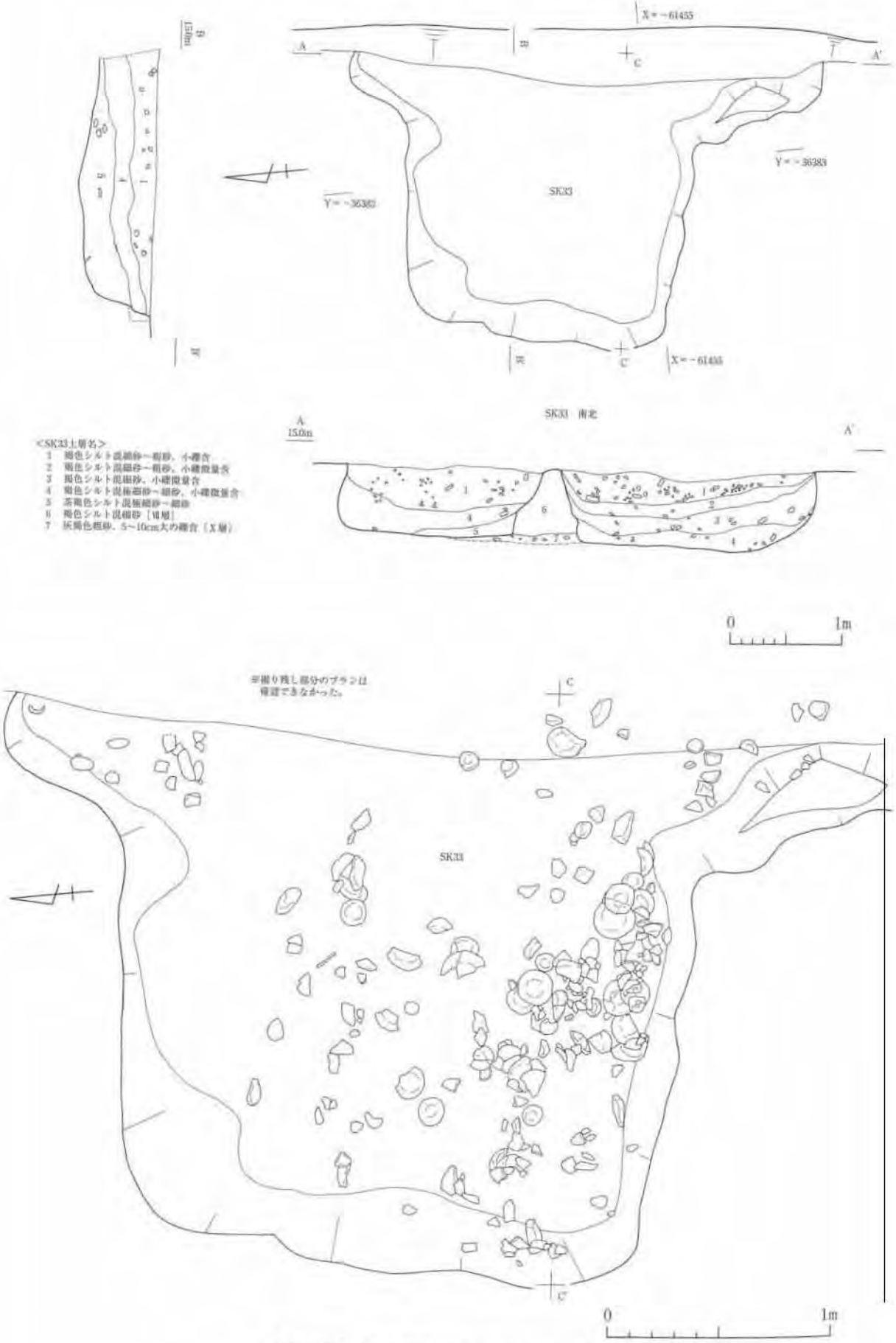
B6区北側で確認した。当初方形プランを確認し遺構掘削を行ったところ、東側断面部分で地山層を確認した。掘りすぎたためプランとして確認できなかったが、複数の土坑の切り合い、もしくは２方向に枝分かれする不整形状の土坑の可能性が想定される。SK33東側は調査区外のため全体のプランは不明だが、不整方形状と推定される。規模は確認部分で長辺4.3m、短辺2.5m、深さ0.55m。本遺構中で土師器皿集積を確認した。集積は３層上部、４層上部で確認でき、２回以上廃棄されたと推定される。また南側に集中することから、南側から廃棄されたと推定される。集積の土師器皿は直径13cm以上の大型品が目立つ。957は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。958は古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿。959～963はA類の土師器皿。964はB1類の土師器皿。965～972はB2－a類の土師器皿で、969は内面にタール付着。973～979はB２－b類の土師器皿で、978は内外面にタール付着。980・981はC１



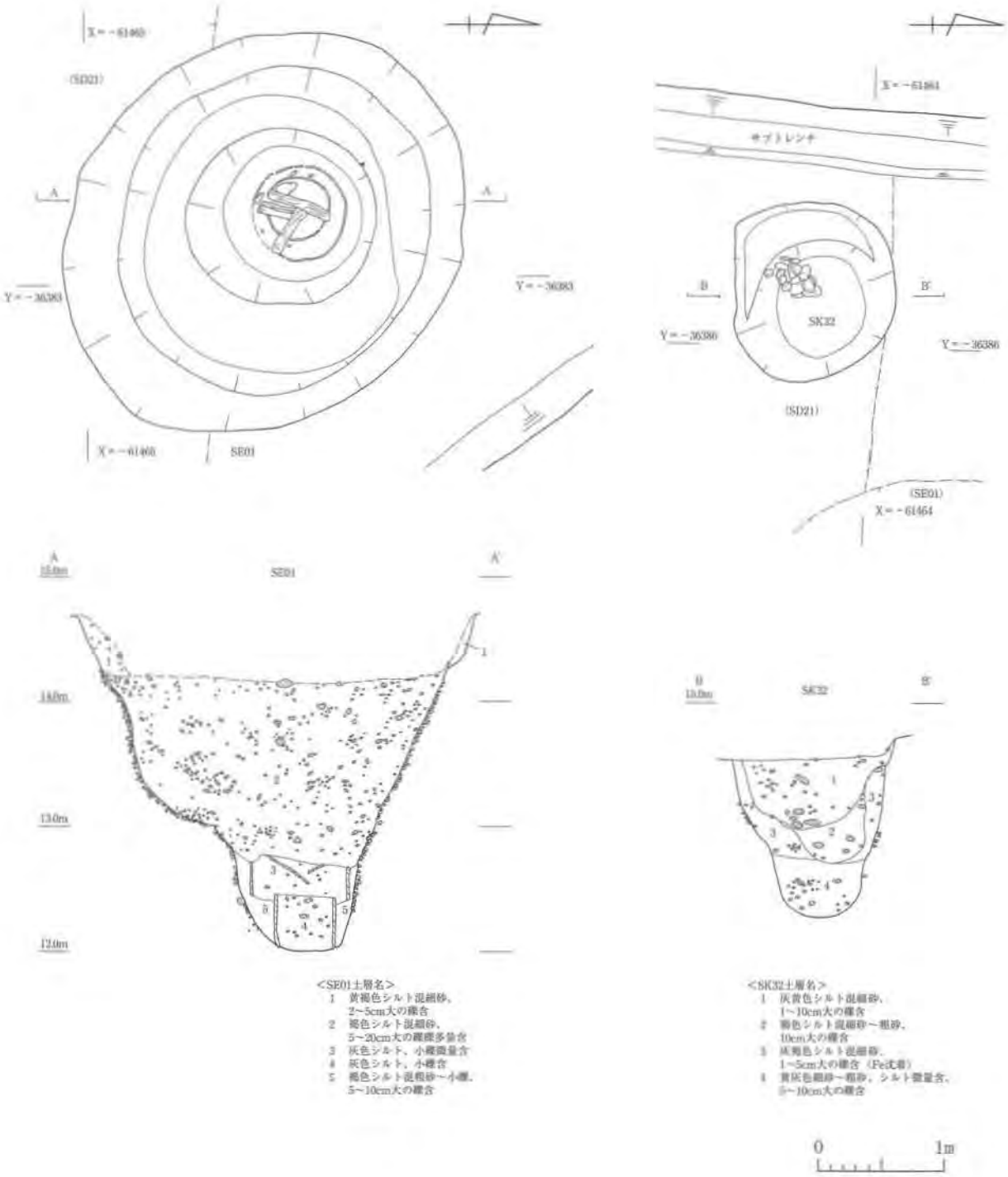
第75図　鷺山蝉遺跡B6区SD22、SX20石積、柱穴列実測図



第76図　鷺山蝉遺跡B6区SK31実測図



第77図　鷺山蝉遺跡B6区SK33実測図

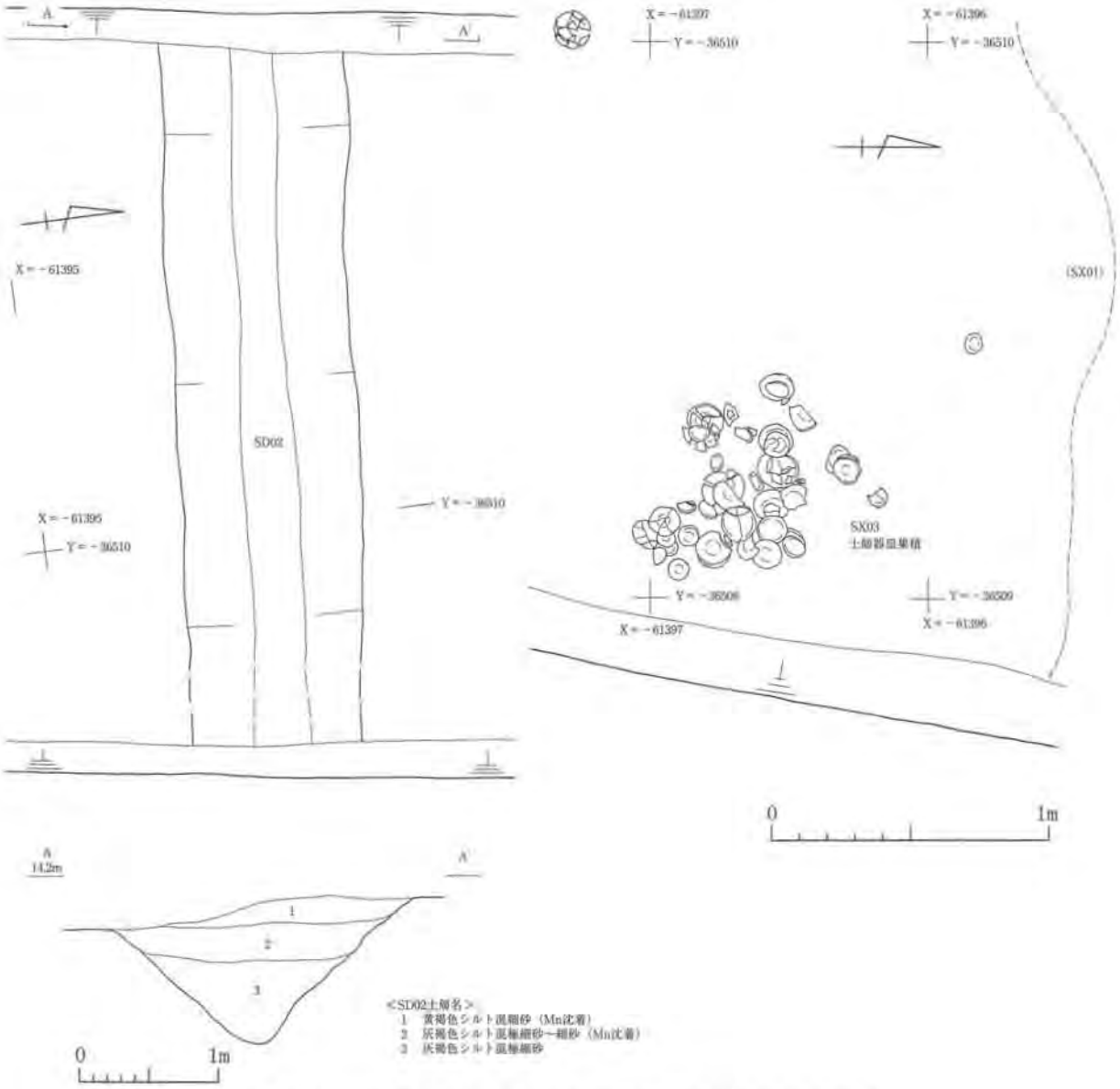


第78図　鷺山蝉遺跡B6区SE01、SK32実測図

類の土師器皿。982～991は墨書の見られる土師器皿。982は判読不能。983・984は「ちう□ん」と判読できる。985は「そうきらく」、986～988は「ていわん」とそれぞれ判読できる。989は判読不能、990・991は「たいねん」と判読できる。

SK32（第67・78・126図1012）

B6区中央で確認した。SD21を切る。SE01の西側に位置する。プランはほぼ円形。規模は直径1.4m、深さ1.25m。X層砂礫層（地山）を掘り抜いており、素掘井戸の可能性も考えられるが、底部に泥状の堆積が認められず、常時滞水している状況は認められなかった。1012はB２－b類の土師器皿。



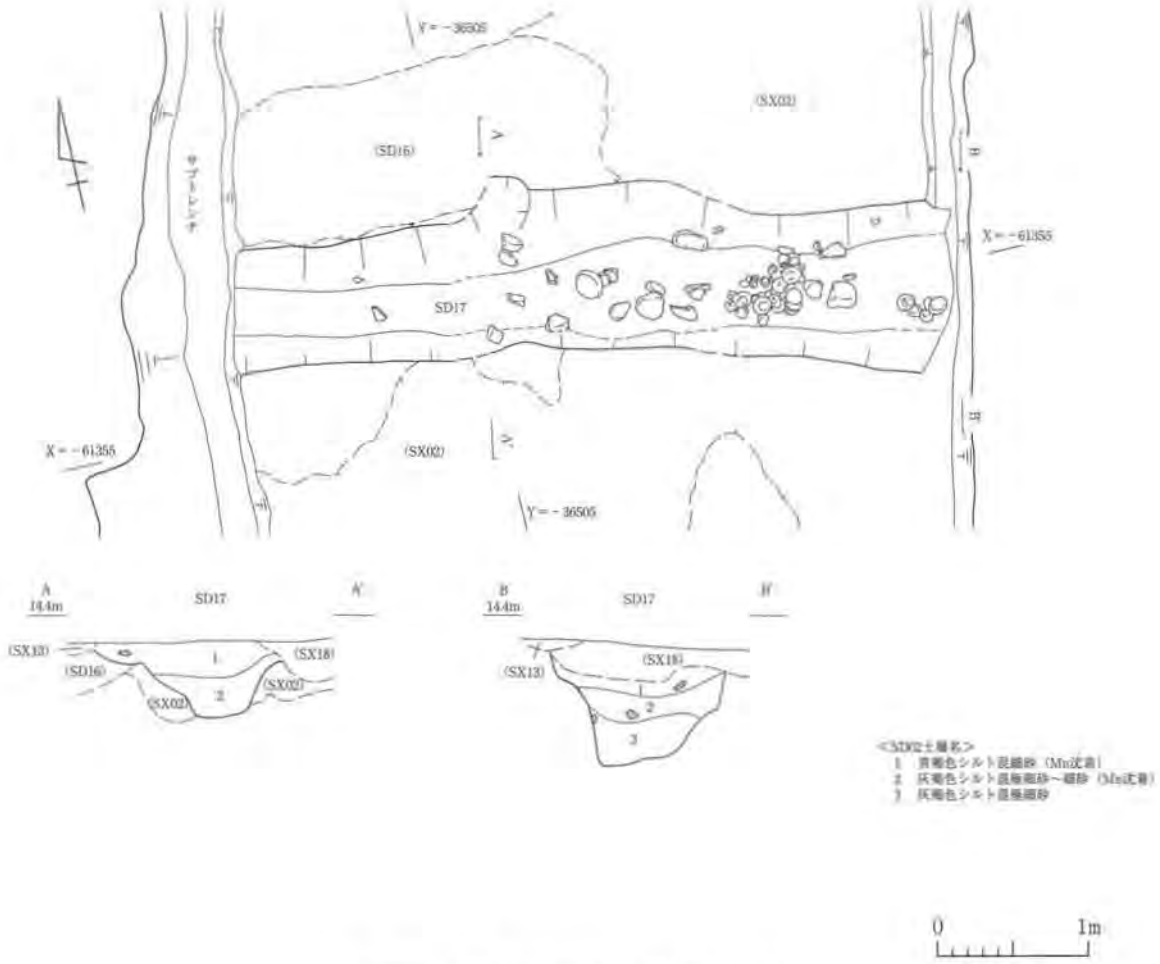
第79図　鷺山蝉遺跡C1区SD02、SX03土師器皿集積実測図

SE01（第67・78・126図1013～1019）

B6区中央で確認した。SD21を切る。X層砂礫層（地山）を掘り抜いて築いた井戸で、掘り方プランは楕円形。規模は長軸3.4m、短軸3.0、深さ2.7m。検出面から井戸側上部まで同一の埋土で、抜き取り痕と考えられる。井戸側は結桶積みで、井戸側最下段とその下部の水溜め用の桶が遺存していた。井戸側最下段の側板は24枚、水溜め用の桶は16枚遺存していた。側板は遺存状態が悪く、分割して取り上げたため本来の枚数はより少ないと考える。井戸側上端から水溜め用桶下端までの高さ0.75m。1013は大窯第1段階の白天目茶碗で、加工円盤に転用されたもの。1014～1016は井戸側板最下段に相当するもので、樹種は1014がヒノキ属、1015・1016がサワラ。1017～1019は水溜用桶の側板に相当するもので、樹種はいずれもサワラ。

鷺山蝉遺跡C区

SD02（第79・127図1022～1026）



第80図　鷺山蝉遺跡C2区SD17実測図

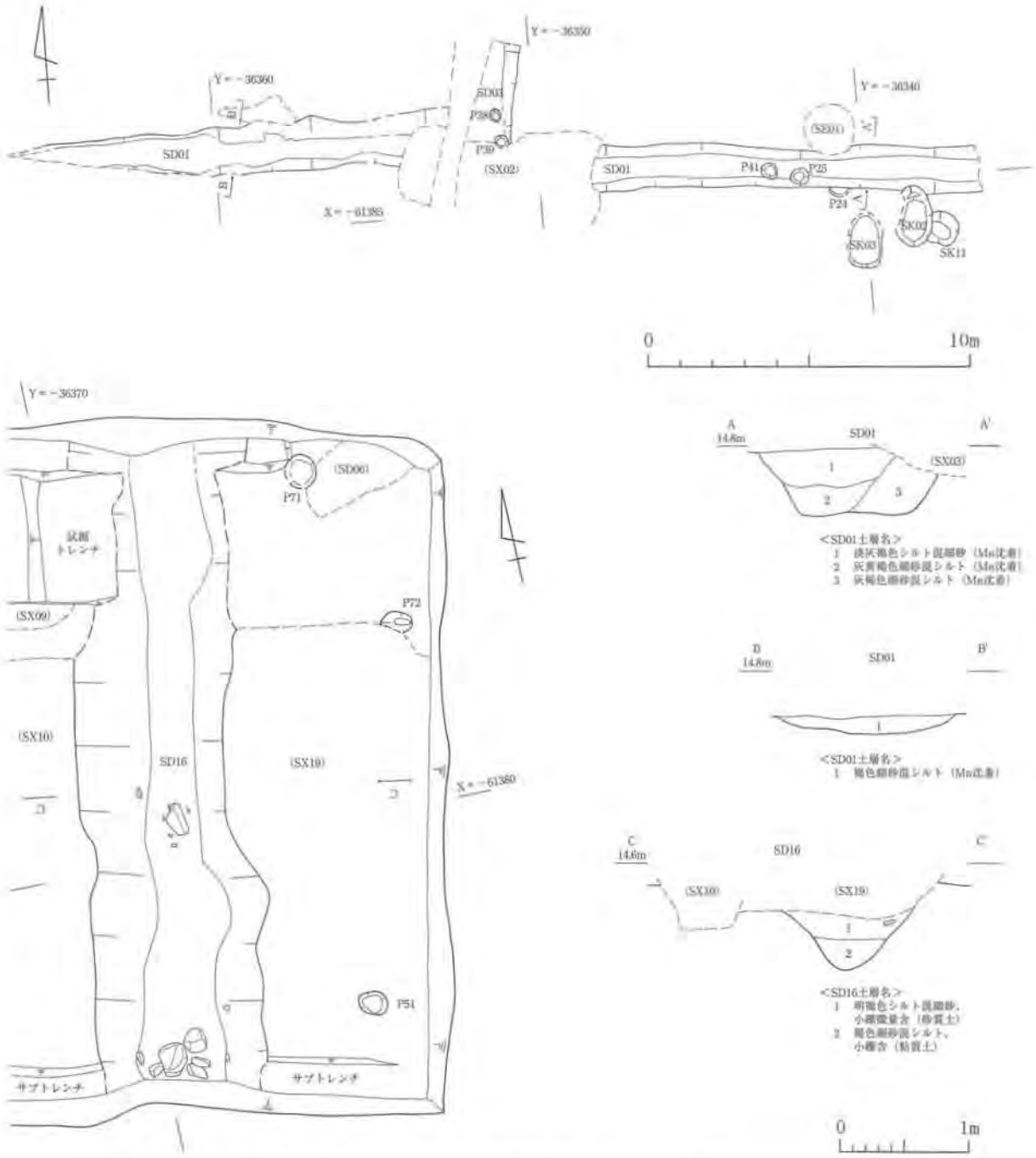
C1区南側で確認した。上部をSX01落ち込みに切られる。流向は東－西方向。溝の両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ4.9m、幅1.3m、深さ1.1m。断面形状はV字形（薬研形）。1022は古瀬戸擂鉢。1023はB２－a類の土師器皿。1024はB２－b類の土師器皿。1025は中国産磁器の龍泉窯系青磁碗。1026は須恵器杯蓋。

SD17（第80・127図1027～1054）

C2区南側で確認した。上部をSX13・18に切られ、SD16、SX02を切る。流向は東－西方向。溝の両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.1m、幅0.8～1.1m、深さ0.6m。断面形状は逆台形に近い。1027は古瀬戸の盤。1028は古瀬戸擂鉢。1029は須恵器杯身。1030は須恵器瓶。1031～1054は土師器皿。1031はB2－a類。1032～1044はB２－b類で、このうち1039・1040は横ナデ回転方向が左回りである。1045～1054はC2類。

SX03土師器皿集積（第79・127図1055～1072）

C1区南側で確認した。SX01落ち込み掘削後、底面に土師器皿が多数出土した。集積は点在する2カ所も含め一括で扱った。埋納遺構の可能性を考え、周辺を精査したが、掘り方等を確認するには至らなかった。1055～1072は土師器皿。1055・1056はB１類。1057～1062はB２－a類。1063～1066はB２－b類。1067～1072はC２類。



第81図　鷲山蝉遺跡D2・3区SD01・03、D4区SD16実測図

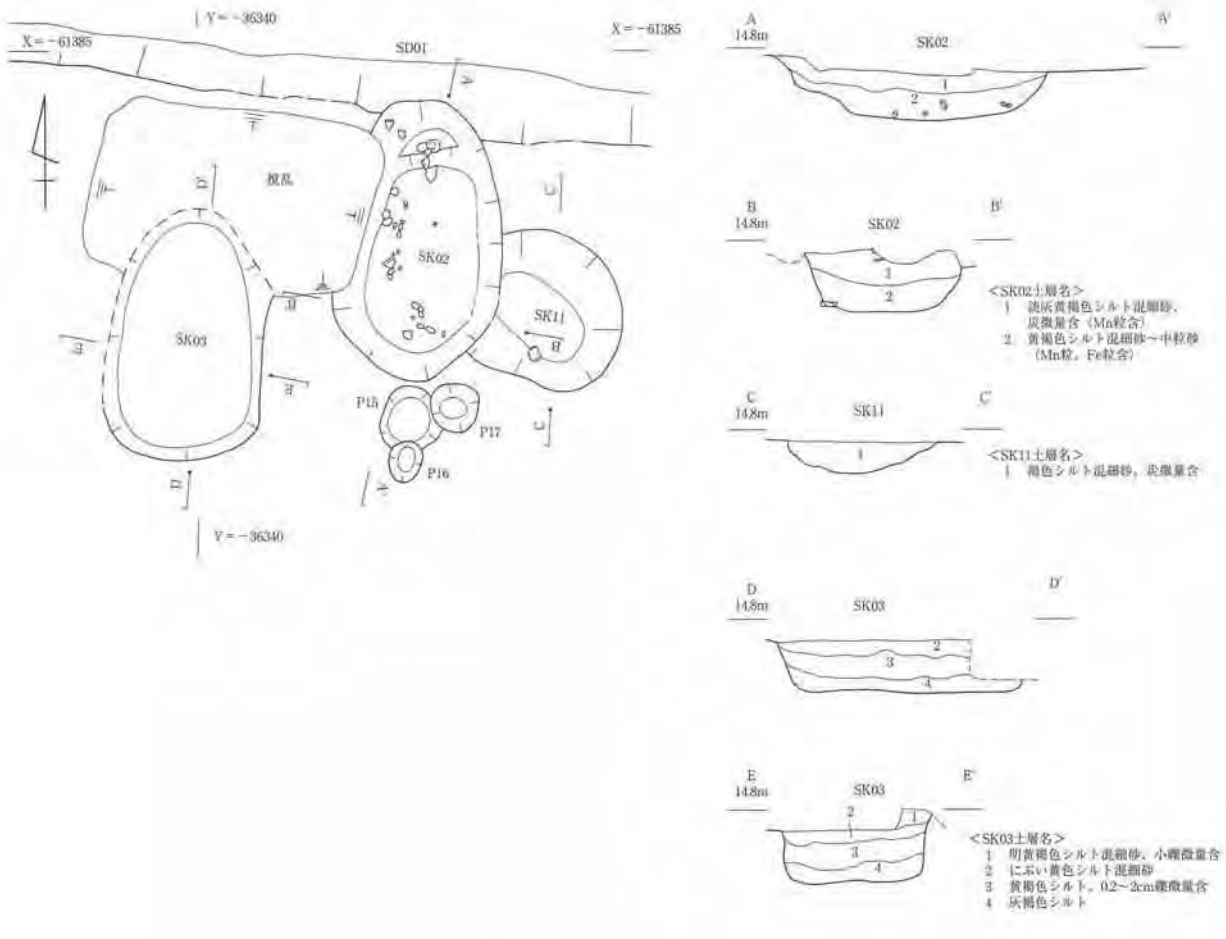
鷲山蝉遺跡D区

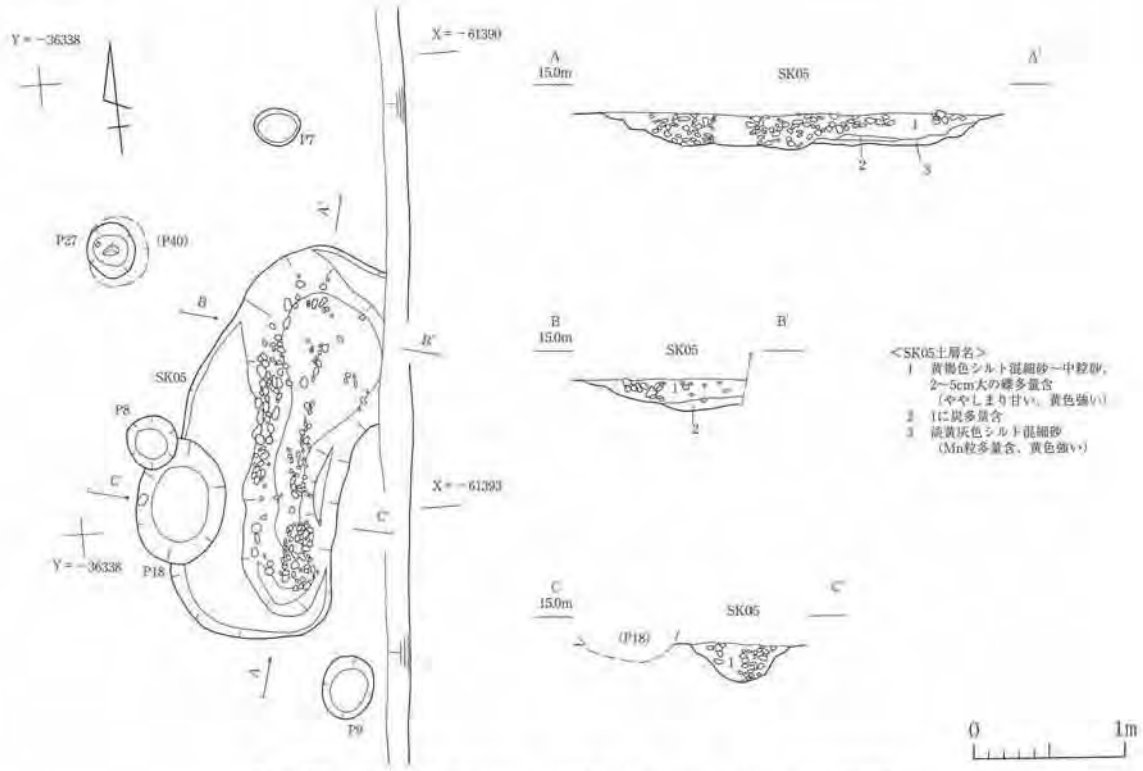
SD01（第81・128図1073～1077）

D2・D3区で確認した。流向は東－西方向。年度をまたいで調査したため、一連のプランとして検出できなかった。これらを踏まえながら報告する。溝の両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ29m、幅1.4～1.6m、深さ0.4m。断面形状は底の円い台形状。溝を掘り直した可能性が考えられ、東側の断面でその痕跡を確認できた。1073～1075はB２－b類の土師器皿で、このうち1075は内外面にタール付着。1076は灰釉陶器椀。1077は南部系山茶碗。

SD03（第81・128図1078・1079）

D2区西側で確認した。流向は北－南方向。南側はSX03に切られ、西側と北側は調査区外のため全





第82図　鷺山蝉遺跡D1・2区SK02・03・05・11実測図

体のプランは不明。規模は確認部分で長さ2.7m、幅1.2m、深さ0.2m。断面形状は不明。SD01とT字状となる可能性が考えられる。1078は古瀬戸擂鉢。1079は北部系山茶碗である。

SD16（第81・128図1080～1083）

D4区東側で確認した。流向は北－南方向。溝の両端は調査区外で、上層をSX10・19に、北側を試掘トレンチに切られ、全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.1m、幅1.15～1.4m、深さ0.45m。断面形状はV字形（薬研形）に近い。1080～1083はB２－b類の土師器皿で、このうち1080の内外面にタール付着。

SK02（第82・128図1084～1088）

D1区北側で確認した。西側を試掘トレンチに切られ、全体のプランは不明だが、楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸1.85m、短軸1.1m、深さ0.4m。埋土上層に炭をわずかに含む。1084はB２－a類の土師器皿。1085～1088はB２－b類の土師器皿で、このうち1086は内外面にタール付着。

SK05（第82・128図1089～1092）

D1区北側で確認した。Pit18に切られる。東側の一部は調査区外のため全体のプランは不明だが、不整楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸2.7m、短軸1.2m、深さ0.25m。東寄りの埋土中は２～５cm大の円礫で満たされていた。その用途は不明である。遺物は円礫層中、あるいは円礫除去後に出土した。1089・1090はB2－b類の土師器皿で、このうち1089は内面にタール付着。1091・1092はC２類の土師器皿。

SK03（第82図）

D1区北側で確認した。北側を試掘トレンチに切られ、全体のプランは不明だが、楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸1.6m、短軸1.05m、深さ0.45m。実測可能な遺物は出土しなかったが、B２類・C２類の土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

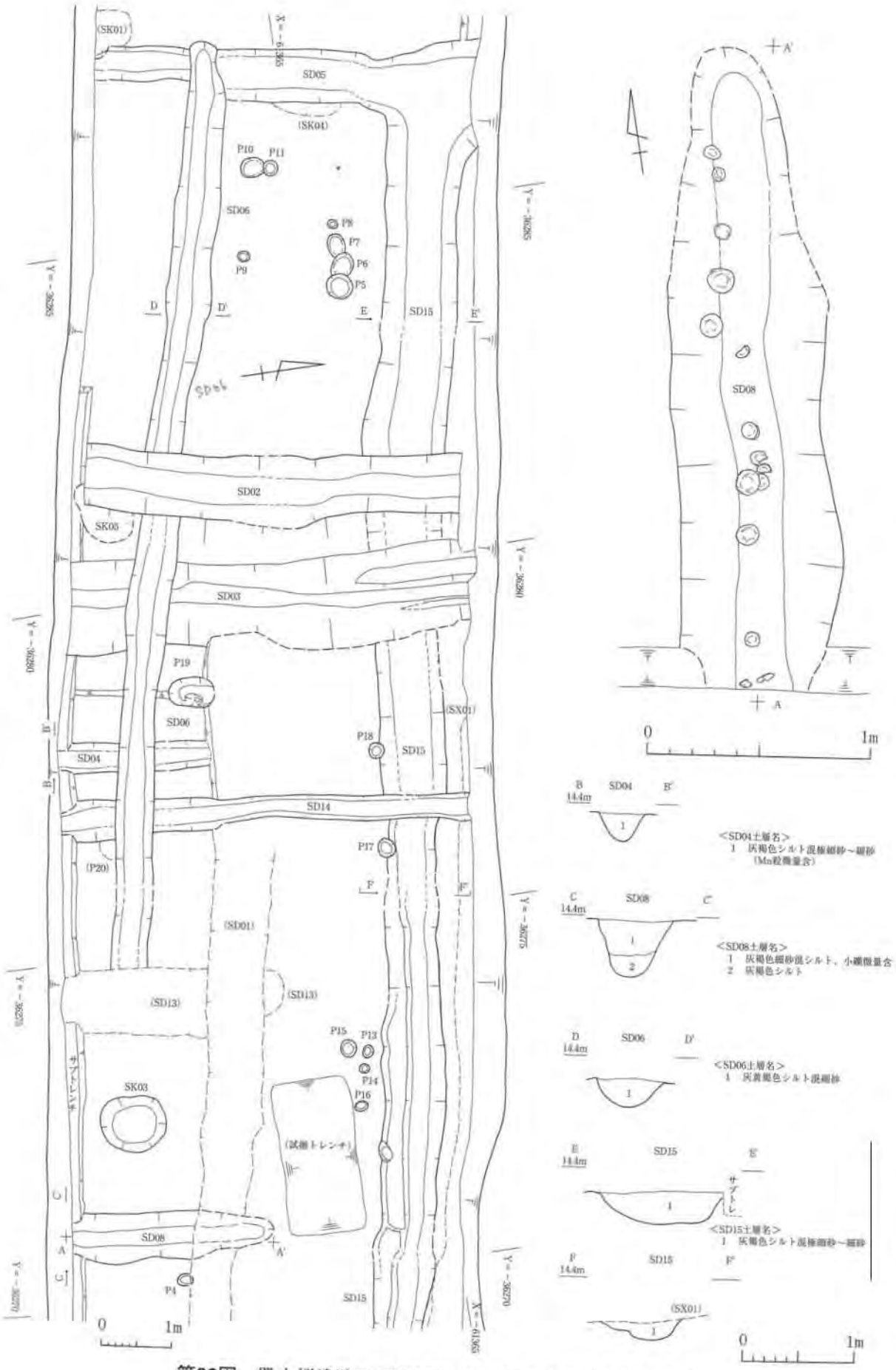
SK11（第82・128図1093）

D1区で確認した。西側はSK02に切られ、全体のプランは不明だが、楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸1.05m、短軸1.0m、深さ0.2m。埋土に炭をわずかに含む。1093はB２－b類の土師器皿で、内外面にタール付着。

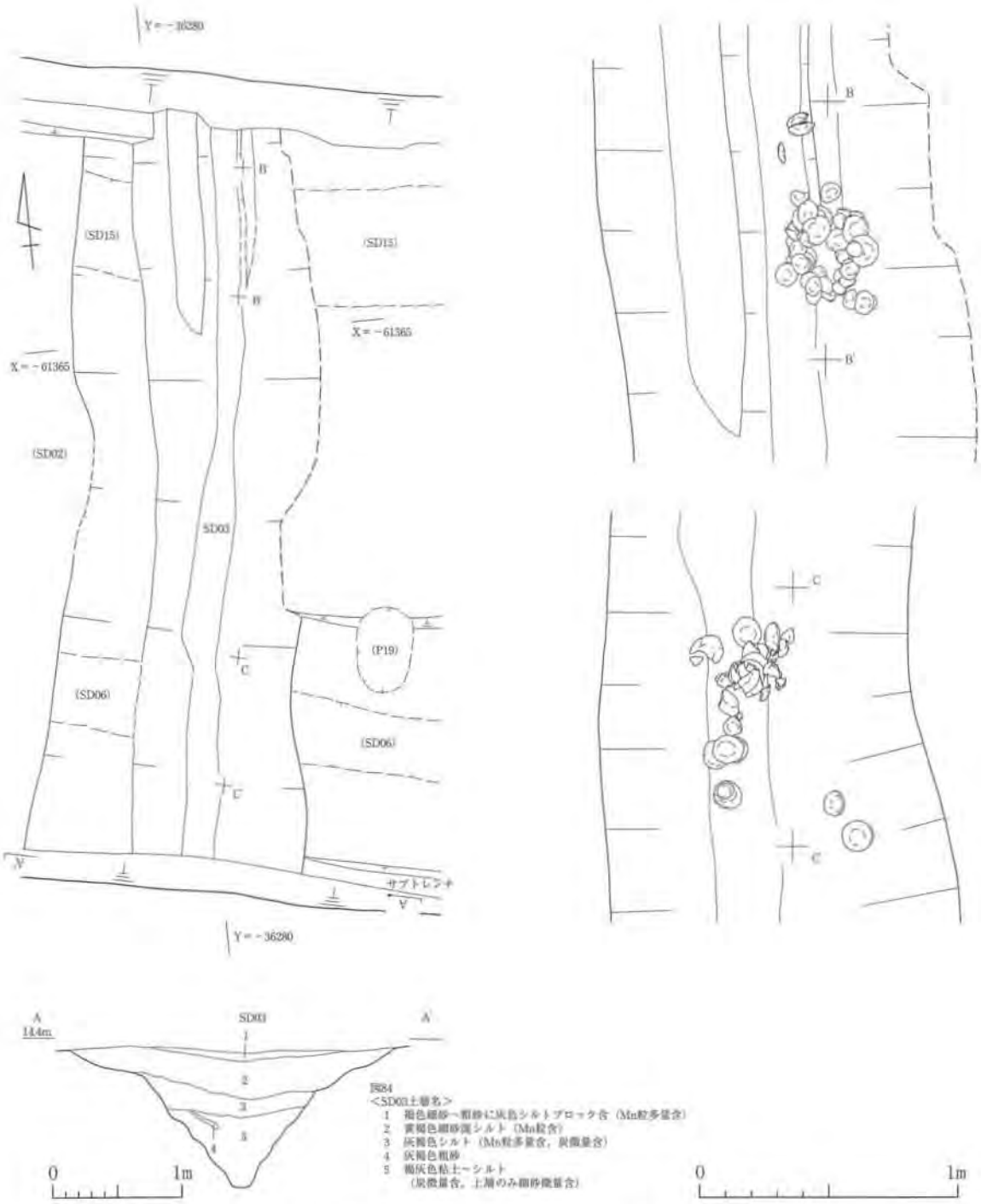
鷲山蝉遺跡E区

SD03（第83・84・128図1094～1119）

E１調査区中央で確認した。蝉土手城館跡東辺の延長線上に位置し、方画地割を区画する溝に相当する。流向は北－南方向。規模は確認部分で長さ5.6m、幅2.5m、深さ1.1m。断面形状はV字形（薬研形）に近い。本遺構中の北側および南側で、小規模ながら土師器皿集積を確認した。なお、SD03埋没後、埋土最上層付近でも土師器皿が比較的まとまって出土している。1096～1108が北側下層、1109～1111が北側上層、1113～1119が南側の土師器皿集積に分けられる。1094は古瀬戸後Ⅳ期新段階折縁中皿。1095は大窯第1段階の端反皿。1096～1111は土師器皿。1096はB１類。1097はB２－a類。1098～1103はB２－b類。1104～1111はC２類。1112は大窯第１段階の端反皿。1113～1119は土師器皿。1113はC１類。1114～1116はB２－b類。1117～1119はC２類。



第83図　鷺山蟬遺跡E1区SD02・03・05・06・08・15実測図



第84図　鷺山蝉遺跡E1区SD03実測図

SD06（第83図）

E1区中央から西側で確認した。流向は東－西方向。西側は行き止まり、東側はSD13に切られ、その先には続かない。このほかSD02に切られ、SD03、05を切る。規模は確認部分で長さ13.3m、幅0.6m、深さ0.25m。実測可能な遺物は出土しなかったが、B２類・C２類の土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SD08（第83図・128図1121～1129）

E1区東側で確認した。流向は北－南方向。北側はSX01に切られ、南側は調査区外のため全体のプ

ランは不明。規模は確認部分で長さ2.85m、幅0.75m、深さ0.5m。断面形状はU字形。本遺構中で土師器皿集積を確認した。集積は直径10cm以下の小型品が目立つ。1121～1129は土師器皿で1121はB2－a類。1122・1123はB2－b類。1124～1129はC2類。

SD14（第83・128図1130～1132）

E1区中央で確認した。SD06に切られ、SD15を切る。流向は東－西方向。規模は確認部分で長さ5.8m、幅0.45m、深さ0.15m。1130はＢ２－a類の土師器皿。1131はＣ２類の土師器皿。1132は砥石で、石材は泥岩。

SD05・15（第83・128図1120・1133～1135）

E1区西側～東側で確認した。プランL字状を呈する溝で、南北方向がSD05、東西方向がSD15となる。SD05はSD06に切られる。流向は北－南方向。規模は確認部分で長さ5.4m、幅0.5～0.7m、深さ0.2m。SD15はSD02・03・14に切られる。流向は東－西方向。規模は確認部分で長さ約18.2m、幅1.1m、深さ0.3m。1120がSD05、1133～1135がSD15出土遺物である。1120は砥石で、石材は砂岩。1133はＢ２－a類の土師器皿。1134はＣ２類の土師器皿。1135は須恵器四耳瓶。

鷲山蝉遺跡F区

SD13（第85・129～131図1136～1217）

F1区東側で確認した。SK01、SX01、SD10に切られる。流向は北－南方向。溝の両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.1m、幅1.9m、深さ0.85m。本遺構の下層部分で多量の土師器皿集積が確認できた。土師器皿は大半が西側より投棄されたと考えられる。また同一法量の皿が重なった状態で出土しており、一括して廃棄された可能性が考えられる。1136は古瀬戸後Ⅲ期の平椀。1137は古瀬戸後Ⅲ期、1138は古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁釉小皿。1139は古瀬戸後Ⅳ期古段階の内耳鍋。1140～1145は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢。1146・1147は土師器内耳鍋。1148・1149は常滑甕。1150は須恵器長頸瓶底部。1151は灰釉陶器皿。1152～1156は南部系山茶碗の碗。1157～1159・1168はB1類の土師器皿。1160～1163はＢ２－a類の土師器皿。1164～1167・1169～1195はＢ２－b類の土師器皿で、このうち1191～1195には墨書が見られる。1191は「□ねん□」、1192は「いゝ三」、1193は「そ□□」、1194は「与七郎」、1195は「□（世か）院殿」とそれぞれ判読できる。1196～1215はＣ２類の土師器皿。1216は砥石で、一部にタール付着。石材は砂岩。1217は漆器で、木質部分は全く遺存せず、漆膜のみ遺存していた。内赤外黒の鉢と考えられる。

SD10（第131図1218、別添図9）

F1区東側で確認した。SD13埋没後掘削された溝で、SD13を切る。流向は北－南方向。溝の両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.1m、幅1.2m、深さ0.35m。1218は古瀬戸後Ⅳ期新段階の縁釉小皿である。

SD12（第86・131図1219～1223）

F1区東側で確認した。流向は北－南方向。溝の両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ4.1m、幅0.7m、深さ0.45m。断面形状はやや尖るU字形。1219は中国産磁器の龍泉窯系青磁腕。1220はＢ２－a類の土師器皿。1221・1222はB2－b類の土師器皿。1223は南部系山茶碗。

SK03（第87・131図1224～1234）

F1区中央で確認した。古代の住居SB04を切る。南側は調査区外のため全体のプランは不明だが、円形と推定される。規模は確認部分で直径1.6m、深さ1.4m。埋土に炭層が見られ、遺物も３層・５層（炭層）の前後に集中して出土する。Ⅸ層地山層を掘りぬいた素掘り井戸の可能性も考えられる。

1224は古瀬戸後Ⅳ期新段階平椀。1225は古瀬戸後Ⅳ期新段階擂鉢。1226は土師器内耳鍋。1227はB２－b類の土師器皿。1228は古瀬戸後Ⅲ期の縁釉小皿。1229は碁石と考えられる。石材は粘板岩か。1230は古瀬戸後Ⅳ期古段階の端反碗。1231は北部系山茶碗の碗。1232は須恵器有台杯。1233は須恵器無台杯。1234は須恵器無台杯で、外面にタールが付着し、二次被熱の痕跡が認められる。

SK04（第87・132図1235～1241）

F1区中央で確認した。全体のプランは不明だが、隅丸長方形と推定される。規模は長辺1.6m、短辺1.1m、深さ0.15m。1235は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。1236は古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿。1237は大窯第1段階の擂鉢。1238はB２－b類の土師器皿で、内外面にタール付着。1239はC２類の土師器皿。1240は土師器内耳鍋。1241は砥石で、石材は泥岩。

SK05（第87図）

F1区で確認した。SK06を切る。プランは隅丸長方形。規模は長辺1.3m、短辺0.9m、深さ0.1m。図化可能な遺物は出土しなかったが、C２類の土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SK06（第87図）

F1区で確認した。SK05に切られ、SD14を切る。プランはほぼ隅丸長方形。規模は長辺1.0m、短辺0.85m、深さ0.1m。図化可能な遺物は出土しなかったが、C２類の土師器皿細片が出土することから、本時期に相当すると判断した。

SK07（第86・132図1242～1248）

F1区東側で確認した。北側は調査区外、南側は撹乱により全体のプランは不明だが、不整形状と推定される。規模は確認部分で東西3.0m、南北1.9m、深さ0.35m。遺構中に５～10cm大の礫集中部が見られた。1242はB２－b類の土師器皿。1243は中国産磁器の染付皿。1244はロクロ土師器の皿。1245は南部系山茶碗の大平鉢。1246は南部系山茶碗の碗で、1247は皿。1248は古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期の盤。

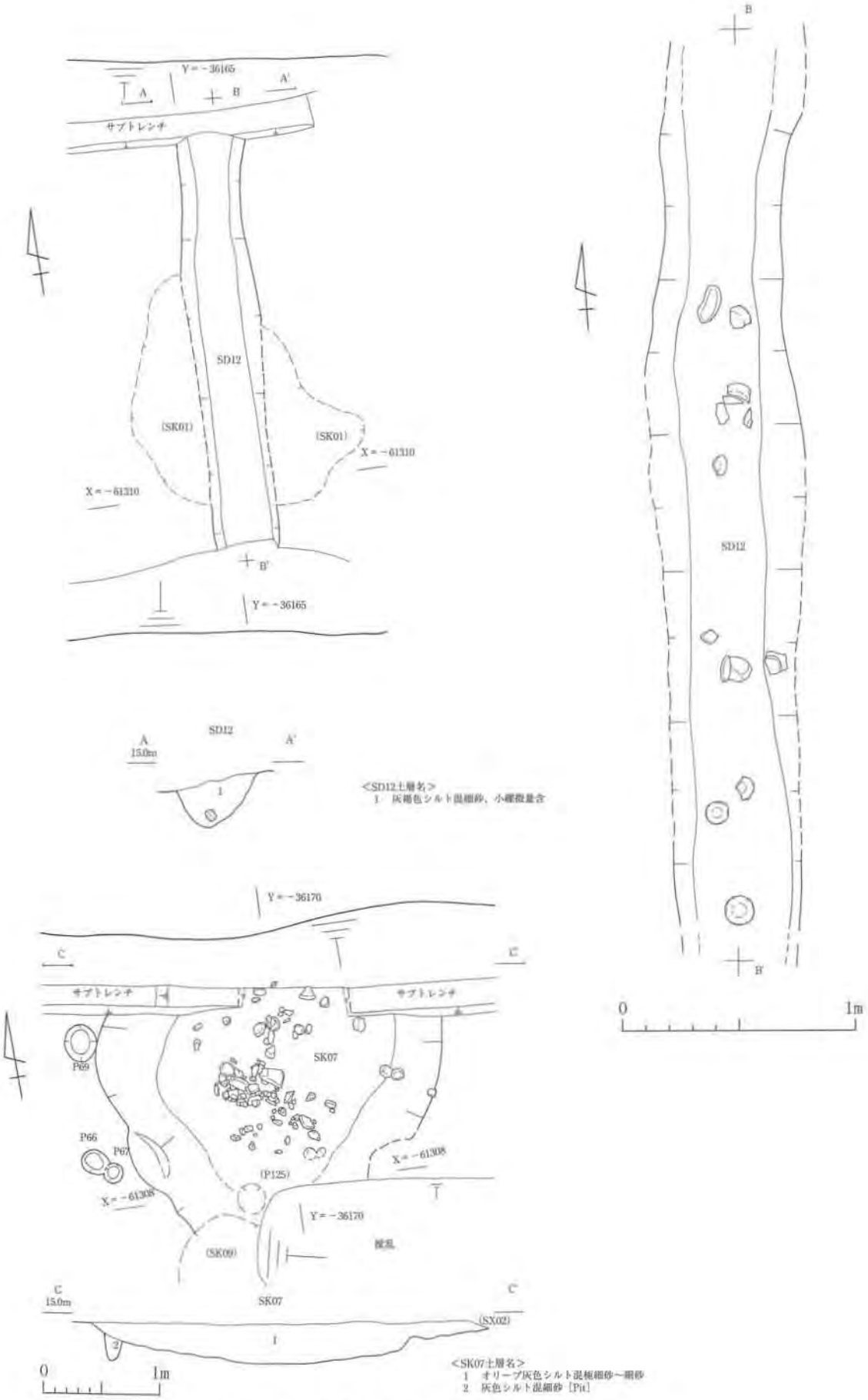
SK14（第87・132図1249～1251）

F1区中央で確認した。SK03に隣接し、古代の住居SB04を切る。南側は調査区外のため全体のプランは不明だが、ほぼ円形と推定される。規模は確認部分で直径0.75m、深さ1.0m。1249はC２類の土師器皿。1250はB1類の土師器皿。1251は中国産磁器の染付皿。

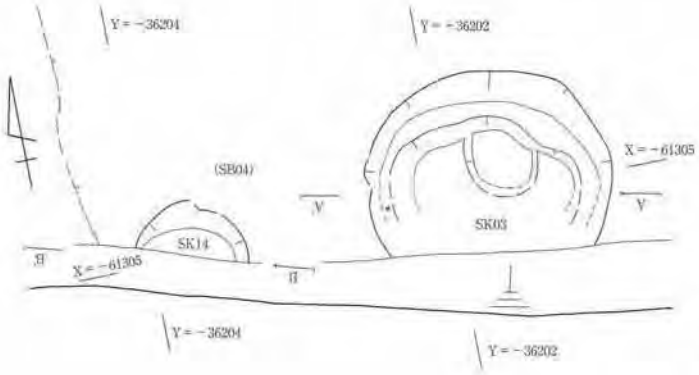
SK73（第132図1252～1254、別添図9）

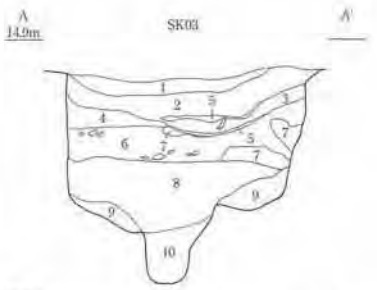
F2区東側で確認した。古代の住居SB61・62を切る。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、楕円形状に推定される。規模は確認部分で東西2.2m、南北1.1m、深さ1.15m。1252は古瀬戸後Ⅲ期の袴腰形香炉。1253は須恵器杯蓋の宝珠つまみ部分。1254は灰釉陶器椀で、金属器写しの可能性が高い。この他実測可能な遺物は無かった。土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

第85図　鷲山蝉遺跡F1区SD13実測図

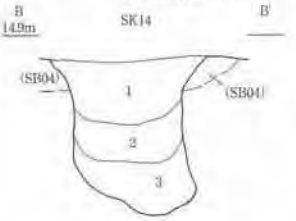


第86図　鷺山蝉遺跡F1区SD12、SK07実測図

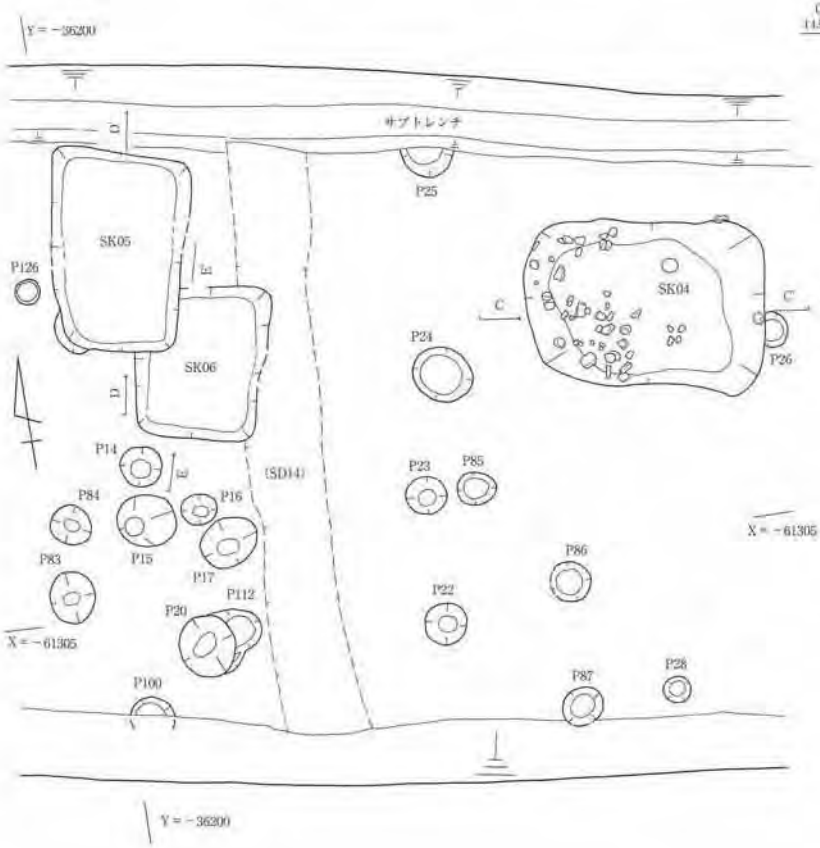


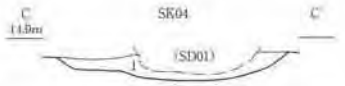


<SK03土層名>
1 灰色細砂混シルトに黄褐色シルトブロック含，炭微量含
2 灰色細砂混シルト，炭微量含
3 灰褐色シルト炭微量含
4 オリーブ灰色細砂混シルト
5 黒褐色混炭質シルト
6 オリーブ灰色細砂混シルトに黄褐色シルトブロック含
7 黄褐色シルト（ブロック土）
8 オリーブ灰色細砂混シルト，有機物含
9 灰色シルト
10 青緑灰色シルト



<SK14土層名>
1 灰褐色シルト混極細砂〜細砂，炭・焼土微量含
2 灰色細砂混シルト，炭微量含
3 青灰色シルト混細砂，炭微量含





<SK04土層名>
1 オリーブ灰色極細砂〜細砂，シルト，炭微量含

<SK05土層名>
1 オリーブ灰色シルト混極細砂〜細砂

<SK06土層名>
1 灰褐色シルト混極細砂〜細砂

SK74（第132図1255、別添図9）

F2区東側で確認した。北側は調査区外のため全体のプランは不明。不整形と推定される。規模は確認部分で東西1.5m、南北0.7m、深さ0.1m。1255は北部系山茶碗の碗である。この他実測可能な遺物は無かった。土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

SK75（第132図1256、別添図9）

F2区中央で確認した。プランは不整楕円形。規模は長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.1m。1256は銅銭で、「熙寧元宝」である。この他実測可能な遺物は無かった。土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

SK76（第88・132図1258～1261）

F2区中央で確認した。SB60を切る。プランは楕円形。規模は長軸1.25m、短軸1.0m、深さ0.3m。埋土に拳大程度の礫、SB60カマドを撹乱した焼土が含まれる。1258・1259はB２－b類の土師器皿。1260・1261はC２類の土師器皿。

SK77（第88・132図1262～1266）

F2区中央で確認した。SB65・66を切る。プランは楕円形。規模は長軸1.4m、短軸0.9m、深さ0.65m。埋土に礫と焼土を含む。1262はB２－b類の土師器皿である。1263・1264はC２の土師器皿である。1265は灰釉陶器の皿。1266は砥石で、石材は砂岩。

SK93（第88・132図1267～1269）

F2区中央で確認した。SB65を切る。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、楕円形と推定される。規模は確認部分で長軸1.2m、短軸0.55m、深さ0.65m。1267はC２類の土師器皿。1268は灰釉陶器の椀。1269は土師器伊勢型甕。

SK95（第88・132図1270・1271）

F2区中央で確認した。上部は撹乱を受けており、北側掘方の一部が遺存。南側は調査区外のため全体のプランは不明だが、円形と推定される。規模は直径1.5m、確認部分の深さ2.0m。1270は須恵器高杯の杯部。1271は灰釉陶器の椀。この他実測可能な遺物は無かった。土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

SK99（第132図1272・1273、別添図９）

F2区東側で確認した。SB61を切る。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、円形と推定される。規模は直径1.6m、深さ1.2m。1272はC２類の土師器皿。1273は土師器甕で、体部タタキ調整が施される。

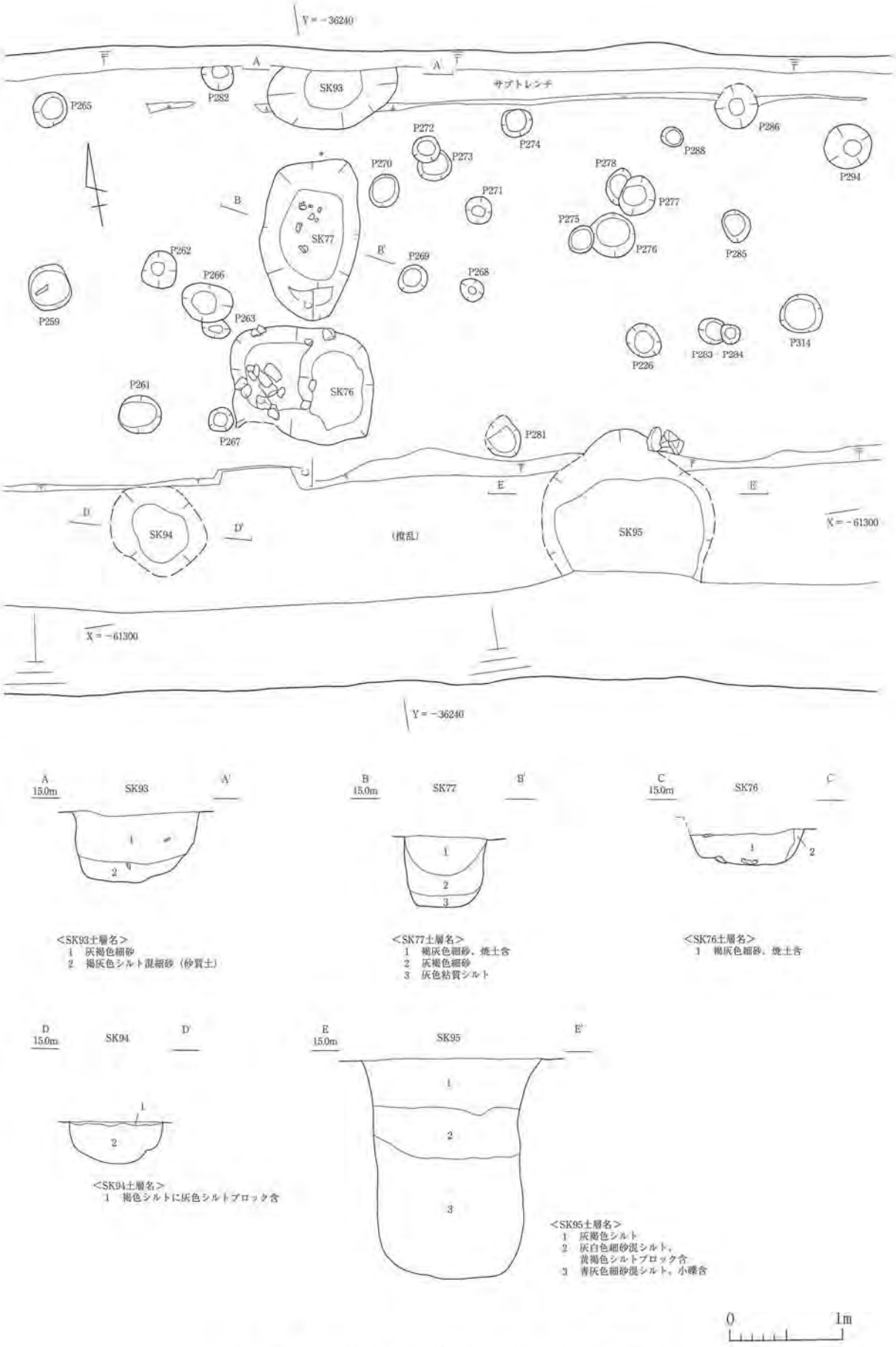
SX10（第132図1274、別添図９）

F2区西側で確認した。全体のプランは不明だが、不整形と推定される。1274はC２類の土師器皿である。

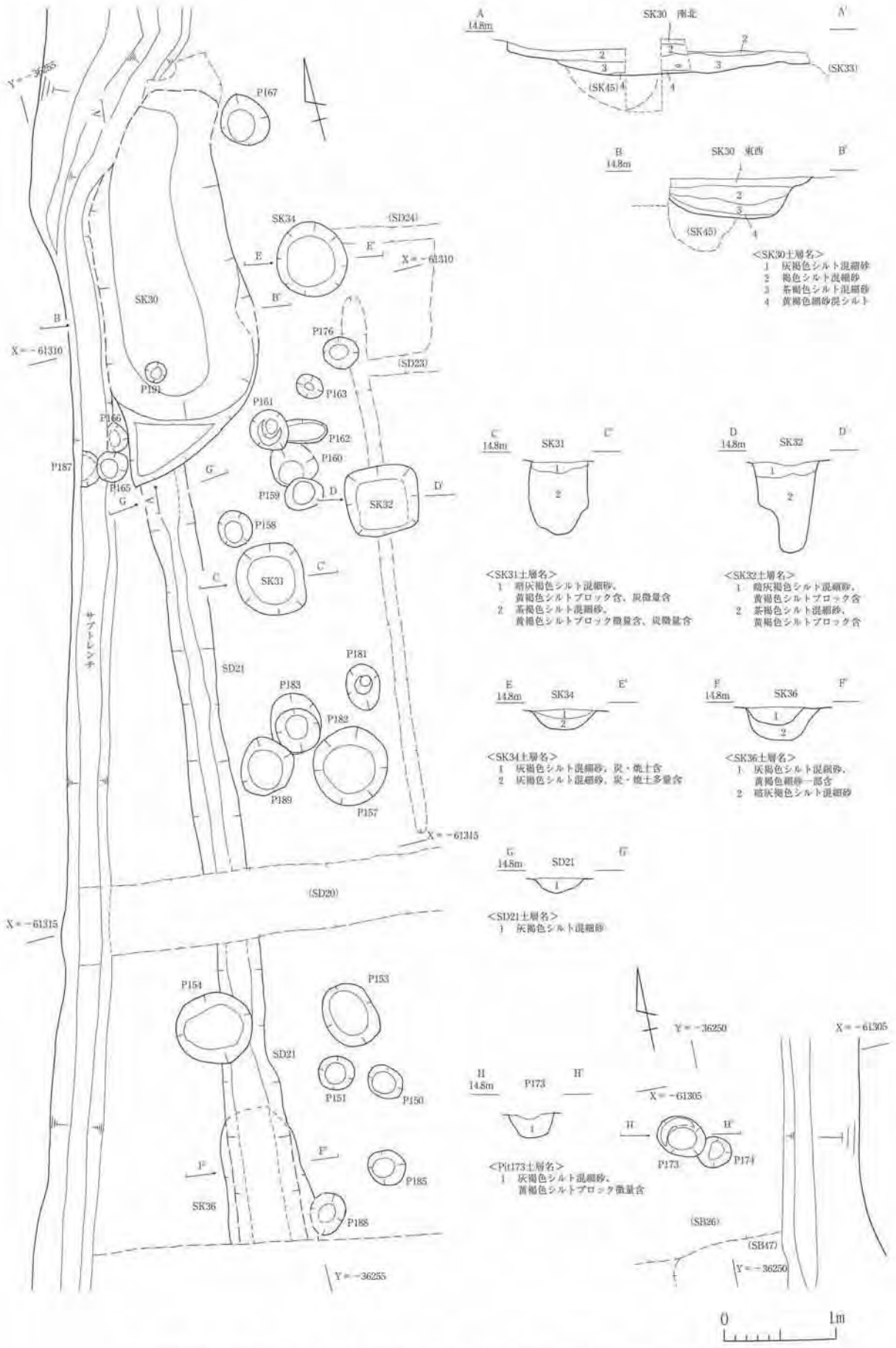
Pit出土遺物（第132図1275・1276、別添図９）

1275はF1区Pit06出土のC２類土師器皿。1276はF2区Pit326出土の北部系山茶碗。

SK30（第89図）



第88図　鷺山蝉遺跡F2区SK76・77・93～95実測図



第89図　鷺山蝉遺跡F3区SK30～32・34・36、SD21、Pit173実測図

F3区で確認した。西側および北側はサブトレンチに切られるが、プランは不整楕円形状と推定される。規模は確認部分で東西1.3m、南北3.6m、深さ0.35m。実測可能な遺物は無かった。B2類・C2類土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断した。

SK31（第89図）

F3区中央で確認した。プランは不整円形。規模は東西0.6m、南北0.65m、深さ0.65m。実測可能な遺物は無かった。土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

SK32（第89図）

F3区中央で確認した。プランは隅丸方形。規模は東西0.7m、南北0.65m、深さ0.8m。実測可能な遺物は無かった。土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

SK34（第89図）

F3区中央で確認した。プランはほぼ円形。規模は直径0.6m、深さ0.2m。埋土がSK30・31等と似ていることから本時期に相当すると判断したが、顕著な遺物は出土しておらず詳細な時期は不明である。

SK36（第89図）

F3区南側で確認した。SD21に切られる。南側をSX05に切られており全体のプランは不明だが、不整楕円形状と推定される。規模は確認部分で東西0.75m、南北1.1m、深さ0.3m。実測可能な遺物は無かった。土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

SD21（第89図）

F3区中央～南側で確認した。南北方向の溝で、SD20、SK30に切られる。規模は確認部分で長さ7.0m、幅0.45m、深さ0.2m。実測可能な遺物は無かった。土師器皿細片が出土していることから本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。

Pit173（第89・132図1257）

F3区北側で確認した。規模は直径0.45m、深さ0.25m。埋土中より銅銭か出土した。1257は銅銭で「永楽通宝」である。この他実測可能な遺物は無かった。埋土が先述のSK30等の土坑に似ること、古代の住居と全く異なることから本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。15世紀代にさかのぼる可能性も考えられる。

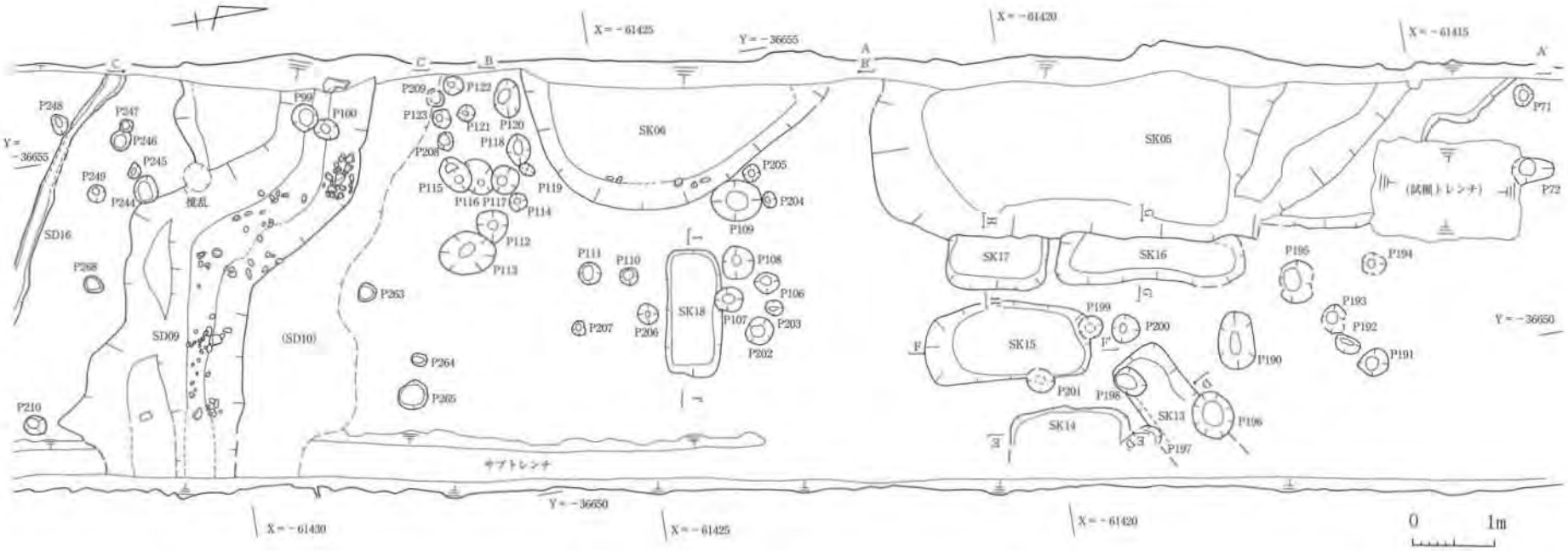
鷺山仙道遺跡A・B区

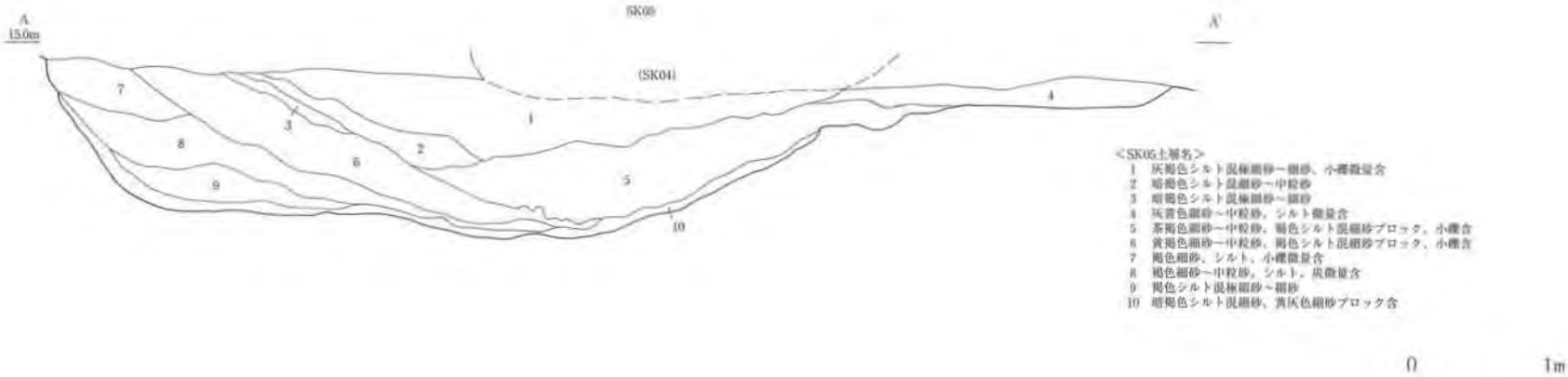
SD02（第92・133図1277・1278）

A2区中央で確認した。区画溝で流向は北－南方向。両端は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.0m、幅1.25m、深さ0.75m。断面形状は西側にテラスを有し、V字形（薬研形）に近い。1277は大窯第1段階の天目茶碗。1278はB２－a類の土師器皿。

SD03（第92・133図1279～1287）

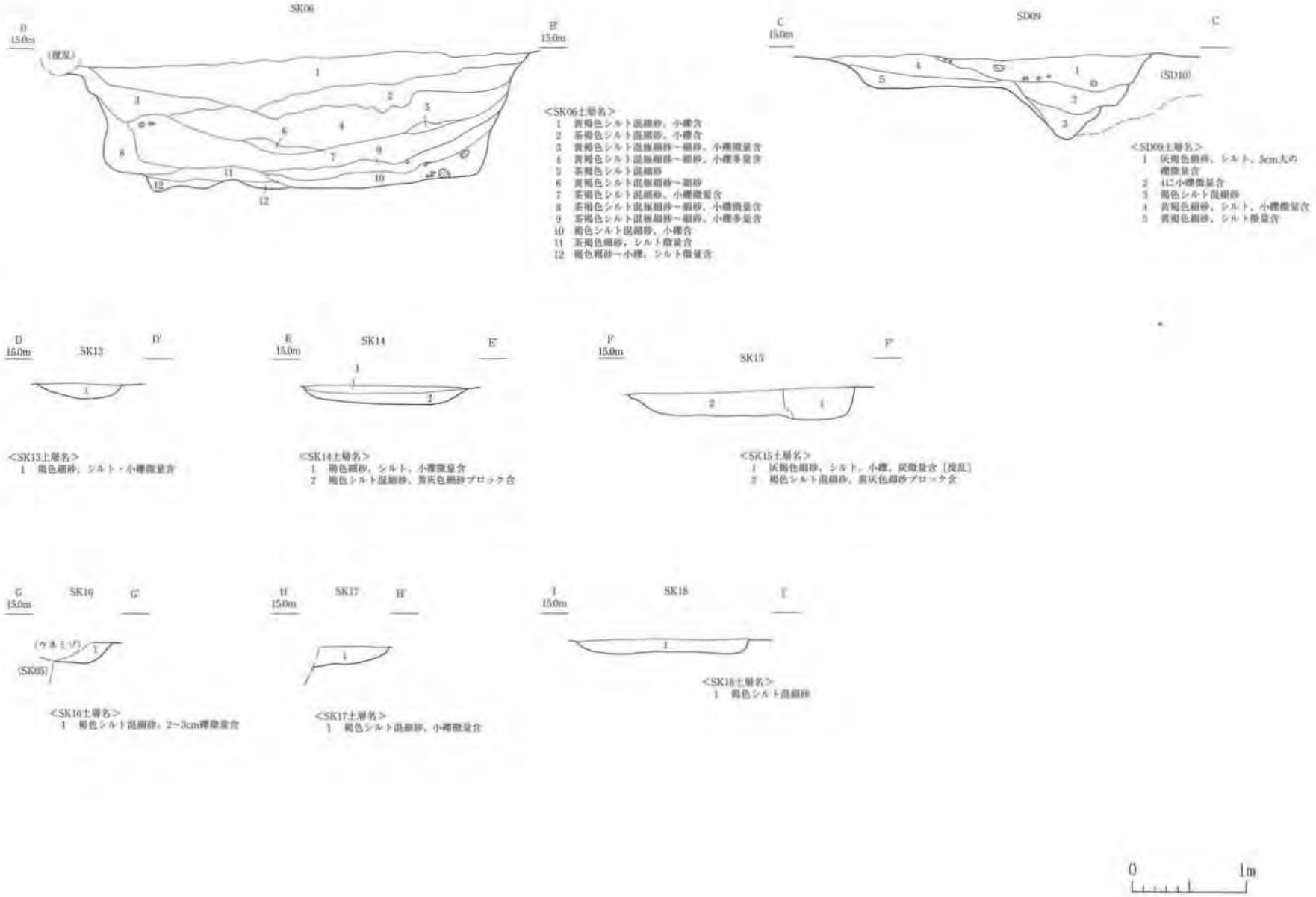
A2区西側で確認した。流向は北西－南東方向。両端は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.4m、幅1.15m、深さ0.5m。1279は古瀬戸後Ⅳ期新段階の盤。1280は常滑甕。1281



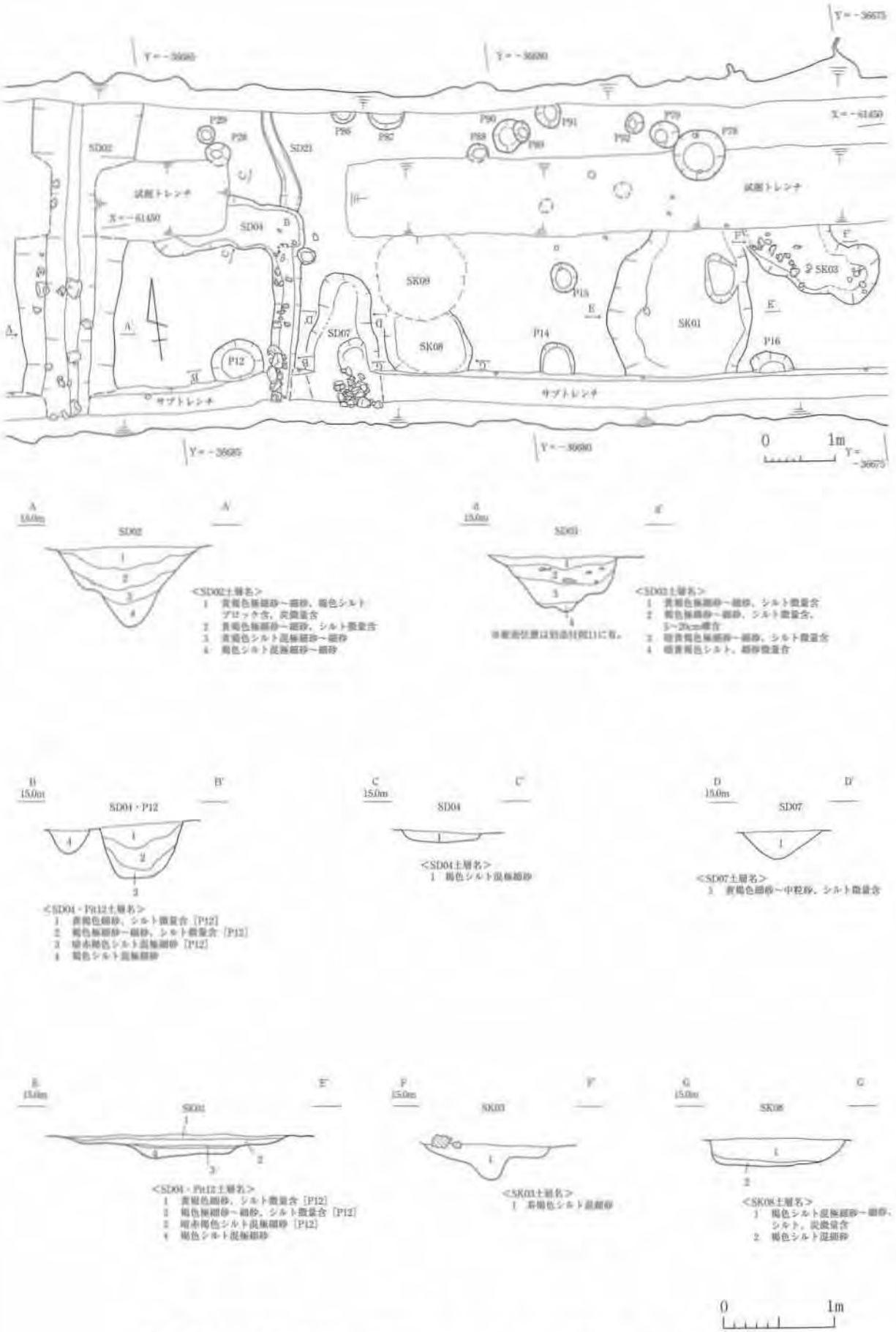


<SK05土層名>
1 灰褐色シルト混極細砂～細砂、小礫微量含
2 暗褐色シルト混細砂～中粒砂
3 暗褐色シルト混極細砂～細砂
4 灰黄色細砂～中粒砂、シルト微量含
5 茶褐色細砂～中粒砂、褐色シルト混細砂ブロック、小礫含
6 黄褐色細砂～中粒砂、褐色シルト混細砂ブロック、小礫含
7 褐色細砂、シルト、小礫微量含
8 褐色細砂～中粒砂、シルト、炭微量含
9 褐色シルト混極細砂～細砂
10 暗褐色シルト混細砂、黄灰色細砂ブロック含

第90図　鷲山仙道遺跡A1区SK05・06・13～18、SD09実測図



第91図 鷲山仙道遺跡A1区SK06・13～18、SD09断面実測図



第92図　鷲山仙道遺跡A2区SD02・03・04・07、SK01・03・08実測図

はB２－b類の土師器皿。1282はC2類の土師器皿。1283は土師器伊勢型甕。1284は須恵器高杯。1285は土師器清郷型鍋。1286は土師器伊勢型甕。1287は常滑甕。

SD04（第92・133図1288～1301）

A2区中央で確認した。プランL字状を呈する溝で、南側は調査区外、西側は試掘トレンチによりSD02との切り合い関係は不明である。規模は確認部分で東西方向の長さ2.2m、幅0.6m、深さ0.15m。南北方向の長さ2.8m、幅0.4m、深さ0.2m。埋土に拳大程度の礫を含んでいる。1288は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢。1289・1290は古瀬戸後Ⅳ期新段階の折縁深皿。1291は北部系山茶碗の碗。1292～1295はB２－a類の土師器皿で、1294は内面にタール付着。1296～1298はB２－b類の土師器皿で、1297は内面に、1298は内外面にタール付着。1299はC２類の土師器皿。1300・1301はD1類の土師器皿。

SD07（第92・133図1302）

A2区中央で確認した。流向は北－南方向。行き止まりの溝で、規模は確認部分で長さ2.0m、幅0.4～0.6m、深さ0.25m。埋土に拳大程度の礫を含んでいる。1302はD１類の土師器皿である。

SD09（第90・91・133図1303・1304）

A1区中央で確認した。SD09を切る。流向は屈折する東－西方向。溝の両側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ5.1m、幅2.5～2.8m、深さ0.75m。断面形状は南側にテラスを持つ逆台形状。1303・1304はC２類の土師器皿。

SK01（第92・133図1305～1310）

A2区中央で確認した。北側を試掘トレンチ、南側は調査区外のため全体のプランは不明だが、楕円形状と推定される。規模は確認部分で東西2.1m、南北2.2m、深さ0.2m。1305は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。1306は北部系山茶碗の碗。1307はB1類の土師器皿で、内外面タール付着。1308はC2類の土師器皿。1309は土師器伊勢型鍋。1310は中世美濃須衛系陶器の甕。

SK05（第90・133図1311～1316）

A1区中央で確認した。SK04に切られ、SK16・SK17を切る。西側は調査区外のため全体のプランは不明だが、不整長方形と推定される。規模は確認部分で南北8.0m、東西2.0m、深さ1.1m。北側にテラスを有し、南側底面に平坦面を確認できた。1311は古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿。1312は大窯第１段階の端反皿。1313はC２類の土師器皿。1314はM類の土師器皿。1315は土製品の土鈴。1316は須恵器杯身で、受部を有する。

SK13～18（第90・91図）

いずれもA1区中央で確認した土坑で、プランはほぼ隅丸長方形状を呈する。SK13は東側が調査区外。規模は確認部分で長辺1.2m、短辺0.7m、深さ0.15m。SK14は東側が調査区外。Pit197に切られる。規模は確認部分で長辺1.55m、短辺0.4m、深さ0.15m。SK15はPit199・201に切られる。規模は長辺2.0m、短辺1.0m、深さ0.2m。SK16はSK05に切られる。規模は確認部分で長辺2.4m、短辺0.5m、深さ0.2m。SK17はSK05に切られる。規模は確認部分で長辺1.2m、短辺0.5m、深さ0.2m。SK18は規模が長辺1.6m、短辺0.75m、深さ0.15m。Pit207に切られる。いずれの遺構も実測可能な遺物は無く、土師器皿細片が出土することから本時期に相当すると判断したが、詳細な時期は不明である。中世にさかのぼる可能性も考えられる。

Pit出土遺物（第133図1317～1319、別添図11）

1317はA2区Pit30出土の土師器皿B２－b類で、内面にタール付着。1318・1319はA2区Pit12出土遺物で、1318は土錘、1319は土師器皿B２－a類。

第５節　５期(近世)の遺構と遺物・各層出土その他遺物

５期の遺構は本調査区域全体で確認できた。主にⅢ層上面（近世耕作土）上面で遺構を検出した。

鷲山蝉遺跡A区

SD24（第134図1320・1321、別添図1）

A3区中央で確認した。流向は東－西方向。SD02・22を切る。西側は調査区外に延び、東はSD27とともにT字状のプランを呈する。長さ3.6m、幅0.8m、深さ0.4m。1320はC2類の土師器皿。1321は近世美濃窯丸皿。

SE01（第93・134図1322～1324）

A1区西側で確認した。掘り方のプランは楕円形で、規模は長軸方向約1.9m、短軸方向約1.5m、深さ約1.65m。埋土を除去すると、竹籠の井戸側を検出した。井戸側は直径約0.75m、高さ約1.05m。1322は土製品の土鈴。1323は近世瀬戸窯ねり鉢。1324は近世瀬戸窯擂鉢。

SE02（第94図）

A1区東側で確認した。SX06を切る。掘り方のプランは隅丸方形に近い。規模は南北1.1m、東西1.1m、深さ1.3m。埋土を除去すると、遺存状態の悪い竹籠の井戸側を検出した。井戸側は直径0.9m、高さ1.0m。後述のSE03と形状、埋土が似ているため、本時期に相当すると判断したが、顕著な遺物は出土しておらず詳細な時期は不明である。

SE03（第94・134図1325・1326）

A1区東側で確認した。SX06を切る。掘り方のプランは隅丸方形に近い。規模は南北1.3m、東西1.3m、深さ1.3m。埋土を除去すると、遺存状態の悪い竹籠の井戸側を検出した。井戸側は直径0.9m、高さ0.8m。1325は北部系山茶碗の碗。1326は近世陶器の壺。

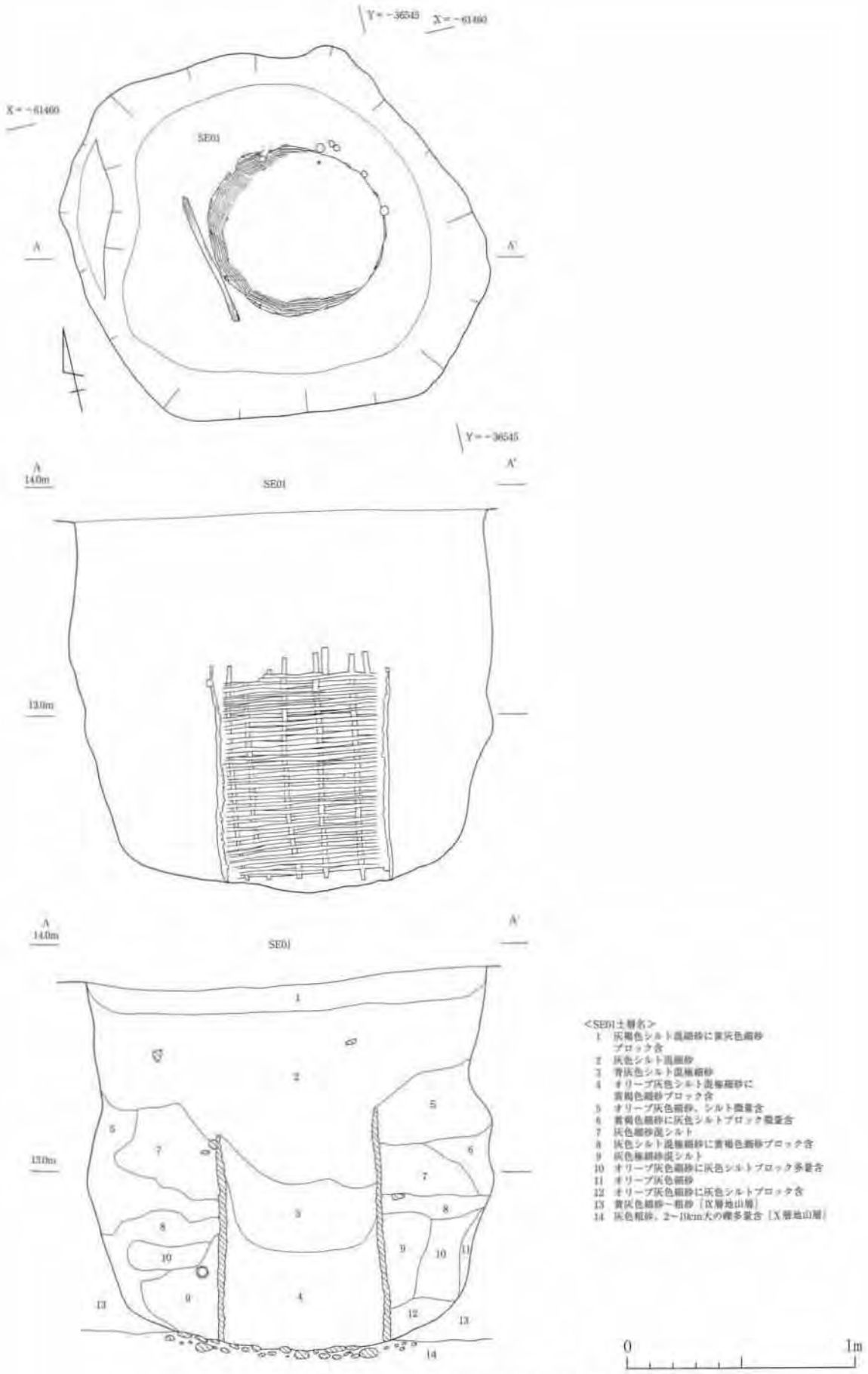
SX02落ち込み（第134図1327・1328、別添図１）

A2・A3区中央で確認した。SD02を切る。全体のプランは不明だが、不整形と推定される。規模は確認部分で東西8.8m、南北6.7m、深さ0.2m。埋土はⅡ・Ⅲ層（近世耕作土）に似た粘質土で、近世以降の水田跡の可能性が考えられる。1327はB２－b類の土師器皿。1328はC２類の土師器皿。

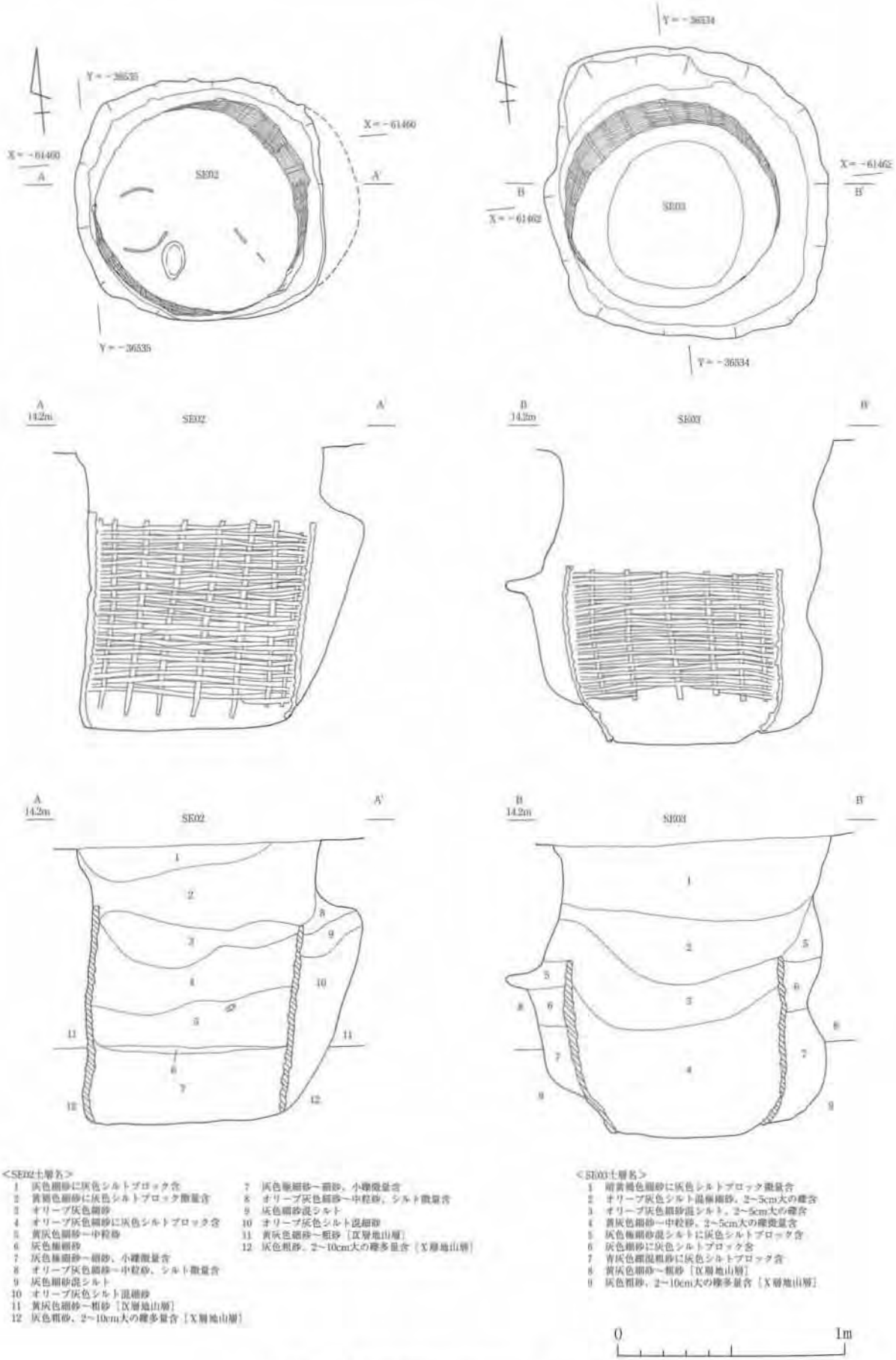
鷲山蝉遺跡B区

SD33（第134図1329・1330、別添図4）

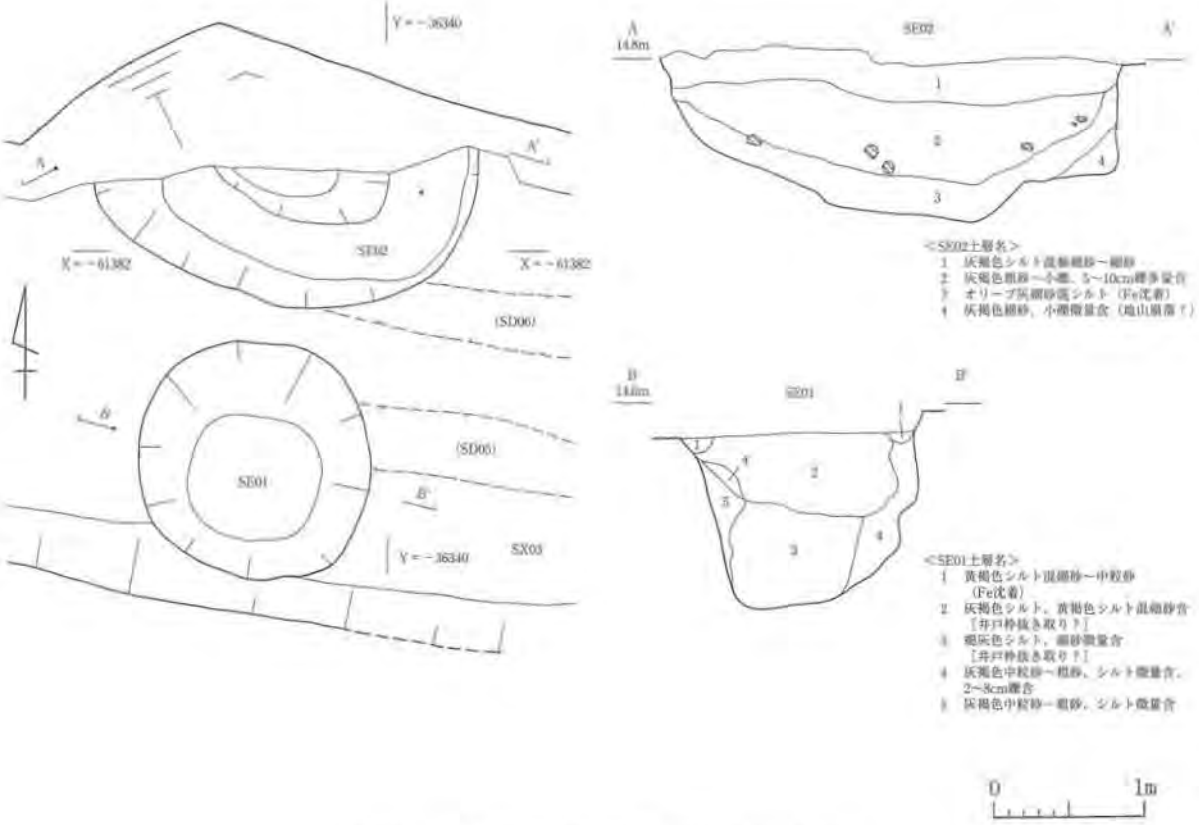
B4区全体で確認した。調査区西側の大半を占め、３期・４期の遺構を全て切る。また戦国時代のSA02土塁を切る。埋土は下層に地山層のブロック土を多量に含み、上層は山土や礫を多量に含む。本遺構が蝉土手城館跡の堀SD03延長ラインの東側に位置することから、堀の東肩が崩落したことによって形成された痕跡とも考えられる。しかし性格は不明である。土取跡の可能性も考えられる。埋土からは明治期以降の遺物に混じって古い遺物が出土している。1329・1330は北部系山茶碗で、墨書



第93図　鷺山蝉遺跡A1区SE01実測図



第94図　鷺山蝉遺跡A1区SE02・03実測図



第95図　鷺山蝉遺跡D2区SE01・02実測図

が見られるがともに判読不能であった。

SD84（第134図1331、別添図4）

B8区南側で確認した。流向は東－西方向。SA01を切る。両端は調査区外のためプランは不明。長さ5.0m、幅0.8m、深さ0.75m。近現代の遺物に混じって古い遺物が出土している。1331はB２－a類の土師器皿で、内面タール付着。

鷺山蝉遺跡C1区

SD01（第134図1332～1338、別添図7）

C1区全体で確認した。SX02・SD02を切る。流向は北－南方向。SX02自然流路を切る。東側は調査区外のため全体のプランは不明。確認部分で長さ30.8m、幅3.2m、深さ0.25m。断面形状は浅い皿状。1332は中国産磁器の染付皿。1333は古瀬戸後Ⅳ古段階の縁釉小皿。1334は古瀬戸後Ⅳ期新段階擂鉢。1335・1336は大窯第１段階天目茶碗。1337は近世陶器の碗。1338は土製品の土錘。

SX01落ち込み（第134図1339～1345、別添図7）

C1区南側で確認した。SX02・SD02を切る。全体のプランは不明だが、不整形と推定される。東西4.8m、南北6.4m、深さ0.3m。SD01に近接しており、溝の可能性も考えられるが、遺構の性格は不明である。埋土は洪水砂とも考えられる均質な細砂であった。1339は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。1340はC２類の土師器皿。1341はD1類の土師器皿。1342は近世瀬戸美濃窯の端反碗。1343は近世美濃窯筒型香炉。1344は石製品の硯。1345は銅製品の煙管雁首部分。

鷺山蝉遺跡D区

SD11（第134図1346、別添図8）

D4区中央～東側で確認した。SX09落ち込みに切られる。流向は東－西方向。長さ9.8m、幅0.4m、深さ0.2m。1346は近世瀬戸窯の碗である。

SA01柱穴列（別添図8）

D4区西側～中央で確認した。東西方向で、東からPit55・69・77・56～62・74で構成される。規模は確認部分で東西10間、柱間1.9m。根石等は無かった。上記のSD11を切ることから本時期に相当すると判断した。

SE01（第95図）

D2区東側で確認した。規模は直径1.6m、深さ1.2m。井戸側を抜き取った可能性が高い。実測可能な遺物は無かったが、近世陶磁器片が出土することから、本時期に相当すると判断した。

SE02（第95・134図1347）

D2区東側で確認した。北側は調査区外のため全体のプランは不明だが、ほぼ円形と推定される。規模は確認部分で東西2.4m、南北1.0m、深さ1.0m。素掘井戸の可能性が考えられる。。1347は近世美濃窯の碗である。

SX02落ち込み（第134図1348・1349、別添図8）

D2区西側・D3区東側で確認した。南側は調査区外のため全体のプランは不明。隅丸長方形と推定される。規模は確認部分で東西6.0m、南北2.8m、深さ0.5m。Ⅲ層（近世耕作土）上から掘り込まれており、埋土は洪水堆積状の均質な細砂であった。1348は古瀬戸後Ⅲ期の平椀。1349は銅製品の煙管雁首部分。

SX03落ち込み（第134図1350～1354、別添図8）

D2区全体で確認した。SD01・03を切る。大半は調査区外で、遺構の南肩を確認したのみで全体のプランは不明。規模は確認部分で東西15m、南北2.9m、深さ0.4m。Ⅱ・Ⅲ層（近世耕作土）に似ており、粘質の埋土であることから近世以降の水田の可能性が考えられる。1350は南部系山茶碗の碗で、1351は大平鉢。1352は灰釉陶器椀。1353は中国産磁器の染付皿。1354は近世瀬戸窯の鉢。

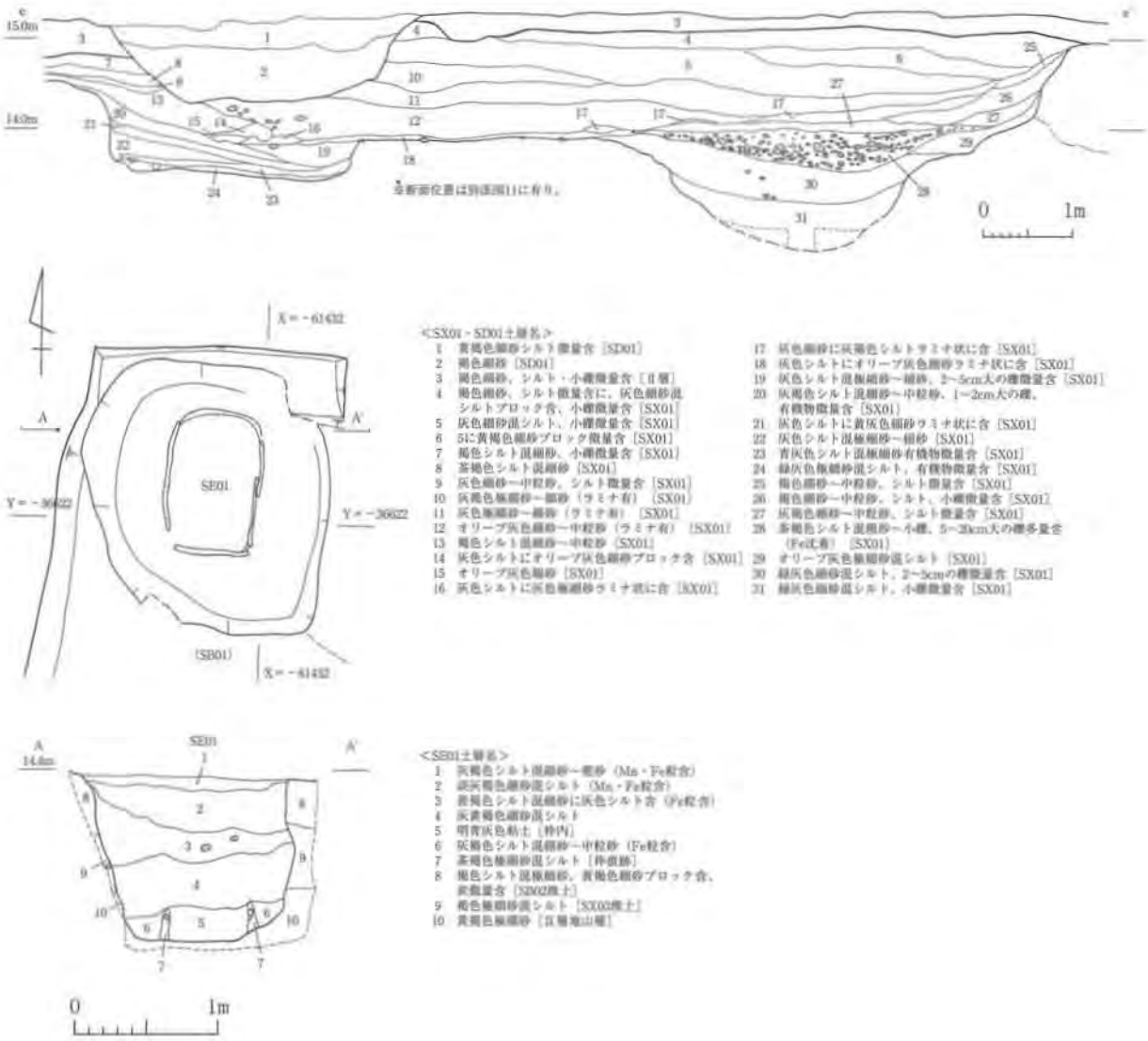
鷺山蝉遺跡E1区

SD01（第134図1355・1356、別添図8）

E1区東側～中央で確認した。SD06・08を切る。流向は東－西方向。西側は試掘坑に切られ全体のプランは不明。規模は確認部分で長さ11.4m、幅0.7m、深さ0.3m。1355は中国産磁器の青磁鉢もしくは大皿。1356は近世陶器京焼系の碗。

SX01落ち込み（第134図1357～1359、別添図8）

E1区東側～中央で確認した。南肩・北肩の一部を確認した。SD03・08・15等を切る。東西13m、南北2.7m。深さ0.2m。埋土はⅡ・Ⅲ層（近世耕作土）に似ており、粘質の埋土であることから近世以降の水田の可能性が考えられる。1357は古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期の尊式花瓶。1358はB２－b類の土師器皿で、内面タール付着。1359は砥石で、石材は砂岩。



第96図　鷲山仙道遺跡A2区SX01池状遺構、B1区SE01実測図

鷲山蝉遺跡F１区

SK01（第134図1360、別添図9）

F1区東側で確認した。SD12を切る。プランは不整楕円形。規模は長軸1.6m、短軸1.4m、深さ0.1m。1360はB２－a類の土師器皿。この他実測可能な遺物は無かった。埋土がⅢ層に似ることから本時期に相当すると判断したが、戦国時代にさかのぼる可能性も考えられる。

SK02（第134図1361・1362、別添図９）

F1区東側で確認した。SX01、SD13を切る。北側は調査区外のため全体のプランは不明。隅丸方形と推定される。規模は確認部分で東西1.2m、南北1.2m、深さ0.5m。1361はB２－b類、1362はC２類の土師器皿。この他実測可能な遺物は無かったが、埋土がⅡ・Ⅲ層（近世耕作土）に似ること、近現代陶磁器が出土することから本時期に相当すると判断した。

鷲山仙道遺跡A区

SK04（第134図1363・1364、別添図12）

A1区北側で確認した。SK05を切る。西側は調査区外のため全体のプランは不明。不整楕円形状と

推定される。規模は確認部分で南北2.9m、東西1.25m、深さ0.25m。1363は中国産磁器の白磁碗で、口縁が玉縁状。1364は土製品の土錘。

SK07（第134図1365、別添図11）

A2区中央で確認した。南側は調査区外のため全体のプランは不明。ほぼ円形と推定される。規模は直径1.2m、深さ0.3m。1365は近世陶器京焼の碗。

SK09（第134図1366・1367、別添図11）

A2区中央で確認した。SK08を切る。プランはほぼ円形。規模は直径1.1m、深さ0.3m。1366は近世美濃窯の碗。1367は銅製品の煙管吸口。

SX01池状遺構（第96・134図1368～1376）

A2区西側で確認した。北側・南側は調査区外のため全体のプランは不明。規模は確認部分で東西11m、南北5.0m、最深部の深さ2.4m。埋土は泥状の堆積と洪水堆積に由来する砂層が互層となる部分が見られる。池状遺構と判断したが、常時滞水している環境ではないことが土壌分析から判明した（詳細は第6章第1節参照）。1368は土師器平底甕である。1369は灰釉陶器の椀。1370・1371は土製品の土錘。1372は近世美濃窯の灯明具。1373は近世陶器の皿。1374は近世瀬戸美濃窯の禿皿。1375は土師器焙烙。1376は近世美濃窯の五合徳利。

鷲山仙道遺跡B区

SD02（第134図1377・1378、別添図12）

B1区北側で確認した。流向は東－西方向。両端は調査区外のため全体のプランは不明。規模は長さ5.2m、幅1.5m、深さ0.15m。断面形状は浅い皿状。1377は古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁釉小皿。1378は近世陶器瀬戸美濃窯の壺。

SK06（第134図1379、別添図12）

B1区北端で確認した。西側と北側は調査区外のため全体のプランは不明。隅丸方形と推定される。規模は確認部分で南北1.4m、東西0.7m、深さ0.6m。1379は近世美濃窯の柳茶碗。

SE01（第96図）

B1区南側で確認した。掘り方プランは不整楕円形。規模は長軸1.9m、短軸1.7m、深さ1.15m。埋土を除去すると、下層部分で井戸側を確認した。井戸側は細い単子葉類の茎部（ヨシ科植物のようなもの、詳細は第6章第2節参照）を束ねた簡易なもので、水溜であったと推定される。図化可能な遺物は無かったが、近世陶磁器片が出土することから本時期に相当すると判断した。

＜包含層その他出土遺物＞

鷲山蝉遺跡B8区Ⅶ層（第135図1380～1388）

1380は縄文土器深鉢。1381・1383は縄文土器突帯文深鉢。1382は縄文土器浅鉢。1384は縄文土器の壺か。1385・1386は条痕文土器の甕。1387は剥片で、石材は粘板岩。1388は不明石製品で、石材は大日岳安山岩。

鷲山蝉遺跡F2区Ⅵ層（第135図1389～1395）

1389はS字甕口縁片で、A類。1390は有段口縁甕。1391は暗文土師器椀。1392は土師器伊勢型甕。1393は美濃式２類の焼塩土器。1394は灰釉陶器椀。1395は土製品土錘。

鷺山蝉遺跡A・B区Ⅴ層（第135図1396～1413）

1396はA4区出土の銅銭で「□元□宝」。1397・1398はB2区出土のロクロ土師器。1399はA3区出土の緑釉陶器片。1400・1401はB4区出土の灰釉陶器椀と皿。1402はB5区出土の中国産磁器青磁碗。1403はA4区出土の南部系山茶碗の碗で、1404は大平鉢。1405はB5区出土の南部系山茶碗の大平鉢。1406はA4区出土北部系山茶碗の碗。1407はB5区出土北部系山茶碗の皿。墨書が見られるが判読不能。1408はB4区出土古瀬戸後Ⅳ期古段階の緑釉小皿。1409はB4区出土古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期の双耳合子。1410はB4区出土常滑甕。1411はB4区出土土師器内彎型羽釜。1412はB8区出土無茎石鏃で、石材は下呂石。1413はB5区出土砥石で、石材は泥岩もしくはホルンフェルス。

鷺山蝉遺跡A区Ⅳ層（第135図1414～1422）

1414は中国産磁器の染付碗。1415は大窯第1段階の天目茶碗。1416は古瀬戸後Ⅳ期の灰釉天目茶碗。1417は古瀬戸後Ⅳ期新段階の平椀。1418は大窯第１～２段階の筒型香炉。1419は大窯第1段階の緑釉挟み皿。1420は北部系山茶碗の碗。1421はB２－b類の土師器皿で、内外面タール付着。1422は土師器皿B２－b類。

鷺山蝉遺跡A区Ⅲ層（第135図1423～1425）

1423は中国産磁器青磁碗。1424は古瀬戸後Ⅳ期新段階の緑釉小皿。1425は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢。

トレンチ（第136図1426～1447）

トレンチ出土遺物は主にⅣ～Ⅶ層の遺物包含層より出土したものである。1426は鷺山仙道遺跡A1区出土の縄文土器深鉢底部。1427は鷺山蝉遺跡B8区出土の縄文土器深鉢。1428は鷺山蝉遺跡B1区出土の土師器器台脚部。1429は鷺山蝉遺跡B6区出土の土師器S字甕。1430は鷺山仙道遺跡A2出土のS字甕、1431は土師器くの字甕口縁、1432は伊勢型甕口縁、1433は須恵器蓋、1434は須恵器甑。1435は鷺山蝉D3区出土灰釉陶器椀。1436は鷺山蝉遺跡A3区出土美濃須衛型の山茶碗。1437は鷺山蝉遺跡C1区出土北部系山茶碗の皿。1438は鷺山蝉遺跡D3区出土南部系山茶碗の碗。1439は鷺山蝉遺跡B4区出土の北部系山茶碗皿で、墨書が見られるが判読不能。1440は鷺山蝉遺跡B5区出土の北部系山茶碗で、花押状の墨書が見られる。1441は鷺山蝉遺跡C1区出土古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿。1442は鷺山蝉遺跡B8区出土古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯第１段階の擂鉢。1443は鷺山蝉遺跡B1区出土古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯第２段階の瓶子。1444は鷺山蝉遺跡A4区出土B２－b類の土師器皿。1445は鷺山蝉遺跡F1区C２類の土師器皿。1446・1447は鷺山仙道遺跡A2区出土の土錘。

遺構検出（第136図1448～1474）

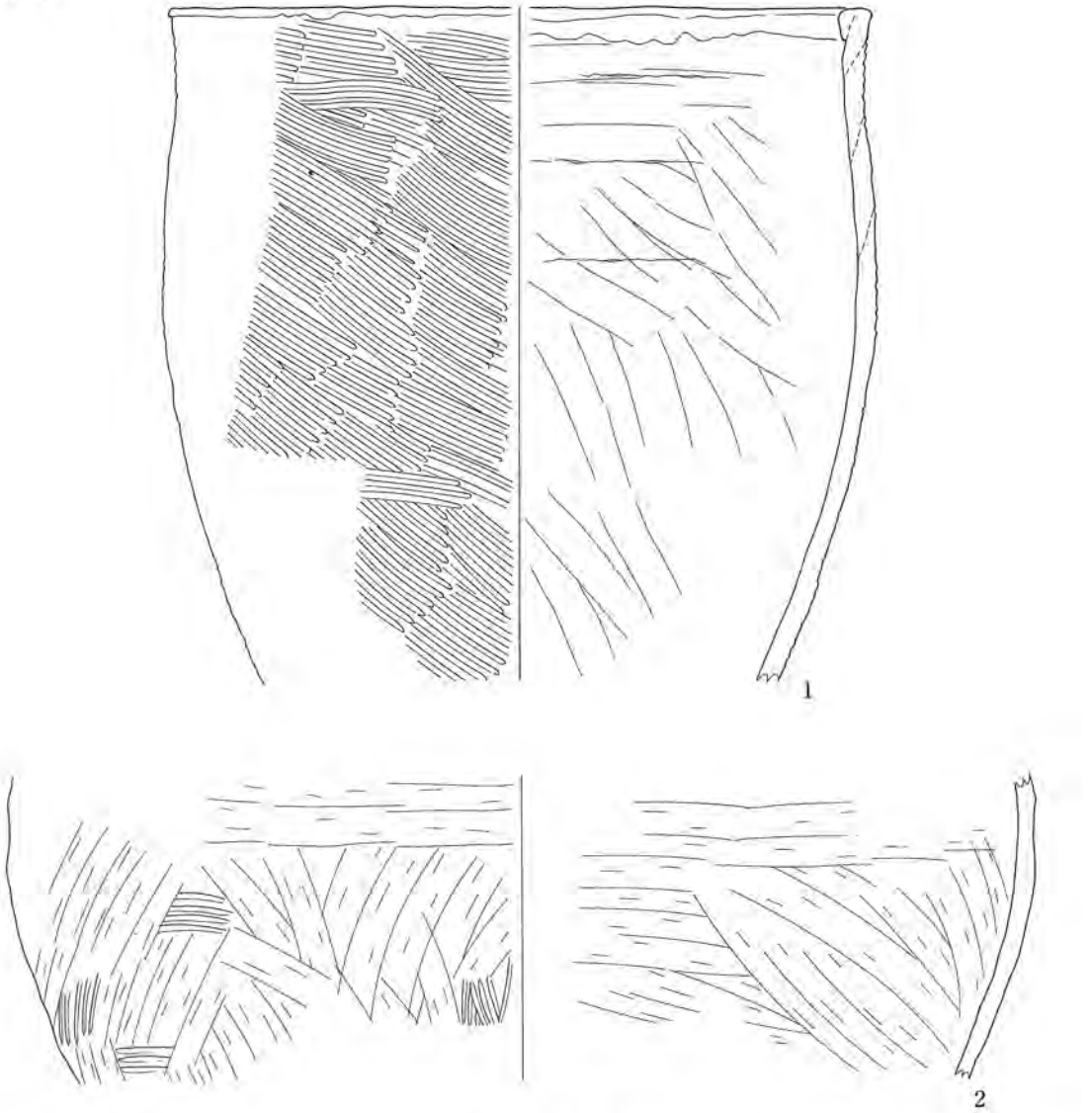
遺構検出出土遺物は主にⅣ～Ⅶ層の遺物包含層より出土したものである。1448は鷺山蝉遺跡F3区出土の土師器甕で北陸系と考えられる。1449は鷺山蝉遺跡B4区出土中国産磁器青磁碗。1450は鷺山蝉遺跡F1区出土南部系山茶碗の皿、1451は古瀬戸後Ⅰ～Ⅳ期の釜か。1452は鷺山蝉遺跡A1区出土古瀬戸後Ⅳ期の仏餉具。1453は鷺山蝉遺跡F1区出土古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期の卸皿、1454～1457は土錘。1458は鷺山蝉遺跡B1区出土有茎五角形鏃で、石材はチャート。1459は鷺山蝉遺跡B6区出土の剥片で、

石材はチャート。1460は鷺山蟬遺跡D3区出土銅製品の煙管雁首。1461は鷺山仙道遺跡A1区出土のパレス壺体部。1462は鷺山仙道遺跡A2区出土の柳ヶ坪型壺体部、1463は土師器甕で、北陸系もしくは山陰系か。1464は鷺山蟬遺跡B4区出土須恵器の椀。1465は鷺山蟬遺跡F2区出土美濃式2類の焼塩土器。1466は鷺山仙道遺跡A2区出土の土師器内彎型羽釜。1467は鷺山蟬遺跡B4区出土B1類の土師器皿。1468は鷺山蟬遺跡B1区出土の古瀬戸後Ⅳ期古段階折縁深皿、1469は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗。1470は鷺山蟬遺跡A2区出土古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢。1471は鷺山蟬遺跡D3区出土中国産磁器染付皿。1472は鷺山仙道遺跡A1区出土の土錘。1473は鷺山仙道遺跡A2区出土の土製品土鈴。1474は鷺山蟬遺跡A2区出土の土製品土鈴。

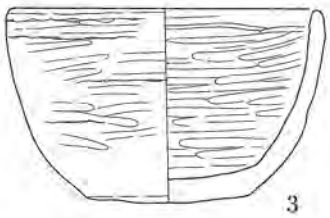
重機掘削（第136図1475～1482）

重機掘削出土遺物は主にⅠ～Ⅲ層の近世以降耕作土層より出土したものである。1475は鷺山蟬遺跡F3区出土の土師器器台。1476は鷺山蟬遺跡B4区出土古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期の梅瓶。1477は鷺山蟬遺跡E1区出土古瀬戸後Ⅳ期新段階の水注。1478は鷺山蟬遺跡A2区出土の中国産磁器青磁碗。1479は鷺山蟬遺跡A2区出土古瀬戸後Ⅳ期新段階の口広有耳壺。1480は鷺山蟬遺跡A1区出土古瀬戸後Ⅳ期新段階の仏餉具。1481は鷺山仙道遺跡A2区出土の土錘。1482は鷺山蟬遺跡A1区出土の打製石斧で、石材は流紋岩。

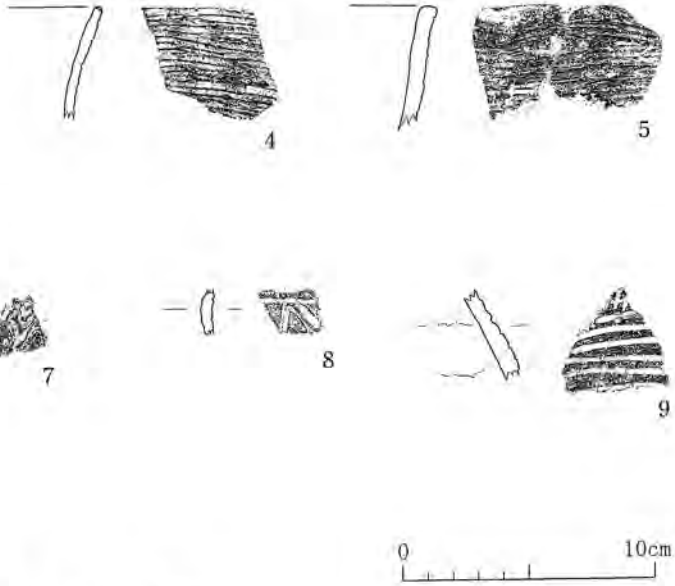
SS2B8 SX33(1,2)



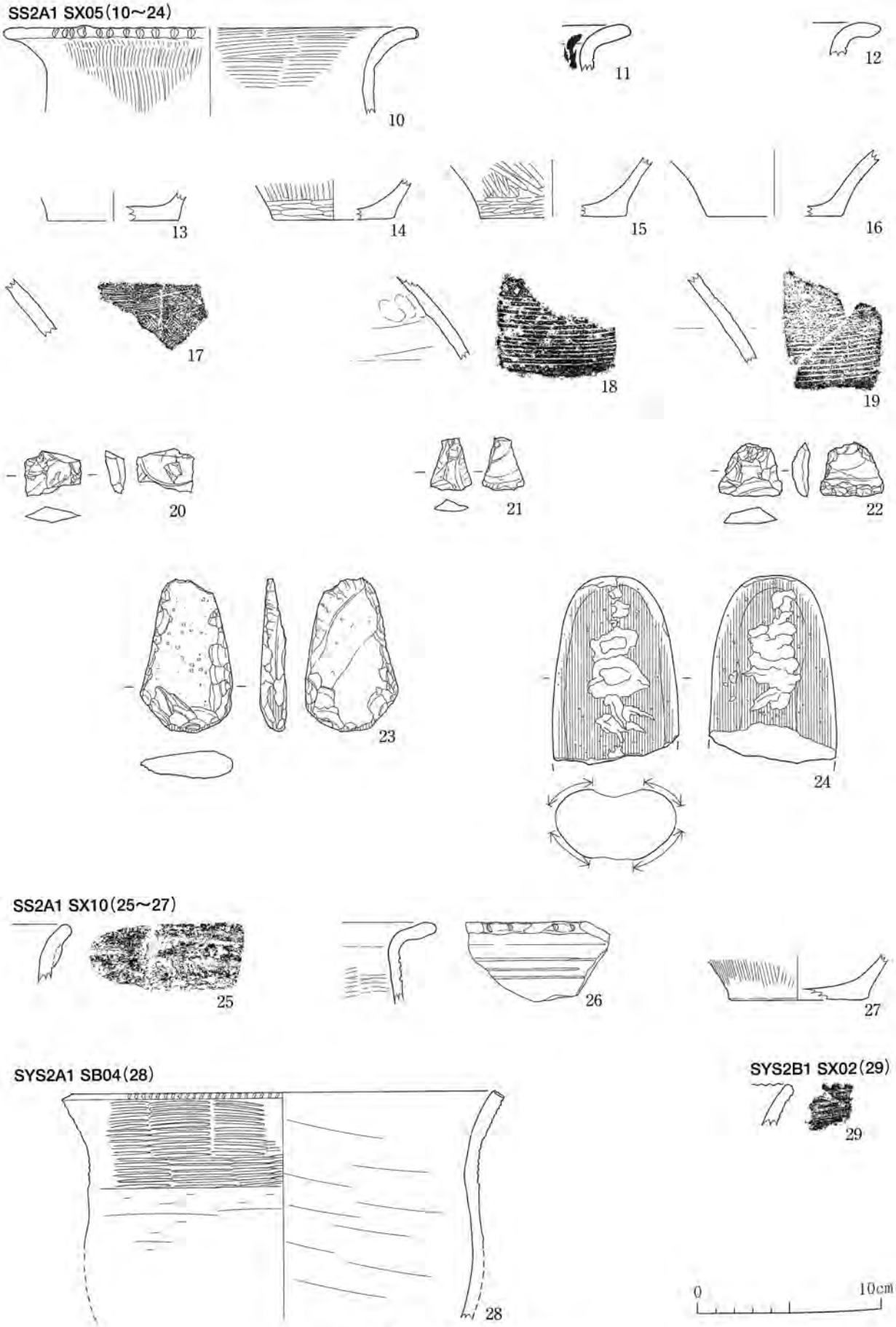
SS2B8 SD89(3)



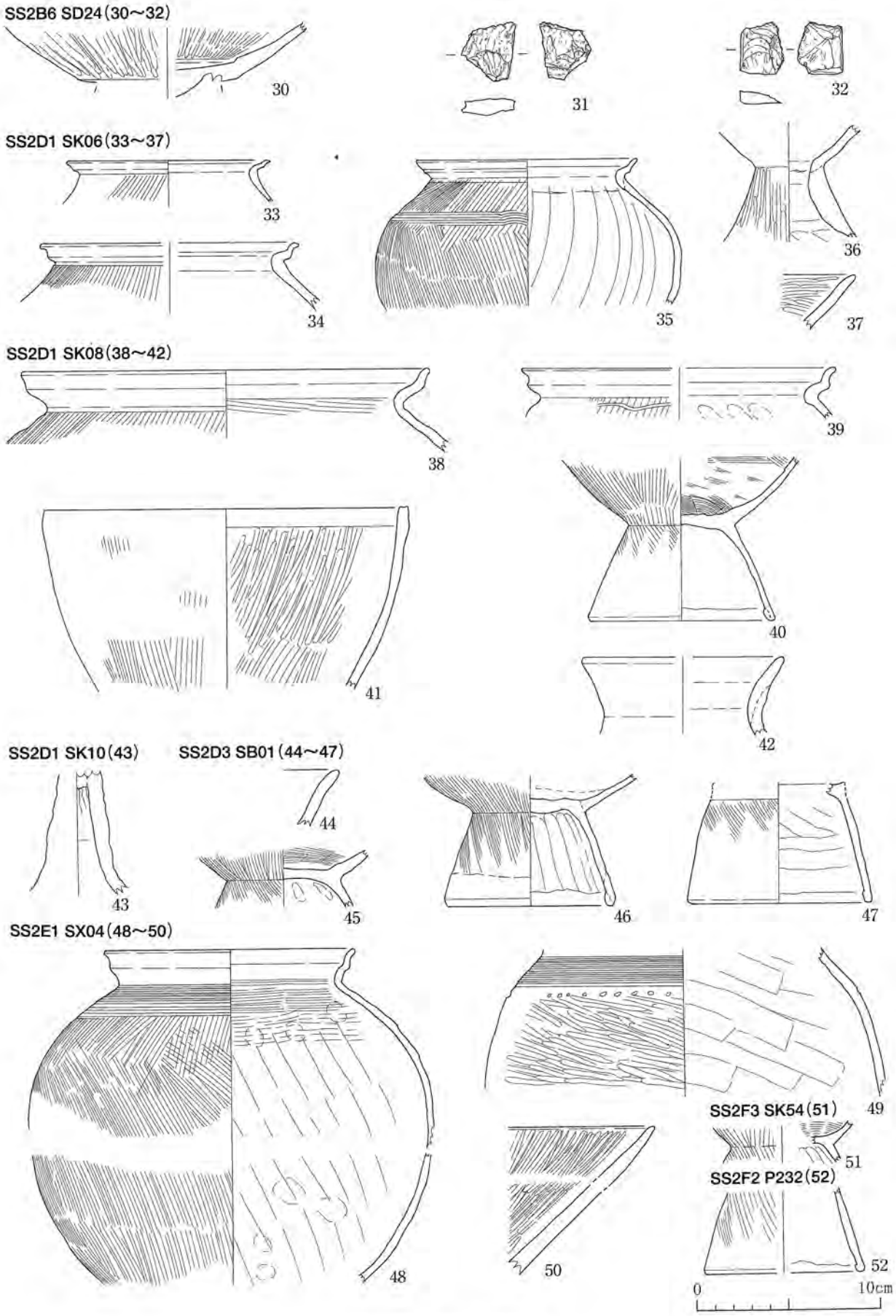
SS2A1 SX05(4～9)



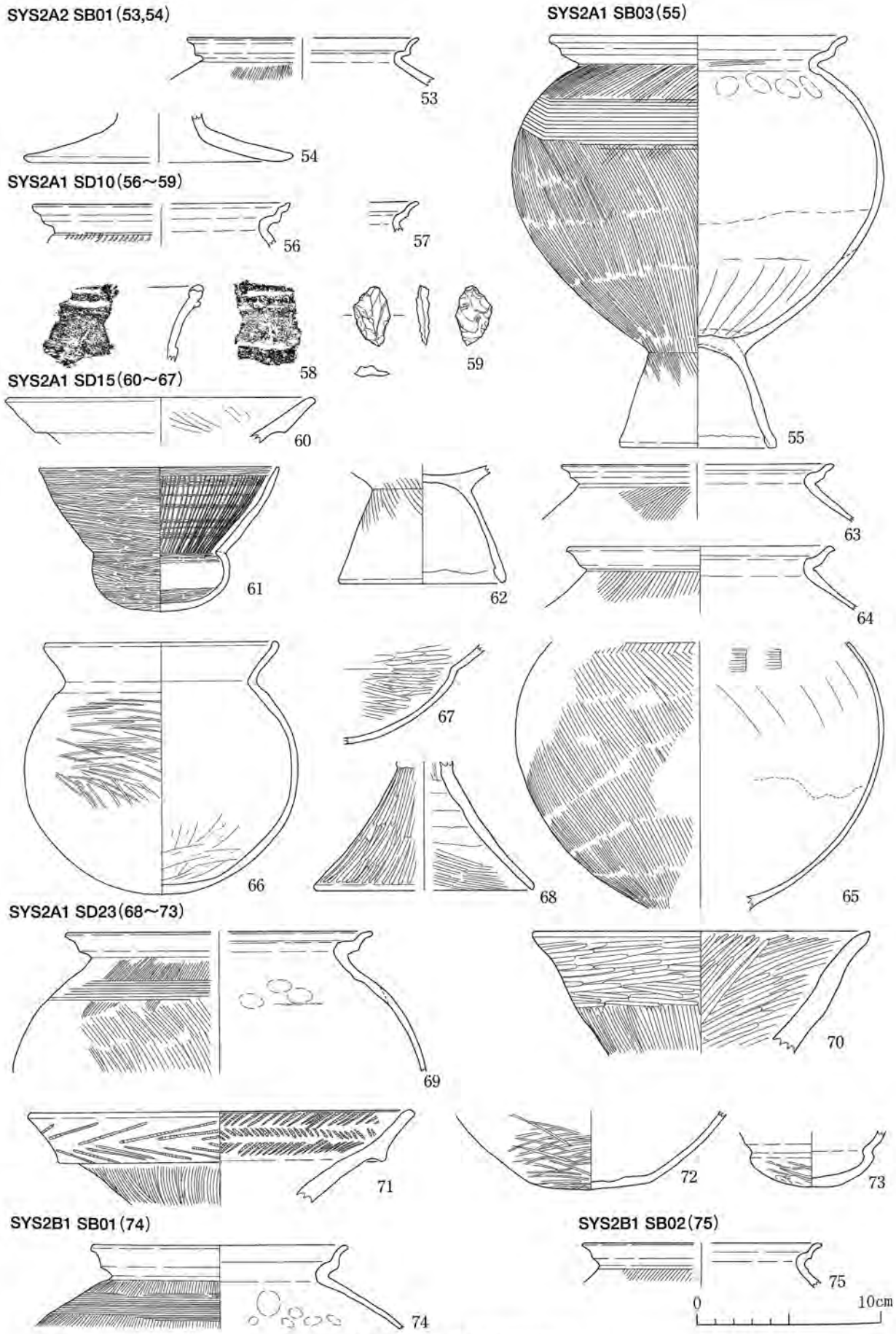
第97図　遺物実測図(1)


SS2A1 SX05(10～24)
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
SS2A1 SX10(25～27)
25
26
27
SYS2A1 SB04(28)
28
SYS2B1 SX02(29)
29
0
10cm

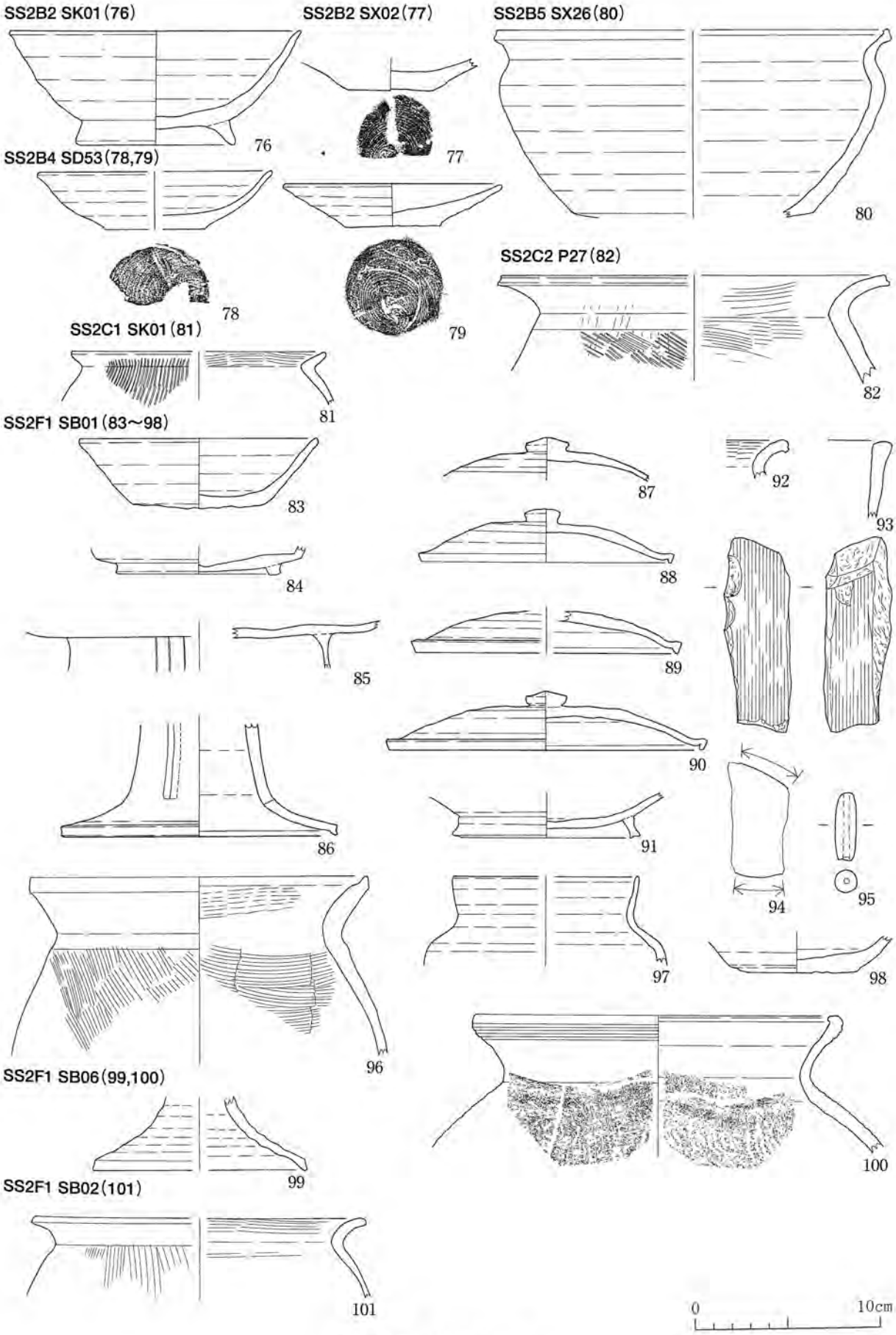
第98図　遺物実測図(2)


SS2B6 SD24(30～32)
30
31
32
SS2D1 SK06(33～37)
33
34
35
36
37
SS2D1 SK08(38～42)
38
39
40
41
42
SS2D1 SK10(43)
43
SS2D3 SB01(44～47)
44
45
46
47
SS2E1 SX04(48～50)
48
49
50
SS2F3 SK54(51)
51
SS2F2 P232(52)
52
0
10cm

第99図　遺物実測図(3)

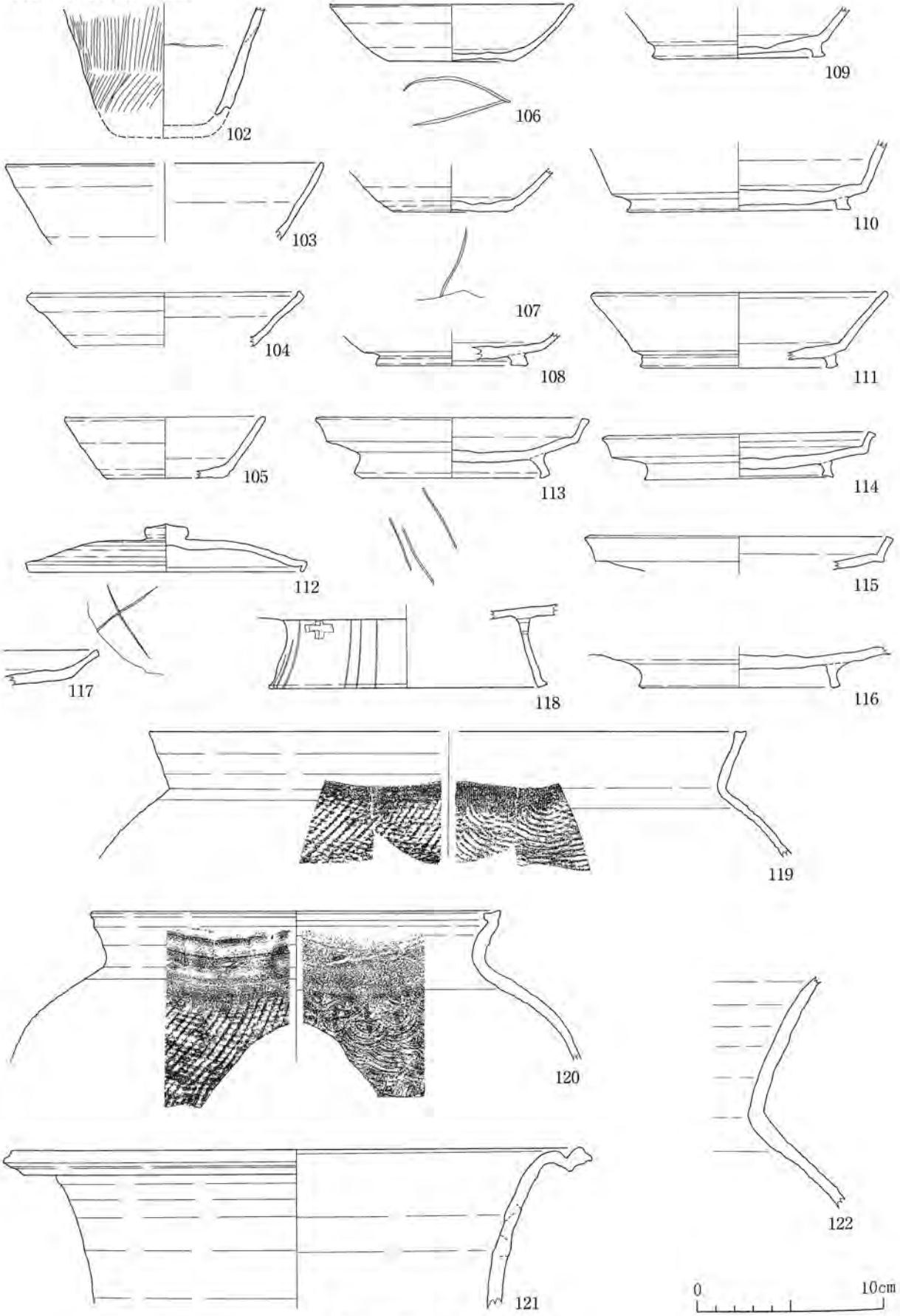


第100図　遺物実測図(4)

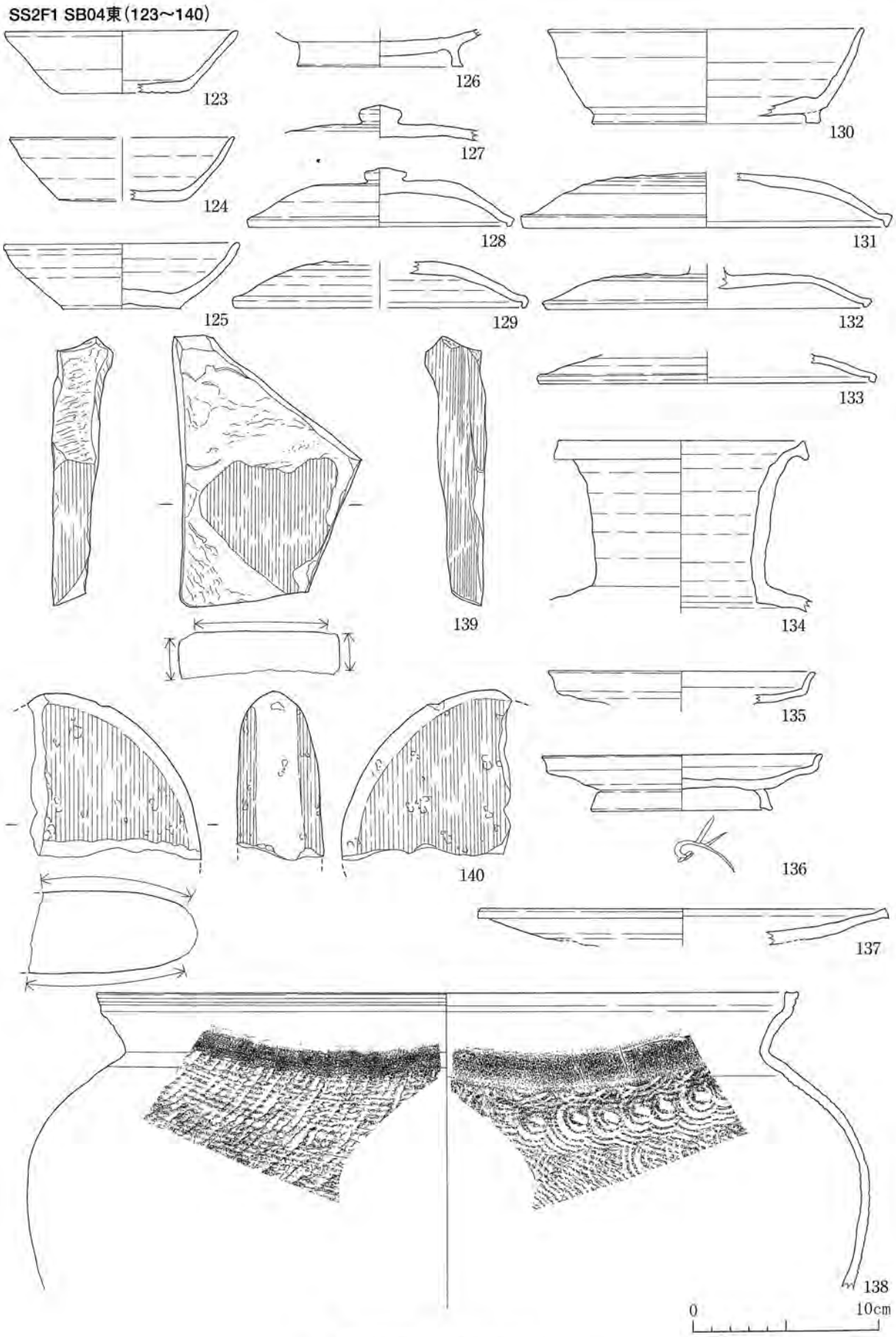


第101図　遺物実測図(5)

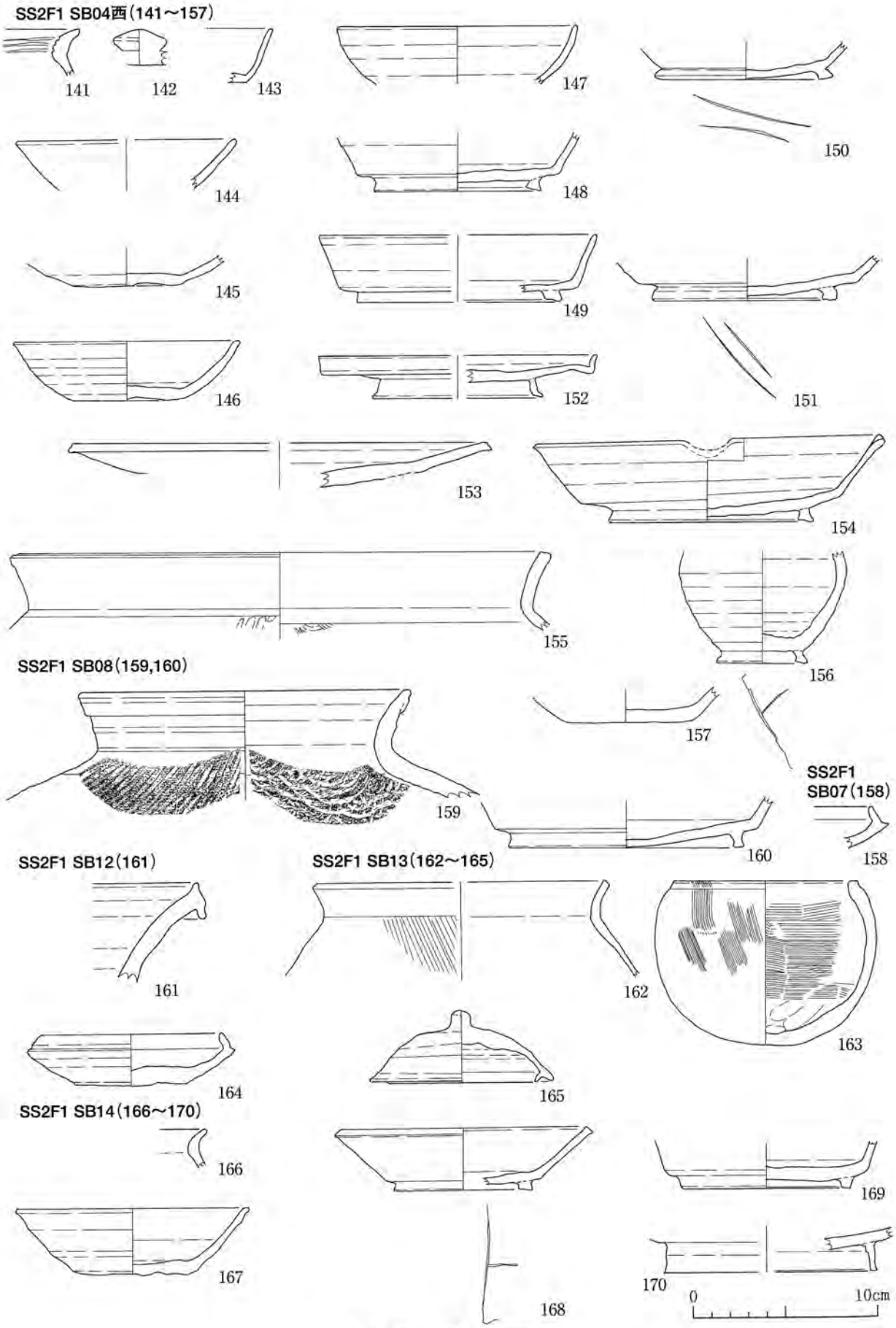
SS2F1 SB03(102～122)



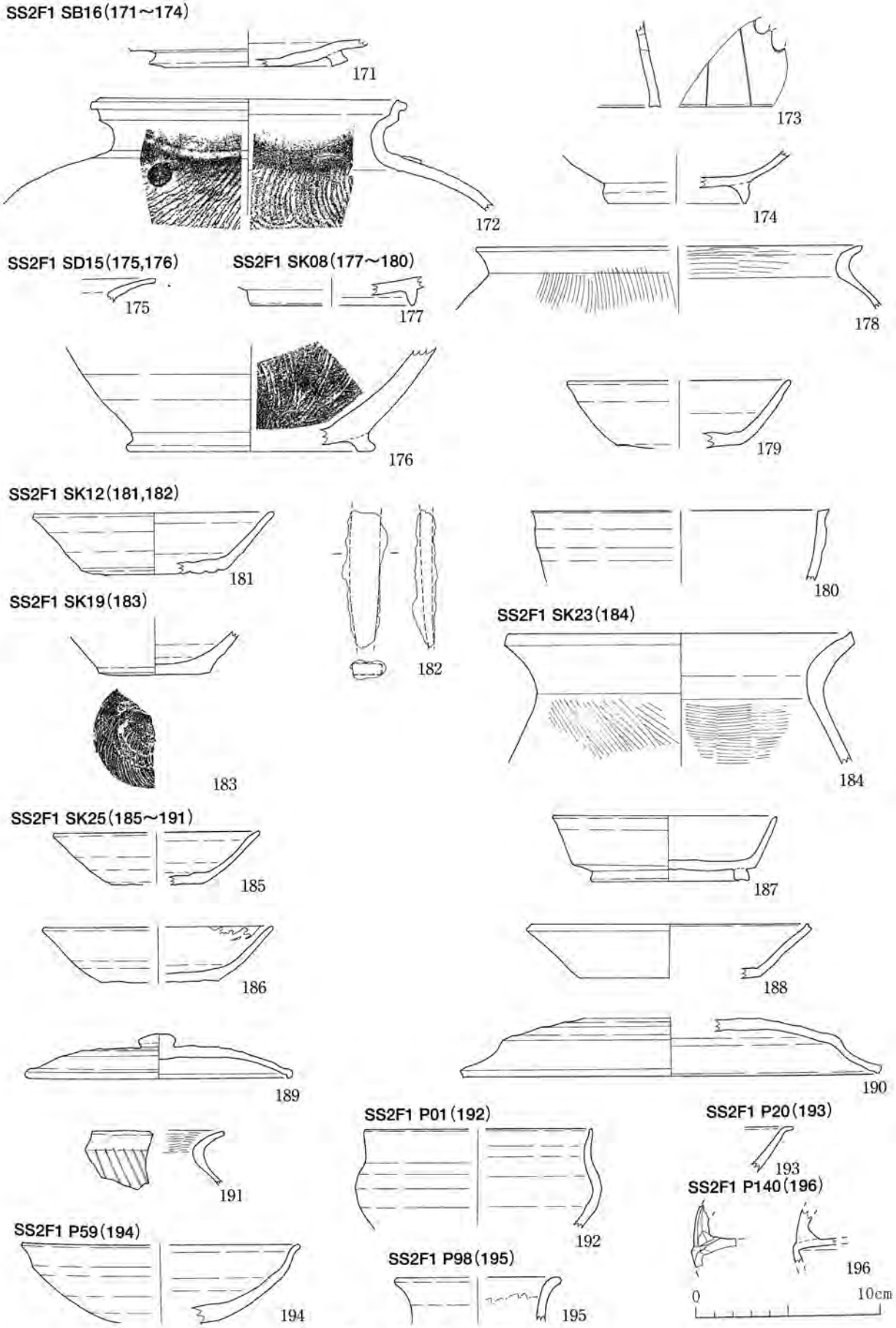
第102図　遺物実測図(6)



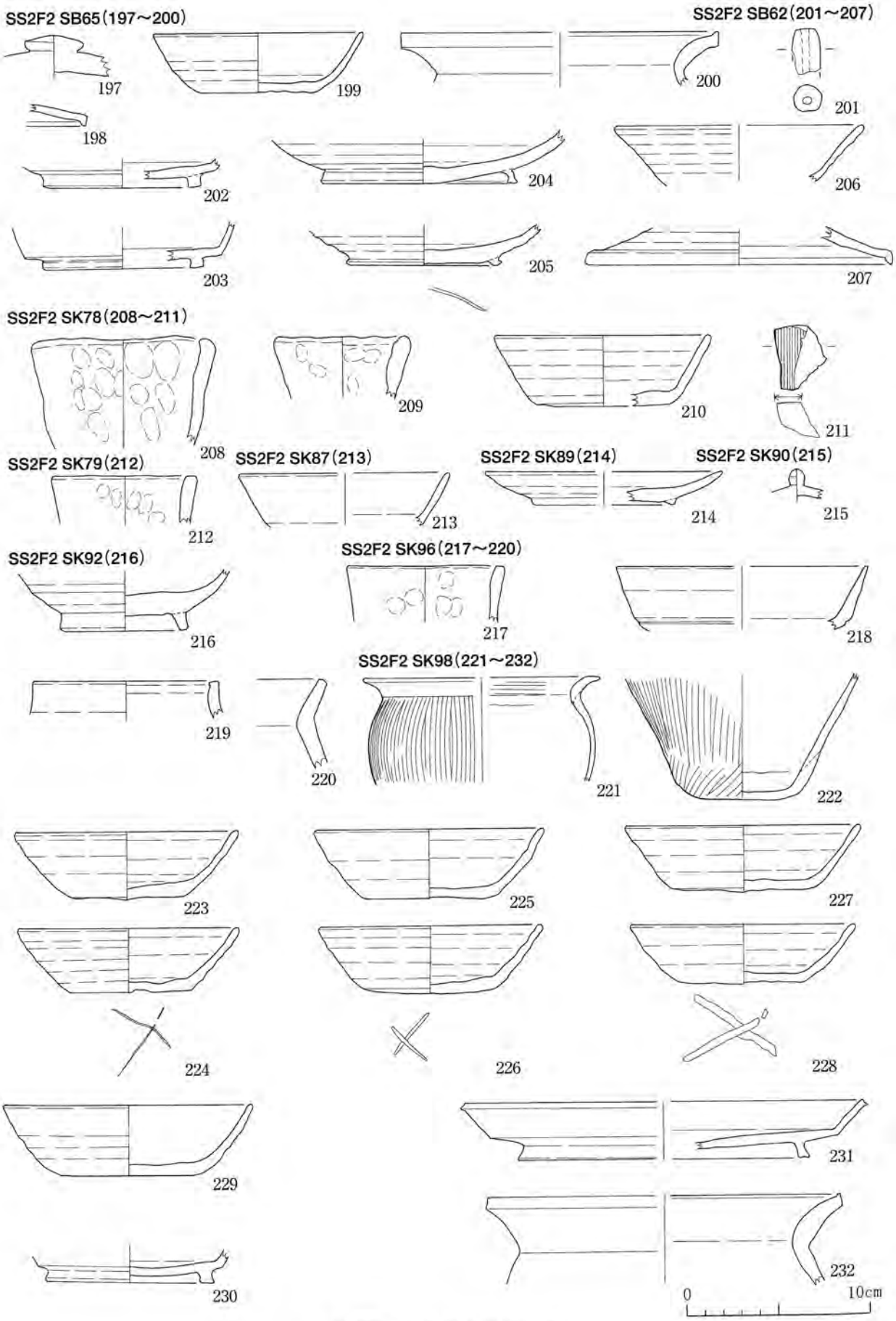
第103図　遺物実測図(7)



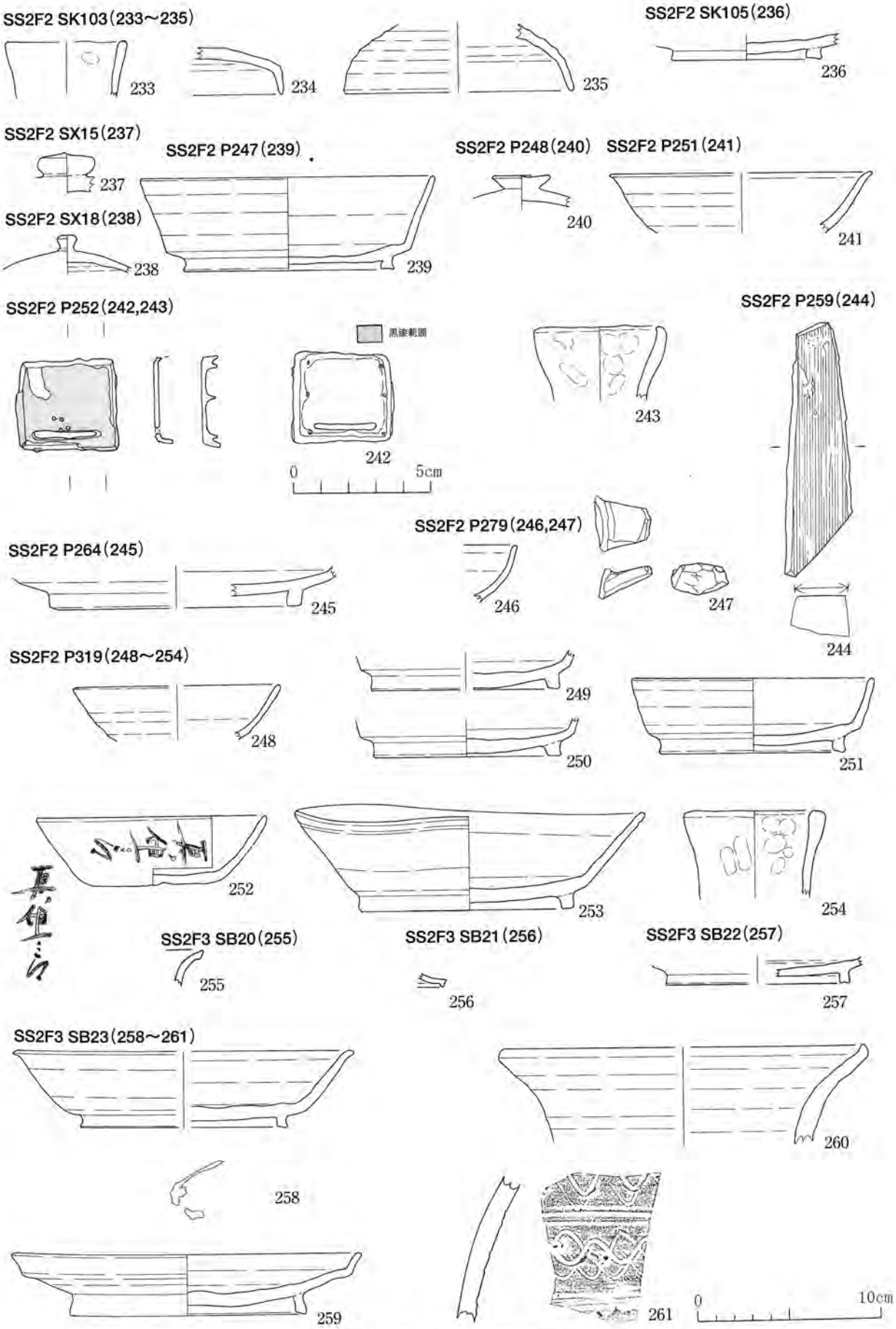
第104図　遺物実測図(8)



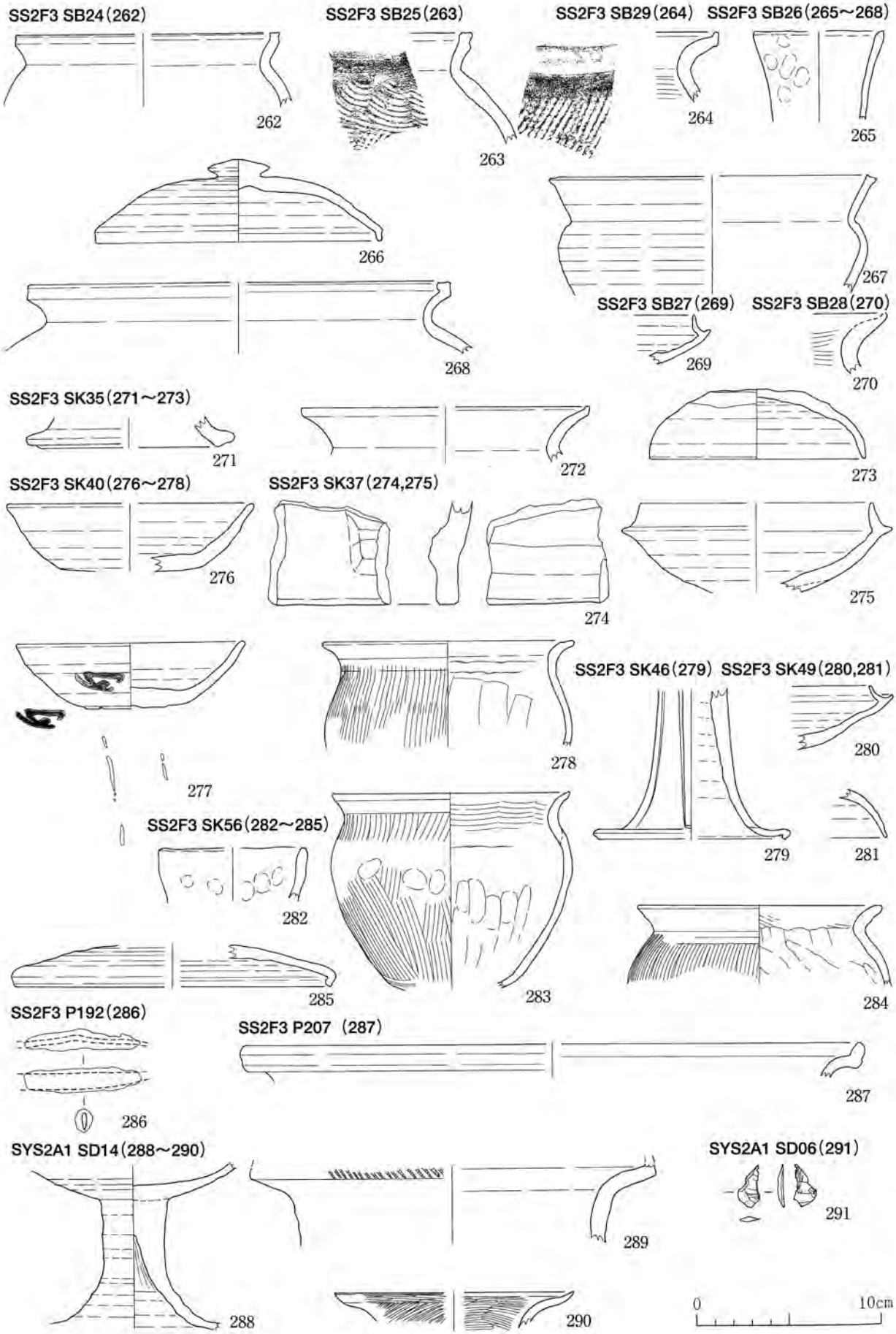
第105図　遺物実測図(9)



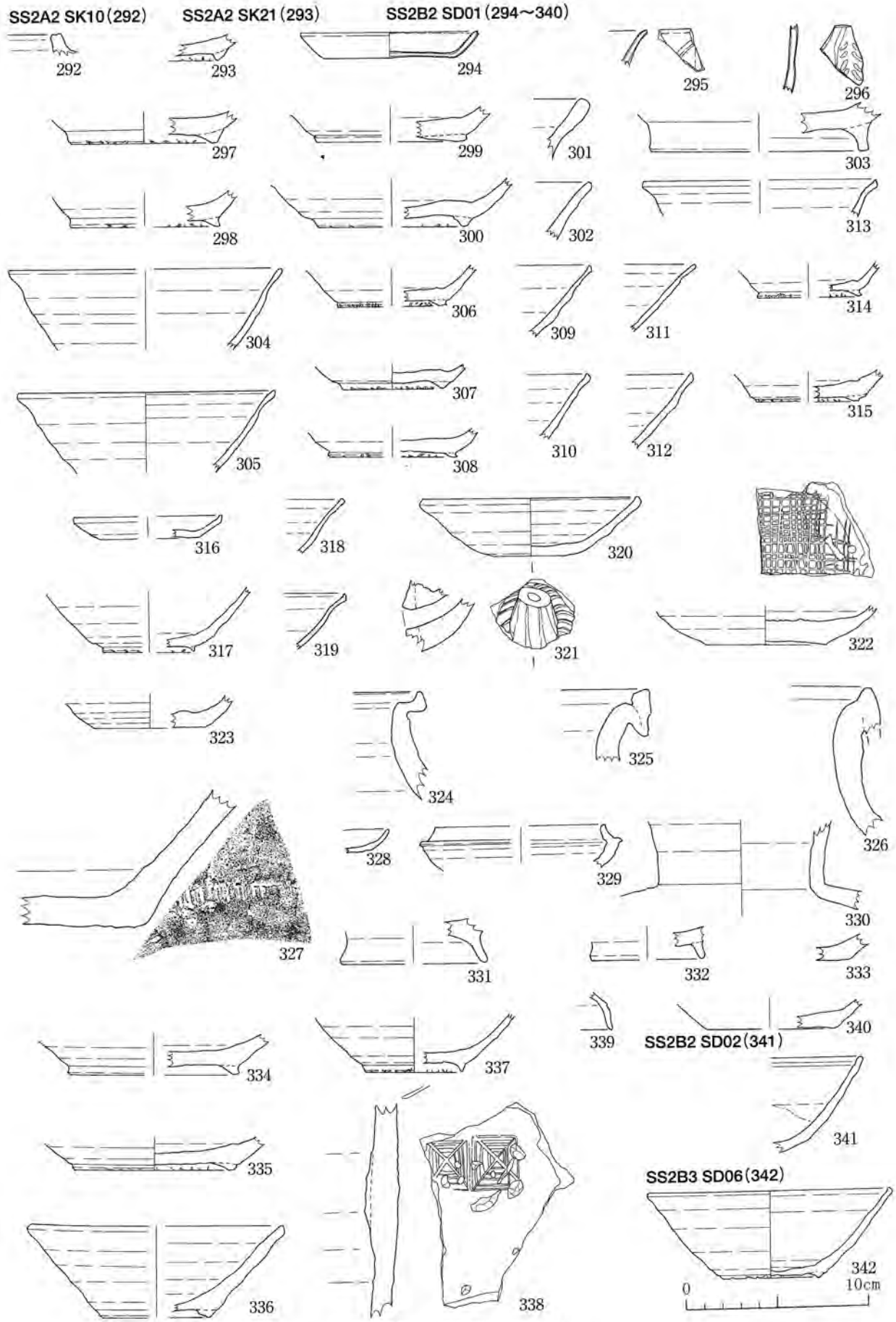
第106図　遺物実測図(10)



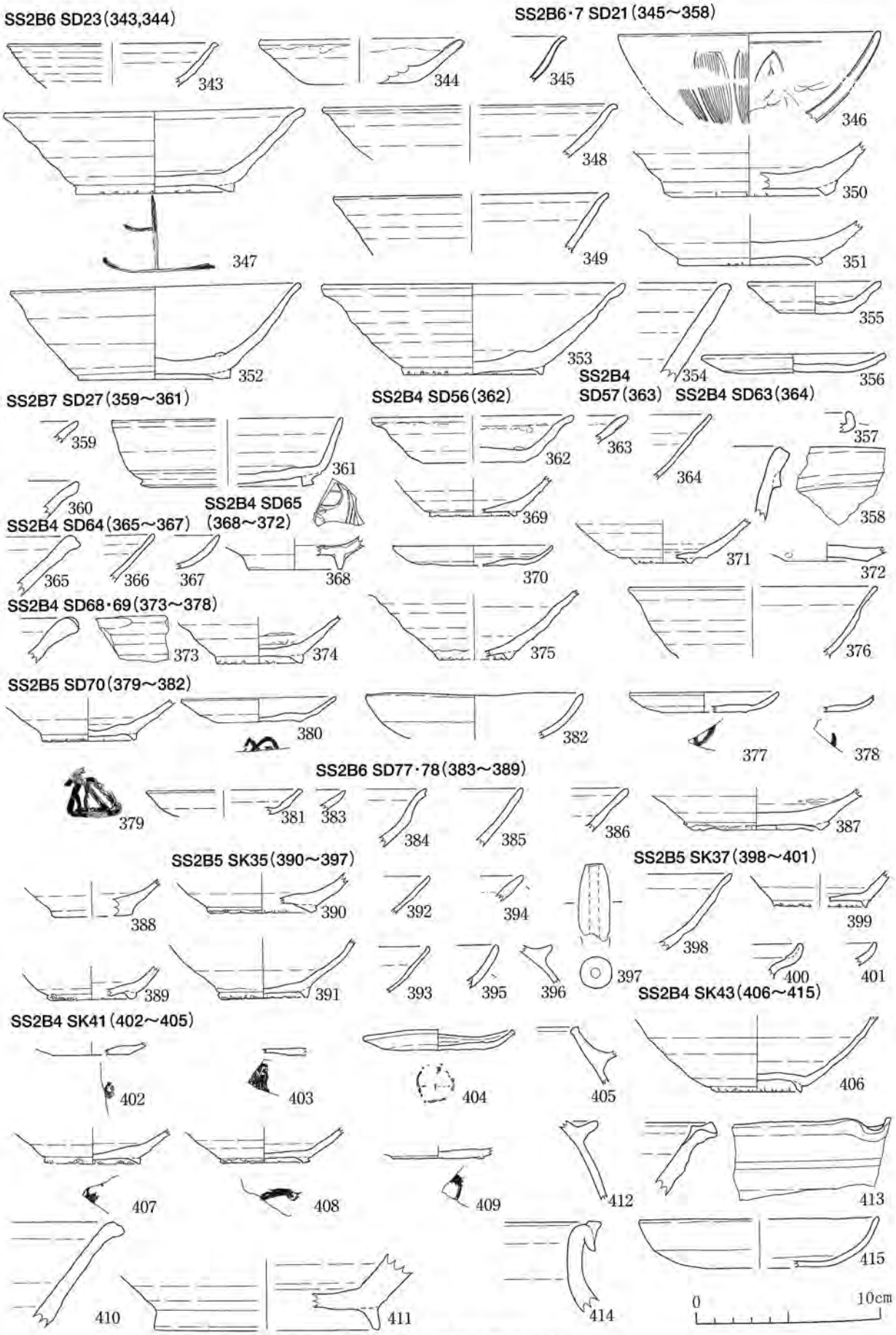
第107図　遺物実測図(11)



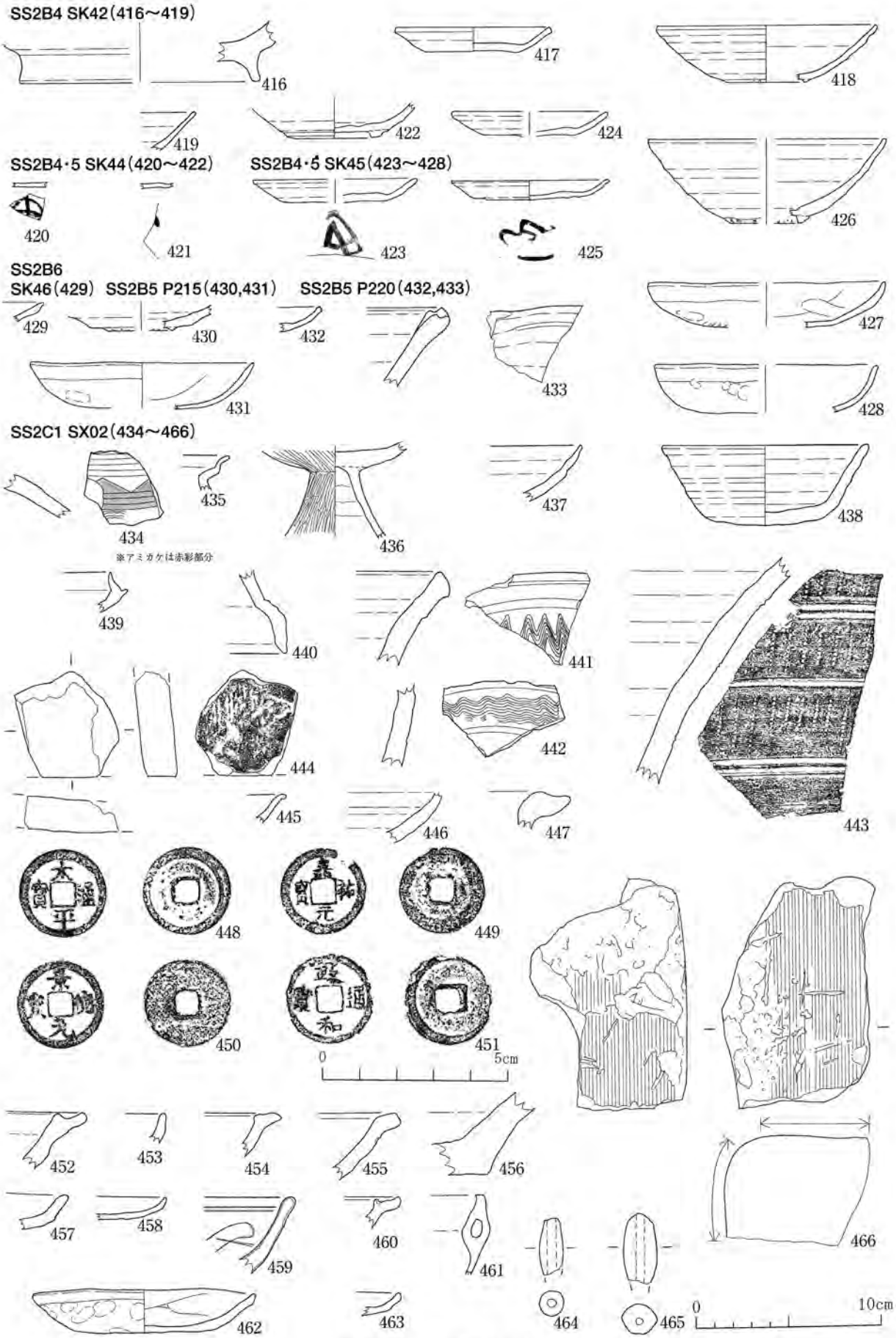
第108図　遺物実測図(12)



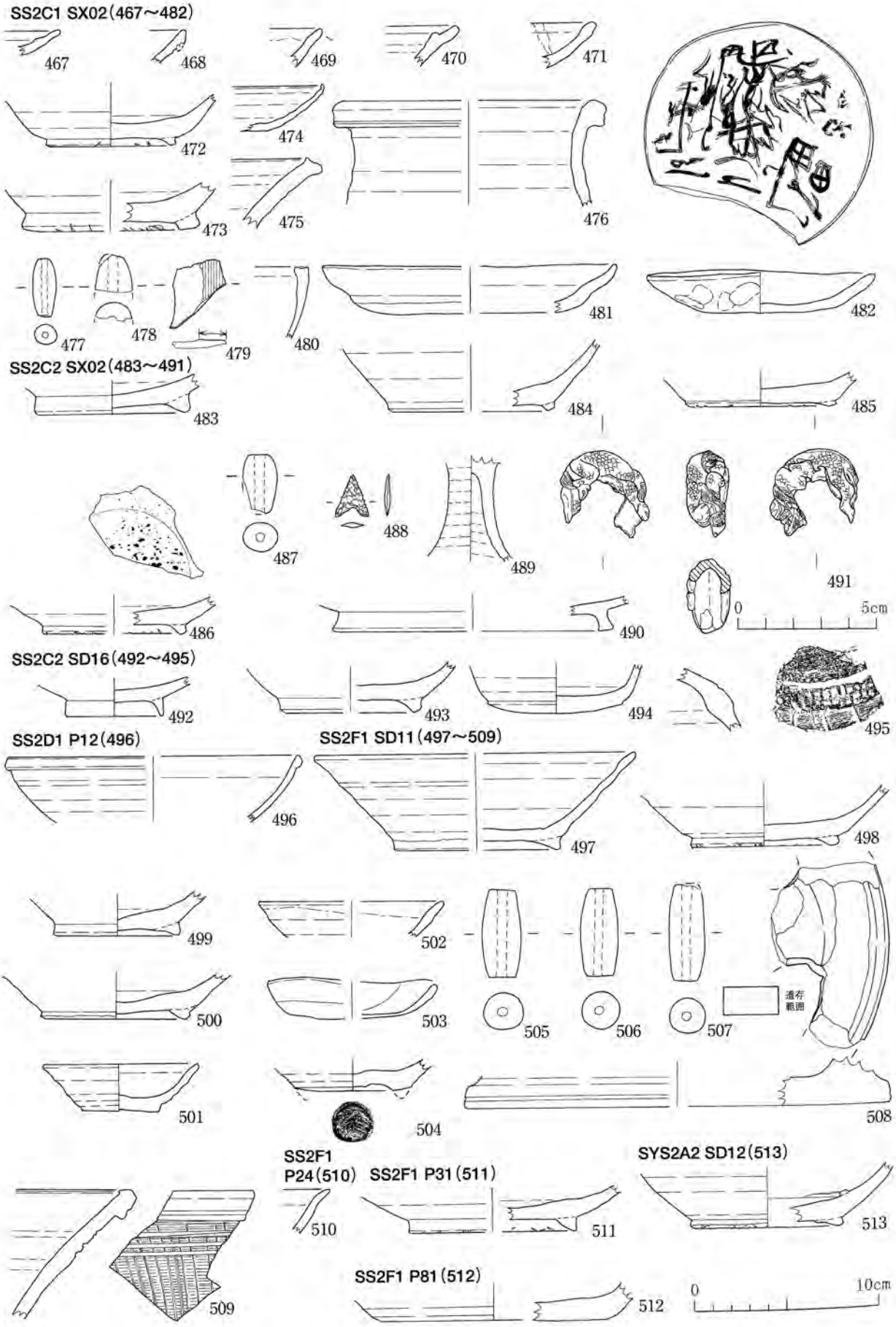
第109図　遺物実測図(13)



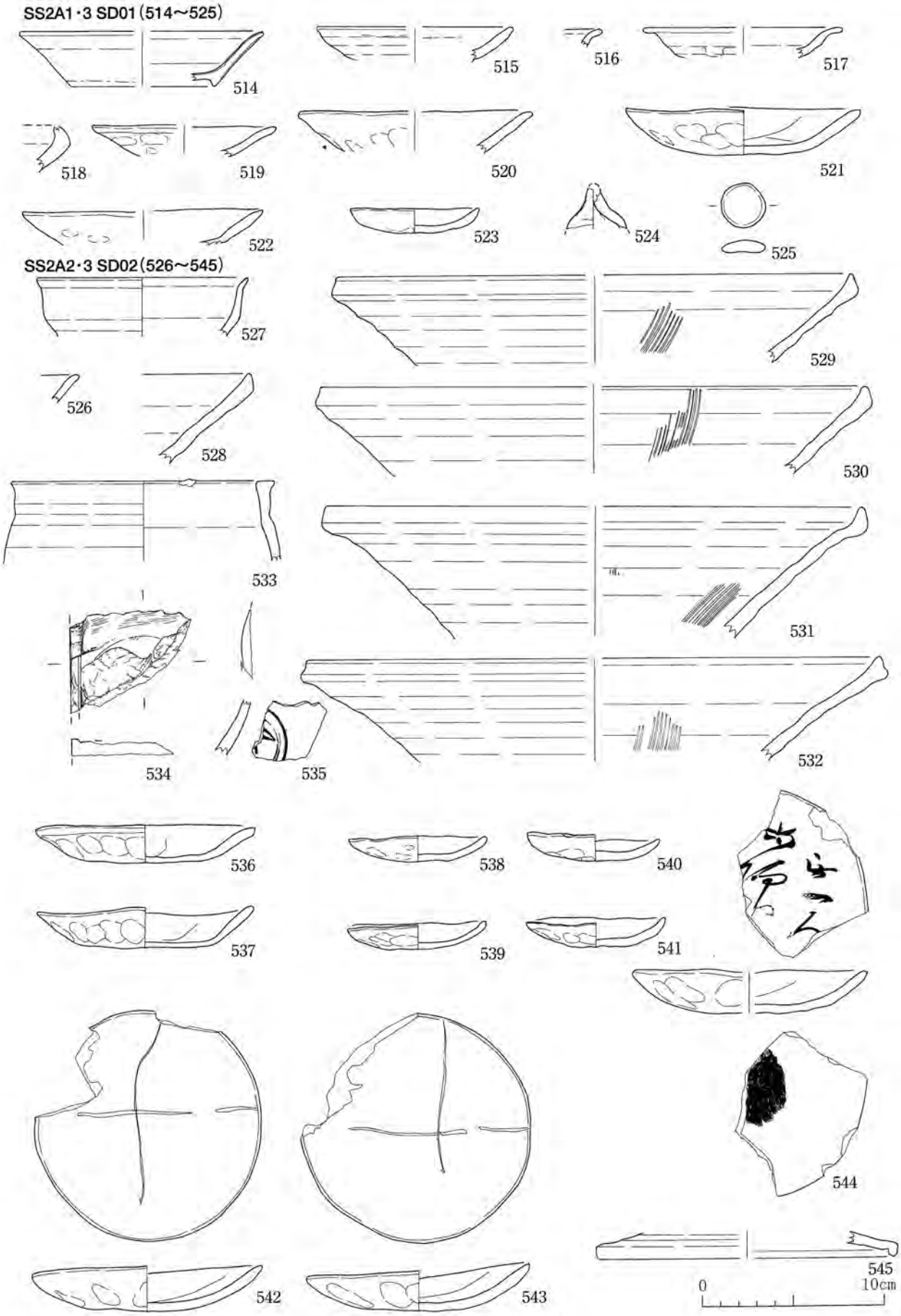
第110図　遺物実測図(14)



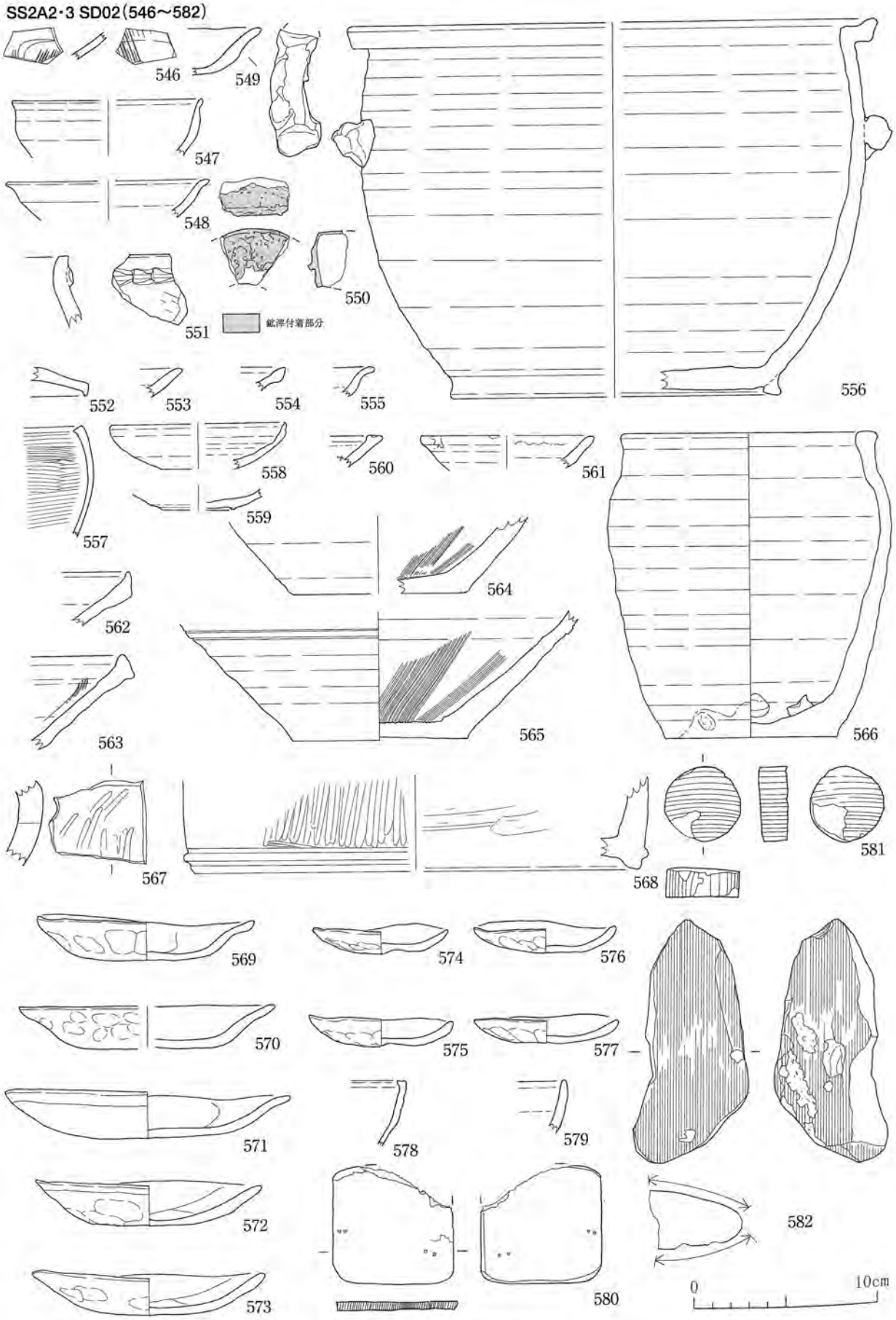
第111図　遺物実測図(15)



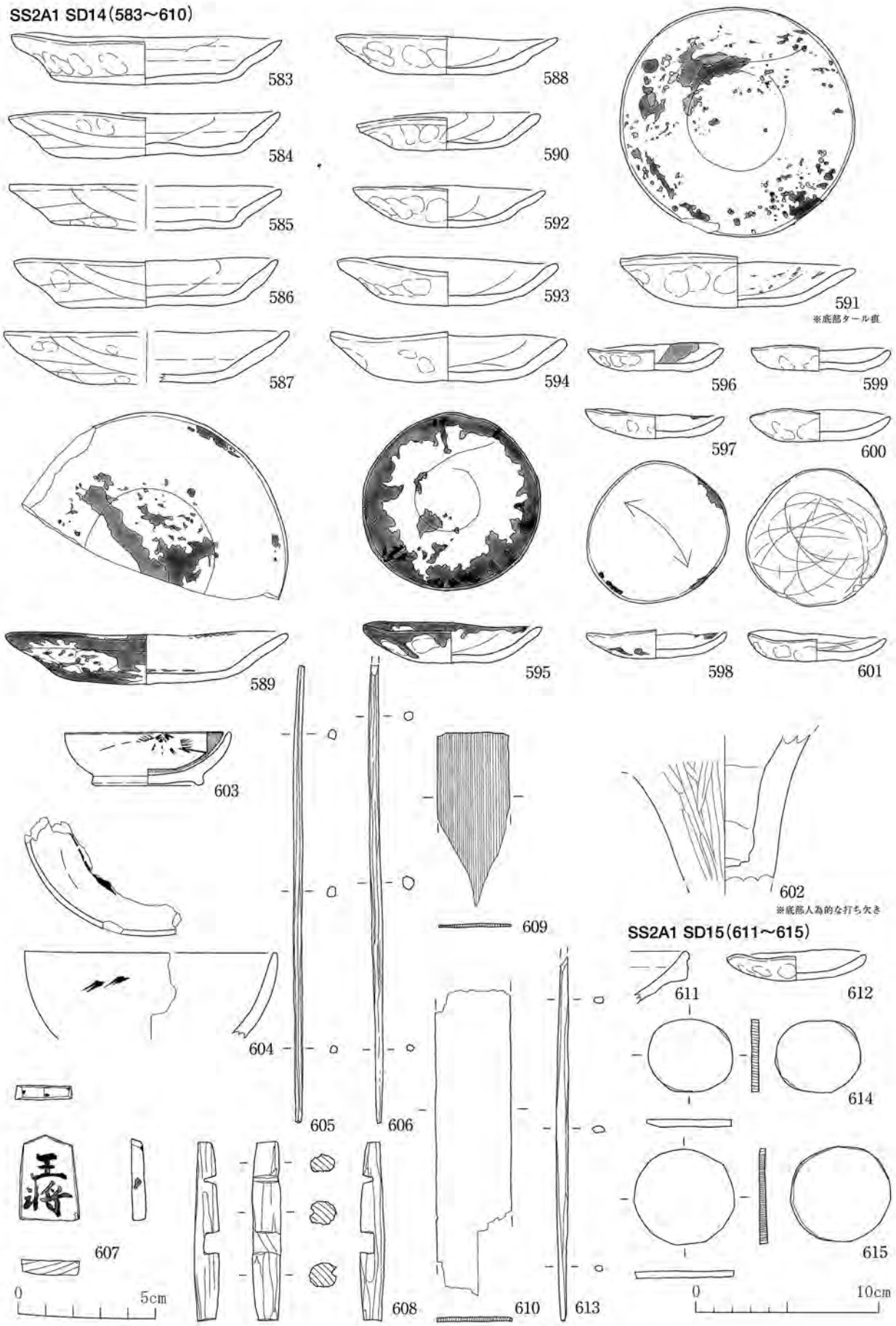
第112図　遺物実測図(16)



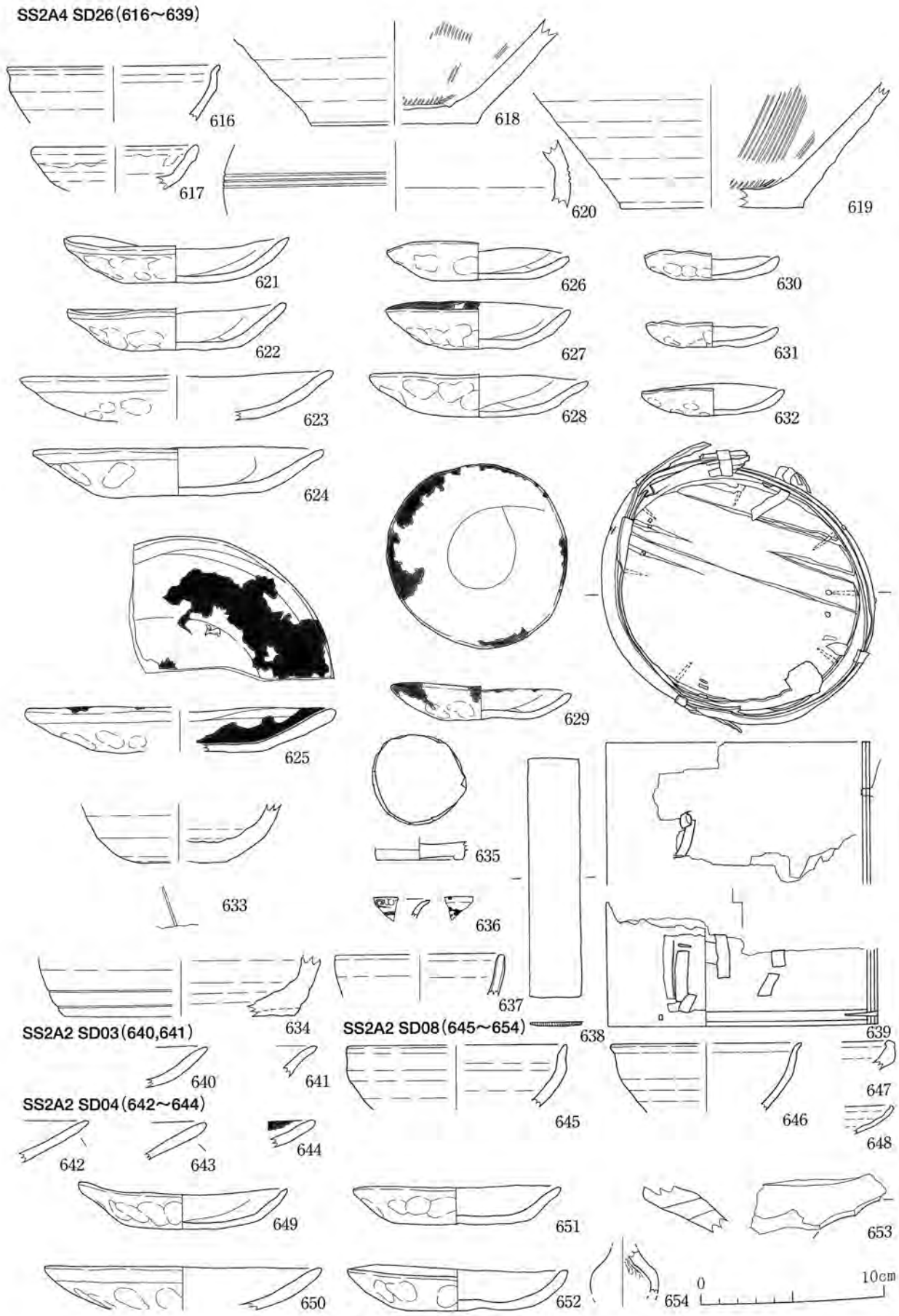
第113図　遺物実測図(17)



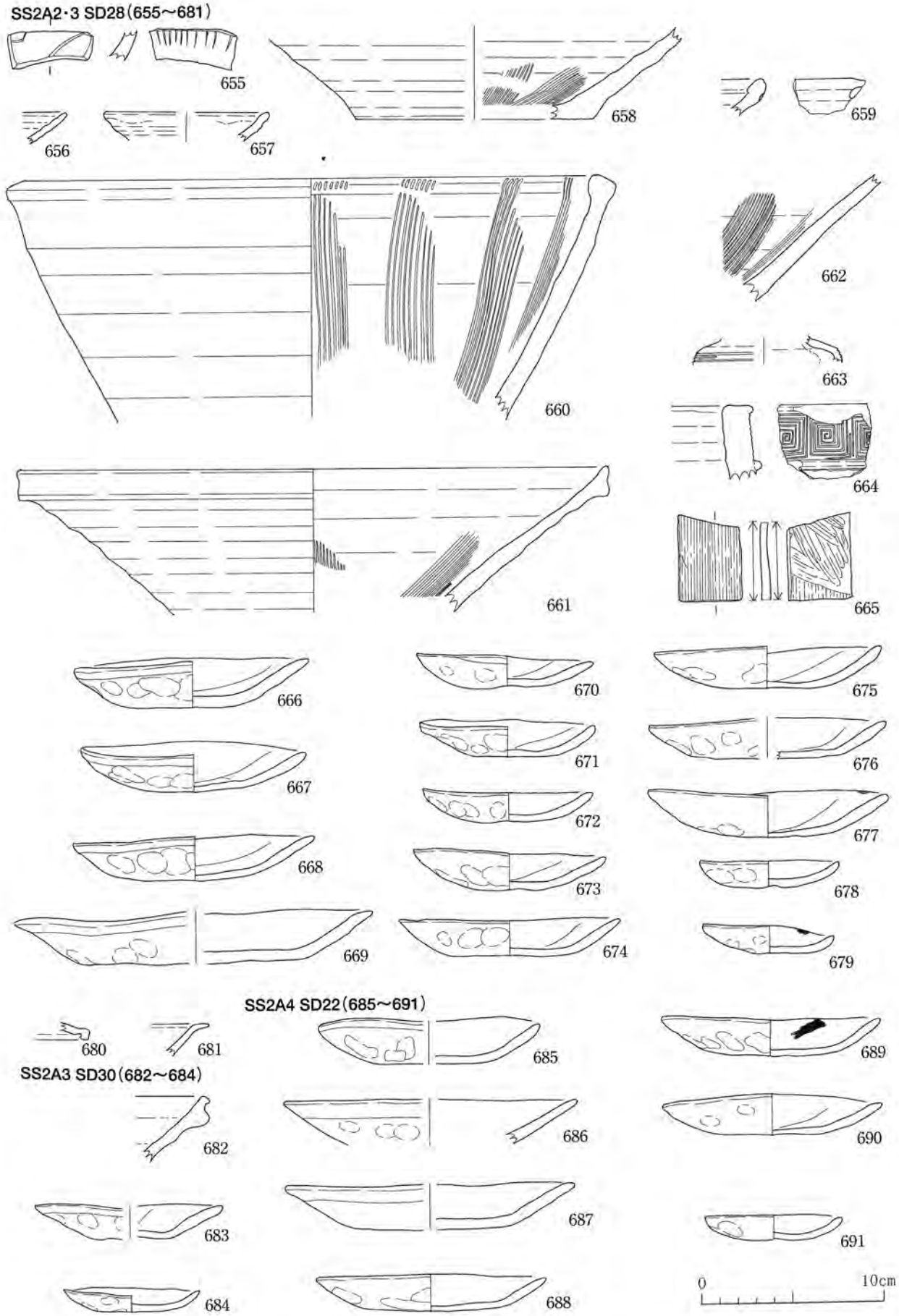
第114図　遺物実測図(18)



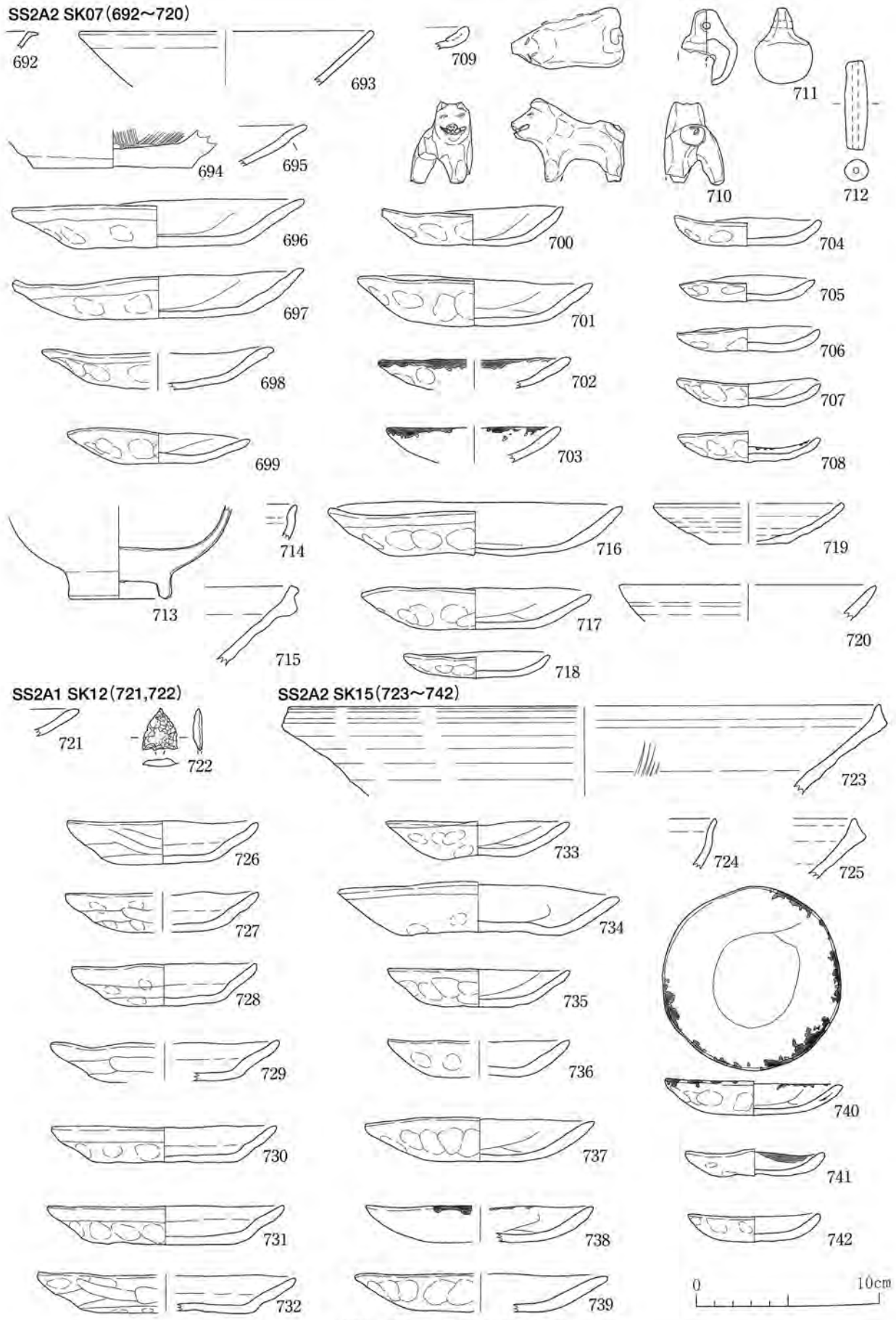
第115図　遺物実測図(19)



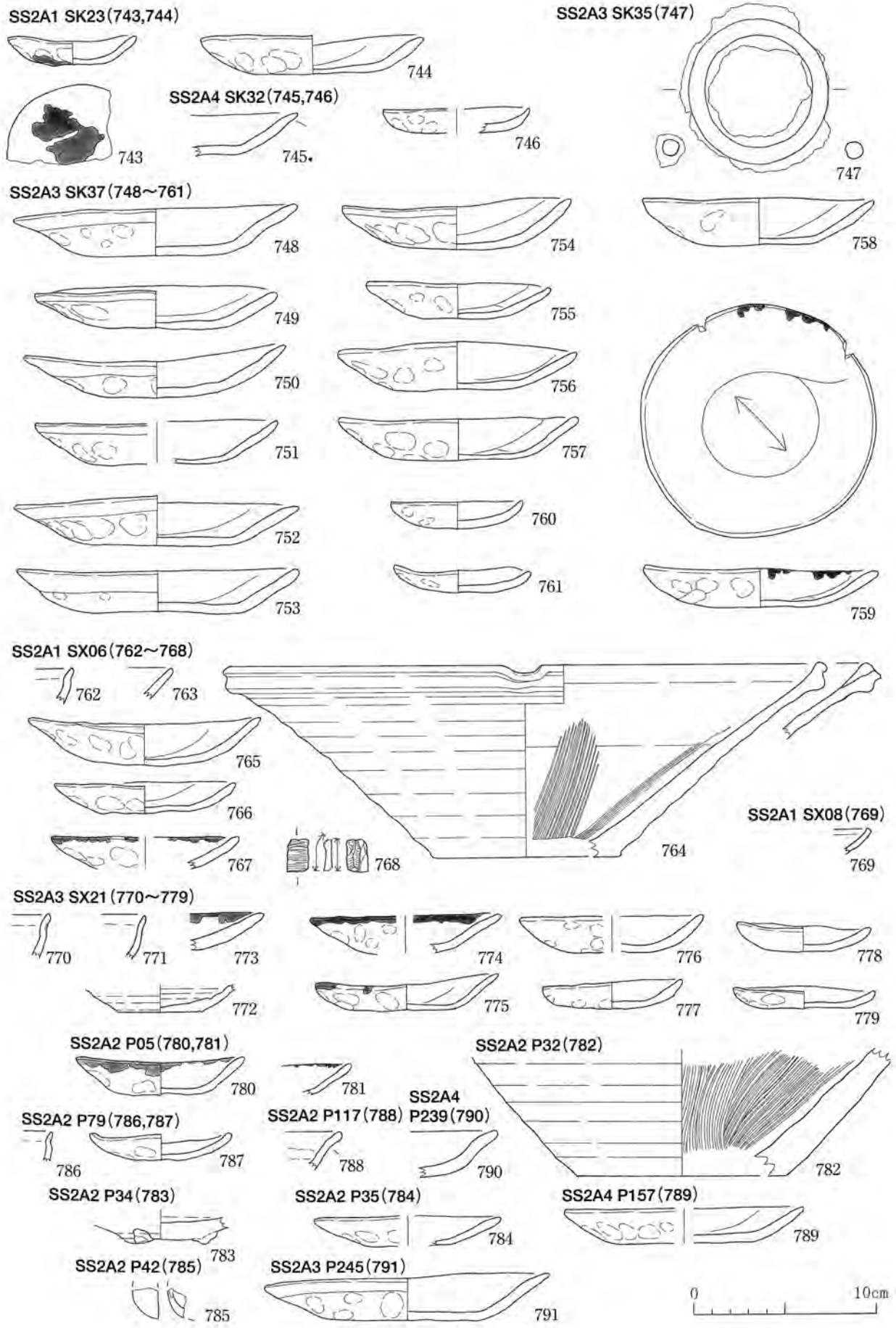
第116図　遺物実測図(20)



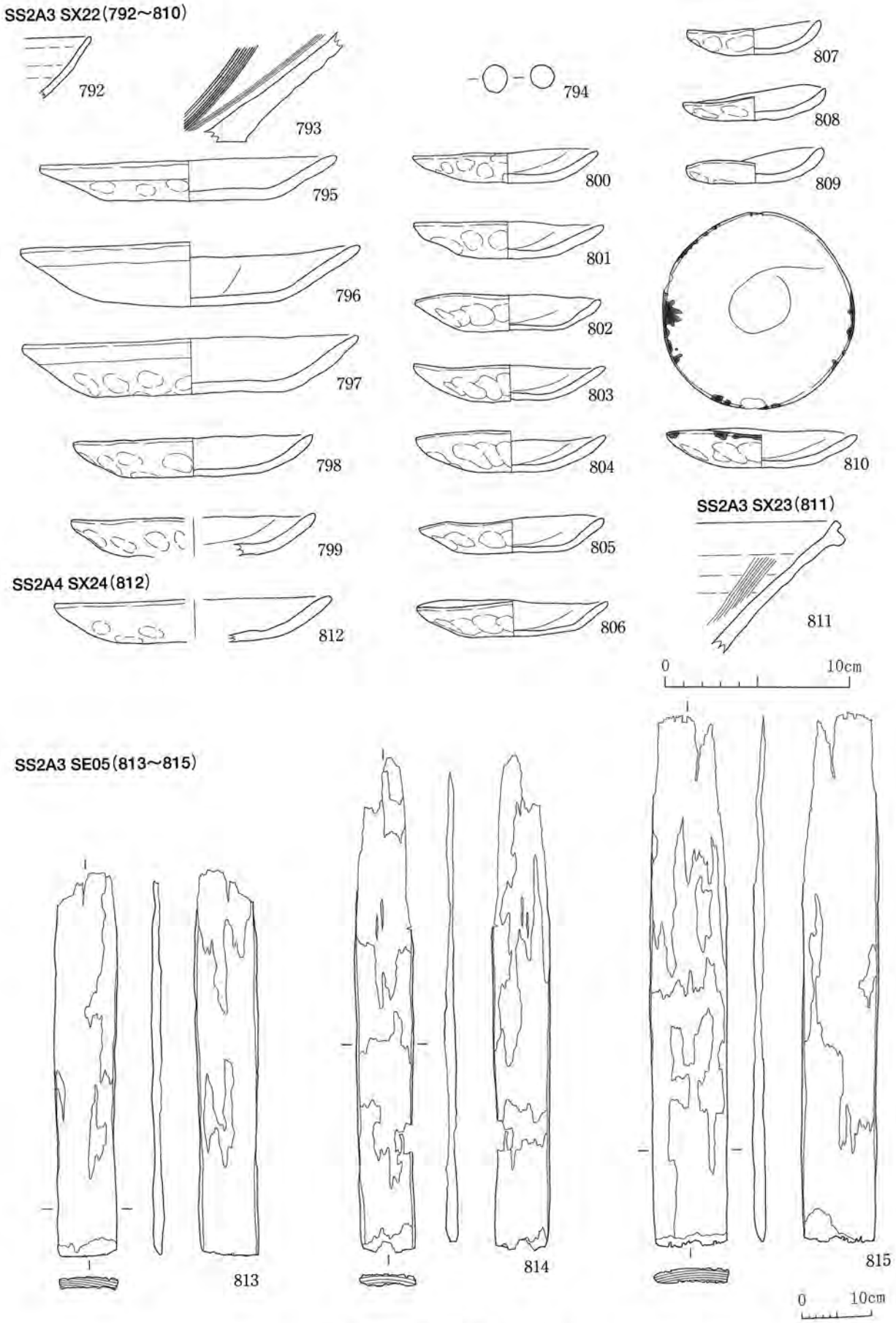
第117図　遺物実測図(21)



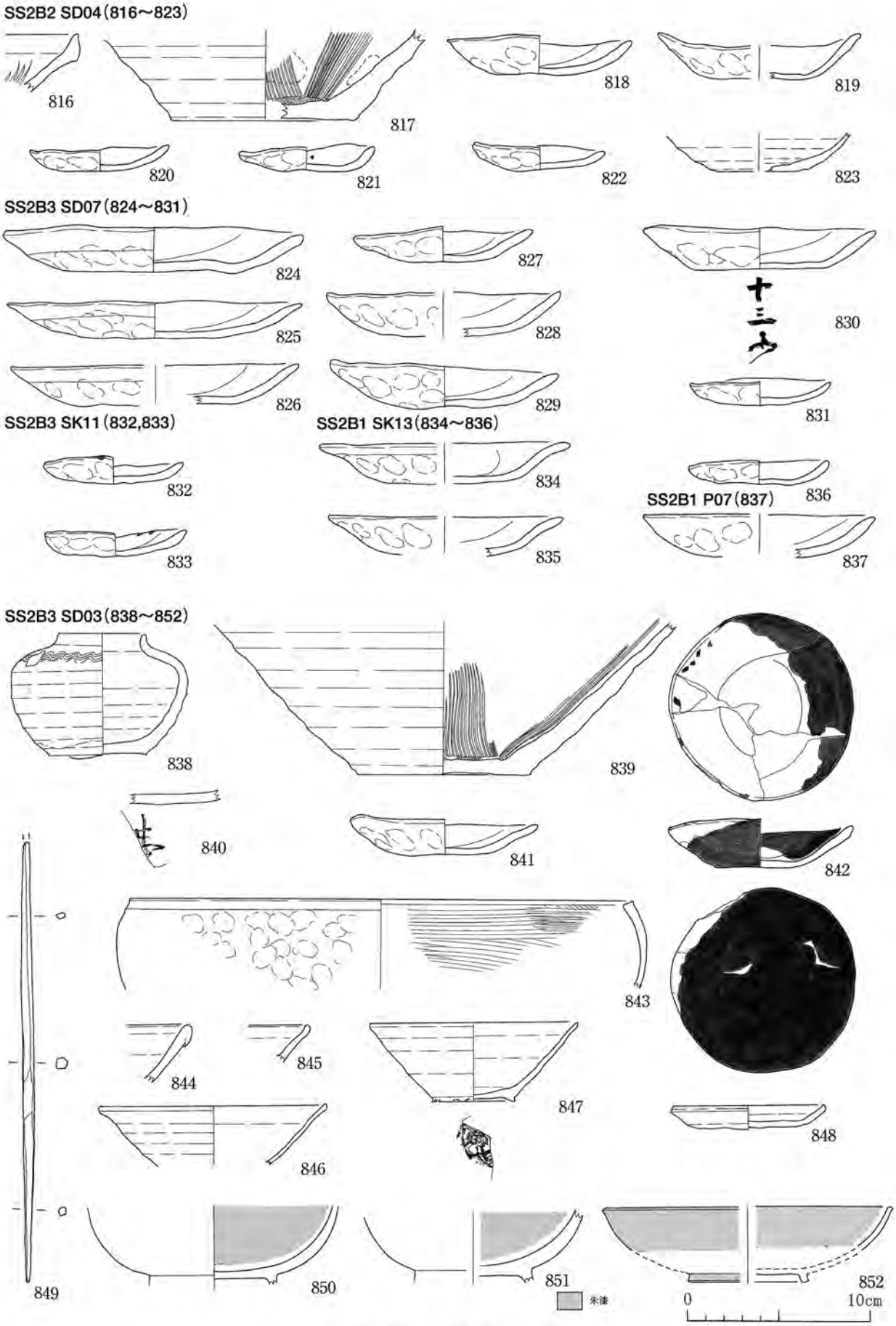
第118図　遺物実測図(22)



第119図　遺物実測図(23)

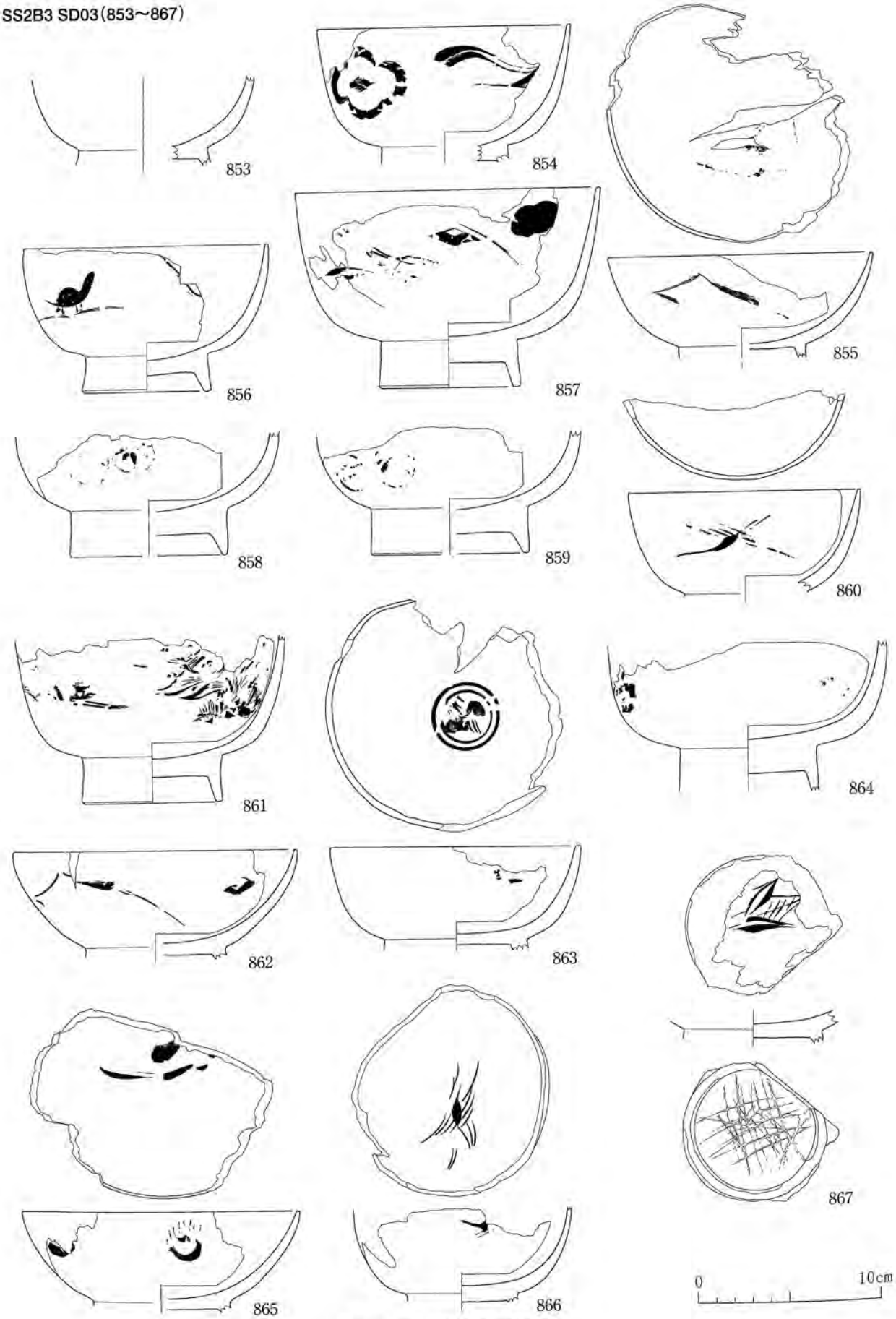


第120図　遺物実測図(24)

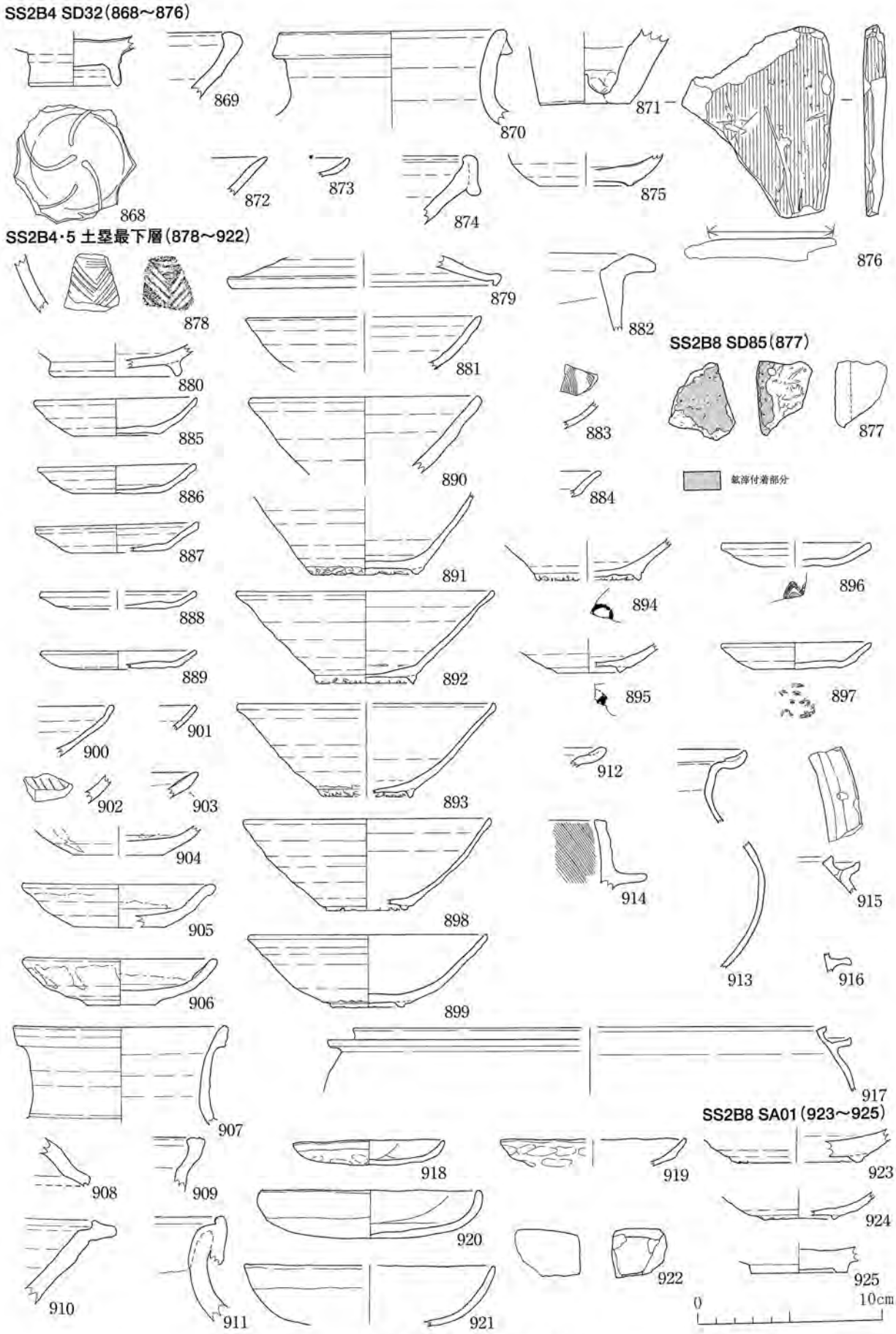


第121図　遺物実測図(25)

SS2B3 SD03(853～867)

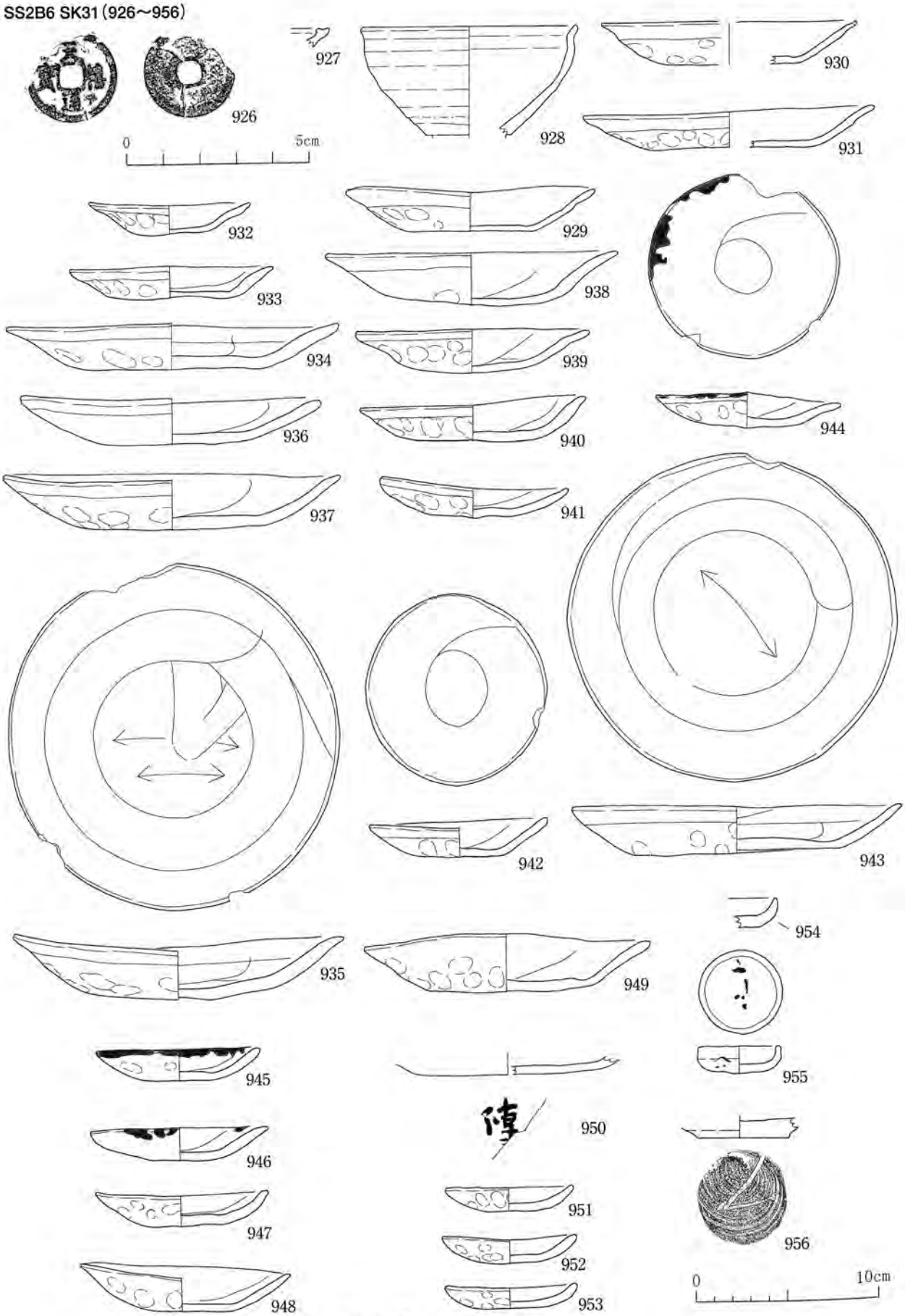


第122図　遺物実測図(26)



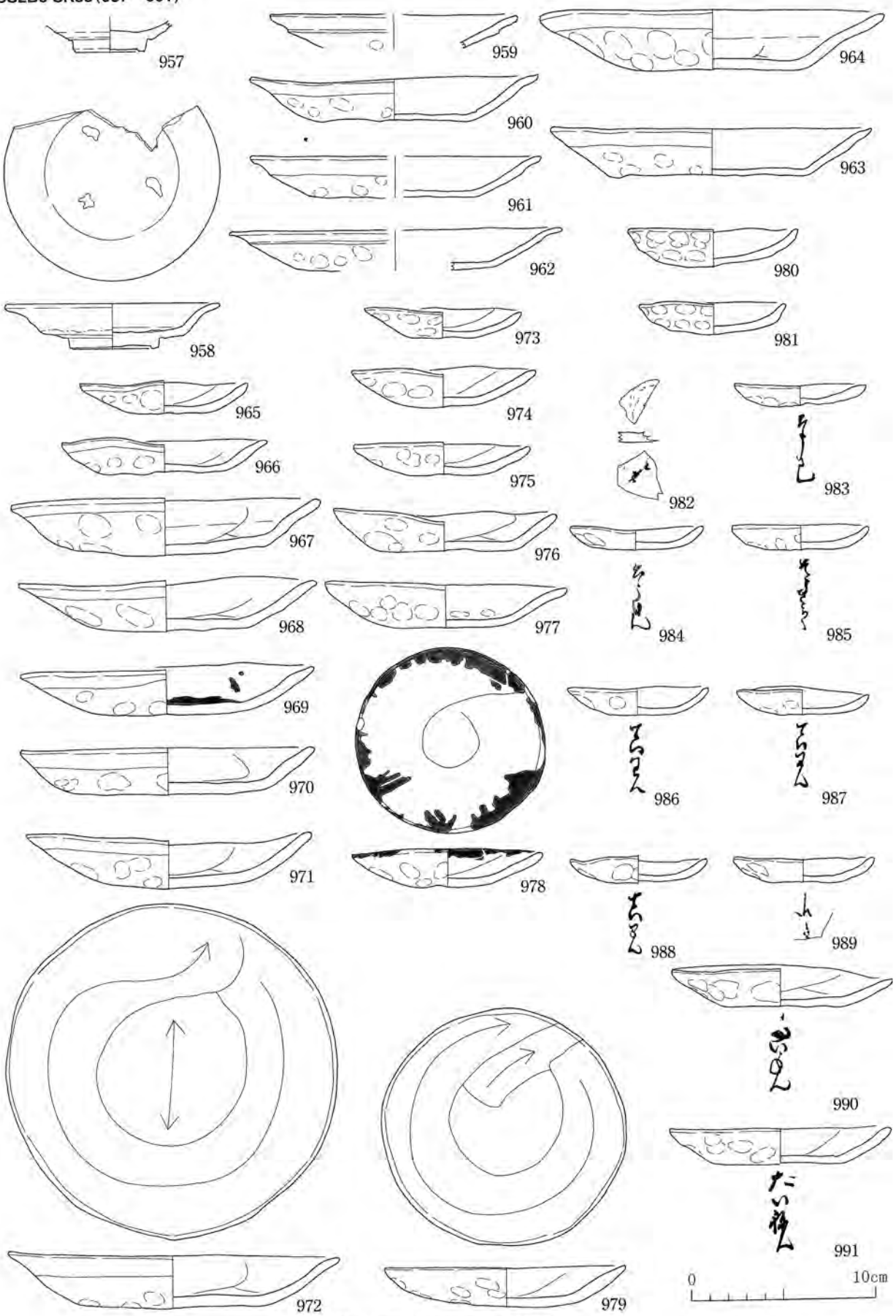
第123図　遺物実測図(27)

SS2B6 SK31(926～956)

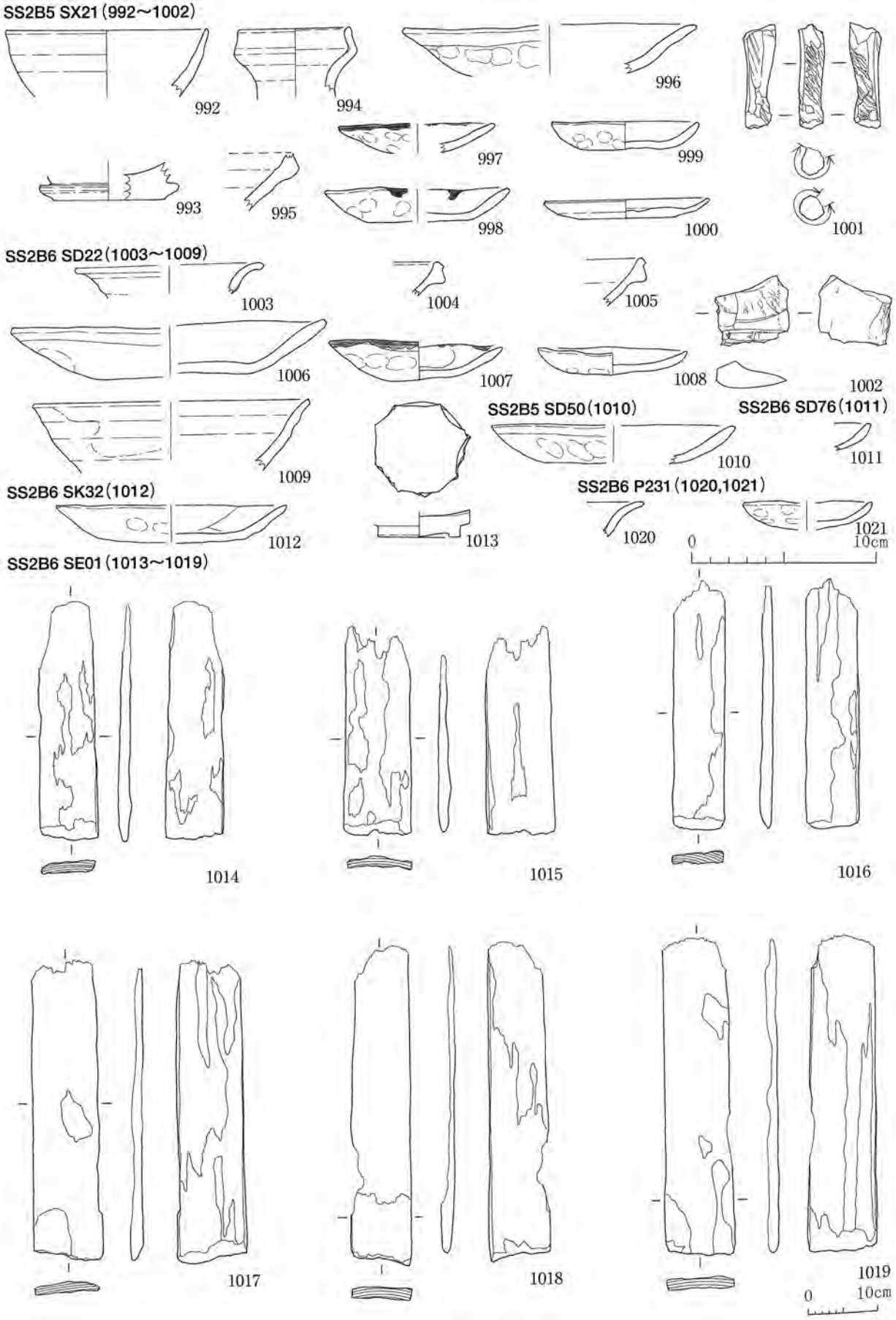


第124図　遺物実測図(28)

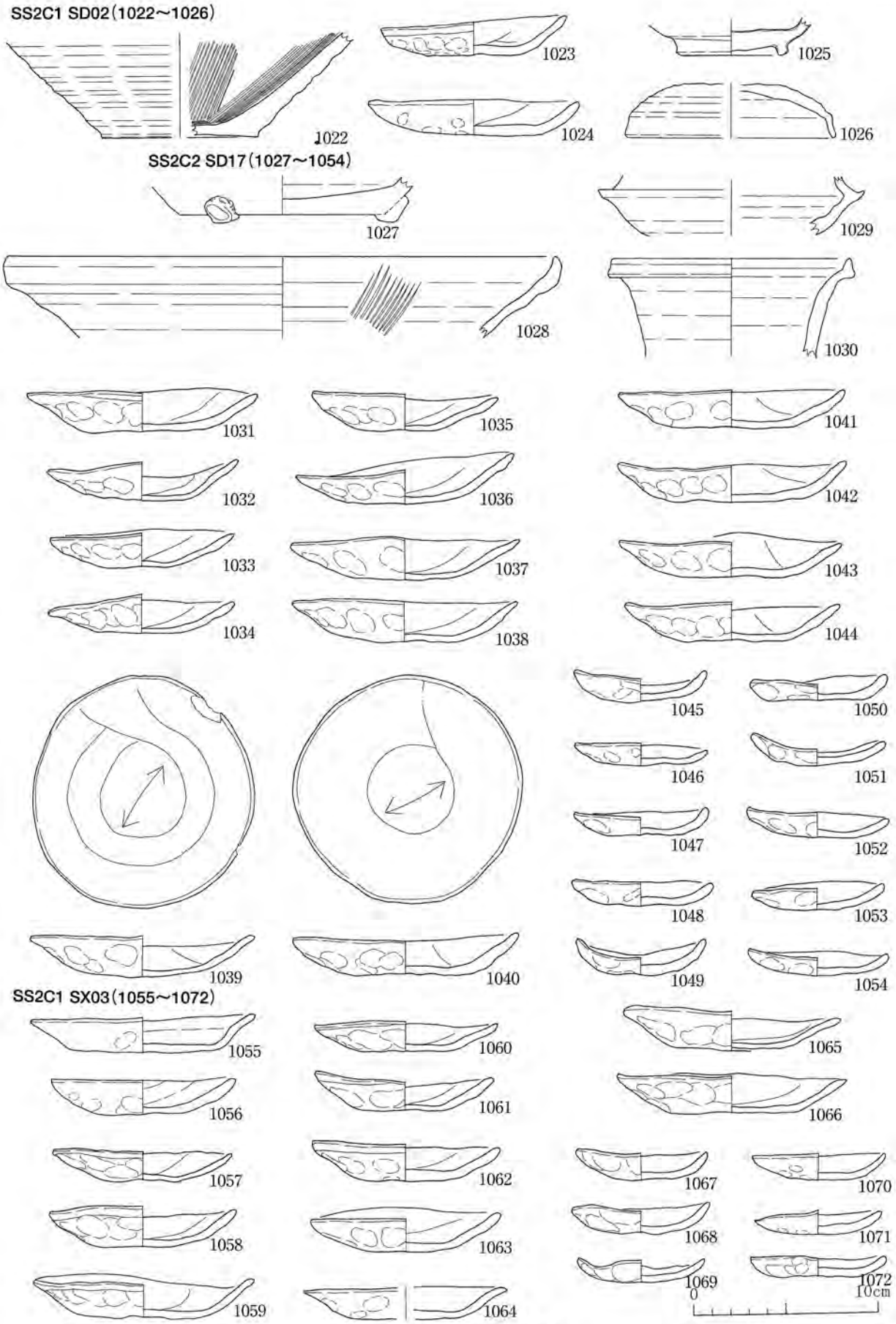
SS2B6 SK33（957～991）



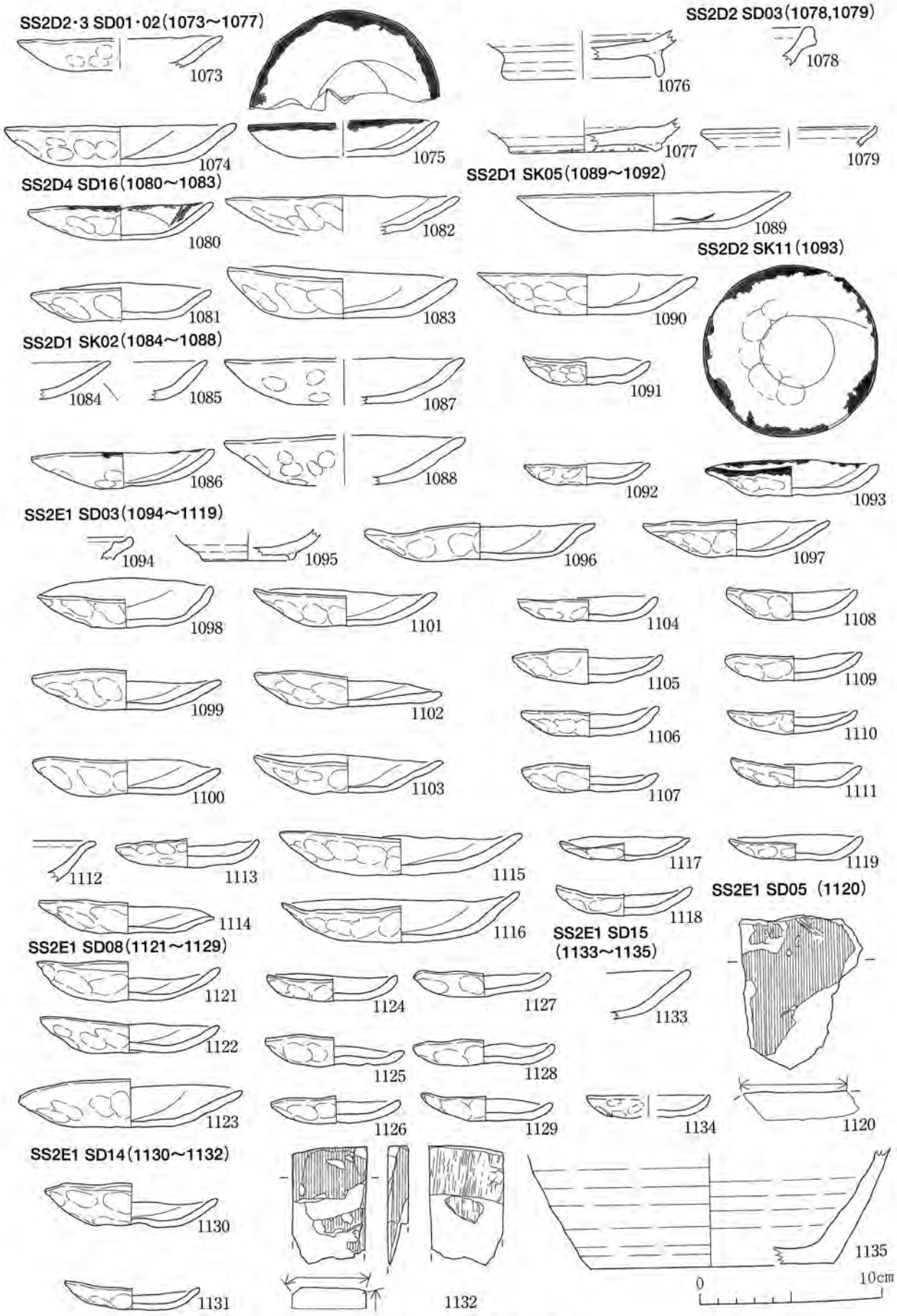
第125図　遺物実測図（29）



第126図　遺物実測図(30)

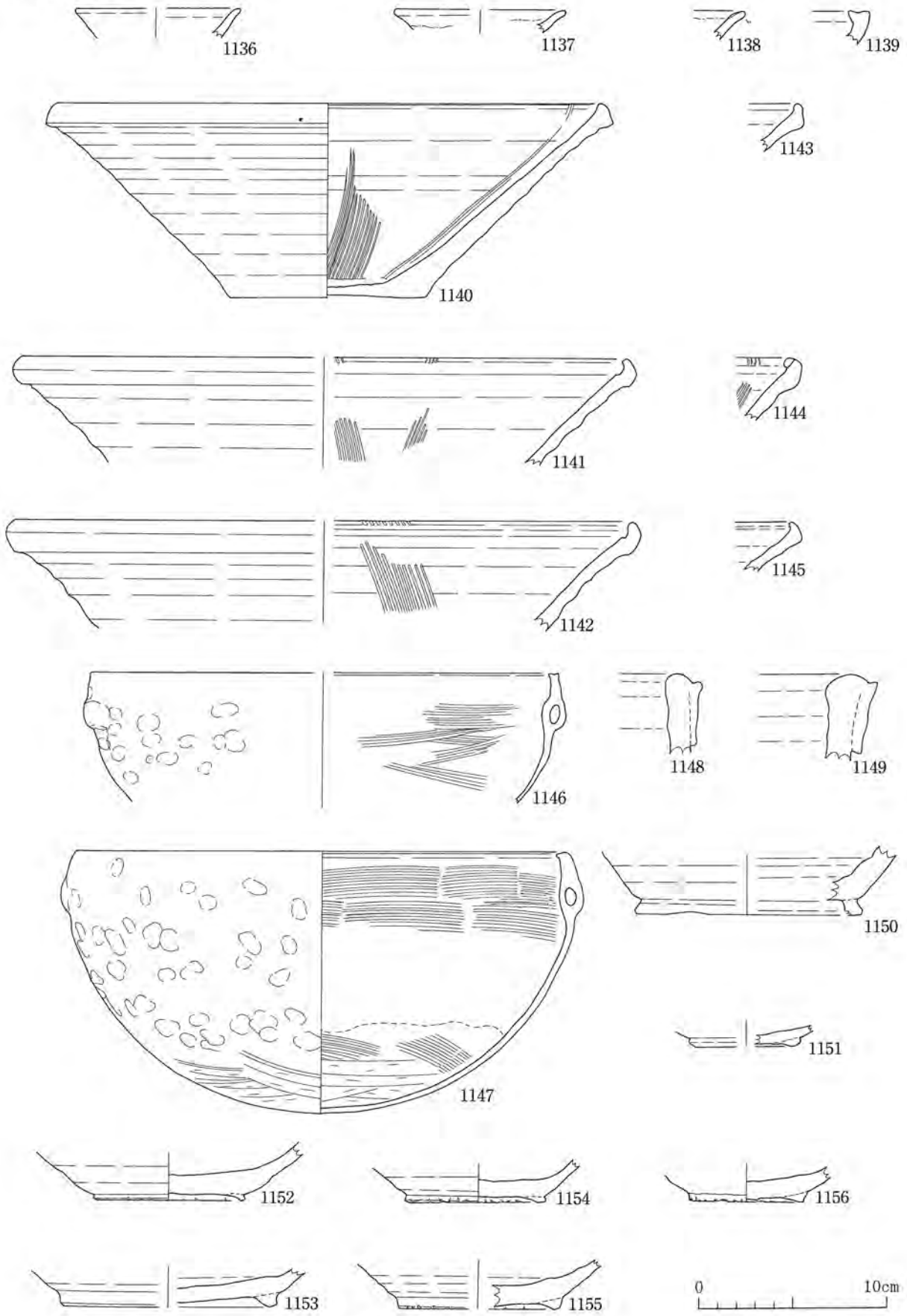


第127図　遺物実測図(31)



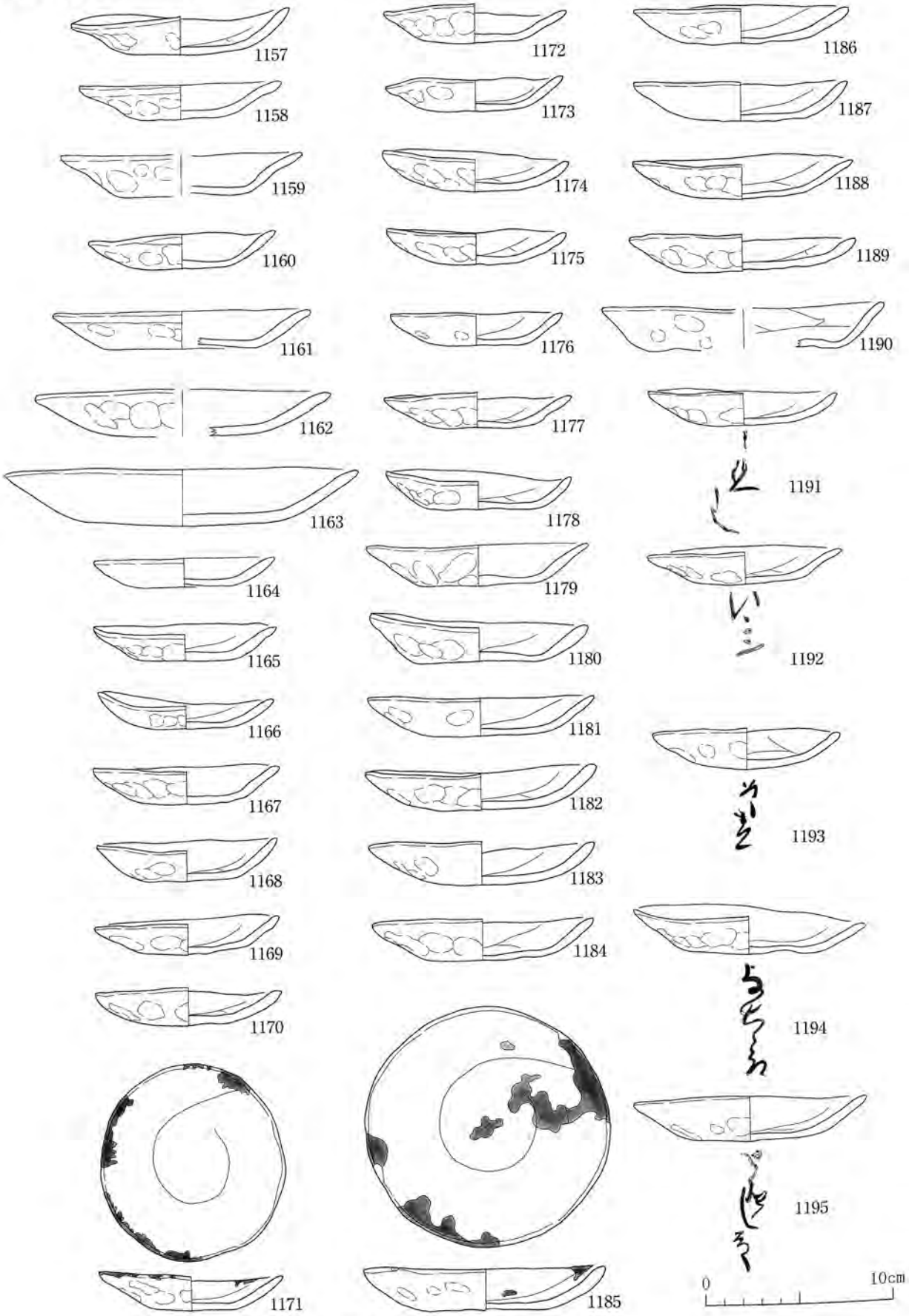
第128図　遺物実測図(32)

SS2F1 SD13(1136～1156)

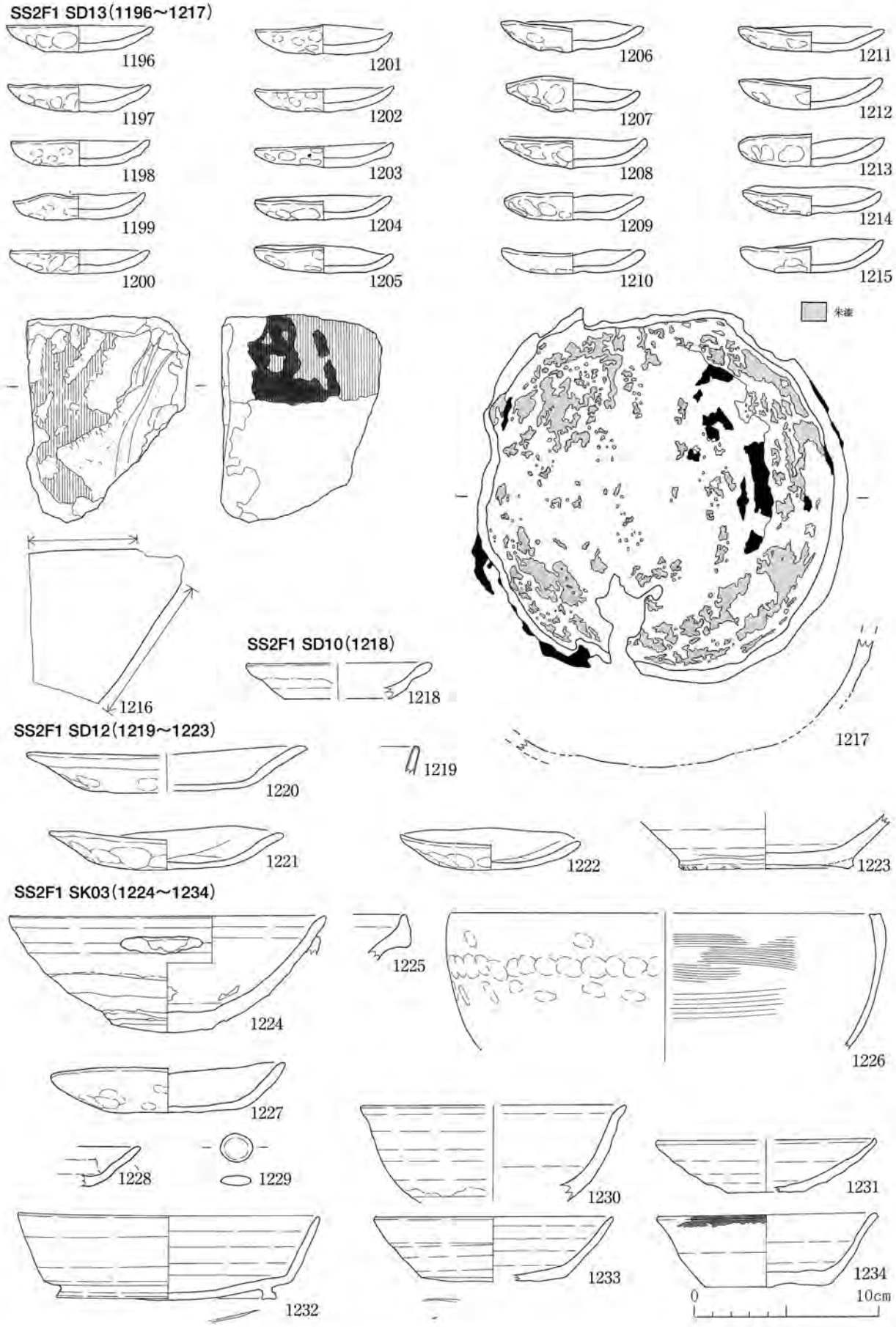


第129図　遺物実測図(33)

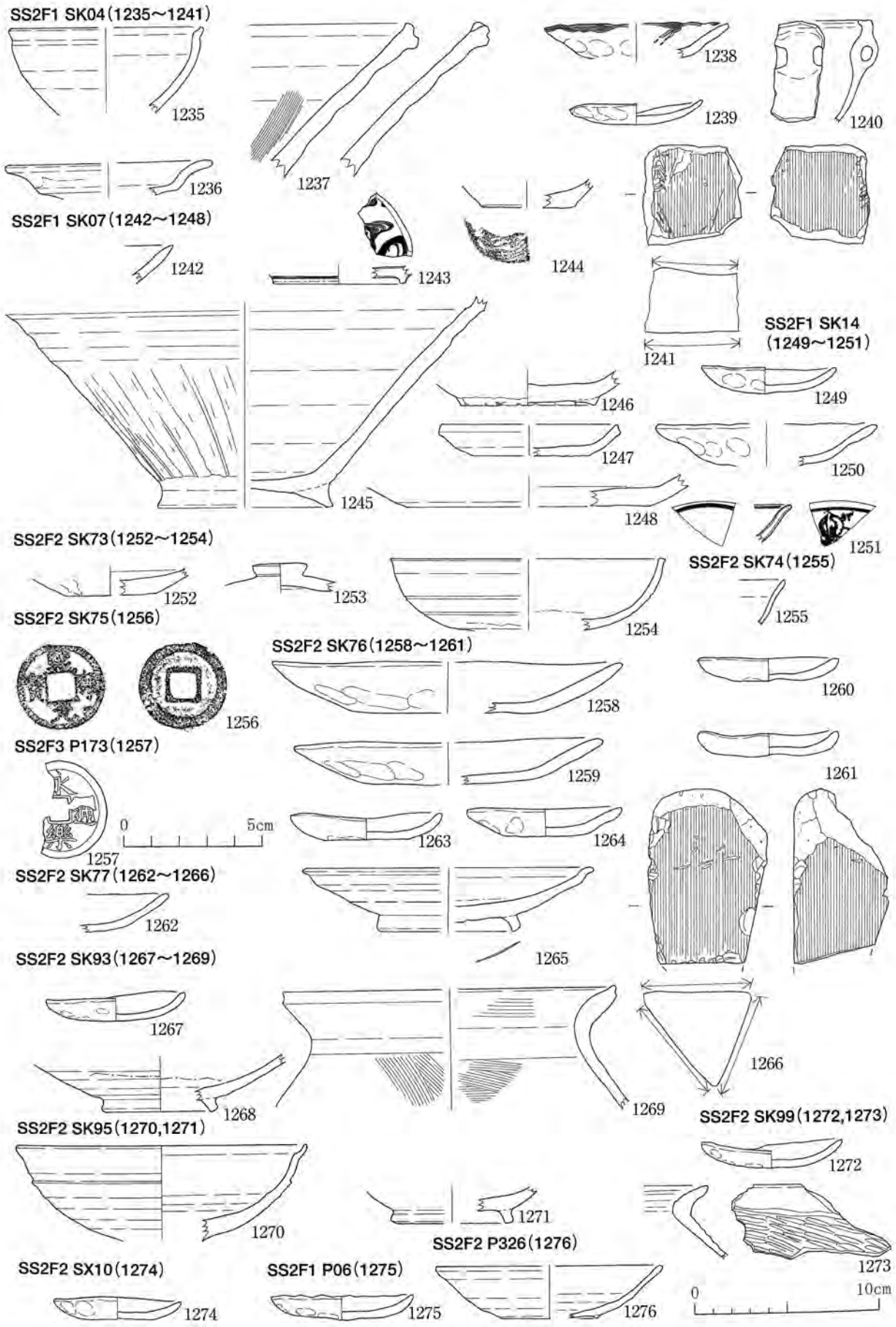
SS2F1 SD13(1157～1195)



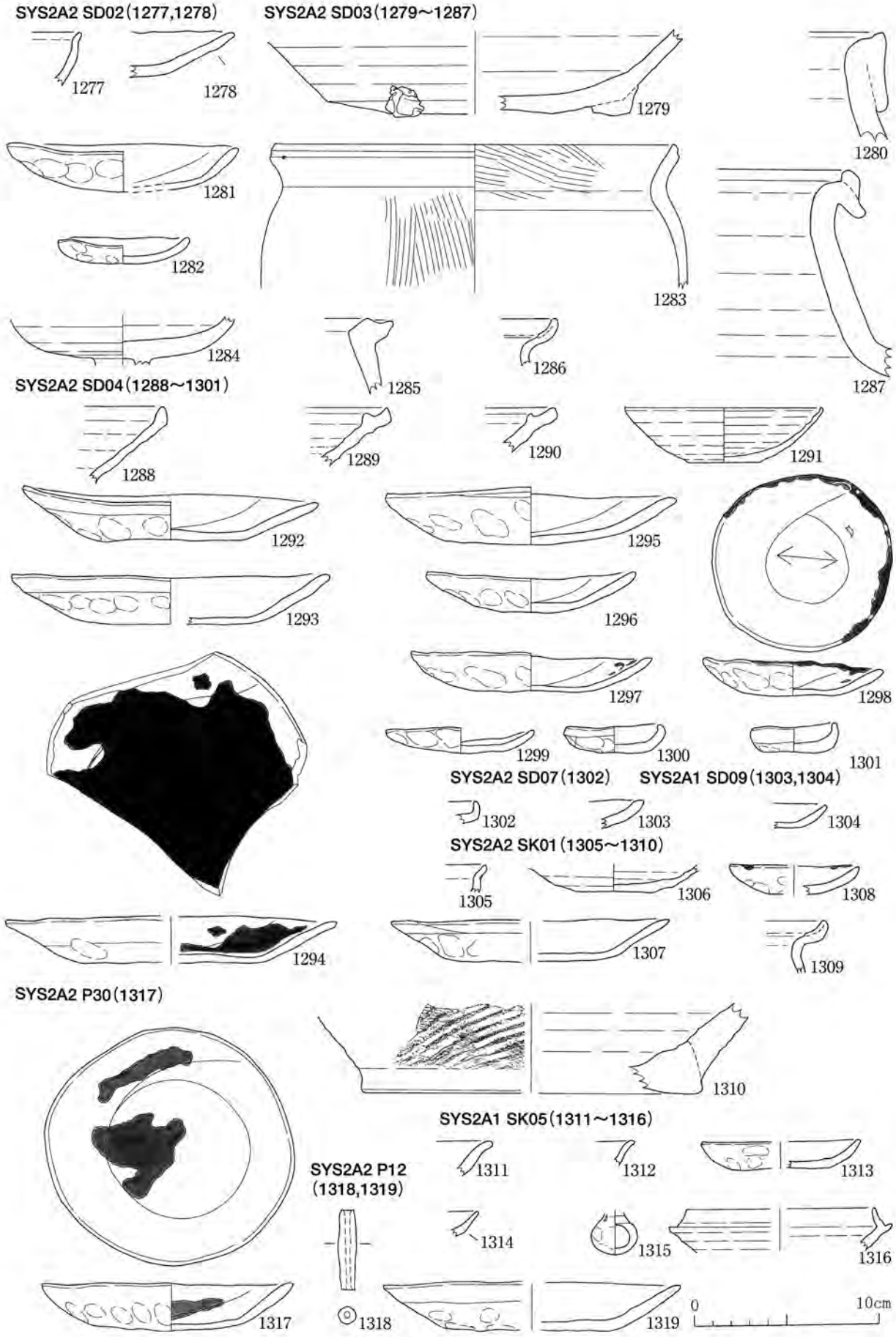
第130図　遺物実測図(34)



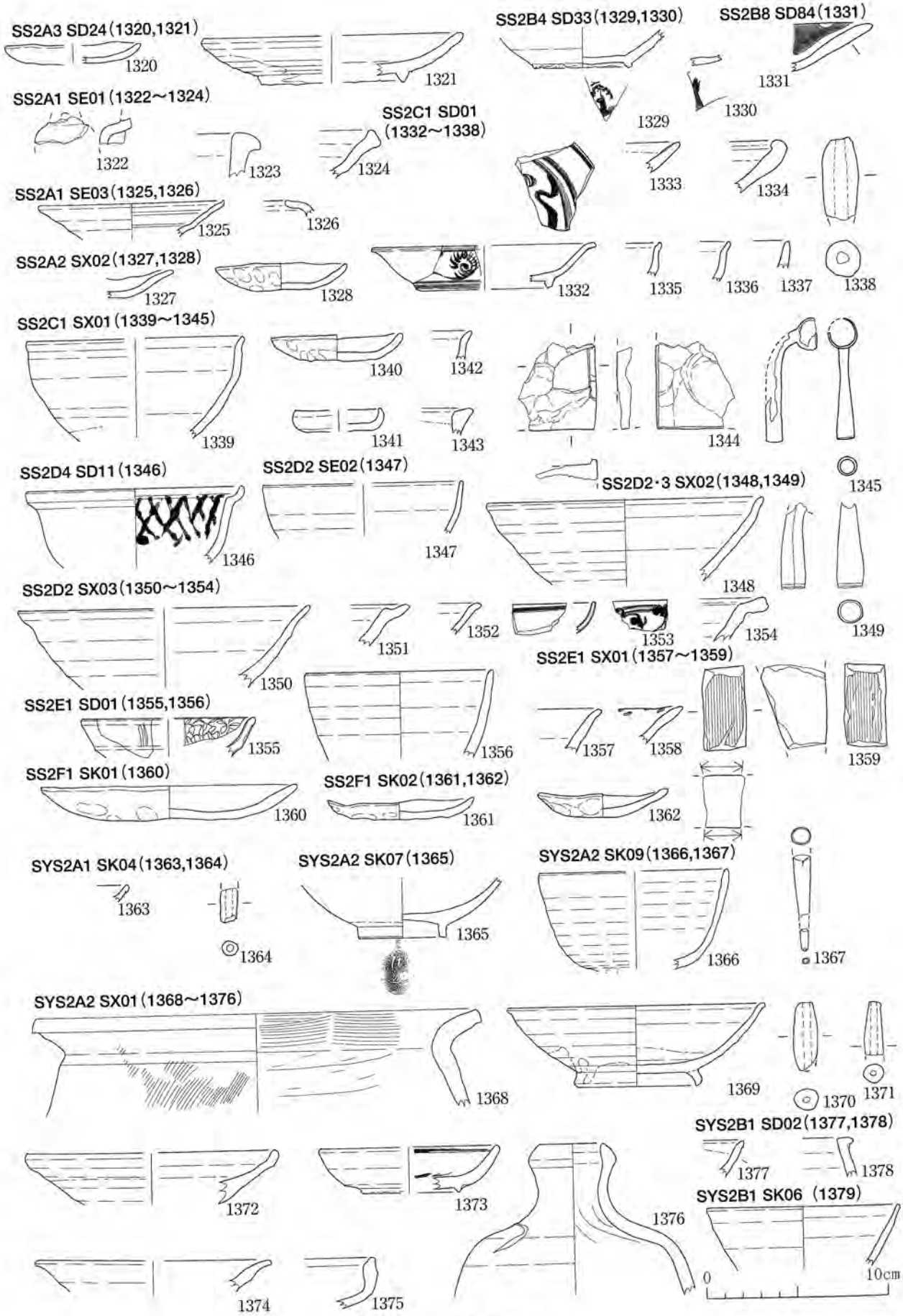
第131図　遺物実測図(35)



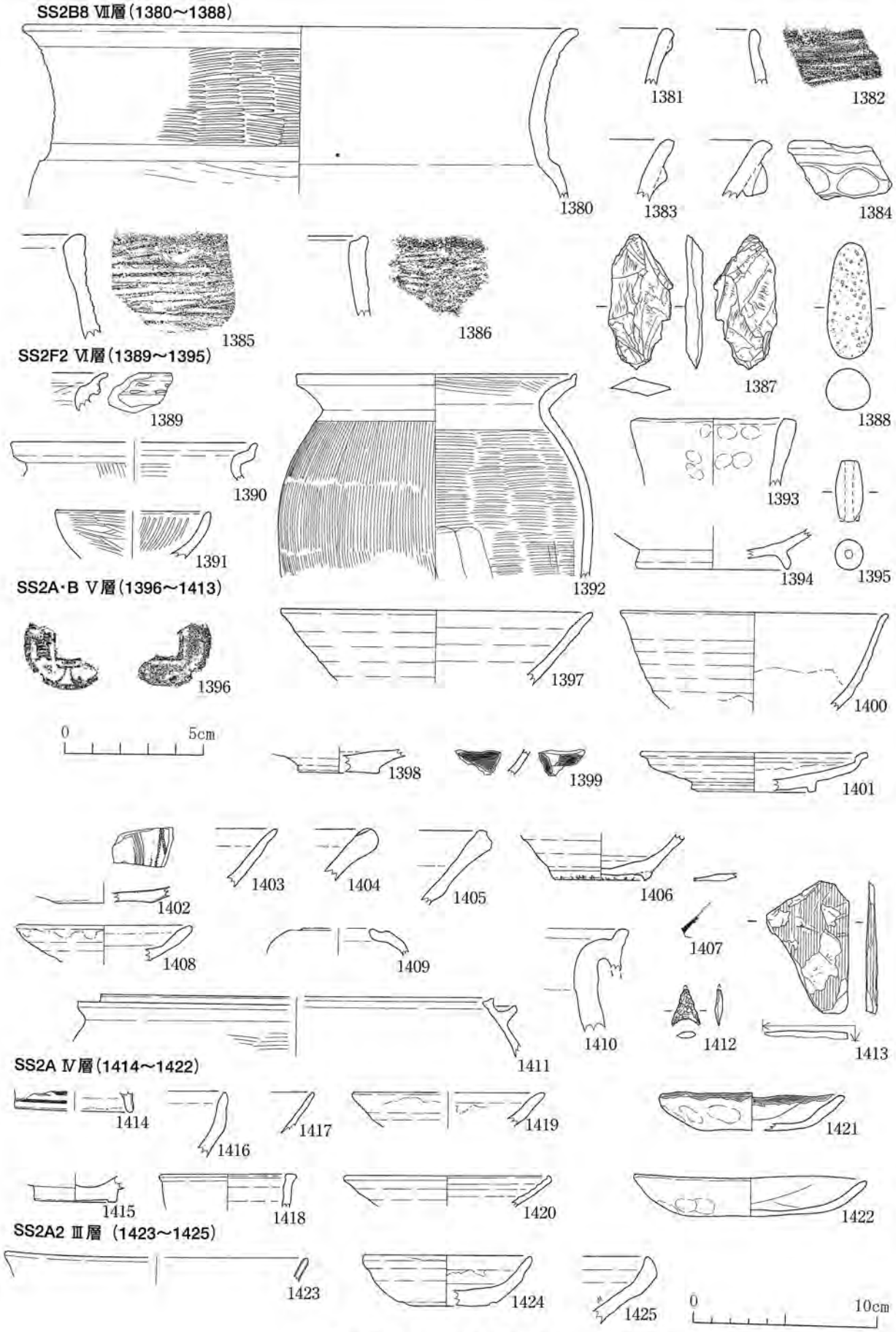
第132図　遺物実測図(36)



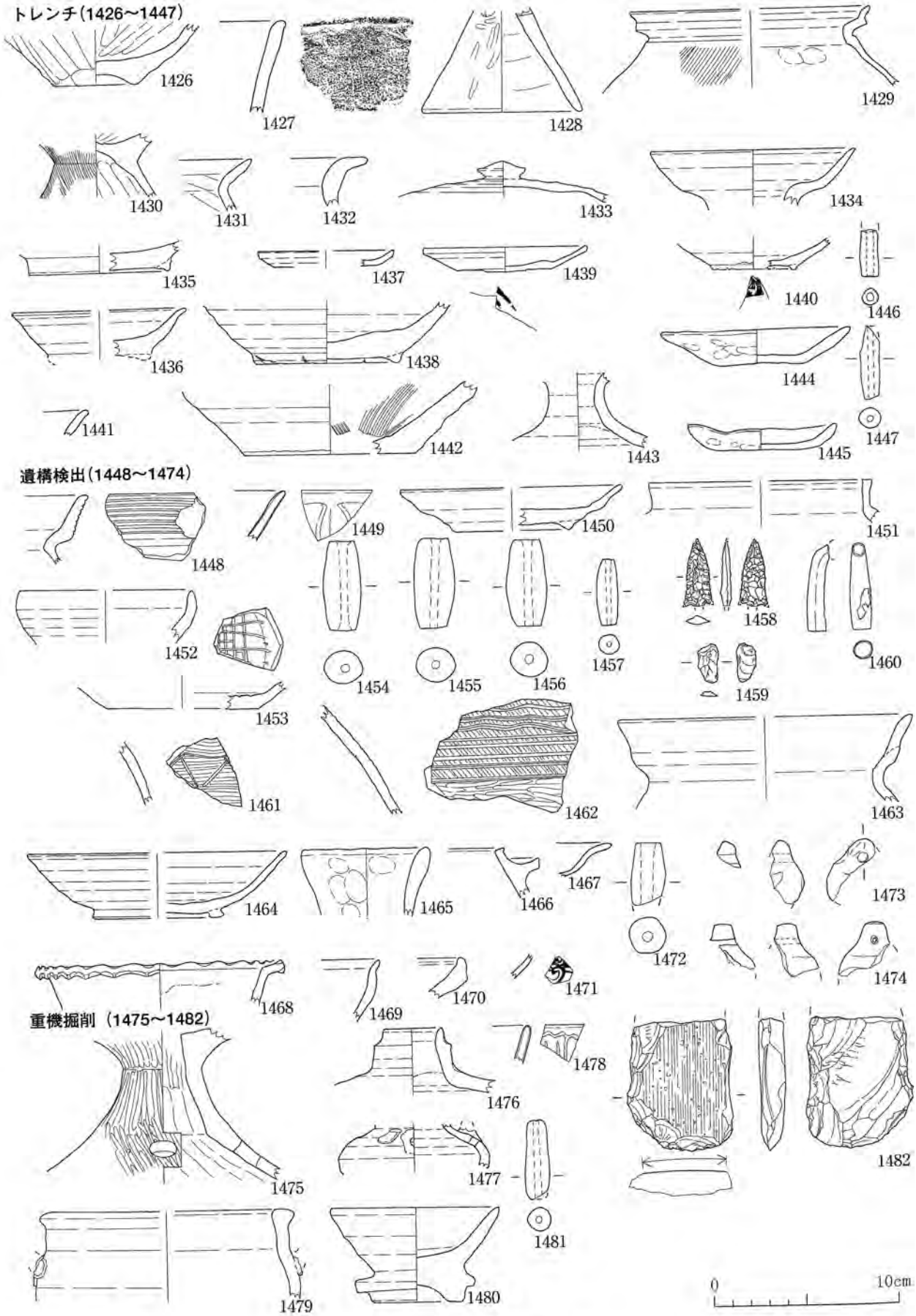
第133図　遺物実測図(37)



第134図　遺物実測図(38)



第135図　遺物実測図(39)



第136図　遺物実測図(40)

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等		種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
1	SS2	B8	SX33	No. 5	条痕文土器	深鉢	縄文式	(27.0)	-	(26.7)	条痕文	ナデ	外面スス付着	S005
2	SS2	B8	SX33	No. 5	縄文土器	深鉢	福荷山式	-	-	(12.2)	貝殻条痕、ケズリ	ケズリ		S006
3	SS2	B9	SB89	No. 4	縄文土器	鉢	五貫森式	(12.6)	(8.6)	7.7	ミガキ	ミガキ、沈線1条		S004
4	SS2	A1	SX06	No. 59	縄文土器	深鉢	福荷山式	-	-	(4.3)	条痕文、口縁押圧	ナデ		S059
5	SS2	A1	SX05	No. 62	縄文土器	深鉢	関東文系	-	-	(4.8)	条痕文	ナデ		S062
6	SS2	A1	SX05		縄文土器	深鉢	関東文系	-	-	(8.9)	条痕文	ナデ		180
7	SS2	A1	SX05	下層	条痕文土器	壺	永神平式	-	-	(2.2)	貝状文	ナデ		178
8	SS2	A1	SX05	下層	条痕文土器	壺	永神平式	-	-	(1.8)	貝状文	不明瞭(ナデ)		178
9	SS2	A1	SX05	下層	弥生土器？	壺？	中期山岳系？	-	-	(3.7)	条痕文	ナデ		178
10	SS2	A1	SX05	No. 17	弥生土器	壺	遠賀川系	(22.4)	-	(4.7)	縦ハケ、口縁刺突	横ハケ		S017
11	SS2	A1	SX05	No. 11	弥生土器	壺	遠賀川系	-	-	(2.4)	沈線文	横ナデ	タール付着	S011
12	SS2	A1	SX05	上層	弥生土器	壺	遠賀川系	-	-	(1.8)	沈線文	横ナデ		177
13	SS2	A1	SX05	下層	弥生土器	壺	遠賀川系	-	(7.2)	(1.6)	不明瞭(ナデ)	ナデ		178
14	SS2	A1	SX05	トレンチ	弥生土器	壺	遠賀川系	-	(6.7)	(2.2)	ミガキ	ナデ		252
15	SS2	A1	SX05	No. 16	弥生土器	壺	遠賀川系	(8.0)	-	(4.1)	ミガキ	ナデ		S016
16	SS2	A1	SX05	上層	弥生土器	壺？	遠賀川系	-	(3.5)	(3.8)	不明瞭(ミガキ)	ナデ		177
17	SS2	A1	SX05	トレンチ	弥生土器	壺	朝日式	-	-	(3.1)	櫛描文	ナデ		252
18	SS2	A1	SX05	No. 60	弥生土器	壺	朝日式	-	-	(5.4)	多重櫛描文	横オサエ、横ナデ		S060
19	SS2	A1	SX05	トレンチ	弥生土器	壺	朝日式	-	-	(4.9)	多重櫛描文	ナデ		252
20	SS2	A1	SX05	上層	石製品	剥片	-	長(2.4)	幅3.1	厚0.9	-	-	チャート、石核調整剥片	173
21	SS2	A1	SX05	上層	石製品	剥片	-	長2.8	幅2.2	厚0.7	-	-	安山岩、打製石斧の剥片？	173
22	SS2	A1	SX05		石製品	剥片	-	長2.0	幅3.5	厚0.9	-	-	チャート、二次加工有り	180
23	SS2	A1	SX05	上層	石製品	打製石斧	-	長6.3	幅5.1	厚1.5	-	-	砂岩、小型	177
24	SS2	A1	SX05		石製品	敲石	-	長(10.1)	幅6.8	厚3.8	-	-	大日岳安山岩	180
25	SS2	A1	SX10	No. 149	縄文土器	深鉢	五貫森式	-	-	(3.2)	沈線、横ナデ	ナデ		S149
26	SS2	A1	SX10	No. 84	弥生土器	壺	遠賀川系	-	-	(4.3)	沈線文、口縁ヤザミ	横ハケ		S084
27	SS2	A1	SX10	No. 88	弥生土器	壺	遠賀川系	-	(7.6)	(2.5)	縦ハケ	ナデ		S088
28	SYS2	A1	SB04		縄文土器	深鉢	西之山式	(34.0)	-	(12.2)	条痕文	ナデ		95-158-159
29	SYS2	B1	SX02		縄文土器	深鉢	福荷山式	-	-	(2.2)	条痕文、口縁ヤザミ	ナデ		29
30	SS2	B6	SD24	No. 65	土師器	高杯		-	-	(3.1)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		S065
31	SS2	B6	SD24		石製品	剥片	-	長3.9	幅2.9	厚0.9	-	-	下呂石	79
32	SS2	B6	SD24		石製品	剥片	-	長2.8	幅2.3	厚0.7	-	-	チャート、石核調整剥片	79
33	SS2	D1	SK06	(No. 3)	土師器	S字甕	BC類	(11.0)	-	(2.2)	不明瞭(斜めハケ)	-		Z001-2
34	SS2	D1	SK06	(No. 1)	土師器	S字甕	BC類	(14.0)	-	(5.0)	斜めハケ	ナデ		Z001-1
35	SS2	D1	SK06	(No. 1)	土師器	S字甕	BC類	(12.0)	-	(7.9)	横板文、斜めハケ	ナデ		Z001-1
36	SS2	D1	SK06		土師器	器台		-	脚端部(2.8)	(6.1)	-	ナデ		40
37	SS2	D1	SK06		土師器	高杯	-	(14.0)	-	(2.9)	横ナデ	ミガキ		37
38	SS2	D1	SK08	No. 18	土師器	受口状口縁壺	畿関II式併行	(22.0)	-	(4.5)	縦ハケ	横ハケ		S018
39	SS2	D1	SK09		土師器	S字甕	BC類	(17.0)	-	(2.8)	斜めハケ	指オサエ		45
40	SS2	D1	SK08	No. 14	土師器	S字甕	-	-	(10.0)	(9.8)	斜めハケ	ハケメ		S014
41	SS2	D1	SK08	No. 9	土師器	鉢(有孔鉢？)	畿関II式併行	(20.0)	-	(9.7)	縦ハケ	ミガキ		S009
42	SS2	D1	SK08		土師器	くの字口縁壺	畿関II式併行	(11.0)	-	(2.9)	横ナデ	横ナデ		48
43	SS2	D1	SK10	(No. 1)	土師器	高杯	畿関第式～松河戸I式併行	-	-	(6.7)	-	ナデ		Z004
44	SS2	D3	SB01	No. 5	土師器	壺		(11.0)	-	(3.9)	横ナデ	横ナデ		S005
45	SS2	D3	SB01	No. 8	土師器	S字甕	-	-	脚端部(8.1)	-	斜めハケ	ハケメ		S008
46	SS2	D3	SB01	No. 9	土師器	S字甕	-	-	(9.0)	脚部高(2.0)	斜めハケ	ナデ	内面コゲ付着	S009
47	SS2	D3	SB01	No. 3	土師器	S字甕	-	-	脚部径(16.0)	脚部高(6.5)	斜めハケ	ナデ		S003
48	SS2	E1	SX04	No. 51	土師器	S字甕	板型	(13.6)	-	-	斜めハケ	ナデ		S051
49	SS2	E1	SX04	No. 52	土師器	壺	畿関第式～松河戸I式併行	-	-	(8.0)	櫛描文、列点文	板ナデ		S052
50	SS2	E1	SX04	No. 50	土師器	高杯	畿関第式～松河戸I式併行	-	-	(7.9)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		S050
51	SS2	F3	SK54		土師器	S字甕	-	-	脚端径(5.4)	-	斜めハケ	ハケメ		143
52	SS2	F2	P232		土師器	S字甕	-	-	脚部径(8.8)	(4.4)	斜めハケ	ナデ		116
53	SYS2	A2	SB01	上層	土師器	S字甕	BC類	(12.6)	-	(2.5)	斜めハケ	ナデ		88
54	SYS2	A2	SB01	上層	土師器	高杯	畿関第式～松河戸I式併行	-	(14.6)	(2.8)	ナデ	-	脚折損	88
55	SYS2	A1	SB03	No. 18	土師器	S字甕	BC類	(16.0)	(8.5)	(22.3)	ハケメ	横ナデ	外面スス、内面コゲ付着	S018
56	SYS2	A1	SB10	上層	土師器	S字甕	BC類	(13.0)	-	(2.3)	斜めハケ	ナデ		41
57	SYS2	A1	SB10	下層	土師器	S字甕	BC類	-	-	(1.6)	口縁横ナデ	口縁横ナデ		42
58	SYS2	A1	SB10		縄文土器	深鉢	西之山式	-	-	(4.2)	沈線、横ナデ	ナデ	ゆるい波状口縁	43
59	SYS2	A1	SB10		石製品	剥片	-	長5.2	幅2.0	厚0.7	-	-	下呂石、円礫から剥離	88
60	SYS2	A1	SB13	上層	土師器	椀ヶ坪型器	畿関第式～松河戸I式併行	(16.4)	-	(2.5)	ナデ	ミガキ		67
61	SYS2	A1	SB15	No. 22	土師器	小型丸底壺	畿関第式～松河戸I式併行	(13.0)	-	(2.7)	細いヘラミガキ	ヘラミガキ		S022
62	SYS2	A1	SB15	No. 23	土師器	S字甕	-	-	台端部径9.1	(6.3) 脚部高5.1	斜めハケ	ナデ		S023
63	SYS2	A1	SB15	No. 23	土師器	S字甕	BC類	(14.8)	脚部径(12.6)	(3.1) 脚部高1.9	斜めハケ	ナデ		S023
64	SYS2	A1	SB15		土師器	S字甕	D1類	(14.0)	脚部径(12.3)	(3.4) 脚部高1.3	斜めハケ	ナデ		68
65	SYS2	A1	SB16	No. 21	土師器	S字甕	-	-	-	(14.5)	斜めハケ	板ナデ	内面コゲ付着	S021
66	SYS2	A1	SD15	No. 24	土師器	丸底壺	畿関第式～松河戸I式併行	(12.8)	-	13.8	ミガキ	ナデ、ケズリ	吉留式に類似するが、器壁厚い	S024
67	SYS2	A1	SD15		土師器	鉢	畿関第式～松河戸I式併行	-	-	(7.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		68
68	SYS2	A1	SD23		土師器	器台		-	-	(7.9)	ミガキ	ナデ、ハケメ		75
69	SYS2	A1	SD23		土師器	S字甕	BC類	(16.0)	-	(7.5)	斜めハケ	指オサエ		77
70	SYS2	A1	SD23	(No. 1～3)	土師器	壺	畿関第式～松河戸I式併行	18.8	-	(8.6)	ミガキ	ミガキ		Z003-1～3
71	SYS2	A1	SD23	(No. 15)	土師器	椀ヶ坪型器	畿関第式～松河戸I式併行	(21.0)	-	(3.8)	縦ハケ	ナデ		Z003-15
72	SYS2	A1	SD23	(No. 12-14)	土師器	鉢or壺		-	(6.4)	(4.0)	ミガキ	ナデ		Z003-12～14
73	SYS2	A1	SD23		土師器	小型丸底壺	畿関第式～松河戸I式併行	-	2.0	(3.0)	不明瞭(ミガキ)	ナデ		76
74	SYS2	B1	SB01	No. 2	土師器	S字甕	BC類	(14.0)	-	(4.4)	櫛描文、斜めハケ	指オサエ		S002
75	SYS2	B1	SB02		土師器	S字甕	BC類	(14.0)	-	(2.4)	ハケメ	横ナデ		7
76	SS2	B2	SX01	No. 21	土師器(ロクロ土師器)	椀	東山73～山茶碗4期併行	(15.6)	台径(6.4)	(6.0)	回転ナデ	回転ナデ	高台有	S021

第４表　遺物観察表（１）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等		種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
77	SS2	B2	SX02		土師器(ロクロ土師器)	椀	東山72～山茶椀4期併行	-	4.9	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ	底部糸切	138
78	SS2	B4	SB03	No. 67	土師器(ロクロ土師器)	椀	東山72～山茶椀4期併行	(12.5)	(5.4)	3.1	回転ナデ	回転ナデ	底部糸切	S067
79	SS2	B4	SB03	No. 68	土師器(ロクロ土師器)	皿	東山72～山茶椀4期併行	11.8	8.1	2.2	回転ナデ	回転ナデ	底部糸切	S066
80	SS2	B8	SX26	No. 44	須恵器(美濃須衛)	鉢	V期第1小期	(21.2)	(13.0)	(9.9)	回転ナデ	回転ナデ		S044
81	SS2	C1	SX01		土師器	平底甕（濃尾型）	83類	(13.6)	-	(2.6)	縦ハケ	ナデ		14
82	SS2	C2	P27		土師器	伊勢型甕	2類	(21.0)	-	頸部高2.0	斜めハケ	横ハケ		16
83	SS2	F1	SB01		須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	12.9	7.6	3.7	回転ナデ	回転ナデ		57・63
84	SS2	F1	SB01	No. 13	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	-	6.6	-	回転ナデ	回転ナデ		S013
85	SS2	F1	SB01		須恵器(美濃須衛)	脚付盤	V期第1小期	-	(14.0)	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ	3条の平行な花紋	59・333
86	SS2	F1	SB01	No. 20	須恵器(美濃須衛)	脚付盤	V期第1小期	-	(14.6)	-	回転ナデ	回転ナデ	長方形透かし4方向	S020
87	SS2	F1	SB01	No. 18	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	-	-	(2.3)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		S016
88	SS2	F1	SB01	No. 88	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	13.2	-	2.8	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		S088
89	SS2	F1	SB01		須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	(12.0)	-	(2.2)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		53
90	SS2	F1	SB01		須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	(16.2)	-	(3.1)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		57
91	SS2	F1	SB01	No. 14	須恵器(美濃須衛)	盤類	V期第1小期	-	(16.0)	-	回転ナデ	回転ナデ		S014
92	SS2	F1	SB01		土師器	平底甕（濃尾型）	83類	-	-	(2.6)	口縁横ナデ	口縁横ハケ		63
93	SS2	F1	SB01		土師器	使用土器	美濃式2類	-	-	(3.9)	-	-		63
94	SS2	F1	SB01	No. 19	石製品	砥石	-	10.4	3.5	6.0	-	-	砂岩、使用面2面	S019
95	SS2	F1	SB01	アゼ外し	土製品	土錘	-	長3.6	幅1.2	厚1.2	-	-		67
96	SS2	F1	SB01	No. 88	土師器	伊勢型甕	1類	(18.1)	-	-	横ナデ	ハケメ		S088
97	SS2	F1	SB01		須恵器(美濃須衛)	底口部	III期後半	(10.0)	-	(4.7)	回転ナデ	回転ナデ		52
98	SS2	F1	SB01	No. 17	須恵器(美濃須衛)	杯身	III期後半	-	5.9	-	回転ナデ	回転ナデ		S017
99	SS2	F1	SB06	No. 24	須恵器(美濃須衛)	高杯	V期第1小期	-	脚端部径(11.5)	(3.9)	回転ナデ	回転ナデ		S024
100	SS2	F1	SB06	No. 22・23・29	須恵器(美濃須衛)	甕	III期後半	(19.3)	-	-	回転ナデ、回線3条	回転ナデ		S022等
101	SS2	F1	SB02	No. 87	土師器	平底甕（濃尾型）	83類	(17.9)	-	(4.2)	縦ハケ	ナデ		S087
102	SS2	F1	SB03		土師器	平底甕（濃尾型）	83類	-	(8.0)	(6.2)	縦ハケ	ナデ		77等
103	SS2	F1	SB03	ｶｸﾒﾙ	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	(17.0)	-	(4.1)	回転ナデ	回転ナデ		82
104	SS2	F1	SB03	No. 63	須恵器(美濃須衛)	杯	V期第1小期	(14.3)	(9.7)	-	回転ナデ	回転ナデ		S063
105	SS2	F1	SB03	No. 63	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	(10.6)	(6.3)	3.3	回転ナデ	回転ナデ		S063
106	SS2	F1	SB03		須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	13.0	6.6	3.0	回転ナデ	回転ナデ		84等
107	SS2	F1	SB03	No. 81	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	-	(6.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	転用硯？、ヘラ記号有	S081
108	SS2	F1	SB03	No. 71・72	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	-	(8.0)	-	回転ナデ	回転ナデ		S071・072
109	SS2	F1	SB03	No. 65	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	-	(9.2)	-	回転ナデ	回転ナデ		S065
110	SS2	F1	SB03	No. 78	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	-	11.9	-	回転ナデ	回転ナデ		S078
111	SS2	F1	SB03	No. 79	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	(16.0)	(10.5)	4.0	回転ナデ	回転ナデ		S079
112	SS2	F1	SB03		須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	(14.4)	-	(2.5)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有	88
113	SS2	F1	SB03	No. 61	須恵器(美濃須衛)	台付盤	V期第1小期	(14.6)	10.5	3.3	回転ナデ	回転ナデ、底不定方向ナデ	ヘラ記号有	S061
114	SS2	F1	SB03	No. 60	須恵器(美濃須衛)	台付盤	V期第1小期	(14.6)	(16.0)	2.3	回転ナデ	回転ナデ		S060
115	SS2	F1	SB03	No. 83	須恵器(美濃須衛)	台付盤	V期第1小期	16.4	-	-	回転ナデ	回転ナデ		S083
116	SS2	F1	SB03	No. 61	須恵器(美濃須衛)	台付盤	V期第1小期	-	10.7	-	回転ナデ	回転ナデ		S061
117	SS2	F1	SB03		須恵器(美濃須衛)	鉢底？	V期第1小期	(30.0)	-	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ	無台or有台	78
118	SS2	F1	SB03	No. 82	須恵器(美濃須衛)	脚付盤	V期第1小期	-	(14.8)	-	回転ナデ	回転ナデ	十字透かし有	S082
119	SS2	F1	SB03		須恵器(美濃須衛)	甕	V期第1小期	(32.0)	-	(6.6)	回転ナデ、平行タタキ	回転ナデ、同心円当て具		88・90・242
120	SS2	F1	SB03	No. 67	須恵器(美濃須衛)	甕	V期第1小期	21.8	-	-	回転ナデ、平行タタキ	回転ナデ、同心円当て具	当て具に十字絞み有	S067
121	SS2	F1	SB03	No. 65	須恵器(美濃須衛)	甕	V期第1小期	(30.0)	-	-	回転ナデ	回転ナデ		S065
122	SS2	F1	SB03	No. 66	須恵器(美濃須衛)	甕	V期第1小期	-	-	(10.3)	回転ナデ、平行タタキ	回転ナデ、同心円当て具		S066
123	SS2	F1	SB04	No. 96	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	(12.4)	(6.3)	3.2	回転ナデ	回転ナデ		S099
124	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	(11.8)	-	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ		91等
125	SS2	F1	SB04	No. 114	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	(12.5)	(6.2)	3.4	回転ナデ	回転ナデ		S114
126	SS2	F1	SB04	No. 93	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	-	6.9	-	回転ナデ	回転ナデ		S093
127	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	-	-	(1.8)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ	宝珠つまみ	102
128	SS2	F1	SB04	No. 97	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	13.9	-	3.1	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		S097
129	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	(15.6)	-	(2.4)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		102
130	SS2	F1	SB04	No. 94	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	(16.8)	(12.0)	5.0	回転ナデ	回転ナデ		S094
131	SS2	F1	SB04	No. 92	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	(19.3)	-	-	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		S092
132	SS2	F1	SB04	No. 52	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	(17.0)	-	-	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		S052
133	SS2	F1	SB04	No. 47	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	(18.0)	-	-	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		S047
134	SS2	F1	SB04	No. 96	須恵器(猿投)	壺	井ヶ谷78号窯式期	(13.0)	-	-	回転ナデ	回転ナデ		S096
135	SS2	F1	SB04	No. 55	須恵器(美濃須衛)	台付盤	V期第1小期	(14.2)	-	-	回転ナデ	回転ナデ		S055
136	SS2	F1	SB04	No. 92	須恵器(美濃須衛)	台付盤	V期第1小期	15.0	9.7	3.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有	S092
137	SS2	F1	SB04	No. 92	須恵器(美濃須衛)	脚付盤	V期第1小期	(21.5)	-	-	回転ナデ	回転ナデ		S092
138	SS2	F1	SB04	No. 112ｶｸﾒﾙ	須恵器(美濃須衛)	甕	V期第1小期	(37.4)	-	-	回転ナデ、平行タタキ	回転ナデ、同心円当て具		S112
139	SS2	F1	SB04	No. 49	石製品	砥石	-	14.4	9.0	-	-	-	砂岩、使用面3面	S049
140	SS2	F1	SB04	No. 50	石製品	不明	-	4.5	-	-	-	-	安山岩	S050
141	SS2	F1	SB04		土師器	平底甕（濃尾型）	83類	-	-	(2.4)	口縁横ナデ	口縁横ハケ		109
142	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	-	つまみ径2.5	つまみ高(1.9)	回転ナデ	回転ナデ		113
143	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	(12.0)	-	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ		112
144	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	杯	V期第1小期	(12.0)	-	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ		112
145	SS2	F1	SB04	No. 36	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	-	6.0	-	回転ナデ	回転ナデ		S036
146	SS2	F1	SB04	No. 35	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	((12.2)	6.1	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ		S035
147	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	杯	V期第1小期	(13.0)	-	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ		109
148	SS2	F1	SB04	No. 34	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	-	(9.0)	-	回転ナデ	回転ナデ		S034
149	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	(15.0)	-	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ		108
150	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	-	(9.6)	((2.0)	回転ナデ	回転ナデ	火だすき有	108・188
151	SS2	F1	SB04	No. 41	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	-	9.6	-	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有	S041
152	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	台付盤	V期第1小期	(15.0)	-	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ		108等
153	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	脚付盤	V期第1小期	(23.0)	-	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ		114・115
154	SS2	F1	SB04		須恵器(美濃須衛)	片口鉢	V期第1小期	(18.6)	(10.2)	(4.6)	回転ナデ	回転ナデ		115

第5表　遺物観察表（2）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等		種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
155	SS2	F1	SB04	No. 43	須恵器(生産須恵器)	壺	V期第1小期	(36.2)	-	-	回転ナデ、平行タタキ	回転ナデ、同心円当て具		S045
156	SS2	F1	SB04	No. 110	須恵器(陸奥)	小型壺	折戸10号～日ヶ谷78型式期	-	4.8	-	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有	110
157	SS2	F1	SB04	No. 38	須恵器(生産須恵器)	杯身	第期後半	-	6.8	-	回転ナデ、底不定方向ナデ	回転ナデ		S038
158	SS2	F1	SB07		須恵器(生産須恵器)	杯身	第期後半	(12.0)	-	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ		138
159	SS2	F1	SB08		須恵器(生産須恵器)	壺	第期前半	(18.0)	-	(8.7)	回転ナデ、平行タタキ	回転ナデ、同心円当て具		145
160	SS2	F1	SB08	No. 75	須恵器(生産須恵器)	有台杯	V期第1小期	-	(12.2)	-	回転ナデ	回転ナデ		S075
161	SS2	F1	SB12		須恵器(陸奥)	壺	赤坂41～高倉寺2号型式期	-	-	(6.2)	回転ナデ	回転ナデ		158
162	SS2	F1	SB13		土師器	伊勢型甕	I類	(16.0)	-	(5.2)	斜めハケ	-		160
163	SS2	F1	SB13		土師器	伊勢型甕	-	(10.0)	-	(8.8)	縦ハケ	横ハケ	口縁部欠損後に再利用？	159
164	SS2	F1	SB13	No. 56	須恵器(生産須恵器)	杯身	第期後半	(9.8)	(6.0)	2.8	回転ナデ	回転ナデ		S056
165	SS2	F1	SB13	No. 39	須恵器(生産須恵器)	杯蓋	第期後半	10.0	-	3.8	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ	重ね焼き痕	S059
166	SS2	F1	SB14		土師器	平底甕（直口型）	B類	-	-	(2.1)	口縁横ナデ	口縁横ナデ		162
167	SS2	F1	SB14	No. 132	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	12.8	6.8	3.2	回転ナデ	回転ナデ		S132
168	SS2	F1	SB14	No. 111	須恵器(生産須恵器)	有台杯	V期第1小期	(13.2)	(7.4)	3.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有	S111
169	SS2	F1	SB14		須恵器(生産須恵器)	有台杯	V期第1小期	-	(10.0)	(2.6)	回転ナデ	回転ナデ		170
170	SS2	F1	SB14		須恵器(生産須恵器)	台付盤	V期第1小期	-	(12.0)	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ		163
171	SS2	F1	SB16	No. 104	須恵器(生産須恵器)	有台杯	V期第1小期	-	(10.8)	-	回転ナデ	回転ナデ		S104
172	SS2	F1	SB16	No. 110	須恵器(生産須恵器)	壺	第期後半	17.0	-	-	回転ナデ、平行タタキ	回転ナデ、同心円当て具		S110
173	SS2	F1	SB17	No. 105	須恵器(生産須恵器)	脚付盤	V期第1小期	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	透かし有	S105
174	SS2	F1	SB17		灰釉陶器(生産)	椀	大原2号窯式期(Ⅷ古)	-	(7.0)	(2.6)	施釉	施釉	内面底部摩耗	175
175	SS2	F1	SB18		灰釉陶器(尾張)	皿	折戸53号窯式期(Ⅷ古)	-	-	(1.2)	施釉	施釉	焼成	51
176	SS2	F1	SB18	No. 108	須恵器(生産須恵器)	壺or鉢	V期第1小期	-	(13.4)	-	回転ヘラ削り	同心円当て具		S108
177	SS2	F1	SK08		灰釉陶器(生産)	椀	大原2号窯式期(Ⅷ古)	-	(8.8)	(1.5)	施釉	施釉		202
178	SS2	F1	SK08		土師器	平底甕（直口型）	B類	(21.9)	-	(3.2)	縦ハケ	ナデ		204
179	SS2	F1	SK08		須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	(12.0)	(6.4)	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ		202
180	SS2	F1	SK08		須恵器(生産須恵器)	鉢	V期第1小期	(18.0)	-	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ		203
181	SS2	F1	SK12	No. 77	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	(13.0)	(7.6)	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ		S077
182	SS2	F1	SK12	No. 78	鉄製品	刀子	-	長(7.4)	幅1.8	厚0.8	-	-		S078
183	SS2	F1	SK19	No. 108	須恵器(生産須恵器)	杯	Ⅳ-3～Ⅴ-1	-	(9.0)	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ	高台あり	S108
184	SS2	F1	SK23		土師器	伊勢型甕	I類	(16.6)	-	(7.0)	斜めハケ	横ハケ		226等
185	SS2	F1	SK25		須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	(11.0)	(5.0)	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有	248
186	SS2	F1	SK25	No. 129	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	(12.4)	(6.2)	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ	タール付着？	S129
187	SS2	F1	SK25	No. 128	須恵器(生産須恵器)	有台杯	V期第1小期	12.6	6.8	3.2	回転ナデ	回転ナデ		S128
188	SS2	F1	SK25	No. 130	須恵器(生産須恵器)	有台杯	V期第1小期	(14.0)	(9.6)	2.9	回転ナデ	回転ナデ		S130
189	SS2	F1	SK25	No. 127	須恵器(生産須恵器)	杯蓋	V期第1小期	14.1	-	2.5	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		S127
190	SS2	F1	SK25	No. 130	須恵器(生産須恵器)	椀蓋	V期第1小期	(22.3)	-	-	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ	金属器等し	S130
191	SS2	F1	SK25		土師器	平底甕（直口型）	B類	-	-	(2.8)	縦ハケ	ナデ		243
192	SS2	F1	P01		須恵器(生産須恵器)	鉢	第期後半	(12.4)	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ		245
193	SS2	F1	P20		灰釉陶器(尾張不明)	椀	第期90号・九ヶ三1号窯式期(Ⅶ中～新)	(16.0)	-	(2.4)	施釉	施釉		261
194	SS2	F1	P59		須恵器(生産砂鉄?)	椀	？	(7.0)	-	(4.2)	回転ナデ	回転ナデ	赤黒色粒(鉄土？)	276
195	SS2	F1	P96		灰釉陶器(尾張不明)	把手付瓶	折戸53～東山72窯式期(Ⅷ)	(9.0)	-	(2.4)	灰釉	灰釉		294
196	SS2	F1	P140		須恵器(生産須恵器)	平瓶把手	V期第1小期	-	-	(3.0)	回転ナデ、自然釉	回転ナデ		319
197	SS2	F2	SB05		須恵器(生産須恵器)	杯蓋	V期第1小期	-	つまみ径4.2	(2.2) つまみ高0.8	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		32
198	SS2	F2	SB05		須恵器(生産須恵器)	杯蓋	V期第1小期	-	-	(1.2)	回転ナデ	回転ナデ		32
199	SS2	F2	SB05	No. 29	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	11.4	6.0	3.2	回転ナデ	回転ナデ	切りあいのあるSX19として取り上げ	S029
200	SS2	F2	SB05		土師器	伊勢型甕	I類	(17.3)	-	(3.9)	縦ナデ	-		33
201	SS2	F2	SB02		土製品	土錘	-	長(2.5)	幅(1.5)	厚(1.4)	-	-		24
202	SS2	F2	SB02		須恵器(生産須恵器)	有台杯	V期第1小期	-	高台径(8.8)	(1.6) 高台高0.7	回転ナデ	回転ナデ		24
203	SS2	F2	SB02		須恵器(生産須恵器)	有台杯	V期第1小期	-	高台径(8.7)	(2.4) 高台高0.8	回転ナデ	回転ナデ		24
204	SS2	F2	SB02		須恵器(生産須恵器)	有台杯	V期第1小期	-	高台径(10.6)	高台高0.7	回転ナデ	回転ナデ		23
205	SS2	F2	SB02		須恵器(生産須恵器)	椀	V期第1小期	-	高台径(8.4)	(2.2) 高台高0.5	回転ナデ	回転ナデ	粉土やや粗、工具痕？有	24
206	SS2	F2	SB02	No. 1	須恵器(生産須恵器)	杯	V-1～2	(13.6)	-	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ		Z002-1
207	SS2	F2	SB06		須恵器(生産須恵器)	杯蓋	V期第1小期	(16.7)	-	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ		35
208	SS2	F2	SK79		土師器	焼塩土器	矢張式2類	-	台脚部径(11.1)	(3.6)	指オサエ	指オサエ		53
209	SS2	F2	SK79		土師器	焼塩土器	矢張式2類	-	台脚部径(7.4)	(3.2)	指オサエ	指オサエ		53
210	SS2	F2	SK79		須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	(11.0)	(7.3)	3.9	回転ナデ	回転ナデ		51
211	SS2	F2	SK79		石製品	砥石	-	長(3.3)	幅(2.0)	厚(2.2)	-	-	底面	53
212	SS2	F2	SK79		土師器	焼塩土器	矢張式2類	-	台脚部径(5.0)	(2.6)	指オサエ	指オサエ		53
213	SS2	F2	SK87		須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	(11.6)	-	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ		71
214	SS2	F2	SK89		灰釉陶器(生産)	皿	北花山1号窯式期(Ⅷ中～新)	(13.0)	高台径(8.0)	1.9 高台高0.4	施釉	施釉		79
215	SS2	F2	SK90		須恵器(生産須恵器)	蓋或？	第期後半	-	つまみ径6.4	(1.6) つまみ高0.9	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		80
216	SS2	F2	SK92		灰釉陶器(生産)	椀	大原2号窯式期(Ⅷ古～中)	-	高台径(7.0)	(3.2) 高台高1.0	施釉	施釉	内面底部摩耗	84
217	SS2	F2	SK96	P252下	土師器	焼塩土器	矢張式2類	-	台脚部径(5.2)	(3.0)	指オサエ	指オサエ		94
218	SS2	F2	SK96		須恵器(生産須恵器)	杯	V期第1小期	(13.0)	-	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ		93
219	SS2	F2	SK96		須恵器(生産須恵器)	転用品	V期第1小期	(10.2)	-	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ	穿孔	94
220	SS2	F2	SK96	No. 97下	土師器	皿？	-	-	-	(4.9)	縦ナデ	横ナデ		95
221	SS2	F2	SK98	(No. 13)	土師器	平底甕（直口型）	B類	(13.0)	-	(5.0)	縦ハケ	ナデ		Z003-13
222	SS2	F2	SK98	(No. 8)	土師器	平底甕（直口型）	B類	-	8.4	(6.7)	縦ハケ	ナデ		Z003-8
223	SS2	F2	SK98	(No. 21)	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	(12.2)	8.7	(6.2)	回転ナデ	回転ナデ		Z003-21
224	SS2	F2	SK98	(No. 20)	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	12.1	8.3	3.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有	Z003-20
225	SS2	F2	SK98	(No. 17)	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	12.0	7.3	3.8	回転ナデ	回転ナデ		Z003-17
226	SS2	F2	SK98	(No. 18)	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	12.5	7.0	3.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有	Z003-18
227	SS2	F2	SK98	(No. 30)	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	(12.0)	7.7	3.6	回転ナデ	回転ナデ		Z003-30
228	SS2	F2	SK98	(No. 29)	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	12.3	6.7	3.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有	Z003-29
229	SS2	F2	SK98	(No. 2)	須恵器(生産須恵器)	無台杯	V期第1小期	(13.6)	(7.4)	3.8	回転ナデ	回転ナデ		Z003-2
230	SS2	F2	SK98	(No. 4)	須恵器(生産須恵器)	有台杯	V期第1小期	-	高台径(9.2)	(1.7) 高台高0.8	回転ナデ	回転ナデ		Z003-4

第6表　遺物観察表（3）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・器名等	種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
231	SS2	F2	SE99 (No. 7)	須恵器(美濃須衛)	台付鉢	V期第1小期	(22.2)	高台径(16.6)	3.1 高台高0.7	回転ナデ	回転ナデ		2003-7
232	SS2	F2	SE99	土師器	伊勢型甕	I類	(19.4)	–	残(4.9)	不明瞭(横ナデ)	不明瞭(横ナデ)		99
233	SS2	F2	SE102	土師器	焼塩土器	東濃式I類?	(6.6)	–	(2.8)	–	ナデ		105
234	SS2	F2	SE103	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	第III期後半	–	–	(2.6)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		106
235	SS2	F2	SE103	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	III期後半	(12.2)	–	(3.3)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		105
236	SS2	F2	SE102	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	–	高台径(8.2)	(1.4) 高台高0.5	回転ナデ	回転ナデ		107
237	SS2	F2	SE116	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	IV期第1小期	–	つまみ径3.1	つまみ高1.2	回転ナデ	–	宝珠つまみ	232
238	SS2	F2	SE118	須恵器(美濃須衛)	蓋?	第期後半	–	つまみ径1.6	つまみ高0.8	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		234
239	SS2	F2	F247	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	15.0	高台径11.4	5.0 高台高0.7	回転ナデ	回転ナデ		129
240	SS2	F2	F248	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	V期第1小期	–	つまみ径3.2	(1.7) つまみ高0.7	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		130
241	SS2	F2	F259	灰釉陶器(尾張)	椀	黒笹90号窯式期(VI中一新)	(14.2)	–	(3.3)	施釉	施釉		132
242	SS2	F2	F252 (No. 5	鞴製品	羽口	–	縦3.4	横3.7	厚0.64	–	–	表面黒鉄付着、露面銅是を本	5005
243	SS2	F2	F253	土師器	焼塩土器	東濃式2類	–	台脚部径(7.2)	(3.8)	指オサエ	指オサエ		134
244	SS2	F2	F255	石製品	砥石	–	長13.7	幅3.7	厚2.3	–	–	使用or小ルシフェルカ	140
245	SS2	F2	F264	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	–	高台径(13.7)	(2.1) 高台高0.9	回転ナデ	回転ナデ		144
246	SS2	F2	F279	須恵器(美濃須衛)	高杯	V期第1小期	–	–	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ		163
247	SS2	F2	F274	須恵器(美濃須衛)	把手付杯把手	V期第1小期	長(3.1)	幅(3.0)	厚(1.7)	–	–		163
248	SS2	F2	F319	須恵器(美濃須衛)	杯	V期第1小期	(11.2)	–	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ		198
249	SS2	F2	F319 (No. 3-1)	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	–	高台径(10.1)	高台高0.8	回転ナデ	回転ナデ		2007-3-1
250	SS2	F2	F319	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	–	高台径(10.0)	(2.0) 高台高0.7	回転ナデ	回転ナデ		199
251	SS2	F2	F319 (No. 2)	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	13.1	高台径10.1	4.1 高台高0.8	回転ナデ	回転ナデ		2007-2
252	SS2	F2	F319 (No. 3-2)	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	12.8	6.4	3.8	回転ナデ	回転ナデ	墨書有「五百(室力)部」	2003-3-2
253	SS2	F2	F319 (No. 1)	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	19.1	高台径11.7	5.6 高台高0.8	回転ナデ	回転ナデ	赤彩跡なし	2007-1
254	SS2	F2	F345	土師器	焼塩土器	東濃式2類	–	台脚部径(7.0)	(4.6)	指オサエ	指オサエ	清州の焼塩土器より胎土類	215
255	SS2	F3	SE26	土師器	伊勢型甕	I類	–	–	(2.6)	横ナデ	横ナデ		7
256	SS2	F3	SE21	須恵器(美濃須衛)	蓋	V期第1小期	(14.0)	–	(0.7)	回転ナデ	回転ナデ		13
257	SS2	F3	SE22	須恵器(美濃須衛)	杯	V期第1小期	(10.0)	–	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ		15
258	SS2	F3	SE33 (No. 26	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	(16.4)	高台径(11.2)	(4.1) 高台高0.7	回転ナデ	回転ナデ	底部工具痕	5026
259	SS2	F3	SE23 (No. 21ｶｸﾁﾞ	須恵器(美濃須衛)	台付鉢	V期第1小期	(18.8)	高台径(12.4)	(3.3) 高台高1.2	回転ナデ	回転ナデ		5021
260	SS2	F3	SE23 (No. 20ｶｸﾁﾞ	須恵器(美濃須衛)	壺	第期後半	(20.0)	–	(5.3)	回転ナデ	回転ナデ		5020
261	SS2	F3	SE23 (No. 23ｶｸﾁﾞ	須恵器(美濃須衛)	壺	第期後半	–	–	(3.0)	底状文、沈線文	横ナデ		5029
262	SS2	F3	SE24 (No. 22	須恵器(尾張須衛)	壺	V期第1小期	(14.0)	–	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ	鉄釉	5027
263	SS2	F3	SE25	須恵器(美濃須衛)	壺	V期第1小期	–	–	(3.0)	回転ナデ、平行タタキ	同心円当て具		45
264	SS2	F3	SE29 (No. 11	土師器	伊勢型甕	I類	–	–	(3.7) 頸部高2.1	横ナデ	ハケメ		5011
265	SS2	F3	SE26	土師器	焼塩土器	東濃式2類	(7.0)	–	(4.7)	指オサエ	–		44
266	SS2	F3	SE30 (No. 16	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	第期後半	つまみ径3.3	–	(2.3) つまみ高0.9	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		5016
267	SS2	F3	SE28 (No. 7	須恵器(美濃須衛)	鉢	V期第1小期	(17.7)	–	(6.3)	回転ナデ	回転ナデ		5007
268	SS2	F3	SE28 (No. 9	須恵器(美濃須衛)	壺	V期第1小期	(22.7)	–	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ		5009
269	SS2	F3	SE27	須恵器(尾張須衛)	杯身	III期後半	–	–	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ		62
270	SS2	F3	SE29	土師器	伊勢型	–	–	–	(3.3)	横ナデ	横ハケ		66
271	SS2	F3	SE35 (No. 14	須恵器(美濃須衛)	長頸瓶?	V期第1小期	–	–	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ		5014
272	SS2	F3	SE36 (No. 17	土師器	伊勢型甕	I類	(15.5)	–	(3.0)	横ナデ	不明瞭(ハケメ)		5017
273	SS2	F3	SE35 (No. 13	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	第期後半	(14.7)	(6.1)	3.7	横ナデ、ヘラケズリ、回転ナデ	回転ナデ		5013
274	SS2	F3	SE32	須恵器	鞴?	–	–	–	(5.5)	回転ナデ	回転ナデ	内面に焼成者、生焼け	104
275	SS2	F3	SE37 (No. 3	須恵器(美濃須衛)	杯身	III期前半	(12.6)	受け部径(14.6)	(4.8) 受部高1.3	回転ナデ	回転ナデ		5003
276	SS2	F3	SE40 (No. 16	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	(13.5)	(7.6)	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ		5016
277	SS2	F3	SE40 (No. 18	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	12.3	8.2	3.8	回転ナデ	回転ナデ	墨書有「四」	5018
278	SS2	F3	SE40 (No. 19	土師器	平底甕（鼎尾型）	II型	(13.6)	–	(5.7)	縦ハケ	ナデ		5019
279	SS2	F3	SE46 (No. 26	須恵器(美濃須衛)	高杯	V期第1小期	–	–	(8.1)	回転ナデ	回転ナデ		5026
280	SS2	F3	SE49	須恵器(尾張須衛)	杯身	第期後半	–	–	(4.4)	回転ナデ、自然釉	回転ナデ		121
281	SS2	F3	SE49	須恵器(尾張須衛)	杯蓋	III期後半	–	–	(2.6)	回転ナデ	回転ナデ		121
282	SS2	F3	SE96	土師器	焼塩土器	東濃式2類	(8.0)	–	(2.9)	指オサエ	指オサエ		150
283	SS2	F3	SE50	土師器	平底甕（鼎尾型）	II類	13.2	–	4.3	縦ハケ	ナデ		150
284	SS2	F3	SE96	土師器	平底甕（鼎尾型）	II類	12.8	–	10.5	縦ハケ	ナデ		148
285	SS2	F3	SE56 (No. 25	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	第期後半	(17.4)	–	(2.2)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		5025
286	SS2	F3	F192	鞴製品	刀子	–	長(6.3)	幅0.9	厚0.25	–	–		197
287	SS2	F3	F207 (No. 31	須恵器(尾張須衛)	鉢	III期後半	(23.6)	–	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ	生焼け	5031
288	SYS2	A1	SD14	須恵器(尾張須衛)	高杯	III期後半	–	–	(19.1)	回転ナデ	回転ナデ		63
289	SYS2	A1	SD14	弥生土器	受口壺	近江系	(22.0)	–	(4.1)	ナデ、口縁キザミ	ナデ		61
290	SYS2	A1	SD14	土師器	鉢		(15.0)	–	(2.0)	ミガキ	ミガキ		63
291	SYS2	A1	SD08 (上層	石製品	剥片	–	長(2.2)	幅1.2	厚0.2	–	–	チャート	29
292	SS2	A2	SK10	瓦質土器	羽釜	脚内底	–	–	(1.6)	横ナデ	横ナデ		78
293	SS2	A2	SK21	山茶碗(尾張系)	碗	6型式	–	–	(1.4)	–	–		89
294	SS2	B2	SD01 (上層	中国産磁器	白磁皿	改皿	(9.6)	(7.4)	1.4	施釉	施釉	口兵	8
295	SS2	B2	SD01 (下層	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯I～II期(13c)	–	–	(3.2)	施釉	施釉		23
296	SS2	B2	SD01 (上層	中国産磁器	青磁鉢	龍泉窯III～IV(15c	–	–	(2.4)	施釉	施釉	鳥花文	9
297	SS2	B2	SD01	山茶碗(尾張系)	碗	4型式	–	(7.8)	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ		182
298	SS2	B2	SD01 (上層	山茶碗(尾張系)	碗	4型式	–	–	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ		8
299	SS2	B2	SD01	山茶碗(尾張系)	碗	5型式	–	(8.0)	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ		32
300	SS2	B2	SD01 (上層	山茶碗(尾張系)	碗	5型式	–	–	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ	内面底部摩滅	8
301	SS2	B2	SD01 (上層	山茶碗(尾張系)	大平鉢	6型式	–	–	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ		8
302	SS2	B2	SD01 (下層	山茶碗(尾張系)	大平鉢	7型式	–	–	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ		10
303	SS2	B2	SD01 (上層	山茶碗(尾張系)	大平鉢	6型式	–	(11.0)	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ	内面底部摩滅	7
304	SS2	B2	SD01	山茶碗(北部系)	碗	白土原1号窯式期	(14.0)	–	(4.4)	回転ナデ	回転ナデ		19
305	SS2	B2	SD01 (No. 75	山茶碗(北部系)	碗	白土原1号窯式期	(10.0)	–	(4.5)	回転ナデ	回転ナデ		5075

第7表　遺物観察表（4）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等		種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
306	SS2	B2	SD01	下層	山茶碗(北部系)	碗	白土原1号窯式期	-	(6.0)	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ		11
307	SS2	B2	SD01	No. 11	山茶碗(北部系)	碗	白土原1号窯式期	-	(5.6)	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ		SD11
308	SS2	B2	SD01	上層	山茶碗(北部系)	碗	白土原1号窯式期	-	(6.3)	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ		8
309	SS2	B2	SD01	上層	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	-	(4.2)	回転ナデ	回転ナデ		8
310	SS2	B2	SD01	上層	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	-	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ		8
311	SS2	B2	SD01	上層	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	-	(3.7)	回転ナデ	回転ナデ		8
312	SS2	B2	SD01	下層	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	-	(4.6)	回転ナデ	回転ナデ		11
313	SS2	B2	SD01	下層	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	(12.6)	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ		33
314	SS2	B2	SD01	下層	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	-	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ		13
315	SS2	B2	SD01	東西溝上層	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	(5.6)	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ		7
316	SS2	B2	SD01	下層	山茶碗(北部系)	碗	大窯大洞4号窯式期古	-	-	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ		27
317	SS2	B2	SD01		山茶碗(北部系)	碗	大窯大洞4号窯式期古	-	-	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ		19
318	SS2	B2	SD01	上層	山茶碗(北部系)	碗	大窯大洞4号窯式期古	-	(3.4)	(5.9)	回転ナデ	回転ナデ		9
319	SS2	B2	SD01	下層	山茶碗(北部系)	皿	大窯大洞4号窯式期古	(8.0)	(5.4)	1.2	回転ナデ	回転ナデ		33
320	SS2	B2	SD01	No. 15	山茶碗(北部系)	碗	猿之島3号窯式期	(11.7)	(3.6)	5.1	回転ナデ	回転ナデ		SD15
321	SS2	B2	SD01		古瀬戸系ヤ(美濃焼陶)	水注	-	-	-	(3.6)	自然釉	露胎		8
322	SS2	B2	SD01	土層	陶器(瀬戸焼産)	卸皿	古瀬戸中Ⅰ～Ⅱ期	-	(6.0)	(2.0)	露胎	灰釉		9
323	SS2	B2	SD01	土層	陶器(瀬戸焼産)	鉢類胴巻き鉢	古瀬戸後Ⅳ期	-	(5.9)	(1.7)	露胎	露胎		6
324	SS2	B2	SD01		陶器(常滑)	壺	5型式(古相)	-	-	(5.6)	自然釉	露胎		8
325	SS2	B2	SD01		陶器(常滑)	壺	6a型式	-	-	(3.0)	自然釉	自然釉		5
326	SS2	B2	SD01		陶器(常滑系)	壺	6a～b型式併行	-	-	(8.0)	露胎	露胎	古墳山or甲津川に類例有	8
327	SS2	B2	SD01		陶器(常滑)	壺	5～6型式	-	-	(7.4)	自然釉	自然釉		8
328	SS2	B2	SD01	上層	土師器	皿	B4	-	-	(1.2)	横ナデ	横ナデ		9
329	SS2	B2	SD01	下層	須恵器(鍋内系)	杯身	TK209併行	(9.2)	-	(2.4)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		31
330	SS2	B2	SD01	下層	須恵器(産地不明)	壺	?	-	-	(4.8)	自然釉	回転ナデ		11
331	SS2	B2	SD01	上層	土師器(ロクロ土師器)	椀	東山72～山茶碗4期併行	-	(7.8)	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ	高台有	6
332	SS2	B2	SD01		土師器(ロクロ土師器)	椀	東山72～山茶碗4期併行	-	(6.0)	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ	高台有	104
333	SS2	B2	SD01		土師器(ロクロ土師器)	椀	東山72～山茶碗4期併行	-	-	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ	底部調整不明瞭	104
334	SS2	B2	SD01	東西溝	山茶碗(南部系)	碗	4型式	-	(9.0)	(3.3)	回転ナデ	回転ナデ		5
335	SS2	B2	SD01	東西溝	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	(8.8)	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ		5
336	SS2	B2	SD01	東西溝	山茶碗(南部系)	碗	7型式	-	-	(5.0)	回転ナデ	回転ナデ		4
337	SS2	B2	SD01	東西溝	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	(5.4)	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ	底部工具痕	4
338	SS2	B2	SD01	東西溝	陶器(常滑)	壺	5～6a型式	-	-	(11.0)	自然釉	露胎	押印文有	4
339	SS2	B2	SD01	東西溝	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	篠原窯手	-	-	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ		20
340	SS2	B2	SD01	東西溝	土師器(ロクロ土師器)	皿	東山72～山茶碗4期併行	-	(7.0)	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ	底部糸切	4
341	SS2	B2	SD02		灰釉陶器(美濃)	椀	虎岡山1～九石2号窯式期(Ⅷ期新～Ⅸ期古)	-	-	(5.0)	施釉	施釉		34
342	SS2	B3	SD06	No. 34	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	(13.4)	台径(5.2)	(4.9)	回転ナデ	回転ナデ		SD24
343	SS2	B6	SD23		山茶碗(北部系)	碗	生田2号窯式期	(10.2)	-	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ		73
344	SS2	B6	SD23		陶器(瀬戸焼産)	鉄釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期古	(10.2)	-	(2.3)	灰釉	灰釉		2004
345	SS2	B7	SD21	上層	中国龍泉窯系	白磁皿	底類	(13.0)	-	(2.4)	施釉	施釉	口禿	51
346	SS2	B7	SD21	上層	中国龍泉窯系	青磁碗	龍泉窯系Ⅰ-6類(12～13c)	(14.0)	-	-	連弁文、施釉	草花文、施釉		38-54
347	SS2	B7	SD21	No. 10	山茶碗(南部系)	碗	5型式	(15.2)	6.5	4.4	回転ナデ	回転ナデ	墨書有「上」の脱文字か	SD10
348	SS2	B7	SD21		山茶碗(南部系)	碗	5型式	(16.0)	-	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ		34
349	SS2	B7	SD21		山茶碗(南部系)	碗	5型式	(15.0)	-	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ		109
350	SS2	B6	SD21	No. 30	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	(9.2)	-	回転ナデ	回転ナデ		SD26
351	SS2	B7	SD21	No. 2	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	7.8	-	回転ナデ	回転ナデ		SD02
352	SS2	B6	SD21	No. 36	山茶碗(南部系)	碗	5型式	15.7	6.2	5.2	回転ナデ	回転ナデ		SD35
353	SS2	B7	SD21	No. 1	山茶碗(南部系)	碗	6型式	15.2	7.3	5.9	回転ナデ	回転ナデ		SD01
354	SS2	B7	SD21		山茶碗(南部系)	大平鉢	6型式	(30.0)	-	(3.3)	回転ナデ	回転ナデ		108
355	SS2	B6	SD21	No. 34	山茶碗(南部系)	皿	5型式	7.2	4.0	1.7	回転ナデ	回転ナデ		SD34
356	SS2	B7	SD21		土師器	皿	4or4B	10.0	6.0	1.0	横ナデ	横ナデ		34
357	SS2	B7	SD21		土師器	皿	京都系A c 類	-	-	(1.1)	横ナデ	横ナデ		108
358	SS2	B7	SD21		縄文土器	深鉢	玉貫森式	(30.0)	-	(4.1)	突帯、横ナデ	ナデ		34
359	SS2	B7	SD27		山茶碗(南部系)	皿	5型式	(8.0)	-	(1.2)	回転ナデ	回転ナデ	降灰	84
360	SS2	B7	SD27		山茶碗(南部系)	碗	6型式	(13.2)	-	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ	降灰	84
361	SS2	B7	SD27		須恵器(美濃須衛)	有台杯	Ⅴ期類1小期	(12.6)	高台径(8.4)	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ		86
362	SS2	B4	SD56	No. 64	陶器(瀬戸焼産)	鉄釉小皿	古瀬戸後Ⅰ期	(10.9)	(5.6)	2.5	灰釉	灰釉		SD64
363	SS2	B4	SD57		陶器(瀬戸焼産)	鉄釉小皿	古瀬戸後Ⅲ期	-	-	(1.4)	灰釉	灰釉		221
364	SS2	B4	SD63		山茶碗(北部系)	碗	大窯大洞4号窯式期古～新	-	-	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ		224
365	SS2	B4	SD64		山茶碗(南部系)	大平鉢	8型式	-	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ		225
366	SS2	B4	SD64		山茶碗(北部系)	碗	大洞東1号～猿之島3号窯式期	-	-	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ		226
367	SS2	B4	SD64		土師器	皿	B4	-	-	(1.8)	横ナデ	横ナデ		226
368	SS2	B4	SD65		中国龍泉窯系	青磁碗or杯	龍泉窯系Ⅱ類(13c～14c)	-	高台径(5.9)	(1.8) 高台高0.8	施釉	文様		228
369	SS2	B4	SD65		山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	高台径(4.7)	(2.1) 高台高0.2	回転ナデ	回転ナデ		227
370	SS2	B4	SD65		山茶碗(北部系)	皿	大洞大洞4号窯式期古	(8.7)	(5.6)	1.1	回転ナデ	回転ナデ		228
371	SS2	B4	SD65		山茶碗(北部系)	碗	大洞東1号窯式期	-	高台径(3.6)	(2.4) 高台高0.5	回転ナデ	回転ナデ		228
372	SS2	B4	SD65		陶器(瀬戸焼産)	灯明形香炉	古瀬戸後期～Ⅳ期	-	4.4	(0.9)	露胎	露胎		227
373	SS2	B4	SD66		山茶碗(南部系)	大平鉢	6型式	-	-	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ		233
374	SS2	B4	SD68-69		山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	高台径(4.7)	(2.6) 高台高0.4	回転ナデ	回転ナデ		236
375	SS2	B4	SD68-69		山茶碗(北部系)	碗	大窯大洞4号窯式期古	-	高台径(3.5)	(4.8) 高台高0.5	回転ナデ	回転ナデ		236
376	SS2	B4	SD68		山茶碗(北部系)	碗	大窯大洞4号窯式期古～新	(13.5)	-	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ		232
377	SS2	B4	SD69		山茶碗(北部系)	皿	大窯大洞4号窯式期古～新	(8.2)	(4.3)	1.1	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、判読不明	233
378	SS2	B4	SD68		山茶碗(北部系)	皿	不明	-	-	(9.7)	-	-	墨書有、判読不明	233
379	SS2	B2	SD70	No. 55	山茶碗(北部系)	碗	大窯大洞4号窯式期古	-	5.1	-	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、花押か	SD53
380	SS2	B2	SD70		山茶碗(北部系)	皿	明和1号窯式期	(8.4)	(4.4)	1.3	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、花押か	238
381	SS2	B2	SD70		山茶碗(北部系)	皿	明和1号窯式期	(8.8)	-	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ		231
382	SS2	B2	SD70		土師器	皿	B4	(11.8)	-	(2.4)	横ナデ	横ナデ		238
383	SS2	B6	SD77-78		土師器	皿	8lor8A	-	-	(1.1)	横ナデ	横ナデ		241
384	SS2	B6	SD77-78		山茶碗(南部系)	碗	5型式	(13.8)	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ		241
385	SS2	B6	SD77-78		山茶碗(南部系)	碗	5型式	(17.5)	-	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ		241
386	SS2	B6	SD77-78		山茶碗(南部系)	碗	5型式	(12.6)	-	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ		241

第8表　遺物観察表（5）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等		種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	出土No.
387	SS2	B6	SD77-78		山茶碗(南部系)	碗	S型式	-	高台径(7.0)	(2.2) 高台高0.4	回転ナデ	回転ナデ		241
388	SS2	B6	SD77-78		山茶碗(南部系)	碗	S型式	-	(4.8)	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ		241
389	SS2	B6	SD77-78		山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4号窯式期古	-	高台径(4.8)	(1.6) 高台高0.3	回転ナデ	回転ナデ		241
390	SS2	B5	SK35		山茶碗(北部系)	碗	白土原1号窯式期	-	高台径(5.9)	(2.6) 高台高0.3	回転ナデ	回転ナデ		250
391	SS2	B5	SK35		山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	高台径(4.9)	(3.1) 高台高0.4	回転ナデ	回転ナデ		250
392	SS2	B5	SK35		山茶碗(北部系)	碗	大洞東1号～藤之島3号窯式期	(11.0)	-	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ		247
393	SS2	B5	SK35		山茶碗(北部系)	碗	大洞東1号～藤之島3号窯式期	-	-	(2.6)	回転ナデ	回転ナデ		247
394	SS2	B5	SK35		陶器(瀬戸美濃)	徳利小瓶	古瀬戸後IV期古	-	-	(1.4)	灰釉	灰釉		247
395	SS2	B5	SK35		土師器	皿	M5orM4	-	-	(2.3)	横ナデ	横ナデ	穿孔有	251
396	SS2	B5	SK35		土師器	内彎型羽釜	A4類(大洞東～藤之島併行)	-	-	(2.2)	横ナデ	横ナデ		250
397	SS2	B5	SK35		土製品	土鍾	-	長(4.2)	幅1.7	厚1.7	-	-		250
398	SS2	B5	SK37		山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4号窯式期古～新	(11.1)	-	4.1	回転ナデ	回転ナデ		253
399	SS2	B5	SK37		山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	(5.0)	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ		253
400	SS2	B5	SK37		土師器	伊勢型鍋	第1段階b型式	-	-	(1.4)	横ナデ	横ナデ	外面煤付着	253
401	SS2	B5	SK37		土師器	皿	M4	-	-	(1.1)	横ナデ	横ナデ		254
402	SS2	B4	SK41		山茶碗(北部系)	皿	不明	-	(4.2)	(0.7)	回転ナデ	回転ナデ	墨書有。判読不明	258
403	SS2	B4	SK41		山茶碗(北部系)	碗	不明	-	-	(0.4)	-	-	墨書有。判読不明	258
404	SS2	B4	SK41	No. 54	山茶碗(北部系)	皿	大畑大洞4号窯式期新	8.2	6.2	0.9	回転ナデ	回転ナデ	墨書有。判読不明(○に十)	5054
405	SS2	B4	SK41	No. 55	土師器	内彎型羽釜	A1類(明和併行)	-	-	(3.1)	横ナデ	横ナデ	外面煤付着	5055
406	SS2	B4	SK43	上層	山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4号窯式期古	-	(4.6)	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ		268
407	SS2	B4	SK43	上層	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	高台径(5.2)	(1.8) 高台高0.3	回転ナデ	回転ナデ	墨書有。判読不明	267
408	SS2	B4	SK43	上層	山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4号窯式期古	-	高台径(4.0)	(1.9) 高台高0.3	回転ナデ	回転ナデ	墨書有「一」か	269
409	SS2	B5	SK43		山茶碗(北部系)	碗	不明	-	(5.0)	(0.6)	-	-	墨書有。判読不明	264
410	SS2	B4	SK43	上層	山茶碗(南部系)	大平鉢	S型式	(31.0)	-	(6.4)	回転ナデ	回転ナデ		268・271
411	SS2	B4	SK43		山茶碗(南部系)	大平鉢	S～S型式	-	(12.2)	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ	内面底部厚錆	267
412	SS2	B4	SK43	上層	土師器	内彎型羽釜	A1～A2類 (明和～大畑大洞併行)	-	-	(4.3)	横ハケ	ナデ		268
413	SS2	B4	SK43	上層	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後IV期古	(28.0)	-	(4.4)	鉄釉	鉄釉		265
414	SS2	B4	SK43	下層	陶器(常滑)	広口壺	6a型式	(31.0)	-	(6.0)	鉄釉	鉄釉		270
415	SS2	B4	SK43	上層	土師器	皿	M4	(13.0)	-	(2.6)	横ナデ	横ナデ		268
416	SS2	B4	SK42		山茶碗(南部系)	大平鉢	S～S型式	-	-	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ	内面底部厚錆	262
417	SS2	B4	SK42	No. 42	山茶碗(北部系)	皿	明和1号窯式期	(8.4)	5.0	1.3	回転ナデ	回転ナデ		5042
418	SS2	B4	SK42	No. 66	山茶碗(北部系)	碗	大洞東1号窯式期	(11.0)	高台径(4.6)	(3.0) 高台高0.1	回転ナデ	回転ナデ		5066
419	SS2	B4	SK42		山茶碗(北部系)	碗	大洞東1号～藤之島3号窯式期	-	-	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ		262
420	SS2	B5	SK44		山茶碗(北部系)	碗	不明	-	-	(0.3)	-	-	墨書有。判読不明(○に十)	274
421	SS2	B4	SK44		山茶碗(北部系)	皿	不明	-	-	(0.3)	-	-	墨書有。判読不明	276
422	SS2	B5	SK44		山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4号窯式期新	-	(4.8)	(1.8) 高台高(0.3)	回転ナデ	回転ナデ		274
423	SS2	B5	SK45	No. 47	山茶碗(北部系)	皿	明和1号窯式期	(8.8)	(4.9)	1.3	回転ナデ	回転ナデ	墨書有。花押か	5047
424	SS2	B5	SK45	No. 49	山茶碗(北部系)	皿	明和1号窯式期	(8.4)	(4.9)	1.3	回転ナデ	回転ナデ		5049
425	SS2	B5	SK45	No. 46	山茶碗(北部系)	皿	大畑大洞4号窯式期新	8.4	1.0	4.5	回転ナデ	回転ナデ、連續ナデ	墨書有。花押か	5046
426	SS2	B5	SK45		山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4号窯式期新	(12.8)	(4.0)	4.5	回転ナデ	回転ナデ		276
427	SS2	B5	SK45	No. 48	土師器	皿	M4	(12.8)	-	(2.4)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		5048
428	SS2	B5	SK45		土師器	皿	M4	(12.0)	-	(2.5)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		277
429	SS2	B6	SK46		土師器	皿	C17	-	-	(1.0)	指オサエ	-		279
430	SS2	B5	P215		山茶碗(北部系)	碗	大洞東1号窯式期	-	-	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ		314
431	SS2	B5	P215	No. 33	土師器	皿	M4	(12.0)	-	(2.5)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		5033
432	SS2	B5	P220		山茶碗(北部系)	皿	白土原1号窯式期	(8.0)	-	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ		316
433	SS2	B5	P220		山茶碗(南部系)	大平鉢	S型式	-	-	(4.1)	回転ナデ	回転ナデ		316
434	SS2	C1	SX02	最下層(深掘)	土師器	パレス壺		-	-	(2.4)	櫛描文、ヘラ描	横ナデ	外面ススボ	63
435	SS2	C1	SX02	最下層(深掘)	土師器	5字壺	BC類	(17.0)	-	(1.6)	口縁横ナデ	口縁横ナデ		63
436	SS2	C1	SX02	最下層(深掘)	土師器	高杯		-	-	(4.0) 脚部高(3.5)	ミガキ	ナデ		63
437	SS2	C1	SX02	最下層(深掘)	須恵器(美濃須衛)	高杯	III期	-	-	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ		63
438	SS2	C1	SX02	No. 26	須恵器(美濃須衛)	無台杯	III期後半	(11.1)	(5.1)	(4.3)	回転ナデ	回転ナデ		5026
439	SS2	C1	SX02	下層	須恵器(美濃須衛)	杯身	II期後半	-	-	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ		77
440	SS2	C1	SX02	下層	須恵器(美濃須衛)	台付瓶	II期後半	-	-	残高(4.4)	回転ナデ	回転ナデ		76
441	SS2	C1	SX02	下層	須恵器(美濃須衛)	壺	II期後半	(30.0)	-	(5.0)	櫛描文	回転ナデ		77
442	SS2	C1	SX02	下層	須恵器(美濃須衛)	平瓶	III期後半	-	-	(4.4)	櫛描	回転ナデ		76
443	SS2	C1	SX02	下層	須恵器(猿投)	壺	東山44～高蔵寺2号窯式期	-	-	(12.0)	沈線文、刺点文	回転ナデ		79
444	SS2	C1	SX02	下層	瓦	軒平瓦	-	長(5.6)	幅(5.5)	厚(1.8)	-	-	縄目タタキ有	70
445	SS2	C1	SX02	下層	灰釉陶器(美濃)	鍋	大原2～虎渓山1号窯式期(VII)	-	-	(1.5)	施釉	施釉		70
446	SS2	C1	SX02	下層	灰釉陶器(産地不明)	長頸瓶	黒笹90～東山72号窯式期(VI～VII)	-	-	(2.7)	施釉	施釉		69
447	SS2	C1	SX02	下層	土師器	雨樋型鍋	10c後半～11c(IIa～b期)	-	-	(2.2)	ナデ	ケズリ		69
448	SS2	C1	SX02	No. 24	銅製品	銭貨(太平通宝)	-	直径2.3	-	厚0.1	-	-	北宋銭、初鋳年976年	5024
449	SS2	C1	SX02	下層	銅製品	銭貨(嘉祐元宝)	-	直径2.3	-	厚0.1	-	-	北宋銭、初鋳年1057年	-
450	SS2	C1	SX02	No. 25	銅製品	銭貨(景德元宝)	-	直径2.3	-	厚0.1	-	-	北宋銭、初鋳年1004年	5025
451	SS2	C1	SX02	No. 8	銅製品	銭貨(政和通宝)	-	直径2.3	-	厚0.1	-	-	北宋銭、初鋳年1111年	5008
452	SS2	C1	SX02	下層	山茶碗(北部系瀬戸窯)	大平鉢	10型式	(30.0)	-	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ		69
453	SS2	C1	SX02	下層	陶器(瀬戸美濃)	小杯	古瀬戸後III～IV期	-	-	(1.8)	鉄釉	鉄釉		70
454	SS2	C1	SX02	下層	陶器(瀬戸美濃)	折縁深皿	古瀬戸後IV期古	(30.0)	-	(2.3)	灰釉	灰釉		63
455	SS2	C1	SX02	下層	陶器(瀬戸美濃)	折縁深皿	古瀬戸後IV期古	(30.0)	-	(2.8)	灰釉	灰釉		70
456	SS2	C1	SX02	下層	陶器(常滑)	壺	9～10型式	-	-	残高(4.4)	自然釉	自然釉		76
457	SS2	C1	SX02	下層	土師器	皿	M3	-	-	(1.3)	横ナデ	横ナデ		88
458	SS2	C1	SX02	下層	土師器	皿	M4	(10.0)	-	(1.1)	横ナデ	横ナデ		83
459	SS2	C1	SX02	下層	中国産磁器	青磁鉢or大皿	15～16c	-	-	(4.0)	施釉	幾何文		78
460	SS2	C1	SX02	下層	陶器(瀬戸美濃)	卸目付大皿	大窯第1段階	-	-	(1.8)	灰釉	灰釉		69
461	SS2	C1	SX02	下層	土師器	内耳鍋	15c末～16c前半(I-3～2期)	-	-	(4.3)	指オサエ	横ハケ	外面煤付着	70
462	SS2	C1	SX02	下層	土師器	皿	B2-a	(12.0)	-	(2.0)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		70
463	SS2	C1	SX02	下層	土師器	皿	C1	-	-	(1.2)	指オサエ	横ナデ		70
464	SS2	C1	SX02	下層	土製品	土錘	-	長3.1	幅1.3	厚1.3	-	-		70

第9表　遺物観察表（6）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等	種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
465	SS2	C1	SX02 下層	土製品	土錘	-	長(3.8)	幅1.7	厚1.7	-	-		68
466	SS2	C1	SX02 下層	石製品	砥石	-	長(12.3)	幅(7.9)	厚(6.4)	-	-	砂岩、表熟受ける	69
467	SS2	C1	SX02 トレンチ	縄輪廻器(東濃)	底台	丸石2号窯式期(陶新一種生)	(13.0)	-	(1.9)	篠刷	篠刷		61
468	SS2	C1	SX02	中国産磁器	白磁碗	同安窯系IV-1類	-	-	(1.7)	施釉	施釉		67
469	SS2	C1	SX02 上層	陶器(瀬戸美濃)	鉄釉小皿	古瀬戸後存期古	(10.0)	-	(2.0)	灰釉	灰釉		52
470	SS2	C1	SX02 上層	陶器(瀬戸美濃)	鉄絵	古瀬戸後IV期新	-	-	(2.1)	鉄釉	鉄釉		53
471	SS2	C1	SX02 上層	陶器(瀬戸美濃)	鉄釉灰釉皿	大窯第1段階	-	-	(2.4)	灰釉	灰釉		54
472	SS2	C1	SX02	山茶碗(南部系)	碗	4型式	-	(7.0)	(5.7)	回転ナデ	回転ナデ		67
473	SS2	C1	SX02 No.3	山茶碗(南部系)	大平鉢	4型式	-	(9.3)	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ	内面底部摩滅	5003
474	SS2	C1	SX02 上層	山茶碗(北部系)	碗	生沢2号窯式期	(10.0)	-	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ		54
475	SS2	C1	SX02 上層	山茶碗(北部系瀬戸窯)	大平鉢	9型式	(36.0)	-	(5.8)	回転ナデ	回転ナデ		56
476	SS2	C1	SX02 No.5	陶器(瀬戸美濃)	灯明皿	古瀬戸後IV期古	(14.8)	-	(5.6)	灰釉	灰釉		5005
477	SS2	C1	SX02 上層	土製品	土錘	-	長(2.1)	幅(2.0)	厚(1.0)	-	-		53
478	SS2	C1	SX02 上層	土製品	土錘	-	長(3.3)	幅(1.2)	厚(1.1)	-	-		59
479	SS2	C1	SX02 上層	石製品	砥石	-	長(3.7)	幅(3.0)	厚(0.5)	-	-	花崗ロポルンフェルス	62
480	SS2	C1	SX02 上層	土師器	内耳鍋	15c末～16c前半(I～1～2期)	-	-	(3.8)	横ナデ	横ナデ	内外面コゲ有	59
481	SS2	C1	SX02 上層	土師器	皿	B1	(16.0)	-	(2.6)	横ナデ	横ナデ		53
482	SS2	C1	SX02 No.7	土師器	皿	B2-b	12.2	-	2.0	指オサエ	不明瞭(横ナデ)	黒斑有、判読不明(落書か)	5007
483	SS2	C2	SX02	山茶碗(南部系)	碗	4型式	-	高台径(8.4)	(2.1) 高台高1.0	回転ナデ	回転ナデ		31
484	SS2	C2	SX02	山茶碗(南部系)	碗	6型式	-	高台径(9.0)	(3.6) 高台高0.3	回転ナデ	回転ナデ		25
485	SS2	C2	SX02	山茶碗(南部系)	碗	6型式	-	高台径(8.2)	(1.8) 高台高0.3	回転ナデ	回転ナデ		32
486	SS2	C2	SX02	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	高台径(7.6)	(2.0) 高台高0.4	回転ナデ	回転ナデ	使用痕有、転用痕か	26
487	SS2	C2	SX02	土製品	土錘	-	長3.2	幅1.9	厚1.6	-	-		28
488	SS2	C2	SX02 No.12	石製品	無茎石鏃	-	長(2.2)	幅1.8	厚0.3	-	-	サヌカイト	5012
489	SS2	C2	SX02	須恵器(東濃須衛)	高杯	須衛後半	-	脚径2.8	(5.6)	回転ナデ	回転ナデ		30
490	SS2	C2	SX02	須恵器(東濃須衛)	台付壺	V期第1小期	-	高台径(13.2)	(1.8) 高台高1.0	回転ナデ	回転ナデ		26
491	SS2	C2	SX02 No.14	鍛製品	刀装具?	-	縦3.9	横3.2	厚1.3	-	-	銅かモチーフ	5014
492	SS2	C2	SD10	山茶碗(南部系)	碗	4型式	-	高台径(7.6)	(2.7) 高台高0.8	回転ナデ	回転ナデ		4
493	SS2	C2	SD10	山茶碗(南部系)	碗	3型式	-	高台径(5.4)	(2.1) 高台高0.8	回転ナデ	回転ナデ		5
494	SS2	C2	SD10	須恵器(東濃須衛)	物台杯	須衛後半	-	(7.5)	(2.6)	回転ナデ	回転ナデ		6
495	SS2	C2	SD10 No.3	須恵器(東濃須衛)	平瓶	須衛後半	-	-	(3.7)	格子目タタキ	回転ナデ		5003
496	SS2	B1	F12 No.9	中国産磁器	白磁碗	E類(12c前～中)	(16.0)	-	(3.6)	施釉	施釉	玉縁碗	5002
497	SS2	F1	SD11 No.122	山茶碗(南部系)	碗	4型式	(17.4)	(9.0)	5.2	回転ナデ	回転ナデ		5122
498	SS2	F1	SD11 No.118	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	(6.0)	-	回転ナデ	回転ナデ		5118
499	SS2	F1	SD11	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	(7.0)	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ		35
500	SS2	F1	SD11	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	(8.0)	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ		35
501	SS2	F1	SD11 No.120	山茶碗(南部系)	皿	5型式	8.2	4.2	2.0	回転ナデ	回転ナデ		5120
502	SS2	F1	SD11	陶器(瀬戸美濃)	広錆耳	古瀬戸後IV期古	(9.8)	-	(1.0)	鉄釉	鉄釉		35
503	SS2	F1	SD11	土師器	皿	B4	(8.0)	(5.0)	(2.0)	横ナデ	横ナデ		34
504	SS2	F1	SD11 No.117	土師器(ロクロ土師器)	椀	東山72～山茶碗4期併行	-	(9.5)	-	回転ナデ	回転ナデ	底部糸切、高台低分厚	5117
505	SS2	F1	SD11	土製品	土錘	-	長4.7	幅2.1	厚2.0	-	-		39
506	SS2	F1	SD11	土製品	土錘	-	長4.7	幅2.0	厚2.0	-	-		35
507	SS2	F1	SD11	土製品	土錘	-	長5.2	幅1.9	厚1.9	-	-		36
508	SS2	F1	SD11 No.119	須恵器?	鍋	-	(23.0)	-	(2.5)	ナデ	ナデ	生焼け	5119
509	SS2	F1	SD11	須恵器(北部伊勢?)	壺	?	-	-	(7.0)	櫛描文	回転ナデ		35
510	SS2	F1	P24	山茶碗(南部系)	碗	5型式	(16.0)	-	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ		264
511	SS2	F1	P31	山茶碗(南部系)	碗	4型式	-	(9.0)	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ		267
512	SS2	F1	P41 No.45	陶器(瀬戸美濃)	内耳鍋	古瀬戸後I～IV期	-	(12.2)	-	鉄釉	鉄釉	被熱受ける	5045
513	SY02	A2	SD12 No.14	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	高台径(6.2)	(1.3) 高台高0.5	回転ナデ	回転ナデ	内面底部重ね焼き痕	5014
514	SS2	A2	SD01 No.65	中国産磁器	青磁皿	龍泉窯第16c	(13.3)	高台径(7.8)	2.9	施釉	施釉		5065
515	SS2	A2	SD01	陶器(瀬戸美濃)	鉄釉小皿	古瀬戸後IV期古	(10.0)	-	(1.0)	灰釉	灰釉		1
516	SS2	A2	SD01	陶器(瀬戸美濃)	鎧折皿	古瀬戸後IV期新	-	-	(0.9)	灰釉	灰釉		1
517	SS2	A2	SD01	陶器(瀬戸美濃)	鎧折皿	古瀬戸後IV期新	(11.0)	-	(1.0)	灰釉	灰釉		2
518	SS2	A2	SD01	陶器(瀬戸美濃)	鉄釉	古瀬戸後IV期新	-	-	(2.5)	鉄釉	鉄釉		1
519	SS2	A2	SD01	土師器	皿	B2-a	(10.0)	-	(1.6)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2
520	SS2	A2	SD01	土師器	皿	B2-b	(12.0)	-	(2.3)	指オサエ	横ナデ		1
521	SS2	A2	SD01 下層	土師器	皿	B2-b	13.1	-	2.1	指オサエ	横ナデ		4
522	SS2	A2	SD01	土師器	皿	B2-b	(13.2)	-	(1.9)	指オサエ	横ナデ		1
523	SS2	A2	SD01	土師器	皿	C2	(7.1)	-	(1.8)	指オサエ	一方向ナデ		1
524	SS2	A2	SD01	土製品	土玉	-	長(2.3)	-	-	-	-		1
525	SS2	A2	SD01	石製品	碁石?	-	長1.4	幅2.4	厚0.65	-	-	粘板岩	2
526	SS2	A2	SD02 下層	中国産磁器	白磁	V類	-	-	(1.5)	施釉	施釉		24
527	SS2	A2	SD02 下層	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	(11.0)	-	(3.2)	鉄釉	鉄釉		19
528	SS2	A2	SD02 下層	陶器(瀬戸美濃)	鉄釉	古瀬戸後IV期新	-	-	(4.6)	鉄釉	鉄釉		19
529	SS2	A2	SD02 No.19	陶器(瀬戸美濃)	鉄釉	古瀬戸後IV期新	(28.0)	-	(1.8)	鉄釉	鉄釉		5019
530	SS2	A2	SD02 下層	陶器(瀬戸美濃)	鉄釉	古瀬戸後IV期新	(30.4)	-	(4.8)	鉄釉	鉄釉	加日は本	14
531	SS2	A2	SD02 下層	陶器(瀬戸美濃)	鉄釉	古瀬戸後IV期新	(30.0)	-	(7.1)	鉄釉	鉄釉		19
532	SS2	A2	SD02 下層	陶器(瀬戸美濃)	鉄釉	大窯第1段階	(32.2)	-	(5.2)	鉄釉	鉄釉	加日は本	14
533	SS2	A2	SD02 下層	陶器(瀬戸美濃)	口縁有耳壺	大窯第1段階	(14.3)	-	(4.2)	鉄釉	鉄釉		14
534	SS2	A2	SD02 下層	石製品	硯	-	縦(6.5)	横(5.4)	厚(0.9)	-	-	粘板岩	10
535	SS2	A2	SD02 下層	木製品	陣取帽	-	-	-	(3.2)	-	-	高台不明、朱線で「丸に鶴」紋か、トチノキ	260
536	SS2	A2	SD02 下層	土師器	皿	B2-a	(12.0)	-	(2.0)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		14
537	SS2	A2	SD02 下層	土師器	皿	B2-b	12.0	-	2.1	指オサエ	横ナデ		14
538	SS2	A2	SD02 下層	土師器	皿	C2	7.4	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		21
539	SS2	A2	SD02 下層	土師器	皿	C2	7.6	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		23
540	SS2	A2	SD02 下層	土師器	皿	C2	7.2	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		21
541	SS2	A2	SD02 下層	土師器	皿	C2	7.7	-	1.7	指オサエ	一方向ナデ		21
542	SS2	A2	SD02 下層	土師器	皿	B2-b	12.6	-	2.1	指オサエ	横ナデ	ヘラ(調整具か?)記号有	14
543	SS2	A2	SD02 下層	土師器	皿	B2-b	12.4	-	2.1	指オサエ	横ナデ	ヘラ(調整具か?)記号有	14
544	SS2	A2	SD02 下層	土師器	皿	B2-b	(12.0)	-	(2.3)	指オサエ	横ナデ	黒斑有、内面「黒一人」「加印」、外面判読不明	14

第10表　遺物観察表（7）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・遺名等	種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	図版No.
545	SS2	A3	SD02 下層	須恵器(須恵器)	杯蓋	V期第1小期	(16.4)	-	(1.4)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		18
546	SS2	A3	SD02 上層	中国出土陶器	青磁碗	同安窯第I類	-	-	(1.3)	線文	線文		8
547	SS2	A3	SD02 上層	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	(10.4)	-	(3.0)	鉄釉	鉄釉		7
548	SS2	A3	SD02 上層	陶器(瀬戸美濃)	鉢(反皿	大窯第1段階	(11.1)	-	(3.1)	灰釉	灰釉		8
549	SS2	A3	SD02 上層	土師器	皿	B1	-	-	(2.2)	横ナデ	横ナデ		7
550	SS2	A3	SD02 上層	石製品	ふいご	-	長(3.8)	幅(3.6)	厚(2.2)	-	-	朝鮮、鞴羽付著	6
551	SS2	A3	SD02 上層	縄文土器	深鉢	五倉曲式	-	-	(2.6)	縄文(F字状)施	横ナデ		22
552	SS2	A3	SD02 上層	須恵器(美濃須恵)	杯蓋	V期第1小期	-	-	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ		7
553	SS2	A3	SD02 上層	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後IV期古	-	-	(1.5)	灰釉	灰釉		7
554	SS2	A3	SD02 上層	陶器(瀬戸美濃)	折縁中皿	古瀬戸後IV期古	-	-	(1.0)	灰釉	灰釉		7
555	SS2	A3	SD02 上層	陶器(瀬戸美濃)	輪花皿	古瀬戸後IV期新	-	-	(1.5)	灰釉	灰釉		7
556	SS2	A3	SD02 No.27	陶器(瀬戸美濃)	把手付鉢	古瀬戸後IV期古	(27.2)	-	(16.9)	鉄釉	鉄釉		5027
557	SS2	A3	SD02 上層	土師器	内耳鍋	15c末～16c前半(I-1～2期)	-	-	(3.4)	横ナデ	横ハケ	外面煤付著	8
558	SS2	A2	SD02 上層	山茶碗(北部系)	椀	生田2号窯式期	(8.6)	3.4	(4.1)	回転ナデ	回転ナデ		13
559	SS2	A2	SD02	山茶碗(北部系)	鉢	生田2号窯式期	-	(4.0)	(1.1)	回転ナデ	回転ナデ		9
560	SS2	A3	SD02 サブトレ	陶器(瀬戸美濃)	鉢蓋	古瀬戸後IV期古	-	-	(1.7)	灰釉	灰釉		17
561	SS2	A2	SD02 No.26	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後IV期新	(9.4)	-	(1.8)	灰釉	灰釉	二次焼熱	5026
562	SS2	A2	SD02	陶器(瀬戸美濃)	燈籠	古瀬戸後IV期新	-	-	(2.8)	鉄釉	鉄釉		8
563	SS2	A2	SD02 No.30	陶器(瀬戸美濃)	燈籠	古瀬戸後IV期古	-	-	(5.0)	鉄釉	鉄釉		5028
564	SS2	A2	SD02 No.3	陶器(瀬戸美濃)	燈籠	古瀬戸後IV期新	(9.7)	-	(6.1)	鉄釉	鉄釉		5002
565	SS2	A2	SD02 No.22	陶器(瀬戸美濃)	燈籠	古瀬戸後IV期新～大窯第1段階	(9.6)	-	(6.7)	鉄釉	鉄釉	脚目16本、8方向か？	5022
566	SS2	A2	SD02 No.19	陶器(瀬戸美濃)	口広有耳壺	古瀬戸後IV期新	31.0	-	-	鉄釉	鉄釉	トチン底外面3ヶ所、内面4ヶ所	5019
567	SS2	A3	SD02	瓦質土器	鍋足	-	-	-	(4.8)	ミガキ	横ナデ		22
568	SS2	A2	SD02 No.21	瓦質土器	火鉢	-	(24.4)	-	(8.0)	ミガキ	ヘラナデ?		5021
569	SS2	A3	SD02	土師器	皿	B1	(14.0)	(7.1)	(2.5)	指オサエ	横ナデ		34
570	SS2	A3	SD02 No.27	土師器	皿	B1	14.7	-	2.3	指オサエ	横ナデ		5027
571	SS2	A3	SD02 No.23	土師器	皿	B1	15.4	-	2.2	横ナデ	横ナデ		5023
572	SS2	A3	SD02 No.38	土師器	皿	B2-a	12.3	-	2.3	横ナデ、指オサエ	横ナデ		5038
573	SS2	A3	SD02 No.29	土師器	皿	B2-b	12.4	-	2.2	指オサエ	横ナデ		5029
574	SS2	A2	SD02 No.32	土師器	皿	C2	7.8	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		5032
575	SS2	A3	SD02 No.32	土師器	皿	C2	7.7	-	1.8	指オサエ	一方向ナデ		5032
576	SS2	A3	SD02 No.66	土師器	皿	C2	7.7	-	1.6	指オサエ	一方向ナデ		5066
577	SS2	A3	SD02 No.68	土師器	皿	C2	7.8	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		5068
578	SS2	A3	SD02	土師器	内耳鍋	15c末～16c前半(I-1～2期)	-	-	(3.3)	横ナデ	横ナデ	外面煤付著	22
579	SS2	A3	SD02	近世陶器(瀬戸)	丸鍋	3～4小期	-	-	(2.6)	鉄釉	鉄釉		11
580	SS2	A2	SD02 No.36	木製品	折敷	-	長(8.4)	幅6.5	厚0.8	-	-	穿孔有、ヒノキ	5036
581	SS2	A3	SD02 No.35	木製品	箸?	-	長4.1	幅4.1	厚1.6	-	-	ヒノキ	5035
582	SS2	A2	SD02 No.33	石製品	砥石	-	長13.2	幅8.5	厚3.5	-	-	砥石	5033
583	SS2	A1	SD14 No.28	土師器	皿	B1	14.8	-	2.8	横ナデ	横ナデ		5028
584	SS2	A1	SD14 No.31	土師器	皿	B1	14.7	-	2.2	横ナデ、指オサエ	横ナデ		5031
585	SS2	A1	SD14 No.31	土師器	皿	B1	(14.0)	-	(2.2)	横ナデ	横ナデ		5031
586	SS2	A1	SD14 下層	土師器	皿	B1	14.4	-	2.4	横ナデ	横ナデ		38
587	SS2	A1	SD14 No.31	土師器	皿	B1	(15.6)	-	(2.8)	横ナデ	横ナデ		5031
588	SS2	A1	SD14 確認面別	土師器	皿	B1?	12.0	-	2.0	指オサエ	横ナデ		43
589	SS2	A1	SD14 No.23	土師器	皿	B2-a	(15.4)	-	(3.7)	横ナデ、指オサエ	横ナデ	内外面タール付著	2004-2
590	SS2	A1	SD14 No.30	土師器	皿	B2-a	16.1	-	1.8	横ナデ、指オサエ	横ナデ		5030
591	SS2	A1	SD14 確認面別	土師器	皿	B2-a	12.5	-	2.4	横ナデ、指オサエ	横ナデ	内面・底部タール付著	43
592	SS2	A1	SD14 確認面別	土師器	皿	B2-b	16.5	-	2.1	指オサエ	横ナデ		43
593	SS2	A1	SD14 下層	土師器	皿	B2-b	12.0	-	2.3	指オサエ	横ナデ		40
594	SS2	A1	SD14 No.35	土師器	皿	B2-b	12.8	-	2.4	横ナデ、指オサエ	横ナデ		5035・049・058
595	SS2	A1	SD14 (No.3)	土師器	皿	B2-b	8.6	-	2.0	指オサエ	横ナデ	内外面タール付著	2004-3
596	SS2	A1	SD14 No.49	土師器	皿	C2	7.4	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ	内面タール付著	5049
597	SS2	A1	SD14 No.56	土師器	皿	C2	7.7	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ	内面タール付著	5056
598	SS2	A1	SD14 No.51	土師器	皿	C2	7.8	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ	内面タール付著	5051
599	SS2	A1	SD14 下層	土師器	皿	C2	7.5	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ	内面タール付著	40
600	SS2	A1	SD14 確認面別	土師器	皿	C2	7.4	-	1.5	指オサエ	一方向ナデ		43
601	SS2	A1	SD14 No.42	土師器	皿	C2	7.5	-	1.5	指オサエ	一方向ナデ	調整痕？有	5042
602	SS2	A1	SD14 (No.1)	瓦質土器	火鉢	-	-	-	(9.3)	ミガキ	ナデ	底部人為的な打ち欠き	2004-1
603	SS2	A1	SD14 No.48	木製品	修羅板	-	9.0	高台幅6.0	0.8 2.9高台高	無疵	無疵	高台低い、無疵で墨花紋、トチノキ	5048
604	SS2	A1	SD14 No.22	木製品	修羅板	-	(13.5)	-	(4.6)	無疵	無疵	高台不明、無疵で墨花紋、トチノキ	5032
605	SS2	A1	SD14	木製品	箸	-	長24.7	幅0.5	厚0.2	-	-	ヒノキ	279
606	SS2	A1	SD14	木製品	箸	-	長(24.8)	幅0.6	厚0.6	-	-	ヒノキ	280
607	SS2	A1	SD14 No.43	木製品	将棋駒	-	長2.1	幅1.7～2.2	厚0.8～0.5	-	-	墨書「玉将」、上部・右側面に墨点4ヶ所有、ヒノキ科アスナロ属	5043
608	SS2	A1	SD14 No.33	木製品	端材?	-	長9.7	幅1.3	厚1.4	-	-	残り2ヶ所有、アカマツ	5033
609	SS2	A1	SD14 No.57	木製品	折敷	-	長9.4	幅3.9	厚0.1	-	-	ヒノキ	5057
610	SS2	A1	SD14 No.59	木製品	折敷	-	長(16.6)	幅4.1	厚0.2	-	-	ヒノキ	5058
611	SS2	A1	SD15 No.126	陶器(瀬戸美濃)	燈籠	大窯第1段階	-	-	(2.6)	鉄釉	鉄釉		5126
612	SS2	A1	SD15 No.146	土師器	皿	C2	7.5	-	1.5	指オサエ	不明瞭(一方向ナデ)		5146
613	SS2	A1	SD15 No.101	木製品	箸	-	長(19.8)	幅0.7	厚0.4	-	-	サワラ	5101
614	SS2	A1	SD15 No.97	木製品	柄内底板	-	長3.6	幅4.6	厚0.4	-	-	ヒノキ	5097
615	SS2	A1	SD15 No.99	木製品	柄内底板	-	長5.2	幅5.4	厚0.4	-	-	ヒノキ	5099
616	SS2	A4	SD26 下層	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	(11.6)	-	(3.0)	鉄釉	鉄釉		60
617	SS2	A4	SD26 下層	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後IV期新	(9.0)	-	(2.4)	灰釉	灰釉	タール付著	60
618	SS2	A4	SD26 No.16	陶器(瀬戸美濃)	燈籠	古瀬戸後IV期新	-	(9.2)	-	鉄釉	鉄釉		5016
619	SS2	A4	SD26 No.49	陶器(瀬戸美濃)	燈籠	古瀬戸後IV期新	-	(10.0)	-	鉄釉	鉄釉	脚目16本、6方向か？	5049
620	SS2	A4	SD26 下層	陶器(瀬戸美濃)	瓶子	古瀬戸後IV期	-	-	(3.7)	灰釉	露胎	3本の沈線	59
621	SS2	A4	SD26 No.50	土師器	皿	B2-a	12.5	-	2.1	指オサエ	横ナデ		5050
622	SS2	A4	SD26 No.48	土師器	皿	B2-a	11.9	-	2.4	指オサエ	横ナデ		5048
623	SS2	A4	SD26 下層	土師器	皿	B2-a	(17.0)	-	(2.1)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		60
624	SS2	A4	SD26 No.59	土師器	皿	B2-a	15.8	-	2.8	横ナデ、指オサエ	横ナデ		5059
625	SS2	A4	SD26 下層	土師器	皿	B2-a	(16.5)	-	(2.4)	横ナデ、指オサエ	横ナデ2段	タール付著	64
626	SS2	A4	SD26 No.46	土師器	皿	B2-b	9.9	-	1.7	指オサエ	横ナデ		5046
627	SS2	A4	SD26 No.55	土師器	皿	B2-b	10.6	-	2.3	指オサエ	横ナデ	タール付著	5055
628	SS2	A4	SD26 No.47	土師器	皿	B2-b	11.8	-	2.2	指オサエ	横ナデ		5047
629	SS2	A4	SD26 No.56	土師器	皿	B2-b	9.9	-	1.8	指オサエ	横ナデ	タール付著	5056
630	SS2	A4	SD26 No.54	土師器	皿	C2	7.4	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		5054
631	SS2	A4	SD26 No.53	土師器	皿	C2	7.3	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		5053

第11表　遺物観察表（8）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名-層位等		種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
632	SS2	A4	SD26	No. 67	土師器	皿	C2	8.0	-	1.5	指オサエ	一方向ナデ		S067
633	SS2	A4	SD26		須恵器(流入須恵器)	鉢	Ⅱ期後半	-	(5.6)	(3.2)	回転ナデ、回転削り	回転ナデ	ヘラ記号有	68
634	SS2	A4	SD26		灰釉陶器(尾張)	椀	折戸付属	黒笹90号窯式期(Ⅵ期中)	-	(12.2)	(3.3)	施釉、沈線	露胎	68
635	SS2	A4	SD26		陶器(瀬戸美濃)	丸皿	古瀬戸後Ⅳ期新	-	高台径4.8	-	灰釉	露胎	68
636	SS2	A4	SD26	上層	近世陶磁	色絵小杯	-	-	-	(1.2)	文様	唐草文、淡彩	65
637	SS2	A4	SD26		陶器(瀬戸美濃)	志野丸皿	大窯第4段階後半	(11.6)	-	(2.3)	施釉	施釉	69
638	SS2	A4	SD26		木製品	折敷	-	長13.0	幅2.8	厚0.2	-	-	底丸方形、ヒノキ	259
639	SS2	A4	SD26	No. 53	木製品	曲物	-	(14.6)	-	(6.7)	-	-	側板・底板ヒノキ、水釘クケ金具	S053
640	SS2	A2	SD03		土師器	皿	B2-b	-	-	(2.2)	未調整	横ナデ		17
641	SS2	A2	SD03		山茶碗(東部系)	皿	5型式?	-	-	(1.0)	回転ナデ	回転ナデ		17
642	SS2	A2	SD04		土師器	皿	B2-a	-	-	(2.2)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		18
643	SS2	A2	SD04		土師器	皿	B2-a	-	-	(2.0)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		18
644	SS2	A2	SD04		土師器	皿	B2-b	-	-	(1.9)	指オサエ	横ナデ	タール付着	19
645	SS2	A3	SD08		陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期古	(12.0)	-	(3.5)	鉄釉	鉄釉		27
646	SS2	A2	SD08	上層	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	(10.4)	-	(3.8)	鉄釉	鉄釉		23
647	SS2	A3	SD08	上層	陶器(瀬戸美濃)	徳利	古瀬戸後Ⅳ期新	(22.0)	-	(1.5)	緑釉	緑釉		33
648	SS2	A3	SD08	上層	山茶碗(北部系)	碗	生田2号窯式期	(10.0)	-	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ		35
649	SS2	A2	SD08	No. 121	土師器	皿	B1?	11.6	-	2.2	指オサエ	横ナデ		S121
650	SS2	A2	SD08	No. 120	土師器	皿	B2-a	(15.0)	-	(2.3)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		S120
651	SS2	A2	SD08		土師器	皿	B2-b	(11.0)	-	(2.1)	指オサエ	横ナデ		27
652	SS2	A2	SD08	No. 104	土師器	皿	B2-b	12.1	-	2.2	指オサエ	横ナデ		S104
653	SS2	A3	SD08		瓦質土器	風炉	?	-	-	(5.0)	ミガキ	横ナデ		34
654	SS2	A3	SD08	上層	土製品	土鈴	-	-	最大径(3.6)	(2.5)	-	-		29
655	SS2	A3	SD28		中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系16c	-	-	(2.0)	鎬状連弁文	施釉		74
656	SS2	A3	SD28		山茶碗(北部系)	碗	生田2号窯式期	-	-	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ		74
657	SS2	A3	SD28		陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期古	(9.2)	-	(1.5)	灰釉	灰釉		74
658	SS2	A3	SD28		陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新～大窯第1段階	-	(12.6)	(4.8)	緑釉	緑釉	櫛目15本、6方向	73
659	SS2	A3	SD28		陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	-	-	(1.9)	緑釉	緑釉		76
660	SS2	A3	SD28	No. 89	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	(13.9)	9.2	-	緑釉	緑釉	櫛目9本、12方向か?	S083
661	SS2	A3	SD28	No. 88	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	32.0	-	-	緑釉	緑釉	櫛目15本、6方向か?	S088
662	SS2	A3	SD28	No. 63	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新～大窯第1段階	-	-	(6.8)	緑釉	緑釉	櫛目15本、6方向か?	S063
663	SS2	A3	SD28	下層	陶器(瀬戸美濃)	茶入?	古瀬戸後Ⅳ期	-	-	(1.5)	鉄釉	鉄釉	内外面鉄釉後に内面鉄釉?	73
664	SS2	A3	SD28	北半	瓦質土器	火鉢	?	-	-	(4.0)	雲文	横ナデ	雲文スタンプ	73
665	SS2	A3	SD28	上層	石製品	砥石	-	長4.2	幅3.4	厚0.4	-	-	既欠	86
666	SS2	A3	SD28	No. 87	土師器	皿	B2-a	13.0	-	2.6	指オサエ	横ナデ		S087
667	SS2	A3	SD28	No. 61	土師器	皿	B2-a	12.2	-	2.2	横ナデ、指オサエ	横ナデ		S061
668	SS2	A3	SD28	No. 81	土師器	皿	B2-a	13.2	-	2.3	横ナデ、指オサエ	横ナデ		S081
669	SS2	A3	SD28		土師器	皿	B2-a	19.6	-	2.7	横ナデ、指オサエ	横ナデ		73
670	SS2	A3	SD28		土師器	皿	B2-a	9.6	-	1.65	指オサエ	横ナデ		74
671	SS2	A3	SD28	No. 80	土師器	皿	B2-b	9.7	-	1.7	指オサエ	横ナデ		S080
672	SS2	A3	SD28		土師器	皿	B2-b	(9.3)	-	1.75	指オサエ	横ナデ		74
673	SS2	A3	SD28	No. 72	土師器	皿	B2-b	10.5	-	2.0	指オサエ	横ナデ		S072
674	SS2	A3	SD28		土師器	皿	B2-b	(12.0)	-	(2.1)	指オサエ	横ナデ		74
675	SS2	A3	SD28	No. 62	土師器	皿	B2-b	12.6	-	2.0	指オサエ	横ナデ		S062
676	SS2	A3	SD28		土師器	皿	B2-b	(13.0)	-	(2.2)	指オサエ	横ナデ		74
677	SS2	A3	SD28	No. 84	土師器	皿	B2-b	13.3	-	2.6	横ナデ、指オサエ	横ナデ	タール付着	S084
678	SS2	A3	SD28		土師器	皿	C2	7.6	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		76
679	SS2	A3	SD28		土師器	皿	C3	7.1	-	2.0	指オサエ	一方向ナデ	タール付着	74
680	SS2	A3	SD28		須恵器(美濃須恵)	杯蓋	Ⅴ期第1小期	-	-	(0.9)	回転ナデ	回転ナデ		76
681	SS2	A3	SD28		灰釉陶器(尾張)	椀	折戸63号窯式期(Ⅵ期古)	-	-	(1.7)	施釉	施釉		78
682	SS2	A3	SD30		陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	(25.0)	-	(3.6)	緑釉	緑釉		91
683	SS2	A3	SD30		土師器	皿	B2-a	10.2	-	1.9	横ナデ、指オサエ	横ナデ		91
684	SS2	A3	SD30	No. 84	土師器	皿	C2	7.4	-	1.1	指オサエ	一方向ナデ		S084
685	SS2	A4	SD22	No. 14	土師器	皿	B2-a	(12.1)	-	(2.3)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		S014
686	SS2	A4	SD22		土師器	皿	B2-a	(16.0)	-	(2.2)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		49
687	SS2	A4	SD22	No. 95	土師器	皿	B2-a	(15.6)	-	(2.5)	横ナデ	横ナデ		S095
688	SS2	A4	SD22	No. 13	土師器	皿	B2-b	(12.6)	-	(1.9)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		S013
689	SS2	A4	SD22	No. 94	土師器	皿	B2-b	(12.0)	-	(2.0)	指オサエ	横ナデ	タール付着	S094
690	SS2	A4	SD22		土師器	皿	B2-b	(12.0)	-	(2.0)	指オサエ	横ナデ		45
691	SS2	A3	SD22	No. 76	土師器	皿	C2	(7.5)	-	(1.2)	指オサエ	一方向ナデ		S076
692	SS2	A2	SK07	上層	中国産磁器	白磁碗	Ⅴ類	-	-	(0.9)	施釉	施釉		64
693	SS2	A2	SK07	上層	陶器(瀬戸美濃)	平碗	大窯第1段階	(16.0)	-	(2.9)	鉄釉	鉄釉		54
694	SS2	A2	SK07	No. 148	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新～大窯第1段階	(8.8)	-	(2.0)	緑釉	緑釉	櫛目15本、6方向か?	S148
695	SS2	A2	SK07		土師器	皿	A3	-	-	(2.2)	回転ナデ	-		74
696	SS2	A2	SK07	No. 133	土師器	皿	B2-a	15.9	-	2.4	横ナデ、指オサエ	横ナデ	墨書痕?	S131
697	SS2	A2	SK07	No. 150	土師器	皿	B2-a	15.7	-	2.5	横ナデ、指オサエ	横ナデ		S150
698	SS2	A2	SK07	No. 158	土師器	皿	B2-a	(12.6)	-	(2.2)	指オサエ	横ナデ		S158
699	SS2	A2	SK07	No. 161	土師器	皿	B2-a?	9.8	-	1.4	横ナデ、指オサエ	横ナデ	横ナデ不明瞭	S161
700	SS2	A2	SK07	No. 129	土師器	皿	B2-b	9.8	-	1.9	指オサエ	横ナデ		S129
701	SS2	A2	SK07	No. 130	土師器	皿	B2-b	12.7	-	2.5	指オサエ	横ナデ		S130
702	SS2	A2	SK07	上層	土師器	皿	B2-b	(10.4)	-	(1.6)	指オサエ	不明瞭(横ナデ)	タール付着	64
703	SS2	A2	SK07		土師器	皿	B2-b	(9.5)	-	(1.9)	未調整	横ナデ	タール付着	74
704	SS2	A2	SK07	No. 157	土師器	皿	C2	6.9	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		S157
705	SS2	A2	SK07	No. 156	土師器	皿	C2	7.4	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		S156
706	SS2	A2	SK07	No. 162	土師器	皿	C2	7.8	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		S162
707	SS2	A2	SK07	No. 129	土師器	皿	C2	7.7	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		S129
708	SS2	A2	SK07	No. 150	土師器	皿	C2	7.6	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ	タール付着	S150
709	SS2	A2	SK07		土師器	伊勢型鍋	第1段階b型式	-	-	(1.2)	横ナデ	横ナデ	外面煤付着	74
710	SS2	A1	SK07	No. 1	土製品	犬形土製品	-	長5.1	幅3.3	高4.4	ナデ、尻尾貼り付け	-	手づくね	S001
711	SS2	A2	SK07	No. 164	土製品	土鈴	-	長4.1	幅3.1	厚(3.1)	-	-		S164
712	SS2	A2	SK07	No. 163	土製品	土鈴	-	長4.8	幅1.3	厚1.2	-	-		S163
713	SS2	A1	SX01	(No. 26)	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系16c	-	高台径5.6	(5.0)高台高1.5	施釉	施釉	高台内面施釉後掻き取り	Z005-26
714	SS2	A1	SX01	(No. 9)	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	-	-	(1.9)	鉄釉	鉄釉		Z005-9
715	SS2	A1	SX01	(No. 6)	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	-	-	(4.3)	緑釉	緑釉		Z005-6
716	SS2	A1	SX01	(No. 27)	土師器	皿	B2-a	16.2	-	2.6	横ナデ、指オサエ	横ナデ		Z005-27
717	SS2	A1	SX01	(No. 23)	土師器	皿	B2-b	12.4	-	2.1	指オサエ	横ナデ		Z005-23
718	SS2	A1	SX01	(No. 16)	土師器	皿	C2	8.0	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		Z005-16
719	SS2	A1	SX01	(No. 4)	山茶碗(北部系)	碗	絵之島3号窯式期	(10.4)	(4.3)	2.3	回転ナデ	回転ナデ		Z005-4
720	SS2	A1	SX01	(No. 30)	陶器(瀬戸美濃)	平碗	古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期	(14.2)	-	(1.9)	鉄釉	鉄釉		Z005-30

第12表　遺物観察表（9）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等	種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	註記No.
T21	SS2	A1	SK12	土師器	鉢	B2-b	-	-	(1.5)	指オサエ	横ナデ		81
T22	SS2	A1	SK12	石製品	有茎五角形鏃	-	長(2.5)	幅1.8	厚0.45	-	-	チャート	80
T23	SS2	A3	SK13	陶器(瀬戸美濃)	徳利	古瀬戸後IV期新	(23.0)	-	(4.8)	鉄釉	鉄釉		107
T24	SS2	A2	SK15 (No. A)	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	-	-	(2.7)	鉄釉	鉄釉		Z001-8
T25	SS2	A2	SK15	陶器(瀬戸美濃)	徳利	古瀬戸後IV期新	(25.8)	-	(3.3)	鉄釉	鉄釉		90-92
T26	SS2	A2	SK15 No. 163	土師器	皿	B1	10.5	-	2.2	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		S163
T27	SS2	A2	SK15 No. 163	土師器	皿	B1	(10.6)	-	(2.2)	横ナデ	横ナデ		S163
T28	SS2	A2	SK15 No. 163	土師器	皿	B1	10.1	-	2.3	横ナデ	横ナデ		S163
T29	SS2	A2	SK15 No. 163	土師器	皿	B1	(12.6)	-	(2.0)	横ナデ	横ナデ		S163
T30	SS2	A2	SK15	土師器	皿	B1	12.1	7.9	2.0	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		151
T31	SS2	A3	SK15	土師器	皿	B1	12.9	7.4	2.1	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		157
T32	SS2	A3	SK15	土師器	皿	B1	(14.2)	-	(2.4)	横ナデ	横ナデ		85
T33	SS2	A3	SK15 No. 79	土師器	皿	B2-a	9.9	-	1.9	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		S079
T34	SS2	A2	SK15 (No. 15)	土師器	皿	B2-a	12.5	-	2.3	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		Z002-18
T35	SS3	A3	SK15	土師器	皿	B2-b	9.8	5.4	2.1	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		158
T36	SS2	A2	SK15 No. 163	土師器	皿	B2-b	(9.6)	-	(2.0)	指オサエ	横ナデ		S163
T37	SS2	A2	SK15 (No. 7)	土師器	皿	B2-b	12.4	-	1.9	指オサエ	横ナデ		Z001-7
T38	SS2	A2	SK15 (No. 34)	土師器	皿	B2-b	(12.6)	-	(1.9)	未調整	横ナデ	タール付着	Z001-34
T39	SS2	A2	SK15 (No. 36)	土師器	皿	B2-b	(13.6)	-	(2.0)	指オサエ	横ナデ		Z001-36
T40	SS2	A2	SK15 (No. 25)	土師器	皿	B2-b	9.9	-	1.7	指オサエ	横ナデ	タール付着	Z001-25
T41	SS2	A3	SK15 (No. 10)	土師器	鉢	C2	7.5	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ	タール付着	Z001-10
T42	SS2	A2	SK16 (No. 2)	土師器	鉢	C2	7.5	-	1.5	指オサエ	一方向ナデ		Z001-2
T43	SS2	A1	SK23	土師器	皿	C2	(7.0)	-	(1.7)	指オサエ	一方向ナデ	タール付着	91
T44	SS2	A1	SK23	土師器	皿	B2-b	(12.2)	-	(1.9)	指オサエ	横ナデ		92
T45	SS2	A4	SK32	土師器	皿	B2-a	(13.0)	-	(2.1)	指オサエ	横ナデ		98
T46	SS2	A4	SK32	土師器	鉢	C2	(8.0)	-	(1.3)	指オサエ	一方向ナデ		89
T47	SS2	A3	SK35 No. 88	鉄製品	角釘?	-	7.5	幅0.9	厚0.8	-	-	リング状	S088
T48	SS2	A3	SK37 (No. 22)	土師器	皿	B2-a	16.4	-	2.4	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		Z001-22等
T49	SS2	A3	SK37 (No. 31)	土師器	皿	B2-a	12.4	-	2.1	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		Z001-31
T50	SS2	A3	SK37 (No. 1, No. 20)	土師器	皿	B2-a	14.2	-	2.85	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		Z001-1-20
T51	SS2	A3	SK37 (No. 2)	土師器	皿	B2-a	(13.4)	-	2.2	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		Z001-2
T52	SS2	A3	SK37 (No. 28)	土師器	皿	B2-a	15.3	-	2.8	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		Z001-28
T53	SS2	A3	SK37 (No. 9)	土師器	皿	B2-a	15.3	-	2.4	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		Z001-9
T54	SS2	A3	SK37 (No. 19)	土師器	皿	B2-a	12.8	-	2.5	指オサエ	横ナデ		Z001-19
T55	SS2	A3	SK37 (No. 16)	土師器	皿	B2-b	16.0	-	1.65	指オサエ	横ナデ		Z001-13+16
T56	SS2	A3	SK37 (No. 3, 4)	土師器	皿	B2-b	15.0	-	2.3	指オサエ	横ナデ		Z001-3~4
T57	SS2	A3	SK37 (No. 10)	土師器	皿	B2-b	13.0	-	2.2	指オサエ	横ナデ		Z001-10
T58	SS3	A3	SK37 (No. 6)	土師器	皿	B2-b	12.8	-	2.45	指オサエ	横ナデ		188
T59	SS2	A3	SK37 (No. 14)	土師器	皿	B2-b	13.4	-	2.2	指オサエ	横ナデ	タール付着	Z001-14等
T60	SS2	A3	SK37 (No. 5)	土師器	鉢	C2	(7.2)	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		Z001-5
T61	SS2	A3	SK37 (No. 23)	土師器	鉢	C2	7.4	-	1.35	指オサエ	一方向ナデ		Z001-23
T62	SS2	A1	SX06	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	-	-	(1.9)	鉄釉	鉄釉		197
T63	SS2	A1	SX06 No. 116	陶器(瀬戸美濃)	平碗	古瀬戸後IV期新	-	-	(2.0)	鉄釉	鉄釉		S116
T64	SS2	A1	SX06 No. 116	陶器(瀬戸美濃)	徳利	大窯第1段階	(33.0)	(9.1)	10.4	緑釉	緑釉	胎目15本, 8方向か	S116
T65	SS2	A1	SX06 No. 113	土師器	皿	B2-a	(12.4)	-	(2.5)	指オサエ	横ナデ		S113
T66	SS2	A1	SX06 No. 116	土師器	皿	B2-b	9.5	-	1.6	指オサエ	横ナデ		S116
T67	SS2	A1	SX06 下層	土師器	皿	B2-b	(10.2)	-	(1.7)	指オサエ	横ナデ	タール付着	191
T68	SS2	A1	SX06 下層	石製品	砥石	-	長1.7	幅1.2	厚0.4	-	-	荒砥	187
T69	SS2	A1	SX09	山茶碗(北部系)	碗	生田3号窯式期	-	-	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ		200
T70	SS2	A1	SX21	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	-	-	(2.3)	鉄釉	鉄釉		160
T71	SS2	A2	SX21	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	-	-	(2.4)	鉄釉	鉄釉		170
T72	SS2	A2	SX21	山茶碗(北部系)	碗	生田3号窯式期	-	(4.4)	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ		159
T73	SS2	A3	SX21	土師器	皿	B2-a	(12.0)	-	(2.0)	指オサエ	横ナデ	タール付着	166
T74	SS2	A3	SX21	土師器	皿	B2-b	(9.4)	-	(2.0)	指オサエ	横ナデ	タール付着	171
T75	SS2	A3	SX21	土師器	鉢	B2-b	10.9	-	1.75	指オサエ	横ナデ	タール付着	169+171+174
T76	SS2	A3	SX21	土師器	皿	B2-b	(10.9)	(4.5)	1.65	指オサエ	横ナデ		165
T77	SS2	A3	SX21	土師器	皿	C2	7.5	2.3	1.4	指オサエ	一方向ナデ		162
T78	SS2	A3	SX21 No. 9	土師器	鉢	C2	7.4	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		S009
T79	SS2	A3	SX21 No. 11	土師器	皿	C2	7.5	-	1.9	指オサエ	一方向ナデ		S011
T80	SS2	A2	P05 No. 4	土師器	皿	B2-b	(9.2)	-	(2.0)	指オサエ	不明瞭(横ナデ)	タール付着	S004
T81	SS2	A2	P05	土師器	皿	B2-b	-	-	(1.6)	指オサエ	横ナデ	タール付着	96
T82	SS2	A2	P32 (図有り)	陶器(瀬戸美濃)	徳利	古瀬戸後IV期新	-	(11.4)	(6.9)	緑釉	緑釉	胎目8本, 多方向	Z002
T83	SS2	A3	P34	陶器(瀬戸美濃)	陣屋形香炉	古瀬戸後IV期新	-	4.4	(1.5)	露胎	露胎	胎3方向	114
T84	SS2	A2	P35	土師器	皿	B2-b	(13.2)	-	(1.6)	指オサエ	横ナデ		116
T85	SS2	A2	P42	土製品	土錘	-	-	-	(1.7)	-	-		122
T86	SS2	A2	P79	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	-	-	(1.7)	鉄釉	鉄釉		140
T87	SS2	A2	P79	土師器	皿	C2	(7.7)	-	(1.3)	横ナデ	一方向ナデ		141
T88	SS2	A2	P117	陶器(瀬戸美濃)	徳利か瓶	古瀬戸後IV期	-	-	(2.1)	灰釉	灰釉		107
T89	SS2	A4	P157	土師器	皿	B2-a?	(13.0)	-	(1.9)	横ナデ, 指オサエ	横ナデ	横ナデ不明瞭	138
T90	SS2	A4	P239	土師器	皿	B1	(12.0)	-	(2.1)	-	横ナデ		148
T91	SS2	A3	P245 No. 96	土師器	皿	B2-a	16.5	-	2.35	指オサエ	横ナデ		S096
T92	SS2	A3	SX22	陶器(瀬戸美濃)	平碗	大窯第1段階	-	-	(3.2)	鉄釉	鉄釉		189
T93	SS2	A3	SX22 (No. 130)	陶器(瀬戸美濃)	徳利	古瀬戸後IV期第一～大窯第1段階	-	-	(2.6)	緑釉	緑釉		S003-130
T94	SS2	A3	SX22	土製品	土玉(土錘?)	-	長径1.5 短径1.3	-	-	-	-		177
T95	SS2	A3	SX22 (No. 43)	土師器	皿	B2-a	16.0	-	2.3	横ナデ, 指オサエ	横ナデ		Z003-43
T96	SS2	A3	SX22 (No. 90)	土師器	皿	B2-a	18.3	-	3.1	横ナデ	横ナデ		Z003-90
T97	SS2	A3	SX22 (No. 153)	土師器	皿	B2-a	16.2	-	3.0	横ナデ, 指オサエ	不明瞭(横ナデ)		Z003-153
T98	SS2	A3	SX22 (No. 53)	土師器	皿	B2-b	(13.0)	-	(2.4)	指オサエ	横ナデ		Z003-53
T99	SS2	A3	SX22 (No. 139)	土師器	皿	B2-b	(13.2)	-	(2.1)	指オサエ	横ナデ		Z003-139
T100	SS2	A3	SX22 (No. 15)	土師器	皿	B2-b	9.9	-	1.8	指オサエ	横ナデ		Z003-15
T101	SS2	A3	SX22 (No. 14)	土師器	皿	B2-b	16.4	-	2.8	指オサエ	横ナデ		Z003-14
T102	SS2	A3	SX22 (No. 34)	土師器	皿	B2-b	10.2	-	1.8	指オサエ	横ナデ		Z003-34
T103	SS2	A3	SX22 (No. 34下)	土師器	皿	B2-b	10.2	-	1.9	指オサエ	横ナデ		Z003-34下
T104	SS2	A3	SX22 (No. 72)	土師器	皿	B2-b	10.3	-	1.9	指オサエ	横ナデ		Z003-72
T105	SS2	A3	SX22 (No. 96下①)	土師器	皿	B2-b	10.0	-	1.7	指オサエ	横ナデ		Z003-96下①
T106	SS2	A3	SX22 (No. 141)	土師器	皿	B2-b	10.4	-	1.9	指オサエ	横ナデ		Z003-141
T107	SS2	A3	SX22 (No. 4)	土師器	皿	C2	7.4	-	1.5	指オサエ	一方向ナデ		Z003-4
T108	SS2	A3	SX22 (No. 16)	土師器	皿	C2	7.8	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		Z003-16
T109	SS2	A3	SX22 (No. 57)	土師器	皿	C2	8.8	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		Z003-57
T110	SS2	A3	SX22 (No. 132)	土師器	皿	B2-b	15.4	-	2.8	指オサエ	横ナデ	タール付着	Z003-132
T111	SS2	A3	SX23	陶器(瀬戸美濃)	徳利	大窯第1段階	(34.0)	-	(7.0)	緑釉	緑釉	胎目8本以上	149
T112	SS2	A4	SX24 No. 89	土師器	皿	B2-a	(15.0)	-	(2.3)	横ナデ, 指オサエ	横ナデ	横ナデ不明瞭	S089
T113	SS2	A3	SX05 No. 17	木製品	井戸枠	-	66.0	8.2	1.6	-	-	板目取り, サワラ	-
T114	SS2	A3	SX05 No. 16	木製品	井戸枠	-	72.0	8.4	1.8	-	-	板目取り, スギ	-
T115	SS2	A3	SX05 No. 20	木製品	井戸枠	-	76.6	10.0	1.9	-	-	板目取り, サワラ	-

第13表　遺物観察表（10）

通番	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等	種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
816	SS2	B2	SD04 下層	陶器(瀬戸美濃)	陶鉢	古瀬戸後IV期新	-	-	(3.0)	鉄釉	鉄釉		56
817	SS2	B2	SD04 No. 23	陶器(瀬戸美濃)	陶鉢	古瀬戸後IV期新～大窯第1段階	-	台径(16.0)	14.6)	鉄釉	鉄釉	印台14本、6方向	5023
818	SS2	B2	SD04 Dic. 1)	土師器	皿	B2-ｷ	1.0	-	5.6	指オサエ	横ナデ		2003
819	SS2	B2	SD04 No. 24	土師器	皿	B2-ｷ	(11.0)	-	(3.2)	指オサエ	横ナデ		5023
820	SS2	B2	SD04 Dic. 22	土師器	皿	C2	7.2	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		2004
821	SS2	B2	SD04 Dic. 40	土師器	皿	C2	7.6	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		2006
822	SS2	B2	SD04 Dic. 41	土師器	皿	C2	7.2	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		2010
823	SS2	B2	SD04 下層	山茶碗(北部系)	碗 ＊	最古段5号窯式期	-	(5.0)	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ		56
824	SS2	B3	SD07 No. 57·58	土師器	皿	B2-ｷ	6.2	-	1.2	横ナデ、指オサエ	横ナデ		5027·058
825	SS2	B3	SD07 No. 59	土師器	皿	B2-ｷ	(10.0)	-	(2.0)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		5059
826	SS2	B3	SD07 下層	土師器	皿	B2-ｷ	(13.6)	-	(2.1)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		48
827	SS2	B3	SD07 No. 67	土師器	皿	B2-ｷ	8.8	-	1.9	指オサエ	横ナデ		5047
828	SS2	B3	SD07 No. 36·37	土師器	皿	B2-ｷ	(12.0)	-	(2.3)	指オサエ	横ナデ		5036·037
829	SS2	B3	SD07 No. 68	土師器	皿	B2-ｷ	12.9	-	2.8	指オサエ	横ナデ		5060
830	SS2	B3	SD07 No. 62	土師器	皿	B2-ｷ	12.8	-	2.1	指オサエ	横ナデ	墨書有「十三口(胃カ)」	5062
831	SS2	B3	SD07 No. 35	土師器	皿	C2	7.7	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		5035
832	SS2	B3	SE11 No. 48	土師器	皿	C2	7.4	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ	チール付着	5048
833	SS2	B3	SE11 No. 49	土師器	皿	C2	7.7	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ	チール付着	5049
834	SS2	B1	SE13 No. 71	土師器	皿	B2-ｷ	(13.6)	-	(2.0)	指オサエ	一方向ナデ		5071
835	SS2	B1	SE13	土師器	皿	B2-ｷ	(12.8)	-	(1.9)	指オサエ	横ナデ		108
836	SS2	B1	SE13 No. 70	土師器	皿	C2	7.4	-	1.3	横ナデ、指オサエ	横ナデ		5070
837	SS2	B1	P97	土師器	皿	B2-ｷ	(12.8)	-	(2.0)	指オサエ	横ナデ		121
838	SS2	B3	SD03 下層最上層	陶器(瀬戸美濃)	小壺	古瀬戸後IV期	4.8	5.2	6.8	施釉、底部施釉	鉄釉	上部破状文、沈線	3002
839	SS2	B3	SD03 下層最上層	陶器(瀬戸美濃)	瓶類	大窯第1段階	-	台径19.4)	(6.2)	鉄釉	鉄釉	刻目14本、6方向	2001等
840	SS2	B3	SD03 下層	土師器	皿	B2	-	-	(2.0)	-	-	墨書有、明記不明	49
841	SS2	B3	SD03 No. 65	土師器	皿	B2-ｷ	(11.0)	-	(2.0)	指オサエ	横ナデ		5065
842	SS2	B3	SD03 下層	土師器	皿	B2-ｷ	10.1	-	2.2	指オサエ	横ナデ	内面部チール付着	49
843	SS2	B3	SD03 下層最上層	土師器	内耳鍋	16c前半(I～II期)	(27.4)	-	(4.8)	指オサエ	横ハケ	やや歪形	37
844	SS2	B3	SD03 上層	中国産磁器	白磁碗	同安窯系IV-1類	-	-	(3.1)	施釉	施釉	玉縁碗	96
845	SS2	B3	SD03 下層	陶器(瀬戸美濃)	不明	古瀬戸中期I～IV	-	-	(2.0)	灰釉	灰釉		227
846	SS2	B3	SD03 下層最上層	山茶碗(北部系)	碗	大窯大洞4号窯式期古	(13.3)	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ		37
847	SS2	B3	SD03 上層	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	(11.8)	台径(4.4)	(4.3)	回転ナデ	回転ナデ	重書有、花押か	36
848	SS2	B3	SD03 上層	山茶碗(北部系)	皿	大窯大洞4号窯式期古	(8.4)	(3.6)	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ		36
849	SS2	B3	SD03 No. 33	木製品	櫛	-	長(24.0)	幅0.7	厚0.7	-	-	キノキ	5033
850	SS2	B3	SD03 No. 41	木製品	漆器椀	-	-	高台底部径(6.8)	(4.2)	黒漆	朱漆	高台低い、内朱塗、トチノキ	5041
851	SS2	B3	SD03 No. 29	木製品	漆器椀	-	-	-	(3.7)	黒漆	朱漆	高台低い、内朱塗、トチノキ	5029
852	SS2	B3	SD03 遺構A	木製品	漆器椀	-	(15.7)	高台径(6.4)	(4.6) 高台高(0.8)	朱漆	朱漆	高台低い、漆膜のみ残存、内外朱漆	228
853	SS2	B3	SD03 No. 27	木製品	漆器椀	-	-	-	(4.8)	黒漆	黒漆	高台不明、トチノキ	5027
854	SS2	B3	SD03 No. 43	木製品	漆器椀	-	(12.8)	-	(7.4)	黒漆	黒漆	高台不明、朱漆で菊紋紋、トチノキ	5043
855	SS2	B3	SD03 No. 44	木製品	漆器椀	-	(14.6)	-	(5.7)	黒漆	黒漆	高台高い、朱漆で菊紋か、トチノキ	5044
856	SS2	B3	SD03 No. 72	木製品	漆器椀	-	15.4	高台径7.1	5.9 高台高2.6	黒漆	黒漆	高台高い、朱漆で亀紋、トチノキ	5072
857	SS2	B3	SD03 No. 23	木製品	漆器椀	-	(16.6)	-	(10.6) 高台高2.6	黒漆	黒漆	高台高い、朱漆で変形文、雷死文か、モミヒノキ属	5023
858	SS2	B3	SD03 No. 45	木製品	漆器椀	-	-	高台径(8.6)	(6.6) 高台高2.5	黒漆	不明(炭化)	高台高い、朱漆で家紋か、トチノキ	5045
859	SS2	B3	SD03 No. 61	木製品	漆器椀	-	-	高台径(8.6)	(6.6) 高台高2.5	黒漆	不明(炭化)	高台高い、朱漆で「丸に鶴」紋か、トチノキ	5061
860	SS2	B3	SD03 No. 31	木製品	漆器椀	-	(22.6)	-	(5.6)	黒漆	黒漆	高台不明、朱漆で雷紋、ヨバノキ属	5031
861	SS2	B3	SD03 No. 47	木製品	漆器椀	-	-	高台径(7.6)	(8.0) 高台高2.5	黒漆	黒漆	高台高い、朱漆で菊花文か鶴紋、トチノキ	5047
862	SS2	B3	SD03 No. 50	木製品	漆器椀	-	(15.5)	-	(5.6)	黒漆	黒漆	高台低い、朱漆で雷紋、トチノキ	5050
863	SS2	B3	SD03 No. 46	木製品	漆器椀	-	(13.7)	-	(5.6)	黒漆	黒漆	高台低い、見込み青漆で家紋、イイギリ	5046
864	SS2	B3	SD03 No. 44	木製品	漆器椀	-	-	高台基部径(7.4)	(6.1)	黒漆	黒漆	高台高い、朱漆で家紋か、トチノキ	5044
865	SS2	B3	SD03 No. 49	木製品	漆器椀	-	(16.2)	-	(5.3)	黒漆	黒漆	高台低い、朱漆で家紋か、トチノキ	5049
866	SS2	B3	SD03 No. 20	木製品	漆器椀	-	-	高台基部径6.0	(6.1)	黒漆	黒漆	高台低い、見込み朱漆で草花紋、トチノキ	5020
867	SS2	B3	SD03 No. 32	木製品	漆器椀	-	-	高台基部径7.5	(1.9)	黒漆	黒漆	高台低い、見込み朱漆で草花紋、トチノキ	5032
868	SS2	B4	SD02 最上層	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系16c	-	5.0	(3.6)	施釉	施釉文	高台内面施釉後掻き取り	116
869	SS2	B4	SD02 最上層	陶器(瀬戸美濃)	鉢類	古瀬戸後IV期新	-	-	(3.4)	施釉	施釉		116
870	SS2	B4	SD02 上層	陶器(美濃)	玉縁口縁皿	16型式	(12.0)	-	(5.1)	施釉	施釉		123
871	SS2	B4	SD02 最上層	瓦質土器	火鉢	-	-	5.0	(3.0)	不明線(ミガキ)	ナデ		116
872	SS2	B4	SD02 上層	土師器	皿	B2	(12.0)	-	(2.0)	横ナデ	横ナデ		123
873	SS2	B4	SD02 上層	土師器	皿	C2	(5.0)	-	(1.0)	指オサエ	一方向ナデ		123
874	SS2	B4	SD02 最上層	陶器(瀬戸美濃)	鉢類	大窯第3段階後半	-	-	(3.6)	施釉	施釉		116
875	SS2	B4	SD02 最上層	陶器(瀬戸美濃)	丸皿	大窯第2段階後半	-	(5.0)	(1.0)	灰釉	灰釉	内面施釉後掻き取り	116
876	SS2	B4	SD02 上層	石製品	硯石	-	長(10.2)	幅(6.2)	厚(1.3)	-	-	ホルンフェルス	123
877	SS2	B4	SD02	土製品	炉壁	-	長(14.1)	幅(3.6)	厚(5.0)	-	-	銅滓付着	17
878	SS2	B4	土層遺土	弥生文土器	壺休部	水神平式	-	-	(3.1)	羽状条痕文	ナデ		425
879	SS2	B4	土層遺土	縄文土器(条痕第期)	鉢底	V期第1小期	(14.8)	-	(1.8)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		423
880	SS2	B4	土層遺土	縄文土器(底部不明)	鉢	諸磯～新	-	高台径(12.2)	(1.7) 高台高0.8	磨耗	磨耗		423
881	SS2	B4	土層遺土	土師器(ロクロ土師器)	鉢	東山竹～山茶碗4期第竹	(12.7)	-	(2.6)	回転ナデ	回転ナデ		422
882	SS2	B4	土層遺土	土師器	須恵型鍋	16c前半ヲ(I期ヲ)	-	-	(4.2)	ナデ	ケズリ		422
883	SS2	B5	土層遺土	中国産磁器	白磁碗休部	V類	-	-	(1.5)	施釉	施釉文		433
884	SS2	B5	土層遺土	中国産磁器	青磁皿	同安窯系I類(13c前半)	-	-	(1.4)	施釉	施釉		434
885	SS2	B5	土層遺土	山茶碗(北部系)	皿	6型式(弁付)	(8.0)	(4.6)	2.9	回転ナデ	回転ナデ		449
886	SS2	B4	土層遺土	山茶碗(北部系)	皿	白土原1号窯式期	8.8	4.8	1.6	回転ナデ	回転ナデ		445
887	SS2	B4	土層遺土	山茶碗(北部系)	皿	明和1号窯式期	(8.7)	(5.2)	(1.0)	回転ナデ	回転ナデ		446
888	SS2	B2	土層遺土 No. 39	山茶碗(北部系)	皿	大窯大洞4号窯式期古	(8.4)	(4.8)	0.9	回転ナデ	回転ナデ		3039
889	SS2	B4	土層遺土	山茶碗(北部系)	皿	大窯第1号窯式期	(6.3)	(5.0)	(1.0)	回転ナデ	回転ナデ		445
890	SS2	B4	土層遺土	山茶碗(南部系)	碗	6型式	(12.4)	-	(4.7)	回転ナデ	回転ナデ		436

第14表　遺物観察表（11）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・番号	種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
891	SS2	B0	土師盛土	山茶碗(北部系)	碗	白土碗1号窯式期	—	高台径(6.4)	(4.2) 高台高0.4	回転ナデ	回転ナデ		450
892	SS2	B4	土器盛土	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	(14.0)	高台径(5.6)	5.0 高台高0.4	回転ナデ	回転ナデ		446
893	SS2	B5	土器盛土 No.30-6	山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	(14.0)	台径(5.3)	5.0	回転ナデ	回転ナデ		0050-0061
894	SS2	B4	土器盛土	山茶碗(北部系)	碗	明和1号～大洞大洞4号窯式期	—	高台径(5.6)	(2.1) 高台高0.4	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、判読不明	433
895	SS2	B4	土器盛土	山茶碗(北部系)	碗	大洞大洞4号窯式期新	—	高台径(4.5)	(1.6) 高台高0.3	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、判読不明	445
896	SS2	B5	土器盛土 No.51	山茶碗(北部系)	皿	明和1号窯式期	(8.1)	(3.9)	1.3	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、花押か	0051
897	SS2	B5	土器盛土	山茶碗(北部系)	皿	明和1号窯式期	9.1	4.8	1.4	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、判読不明	449
898	SS2	B3	土器盛土	山茶碗(北部系)	碗	大洞大洞4号窯式期古	(13.6)	高台径(4.4)	(4.9) 高台高0.2	回転ナデ	回転ナデ		448
899	SS2	B4	土器盛土	山茶碗(北部系)	碗	大洞東1号窯式期	(12.1)	高台径(4.0)	3.9 高台高0.9	回転ナデ	回転ナデ		445
900	SS2	B4	土器盛土	山茶碗(北部系)	碗	大洞東1号～藤之森3号窯式期	—	—	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ		420
901	SS2	B4	土器盛土	山茶碗(北部系)	碗	生田3号窯式期	—	—	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ		422
902	SS2	B4	土器盛土	陶器(瀬戸美濃)	鉢	古瀬戸中Ⅰ～Ⅳ期	—	—	(1.6)	灰釉	灰釉		426
903	SS2	B4	土器盛土	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後期	—	—	(1.4)	灰釉	灰釉		430
904	SS2	B4	土器盛土	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅰ期	—	(4.9)	(1.4)	灰釉	灰釉		429
905	SS2	B4	土器盛土	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅱ期	(10.4)	—	(2.3)	灰釉	灰釉		431
906	SS2	B4	土器盛土	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期古	(10.4)	高台径4.2	2.5 高台高0.3	灰釉	灰釉		432
907	SS2	B5	土器盛土	陶器(瀬戸美濃)	四耳壺	古瀬戸後Ⅳ期古	(11.6)	—	—	灰釉	鉄釉		434
908	SS2	B4	土器盛土	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期	—	—	(2.8)	鉄釉	鉄釉		424
909	SS2	B4	土器盛土	陶器(瀬戸美濃)	四耳壺	古瀬戸後Ⅱ期	—	—	(2.8)	鉄釉	鉄釉		427
910	SS2	B4	土器盛土	陶器(瀬戸美濃)	折縁深皿	古瀬戸後Ⅰ期	—	—	(4.3)	灰釉	灰釉		428
911	SS2	B4	土器盛土	陶器(常滑)	甕	b6型式	—	—	(5.6)	自然釉	自然釉		423
912	SS2	B4	土器盛土	土師器	伊勢型鍋	第1段階b型式	—	—	(1.1)	横ナデ	横ナデ	口縁折り返し痕跡か	425
913	SS2	B5	土器盛土	土師器	伊勢型鍋	第1段階b型式	—	—	胴部最高 3.0(15.0)	ハケメ	横ナデ	外面煤付着	446
914	SS2	B4	土器盛土	瓦質土器	羽釜	鍋内底	—	—	(3.7)	出鼻	ハケメ		423
915	SS2	B4	土器盛土	土師器	内耳鍋型羽釜	A4類(大洞東～藤之森伊行)	—	—	(3.0)	横ナデ	横ナデ	口縁直下に指孔	425
916	SS2	B4	土器盛土	土師器	内耳鍋型羽釜	A4類(大洞東～藤之森伊行)	—	—	(1.2)	横ナデ	横ナデ	外面煤付着	422
917	SS2	B5	土器盛土	土師器	内耳鍋型羽釜	A4類(大洞東～藤之森伊行)	(25.4)	—	(3.8)	横ナデ	横ナデ	外面煤付着	448
918	SS2	B5	土器盛土 No.59	土師器	鍋	M4	(8.2)	—	(1.3)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		0060
919	SS2	B4	土器盛土	土師器	皿	C1類	(10.0)	—	(2.4)	指オサエ	横ナデ		433
920	SS2	B5	土器盛土 No.52	土師器	皿	W3	(13.2)	—	(3.4)	横ナデ	横ナデ		0052
921	SS2	B5	土器盛土	土師器	皿	W4	(13.6)	—	(3.5)	横ナデ	横ナデ		446
922	SS2	B5	土器盛土	土製品	ふいご	—	—	—	(3.5)	—	—		446
923	SS2	B0	5A01 盛土上層	山茶碗(東部系)	碗	6型式	—	高台径(7.2)	(1.8) 高台高0.4	回転ナデ	回転ナデ		8
924	SS2	B0	5A01 盛土上層	山茶碗(北部系)	碗	大洞東1号窯式期	—	高台径(4.4)	(1.4) 高台高0.6	回転ナデ	回転ナデ		8
925	SS2	B0	5A01 表土	陶器(瀬戸美濃)	平碗	古瀬戸後Ⅳ期新	—	底台径(5.3)	(1.4) 高台高0.6	鉄釉	鉄釉	二次被熱	3
926	SS2	B0	5K21	銅製品	鏡容(天鏡通宝)	—	—	直径2.8	—	厚0.1	—	—	北宋銭、初鋳年1017年	—
927	SS2	B0	5K31	陶器(瀬戸美濃)	折縁中皿	古瀬戸後Ⅳ期古	(12.0)	—	(1.0)	灰釉	灰釉		10
928	SS2	B0	5K31 上層	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	(11.0)	—	(6.0)	鉄釉	鉄釉		1
929	SS2	B0	5K31 上層	土師器	皿	A2	13.6	—	2.1	回転ナデ、指オサエ	横ナデ		5
930	SS2	B0	5K31	土師器	皿	A3	(14.0)	—	(2.3)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		9
931	SS2	B0	5K31 (No.48)	土師器	皿	A2	15.9	—	2.15	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2001-48等
932	SS2	B0	5K31 (No.109)	土師器	皿	B1	8.9	—	1.75	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2002-109
933	SS2	B0	5K31 (No.27)	土師器	皿	B1	11.1	—	1.75	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2001-27
934	SS2	B0	5K31 (No.118下・121)	土師器	皿	B1	14.0	—	2.9	横ナデ、指オサエ	横ナデ2段		2002-118下・121
935	SS2	B0	5K31 (No.119下)	土師器	皿	B1	10.4	—	3.1	横ナデ、指オサエ	横ナデ2段		2002-119下
936	SS2	B0	5K31 No.4	土師器	皿	B3-a	16.2	—	2.5	横ナデ	横ナデ		5006
937	SS2	B0	5K31 (No.118・116下・121)	土師器	皿	B2-a	16.9	—	3.0	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2002-118等
938	SS2	B0	5K31 (No.7)	土師器	皿	B2-a?	16.6	—	2.8	横ナデ、指オサエ	横ナデ	横ナデ不明瞭	2001-7
939	SS2	B0	5K31 (No.51)	土師器	皿	B2-a?	12.7	—	2.4	横ナデ、指オサエ	横ナデ	横ナデ不明瞭	2001-51
940	SS2	B0	5K31 (No.17)	土師器	皿	B2-a	12.3	—	2.1	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2001-16+17
941	SS2	B0	5K31 (No.57)	土師器	皿	B2-a	10.3	—	1.85	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2001-57
942	SS2	B0	5K31 (No.26)	土師器	皿	B2-a	9.7	—	1.9	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2001-60
943	SS2	B0	5K31 (No.1)	土師器	皿	B2-a	17.7	—	2.8	横ナデ、指オサエ	横ナデ2段		2001-1
944	SS2	B0	5K31 (No.37)	土師器	皿	B2-a	16.1	—	2.0	横ナデ、指オサエ	横ナデ	タール付着	2001-37
945	SS2	B0	5K31 (No.122)	土師器	皿	B2-a	(9.6)	—	(1.7)	指オサエ	横ナデ	タール付着	2002-122
946	SS2	B0	5K31 No.81	土師器	皿	B2-a	9.8	—	1.75	不明瞭	横ナデ	タール付着	5061
947	SS2	B0	5K31 (No.119)	土師器	皿	B2-a	10.0	—	1.9	指オサエ	横ナデ		2002-119
948	SS2	B0	5K31	土師器	皿	B2-a	11.4	—	2.3	指オサエ	横ナデ		16
949	SS2	B0	5K31 (No.60)	土師器	皿	B2-a	15.7	—	3.1	指オサエ	横ナデ		2001-60
950	SS2	B0	5K31 No.3	土師器	皿	B2	—	—	(0.8)	—	横ナデ	墨書有「俵」(G)	5003
951	SS2	B0	5K31 (No.63)	土師器	皿	C3	7.1	—	1.3	指オサエ	一方向ナデ		2001-63
952	SS2	B0	5K31 上層	土師器	皿	C2	7.4	—	1.45	指オサエ	一方向ナデ		4
953	SS2	B0	5K31 (No.78)	土師器	皿	C2	7.2	—	1.1	指オサエ	一方向ナデ		2001-78
954	SS2	B0	5K31	土師器	皿	D1	(5.0)	—	(1.0)	横ナデ	横ナデ		9
955	SS2	B0	5K31 (No.96)	土師器	皿	D1	4.3	—	1.3	横ナデ	横ナデ	墨書有、判読不明	2002-96
956	SS2	B0	5K21	銅製品(鳥獣形)	杯	Ⅳ-3～Ⅴ-1	—	(4.9)	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有、底部糸切	1
957	SS2	B0	5K31 (No.64)	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	—	2.8	—	回転ナデ、鉄釉	回転ナデ、鉄釉		2002-64
958	SS2	B0	5K32 (No.45)	陶器(瀬戸美濃)	鎧茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	11.8	4.7	2.4	回転ナデ、灰釉	回転ナデ、灰釉	トチン痕3ヶ所	2003-45
959	SS2	B0	5K33	土師器	皿	A2	(13.4)	—	(1.8)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		29
960	SS2	B0	5K33 (No.27)	土師器	皿	A2	15.0	—	2.4	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-27・70・72
961	SS2	B0	5K33 (No.45.72)	土師器	皿	A2	(16.0)	(9.1)	(2.3)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-45・72
962	SS2	B0	5K33 (No.46)	土師器	皿	A2	(18.0)	—	(2.2)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-46
963	SS2	B0	5K33 (No.35.48)	土師器	皿	A2	17.3	16.7	2.5	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-35・48
964	SS2	B0	5K33 (No.99)	土師器	皿	B1下	16.3	—	3.2	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-99
965	SS2	B0	5K33 (No.45)	土師器	皿	B2-a	9.1	—	1.7	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-45
966	SS2	B0	5K33 (No.42)	土師器	皿	B2-a	11.8	—	1.8	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-42
967	SS2	B0	5K33 (No.76)	土師器	皿	B2-a	16.8	—	3.0	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-76

第15表　遺物観察表（12）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等		種類	器種	器号分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
968	SX2	B6	SK33	(No. 42)	土師器	皿	B2-a	16.1	-	2.9	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-42
969	SX2	B6	SK33	(No. 40)	土師器	皿	B2-a	15.7	-	2.4	横ナデ、指オサエ	横ナデ	タール付着	2003-40
970	SX2	B6	SK33	(No. 102)	土師器	皿	B2-a	16.0	-	2.45	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-102
971	SX2	B6	SK33	(No. 25)	土師器	皿	B2-a	15.7	-	2.6	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-25
972	SX2	B6	SK33	(No. 28①)	土師器	皿	B2-a	17.9	-	2.8	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-28①
973	SX2	B6	SK33	(No. 46)	土師器	皿	B2-b	16.0	-	2.9	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-46
974	SX2	B6	SK33	(No. 33)	土師器	皿	B2-b	8.8	-	1.7	指オサエ	横ナデ		2003-33
975	SX2	B6	SK33	(No. 39)	土師器	皿	B2-b	9.4	-	1.7	指オサエ	横ナデ		2003-39
976	SX2	B6	SK33	No. 32	土師器	皿	B2-b	12.9	-	1.9	指オサエ	横ナデ		3032
977	SX2	B6	SK33	(No. 3)	土師器	皿	B2-b	12.8	-	2.3	指オサエ	横ナデ、指オサエ		2003-3
978	SX2	B6	SK33	No. 20	土師器	皿	B2-b	10.8	-	2.2	指オサエ	横ナデ	タール付着	3020
979	SX2	B6	SK33	(No. 6)	土師器	皿	B2-b	12.8	-	2.3	指オサエ	横ナデ		2003-6
980	SX2	B6	SK33	(No. 32)	土師器	皿	C1	8.2	-	2.0	指オサエ＋ヨコ	横ナデ		2003-32
981	SX2	B6	SK33	(No. 44)	土師器	皿	C1	8.1	-	1.7	指オサエ＋ヨコ	横ナデ		2003-44
982	SX2	B6	SK33		土師器	皿	?	-	-	(0.8)	-	-	墨書有、判読不明	31
983	SX2	B6	SK33	No. 31	土師器	皿	C2	7.2	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ	墨書有「もう□ん」	3031
984	SX2	B6	SK33	(No. 34)	土師器	皿	C2	(7.2)	-	(1.2)	指オサエ	一方向ナデ	墨書有「もう□ん」	2003-34
985	SX2	B6	SK33	No. 29	土師器	皿	C2	7.3	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ	墨書有「そうきらく」	3029
986	SX2	B6	SK33	No. 38	土師器	皿	C2	7.4	-	1.6	指オサエ	一方向ナデ	墨書有「ていわん」	3038
987	SX2	B6	SK33	(No. 53)	土師器	皿	C2	7.3	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ	墨書有「ていわん」	2003-53
988	SX2	B6	SK33		土師器	皿	C2	7.5	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ	墨書有「ていわん」	31
989	SX2	B6	SK33		土師器	皿	C2	(7.6)	-	(1.5)	指オサエ	一方向ナデ	墨書有、判読不明	34
990	SX2	B6	SK33	No. 26	土師器	皿	B2-b	12.0	-	1.9	指オサエ	横ナデ	墨書有「たいねん」	3026
991	SX2	B6	SK33	No. 28	土師器	皿	B2-b	12.1	2.1	-	指オサエ	横ナデ	墨書有「たいねん」	3028
992	SX2	B5	SX21		陶器(瀬戸系產)	仏餉具	古瀬戸後IV期新	(11.0)	-	(2.5)	鉄釉	鉄釉	二次被熱	365
993	SX2	B5	SX21		陶器(瀬戸系產)	仏餉具	古瀬戸後IV期新	-	(8.0)	(1.0)	鉄釉	鉄釉		326
994	SX2	B5	SX21		陶器(瀬戸系產)	徳利	古瀬戸後IV期新	(6.0)	-	(3.7)	鉄釉	鉄釉		346
995	SX2	B5	SX21		陶器(瀬戸系產)	擂鉢	大窯第1段階	-	-	(3.3)	縦櫛	縦櫛		349
996	SX2	B5	SX21		土師器	皿	B2-a	(16.0)	-	(2.6)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		340
997	SX2	B5	SX21		土師器	皿	B2-b	(8.8)	-	(1.5)	指オサエ	横ナデ	タール付着	346
998	SX2	B5	SX21		土師器	皿	B2-b	(16.0)	-	(1.7)	指オサエ	横ナデ	タール付着	337
999	SX2	B5	SX21	下層	土師器	皿	C2	8.0	4.0	1.5	指オサエ	一方向ナデ	ヘそ底？	358
1000	SX2	B5	SX21		山茶碗(尾張系)	皿	大窯大窯4号窯式期古	(9.0)	-	(1.0)	回転ナデ	回転ナデ		361
1001	SX2	B5	SX21	トレンチ	石製品	砥石	-	長(8.6)	幅(1.3)	厚(1.7)	-	-	荒砥	337
1002	SX2	B5	SX21	上層	石製品	剥片	-	長3.7	幅4.0	厚1.4	-	-	真砂	334
1003	SX2	B6	SD22		陶器(瀬戸系產)	擂鉢注	古瀬戸後IV期新	(10.2)	-	(1.5)	沃釉	沃釉		80
1004	SX2	B6	SD22	石組金後	陶器(瀬戸系產)	擂鉢	大窯第1段階	(16.0)	-	(1.7)	縦櫛	縦櫛		70
1005	SX2	B6	SD22		陶器(瀬戸系產)	擂鉢	大窯第1段階	(23.0)	-	(2.5)	縦櫛	縦櫛		92
1006	SX2	B6	SD22	No. 18	土師器	皿	B2-a	(17.0)	-	(2.8)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		3018
1007	SX2	B6	SD22	No. 68	土師器	皿	B2-a	9.7	-	2.0	横ナデ、指オサエ	横ナデ	タール付着	3068
1008	SX2	B6	SD22		土師器	皿	C2	8.2	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		70
1009	SX2	B6	SD22		山茶碗(尾張系)	碗	6型式併行	(13.4)	-	(5.8)	自然釉、回転ナデ	回転ナデ		46
1010	SX2	B5	SD60		土師器	皿	B2-a	(13.2)	-	(2.0)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		331
1011	SX2	B6	SD76		土師器	皿	C1	-	-	(1.4)	指オサエ	横ナデ		340
1012	SX2	B6	SK32		土師器	皿	B2-b	-	-	(2.0)	指オサエ	横ナデ		343
1013	SX2	B6	SE01		加工円盤（陶器瀬戸系產）	白天目系碗	大窯第1段階	-	14.5	(1.4)	灰釉	鉄釉	加工円盤、側面出し高台	369
1014	SX2	B6	SE01	土4	木製品	井戸側	-	34.6	46.0	2.0	-	-	上部井戸側、板目取り、ヒノキ属	-
1015	SX2	B6	SE01	土5	木製品	井戸側	-	30.2	10.0	1.9	-	-	上部井戸側、板目取り、サワラ	-
1016	SX2	B6	SE01	土6	木製品	井戸側	-	36.2	7.0	1.8	-	-	上部井戸側、板目取り、サワラ	-
1017	SX2	B6	SE01	下1	木製品	井戸側	-	44.0	10.3	2.0	-	-	下部井戸側、板目取り、サワラ	-
1018	SX2	B6	SE01	下2	木製品	井戸側	-	46.2	6.8	2.0	-	-	下部井戸側、板目取り、サワラ	-
1019	SX2	B6	SE01	下3	木製品	井戸側	-	46.0	10.0	1.8	-	-	下部井戸側、板目取り、サワラ	-
1020	SX2	B6	P231		陶器(瀬戸系產)	擂鉢注	古瀬戸後IV期新	(11.0)	-	(1.8)	沃釉	沃釉		322
1021	SX2	B6	P231		土師器	皿	C2	(7.0)	-	(1.6)	指オサエ	一方向ナデ		323
1022	SX2	C1	SD02		陶器(瀬戸系產)	擂鉢	古瀬戸後IV期新～大窯第1段階	-	(8.4)	(5.5)	縦櫛	縦櫛	櫛目13本、8方向	23
1023	SX2	C1	SD02		土師器	皿	B2-a	16.0	4.9	2.1	横ナデ、指オサエ	横ナデ		27
1024	SX2	C1	SD02		土師器	皿	B2-b	(11.4)	(5.4)	(2.0)	指オサエ	横ナデ		13
1025	SX2	C1	SD02		中国産磁器	青磁蓮花皿	龍泉窯系16c	-	(6.0)	(1.9)	施釉	施釉		20
1026	SX2	C1	SD02		須恵器(美濃須衛)	杯蓋	須期後半	(11.6)	(5.2)	(3.0)	静止ヘラケズリ、回転ナデ	回転ナデ		16
1027	SX2	C2	SD17	No. 15	陶器(瀬戸系產)	鉢	古瀬戸後IV期新	-	11.0	(3.5)	施釉	施釉		3015
1028	SX2	C2	SD17	(No. 69)	陶器(瀬戸系產)	擂鉢	古瀬戸後IV期新	(30.0)	-	-	縦櫛	縦櫛	櫛目10本、6方向？	2001-69
1029	SX2	C2	SD17		須恵器(美濃系)	杯身	TK43併行	-	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ		22
1030	SX2	C2	SD17		須恵器(知多須衛)	瓶	須期後半	(13.0)	-	(5.5)	回転ナデ	回転ナデ		8
1031	SX2	C2	SD17	(No. 1)	土師器	皿	B2-a	13.2	-	2.2	指オサエ	不明瞭(横ナデ)		2001-1
1032	SX2	C2	SD17	(No. 3)	土師器	皿	B2-b	8.7	-	1.8	指オサエ	横ナデ		2001-3
1033	SX2	C2	SD17	(No. 4)	土師器	皿	B2-b	9.7	-	1.9	指オサエ	横ナデ		2001-4
1034	SX2	C2	SD17	(No. 51)	土師器	皿	B2-b	10.1	-	1.7	指オサエ	横ナデ		2001-51
1035	SX2	C2	SD17	(No. 32)	土師器	皿	B2-b	9.9	-	1.8	指オサエ	横ナデ		2001-32
1036	SX2	C2	SD17	(No. 7)	土師器	皿	B2-b	11.5	-	1.9	指オサエ	横ナデ		2001-7
1037	SX2	C2	SD17	(No. 8-9)	土師器	皿	B2-b	12.0	-	1.7	指オサエ	横ナデ		2001-8-9
1038	SX2	C2	SD17	(No. 31)	土師器	皿	B2-b	12.4	-	2.3	指オサエ	横ナデ		2001-31
1039	SX2	C2	SD17	(No. 20)	土師器	皿	B2-b	12.1	-	2.0	指オサエ	横ナデ	ナデ左回転	2001-20
1040	SX2	C2	SD17	(No. 6)	土師器	皿	B2-b	12.1	-	2.1	指オサエ	横ナデ	ナデ左回転	2001-6
1041	SX2	C2	SD17	(No. 5)	土師器	皿	B2-b	12.2	-	2.0	指オサエ	不明瞭(横ナデ)	ナデ左回転	2001-5
1042	SX2	C2	SD17	(No. 12)	土師器	皿	B2-b	12.2	-	2.0	指オサエ	横ナデ	ナデ左回転	2001-12
1043	SX2	C2	SD17	(No. 24)	土師器	皿	B2-b	12.1	-	2.2	指オサエ	横ナデ	ナデ左回転	2001-24
1044	SX2	C2	SD17	(No. 25)	土師器	皿	B2-b	11.7	-	1.9	指オサエ	横ナデ	ナデ左回転	2001-25
1045	SX2	C2	SD17	(No. 11)	土師器	皿	C2	7.4	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		2001-11
1046	SX2	C2	SD17	(No. 26)	土師器	皿	C2	7.3	-	1.1	指オサエ	一方向ナデ		2001-26
1047	SX2	C2	SD17	(No. 34)	土師器	皿	C2	7.7	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2001-34
1048	SX2	C2	SD17	(No. 40)	土師器	皿	C2	7.6	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2001-40
1049	SX2	C2	SD17	(No. 42)	土師器	皿	C2	7.1	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2001-42
1050	SX2	C2	SD17	(No. 14)	土師器	皿	C2	7.2	-	1.1	指オサエ	一方向ナデ		2001-14
1051	SX2	C2	SD17	(No. 15)	土師器	皿	C2	7.2	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2001-15
1052	SX2	C2	SD17	(No. 16)	土師器	皿	C2	7.3	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		2001-16
1053	SX2	C2	SD17	(No. 28)	土師器	皿	C2	7.0	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2001-28
1054	SX2	C2	SD17	(No. 50)	土師器	皿	C2	7.6	-	1.1	指オサエ	一方向ナデ		2001-50
1055	SX2	C1	SX03		土師器	皿	B1	12.0	7.8	2.0	指オサエ	横ナデ		14
1056	SX2	C1	SX03		土師器	皿	B17	9.9	4.5	1.9	指オサエ	横ナデ		39
1057	SX2	C1	SX03	(No. 33下②)	土師器	皿	B2-a	9.6	-	1.5	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2001-33下②

第16表　遺物観察表（13）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・遺物番		種類	器種	器形分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
1059	SS2	C1	SX03	(No. 29)	土師器	皿	B2-a	10.2	-	1.9	横ナデ，指オサエ	横ナデ		2001-29
1059	SS2	C1	SX03	(No. 8)	土師器	皿	B2-a	11.9	-	2.1	横ナデ，指オサエ	横ナデ		2001-8
1060	SS2	C1	SX03	(No. 3)	土師器	皿	B2-a	9.8	-	1.5	指オサエ	横ナデ		2001-3
1061	SS2	C1	SX03	(No. 4)	土師器	皿	B2-a	9.7	-	1.8	指オサエ	横ナデ		2001-4
1062	SS2	C1	SX03	(No. 26)	土師器	皿	B2-a	10.2	-	1.9	指オサエ	横ナデ		2001-26
1063	SS2	C1	SX03	(No. 23)	土師器	皿	B2-b	10.2	-	2.0	指オサエ	横ナデ		2001-23
1064	SS2	C1	SX03	(No. 17)	土師器	皿	B2-b	(11.0)	(5.6)	(1.7)	指オサエ	横ナデ		2001-17
1065	SS2	C1	SX03	(No. 21)	土師器	皿	B2-b	11.9	-	1.9	指オサエ	横ナデ		2001-21
1066	SS2	C1	SX03	(No. 33下②)	土師器	皿	B2-b	12.3	-	2.0	指オサエ	横ナデ		2001-33下②
1067	SS2	C1	SX03	(No. 1)	土師器	皿	C2	7.3	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		2001-1
1068	SS2	C1	SX03	(No. 10)	土師器	皿	C2	7.8	-	1.5	指オサエ	一方向ナデ		2001-10
1069	SS2	C1	SX03	(No. 31下)	土師器	皿	C2	7.3	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2001-31下
1070	SS2	C1	SX03		土師器	皿	C2	7.1	5.2	2.0	指オサエ	一方向ナデ		13
1071	SS2	C1	SX03		土師器	皿	C2	8.8	5.5	2.3	指オサエ	一方向ナデ		14
1072	SS2	C1	SX03		土師器	皿	C2	7.3	4.8	1.1	指オサエ	一方向ナデ		40
1073	SS2	B3	SD01		土師器	皿	B2-b	(11.2)	-	(1.7)	指オサエ	横ナデ		1
1074	SS2	B2	SD04		土師器	皿	B2-b	12.7	-	2.2	指オサエ	横ナデ		20
1075	SS2	B2	SD01	No. 1	土師器	皿	B2-b	(10.4)	-	(1.8)	不明瞭	横ナデ	タール付着	5001
1076	SS2	B2	SD01		須恵器(南部系)	鉢	志摩山分類式鉢(確無中)	-	(9.0)	(2.4)	磨耗	磨耗	内面底部重ね焼き痕	17
1077	SS2	B3	SD01		山茶碗(尾張系)	碗	6型式	-	台径(8.4)	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ		1
1078	SS2	B2	SD03		陶器(瀬戸美濃)	徳利	大窯第1段階	(30.0)	-	(2.0)	鉄釉	鉄釉		21
1079	SS2	B2	SD02		山茶碗(北伊系)	碗	生田3号窯式期	(9.6)	-	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ		23
1080	SS2	B4	SD16		土師器	皿	B2-b	(10.2)	-	(1.9)	指オサエ	横ナデ	タール付着，十字状回転	12
1081	SS2	B4	SD16	No. 1	土師器	皿	B2-b	9.9	-	1.6	指オサエ	横ナデ		5001
1082	SS2	B4	SD16		土師器	皿	B2-b	(12.8)	-	(2.1)	指オサエ	横ナデ		41
1083	SS2	B4	SD16		土師器	皿	B2-b	12.6	-	2.3	指オサエ	横ナデ		41
1084	SS2	B1	SD02		土師器	皿	B2-a	(10.0)	-	(2.0)	横ナデ，指オサエ	横ナデ		26
1085	SS2	B1	SD02		土師器	皿	B2-b	(12.0)	-	(2.1)	指オサエ	横ナデ		26
1086	SS2	B2	SD02	(No. 7)	土師器	皿	B2-b	(10.0)	-	(1.9)	指オサエ	横ナデ	タール付着	2002-7
1087	SS2	B2	SD02		土師器	皿	B2-b	(13.0)	-	(2.3)	指オサエ	横ナデ		2002-3他
1088	SS2	B2	SD02		土師器	皿	B2-b	(13.2)	-	(2.7)	指オサエ	横ナデ		2002-1他
1089	SS2	B4	SD05		土師器	皿	B2-b	12.0	8.0	2.0	未調整	横ナデ	タール付着	36
1090	SS2	D1	SD06	No. 1	土師器	皿	B2-b	12.0	4.0	2.3	指オサエ	横ナデ		5001
1091	SS2	D1	SD06	No. 16	土師器	皿	C2	7.0	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		5016
1092	SS2	D1	SD06	(No. 1)	土師器	皿	C2	7.0	-	1.1	指オサエ	一方向ナデ		2002
1093	SS2	B2	SE11	No. 10	土師器	皿	B2-b	9.3	-	1.7	指オサエ	横ナデ	タール付着	5010
1094	SS2	E1	SD03		陶器(瀬戸美濃)	紀伊付大皿	古瀬戸後IV期新	-	-	(1.2)	灰釉	灰釉		111
1095	SS2	E1	SD03		陶器(瀬戸美濃)	端反皿	大窯第1段階	-	(4.8)	(1.7)	灰釉	灰釉		15
1096	SS2	E1	SD03	(No. 8)	土師器	皿	B1	12.4	-	1.8	指オサエ	横ナデ		2002-8
1097	SS2	E1	SD03	(No. 14)	土師器	皿	B2-a	9.4	-	1.8	横ナデ，指オサエ	横ナデ		2002-14
1098	SS2	E1	SD03	(No. 3)	土師器	皿	B2-b	9.0	-	2.0	指オサエ	横ナデ		2004-3
1099	SS2	E1	SD03	(No. 4)	土師器	皿	B2-b	10.2	-	2.4	指オサエ	横ナデ		2002-4
1100	SS2	E1	SD03	(No. 29)	土師器	皿	B2-b	10.2	-	1.8	指オサエ	横ナデ		2002-29
1101	SS2	E1	SD03	(No. 33下②)	土師器	皿	B2-b	10.0	-	1.8	指オサエ	横ナデ		2002-33下②
1102	SS2	E1	SD03	(No. 37)	土師器	皿	B2-b	10.0	-	1.6	指オサエ	横ナデ		2002-37
1103	SS2	E1	SD03	No. 17	土師器	皿	B2-b	10.0	-	1.9	指オサエ	横ナデ		5017
1104	SS2	E1	SD03	(No. 3)	土師器	皿	C2	7.7	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		2002-3
1105	SS2	E1	SD03	(No. 5)	土師器	皿	C2	7.9	-	1.8	指オサエ	一方向ナデ		2002-5
1106	SS2	E1	SD03	(No. 12)	土師器	皿	C2	7.0	-	1.5	指オサエ	一方向ナデ		2002-12
1107	SS2	E1	SD03	(No. 15)	土師器	皿	C2	7.7	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2002-15
1108	SS2	E1	SD03	(No. 24下①)	土師器	皿	C2	7.3	-	1.6	指オサエ	一方向ナデ		2002-24下①
1109	SS2	E1	SD03	No. 19	土師器	皿	C2	7.6	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		5019
1110	SS2	E1	SD03	No. 22	土師器	皿	C2	7.3	-	1.1	指オサエ	一方向ナデ		5022
1111	SS2	E1	SD03	No. 26	土師器	皿	C2	7.2	-	1.3	指オサエ	不明瞭(一方向ナデ)		5026
1112	SS2	E1	SD03	上層	陶器(瀬戸美濃)	端反皿	大窯第1段階	-	-	(2.2)	灰釉	灰釉		12
1113	SS2	E1	SD03	(No. 8)	土師器	皿	C1?	7.8	-	1.5	指オサエ	横ナデ		2003-8
1114	SS2	E1	SD03	(No. 2)	土師器	皿	B2-b	9.8	-	1.4	指オサエ	横ナデ		2003-2
1115	SS2	E1	SD03	(No. 15)	土師器	皿	B2-b	13.1	-	2.2	指オサエ	横ナデ		2003-15
1116	SS2	E1	SD03	(No. 19)	土師器	皿	B2-b	13.2	-	2.2	指オサエ	横ナデ		2003-19
1117	SS2	E1	SD03	(No. 3)	土師器	皿	C2	7.1	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2003-3
1118	SS2	E1	SD03	(No. 22)	土師器	皿	C2	7.7	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		2003-22
1119	SS2	E1	SD03	下層	土師器	皿	C2	7.1	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		16
1120	SS2	E1	SD05		石製品	紡錘	-	長(6.4)	幅(6.7)	厚(2.1)	-	-	研磨	25
1121	SS2	E1	SD08	(No. 15)	土師器	皿	B2-a	10.0	-	1.7	指オサエ	横ナデ		2005-15
1122	SS2	E1	SD08	(No. 5)	土師器	皿	B2-b	9.9	-	1.6	指オサエ	横ナデ		2005-5
1123	SS2	E1	SD08	(No. 4)	土師器	皿	B2-b	11.0	-	2.1	指オサエ	横ナデ		2005-4
1124	SS2	E1	SD08	(No. 1)	土師器	皿	C2	7.4	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		2005-1
1125	SS2	E1	SD08	(No. 7)	土師器	皿	C2	7.5	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		2005-7
1126	SS2	E1	SD08	(No. 3)	土師器	皿	C2	6.9	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		2005-3
1127	SS2	E1	SD08	(No. 8)	土師器	皿	C2	7.4	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2005-8
1128	SS2	E1	SD08	(No. 9)	土師器	皿	C2	7.5	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2005-9
1129	SS2	E1	SD08	(No. 14)	土師器	皿	C2	7.3	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		2005-14
1130	SS2	E1	SD14	No. 16	土師器	皿	B2-a	9.6	-	1.9	横ナデ，指オサエ	横ナデ		5016
1131	SS2	E1	SD14	No. 15	土師器	皿	C2	7.4	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		5015
1132	SS2	E1	SD14	No. 9	石製品	紡錘	-	長(6.4)	幅(6.1)	厚(1.2)	-	-	研磨	5009
1133	SS2	E1	SD15		土師器	皿	B2-a?	(12.0)	-	(2.5)	横ナデ，指オサエ	横ナデ	横ナデ不明瞭	43
1134	SS2	E1	SD15		土師器	皿	C2	(6.8)	-	(1.2)	指オサエ	一方向ナデ		44
1135	SS2	E1	SD15	No. 5	須恵器(東海系)	四耳壺	V期第1小期	(13.2)	-	-	回転ナデ	回転ナデ		5006
1136	SS2	F1	SD13		陶器(瀬戸美濃)	平碗?	古瀬戸後期前	(8.6)	-	(1.5)	灰釉	灰釉		8
1137	SS2	F1	SD13		陶器(瀬戸美濃)	稜碗小皿	古瀬戸後期新	(9.0)	-	(1.2)	鉄釉	鉄釉		6
1138	SS2	F1	SD13		陶器(瀬戸美濃)	稜碗小皿	古瀬戸後IV期古	-	-	(1.3)	灰釉	灰釉		1
1139	SS2	F1	SD13		陶器(瀬戸美濃)	内耳鍋	古瀬戸後IV期古	-	-	(1.7)	緑釉	緑釉		15
1140	SS2	F1	SD13	(No. 66)	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後IV期新	30.9	10.8	10.2	緑釉	緑釉	櫛目12本，6方向	2001-66
1141	SS2	F1	SD13		陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後IV期新	(32.9)	-	(5.6)	緑釉	緑釉	櫛目10本ヨリ8方向以上	8
1142	SS2	F1	SD13		陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後IV期新	(32.6)	-	(5.6)	緑釉	緑釉	櫛目10本	6
1143	SS2	F1	SD13		陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後IV期新	-	-	(2.5)	緑釉	緑釉		5
1144	SS2	F1	SD13		陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後IV期新	-	-	(3.2)	緑釉	緑釉		17
1145	SS2	F1	SD13	(No. 294)	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後IV期新	(34.0)	-	(2.6)	鉄釉	鉄釉		2001-294
1146	SS2	F1	SD13	(No. 300)	土師器	内耳鍋	15c末～16c初(1～1類)	24.6	-	(6.8)	指オサエ	横ハケ	内外面コゲ有	2001-300
1147	SS2	F1	SD13	(No. 120)	土師器	内耳鍋	15c末～16c初(1～1類)	(26.0)	-	(11.6)	指オサエ，ハリケズリ	横ハケ	内外面コゲ有	2001-120
1148	SS2	F1	SD13		陶器(常滑)	甕	10型式(新相)	(21.2)	-	(4.1)	鉄釉	鉄釉		1
1149	SS2	F1	SD13	下層	陶器(常滑)	甕	10型式(新相)	(38.6)	-	(4.2)	鉄釉	鉄釉		4

第17表　遺物観察表（14）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等	種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
1150	SS2	F1	SD13	須恵器(美濃須衛)	長頸瓶	須恵後半	-	高台径(12.0)	(3.7)	回転ナデ	回転ナデ		7
1151	SS2	F1	SD13	灰釉陶器(美濃)	皿	虎渓山1号窯式期(VII中～新)	-	高台径(5.4)	(1.1)	露胎	露胎		1
1152	SS2	F1	SD13 No. 140	山茶碗(南部系)	碗	4型式	-	8.0	-	回転ナデ	回転ナデ		S140
1153	SS2	F1	SD13	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	高台径(11.0)	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ	内面底部摩滅	8
1154	SS2	F1	SD13 (No237)	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	高台径(7.2)	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ	内面底部摩滅	Z001-237
1155	SS2	F1	SD13	山茶碗(南部系)	碗	5型式	-	高台径(8.0)	((2.6)	回転ナデ	回転ナデ	内面底部摩滅	7
1156	SS2	F1	SD13 (No. 157)	山茶碗(南部系)	碗	6型式	-	高台径6.0	(1.8) 高台高0.4	回転ナデ	回転ナデ		Z001-157
1157	SS2	F1	SD13 (No. 376)	土師器	皿	B1?	12.1	-	2.0	指オサエ	横ナデ		Z001-376
1158	SS2	F1	SD13 No. 143	土師器	皿	B1	10.7	-	2.0	横ナデ、指オサエ	横ナデ		S143
1159	SS2	F1	SD13 (No. 356)	土師器	皿	B1?	12.6	-	2.2	指オサエ	横ナデ		Z001-356
1160	SS2	F1	SD13 (No. 363)	土師器	皿	B2-a	10.1	-	1.9	指オサエ	不明線(横ナデ)		Z001-363
1161	SS2	F1	SD13 No. 143	土師器	皿	B2-a	(13.6)	-	2.0	横ナデ、指オサエ	横ナデ		S143
1162	SS2	F1	SD13 (No. 435)	土師器	皿	B2-a?	(15.6)	-	(2.3)	横ナデ、指オサエ	不明線(横ナデ)	横ナデ不明線	Z001-435
1163	SS2	F1	SD13 (No. 435)	土師器	皿	B2-a	(18.9)	-	(3.0)	不明線(横ナデ)	不明線(横ナデ)		Z001-435
1164	SS2	F1	SD13 No. 139	土師器	皿	B2-b	(9.7)	-	1.5	不明線	不明線(横ナデ)		S139
1165	SS2	F1	SD13 (No. 8)	土師器	皿	B2-b	9.5	-	1.7	指オサエ	不明線(横ナデ)		Z001-8
1166	SS2	F1	SD13 (No. 31)	土師器	皿	B2-b	9.6	-	1.6	指オサエ	横ナデ		Z001-31
1167	SS2	F1	SD13 (No. 34)	土師器	皿	B2-b	9.8	-	1.8	指オサエ	不明線(横ナデ)		Z001-34
1168	SS2	F1	SD13 (No. 43)	土師器	皿	B1?	9.9	-	1.9	指オサエ	横ナデ		Z001-43
1169	SS2	F1	SD13 (No. 48)	土師器	皿	B2-b	10.0	-	1.8	指オサエ	横ナデ		Z001-48
1170	SS2	F1	SD13 (No. 75)	土師器	皿	B2-b	9.7	-	1.6	指オサエ	横ナデ		Z001-75
1171	SS2	F1	SD13 (No. 118)	土師器	皿	B2-b	9.7	-	1.8	指オサエ	不明線(横ナデ)		Z001-118
1172	SS2	F1	SD13 (No. 119)	土師器	皿	B2-b	9.8	-	1.6	指オサエ	横ナデ		Z001-119
1173	SS2	F1	SD13 (No. 170)	土師器	皿	B2-b	10.1	-	1.9	指オサエ	横ナデ	タール付着	Z001-170
1174	SS2	F1	SD13 (No. 203下)	土師器	皿	B2-b	9.7	-	1.9	指オサエ	横ナデ		Z001-203下
1175	SS2	F1	SD13 (No. 209)	土師器	皿	B2-b	9.5	-	1.8	指オサエ	横ナデ		Z001-209
1176	SS2	F1	SD13 (No. 365)	土師器	皿	B2-b	9.2	-	1.7	指オサエ	不明線(横ナデ)		Z001-365
1177	SS2	F1	SD13 (No. 373)	土師器	皿	B2-b	9.8	-	1.8	指オサエ	横ナデ		Z001-373
1178	SS2	F1	SD13 (No. 425)	土師器	皿	B2-b	9.7	-	1.8	指オサエ	横ナデ		Z001-425
1179	SS2	F1	SD13 No. 135	土師器	皿	B2-b	11.7	-	2.2	指オサエ	横ナデ		S135
1180	SS2	F1	SD13 (No. 28)	土師器	皿	B2-b	11.5	-	2.2	指オサエ	横ナデ		Z001-28
1181	SS2	F1	SD13 (No. 50)	土師器	皿	B2-b	12.2	-	2.1	指オサエ	横ナデ		Z001-50
1182	SS2	F1	SD13 (No. 94)	土師器	皿	B2-b	12.0	-	2.0	指オサエ	横ナデ		Z001-94
1183	SS2	F1	SD13 (No. 166)	土師器	皿	B2-b	11.8	-	2.0	指オサエ	横ナデ		Z001-166
1184	SS2	F1	SD13 (No. 241)	土師器	皿	B2-b	11.5	-	2.0	指オサエ	横ナデ		Z001-241
1185	SS2	F1	SD13 (No. 52)	土師器	皿	B2-b	12.8	-	2.3	指オサエ	横ナデ	タール付着	Z001-52
1186	SS2	F1	SD13 (No. 244)	土師器	皿	B2-b	11.5	-	1.9	指オサエ	不明線(横ナデ)		Z001-244
1187	SS2	F1	SD13 (No. 245)	土師器	皿	B2-b	11.5	-	2.0	未調整	不明線(横ナデ)		Z001-245
1188	SS2	F1	SD13 (No. 347)	土師器	皿	B2-b	11.9	-	2.1	指オサエ	不明線(横ナデ)		Z001-347
1189	SS2	F1	SD13 (No. 374)	土師器	皿	B2-b	11.9	-	1.9	指オサエ	横ナデ		Z001-374
1190	SS2	F1	SD13	土師器	皿	B2-b	(15.2)	-	(2.3)	指オサエ	横ナデ2段		4
1191	SS2	F1	SD13 (No. 348下)	土師器	皿	B2-b	10.0	-	1.8	指オサエ	横ナデ	墨書有「□ねん□」	Z001-348下
1192	SS2	F1	SD13 (No. 358)	土師器	皿	B2-b	10.2	-	1.9	指オサエ	横ナデ	墨書有「いゝ三」	Z001-358
1193	SS2	F1	SD13 (No. 340下①)	土師器	皿	B2-b	9.9	-	2.0	指オサエ	横ナデ	墨書有「そ□□」、ナデ左回転	Z001-340下①
1194	SS2	F1	SD13 (No. 357)	土師器	皿	B2-b	12.5	-	2.2	指オサエ	横ナデ	墨書有「与七郎」	Z001-357
1195	SS2	F1	SD13	土師器	皿	B2-b	12.4	-	2.2	指オサエ	横ナデ	墨書有「□(ヒカ)院殿」	17
1196	SS2	F1	SD13 No. 134	土師器	皿	C2	7.8	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		S134
1197	SS2	F1	SD13 No. 135	土師器	皿	C2	7.7	-	1.7	指オサエ	一方向ナデ		S135
1198	SS2	F1	SD13 No. 140	土師器	皿	C2	7.4	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		S140
1199	SS2	F1	SD13 No. 138	土師器	皿	C2	7.1	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		S138
1200	SS2	F1	SD13 No. 142	土師器	皿	C2	(7.6)	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		S142
1201	SS2	F1	SD13 No. 136	土師器	皿	C2	(7.3)	-	1.5	指オサエ	一方向ナデ		S136
1202	SS2	F1	SD13 No. 133	土師器	皿	C2	7.6	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		S133
1203	SS2	F1	SD13 No. 133	土師器	皿	C2	7.4	-	1.1	指オサエ	一方向ナデ		S133
1204	SS2	F1	SD13 (No. 11)	土師器	皿	C2	7.4	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		Z001-11
1205	SS2	F1	SD13 (No. 24)	土師器	皿	C2	7.6	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		Z001-24
1206	SS2	F1	SD13 (No. 104)	土師器	皿	C2	7.7	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		Z001-104
1207	SS2	F1	SD13 (No. 106)	土師器	皿	C2	7.2	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		Z001-106
1208	SS2	F1	SD13 (No. 169)	土師器	皿	C2	8.0	-	1.6	指オサエ	一方向ナデ		Z001-169
1209	SS2	F1	SD13 (No. 252)	土師器	皿	C2	7.5	-	1.2	指オサエ	不明線(一方向ナデ)		Z001-252
1210	SS2	F1	SD13 (No. 253)	土師器	皿	C2	7.7	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		Z001-253
1211	SS2	F1	SD13 (No. 255下)	土師器	皿	C2	8.0	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		Z001-255下
1212	SS2	F1	SD13 (No. 327)	土師器	皿	C2	7.7	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		Z001-327
1213	SS2	F1	SD13 (No. 328)	土師器	皿	C2	7.7	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		Z001-328
1214	SS2	F1	SD13 (No. 329)	土師器	皿	C2	7.9	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		Z001-329
1215	SS2	F1	SD13 (No. 401)	土師器	皿	C2	7.7	-	1.8	指オサエ	一方向ナデ		Z001-401
1216	SS2	F1	SD13 (No. 85)	石製品	砥石	-	長(11.1)	幅(8.8)	厚(8.6)	-	-	砂岩、使用面2面、タール付着	Z001-85
1217	SS2	F1	SD13 (No. 380)	木製品	曲物	-	長(20.1)	幅(19.6)	厚(6.0)	黒漆	朱漆	カゴ状の漆製品か	Z001-380
1218	SS2	F1	SD10	陶器 (瀬戸美濃)	鉄釉小皿	古瀬戸後IV期新	(10.0)	-	(1.9)	灰釉	灰釉		32
1219	SS2	F1	SD12	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系16c	-	-	(1.4)			蓮文有?	41
1220	SS2	F1	SD12 (No. 7)	土師器	皿	B2-a	(15.1)	-	(2.1)	横ナデ、指オサエ	不明線(横ナデ)		Z002-7
1221	SS2	F1	SD12 (No. 1)	土師器	皿	B2-b	12.6	-	2.0	指オサエ	横ナデ		Z002-1
1222	SS2	F1	SD12 (No. 2)	土師器	皿	B2-b	9.7	-	1.8	指オサエ	横ナデ		Z002-2
1223	SS2	F1	SD12 (No. 5)	山茶碗(南部系)	碗	4型式	-	高台径(9.5)	(2.8) 高台高0.8	回転ナデ	回転ナデ		Z002-5
1224	SS2	F1	SK03 No. 2	陶器 (瀬戸美濃)	平碗	古瀬戸後IV期新	17.0	5.0	6.2	灰釉、底部無	灰釉		S002
1225	SS2	F1	SK03 上層	陶器 (瀬戸美濃)	鉢鉢	古瀬戸後IV期新	(32.0)	-	(2.4)	鉄釉	鉄釉		184
1226	SS2	F1	SK03 No. 113	土師器	内耳鍋	15c末～16c初(I－1期)	(23.1)	-	-	指オサエ	横ハケ	外面煤付着	S113
1227	SS2	F1	SK03 No. 125	土師器	皿	B2-b	12.4	-	2.3	指オサエ	不明線(横ナデ)		S125
1228	SS2	F1	SK03 No. 2	陶器 (瀬戸美濃)	鉄釉小皿	古瀬戸後前期	(13.0)	-	(2.1)	鉄釉	鉄釉	ヘラ記号有	S002
1229	SS2	F1	SK03	石製品	墨石?	-	長1.7	幅1.0	厚0.5	-	-	粘板岩?	189
1230	SS2	F1	SK03 No. 2	陶器 (瀬戸美濃)	鉄反釉	古瀬戸後IV期古	(14.3)	-	(5.1)	灰釉、底部無	灰釉		S002
1231	SS2	F1	SK03 下層	山茶碗(之郷系)	碗	脇之島3号窯式期	(12.0)	-	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ		186
1232	SS2	F1	SK05 No. 3	須恵器(美濃須衛)	有台杯	V期第1小期	(16.2)	高台径(11.0)	(4.6) 高台高0.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有?	S003
1233	SS2	F1	SK03 No. 6	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	(12.9)	(7.7)	3.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ記号有?	S006
1234	SS2	F1	SK03 No. 5	須恵器(美濃須衛)	無台杯	V期第1小期	(11.9)	(6.8)	4.0	回転ナデ	回転ナデ	タール付着、二次被熱?	S005
1235	SS2	F1	SK04 (No. 8)	陶器 (瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	(10.5)	-	(4.5)	鉄釉	鉄釉		Z004-8
1236	SS2	F1	SK04 (No. 2)	陶器 (瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後IV期新	(11.5)	-	(1.8)	灰釉	灰釉		Z004-2
1237	SS2	F1	SK04 (No. 1)	陶器 (瀬戸美濃)	鉢鉢	大窯第1段階	-	-	(9.1)	鉄釉	鉄釉	部目15本	Z004-1

第18表　遺物観察表（15）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等		器種	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
1238	SS2	F1	SK04	(No. 6)	土師器	皿	B2-b	(10.0)	-	(1.6)	指オサエ	横ナデ	タール付着	2004-9
1239	SS2	F1	SK04	(No. 15)	土師器	皿	C2	7.1	-	0.9	指オサエ	一方向ナデ		2004-15
1240	SS2	F1	SK04	(No. 3)	土師器	内耳鍋	15c末～16c初（1～1期）	-	-	(5.4)	指オサエ	横ハケ	内外面コゲ有	2004-3
1241	SS2	F1	SK04	(No. 6)	石製品	砥石	-	長(2.5)	幅(5.8	厚(3.5)	-	-	底部	2004-6
1242	SS2	F1	SK07		土師器	皿	B2-b	(11.0)	-	(2.0)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		189
1243	SS2	F1	SK07		中国産磁器	染付皿	B1群(15c～16c)	-	(7.0)	(0.9)	青磁	青草文		189
1244	SS2	F1	SK07		土師器（ロクロ土師器）	皿	東山72～山茶碗4期併行	-	(5.0)	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ	底部糸切	189
1245	SS2	F1	SK07	(No. 5・6)	山茶碗（尾張系）	大平椀	10型式	-	高台径(9.4)	(6.3) 高台高0.4	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ		2005-5・6
1246	SS2	F1	SK07	(No. 1)	山茶碗（尾張系）	椀	6型式	-	高台径(7.6)	(7.9) 高台高0.5	回転ナデ	回転ナデ		2005-1
1247	SS2	F1	SK07		山茶碗（尾張系）	皿	6型式	(9.6)	(6.0)	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ		189
1248	SS2	F1	SK07	(No. 3)	陶器（瀬戸美濃）	壺	古瀬戸後1～II期	-	(13.3)	(3.0)	露胎	灰釉		2005-3
1249	SS2	F1	SK14		土師器	皿	C2	7.2	-	1.5	指オサエ	一方向ナデ		223
1250	SS2	F1	SK14		土師器	皿	B1	(10.6)	-	(2.2)	指オサエ	横ナデ		224
1251	SS2	F1	SK14		中国産磁器	染付皿	B1群(15～16c)	(10.0)	-	(2.0)	青磁	青磁、唐草文		222
1252	SS2	F2	SK13		陶器（瀬戸美濃）	梅瓶形壺か	古瀬戸後III期	-	(4.0)	(1.3)	露胎	露胎		36
1253	SS2	F2	SK13		須恵器（美濃須衛）	杯蓋	V期第1小期	-	つまみ径3.0	つまみ高0.6(1.6)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		36
1254	SS2	F2	SK13		灰釉陶器（東海地方）	椀	折戸53号・大窯2号窯式期(VI新～VII古)	(14.4)	-	(3.4)	施釉	施釉	赤彩痕有し	36
1255	SS2	F2	SK14		山茶碗（北部系）	椀	白土原1号窯式期	-	-	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ		38
1256	SS2	F2	SK15	No. 16	銅製品	銭貨（熙寧元宝）	-	直径2.3	-	厚0.1	-	-	北宋銭、初鋳年1068年	5016
1257	SS2	F2	FT13		銅製品	銭貨（永乗通宝）	-	直径(2.4)	-	厚0.1	-	-	明銭、初鋳年1411年	-
1258	SS2	F2	SK18	No. 17	土師器	皿	B2-b	(18.9)	-	(2.8)	指オサエ	横ナデ		5017
1259	SS2	F2	SK18	No. 21	土師器	皿	B2-b	(16.0)	-	(2.3)	指オサエ	横ナデ		5021
1260	SS2	F2	SK26		土師器	皿	C2	(7.0)	-	(1.2)	指オサエ	一方向ナデ		43
1261	SS2	F2	SK26		土師器	皿	C2	(7.6)	-	(1.5)	指オサエ	一方向ナデ		44
1262	SS2	F2	SK27	(No. 3)	土師器	皿	B2-b	-	-	(2.0)	指オサエ	不明瞭（横ナデ）		2004-3
1263	SS2	F2	SK27		土師器	皿	C2	(8.2)	-	(1.3)	指オサエ	一方向ナデ		48
1264	SS2	F2	SK27		土師器	皿	C2	(8.4)	-	(1.4)	指オサエ	一方向ナデ		49
1265	SS2	F2	SK27	(No. 6)	灰釉陶器（尾張）	椀	黒笹90号窯式期(VI中)	(15.8)	高台径(7.7)	(5.4) 高台高0.8	施釉	施釉	ヘラ記号有	2004-6
1266	SS2	F2	SK27	(No. 7)	石製品	砥石	-	長(3.4)	幅(5.3	厚(1.1	-	-	砥石	2004-7
1267	SS2	F2	SK09		土師器	皿	C2	7.8	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		66
1268	SS2	F2	SK50		灰釉陶器（尾張）	椀	光ヶ丘1号窯式期(VI期～VII古)	-	高台径(6.2)	(2.0) 高台高0.6	施釉	施釉		98
1269	SS2	F2	SK03		土師器	伊勢型鍋	1期	(13.0)	-	(6.5)	刷めハケ	横ハケ		86
1270	SS2	F2	SK05		須恵器（瓶類）	無蓋高杯	東山44号窯式期	(15.0)	-	(5.1)	回転ナデ	回転ナデ		90
1271	SS2	F2	SK05		灰釉陶器（尾張）	椀	大窯2号窯式期(VII古～中)	-	高台径(5.6)	(1.0) 高台高0.7	露胎	露胎		89
1272	SS2	F2	SK09		土師器	皿	C2	7.5	-	1.2	指オサエ	一方向ナデ		101
1273	SS2	F2	SK09		土師器	鍋	庄内系？	-	-	頸部高1.4(3.0)	タタキ	横ナデ	北上がりのタタキ目	101
1274	SS2	F2	SX10		土師器	皿	C2	(6.8)	-	(2.1)	指オサエ	一方向ナデ		220
1275	SS2	F1	P08		土師器	皿	C2	7.6	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		249
1276	SS2	F2	P338		山茶碗（北部系）	椀	猿之島3号窯式期	(12.4)	-	5.4	回転ナデ	回転ナデ		202
1277	SYS2	A2	SD02		陶器（瀬戸美濃）	丸目茶碗	大窯第1段階	-	-	(3.5)	鉄釉	鉄釉		7
1278	SYS2	A2	SD02	下層	土師器	皿	B2-a	-	-	(3.4)	横ナデ	横ナデ		8
1279	SYS2	A2	SD03	(No. 8)	陶器（瀬戸美濃）	壺	古瀬戸後IV期新	-	(15.8)	6.5	露胎	露胎		2001-8
1280	SYS2	A2	SD03	(No. 5)	陶器（常滑）	甕	15c前半	-	-	(5.7)	横ナデ	横ナデ	生産地	2001-5
1281	SYS2	A2	SD03	(No. 6+9)	土師器	皿	B2-b	(13.5)	-	(2.7)	指オサエ	横ナデ		2001-6
1282	SYS2	A2	SD03	(No. 4)	土師器	皿	C2	7.4	-	1.3	指オサエ	一方向ナデ		2001-4
1283	SYS2	A2	SD03	(No. 11)	土師器	伊勢型鍋	2期	(22.0)	-	(7.0)	縦ハケ	横ハケ		2001-11
1284	SYS2	A2	SD03	(No. 7)	須恵器（美濃須衛）	高杯	II期後半	-	-	(2.5)	回転ヘラ削り	自然釉		2001-7
1285	SYS2	A2	SD03	(No. 3)	土師器	鍋類形鍋	16c後半（B3期）	-	-	(4.6)	ナデ	ケズリ		2001-3
1286	SYS2	A2	SD03		土師器	伊勢型鍋	第1段階b型式	-	-	(12.5)	横ナデ	横ナデ		13
1287	SYS2	A2	SD03		陶器（常滑）	大甕	6a型式	(37.0)	-	(11.0)	自然釉	露胎		15
1288	SYS2	A2	SD04	(No. 27)	陶器（瀬戸美濃）	印花	古瀬戸後IV期新	-	-	(4.1)	緑釉	緑釉		2003-27
1289	SYS2	A2	SD04	(No. 2)	陶器（瀬戸美濃）	折縁深皿	古瀬戸後IV期新	-	-	(3.1)	灰釉	灰釉		2003-2
1290	SYS2	A2	SD04	(No. 20)	陶器（瀬戸美濃）	折縁深皿	古瀬戸後IV期新	-	-	(2.3)	灰釉	灰釉		2003-20
1291	SYS2	A2	SD04	(No. 16)	山茶碗（北部系）	椀	生田2号窯式期	(10.6)	-	(3.9)	回転ナデ	回転ナデ		2003-16
1292	SYS2	A2	SD04	(No. 12)	土師器	皿	B2-a	10.5	-	2.6	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-12
1293	SYS2	A2	SD04	(No. 2・4..18)	土師器	皿	B2-a	(17.2)	-	(3.6)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-2・4
1294	SYS2	A2	SD04	(No. 15)	土師器	皿	B2-a	(2.5)	-	(2.4)	横ナデ、指オサエ	横ナデ	タール付着	2003-15
1295	SYS2	A2	SD04	(No. 24)	土師器	皿	B2-a	(3.6	-	2.75	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-24
1296	SYS2	A2	SD04	(No. 5)	土師器	皿	B2-b	(11.2)	-	(2.1)	指オサエ	横ナデ		2003-5
1297	SYS2	A2	SD04	(No. 25)	土師器	皿	B2-b	12.9	-	2.1	指オサエ	横ナデ	タール付着	2003-25
1298	SYS2	A2	SD04	(No. 7)	土師器	皿	B2-b	9.6	-	1.8	指オサエ	横ナデ	タール付着	2003-7
1299	SYS2	A2	SD04	(No. 28)	土師器	皿	C3	8.1	-	1.1	指オサエ	一方向ナデ		2003-28
1300	SYS2	A2	SD04	(No. 17)	土師器	皿	B4	4.9	-	1.8	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-17
1301	SYS2	A2	SD04	(No. 29)	土師器	皿	B1	4.1	-	1.4	横ナデ、指オサエ	横ナデ		2003-29
1302	SYS2	A2	SD07		土師器	皿	B1	(5.0)	-	(1.2)	横ナデ	横ナデ		30
1303	SYS2	A1	SD09		土師器	皿	C2	-	-	(1.0)	指オサエ	一方向ナデ		34
1304	SYS2	A1	SD09		土師器	皿	C3	-	-	(1.3)	指オサエ	一方向ナデ		34
1305	SYS2	A2	SK01		陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	-	-	(1.0)	鉄釉	鉄釉		102
1306	SYS2	A2	SK01		山茶碗（北部系）	椀	生田2号窯式期	-	-	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ		100
1307	SYS2	A2	SK01		土師器	皿	B1?	(15.0)	-	(2.2)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		100
1308	SYS2	A2	SK01		土師器	皿	C2	(7.0)	-	(1.5)	指オサエ	一方向ナデ	タール付着	100
1309	SYS2	A2	SK01		土師器	伊勢型鍋	第1段階b型式	(24.0)	-	(2.0)	横ナデ	横ナデ	外面煤付着	100
1310	SYS2	A2	SK01		陶器（常滑須恵系）	壺	-	-	(18.0)	(4.9)	平行タタキ	ナデ	底部～山茶碗併行	100
1311	SYS2	A1	SK05		陶器（瀬戸美濃）	腰折皿	古瀬戸後IV期新	-	-	(1.9)	灰釉	灰釉		110
1312	SYS2	A1	SK05		陶器（瀬戸美濃）	端反皿	大窯第1段階	-	-	(1.2)	灰釉	灰釉		110
1313	SYS2	A1	SK05		土師器	皿	C3	(8.0)	(5.0)	(1.0)	指オサエ	一方向ナデ		110
1314	SYS2	A1	SK05		土師器	皿	B2or B4	-	-	(1.3)	横ナデ	横ナデ		110
1315	SYS2	A1	SK05		土製品	土鈴	-	径(2.4)	幅(2.5)	-	-	-		110
1316	SYS2	A1	SK05		須恵器（美濃須衛）	杯身	東部後半	-	-	2.35	回転ナデ	回転ナデ		110
1317	SYS2	A2	P30		土師器	皿	B2-b	13.5	8.2	2.6	指オサエ	横ナデ	タール付着	159
1318	SYS2	A2	P12		土製品	土錘	-	長4.9	幅1.0	厚1.0	-	-		169
1319	SYS2	A2	P12		土師器	皿	B2-a	(16.0)	(9.0)	(3.3)	横ナデ、指オサエ	横ナデ		169
1320	SS2	A3	SD24		土師器	皿	C2	(6.4)	-	(1.1)	未調整	一方向ナデ		61
1321	SS2	A3	SD24		近世陶器（瀬戸）	丸皿	7小期	(14.4)	高台径(5.0)	(1.0)	施釉	施釉		61
1322	SS2	A1	SD01	第2	土製品	土錘	-	-	-	(1.5)	-	-		103
1323	SS2	A1	SD01	第3	近世陶器（瀬戸）	丸小皿	8～9小期	-	-	(2.5)	施釉	施釉		103
1324	SS2	A1	SD01	第2	近世陶器（瀬戸）	筒鉢	8小期	-	-	(2.5)	鉄釉	鉄釉		102
1325	SS2	A1	SD03		山茶碗（北部系）	椀	生田2号窯式期	(10.2)	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ		229
1326	SS2	A1	SD03		近世陶器	皿？	-	-	-	(0.9)	施釉	施釉		186
1327	SS2	A2	SX02		土師器	鍋	B2-b	-	-	81.6)	横ナデ	横ナデ		170
1328	SS2	A2	SX02		土師器	皿	C2	(6.2)	-	(1.4)	指オサエ	一方向ナデ		170

第19表　遺物観察表（16）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・個体番号	種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
1329	SS2	B4	SS33		山茶碗(北部系)	碗	大型大碗4号窯式期古	-	高台径(5.5)	(2.0) 高台高0.8	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、判読不明	180
1330	SS2	B4	SS03	下層	山茶碗(北部系)	碗	不明	-	-	(0.4)	-	-	墨書有、判読不明	173
1331	SS2	B6	SS04		土師器	皿	B2-a	-	-	(2.6)	横ナデ、指オサエ	横ナデ	タール付着	19
1332	SS2	C3	SS01	上層	中国磁器類	染付皿	B1群(16～16c)	(13.2)	(7.9)	(2.4)	蛇蛇、唐草文	蛇蛇、唐草文		3
1333	SS2	C3	SS01		陶器(瀬戸美濃)	擂鉢小底	古瀬戸後IV期古	-	-	(1.8)	灰釉	灰釉		4
1334	SS2	C3	SS01	上層	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後IV期新	-	-	(2.8)				2
1335	SS2	C3	SS01		陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	大窯第1段階	-	-	(1.8)	鉄釉	鉄釉		1
1336	SS2	C3	SS01		陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	大窯第1段階	-	-	(3.2)	鉄釉	鉄釉		6
1337	SS2	C3	SS01		近世陶器	碗		-	-	(1.4)	施釉	施釉		4
1338	SS2	C3	SS01		土製品	土錘	-	長4.5	幅3.0	厚2.0	-	-		1
1339	SS2	C3	SS01		陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	(12.0)	-	(6.5)	鉄釉	鉄釉		59
1340	SS2	C3	SS01		土師器	皿	C2	7.4	5.8	1.4	指オサエ	一方向ナデ		10
1341	SS2	C3	SS01		土師器	皿	D1	(4.8)	(3.7)	(1.2)	横ナデ	横ナデ		16
1342	SS2	C3	SS01		近世陶器(瀬戸美濃)	端反碗	1～4小期	-	-	(1.6)	鉄釉	鉄釉		18
1343	SS2	C3	SS01		近世陶器(美濃)	悪徳徳利	1小期	-	-	(1.6)	鉄釉	鉄釉		18
1344	SS2	C3	SS01	No. 2	石製品	碁	-	厚(4.7)	幅(4.2)	厚(0.8)	-	-	粘板岩	5002
1345	SS2	C3	SS01	No. 1	銅製品	煙管(雁首)	-	径(6.4)	幅0.9～1.8	厚0.9	-	-	先端部・途中一部欠損	5001
1346	SS2	D4	SD11		近世陶器(瀬戸)	碗	5～7小期	(12.0)	-	(4.2)	施釉	施釉		7
1347	SS2	D2	SS02		近世陶器(美濃)	碗	8～11小期	(12.0)	-	(2.9)	施釉	施釉		136
1348	SS2	D2	SS02		陶器(瀬戸美濃)	平碗	古瀬戸後前期	(15.2)	-	(4.6)	灰釉	灰釉		8
1349	SS2	D2	SS02		銅製品	煙管(雁首)	-	径(4.7)	幅1.5	厚1.2	-	-	先端部欠損	97
1350	SS2	D2	SS03		山茶碗(南部系)	碗	2型式	(16.0)	-	(4.3)	回転ナデ	目荒板		93
1351	SS2	D2	SS03		山茶碗(南部系)	大平鉢	10型式	(29.0)	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ		93
1352	SS2	D2	SS03	下層	灰釉陶器(美濃)	碗	大窯3号～虎渓山1号窯式期(16)	-	-	(1.6)	施釉	施釉		95
1353	SS2	D2	SS03		中国産磁器	染付皿	C群(15～16c)	(16.5)	-	(1.6)	蓮唐草	唐草文		97
1354	SS2	D2	SS03		近世陶器(瀬戸)	鉢	3～4小期	(30.0)	-	(3.4)	施釉	施釉		94
1355	SS2	E1	SS01		中国産磁器	青磁鉢or大皿	龍泉窯系16～16c	(9.6)	-	-	文様	草花文		3
1356	SS2	E1	SS01		近世磁器(京焼系)	碗	-	(10.4)	-	-				1
1357	SS2	E1	SS01	下層	陶器(瀬戸美濃)	筒式花瓶	古瀬戸後I～II期	-	-	(2.4)	灰釉	灰釉		20
1358	SS2	E1	SS01	下層	土師器	皿	B2-b	-	-	(2.0)	指オサエ	横ナデ	タール付着	70
1359	SS2	E1	SS01		石製品	砥石	-	長(4.6)	幅(2.4)	厚(3.0)	-	-	砥面	60
1360	SS2	F1	SS01	No. 144	土師器	皿	B2-a?	(14.0)	-	1.9	横ナデ、指オサエ	横ナデ	横ナデ不明瞭	5144
1361	SS2	F1	SS02		土師器	皿	B2-b	(12.0)	-	(1.6)	指オサエ	横ナデ		180
1362	SS2	F1	SS02		土師器	皿	C2	8.0	-	1.1	指オサエ	一方向ナデ		180
1363	SS2	A1	SS04	上層	中国産磁器?	白磁碗	II類(13c前～中)	-	-	(3.6)	施釉	施釉		111
1364	SS2	A1	SS04		土製品	土錘	-	長(1.4)	幅(1.0)	厚(0.7)	-	-		114
1365	SS2	A2	SS07	No. 15	近世陶器(京焼)	碗	-	-	高台径(4.9)	(3.2) 高台高0.8	施釉	施釉	底部印刷	5015
1366	SS2	A2	SS09	No. 10	近世陶器(美濃)	碗	8～9小期	(10.5)	-	(5.4)	施釉	施釉		5010
1367	SS2	A2	SS09	No. 9	銅製品	煙管(雁口)	-	長(5.2)	幅1.6	厚0.9	-	-	途中欠損	5009
1368	SS2	A2	SS01	上層	土師器	平底壺	B4	(28.0)	-	(5.2)	鉢ハケ	ヘラケズリ		235
1369	SS2	A2	SS01	No. 8	灰釉陶器(瓶類)	鉢	折戸53号窯式期(VII古)	(14.2)	高台径7.0	4.4 高台高0.9	回転ナデ、灰釉	回転ナデ、灰釉		5008
1370	SS2	A2	SS01	上層	土製品	土錘	-	長8.7	幅1.3	厚1.3	-	-		236
1371	SS2	A2	SS01	下層	土製品	土錘	-	長(2.96)	幅(1.05)	厚(1.05)	-	-		237
1372	SS2	A2	SS01	上層	近世陶器(美濃)	灯明具	3～8小期	(14.0)	-	(2.8)	鉄釉	鉄釉		236
1373	SS2	A2	SS01	下層	近世陶器	皿	-	(10.0)	(5.4)	(2.5)	施釉	施釉		246
1374	SS2	A2	SS01	上層	近世陶器(瀬戸美濃)	皿	1～4小期	(13.0)	-	(1.5)	施釉	施釉		230
1375	SS2	A2	SS01	下層	近世土師器	鍋底	4期	(32.0)	-	(2.7)	横ナデ	横ナデ		237
1376	SS2	A2	SS01	No. 19	近世陶器(染付)	五合徳利	11小期以降	4.8	-	8.2	施釉	施釉		5019
1377	SS2	B1	SS02		陶器(瀬戸美濃)	擂鉢小底	古瀬戸後IV期古	-	-	(2.0)	灰釉	灰釉		1
1378	SS2	B1	SS02		近世陶器(瀬戸美濃)	皿	1～4小期	-	-	(2.0)	鉄釉	鉄釉		1
1379	SS2	B1	SS04		近世陶器(美濃)	桶茶碗	8～11小期	(10.6)	-	(3.2)	施釉	施釉		17
1380	SS3	B8	VI層		縄文土器	深鉢	五貫森式	(23.0)	-	(3.0)	条痕文、ケズリ	ナデ		33
1381	SS2	B8	VI層		縄文土器	深鉢	五貫森式	-	-	(2.9)	突帯、横ナデ	ナデ		28
1382	SS2	B8	VI層		縄文土器	浅鉢	馬見塚～曽我式	-	-	(2.6)	条痕文	横ナデ		30
1383	SS2	B8	VI層		縄文土器	深鉢	五貫森～馬見塚式	-	-	(3.2)	突帯、横ナデ	ナデ		32
1384	SS2	B8	VI層		縄文土器	壺?	大洞A式併行	(14.2)	-	(2.6)	工字文	ナデ	修復孔有り	27
1385	SS2	B8	VI層		条痕文土器	壺	樫王式	-	-	(5.6)	条痕文	横ナデ		30
1386	SS2	B8	VI層		条痕文土器	壺	樫王式	-	-	(4.3)	条痕文	横ナデ		28
1387	SS2	B8	VI層		石製品	剥片	-	長(7.3)	幅3.8	厚1.0	-	-	粘板岩	36
1388	SS2	B8	VI層		石製品	不明	-	長6.2	幅2.4	厚2.1	-	-	大谷石凝灰岩	38
1389	SS2	F2	VI層		土師器	3字壺	A類	-	-	(2.1)	口縁横ナデ	口縁横ナデ		288
1390	SS2	F2	VI層		土師器	有段口縁壺	山中式後期～堀間1	(13.4)	-	(2.0)	縦ハケ	横ハケ		288
1391	SS2	F2	VI層		縄文土師器	鉢	-	(8.4)	-	(3.6)	ミガキ	ミガキ		280
1392	SS2	F2	VI層	No. 3	土師器	伊勢型壺	A類	(13.2)	-	(10.0)	縦ハケ	横ハケ		5003
1393	SS2	F2	VI層		土師器	地蔵土器	角盤式以降	-	-	(3.6)	指オサエ	指オサエ		281
1394	SS2	F2	VI層		灰釉陶器(美濃)	鉢	光ヶ丘1号窯式期(VI前～VI古)	-	高台径(8.4)	(2.2) 高台高1.0	露胎	露胎		284
1395	SS2	F2	VI層		土製品	土錘	-	長3.2	幅1.8	厚1.6	-	-		270
1396	SS2	A4	V層		銅製品	鞍置(ロ3点ロ1軸)	-	最幅(2.2)	-	厚0.1	-	-	鞍元遺室か、部詳不明	5012
1397	SS2	B5	V層	No. 20	土師器(ロクロ土師器)	鉢	東山72～山茶碗4期併行	(16.8)	-	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ		5020
1398	SS2	B5	V層	No. 19	土師器(ロクロ土師器)	鉢	東山72～山茶碗4期併行	-	台径(4.5)	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ	底部糸切	5019
1399	SS2	A3	V層		緑釉陶器	深鉢	折戸53～東山72号窯式期(橋郎)	-	-	(1.4)	緑釉	緑釉		218
1400	SS2	B4	V層		灰釉陶器(瓶類)	碗	猿投中～新	(14.8)	-	(3.2)	施釉	施釉		453
1401	SS2	B4	V層		灰釉陶器(鉢類)	皿	虎渓山1号窯式期(VII中～新)	(12.4)	高台径(6.8)	2.1 高台高0.5	施釉	施釉		455
1402	SS2	B6	V層		中国産磁器	青磁皿	龍泉窯系I類(13c前半)	-	(4.7)	(0.8)	施釉	施釉		462
1403	SS2	A4	V層		山茶碗(南部系)	碗	7型式	-	-	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ		225
1404	SS2	A4	V層		山茶碗(南部系)	大平鉢	7型式	-	-	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ		217
1405	SS2	B5	V層		山茶碗(南部系)	大平鉢	7型式	-	-	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ		462
1406	SS2	A4	V層		山茶碗(北部系)	碗	明和1号窯式期	-	(5.2)	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ		226
1407	SS2	B6	V層		山茶碗(北部系)	皿	大窯大洞4号窯式期前	-	-	(0.4)	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、判読不明	472
1408	SS2	B4	V層		陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後IV期古	(9.5)	-	(1.9)	灰釉	灰釉		455
1409	SS2	B4	V層		陶器(瀬戸美濃)	瓶耳合子	古瀬戸後I～II期	(3.0)	-	(1.5)	灰釉	灰釉		455
1410	SS2	B4	V層		陶器(常滑)	壺	8a型式	-	-	(6.5)	鐵釉	鐵釉		453
1411	SS2	B4	V層		土師器	内耳型鍋	A4類(大洞東～霞之森併行)	(21.2)	-	(3.2)	横ナデ	横ナデ		462
1412	SS2	B6	V層		石製品	無茶石器	-	長(2.45)	幅1.6	厚0.4	-	-	下呂石	57
1413	SS2	B5	V層		石製品	砥石	-	長(7.1)	幅(4.4)	厚(0.8)	-	-	黒雲母orホルンフェルス	463
1414	SS2	A1	V層		中国産磁器	染付碗	15c～16c	-	高台径(6.4)	(1.0)	界線	施釉		228

第20表　遺物観察表（17）

番号	遺跡名	調査区名	遺構名・層名等	種類	器種	編年分類	口径/長	底径/幅	器高/厚	調整外面	調整内面	備考	注記No.
1415	SS2	A4	V層	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯第１段階	-	台径(4.4)	(1.3)	鉄釉	鉄釉		283
1416	SS2	A4	V層	陶器（瀬戸美濃）	灰釉天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期	-	-	13.3	灰釉	灰釉		228
1417	SS2	A1	Ⅳ層	陶器（瀬戸美濃）	平椀	古瀬戸後Ⅳ期新	-	-	(2.2)	鉄釉	鉄釉		359
1418	SS2	A1	Ⅳ層	陶器（瀬戸美濃）	筒形香炉	大窯第１～２段階	(7.4)	-	(1.6)	鉄釉	鉄釉		364
1419	SS2	A2	Ⅳ層	陶器（瀬戸美濃）	錆釉徳利か	大窯第１段階	(10.5)	-	(1.9)	灰釉	灰釉		236
1420	SS2	A2	Ⅳ層	山茶碗（北部系）	椀	生産分類式期	(11.3)	-	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ		236
1421	SS2	A4	Ⅳ層	土師器	皿	B2-b	13.1	-	1.8	指オサエ	横ナデ	ミガキ付き	262
1422	SS2	A2	Ⅳ層	土師器	皿	B2-b	12.8	-	2.1	指オサエ	横ナデ		259
1423	SS2	A2	Ⅲ層	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系Ⅰ期	(16.4)	-	(1.2)	鎬釉	鎬釉		269
1424	SS2	A2	Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	錆釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期新	(9.1)	(4.5)	2.7	灰釉	灰釉		269
1425	SS2	A2	Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	錆釉	古瀬戸後Ⅳ期新	-	-	(3.6)	錆釉	錆釉		267
1426	SY52	A1	トレンチ Ⅷ層相当	縄文土器	鉢or壺	船前山式	-	(4.6)	(3.0)	ケズリ	鉢ナデ		312
1427	SS2	B6	トレンチ Ⅷ層相当	縄文土器	壺	五貫森式	-	-	(4.7)	ケズリ	ナデ		39
1428	SY52	B1	トレンチ Ⅷ層相当	土師器	鍋か	堀切猫式～松河戸Ⅰ式併行	-	台径(10.4)	(3.4)	ミガキ	ナデ		59
1429	SS2	B6	トレンチ Ⅷ層相当	土師器	5手壺	加曽利E3	(13.0)	-	(3.9)	指ハケ	指オサエ		467
1430	SY52	A2	トレンチ Ⅷ層相当	土師器	5手壺	-	-	底部直径(4.5)	(3.0)	指ハケ	ナデ		233
1431	SY52	A2	トレンチ Ⅷ層相当	土師器	くの字壺		(10.0)	-	(2.9)	横ナデ	横ナデ		233
1432	SY52	A2	トレンチ Ⅷ層相当	土師器	伊勢型壺	1類	-	-	(2.6)	横ナデ	横ナデ		2
1433	SY52	A2	トレンチ Ⅴ～Ⅷ層相当	須恵器（東海窯系）	甕	東海編年	-	-	(2.0)	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ		336
1434	SY52	A2	トレンチ Ⅴ～Ⅷ層相当	須恵器（東海窯系）	壺	東海編年	(11.0)	-	(5.0)	回転ナデ	回転ナデ		341
1435	SS2	D3	トレンチ Ⅲ～Ⅴ層相当	武蔵陶器（東国）	椀	丸石2号窯式原（Ⅷ新～Ⅸ古）	-	底台径(7.7)	(1.0) 高台高0.7	鉄釉	鉄釉	内面底部煤跡	19
1436	SS2	A3	トレンチ Ⅲ～Ⅴ層相当	山茶碗（知多窯須恵型）	皿	4型式併行	(9.2)	(5.6)	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ		234
1437	SS2	C1	トレンチ Ⅲ～Ⅴ層相当	山茶碗（北部系）	皿	大畑大洞4号窯式期古	(7.4)	(5.6)	(0.9)	回転ナデ	回転ナデ		45
1438	SS2	D3	トレンチ Ⅲ～Ⅴ層相当	山茶碗（南部系）	椀	5型式	-	台径(8.0)	-	回転ナデ	回転ナデ		19
1439	SS2	B5	トレンチ Ⅲ～Ⅴ層相当	山茶碗（北部系）	皿	大畑大洞4号窯式期古	(8.4)	5.0	1.3	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、判読不明	484
1440	SS2	B4	トレンチ Ⅲ～Ⅴ層相当	山茶碗（北部系）	椀	大畑大洞4号窯式期新	-	高台径(4.8)	(1.7) 高台高0.2	回転ナデ	回転ナデ	墨書有、花押か	483
1441	SS2	C1	トレンチ 遺層相当	陶器（瀬戸美濃）	壺折底	古瀬戸後Ⅳ期新	-	-	(1.3)	灰釉	灰釉		47
1442	SS2	B6	トレンチ 遺層相当	陶器（瀬戸美濃）	鉄釉	古瀬戸後Ⅳ期新～大窯第１段階	-	(9.4)	(3.0)	鉄釉	鉄釉	刷毛12本、6方向ﾅﾃﾞ	38
1443	SS2	B4	トレンチ 遺層相当	陶器（瀬戸美濃）	鉢か	古瀬戸後Ⅳ期新～大窯第２段階	-	胴径3.8	(4.1)	鉄釉	鉄釉		199
1444	SS2	A4	トレンチ 遺層相当	土師器	皿	B2-b	9.8	4.5	2.6	指オサエ	横ナデ	ナデを回転	244
1445	SS2	F1	トレンチ 遺層相当	土師器	皿	C2	8.0	-	1.4	指オサエ	一方向ナデ		161
1446	SY52	A2	トレンチ Ⅲ～Ⅴ層相当	土製品	土錘	-	長(2.6)	幅(1.6)	厚(0.9)	-	-		3
1447	SY52	A2	トレンチ Ⅲ～Ⅴ層相当	土製品	土錘	-	長(4.0)	幅(1.1)	厚(1.0)	-	-		340
1448	SS2	F3	遺構検出 Ⅲ～Ⅵ層相当	土師器	甕	北陸系（月影式、廻間Ⅰ～Ⅱ併行）	-	-	(2.0)	回縁文	横ナデ		231
1449	SS2	B4	遺構検出 Ⅴ層相当	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系Ⅰ-5類(15c)	-	-	(2.7)	鎬釉	鎬釉		384
1450	SS2	F1	遺構検出 Ⅲ～Ⅵ層相当	山茶碗（南部系）	皿	4型式	(12.0)	(6.0)	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ		233
1451	SS2	F1	遺構検出 Ⅲ～Ⅵ層相当	陶器（瀬戸美濃）	皿？	古瀬戸後Ⅰ～Ⅳ期	(12.0)	-	(2.3)	露胎	露胎		233
1452	SS2	A1	遺構検出 Ⅲ～Ⅳ層相当	陶器（瀬戸美濃）	仏飯具	古瀬戸後Ⅳ期	(9.6)	-	(2.9)	鉄釉	鉄釉	二次被熱？	211
1453	SS2	F1	遺構検出 Ⅲ～Ⅵ層相当	陶器（瀬戸美濃）	卸皿	古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期	-	(9.0)	(1.4)	露胎	露胎		329
1454	SS2	F1	遺構検出 Ⅲ～Ⅵ層相当	土製品	土錘	-	長4.8	幅2.1	厚1.7	-	-		325
1455	SS2	F1	遺構検出 Ⅲ～Ⅵ層相当	土製品	土錘	-	長4.8	幅2.2	厚1.9	-	-		325
1456	SS2	F1	遺構検出 Ⅲ～Ⅵ層相当	土製品	土錘	-	長4.6	幅2.1	厚1.9	-	-		325
1457	SS2	F1	遺構検出 Ⅲ～Ⅵ層相当	土製品	土錘	-	長3.5	幅1.1	厚1.0	-	-		325
1458	SS2	E1	遺構検出 Ⅲ～Ⅷ層相当	石製品	有茎五角形鏃	-	長3.3	幅1.5	厚0.5	-	-	チャート	145
1459	SS2	B6	遺構検出 Ⅲ～Ⅷ層相当	石製品	剥片	-	長2.1	幅1.1	厚0.3	-	-	チャート	382
1460	SS2	D3	遺構検出 Ⅲ～Ⅴ層相当	銅製品	煙管（雁首）	-	長(4.0)	幅1.1	厚0.9	-	-	先端部欠損	23
1461	SY52	A1	遺構検出 Ⅴ～Ⅷ層相当	土師器	パレット型	山中式～廻間Ⅰ式併行	-	-	(3.4)	櫛描文、ヘラ削	横ナデ		285
1462	SY52	A2	遺構検出 Ⅴ～Ⅷ層相当	土師器	椀or坏型底	堀切猫式～松河戸Ⅰ式併行	-	-	(6.0)	櫛描文	横ハケ		340
1463	SY52	A2	遺構検出 Ⅴ～Ⅷ層相当	土師器	甕（北陸系）	寺新式（廻間Ⅱ式併行）	(18.0)	-	(4.6)	横ナデ	横ナデ		300
1464	SS2	B4	遺構検出 Ⅴ～Ⅷ層相当	須恵器（東海窯系）	椀	Ⅴ期第１小期	(14.0)	(7.0)	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ		385
1465	SS2	F2	遺構検出 Ⅲ～Ⅵ層相当	土師器	陸奥土器	東裏式2類	-	-	(3.5)	指オサエ	指オサエ		248
1466	SY52	A2	遺構検出 Ⅲ～Ⅴ層相当	土師器	内耳鍋別容	A4類（大洞東～猿之鼻併行）	(30.0)	-	(2.7)	横ナデ	横ナデ	他のA4類より胎土やや粗	277
1467	SS2	B4	遺構検出 Ⅲ～Ⅴ層相当	土師器	皿	B1	-	-	(1.8)	横ナデ	横ナデ		415
1468	SS2	B1	遺構検出 Ⅲ～Ⅴ層相当	陶器（瀬戸美濃）	折縁深皿	古瀬戸後Ⅳ期古	(33.4)	-	(2.4)	鉄釉	鉄釉		158
1469	SS2	B1	遺構検出 Ⅲ～Ⅴ層相当	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	-	-	(3.3)	鉄釉	鉄釉		156
1470	SS2	A2	遺構検出 Ⅲ～Ⅴ層相当	陶器（瀬戸美濃）	鉄釉	古瀬戸後Ⅳ期新	-	-	(2.1)	鉄釉	鉄釉		205
1471	SS2	D3	遺構検出 Ⅲ～Ⅴ層相当	中国産磁器	染付皿	15～16c	-	-	(1.2)	施釉	文様		17
1472	SY52	A1	遺構検出 Ⅲ～Ⅴ層相当	土製品	土錘	-	長(3.4)	幅(2.0)	厚(1.9)	-	-		291
1473	SY52	A2	遺構検出 Ⅲ～Ⅴ層相当	土製品	土錘	-	長(3.3)	幅(1.7)	厚(1.6)	-	-		276
1474	SS2	A2	遺構検出 Ⅲ～Ⅴ層相当	土製品	土錘	-	-	-	(2.9)	-	-		205
1475	SS2	F3	重機掘削 Ⅰ～Ⅲ層相当	土師器	鍋か	堀切猫式～松河戸Ⅰ式併行	-	-	(6.1)	ミガキ	ナデ	透かし推定3方向	281
1476	SS2	B4	重機掘削 Ⅰ～Ⅲ層相当	陶器（瀬戸美濃）	徳利	古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期	(3.0)	-	(5.0)	灰釉	灰釉		336
1477	SS2	E1	重機掘削 Ⅰ～Ⅲ層相当	陶器（瀬戸美濃）	水注	古瀬戸後Ⅳ期新	-	胴部最大径(8.0)	(3.7)	鉄釉	鉄釉		116
1478	SS2	A2	重機掘削 Ⅰ～Ⅲ層相当	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系16c	-	-	(2.0)	線刻連弁文	施釉		377
1479	SS2	A2	重機掘削 Ⅰ～Ⅲ層相当	陶器（瀬戸美濃）	白正倉茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	(13.7)	-	(4.8)	鉄釉	鉄釉		372
1480	SS2	A1	重機掘削 Ⅰ～Ⅲ層相当	陶器（瀬戸美濃）	仏飯具	古瀬戸後Ⅳ期新	(9.1)	底台径5.0	5.9 高台高0.8	鉄釉	鉄釉		274
1481	SY52	A2	重機掘削 Ⅰ～Ⅲ層相当	土製品	土錘	-	長(4.2)	幅1.3	厚1.3	-	-		262
1482	SS2	A4	重機掘削 Ⅰ～Ⅲ層相当	石製品	打製石斧	-	長(7.1)	幅5.7	厚1.4	-	-	刃抜折、未製品か	274

第21表　遺物観察表（18）

遺構名	遺跡名	調査区	縄文土器	条痕文土器	弥生土器	土師器S字甕	土師器伊勢型甕	土師器平底甕	土師器壺	土師器器台	土師器高杯	土師器その他	ロクロ土師器	他瓦土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（南部系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	古瀬戸～大窯	大窯	土師器皿（W類）	土師器皿（A類）	土師器皿（B1類）	土師器皿（B2a類）	土師器皿（B2b類）	土師器皿（C1類）	土師器皿（C2類）	土師器皿（D1類）	土師器皿（その他）	信楽型鍋	伊勢型鍋	土師質羽釜	内耳鍋	瓦質土器	中国産磁器（白磁）	中国産磁器（青磁）	中国産磁器（染付）	近世陶磁器	土製品	石製品	鉄製品	銅製品	銅銭	木製品	漆製品	貝・骨	焼土塊	瓦	合計	遺構名
SD01	SS2	A1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	1	0	4	6	0	1	0	1	0	0	0	0	11	0	4	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	69	SD01
SD02	SS2	A2・3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	2	19	13	2	0	5	12	0	0	1	4	37	0	16	0	110	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	234	SD02
SD03	SS2	A2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	SD03
SD04	SS2	A2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	SD04
SD05	SS2	A2																													1																				1	SD05
SD08	SS2	A2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3	0	1	0	0	0	0	2	1	6	0	1	0	44	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64	SD08
SD09	SS2	A1													1		2																																		3	SD09
SD10	SS2	A1										1																			1																				2	SD10
SD11	SS2	A1															1																																		1	SD11
SD13	SS2	A2	0	0	2	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	SD13
SD14	SS2	A1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	14	9	26	0	13	0	14	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	6	0	91	SD14
SD15	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	10	SD15
SK01	SS2	A2													1		1														3																				5	SK01
SK02	SS2	A2																1													2																				3	SK02
SK03	SS2	A2	0	2	0	0	0	0	0		0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	SK03
SK07	SS2	A2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	11	14	0	1	1	8	0	1	1	14	122	0	27	0	270	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	16	0	489	SK07
SK10	SS2	A2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	SK10
SK12	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	SK12
SK13	SS2	A1															1										1		1		8																				11	SK13
SK14	SS2	A2													1												1				1																				3	SK14
SK15	SS2	A2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	2	0	0	18	8	59	0	19	0	207	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	320	SK15
SK16	SS2	A2													1																2																				3	SK16
SK18	SS2	A2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	SK18
SK19	SS2	A2																1									1																							2	SK19
SK21	SS2	A2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	SK21
SK22	SS2	A1																													1																				1	SK22
SK23	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	2	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	SK23
P1	SS2	A1										1																																							1	P1
P2	SS2	A1																													2																				2	P2
P3	SS2	A1																1																																	1	P3
P5	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	P5
P6	SS2	A1																									2				2																				4	P6
P9	SS2	A1																								1					1																				2	P9
P10	SS2	A1																									1																								1	P10
P18	SS2	A1													1																1																				2	P18
P21	SS2	A1															1																																		1	P21
P23	SS2	A1										4						1													2																				7	P23
P24	SS2	A1																													1																				1	P24
P25	SS2	A1		1																																															1	P25
P28	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	P28
P29	SS2	A1																													1																				1	P29
P30	SS2	A1																1									1																								2	P30
P31	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	P31
P32	SS2	A2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	P32
P34	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	P34
P35	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	P35
P38	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	P38
P39	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	P39
P40	SS2	A1																													2																				2	P40
P42	SS2	A2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	P42
P43	SS2	A4																													1											1									2	P43
P44	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	P44
P45	SS2	A1																									1				2																				3	P45
P48	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	P48
P68	SS2	A1																													1																				1	P68
P71	SS2	A1																									1																								1	P71

第22表　遺物集計表（1）

遺構名	遺構系	調査区	縄文土器	赤彩土器	弥生土器	土師器ミニチュア	土師器伊勢型鍋	土師器平底鍋	土師器皿	土師器台	土師器杯	土師器その他	ロクロ土師器	橄欖土器	須恵器	瓦格陶器	山茶碗（尾張系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸～大窯	土師器皿（a類）	土師器皿（A類）	土師器皿（B1類）	土師器皿（B2＋B3類）	土師器皿（B2＋B3類）	土師器皿（C1類）	土師器皿（C2類）	土師器皿（D1類）	土師器皿（その他）	徳利型鍋	伊勢型鍋	土師質羽釜	内耳鍋	瓦質土器	中国産磁器（青磁）	中国産磁器（白磁）	中国産磁器（染付）	近世陶磁器	土製品	石製品	鉄製品	銅製品	銅錆	木製品	漆製品	貝・骨	焼土塊	炭	合計	遺構名
P73	SS2	A1																								1	2																							3	P73
P75	SS2	A1													1		2	19								1	1				28			2								1								44	P75
P77	SS2	A1																1									2				4																			7	P77
P78	SS2	A1																									1		1																					2	P78
P79	SS2	A2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	4	10	0	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	P79
P87	SS2	A1													1																																				1	P87
P88	SS2	A1																									1																								1	P88
P89	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	P89
P90	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	P90
P95	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	P95
P103	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	P103
P104	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	P104
P112	SS2	A1													1												1																								2	P112
P113	SS2	A1																													1																				1	P113
P117	SS2	A2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	P117
P118	SS2	A1																2																																2	P118
P123	SS2	A1																1													1																				2	P123
P128	SS2	A1															1														1																				2	P128
P129	SS2	A1		1																																															1	P129
SE01	SS2	A1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	7	1	3	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	27	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55	SE01
SE02	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	SE02
SE03	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	13	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	SE03
SE01	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	SE01
SE02	SS2	A2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	4	0	0	0	1	20	0	7	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110	SE02
SE03	SS2	A1		1								5																																							6	SE03
SE05	SS2	A1	3	9	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	SE05
SE06	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	11	6	1	7	7	6	0	7	3	13	134	0	50	0	370	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	495	SE06
SE08	SS2	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	SE08
SE10	SS2	A1	0	2	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	165	SE10
SE12	SS2	A1																1																																	1	SE12
SE13	SS2	A1																									1																								1	SE13
SD01	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5	0	3	0	2	0	0	0	2	25	0	8	0	70	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	130	SD01
SD02	SS2	A3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	9	0	32	29	0	11	4	9	0	0	4	17	88	0	68	0	162	0	0	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0	464	SD02
SD08	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0	13	15	0	3	0	8	0	0	0	0	47	0	18	0	181	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	298	SD08
SD21	SS2	A3																									1				7																				8	SD21
SD22	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3	1	0	0	0	0	0	0	3	25	0	2	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	60	SD22
SD24	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	SD24
SD25	SS2	A3																1									1				1																				3	SD25
SD26	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7	1	8	11	2	8	1	2	0	0	0	7	30	0	17	0	131	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	2	0	0	12	0	251	SD26
SD27	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	SD27
SD28	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	8	2	8	12	0	5	1	10	0	0	1	8	69	0	14	0	162	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	306	SD28
SD29	SS2	A3																									2				4																				6	SD29
SD30	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	2	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	36	SD30
SE15	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	50	1	14	0	0	0	170	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	253	SE15
SE31	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	SE31
SE32	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	SE32
SE33	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	SE33
SE34	SS2	A3															1					1									3																				5	SE34
SE35	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	2	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	66	SE35
SE36	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	SE36
SE37	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	22	101	0	11	0	356	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	499	SE37
SE38	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	SE38
SE39	SS2	A3															1														2																				3	SE39
SE42	SS2	A3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	SE42
P153	SS2	A3																													1																				1	P153
P154	SS2	A3																				1																													1	P154

第23表　遺物集計表（2）

| 遺構名 | 遺跡名 | 調査区 | 縄文土器 | 弥生土器 | 須恵器 | 弥生土器 | 土師器 | 土師器 | 土師

| 遺構名 | 遺構番 | 調査区 | 縄文土器 | 弥生土器 | 須恵土器 | 土師器(甕) | 土師器(甕) | 土師器(甕) | 土師器(甕) | 土師器(甕) | 土師器(甕) | 土師器(甕) | 土師器(甕) | ロクロ土師器 | 瓦質土器 | 須恵器 | 沈線陶器 | 山茶碗(尾張系) | 山茶碗(三河系) | 常滑 | 古瀬戸 | 大窯 | 古瀬戸～大窯 | 土師器皿(キ1類) | 土師器皿(キ2類) | 土師器皿(キ3類) | 土師器皿(キ4類) | 土師器皿(ケ1類) | 土師器皿(ケ2類) | 土師器皿(ケ3類) | 土師器皿(ケ4類) | 土師器皿(ケ5類) | 土師器皿(ケ6類) | 土師器皿(ケ7類) | 土師器皿(ケ8類) | 土師器皿(ケ9類) | 土師器皿(ケ10類) | 土師器皿(ケ11類) | 土師器皿(ケ12類) | 土師器皿(ケ13類) | 土師器皿(ケ14類) | 土師器皿(ケ15類) | 土師器皿(ケ16類) | 土師器皿(ケ17類) | 土師器皿(ケ18類) | 土師器皿(ケ19類) | 土師器皿(ケ20類) |

遺構名	遺跡名	調査区	縄文土器	弥生土器	土師器ミニチュア	土師器伊勢型甕	土師器平底甕	土師器皿	土師器杯	土師器高杯	土師器その他	ロクロ土師器	瓦器土器	須恵器	瓦器椀系	山茶碗（南部系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸～大窯	土師器皿（Ⅰ類）	土師器皿（Ⅱ類）	土師器皿（A類）	土師器皿（B1類）	土師器皿（B2a類）	土師器皿（B2b類）	土師器皿（C1類）	土師器皿（C2類）	土師器皿（D1類）	土師器皿（その他）	瀬戸型鍋	伊勢型鍋	土師質羽釜	内耳鍋	瓦質土器	中国産磁器（白磁）	中国産磁器（青磁）	中国産磁器（染付）	近世陶磁器	土製品	石製品	鉄製品	銅製品	銅銭	木製品	漆製品	貝・骨	焼土塊	瓦	合計	遺構名
SD76	SS2	B6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	SD76
SD77・78	SS2	B6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	SD77・78
SD32	SS2	B6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	SD32
SD34	SS2	B6																													1																				1	SD34
SD35	SS2	B5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	43	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	28	0	0	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97	SD35
SD37	SS2	B5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	15	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	SD37
SD38	SS2	B4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7	15	0	1	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	59	SD38
SD39	SS2	B4														1																																				1	SD39
SD41	SS2	B4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53	SD41
SD42	SS2	B4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	SD42
SD43	SS2	B4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	11	168	1	4	0	0	27	0	1	0	0	0	0	0	0	93	0	14	9	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	935	SD43
SD44	SS2	B4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	SD44
SD45	SS2	B5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	SD45
SD46	SS2	B6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	SD46
SD47	SS2	B6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	SD47
SD48	SS2	B6	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	SD48
SD53	SS2	B6															1																																		1	SD53
SD55	SS2	B6			1						1																																								2	SD55
SD56	SS2	B6																													1																				1	SD56
SD57	SS2	B6								1																																									1	SD57
SD70	SS2	B6																													1																				1	SD70
P123	SS2	B6																									1		3		4																				8	P123
P125	SS2	B6														1																																			1	P125
P126	SS2	B6									3										1						3																								8	P126
P129	SS2	B6																							2																										2	P129
P137	SS2	B6									1																																								1	P137
P141	SS2	B6																													1																				1	P141
P144	SS2	B6																							2																										2	P144
P149	SS2	B6																													2																				2	P149
P150	SS2	B6																													6																				6	P150
P158	SS2	B6																													1																				1	P158
P178	SS2	B6															1														1																				2	P178
P182	SS2	B6									1																																								1	P182
P184	SS2	B6																													1																				1	P184
P185	SS2	B6																													1																				1	P185
P187	SS2	B6									1																		1																						2	P187
P189	SS2	B6									1																																								1	P189
P192	SS2	B6									1																1																								2	P192
P193	SS2	B6												1				1									1				3																				6	P193
P197	SS2	B6																									1																								1	P197
P203	SS2	B6									1																				1																				2	P203
P205	SS2	B6																													1																				1	P205
P215	SS2	B5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	P215
P220	SS2	B5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	P220
P221	SS2	B5															1																																		1	P221
P224	SS2	B5															6					1									2																				9	P224
P226	SS2	B5															1																																		1	P226
P228	SS2	B5															1																																		1	P228
P230	SS2	B5									1																				1																				2	P230
P231	SS2	B6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	P231
P232	SS2	B6														2															2																				4	P232
P234	SS2	B6																													1																				1	P234
P235	SS2	B6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	P235
SX31	SS2	B6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	47	SX31
SX21	SS2	B6	0	3	1	0	0	0	0	0	2	15	0	0	11	1	5	56	1	3	1	4	6	0	0	16	31	1	12	0	101	0	6	2	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	386	SX21
SX23	SS2	B6																1													2																				3	SX23

第26表　遺物集計表（5）

遺構名	遺跡名	調査区	縄文土器	弥生土器	弥生土器	土師器（須恵器）	土師器伊勢型甕	土師器平底甕	土師器皿	土師器台	土師器高杯	土師器その他	ロクロ土師器	瓦器土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（尾張系）	山茶碗（北部系）	常滑	吉藤戸	大窯	古藤戸・大窯	土師器皿（9世紀）	土師器皿（1類）	土師器皿（5・6類）	土師器皿（3・4類）	土師器皿（8・2・5類）	土師器皿（C1類）	土師器皿（C2類）	土師器皿（C3類）	土師器皿（その他）	西海型鍋	伊勢型鍋	土師質羽釜	内耳鍋	瓦質土器	平底須恵器（台付）	平底須恵器（無台）	平底須恵器（脚付）	近世陶器	土製品	石製品	鉄製品	銅製品	銅銭	木製品	漆製品	円・管	焼土塊	瓦	合計	遺構名
5334	552	85			1														1																																2	5334
5336	552	85	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5336
5337	552	86		1																																															1	5337
5402	552	84	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	13	0	6	0	0	13	0	4	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	5402
5407	552	84	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	2	2	13	1	11	1	0	0	4	2	0	0	2	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	5407
5401	552	86	0	52	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	4	1	4	15	0	1	0	2	1	0	0	0	2	0	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	5401
5001	552	88	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	2	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	20	5001
5002	552	88	1	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	5002
5004	552	88	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	5004
5005	552	88	0	9	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	5005
5006	552	88		3																											1											1								1	5	5006
5009	552	88	1																																																	1	5009
5331	552	88		3													1	1		1	1	1					1		3		9									4											24	5331
5333	552	88	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5333
5013	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	31	6	38	24	12	22	0	39	0	0	17	28	583	0	431	0	560	0	0	1	28	1	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	7	0	2046	5013
5001	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	6	0	1	0	3	0	0	0	0	2	0	1	0	22	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	5001
5002	552	F1													4		0	3				2									16																				31	5002
5003	552	F1										2			4		2	2				2									16																				33	5003
5004	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	18	0	6	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77	5004
5005	552	F1													4		1	2				2									5																				15	5005
5008	552	F1													2		4	1													24																				31	5008
5007	552	F1													2		2	6				7							1		20																				38	5007
5009	552	F1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	9	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	5009
5010	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4	0	0	0	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49	5010
5011	552	F1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	21	0	0	15	0	11	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64	5011
5012	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	5012
5014	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	5014
5015	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	14	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	5015
5801	552	F1	0	0	0	0	55	30	0	0	0	192	0	1	235	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	12	0	537	5801
5802	552	F1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	41	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	66	5802
5803	552	F1	0	0	0	0	0	13	0	0	0	76	0	0	110	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200	5803
5804	552	F1	0	0	0	0	1	13	0	0	0	70	0	0	377	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	6	0	479	5804
5806	552	F1	0	0	0	0	22	1	0	0	0	15	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	5806
5807	552	F1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	10	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	5807
5808	552	F1	0	0	0	0	11	16	0	0	0	82	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	144	5808
5809	552	F1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	5809
5810	552	F1	0	0	0	0	1	19	0	0	0	20	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	5810
5811	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	5811
5812	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5812
5813	552	F1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	5813
5814	552	F1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	14	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	66	5814
5815	552	F1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5815
5816	552	F1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	5816
5302	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5302
5827	552	F1					3	1				4																																								7	5827
5801	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	5801
5802	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	20	5802
5803	552	F1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	35	0	0	157	4	10	1	0	0	0	3	0	0	1	0	10	0	7	0	27	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	273	5803
5804	552	F1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	19	0	0	39	0	12	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4	0	0	0	38	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	116	5804
5806	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	29	0	10	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	5806
5806	552	F1										6			4		2														3																				15	5806
5807	552	F1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7	1	0	14	0	10	6	1	6	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	5807
5808	552	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	75	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	116	5808
5809	552	F1													1																																				1	5809
5810	552	F1										1			1																																				2	5810
5811	552	F1										2																																								2	5811

遺構名	遺跡名	調査区	縄文土器	弥生土器	須恵土器	土師器(甕)	土師器(壺)	土師器(鉢)	土師器(台)	土師器(高杯)	土師器(その他)	ヒボ土製品	瓶覗土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗(一次焼成)	山茶碗(二次焼成)	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸(丸皿)	土師器(皿)	土師器(ミニチュア)	土師器(鍋)	土師器(甕)	土師器(壺)	土師器(鉢)	土師器(台)	土師器(高杯)	土師器(その他)	鉄棒型鍛	鉄製紡錘	土師質羽釜	内耳鍋	瓦質土器	中国産磁器(白磁)	中国産磁器(青磁)	中国産磁器(染付)	近世陶磁器	土製品	石製品	銅製品	銅銭	木製品	漆製品	貝・骨	焼土塊	瓦	合計	遺構名
SK12	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	41	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	72	SK12
SK13	SS2	F1										2																																						2	SK13
SK14	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	13	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	SK14
SK15	SS2	F1													3																																			3	SK15
SK16	SS2	F1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	33	0	0	24	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65	SK16
SK17	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	SK17
SK18	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	SK18
SK19	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	SK19
SK21	SS2	F1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	SK21
SK22	SS2	F1						0				2			1																																			5	SK22
SK23	SS2	F1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	SK23
SK25	SS2	F1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	15	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	38	SK25
SK26	SS2	F1						6				1																																						7	SK26
P1	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	P1
P3	SS2	F1													1																																			1	P3
P4	SS2	F1										7			6																																			13	P4
P6	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	P6
P7	SS2	F1													2																																			2	P7
P10	SS2	F1															2																																	2	P10
P12	SS2	F1													2																																			2	P12
P13	SS2	F1										1			3																																			4	P13
P14	SS2	F1						1									1																																	2	P14
P15	SS2	F1										2			3																																			5	P15
P16	SS2	F1										1																																							1	P16
P17	SS2	F1										5			2																																			7	P17
P18	SS2	F1										2																																							2	P18
P19	SS2	F1													1																																			1	P19
P20	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	P20
P22	SS2	F1													2																																			2	P22
P23	SS2	F1										3			1																																			4	P23
P24	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	P24
P31	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	P31
P35	SS2	F1										1																																							1	P35
P38	SS2	F1										1																																							1	P38
P41	SS2	F1										1																																							1	P41
P48	SS2	F1										1			3						1																														6	P48
P49	SS2	F1										2																																							2	P49
P53	SS2	F1													3																																				3	P53
P54	SS2	F1													1																																				1	P54
P56	SS2	F1																																							1										1	P56
P59	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	P59
P60	SS2	F1										3			2																																			5	P60
P65	SS2	F1													1																																			1	P65
P72	SS2	F1						1							1																																			2	P72
P74	SS2	F1													1																																			1	P74
P75	SS2	F1										1																																							1	P75
P77	SS2	F1						1				4			6																																			11	P77
P79	SS2	F1													1																																			1	P79
P80	SS2	F1										4			2																																			6	P80
P81	SS2	F1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	P81
P82	SS2	F1													2																																			2	P82
P83	SS2	F1										3			5																																			8	P83
P84	SS2	F1										1					1																																	2	P84
P85	SS2	F1													2																																			2	P85
P87	SS2	F1													1																																			1	P87
P90	SS2	F1													2																																			2	P90

第28表　遺物集計表（７）

遺構名	遺構名	調査区	縄文土器	弥生土器	土師ミ不類	土師ミ伊勢型類	土師ミ近畿	土師器台	土師器鉢	土師器杯	土師器その他	ロクロ土師器	瓦器土器	須恵器	山茶碗（尾張系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	古瀬戸ⅠⅠ大窯	土師器（ａ類）	土師器（ｂ類）	土師器（ｃ１類）	土師器（ｃ２類）	土師器（ｄ類）	土師器（ｅ類）	土師器（ｆ類）	土師器（ｇ類）	土師器（ｈ類）	土師器（ｉ１類）	土師器（ｉ２類）	土師器（ｉ３類）	土師器（その他）	胡麻型鍋	伊勢型鍋	土師質鍋	内耳鍋	瓦質土器	中国系陶器（白磁）	中国系陶器（青磁）	中国系陶器（染付）	近世陶磁器	土製品	石製品	鉄製品	銅製品	銅銭	木製品	漆製品	月・貝	粘土塊	瓦	合計	遺構名
P95	SS2	F1									1																																								1	P95
P96	SS2	F1									1			3																																					4	P96
P97	SS2	F1			2						9			6																																					17	P97
P98	SS2	F1	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	P98
P99	SS2	F1									3			2																																					5	P99
P99	SS2	F1									1			7																																					8	P99
P102	SS2	F1									2																					1																			3	P102
P104	SS2	F1									1																																								1	P104
P105	SS2	F1												1																																					1	P105
P111	SS2	F1									1																																								1	P111
P116	SS2	F1									3			1																																					4	P116
P117	SS2	F1												1																																					1	P117
P118	SS2	F1												1																																					1	P118
P120	SS2	F1									2			5																																					7	P120
P121	SS2	F1									2			4																																					6	P121
P122	SS2	F1									1			1																																					2	P122
P123	SS2	F1												2																																					2	P123
P124	SS2	F1									1			1																																					2	P124
P126	SS2	F1					1																																												1	P126
P128	SS2	F1												1																																					1	P128
P130	SS2	F1												2																																	1				3	P130
P131	SS2	F1									2			2																																					4	P131
P132	SS2	F1									2																																								2	P132
P135	SS2	F1									1			2																																					3	P135
P136	SS2	F1	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	P136
P138	SS2	F1					3	2			1																																								6	P138
P140	SS2	F1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	P140
P141	SS2	F1									1				1																																				2	P141
P144	SS2	F1												1																																					1	P144
S801	SS2	F1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	2	0	1	0	4	0	0	0	0	3	0	2	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	S801
S860	SS2	F2	0	0	0	0	29	0	0	0	0	53	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	100	S860
S861	SS2	F2	0	0	0	0	10	0	0	0	0	33	0	0	0	0	1	3	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	76	S861
S862	SS2	F2	0	0	1	0	20	24	0	0	0	361	0	17	64	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	508	S862
S864	SS2	F2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	S864
S865	SS2	F2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	37	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48	S865
S866	SS2	F2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	7	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	S866
S873	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	S873
S874	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	S874
S875	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	12	S875
S876	SS2	F2	0	0	0	0	4	0	0	0	0	23	0	0	11	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	10	0	10	0	21	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87	S876
S877	SS2	F2	0	0	0	0	6	0	0	0	0	10	0	0	33	2	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	24	0	30	0	93	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	205	S877
S878	SS2	F2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	23	S878
S879	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	S879
S897	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	S897
S899	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	S899
S900	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	S900
S902	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	S902
S903	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	S903
S905	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	S905
S906	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	S906
S908	SS2	F2	0	0	0	0	2	25	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	61	S908
S909	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	S909
S6101	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	S6101
S6103	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	S6103
S6105	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	S6105
P232	SS3	F2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	P232

第29表　遺物集計表（８）

遺構名	遺構名	調査区	縄文土器	条痕文土器	弥生土器	土師器5字型	土師器伊勢型甕	土師器平底甕	土師器壺	土師器鉢	土師器高杯	土師器その他	ロクロ土師器	焼塩土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（南部系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸～大窯	土師器皿（B類）	土師器皿（A類）	土師器皿（B1類）	土師器皿（B2a類）	土師器皿（B2b類）	土師器皿（C1類）	土師器皿（C2類）	土師器皿（D1類）	土師器皿（その他）	唐津型鍋	伊勢型鍋	土師質羽釜	内耳鍋	瓦質土器	中国産磁器（白磁）	中国産磁器（青磁）	中国産磁器（染付）	近世陶磁器	土製品	石製品	鉄製品	銅製品	銅錬	木製品	漆製品	骨・骨	他土塊	瓦	合計	遺構名
P247	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	P247
P248	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	P248
P251	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	P251
P252	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	P252
P259	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	P259
P264	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	P264
P279	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	P279
P319	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	P319
P326	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	P326
P343	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	P343
SX10	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	SX10
SX15	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	SX15
SX18	SS2	F2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	SX18
SD20	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	SD20
SD21	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	3	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	SD21
SD24	SS2	F3													2														1																							3	SD24
SB20	SS2	F3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	24	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	SB20
SB21	SS2	F3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	32	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	SB21
SB22	SS2	F3	0	0	0	0	5	0	0	0	0	47	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72	SB22
SB23	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	0	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	139	SB23
SB24	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	SB24
SB25	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	29	SB24
SB26	SS2	F3	0	0	0	2	2	5	0	0	0	228	0	6	87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	331	SB26
SB27	SS2	F3	0	0	0	0	1	11	0	0	0	53	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81	SB27
SB28	SS2	F3	0	0	0	0	3	2	0	0	0	13	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	SB28
SB29	SS2	F3	0	0	0	2	1	0	0	0	0	34	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	SB29
SK30	SS2	F3	0	0	0	7	3	3	0	0	0	115	0	0	55	0	10	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	223	SK30
SK31	SS2	F3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	27	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	SK31
SK32	SS2	F3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	9	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	SK32
SK33	SS2	F3													7																7																					14	SK33
SK34	SS2	F3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	SK34
SK35	SS2	F3	0	0	0	2	11	0	0	0	0	30	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	SK35
SK36	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	SK37
SK37	SS2	F3	0	0	0	3	2	2	0	0	0	40	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64	SK37
SK38	SS2	F3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	27	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	37	SK38
SK39	SS2	F3	0	0	0	2	3	1	0	0	0	45	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	63	SK39
SK40	SS2	F3	0	0	0	4	5	0	0	0	0	49	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91	SK40
SK41	SS2	F3	0	0	0	1	2	0	0	0	0	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	13	SK41
SK42	SS2	F3					1					5			1																																					7	SK42
SK43	SS2	F3													2																																					2	SK43
SK44	SS2	F3					1					3			1																																					5	SK44
SK45	SS2	F3					2					2																																								4	SK45
SK46	SS2	F3	0	0	0	2	2	0	0	0	0	17	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	SK46
SK47	SS2	F3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	SK47
SK49	SS2	F3	0	0	0	2	3	0	0	0	0	8	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	SK49
SK50	SS2	F3					1					5			1																																					7	SK50
SK51	SS2	F3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	SK51
SK52	SS2	F3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	SK52
SK53	SS2	F3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	8	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	SK53
SK54	SS2	F3	0	0	0	5	2	1	0	0	0	27	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	SK54
SK55	SS2	F3										2			1																																					3	SK55
SK56	SS2	F3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	21	0	9	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	SK56
SK57	SS2	F3										1																																								1	SK57
SK58	SS2	F3													1																																					1	SK58
SK59	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	34	SK59
P150	SS2	F2										1																																								1	P150

第30表　遺物集計表（9）

遺構名	遺跡名	調査区	縄文土器	条痕文土器	弥生土器	土師器S字甕	土師器伊勢型甕	土師器平底甕	土師器金	土師器台	土師器高杯	土師器その他	ロクロ土師器	楕塩土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（南部系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸Ⅰ大窯	土師器皿（M類）	土師器皿（A類）	土師器皿（B1類）	土師器皿（B2a類）	土師器皿（B2b類）	土師器皿（C1類）	土師器皿（C2類）	土師器皿（D1類）	土師器皿（その他）	信楽型鍋	伊勢型鍋	土師質羽釜	内耳鍋	瓦質土器	中国産磁器（白磁）	中国産磁器（青磁）	中国産磁器（染付）	近世陶磁器	土製品	石製品	鉄製品	銅製品	銅銭	木製品	骨製品	貝・骨	焼土塊	瓦	合計	遺構名
P151	SS2	F3										2																																						2	P151
P152	SS2	F3										5																																						5	P152
P153	SS2	F3										11			3																																			14	P153
P154	SS2	F3				6						17			1																																			24	P154
P156	SS2	F3													2																																			2	P156
P157	SS2	F3										13		2	4																																			19	P157
P158	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	P158
P159	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	P159
P160	SS2	F3										1																																						1	P160
P161	SS2	F3										4			3																																			7	P161
P167	SS2	F3										4			6	1																																		11	P167
P168	SS2	F3										3																																						3	P168
P169	SS2	F3										2																																						2	P169
P172	SS2	F3										1			2																																			3	P172
P173	SS2	F3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	14	P173
P174	SS2	F3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	8	0	0	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	P174
P176	SS2	F3													3																																			3	P176
P177	SS2	F3										3																																						3	P177
P178	SS2	F3										1																																						1	P178
P180	SS2	F3										5			1																																			6	P180
P181	SS2	F3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	P181
P182	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	P182
P184	SS2	F3	0	0	0	2	3	1	0	0	1	13	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	P184
P185	SS2	F3										3			2																																			5	P185
P186	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	P186
P189	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	P189
P190	SS2	F3										5			4																																			10	P190
P191	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	P191
P192	SS2	F3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	12	P192
P193	SS2	F3						2				23			3																																			28	P193
P195	SS2	F3										1			1																																			2	P195
P196	SS2	F3													2																																	1	3	P196
P199	SS2	F3										6			5																																	1	12	P199
P201	SS2	F3													1																																			1	P201
P202	SS2	F3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	15	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	P202
P203	SS2	F3						1				1																																						2	P203
P204	SS2	F3										1		1																																				2	P204
P207	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	P207
P209	SS2	F3						1				4			1																																				6	P209
P210	SS2	F3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	P210
P212	SS2	F3										2																																						2	P212
SX05	SS2	F3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	18	0	0	44	6	22	20	1	0	0	12	0	0	0	0	3	0	0	0	86	0	0	0	0	0	0	3	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	224	SX05

第31表　遺物集計表（10）

鷲山蛸遺跡A区

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SS01	A1	4	—	長(1.0)幅2.2	SD14・15を伴う通路	52
SS02	A4	4	—	長3.0幅0.6	SD28、SX28を伴う通路	53
SA01	A1	4	—	南北(5.2)、3間	南北方向柱穴列	55
SA02	A2	4	—	東西(8.0)、6間	東西方向柱穴列	55
SA03	A2	4	—	南北(5.6)、5間	南北方向柱穴列	58
SA04	A2・A3	4	—	東西(5.6)、4間	東西方向柱穴列	58
SA05	A1	4	—	南北(9.1)、6間	南北方向柱穴列、SD01に切られる	50
SA06	A2・A4	4	—	南北(6.4)、4間	南北方向柱穴列、建物1に切られる	58
建物1	A2	4	—	東西5.2南北(5.6)	SD02の北側	58
建物2	A3	4	—	東西(2.8)南北6.0	SD02の北側	58
SD01	A1・A3	4	U字形	長(9.7)幅1.2深0.9	南北方向	50
SD02	A2・A3	4	V字形(葛研形)	長(14.6)幅3.2～3.5深1.6	南北方向	51
SD03	A2	4	U字形	長(8.4)幅0.3深0.2	南北方向、雨落溝か	58
SD04	A2	4	U字形	長(2.0)幅0.3深0.15	南北方向、雨落溝か	58
SD05	A2	4	U字形	長4.4幅0.3深0.06	南北方向、雨落溝か	58
SD06	A2	～3	皿状	長(6.5)幅0.9深0.25	南北方向	別2
SD07	A2	4	皿状	長(2.5)幅0.35深0.05	東西方向	58
SD08	A2	4	皿状	長(9.1)幅1.1～2.2深0.2	南北方向、蛇行し、SK07に切られる	55
SD09	A2	4	皿状	長(2.6)幅0.25深0.1	南北方向、SK07に切られる	別1
SD10	A1	5	皿状	長(3.0)幅0.7深0.4	南北方向やや蛇行、北側は不明	別1
SD11	A2	1	皿状	長(11.8)幅0.5深0.1	北東南西方向、流路SX05と並行	10
SD12	A2	～4	皿状	長(0.7)幅0.2深0.09	南北方向、SD02に切られる	別1
SD13	A2	1	皿状	長(16.7)幅0.5～0.7深0.4	北東南西方向、流路SX05と並行	10
SD14	A1	4	不明	長(1.7)幅(1.8)深1.5	南北方向、SS01の北側、将棋駒出土	52
SD15	A1	4	逆台形	長(1.0)幅1.3深1.6	南北方向、SS01の南側	52
SD21	A3	5	皿状	長8.4幅0.3深0.2	南北方向、SX22を切る	別1
SD22	A3	4	U字形	長(19.3)幅0.5深0.25	南北方向、SD02に切られる	51・58
SD23	欠番					
SD24	A3	5	U字形	長(3.6)幅0.8深0.4	東西方向、SD22を切る	別1
SD25	A3	5	皿状	長3.0幅0.4深0.12	南北方向、SD29を切る	別1
SD26	A4	4	逆台形	長(3.3)幅3.3深1.2	南北方向、SS01・SX28石積伴う	53
SD27	A3	5	皿状	長(5.0)幅0.3深0.14	南北方向、SX02に切られ、SD02を切る	別1
SD28	A3	4	逆台形	長(3.8)幅1.8深0.85	東西方向、SX22に切られる	54
SD29	A3	4	皿状	長4.0幅0.5深0.14	東西方向、SD22に切られる	別1
SD30	A3	4	皿状	長(5.5)幅0.65深0.2	南北方向やや蛇行、SX22に切られる	54
SD31	A4	4	皿状	長0.8幅0.2深0.04	南北方向	58
SD32	A4	5	皿状	長(3.5)幅1.4深0.12	南北方向	別2
SK01	A2	3	隅丸方形	長辺1.2短辺0.6深0.09	SX03上面	別2
SK02	A2	3	隅丸長方形	長辺2.4短辺0.55深0.2		別2
SK03	A2	3	隅丸長方形	長軸(3.0)短軸0.6深0.28	南側は不明、SD06を切る	別2
SK04	A2	—	不整楕円形	長軸0.9短軸0.45深0.15		58
SK05	A2	—	隅丸長方形	長軸2.5短軸0.5深0.05	P10に切られる	別2
SK06	欠番					
SK07	A2	4	不整形	東西4.6南北3.0深0.3	SD08、SK12を切る、大形土製品出土	55
SK08	A2	—	不整楕円形	長軸1.2短軸0.65深0.04		別1
SK09	欠番					
SK10	A2	4	長方形	長辺2.6短辺1.9深0.15		別1
SK11	欠番					
SK12	A2	4	不整楕円形	東西1.0南北0.8深0.45		55
SK13	A2	—	不整形	長軸(1.6)短軸1.4深0.16	SK12に切られる	55
SK14	A2	4	隅丸長方形	長辺2.9短辺2.0深0.14	P89・115に切られる	55
SK15	A2	4	隅丸長方形	長辺2.6短辺0.7深0.2	土師器鼎集積出土	62
SK16	A2	—	不整形	東西(1.3)南北(1.1)深0.05	SK14、P115に切られる	55
SK17	A2	—	不整形	東西0.6南北1.0深0.04	石出土	55
SK18	A2	3	楕円形	長軸1.0短軸(0.75)深0.36		別1
SK19	A2	4	不整形	東西(0.6)南北(0.6)深0.12		—
SK20	A2	—	不整形	東西1.1南北0.75深0.25		別1
SK21	A2	—	不整楕円形	長軸1.05短軸0.95深0.25	SK15に切られる	別1
SK22	A1	欠番				
SK23	A1	4	楕円形	長辺0.9短辺0.55深0.15	SD01に切られる	50
SK24	A2	—	楕円形	長軸1.1短軸0.5深0.14	SX12に切られる	別1
SK31	A4	4	楕円形	長軸0.9短軸0.7深0.22		別2
SK32	A4	4	不整楕円形	長軸1.2短軸0.75深0.3	石多く含む	58
SK33	A3	4	隅丸方形	長辺0.9短辺0.8深0.29		58
SK34	A3	4	隅丸方形	長辺1.1短辺0.8深0.3	炭化材出土	62
SK35	A3	4	円形	径1.2深0.35	SK37～39を切る	62
SK36	A3	4	不整楕円形	長軸2.5短軸1.4深0.5	SX22の下、SE05、SD30を切る	別1
SK37	A3	4	楕円形	長軸1.5短軸1.15深0.2	土師器鼎集積出土	62
SK38	A3	4	不明	東西1.0南北(0.75)深0.15	SK35・37に切られる	62
SK39	A3	4	不明	東西(0.3)南北(0.7)深0.1	SK35に切られる	62
SK40	A3	—	円形	径0.5深0.21	SD21に切られる	別1
SK41	A3	—	隅丸長方形	長軸0.9短軸0.5深0.2	SX22に切られる	別1
SK42	A3	4	不整楕円形	長軸0.9短軸0.65深0.15		別2
SE01	A1	5	楕円形	掘方長軸1.9短軸1.5深1.65井戸側径0.75高1.05	竹籠枠	93
SE02	A1	5	隅丸方形	掘方南北1.1東西1.1深1.3井戸側径0.9高1.0	竹籠枠	94
SE03	A1	5	隅丸方形	掘方南北1.3東西1.3深1.3井戸側径0.9高0.8	竹籠枠	94
SE05	A3	4	楕円形	掘方南北2.5東西1.9深2.1井戸側径0.75高0.8	結桶枠	63
SX01	欠番					
SX02	A2	5	不整形	東西(9.4)南北(5.0)深0.2	SD02を切る、凹凸あり	別1
SX03	A2	—	不整形	東西(6.5)南北(3.6)深(0.3)	低地	別2
SX04	A1	—	不明	東西(4.0)南北(4.5)深(0.1)	低地、SX05の西	別1
SX05	A1	1	不明(流路)	長(13.0)幅5.4深0.8	自然流路、弥生土器出土(SX10)	10
SX06	A1	4	不整形	東西4.2南北(5.2)深0.2	落ち込み、炭混じり、SX21に切られる	55
SX07	A2	～4	不整形	東西(3.29)南北(2.5)深0.1	SK07に切られる	別1
SX08	A2	4	不整形	東西1.0南北2.8深0.1	浅い窪状、SK17に切られる	55
SX09	欠番					
SX10	A1	1	—	—	SX05内弥生土器集積	10
SX11	A2	5	不整楕円形	長軸(2.1)短軸(1.6)深0.15	SX02の下、SD02を切る	別1
SX12	A2	—	不明	東西(1.7)南北(0.4)深0.1	SK14等に切られる	別1
SX13	A2	—	不整形	東西(3.0)南北(2.8)深0.06	低地、SK07、SX07に切られる	—
SX21	A3	4	不整楕円形	長軸2.4短軸1.2深0.15	落ち込み、炭混じり、SX06を切る	55
SX22	A3	4	不整形	東西4.8南北3.7深0.25	落ち込み、炭混じり、土師器鼎集積出土	61
SX23	A3	4	不整楕円形	長軸0.8短軸0.7深0.1	SD08の下、SE05の上	63
SX24	A4	4	不整形	東西0.9南北1.1深0.15	SD22・23に切られる	別1
SX25	A3	—	不整形	東西0.8南北0.75深0.1	SD08の下	別1
SX26	A3	—	不整形	東西1.1南北1.2深0.08	SK34に切られる	別2
SX27	欠番					
SX28	A4	4	—	幅(1.95)高(0.6)	SS02・SD26に伴う石積	53
SX29	A3	4	不整形	東西0.55南北0.5深0.4	SD02内の窪み、SD22の直下	51
P01	A2	4	円形	径0.45深0.61		58
P02	A2	4	円形	径0.38深0.63	SA03に伴うピット	58
P03	A2	4	円形	径0.34深0.54		58
P04	A2	4	円形	径0.3深0.2		58
P05	A2	4	円形	径0.36深0.29	SA03に伴うピット、石有	58
P06	A2	4	円形	径0.35深0.4	SA03に伴うピット、石有	58
P07	A2	4	円形	径0.24深0.28		58
P08	A2	4	円形	径0.27深0.4		58
P09	A2	4	円形	径0.36深0.29		58
P10	A2	4	円形	径0.4深0.3	SA03・04に伴うピット、石有	58
P11	A2	4	円形	径0.4深0.19		58
P12	A2	4	円形	径0.35深0.25	SA04に伴うピット	58

第32表　遺構一覧表（1）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P13	A2	－	円形	径0.22深0.05		別2
P14	A2	－	円形	径0.17深0.05		別2
P15	A2	－	円形	径0.22深0.04		別2
P16	A2	－	円形	径0.2深0.13		別2
P17	A2	－	円形	径0.22深0.05		別2
P18	A2	－	円形	径0.27深0.06		別2
P19	A2	－	円形	径0.3深0.07		別2
P20	A2	－	円形	径0.15深0.07		別2
P21	A2	4	円形	径0.42深0.13		58
P22	A2	4	楕円形	長軸0.8短軸0.52深0.24		58
P23	A1	4	楕円形	長軸1.28短軸0.86深0.68	SS01に伴う施設か	52
P24	A1	4	円形	径(0.38)深0.27	SS01に伴う施設か	52
P25	A1	4	円形	径0.44深0.23	SS01に伴う施設か	52
P26	A1	4	円形	径0.37深0.06	SS01に伴う施設か	52
P27	A1	5	円形	径0.5深0.17		別1
P28	A1	4	円形	径0.36深0.56	SA01に伴うピット	55
P29	A1	4	円形	径0.4深0.45		55
P30	A2	4	円形	径0.47深0.49		55
P31	A2	4	円形	径0.48深0.4	石有	55
P32	A2	4	円形	径0.25深0.14	石有	55
P33	A2	－	円形	径0.13深0.07		別1
P34	A2	4	円形	径0.48深0.26		55
P35	A2	4	円形	径0.46深0.33	石有	55
P36	A2	4	円形	径0.52深0.55		55
P37	A2	4	円形	径0.3深0.28		55
P38	A2	4	円形	径0.32深0.34		55
P39	A2	4	円形	径0.58深0.17		55
P40	A2	4	円形	径0.44深0.52	SA02に伴うピット	55
P41	A2	4	円形	径0.14深0.06		58
P42	A2	4	円形	径0.33深0.35	SA05に伴うピット	58
P43	A1	4	楕円形	長軸0.38短軸0.25深0.38	SS01に伴う施設か	52
P44	A1	4	円形	径0.48深0.32	SA05に伴うピット	50
P45	A1	4	円形	径0.48深0.66	SA05に伴うピット	50
P46	A1	4	円形	径0.4深0.46	SA05に伴うピット	50
P47	A1	4	円形	径0.47深0.55	SA05に伴うピット	50
P48	A1	4	円形	径0.4深0.26	SA05に伴うピット、石有	50
P49	A1	4	円形	径(0.2)深0.2		50
P50	A1	4	円形	径0.15深0.21		50
P51	A1	4	円形	径(0.1)深0.09		50
P52	A2	4	円形	径0.39深0.37	建物1に伴うピット	58
P53	A2	4	円形	径0.23深0.09		58
P54	A2	－	円形	径0.22深0.1		別2
P55	A2	4	円形	径0.19深0.05		58
P56	A2	4	円形	径0.22深0.06		58
P57	A2	4	円形	径0.27深0.11		58
P58	A2	4	円形	径0.14深0.06		58
P59	A2	4	円形	径0.21深0.1		58
P60	A2	4	円形	径0.29深0.15		58
P61	A2	－	円形	径0.34深0.24		別1
P62	A2	－	円形	径0.23深0.15		別1
P63	A2	－	円形	径0.3深0.1		別1
P64	A2	－	円形	径0.25深0.16		別1
P65	A2	－	円形	径0.47深0.17		別1
P66	A2	－	円形	径(0.4)深0.14		別1
P67	A2	－	円形	径0.46深0.13		別1
P68	A2	－	円形	径0.56深0.50		別1

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P69	A2	－	円形	径0.34深0.21		別1
P70	A2	－	円形	径(0.33)深0.28	石有	別1
P71	A2	4	円形	径0.44深0.48	石有	55
P72	A2	4	円形	径0.26深0.28	石有	別1
P73	A2	4	楕円形	長軸0.6短軸0.5深0.45	石有	55
P74	A2	－	円形	径0.51深0.17		別1
P75	A1	4	円形	径0.9深0.35		55
P76	A2	4	円形	径0.33深0.48	SA02に伴うピット、石有	55
P77	A2	4	円形	径(0.26)深(0.16)		55
P78	A2	4	円形	径0.3深0.25	石有	55
P79	A2	4	円形	径0.34深0.25	SA02に伴うピット	55
P80	A2	4	円形	径0.38深0.08		55
P81	A2	4	円形	径0.28深0.07		55
P82	A2	4	円形	径0.24深0.1		55
P83	A2	4	円形	径0.27深0.09		55
P84	A2	4	円形	径0.3深0.07		55
P85	A2	4	円形	径0.26深0.2		55
P86	A2	4	円形	径0.5深0.16		55
P87	A2	4	円形	径0.2深0.08		55
P88	A2	4	円形	径0.35深0.09		55
P89	A2	－	円形	径0.47深0.86		別1
P90	A2	4	円形	径0.33深0.28		55
P91	A1	4	円形	径0.14深0.09		55
P92	A1	4	円形	径0.18深0.16		55
P93	A1	4	円形	径0.15深0.09		62
P94	A1	4	円形	径0.3深0.28		55
P95	A1	4	円形	径0.34深0.40	SA01に伴うピット、石有	55
P96	A1	4	円形	径0.12深0.1		55
P97	A1	4	円形	径0.34深0.22	SA01に伴うピット	55
P98	A1	4	円形	径0.14深0.1		55
P99	A1	4	円形	径0.4深0.22		55
P100	A1	4	円形	径0.16深0.1		55
P101	A2	4	円形	径0.22深0.23		55
P102	A2	4	円形	径(0.18)深0.11	P37に切られる	55
P103	A1	4	円形	径0.42深0.72	SA02に伴うピット、石有	55
P104	A2	4	円形	径0.5深(0.54)		55
P105	A1	4	円形	径0.55深0.35	石有	55
P106	A2	－	楕円形	長軸0.25短軸0.1深0.06		別1
P107	A2	－	円形	径0.15深0.05		別1
P108	A2	－	円形	径0.2深0.13		別1
P109	A2	－	楕円形	長軸(0.25)短軸0.19深0.07		別1
P110	A2	－	楕円形	長軸0.47短軸0.3深0.13		別1
P111	A2	－	楕円形	長軸0.28短軸0.16深0.12		別1
P112	A2	－	円形	径0.75深0.38	石有	別1
P113	A2	－	円形	径0.18深0.08		別1
P114	A2	－	円形	径(0.2)深0.18	SK16に切られる	－
P115	A2	－	円形	径(0.5)深0.33	P74に切られる	－
P116	A2	－	円形	径0.4深0.5		別1
P117	A2	4	楕円形	長軸(0.7)短軸(0.5)深0.75		55
P118	A2	4	円形	径0.45深0.36	石有	55
P119	A2	－	円形	径(0.40)深0.68		別1
P120	A2	4	円形	径0.35深0.35		55
P121	A2	4	円形	径0.28深0.26		55
P122	A2	4	円形	径0.5深0.2		55
P123	A2	4	円形	径0.25深0.25		55
P124	A1	4	円形	径(0.7)深0.5	SA05に伴うピット	50

第33表　遺構一覧表（2）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P125	A2	4	円形	径0.25深0.3		50
P126	A2	4	円形	径0.28深0.25		50
P127	A2	4	円形	径(0.25)深0.27		50
P128	A2	4	円形	径0.23深0.28		50
P129	A2	4	円形	径(0.2)深0.29		50
P130	A2	4	円形	径(0.2)深0.29	SA02に伴うピット	55
P131	A2	4	円形	径0.3深0.24	SA02に伴うピット、石有	55
P132	A2	4	円形	径0.3深0.12		55
P151	A3	4	円形	径0.4深0.33	建物2に伴うピット、石・焼土有	58
P152	A3	4	隅丸方形	一辺0.54深0.38	建物2に伴うピット	58
P153	A3	4	隅丸方形	一辺0.44深0.32	建物2に伴うピット、石有	58
P154	A3	4	隅丸方形	一辺0.54深0.45	建物2に伴うピット、石有	58
P155	A3	4	隅丸方形	一辺0.45深0.42	建物2に伴うピット	58
P156	A3	4	隅丸方形	一辺0.55深0.34	建物2に伴うピット、石有	58
P157	A3	4	隅丸方形	一辺0.48深0.45	建物2に伴うピット、石有	58
P158	A3	4	円形	径0.32深0.23		58
P159	A3	4	円形	径0.38深0.38	SA04に伴うピット、石有	58
P160	A3	4	円形	径0.4深0.66	建物1に伴うピット、石有	58
P161	A3	4	楕円形	長軸0.75短軸0.6深0.45	石有	58
P162	A3	4	円形	径(0.26)深0.08		58
P163	A3	4	円形	径0.3深0.17	石有	58
P164	A3	4	円形	径(0.2)深0.06		58
P165	A3	4	円形	径0.3深0.1		58
P166	A3	4	円形	径0.37深0.2		58
P167	A3	4	円形	径0.26深0.25	SA04に伴うピット、石有	58
P168	A3	4	円形	径0.33深0.14		58
P169	A3	4	円形	径0.35深0.28		58
P170	A3	4	円形	径0.36深0.2		58
P171	A3	4	円形	径0.28深0.08	SK35を切る	58
P172	A3	4	楕円形	長軸0.66短軸0.4深0.08		58
P173	A3	4	円形	径0.18深0.06	SK35を切る	58
P174	A3	4	円形	径0.28深0.06		58
P175	A3	4	円形	径0.26深0.1		58
P176	A4	4	円形	径0.3深0.07		58
P177	A4	4	円形	径0.24深0.06		58
P178	A4	4	円形	径0.2深0.07		58
P179	A4	—	円形	径0.35深0.2		別2
P180	A3	—	楕円形	径0.34深0.35	SX22に切られる	別1
P181	A4	4	円形	径0.42深0.4	建物1に伴うピット、石有	58
P182	A4	4	円形	径0.48深0.63	建物1に伴うピット、石有	58
P183	A4	4	円形	径0.35深0.63	建物1に伴うピット、石有	58
P184	A4	4	円形	径0.36深0.55	SA04に伴うピット、石有	58
P185	A4	—	円形	径0.65深0.45	石有	別2
P186	A4	—	円形	径0.26深0.04		別2
P187	A4	—	円形	径0.29深0.04		別2
P188	A4	—	円形	径0.3深0.05		別2
P189	A4	—	円形	径0.26深0.04		別2
P190	A4	—	円形	径0.26深0.07		別2
P191	A4	—	円形	径0.4深0.24		別2
P192	A4	4	円形	径0.35深0.21		58
P193	A3	4	円形	径0.44深0.22		58
P194	A3	4	円形	径0.32深0.1		58
P195	A3	4	円形	径0.25深0.07		58
P196	A3	4	円形	径0.2深0.08		58
P197	A3	4	円形	径0.18深0.1		58
P198	A3	4	楕円形	長軸0.42短軸0.32深0.07		58

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P199	A3	4	円形	径0.15深0.06		58
P200	A3	4	円形	径0.1深0.06		58
P201	A3	4	円形	径0.32深0.12		58
P202	A3	4	円形	径0.18深0.06		58
P203	A3	4	円形	径0.32深0.08		58
P204	A3	4	円形	径0.2深0.06		58
P205	A3	4	円形	径0.26深0.08		58
P206	A3	—	円形	径0.17深0.08		別2
P207	A3	—	円形	径0.21深0.2		別2
P208	A3	—	円形	径0.26深0.08		別2
P209	A4	4	円形	径(0.4)深0.35	SA06に伴うピット	58
P210	A4	4	円形	径0.2深0.12		58
P211	A4	4	円形	径0.18深0.12		58
P212	A4	4	円形	径0.22深0.19		58
P213	A4	4	円形	径0.14深0.12		58
P214	A4	4	円形	径0.3深0.13		58
P215	A4	4	円形	径0.46深0.3	SA06に伴うピット	58
P216	A4	—	楕円形	長軸0.37短軸0.28深0.25	石有	別2
P217	A3	4	円形	径0.36深0.14		58
P218	A3	4	円形	径0.3深0.17		62
P219	A3	4	楕円形	長軸(0.4)短軸0.3深0.18		62
P220	A4	4	円形	径0.45深0.34	SA06に伴うピット	58
P221	A3	—	円形	径0.22深0.1		別1
P222	A3	—	円形	径0.17深0.07		別1
P223	A3	—	円形	径0.13深0.06		別1
P224	A4	4	円形	径0.36深0.1	建物1に伴うピット、石有	58
P225	A4	4	円形	径0.36深0.24	建物1に伴うピット、石有	58
P226	A4	4	円形	径0.44深0.2	建物1に伴うピット	58
P227	A4	—	円形	径0.52深0.08		別2
P228	A4	—	円形	径0.12深0.06		別2
P229	A4	—	円形	径0.42深0.26		別2
P230	A3	4	隅丸方形	一辺0.5深0.46		58
P231	A3	4	円形	径0.17深0.1		58
P232	A3	4	円形	径0.23深0.1		58
P233	A3	4	円形	径0.16深0.1		58
P234	A3	4	円形	径0.19深0.16		58
P235	A3	4	円形	径0.21深0.14		58
P236	A4	4	不明	径(0.1)深0.26	SA06に伴うピット、P157に切られる	58
P237	A3	4	円形	径0.42深0.45	SA05に伴うピット、石有	50
P238	A3	4	円形	径0.3深0.1	石有	58
P239	A4	4	円形	径0.35深0.22	建物1に伴うピット	58
P240	A4	4	楕円形	長軸0.16短軸0.1深0.08		58
P241	A4	4	円形	径(0.48)深0.35	石有	58
P242	A4	4	円形	径0.2深0.09		58
P243	A4	4	円形	径0.26深0.08		58
P244	A4	4	不明	径(0.42)深0.24		58
P245	A3	4	円形	径(0.3)深0.05		58
P246	A3	4	円形	径(0.45)深0.2		58
P247	A4	4	隅丸方形	一辺0.4深0.42	石有	58
P248	A3	4	不明	径(0.2)深(0.2)	A3区西壁断面のみ、中央、SD02に切られる	51
P249	A3	4	不明	径(0.65)深(0.6)	A3区西壁断面のみ、中央、石有、SD24に切られる	51
P250	A3	—	円形	径0.2深0.15	SD29に切られる	別1

鷲山柳遺跡B区

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SA01	B8	4	—	基底部幅(0.8)高(1.4)	柳土手城館跡北辺土塁	71

第34表　遺構一覧表（3）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SA02	B5	4	—	東西(4.5)南北(10.0)	鳥土手城館跡西辺土塁	67
SA03	B5	4	—	東西(9.6)、4間	東西方向柱穴列、SX21石積施設の北	73
SA04	B5	4	—	東西(11.5)、5間	東西方向柱穴列、SX21石積施設の南	73
SA05	B6	4	—	南北(6.9)、3間	南北方向柱穴列	75
SA06	B6	4	—	東西(4.8)、4間	SD22・SX20石積に伴う柱穴列	75
SA07	B4	4	—	東西(3.2)南北(12.0)	鳥土手城館跡南辺土塁	67
SA10	B2	—	—	南北(2.5)、2間	南北方向柱穴列	65
SA11	B2	—	—	南北(6.0)、4間	南北方向柱穴列	65
SA12	B2	—	—	南北(3.0)、2間	南北方向柱穴列	65
SA13	B2	—	—	南北(1.7)、1間	南北方向柱穴列	65
SD01	B2	3	不明(凹凸有)	南北長(22.0)幅(6.4)深0.8/東西長(5.5)幅6.0深0.6	プランL字状、真北・真東を向く	39
SD02	B2	3	逆台形	長(18.2)幅1.2深0.55	南北方向、真北を向く	39
SD03	B3	4	V字形(薬研形)	長(6.0)幅(7.0)深2.5	南北方向、鳥土手城館跡西辺を区画する堀、SA02土塁伴う	69
SD04	B2	4	U字形	長(5.4)幅1.1深0.45	東西方向、土師器皿集積出土	66
SD05	B2	2	皿状	長(9.6)幅0.45深0.1	南北方向	21
SD06	B3	3	皿状	長(5.0)幅1.6深0.4	南北方向、填砂有	39
SD07	B3	4	U字形	長(5.0)幅1.6深0.55	南北方向、土師器皿集積出土	66
SD08	B2	2	皿状	長(4.5)幅(0.45)深0.1	南北方向	21
SD09	B2	2	皿状	長(4.0)幅0.25深0.05	南北方向	21
SD10	B3	5	U字形	長(6.0)幅(7.0)深2.5	南北方向、SD03を切る	68
SD11	B1	3	U字形	長(6.0)幅1.0深0.35	北東南西方向、SK02に切られる	38
SD12	B1	3	皿状	長(5.6)幅4.3深0.55	北東南西方向、SD14を切る	38
SD13	B1	4～	皿状	長(4.2)幅0.65深0.1	北西南東方向、SK15を切る	別3
SD14	B1	3	逆台形	長(8.4)幅0.45深0.65	北東南西方向、SD12を切る	38
SD15	B3	2	U字形	長(2.6)幅0.35深0.2	北西南東方向	別3
SD16	B3	2	皿状	長(7.0)幅0.65深0.2	北西南東方向、SD07に切られる	別3
SD21	B7	3	下に凸形	長(44.0)幅5.6深1.3	東西方向、両肩にテラス有	44
SD22	B6	4	皿状	長(4.9)幅(1.2)深0.3	東西方向、SA06・SX22石積を伴う	75
SD23	B6	3	逆台形	長(16.0)幅0.8深0.3	南北方向、北側で行き止まり	43
SD24	B6	2	不整U字形	長(4.5)幅1.2～1.3深0.7	北東－南西方向、両肩テラス有	12
SD25	B6	4～	逆台形	長(3.5)幅0.5深0.3	東西方向やや蛇行する	別4
SD26	B6	4	U字形	長(5.0)幅0.85深0.45	東西方向	別4
SD27	B7	3	U字形	西側:長(4.7)幅0.8深0.4 東側:長(14.6)幅0.8深0.55	東西方向、SD21に平行	43
SD28	B4	5	皿状	長(5.6)幅0.75深0.4	SD29とT字状のプラン	—
SD29	B4	5	皿状	長1.35幅0.4深0.3	SD28とT字状のプラン	—
SD30	B7	2	U字形	長(5.6)幅(0.6)深0.4	北東－南西方向、SD21に切られる、SD27と同一溝か	12
SD31	B7	3	皿状	長(27.0)幅0.4深0.08	SD21に平行	別5
SD32	B4	4	不明	長(5.2)幅(2.2～3.9)深(1.4)	東西方向、鳥土手城館南辺を区画する堀、SA07土塁を伴う	70
SD33	B4	5	不明	長(34.0)幅(2.8)深1.2	南北方向、近現代に埋め戻し	別4
SD34	B6	3	皿状	長(3.1)幅0.6深0.2	SD23に切られる	43
SD35	B6	3	皿状	長(3.1)幅0.35深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD36	B6	3	皿状	長(3.2)幅0.45深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD37	B6	3	皿状	長(4.6)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD38	B6	3	皿状	長(4.7)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD39	B6	3	皿状	長(3.2)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD40	B6	3	皿状	長(9.4)幅(0.6)深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD41	B6	3	皿状	長(2.8)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD42	B6	3	皿状	長(2.9)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD43	B6	3	皿状	長(1.1)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD44	B6	3	皿状	長(10.2)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD45	B6	3	皿状	長(11.5)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD46	B6	3	皿状	長(5.0)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD47	B6	3	皿状	長(2.3)幅0.35深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD48	B6	3	皿状	長(2.4)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SD49	B6	3	皿状	長(2.5)幅0.4深0.1	南北方向、畝溝	別4
SD50	B5	4	U字形	長(7.6)幅0.5深0.3	南北方向、SD51とL字状を呈する、SK45を切る	72
SD51	B5	4	U字形	長(4.5)幅0.6深0.3	東西方向、SD50とL字状を呈する	72
SD52	B5	4	U字形	長(2.0)幅0.5深0.4	南北方向、SK45を切る	72
SD53	B4	2	U字形	長(3.4)幅0.7深0.3	東西方向、ロクロ土師器出土	22
SD54	B5	4	U字形	長(5.0)幅0.5深0.45	南北方向、SD50に並行	72
SD55	B4	3	皿状	長(3.0)幅1.5深0.35	東西方向	40
SD56	B4	3	皿状	長(2.6)幅0.45深0.1	東西方向	40
SD57	B4	3	不整U字形	長(2.95)幅1.35深0.6	東西方向、テラス有	40
SD58	B4	3	皿状	長(2.0)幅0.25深0.06	東西方向	41
SD59	B4	3	皿状	長(1.3)幅0.22深0.05	東西方向	41
SD60	B4	3	皿状	長(2.0)幅0.26深0.07	東西方向	41
SD61	B4	3	皿状	長(2.8)幅0.3深0.08	東西方向	41
SD62	B4	3	箱掘状	長(3.0)幅0.7深0.55	東西方向	41
SD63	B4	3	皿状	長(3.0)幅0.46深0.16	東西方向	41
SD64	B4	3	U字形	長(3.3)幅1.0深0.45	東西方向	41
SD65	B4	3	不整U字形	長(2.9)幅1.55深0.40	東西方向、北肩にテラス有	41
SD66	B4	3	皿状	長(3.6)幅0.3～0.6深0.03	東西方向、やや蛇行する	41
SD67	B4	3	皿状	長(3.0)幅(1.0)深0.45	東西方向	41
SD68	B5	3	皿状	長(5.5)幅1.25深0.35	南北方向、SD69とプランL字状となる	42
SD69	B4	3	皿状	長(2.0)幅0.5深0.2	東西方向、SD68とプランL字状となる	42
SD70	B5	3	逆台形	長(2.6)幅1.75深0.65	東西方向、SD50に切られる	42
SD71	B5	3	皿状	東西長1.0南北長3.0幅0.2深0.1	コの字状のプラン、SK56に切られる	42
SD72	B5	—	皿状	長(1.5)幅0.6深0.2	南北方向、SX21に切られる	73
SD73	B4	3	皿状	長(5.4)幅0.6深0.1	東西方向	40
SD74	B4	3	皿状	長(3.0)幅0.6m深0.2	東西方向	40
SD75	B4	3	皿状	長(3.0)幅0.55深0.2	東西方向	40
SD76	B6	4	皿状	長(4.8)幅1.1深0.45	東西方向	75
SD77	B6	3	皿状	長(4.5)幅(0.7)深0.5	東西方向	43
SD78	B6	3	皿状	長(4.5)幅(0.6)深0.5	東西方向	43
SD79	B5	4	皿状	東西長(1.2)南北長(1.0)幅0.4深0.1	L字状のプラン、SX21の東	73
SD81	B8	5	U字形	長(2.9)幅0.8深0.3	南北方向、近現代	—
SD82	B8	5	逆台形	長幅0.8深0.62	東西方向、SA01を切る	別4
SD83	B8	5	U字形	長幅0.24深0.13	南北方向	別4
SD84	B8	5	U字形	長(5.0)幅0.8深0.75	東西方向、SA01を切る	別4
SD85	B8	4	不明	長(4.7)幅(2.4)深(1.2)	東西方向、鳥土手城館跡北辺を区画する堀、SA01土塁を伴う	71
SD86	B8	5	U字形	長幅0.55深0.28	東西方向、動物遺体出土	別4
SD87	B8	5	U字形	長(4.7)幅1.3～1.8深0.7	東西方向	別4
SD88	B8	1	下に凸形	長(5.7)幅0.4～0.5深0.3	東西方向	9
SD89	B8	1	皿状	長(5.7)幅(0.4)深0.3	東西方向	9
SK01	B2	2	円形	径1.1深0.5	ロクロ土師器出土	21
SK02	B1	4	隅丸方形	長辺1.55短辺1.4深0.74		64
SK03	B1	—	楕円形	長軸2.1短軸0.8深0.25		64
SK04	B1	—	楕円形	長軸1.0短軸0.6深0.12		64
SK05	B1	—	楕円形	長軸1.6短軸0.9深0.34		64
SK06	B1	4	隅丸方形	長辺1.5短辺0.95深0.15		64
SK07	B1	4	楕円形	長軸1.45短軸(0.75)深0.28		64
SK08	B1	3	不明	東西(0.8)南北1.3深0.55		38
SK09	B1	4	楕円形	長軸2.1短軸(0.9)深0.8		64
SK10	B1	3	楕円形	長軸1.5短軸1.2深0.6		38
SK11	B3	4	隅丸長方形	長辺(2.4)短辺0.8～1.0深0.15	土師器皿出土	66
SK12	B3	—	不明(円形)	径(1.55)深0.24		66
SK13	B1	—	楕円形	長軸1.6短軸1.3深0.85		64
SK14	B1	—	楕円形	長軸(2.5)短軸(1.5)深0.85		64
SK15	B1	—	隅丸方形	長軸2.2短軸0.8深0.42		64
SK16	B1	—	隅丸方形	長軸2.8短軸0.8深0.6		64

第35表　遺構一覧表（4）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SK17	B5	—	楕円形	長軸1.0短軸0.65深0.1	SD07に切られる	別3
SK18	B4	5	不明	南北0.9深0.4	B1区東壁断面のみ	別3
SK31	B6	4	不整形	東西(5.5)南北(3.3)深0.35	土師器甕集積出土	76
SK32	B6	4	円形	径1.4深1.25		78
SK33	B6	4	不整方形	東西(2.5)南北(4.3)深0.55	土師器甕集積出土	77
SK34	B6	—	不整形	東西(1.6)南北1.95深0.5		別4
SK35	B5	3	不明(方形)	長辺2.2短辺(1.1)深0.15		42
SK36	B5	3	不明(長方形)	長辺(2.0)短辺0.9深0.15		42
SK37	B5	3	不整円形	東西(0.95)南北1.0深0.15		42
SK38	B4	3	円形	径1.6深0.4		41
SK39	B4	3	円形	径0.6深0.22		41
SK40	B5	—	不明	東西(0.8)南北(1.5)深0.5		73
SK41	B4	3	不整楕円形	長軸(2.4)短軸(2.3)深0.55		42
SK42	B4	3	不整楕円形	長軸(1.75)短軸(1.25)深0.15		42
SK43	B5	3	不明	東西(2.9)短辺(0.8)深0.25		42
SK44	B5	3	不明	長辺(2.1)短辺(0.4)深0.15		42
SK45	B5	3	不明(隅丸方形)	東西2.3南北2.0深0.9		42
SK46	B6	3	不明	南北(2.0)深(0.4)	B6区西壁断面のみ、北側	別5
SK47	B4	3	不明	東西(0.7)南北(3.3)深0.2		42
SK48	B4	3	不明	東西(0.8)南北(1.35)深0.4		42
SK49	B6	—	楕円形	長軸1.3短軸0.85深0.16		75
SK50	B4	3	不整形	東西(2.4)南北(2.6)深0.15		40
SK51	B5	3	楕円形	長軸1.3短軸1.0深0.2		42
SK52	B5	3	不明	東西(1.8)南北(0.7)深0.48		42
SK53	B5	—	楕円形	長軸1.2短軸1.0深0.12		42
SK54	B4	3	隅丸長方形	長辺(1.2)短辺0.55深0.25		40
SK55	B4	—	不明	東西(0.6)南北(5.8)深0.2		別4
SK56	B5	3	不整楕円形	長軸1.6短軸0.55深0.15		42
SK57	B5	3	不整形	東西(2.1)南北(0.6)深0.36		42
SK58	B5	3	不明	東西(1.5)南北(0.85)深0.6		別5
SK59	B4	—	不明	南北(1.6)深0.35	B4区東壁断面のみ、SD65の南	別4
SK60	B6	5	不明	南北(1.6)深0.4	B6区西壁断面のみ、SD21の北	別6
SK61	B6	4～	円形	径1.5深0.15	SD25等を切る	別4
SK62	B5	—	不整楕円形	長軸(1.0)短軸0.9深0.1	SX21の北	73
SE01	B6	4	楕円形	掘方長軸3.4短軸3.0深2.7井戸側径0.75高0.75	井戸側最下段および下部水溜め結桶枠	78
SX01	B1	5	—	—	敲儀群	—
SX02	B2	2	不整形	東西(3.9)南北(8.0)深0.15	落ち込み	21
SX03	B3	5	—	—	敲儀群	—
SX04	B1	2	不明	東西(3.6)南北(2.4)深0.2	落ち込み	別3
SX05	B3	5	不明	東西(0.7)南北0.5深0.3		64
SX06	B3	2	不明	東西(3.9)南北(1.5)深0.15	落ち込み	別3
SX07	B1	3	不明	東西(1.3)南北(2.2)深0.2	SD12内落ち込み	39
SX20	B6	4	—	東西(5.0)	SD22に伴う石列	75
SX21	B5	4	長方形	石積東西11.0南北1.6高0.35　掘方東西12.3南北9.5深0.45	石積施設、SA03・04を伴う	73
SX22	欠番					
SX23	B5	4～	不整形	東西0.5南北(3.5)深0.1	溝状、敲儀か	72
SX24	B5	4～	不整形	東西0.7南北3.2深0.1	溝状、敲儀か	72
SX25	B4	3	不整楕円形	長軸0.75短軸(0.4)深0.1		42
SX26	B5	2	不明	東西(2.0)南北(1.8)深0.1	落ち込み、須恵器出土	別3
SX27	B6	～3	不明	東西(2.4)南北(6.0)深0.1	B6中央低地	別5
SX28	B6	～3	不明	東西(4.6)深0.1	B6南側低地	別5
SX29	B6	～3	不明	東西(1.1)南北0.4	溝状	別5
SX31	B8	5	不明	東西(4.5)南北(1.8)深0.4	近世の落ち込み、SD85を切る	別5
SX32	B8	5	不明	東西(4.5)南北(1.6)深0.5	近世の落ち込み、SD85を切る	別5
SX33	B8	1	—	—	縄文土器集積	9

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P01	B1	4	円形	径0.43深0.45		64
P02	B1	4	円形	径0.42深0.43		64
P03	B1	4	楕円形	長軸0.98短軸0.63深0.1		64
P04	B1	4	円形	径0.48深0.38		64
P05	B1	4	円形	径0.38深0.37		64
P06	B1	4	円形	径0.5深0.28		64
P07	B1	4	円形	径0.6深0.15		64
P08	B1	4	楕円形	長軸0.55短軸0.4深0.08		64
P09	B1	4	円形	径0.28深0.1		64
P10	B1	4	円形	径0.4深0.18		—
P11	B1	4	楕円形	長軸0.6短軸0.4深0.31		64
P12	B3	4	円形	径(0.14)深0.1		66
P13	B3	4	円形	径0.55深0.15		66
P14	B3	4	円形	径0.37深0.28		66
P15	B3	4	楕円形	長軸0.5短軸0.4深0.34		66
P16	B3	4	円形	径0.28深0.27		66
P17	B3	4	円形	径0.3深0.27		66
P18	B3	4	円形	径0.35深0.23		66
P19	B3	4	円形	径0.39深0.5		66
P20	B3	4	円形	径0.38深0.25		66
P21	B3	4	円形	径0.34深0.41		66
P22	B3	4	円形	径0.3深0.17		66
P23	B3	4	楕円形	長軸0.5短軸0.3深0.3		66
P24	B3	4	円形	径0.28深0.2		66
P25	B3	4	楕円形	長軸0.7短軸0.56深0.78		66
P26	B3	4	円形	径0.38深0.25		66
P27	B3	4	円形	径0.33深0.11		66
P28	B3	4	円形	径0.37深0.08		66
P29	B3	4	円形	径0.39深0.14		66
P30	B3	4	円形	径(0.17)深0.11		66
P31	B3	4	円形	径(0.25)深0.16		66
P32	B3	4	円形	径0.4深0.39		66
P33	B3	4	楕円形	長軸0.54短軸0.42深0.67		66
P34	B3	—	円形	径0.28深0.27		66
P35	B3	—	円形	径0.26深0.3		別3
P36	B3	—	円形	径0.21深0.23		別3
P37	B3	—	円形	径0.23深0.25		別3
P38	B3	—	円形	径0.25深0.14		別3
P39	B2	—	楕円形	長軸0.48短軸0.35深0.1	SA10に伴うピット	65
P40	B2	—	円形	径0.32深0.55	SA11に伴うピット	65
P41	B2	—	楕円形	長軸0.6短軸0.42深0.54	SA12に伴うピット	65
P42	B3	4	楕円形	長軸0.37短軸0.26深0.22		66
P43	B3	4	円形	径(0.18)深0.16		66
P44	B3	—	円形	径0.28深0.29		別3
P45	B3	—	円形	径0.4深0.19		別3
P46	B3	—	円形	径0.25深0.15		別3
P47	B3	—	円形	径0.32深0.19		別3
P48	B3	—	円形	径0.25深0.14		別3
P49	B3	—	円形	径0.32深0.1		別3
P50	B3	—	円形	径0.34深0.09		別3
P51	B3	—	円形	径0.4深0.11		別3
P52	B3	—	円形	径0.33深0.1		別3
P53	B3	—	楕円形	長軸0.55短軸(0.4)深0.34		別3
P54	B3	—	楕円形	長軸0.5短軸(0.3)深0.2		別3
P55	B2	—	楕円形	長軸0.62短軸0.4深0.51	SA13に伴うピット	65
P56	B2	—	円形	径0.28深0.54	SA10に伴うピット	65

第36表　遺構一覧表（5）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P57	B2	—	円形	径0.38深0.6	SA11に伴うピット	65
P58	B2	—	円形	径0.32深0.6	SA12に伴うピット	65
P59	B2	—	円形	径0.3深0.61	SA12に伴うピット	65
P60	B2	—	円形	径0.31深0.6	SA11に伴うピット	65
P61	B3	4	楕円形	長軸0.74短軸0.61深0.33		66
P62	B3	—	円形	径0.23深0.25		別3
P63	B3	4	楕円形	長軸0.3短軸0.2深0.11		66
P64	B3	4	楕円形	長軸0.3短軸0.24深0.22		66
P65	B3	4	円形	径0.26深0.15		66
P66	B3	4	円形	径0.22深0.16		66
P67	B3	4	円形	径0.2深0.13		66
P68	B3	4	円形	径0.27深0.2		66
P69	B3	4	円形	径0.46深0.32		66
P70	B3	4	円形	径(0.14)深0.18		66
P71	B3	4	楕円形	長軸0.35短軸0.3深0.42		66
P72	B3	4	楕円形	長軸0.35短軸0.27深0.15		66
P73	B2	—	円形	径0.25深0.13		別3
P74	B2	2	円形	径0.65深0.35	ロクロ土師器出土	21
P75	B2	—	円形	径0.45深0.4	SA11に伴うピット	65
P76	B2	—	円形	径0.37深0.45	SA13に伴うピット	65
P77	B2	—	円形	径0.4深0.49	P75・76に切られる	65
P78	B2	—	円形	径0.31深0.52	SA10に伴うピット	65
P79	B2	—	円形	径0.33深0.59		別3
P80	B2	—	楕円形	長軸0.42短軸0.33深0.22		別3
P81	B2	—	楕円形	長軸0.63短0.42深0.41		別3
P82	B2	—	円形	径0.48深0.4		別3
P83	B3	—	楕円形	長軸0.3短軸0.25深0.11		別3
P84	B3	—	不明	径(0.25)深0.2		別3
P85	B3	—	楕円形	長軸0.4短軸0.25深0.08		別3
P86	B3	—	円形	径0.27深0.08		別3
P87	B3	—	円形	径0.24深0.2		別3
P88	B1	—	円形	径0.43深0.31		別3
P89	B3	—	円形	径0.29深0.19		別3
P90	B3	—	不明	径(0.36)深0.16		別3
P91	B1	—	不明	径(0.3)深0.4	B1東壁断面のみ、SK08に切られる	別6
P101	B6	—	円形	径0.4深0.07	SD38を切る	別4
P102	B6	—	楕円形	長軸0.4短軸0.28深0.1	SD37を切る	別4
P103	B6	—	円形	径0.4深0.24	SD21を切る	75
P104	B6	—	円形	径0.29深0.25	SD21を切る	75
P105	B6	—	円形	径0.38深0.18	SX27を切る	43
P106	B6	—	円形	径0.31深0.13		43
P107	B6	—	円形	径0.28深0.08	SD24を切る	43
P108	B6	—	円形	径0.2深0.1		43
P109	B6	—	楕円形	長軸0.35短軸0.3深0.1		43
P110	B6	—	円形	径0.25深0.04		43
P111	B6	—	楕円形	長軸0.42短軸0.0.34深0.09		43
P112	B6	—	円形	径0.22深0.08		43
P113	B6	—	不明	径0.43深0.11		43
P114	B6	—	円形	径0.25深0.09		43
P115	B6	—	円形	径0.20深0.06		43
P116	B6	—	円形	径0.4深0.13		43
P117	B6	—	円形	径0.4深0.17		43
P118	B6	—	円形	径0.25深0.1		43
P119	B6	—	円形	径0.21深0.09		43
P120	B6	—	円形	径0.25深0.1		43
P121	B6	—	円形	径0.3深0.08		43

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P122	B6	—	円形	径0.27深0.11		別5
P123	B6	4	円形	径0.54深0.39	SA05に伴うピット	73
P124	B6	4	楕円形	長軸0.55短軸0.4深0.3		73
P125	B6	4	楕円形	長軸0.5短軸0.4深0.12		73
P126	B6	4	円形	径0.44深0.47	SA05に伴うピット、石有	73
P127	B6	4	楕円形	長軸0.48短軸0.35深0.18	P140を切る	73
P128	B6	4	円形	径0.24深0.15	P140を切る	73
P129	B6	4	円形	径0.34深0.20	P142を切る	73
P130	B5	4	円形	径0.36深0.13		73
P131	B5	4	円形	径0.2深0.07		73
P132	B5	4	円形	径0.44深0.42	SA03・05に伴うピット	73
P133	B5	4	円形	径0.36深0.1		73
P134	B5	4	円形	径0.34深0.13		73
P135	B5	4	円形	径0.35深0.09		73
P136	B5	4	円形	径0.36深0.09		73
P137	B5	4	円形	径0.3深0.12		73
P138	B5	4	円形	径0.25深0.1		73
P139	B5	4	楕円形	長軸0.54短軸0.46深0.14		73
P140	B6	4	楕円形	長軸0.63短軸0.48深0.4	P127を切る	73
P141	B6	4	楕円形	長軸0.3短軸0.24深0.2	P142を切る	73
P142	B6	4	不明(楕円形)	長軸(0.7)短軸(0.4)深0.38	P140・141に切られる	73
P143	B6	4	円形	径0.26深0.12		73
P144	B6	4	楕円形	長軸(0.7)短軸0.56深0.54	SA05に伴うピット、P145を切る	73
P145	B6	4	楕円形	長軸(0.5)短軸0.4深0.11		73
P146	B6	4	円形	径0.27深0.08		73
P147	B6	4	円形	径0.20深0.11		73
P148	B6	4	円形	径0.16深0.06		73
P149	B6	4	楕円形	長軸(0.4)短軸0.33深0.18		73
P150	B6	4	楕円形	長軸0.38短軸0.3深0.13		73
P151	B6	4	円形	径0.44深0.16		73
P152	B6	4	円形	径0.31深0.09		73
P153	B6	4	円形	径0.15深0.08		73
P154	B6	4	円形	径0.23深0.07		73
P155	B5	4	円形	径0.28深0.13		73
P156	B6	4	楕円形	長軸0.4短軸0.28深0.13		73
P157	B6	4	楕円形	長軸0.4短軸0.34深0.14		73
P158	B6	4	楕円形	長軸0.24短軸0.14深0.08		73
P159	B6	—	円形	径0.25深0.2	SX27を切る	43
P160	B6	—	円形	径0.32深0.25		43
P161	B6	—	円形	径0.4深0.24		43
P162	B6	—	楕円形	長軸0.23短軸0.16深0.1	SD21を切る	75
P163	B6	—	不明(円形)	径(0.2)深0.08	SD21を切る	75
P164	B6	—	円形	径0.3深0.06	SD45を切る	別4
P165	B5	4	円形	径0.3深0.17	SK31の東	73
P166	B5	4	円形	径0.21深0.08	SK31の東	73
P167	B5	4	楕円形	長軸0.3短軸0.18深0.13	SK31の東	73
P168	B5	4	円形	径0.35深0.1	SX21の西	73
P169	B5	4	円形	径0.23深0.1	SX21の西	73
P170	B4	—	不明(円形)	径0.2深0.1	SD32内	—
P171	B5	4	円形	径0.25深0.08	SX21の東	73
P172	B5	4	円形	径0.24深0.09	SX21の東	73
P173	B5	4	円形	径0.28深0.1	SX21の東	73
P174	B6	—	楕円形	長軸0.4短軸0.33深0.2		43
P175	B5	—	円形	径0.3深0.09	SX21の西、石有	73
P176	B5	—	円形	径0.3深0.05	SX21の西、石有	73
P177	B5	—	円形	径0.18深0.2		42

第37表　遺構一覧表（6）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P57	B2	—	円形	径0.38深0.6	SA11に伴うピット	65
P58	B2	—	円形	径0.32深0.6	SA12に伴うピット	65
P59	B2	—	円形	径0.3深0.61	SA12に伴うピット	65
P60	B2	—	円形	径0.31深0.6	SA11に伴うピット	65
P61	B3	4	楕円形	長軸0.74短軸0.61深0.33		66
P62	B3	—	円形	径0.23深0.25		別3
P63	B3	4	楕円形	長軸0.3短軸0.2深0.11		66
P64	B3	4	楕円形	長軸0.3短軸0.24深0.22		66
P65	B3	4	円形	径0.26深0.15		66
P66	B3	4	円形	径0.22深0.16		66
P67	B3	4	円形	径0.2深0.13		66
P68	B3	4	円形	径0.27深0.2		66
P69	B3	4	円形	径0.46深0.32		66
P70	B3	4	円形	径(0.14)深0.18		66
P71	B3	4	楕円形	長軸0.35短軸0.3深0.42		66
P72	B3	4	楕円形	長軸0.35短軸0.27深0.15		66
P73	B2	—	円形	径0.25深0.13		別3
P74	B2	2	円形	径0.65深0.35	ロクロ土師器出土	21
P75	B2	—	円形	径0.45深0.4	SA11に伴うピット	65
P76	B2	—	円形	径0.37深0.45	SA13に伴うピット	65
P77	B2	—	円形	径0.4深0.49	P75・76に切られる	65
P78	B2	—	円形	径0.31深0.52	SA10に伴うピット	65
P79	B2	—	円形	径0.33深0.59		別3
P80	B2	—	楕円形	長軸0.42短軸0.33深0.22		別3
P81	B2	—	楕円形	長軸0.63短0.42深0.41		別3
P82	B2	—	円形	径0.48深0.4		別3
P83	B3	—	楕円形	長軸0.3短軸0.25深0.11		別3
P84	B3	—	不明	径(0.25)深0.2		別3
P85	B3	—	楕円形	長軸0.4短軸0.25深0.08		別3
P86	B3	—	円形	径0.27深0.08		別3
P87	B3	—	円形	径0.24深0.2		別3
P88	B1	—	円形	径0.43深0.31		別3
P89	B3	—	円形	径0.29深0.19		別3
P90	B3	—	不明	径(0.36)深0.16		別3
P91	B1	—	不明	径(0.3)深0.4	B1東壁断面のみ、SK08に切られる	別6
P101	B6	—	円形	径0.4深0.07	SD38を切る	別4
P102	B6	—	楕円形	長軸0.4短軸0.28深0.1	SD37を切る	別4
P103	B6	—	円形	径0.4深0.24	SD21を切る	75
P104	B6	—	円形	径0.29深0.25	SD21を切る	75
P105	B6	—	円形	径0.38深0.18	SX27を切る	43
P106	B6	—	円形	径0.31深0.13		43
P107	B6	—	円形	径0.28深0.08	SD24を切る	43
P108	B6	—	円形	径0.2深0.1		43
P109	B6	—	楕円形	長軸0.35短軸0.3深0.1		43
P110	B6	—	円形	径0.25深0.04		43
P111	B6	—	楕円形	長軸0.42短軸0.0.34深0.09		43
P112	B6	—	円形	径0.22深0.08		43
P113	B6	—	不明	径0.43深0.11		43
P114	B6	—	円形	径0.25深0.09		43
P115	B6	—	円形	径0.20深0.06		43
P116	B6	—	円形	径0.4深0.13		43
P117	B6	—	円形	径0.4深0.17		43
P118	B6	—	円形	径0.25深0.1		43
P119	B6	—	円形	径0.21深0.09		43
P120	B6	—	円形	径0.25深0.1		43
P121	B6	—	円形	径0.3深0.08		43

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P122	B6	—	円形	径0.27深0.11		別5
P123	B6	4	円形	径0.54深0.39	SA05に伴うピット	73
P124	B6	4	楕円形	長軸0.55短軸0.4深0.3		73
P125	B6	4	楕円形	長軸0.5短軸0.4深0.12		73
P126	B6	4	円形	径0.44深0.47	SA05に伴うピット、石有	73
P127	B6	4	楕円形	長軸0.48短軸0.35深0.18	P140を切る	73
P128	B6	4	円形	径0.24深0.15	P140を切る	73
P129	B6	4	円形	径0.34深0.20	P142を切る	73
P130	B5	4	円形	径0.36深0.13		73
P131	B5	4	円形	径0.2深0.07		73
P132	B5	4	円形	径0.44深0.42	SA03・05に伴うピット	73
P133	B5	4	円形	径0.36深0.1		73
P134	B5	4	円形	径0.34深0.13		73
P135	B5	4	円形	径0.35深0.09		73
P136	B5	4	円形	径0.36深0.09		73
P137	B5	4	円形	径0.3深0.12		73
P138	B5	4	円形	径0.25深0.1		73
P139	B5	4	楕円形	長軸0.54短軸0.46深0.14		73
P140	B6	4	楕円形	長軸0.63短軸0.48深0.4	P127を切る	73
P141	B6	4	楕円形	長軸0.3短軸0.24深0.2	P142を切る	73
P142	B6	4	不明(楕円形)	長軸(0.7)短軸(0.4)深0.38	P140・141に切られる	73
P143	B6	4	円形	径0.26深0.12		73
P144	B6	4	楕円形	長軸(0.7)短軸0.56深0.54	SA05に伴うピット、P145を切る	73
P145	B6	4	楕円形	長軸(0.5)短軸0.4深0.11		73
P146	B6	4	円形	径0.27深0.08		73
P147	B6	4	円形	径0.20深0.11		73
P148	B6	4	円形	径0.16深0.06		73
P149	B6	4	楕円形	長軸(0.4)短軸0.33深0.18		73
P150	B6	4	楕円形	長軸0.38短軸0.3深0.13		73
P151	B6	4	円形	径0.44深0.16		73
P152	B6	4	円形	径0.31深0.09		73
P153	B6	4	円形	径0.15深0.08		73
P154	B6	4	円形	径0.23深0.07		73
P155	B5	4	円形	径0.28深0.13		73
P156	B6	4	楕円形	長軸0.4短軸0.28深0.13		73
P157	B6	4	楕円形	長軸0.4短軸0.34深0.14		73
P158	B6	4	楕円形	長軸0.24短軸0.14深0.08		73
P159	B6	—	円形	径0.25深0.2	SX27を切る	43
P160	B6	—	円形	径0.32深0.25		43
P161	B6	—	円形	径0.4深0.24		43
P162	B6	—	楕円形	長軸0.23短軸0.16深0.1	SD21を切る	75
P163	B6	—	不明(円形)	径(0.2)深0.08	SD21を切る	75
P164	B6	—	円形	径0.3深0.06	SD45を切る	別4
P165	B5	4	円形	径0.3深0.17	SK31の東	73
P166	B5	4	円形	径0.21深0.08	SK31の東	73
P167	B5	4	楕円形	長軸0.3短軸0.18深0.13	SK31の東	73
P168	B5	4	円形	径0.35深0.1	SX21の西	73
P169	B5	4	円形	径0.23深0.1	SX21の西	73
P170	B4	—	不明(円形)	径0.2深0.1	SD32内	—
P171	B5	4	円形	径0.25深0.08	SX21の東	73
P172	B5	4	円形	径0.24深0.09	SX21の東	73
P173	B5	4	円形	径0.28深0.1	SX21の東	73
P174	B6	—	楕円形	長軸0.4短軸0.33深0.2		43
P175	B5	—	円形	径0.3深0.09	SX21の西、石有	73
P176	B5	—	円形	径0.3深0.05	SX21の西、石有	73
P177	B5	—	円形	径0.18深0.2		42

第37表　遺構一覧表（6）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P13	C2	—	円形	径0.18深0.04		別7
P14	C2	—	楕円形	長軸0.76短軸0.56深0.04		別7
P15	C2	—	不明	東西(0.3)南北0.53深0.12		別7
P16	C2	—	不整楕円形	長軸0.53短軸0.4深0.05		別7
P17	C2	—	円形	径0.48深0.17		別7
P18	C2	—	円形	径0.33深0.15		別7
P19	C2	—	楕円形	径0.3深0.04		別7
P20	C2	—	円形	径0.07深0.03		別7
P21	C2	—	円形	径0.06深0.03		別7
P22	C2	—	円形	径0.26深0.05		別7
P23	C2	—	楕円形	長軸0.56短軸0.25深0.07		別7
P24	C2	—	楕円形	長軸0.48短軸0.3深0.06		別7
P25	C2	—	不整楕円形	長軸0.4短軸0.35深0.04		別7
P26	C2	—	楕円形	長軸0.4短軸0.25深0.09		別7
P27	C2	2	楕円形	長軸0.6短軸0.4深0.1		別7
P28	C2	—	円形	径0.42深0.05		別7
P29	C2	—	円形	径0.24深0.07		別7
P30	C2	—	円形	径0.33深0.08		別7
P31	C2	—	不整形	東西(0.35)南北0.24深0.09		別7
P32	C2	—	円形	径0.21深0.08		別7
P33	C2	—	楕円形	長軸0.25短軸0.2深0.06		別7
P34	C2	—	円形	径0.28深0.16		別7
P35	C2	—	円形	径0.34深0.05		別7
P36	C2	—	円形	径0.24深0.08	SX02を切る	—
P37	C2	—	円形	径0.43深0.07		別7
P38	C2	—	円形	径0.38深0.05		別7
P39	C2	—	円形	径0.51深0.09		別7
P40	C2	—	円形	径0.43深0.05		別7
P41	C2	—	円形	径0.26深0.07		別7
P42	C2	—	円形	径(0.41)深0.1		別7
P43	C2	—	円形	径0.16深0.06		別7
P44	C2	—	楕円形	長軸0.24短軸0.17深0.06		別7
P45	C2	—	円形	径0.38深0.07		別7
P46	C2	—	円形	径0.26深0.05		別7
P47	C2	—	円形	径(0.25)深0.26		別7
P48	C2	—	円形	径0.34深0.13		別7
P49	C2	—	円形	径0.19深0.03		別7
P50	C2	—	円形	径0.25深0.07		別7
P51	C2	—	円形	径0.25深0.06		別7
P52	C2	—	円形	径0.2深0.22		—

鷲山柳遺跡D区

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SA01	D4	5	—	東西19.0m、10間	SD11を切る	別8
SB01	D3	2	方形	長辺4.4短辺3.5深0.1	SD01に切られる	14
SD01	D2・3	4	逆台形	長(29.0)幅1.4～1.6深0.4	東西方向、掘り直し有	81
SD02	欠番					
SD03	D2	4	不明	長(2.7)幅(1.2)深(0.2)	南北方向、SD01との切りあい不明	81
SD04	D2	—	皿状	長(2.5)幅0.28深0.2	南北方向	別8
SD05	D2	—	皿状	長(3.5)幅0.35深0.1	東西方向、SX03内、畝溝か	別8
SD06	D2	—	皿状	長(3.5)幅0.38深0.1	東西方向、SX03内、畝溝か	別8
SD10	D4	—	皿状	長(2.0)幅0.6深0.15	南北方向、畝溝か	別8
SD11	D4	—	皿状	長(9.8)幅0.4深0.2	東西方向、SX03内、畝溝か	別8
SD12	D4	—	皿状	長(9.8)幅0.5深0.2	東西方向、SX03内、畝溝か	別8
SD13	D4	—	皿状	長(0.8)幅0.4深0.15	北東－南西方向、SX03内	別8
SD14	D4	—	皿状	長幅0.26深0.12	北東－南西方向	別8
SD15	D4	—	皿状	長幅0.69深0.08	北東－南西方向	別8
SD16	D4	4	V字形(薬研形)	長(5.1)幅1.15～1.4深0.45	南北方向	81
SD31	D3	—	皿状	長(4.5)幅0.25深0.03	南北方向、近世暗渠か	別8
SD32	D3	—	皿状	長(4.5)幅0.17深0.06	南北方向、近世暗渠か	別8
SD33	D3	—	皿状	長(4.5)幅0.16深0.04	南北方向、近世暗渠か	別8
SD34	D3	—	皿状	長(1.0)幅0.2深0.05	東西方向、畝溝か	別8
SD35	D3	—	皿状	長2.4幅0.66深0.04	東西方向、畝溝か	別8
SE01	D2	5	円形	径1.6深1.2	抜き取り痕跡有	95
SE02	D2	5	不明(円形)	東西2.4南北1.0深1.0	素掘井戸か	95
SK01	D2	—	隅丸長方形	長辺0.64短辺1.35深0.2		別8
SK02	D2	4	楕円形	長軸(1.85)短軸(1.1)深0.4	SK11を切る	82
SK03	D2	4	楕円形	長軸(2.7)短軸(1.05)深0.45		82
SK04	D2	—	不明	東西(1.1)南北(2.4)深0.3	SK07を切る	別8
SK05	D1	4	不整楕円形	長軸2.7短軸(1.2)深0.25	埋土に礫多量含	82
SK06	D1	2	楕円形	長軸1.9短軸1.5深0.35	SK08・10を切る	13
SK07	D1	—	不整形	東西(0.8)南北1.05深0.21	SK04に切られる	別8
SK08	D1	2	隅丸長方形	長辺2.6短辺2.3深0.4	SK06・10に切られる	13
SK09	D1	—	不明(楕円形)	東西(0.5)南北1.25深0.3		別8
SK10	D1	2	楕円形	長軸2.1短軸1.6深0.25	SK06に切られ、SK08を切る	13
SK11	D2	4	不整楕円形	長軸(1.05)短軸1.0深0.2	SK02に切られる	82
SK12	D2	—	不明	東西(0.88)南北(0.2)深0.26		別8
SK13	D2	—	不明	東西(0.64)南北(0.45)深0.5		別8
SK14	D2	—	不明	東西(1.35)南北(0.6)深0.3		別8
SK15	D1	2	楕円形	長軸1.6短軸1.3深0.15		13
SK16	D2	—	不明	東西(0.3)南北(0.83)深0.2		別8
SK30	D4	—	楕円形	長軸1.1短軸0.8深0.2	SX09に切られる	別8
SK31	D4	—	不明	東西1.2南北(0.5)深0.15	SX09に切られる	別8
SK32	D4	—	不明	東西(0.52)南北(0.3)深0.15		別8
SK33	D4	—	不明	東西(1.2)南北(0.65)深0.18		別8
SK34	D4	—	楕円形	東西1.5南北(0.8)深0.22	SD16を切る、近世か	—
SK35	D4	—	不整楕円形	長軸0.6短軸0.38深0.12		別8
SK36	D4	—	不整形	東西(1.4)南北(0.7)深0.12	SX09に切られる	別8
SK37	D4	—	不整楕円形	長軸1.75短軸1.1深0.12		別8
SK38	D4	—	楕円形	長軸1.35短軸0.7深0.14		別8
SK51	D3	—	不整楕円形	長軸0.98短軸0.38深0.05		別8
SK52	D3	—	不整楕円形	東西0.4南北0.65深0.12		別8
SK53	D3	—	不明	東西(0.8)南北0.3深0.2		別8
SK54	D3	—	不整形	東西(0.5)南北(0.7)深0.05		別8
SK55	D3	—	不整形	東西0.2南北1.1深0.03		別8
SK56	D3	—	不明	東西0.37南北0.5深0.04		別8
SK57	D3	—	不整形	東西(0.8)南北(0.33)深0.07		別8
SK58	欠番					
SK59	D3	—	不整形	東西1.5南北0.54深0.1		別8
SK60	D3	—	不整方形	東西1.5南北0.7深0.1		別8
SK61	D3	—	不整形	東西0.9南北1.95深0.06		別8
SK62	D3	—	楕円形	長軸0.88短軸0.4深0.15		別8
SK63	D3	—	不整形	東西0.78南北0.26深0.06		別8
SK64	D3	—	楕円形	長軸0.4短軸0.13深0.04		別8
SK65	D3	2	不整楕円形	長軸(1.75)短軸(1.0)深0.15	SB01内	14
SK66	欠番					
SX01	D2	5	不明	東西(7.0)南北(3.3)深0.55	近世水田跡か	別8
SX02	D2	5	隅丸長方形	東西(6.0)南北(2.8)深0.5		別8
SX03	D2・3	5	不明	東西(15.0)南北(2.9)深0.4	近世水田跡か	95
SX04	D2	—	隅丸長方形	長辺3.2短辺1.85深0.15	SX03内、SE01に切られる	別8
SX05	D2	—	不整長方形	東西(4.6)南北1.5深0.2	SX03内、SX02に切られる	別8
SX09	D3・4	5	不明	東西(21.0)南北(1.9)深0.25	近世水田跡か	別8

第39表　遺構一覧表（8）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P39	D2	－	楕円形	長軸0.46短軸0.4深0.06		81
P40	D1	－	円形	径0.4深0.12	P27に切られる	別8
P41	D2	－	円形	径0.48深0.18	SD01内	81
P42	D2	－	楕円形	長軸0.42短軸0.26深0.07	石有	別9
P51	D4	－	円形	径0.2深0.06		81
P52	D4	－	楕円形	長軸0.43短軸0.27深0.06		別8
P53	D4	－	円形	径0.2深0.06		別8
P54	D4	－	楕円形	長軸0.21短軸0.16深0.05		別8
P55	D4	－	円形	径0.35深0.08		別8
P56	D4	－	円形	径0.44深0.15		別8
P57	D4	－	円形	径0.42深0.19		別8
P58	D4	－	不整楕円形	長軸0.5短軸0.4深0.32		別8
P59	D4	－	円形	径0.3深0.16		別8
P60	D4	－	円形	径0.47深0.28		別8
P61	D4	－	円形	径0.38深0.33		別8
P62	D4	－	円形	径0.44深0.3		別8
P63	D4	－	円形	径0.2深0.09		別8
P64	D4	－	円形	径0.24深0.09		別8
P65	D4	－	円形	径0.16深0.03	SD12に切られる	－
P66	D4	－	円形	径0.3深0.05		別8
P67	D4	－	円形	径0.3深0.03		別8
P68	D4	－	円形	径0.3深0.07		別8
P69	D4	－	円形	径0.4深0.16		別8
P70	D4	－	円形	径0.26深0.03	SD11に切られる	－
P71	D4	－	円形	径0.23深0.12		81
P72	D4	－	楕円形	長軸0.23短軸0.15深0.13		81
P73	D4	－	円形	径0.3深0.03		別8
P74	D4	－	円形	径0.18深0.06		別8
P75	D4	－	円形	径0.23深0.31		別8
P76	D4	－	楕円形	長軸0.27短軸0.18深0.08		別8
P77	D4	－	円形	径0.3深0.16		別8
P78	D4	－	円形	径0.23深0.16		別8
P79	D4	－	不明	径(0.5)深0.13	南壁断面のみ	別8
P91	D3	－	楕円形	長軸0.5短軸0.37深0.11	SD01を切る	別8
P92	D3	－	円形	径0.3深0.05	SK51を切る	別8
P93	D3	－	円形	径0.18深0.02		別8
P94	D3	－	円形	径0.34深0.04		別8
P95	D3	－	円形	径0.24深0.04		別8
P96	D3	－	円形	径0.27深0.02		別8
P97	D3	－	円形	径0.2深0.06	SD01を切る	別8
P98	D3	－	円形	径0.2深0.08		別8
P99	D3	－	円形	径0.13深0.03		別8
P100	D3	－	円形	径0.25深0.04		別8
P101	D3	－	円形	径0.19深0.08		別8
P102	D3	－	円形	径(0.11)深(0.08)		別8
P103	D3	－	円形	径0.21深0.08		別8
P104	D3	－	楕円形	長軸0.44短軸0.38深0.04		別8
P105	D3	－	円形	径0.18深0.03		別8
P106	D3	－	円形	径0.16深0.05		別8
P107	D3	－	円形	径0.32深0.05		別8
P108	D3	－	円形	径0.38深0.06		別8
P109	D3	－	円形	径0.24深0.05		別8
P110	D3	－	円形	径0.33深0.04		別8
P111	D3	－	円形	径(0.25)深0.06		別8
P112	D3	－	円形	径(0.38)深0.03		別8
P113	D3	－	円形	径0.42深0.19		別8

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SX10	D4	－	不整形	東西1.4南北(2.0)深0.2	SD16を切る	－
SX11	D4	－	不明	東西(3.8)南北0.48深0.09		別9
SX12	D4	－	不整形	東西2.4南北(1.4)深0.06	SX13を切る、近世水田跡か	別9
SX13	D4	－	不整形	東西(7.2)南北(2.8)深0.14		別8
SX14	D4	－	不整形	東西(1.5)南北1.5深0.06	SD14を切る	別8
SX15	D4	－	不整形	東西2.0南北1.4深0.04	SD14を切る	別8
SX16	D4	－	不整形	東西3.1南北0.95深0.04		別8
SX17	D4	－	不整形	東西(9.6)南北(2.1)深0.25	低地	別8
SX18	D4	－	不明	東西(1.2)南北(1.3)深0.12	SD14を切る	別8
SX19	D4	－	不整形	東西1.4南北(1.6)深0.12	SD16を切る、近世か	別8
SX31	D3	－	不整形	東西3.7南北(2.3)深0.14	近世水田跡か	別8
SX32	D3	－	不明	東西(2.2)南北(1.1)深0.5	SX09に切られる	別8
SX33	D3	－	不明	東西(1.1)南北(0.9)深0.12		別8
SX34	欠番					
SX35	D3	－	不明	東西(1.1)南北(1.2)深0.15	SX31・32に切られる	別8
SX36	D3	－	不整形	東西(6.6)南北(2.0)深0.06	SD01を切る、近世水田跡か	別8
SE01	D2	5	円形	径1.6深1.2	抜き取り痕跡有	95
SE02	D2	5	不明	東西2.4南北1.0深1.0		95
P01	D2	－	円形	径0.14深0.06		別8
P02	D2	－	円形	径0.28深0.06		別8
P03	D2	－	円形	径0.25深0.05		別8
P04	D2	－	円形	径0.15深0.07		別8
P05	D2	－	円形	径0.5深0.17		別8
P06	D2	－	楕円形	長軸0.55短軸0.5深0.1		別8
P07	D1	－	楕円形	長軸0.31短軸0.22深0.06		82
P08	D1	－	円形	径0.33深0.08		82
P09	D1	－	楕円形	長軸0.4短軸0.31深0.21		82
P10	D1	－	円形	径0.27深0.14		別9
P11	D1	－	円形	径0.32深0.11		別9
P12	D1	3	円形	径0.4深0.25	白磁椀出土	別8
P13	D1	－	円形	径0.26深0.49		別8
P14	D1	－	円形	径0.23深0.08		別8
P15	D2	－	円形	径0.31深0.08		82
P16	D2	－	円形	径0.2深0.09		82
P17	D2	－	円形	径0.3深0.16		82
P18	D1	－	楕円形	長軸0.84短軸0.6深0.13		82
P19	D1	－	円形	径0.35深0.17		別8
P20	D1	－	円形	径0.32深0.16		別8
P21	D1	－	円形	径0.2深0.12		別8
P22	D1	－	円形	径0.3深0.11		別8
P23	D1	－	円形	径0.32深0.31		別8
P24	D2	－	円形	径0.6深0.09	SD01に切られる	81
P25	D2	－	円形	径0.48深0.16	SD01内	81
P26	D2	－	円形	径0.4深0.08		別9
P27	D1	－	円形	径0.36深0.1		82
P28	D1	－	円形	径0.25深0.07		別8
P29	D1	－	円形	径0.23深0.12		別8
P30	D1	－	不明	径(0.33)深0.1		別8
P31	D2	－	楕円形	長軸(0.5)短軸0.44深0.12	石有	別8
P32	D2	－	円形	径0.4深0.23	石有	別8
P33	D2	－	楕円形	長軸0.4短軸0.32深0.38		別8
P34	D2	－	楕円形	長軸0.4短軸0.34深0.2	石有	別8
P35	D2	－	円形	径(0.4)深0.22		別8
P36	D2	－	楕円形	長軸0.5短軸0.36深0.38		別8
P37	D2	－	楕円形	長軸0.41短軸0.34深0.33		別8
P38	D2	－	円形	径0.2深0.05		81

第40表　遺構一覧表（9）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P114	D3	—	円形	径0.22深0.11		別8
P115	D3	—	円形	径0.22深0.07		別8
P116	D3	—	円形	径0.23深0.06		別8
P117	D3	—	円形	径0.22深0.06		別8
P118	D3	—	円形	径0.17深0.07		別8
P119	D3	—	円形	径0.19深0.04		別8
P120	欠番					
P121	D3	—	円形	径0.31深0.1		別8

鷲山師遺跡E1区

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SD01	E1	5	皿状	長(11.4)幅0.7深0.3	東西方向、SD06・08を切る	別8
SD02	E1	4	皿状	長(5.6)幅0.9深0.32	南北方向、SD03を切る	83
SD03	E1	4	V字形(薬研形)	長(5.6)幅2.5深1.1	南北方向、土師器皿集積出土	84
SD04	E1	4	U字形	長(2.0)幅0.4深0.2	南北方向、SD03を切る	83
SD05	E1	4	皿状	長(5.4)幅0.5～0.7深0.2	南北方向、SD15と平面L字状を呈する	83
SD06	E1	4	皿状	長(13.3)幅0.6深0.25	東西方向	83
SD07	欠番					
SD08	E1	4	U字形	長(2.85)幅0.45深0.15	南北方向、土師器皿集積出土	83
SD09	E1	4	皿状	長(1.7)幅0.52深0.16	南北方向	別8
SD10	E1	4	皿状	長(3.8)幅1.05深0.35	南北方向、SD11を切る	別8
SD11	E1	4	皿状	長(2.7)幅(0.5)深0.32	南北方向、SD10に切られる	別8
SD12	欠番					
SD13	E1	4	皿状	長(3.1)幅0.98深0.3	南北方向	別8
SD14	E1	4	皿状	長(5.8)幅0.45深0.15	南北方向	83
SD15	E1	4	皿状	長(18.2)幅1.1深0.3	東西方向、SD05と平面L字状を呈する	83
SK01	E1	—	不明	東西0.6南北(0.5)深0.25	SD05に切られる	別8
SK02	E1	5	不明	東西(4.0)南北(3.3)深0.8	SD10を切る、近世か	別8
SK03	E1	4	楕円形	長軸0.9短軸0.8深0.14		83
SK04	E1	—	隅丸方形	長辺0.9短辺0.65深0.22	SD05に切られる	別8
SK05	E1	—	楕円形	長軸1.05短軸0.75深0.15	SD02に切られる	別8
SX01	E1	5	不明	東西(13.0)南北(2.7)深0.2	SD03・08・15を切る、近世水田跡か	別8
SX02	E1	5	溝状	東西0.75南北(3.1)深0.12	畝溝か	別8
SX03	E1	5	溝状	東西0.8南北(2.7)深0.1	畝溝か	別8
SX04	E1	2	不明	東西(26.0)南北(5.7)深0.15	低地	別8
P01	E1	—	円形	径0.13深0.06		別8
P02	E1	—	円形	径0.18深0.11		別8
P03	E1	—	楕円形	長軸0.4短軸0.3深0.08		別8
P04	E1	—	不明(楕円形)	長軸(0.15)短軸0.18深0.08		83
P05	E1	—	円形	径0.33深0.06		83
P06	E1	—	円形	径(0.31)深0.05		83
P07	E1	—	円形	径(0.3)深0.06		83
P08	E1	—	円形	径0.14深0.05		83
P09	E1	—	円形	径0.16深0.07		83
P10	E1	—	楕円形	長軸(0.32)短軸0.22深0.09		83
P11	E1	—	円形	径0.2深0.08		83
P12	E1	—	楕円形	長軸(0.2)短軸(0.3)深0.2		別8
P13	E1	—	円形	径0.2深0.04		83
P14	E1	—	円形	径0.14深0.02		83
P15	E1	—	円形	径0.27深0.04		83
P16	E1	—	円形	径0.2深0.03		83
P17	E1	—	楕円形	長軸0.28短軸0.2深0.1		83
P18	E1	—	円形	径0.21深0.1		83
P19	E1	—	楕円形	長軸0.68短軸0.4深0.08		83
P20	E1	—	円形	径0.44深0.08		別8

鷲山師遺跡F1区

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SB01	F1	2	方形	東西4.2南北(3.2)深0.25	ｶﾏﾄﾞ有、SB02・06を切る	23
SB02	F1	2	方形	東西(2.4)南北(1.5)深0.15	SB01に切られ、SB10を切る	24
SB03	F1	2	長方形	長辺(3.5)短辺3.0深0.2	ｶﾏﾄﾞ有。SD14に切られる	25
SB04	F1	2	長方形	長辺5.0短辺4.5深0.2	ｶﾏﾄﾞ有、SB14、SK08に切られる	26
SB05	欠番					
SB06	F1	2	方形	東西(2.0)南北(2.5)深0.2	SB01に切られる	23
SB07	F1	2	方形	一辺2.6深0.1	SB11に切られ、SB13を切る	27
SB08	F1	2	方形	東西(4.2)南北(1.6)深0.15	SB09・10を切る	24
SB09	F1	2	方形	東西(3.0)南北(0.8)深0.1	SB01・08に切られる	23
SB10	F1	2	方形	東西(2.1)南北(0.9)深0.1	SB01・02・08に切られる	24
SB11	F1	2	方形	一辺1.9深0.1	SB07を切る	27
SB12	F1	2	方形	東西(1.6)南北(0.8)深0.15	SK12に切られる	24
SB13	F1	2	方形	東西(3.5)南北(1.8)深0.2	SB07に切られる	27
SB14	F1	2	台形状	長辺(3.2)短辺(2.0)深0.1	SB04を切る	26
SB15	F1	2	長方形	長辺(2.4)短辺(2.0)深0.1	SB11に切られ、SB15を切る	28
SB16	F1	2	長方形	長辺(3.2)短辺(2.5)深0.05	SB15に切られる	28
SB17	欠番					
SB18	欠番					
SB19	欠番					
SB20	F3	2	方形	長辺2.0短辺(1.6)深0.08	SB21に切られ、SB29を切る	33
SB21	F3	2	方形	長辺(2.6)短辺2.2深0.15	SB22に切られ、SB20を切る	33
SB22	F3	2	方形	長辺(2.6)短辺(2.2)深0.2	SB23に切られ、SB21・25を切る	33
SB23	F3	2	方形	長辺(1.1)短辺(0.9)深0.15	SB24に切られ、SB22・25を切る	33
SB24	F3	2	方形	長辺(2.5)短辺(0.5)深0.1	SB23・25を切る	33
SB25	F3	2	方形	長辺(2.0)短辺(1.65)深0.15	SB22～24に切られる	33
SB26	F3	2	方形	長辺(4.4)短辺(2.8)深0.2	SB27・28を切る	35
SB27	F3	2	方形	長辺(4.3)短辺(1.2)深0.1	SB26に切られ、SB28を切る	35
SB28	F3	2	方形	長辺(3.2)短辺(1.0)深0.15	SB26・27に切られる	35
SB29	F3	2	方形	長辺(1.9)短辺(1.6)深0.15	SB20に切られる	33
SB60	F2	2	方形	東西3.2南北(1.5)深0.2	SK76・105に切られる	30
SB61	F2	2	方形	東西2.7南北(1.2)深0.2	SB62を切る	31
SB62	F2	2	長方形	長辺(3.2)短辺2.8深0.45	SB61に切られ、SB63を切る	31
SB63	F2	2	方形	東西(0.5)南北(3.9)深0.15	SB62に切られ、SB64を切る	31
SB64	F2	2	方形	東西(1.2)南北(0.3)深0.1	SB63に切られる	31
SB65	F2	2	方形	東西2.8南北(1.5)深0.2	SK89に切られる	30
SB66	F2	2	方形	東西2.0南北(1.0)深0.15	SB60・65に切られる	30
SD01	F1	5	皿状	長(4.5)幅0.5深0.1	南北方向、水田暗渠か	—
SD02	F1	5	皿状	長(4.5)幅0.7深0.1	南北方向、水田暗渠か	—
SD03	F1	5	皿状	長(4.5)幅0.7深0.1	南北方向、水田暗渠か	—
SD04	F1	5	皿状	長(4.5)幅1.2深0.1	南北方向、水田暗渠か	—
SD05	F1	5	皿状	長(4.6)幅0.5深0.1	南北方向、水田暗渠か	—
SD06	F1	5	皿状	長(4.7)幅0.7深0.1	南北方向、水田暗渠か	—
SD07	F1	5	皿状	長(4.9)幅0.8深0.1	南北方向、水田暗渠か	—
SD08	F1	5	皿状	長(4.8)幅0.75深0.1	南北方向、水田暗渠か	—
SD09	F1	5	皿状	長(4.8)幅0.75深0.1	南北方向、水田暗渠か	—
SD10	F1	4～	皿状	長(5.1)幅1.2深0.35	南北方向、SD13を切る	別9
SD11	F1	3	逆台形	長(4.8)幅2.1深0.6	南北方向、SD10に切られる	47
SD12	F1	4	U字形	長(4.1)幅0.7深0.45	南北方向、土師器皿集積出土	86
SD13	F1	4	逆台形	長(5.4)幅(1.9)深0.85	南北方向、土師器皿集積出土、SD10に切られる	85
SD14	F1	—	U字形	長(4.3)幅0.5深0.26	南北方向、SB03を切る	別9
SD15	F1	2	逆台形	長(5.3)幅0.65深0.4	南北方向、SB16を切る	28
SD16	F1	—	逆台形	長(5.3)幅0.7深0.32	南北方向、SD13の西	別9
SD17	F1	2	皿状	長(2.2)幅0.4深0.12	南北方向、SB01壁溝か	23
SD18	F1	2	皿状	長(2.5)幅0.4深0.1	南北方向、SB01壁溝か	23

第41表　遺構一覧表（10）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SD20	F3	—	皿状	長(5.5)幅0.65深0.08	東西方向	別10
SD21	F3	4	皿状	長(7.0)幅0.45深0.2	南北方向、SK30に切られる	89
SD22	F3	—	皿状	長4.8幅0.15深0.05	南北方向、暗渠か	別10
SD23	F3	—	皿状	東西長0.8南北長1.0 幅0.15深0.04	プランL字状、暗渠か	別10
SD24	F3	—	皿状	長1.8幅0.12深0.04	東西方向、暗渠か	別10
SD25	F3	—	皿状	東西長1.8南北長0.25 幅0.27深0.05	プランL字状、暗渠か	別10
SD26	F3	—	不明	長(1.9)幅(0.3)深(0.16)	東西方向	別10
SD40	F2	2	U字形	長(2.0)幅(1.0)深0.6	北東南西方向、SX20を切る	32
SK01	F1	5	不整楕円形	長軸(1.6)短軸(1.4)深0.1	SD13を切る	別9
SK02	F1	5	隅丸長方形	東西(1.2)南北(1.2)深0.5	SD12を切る	別9
SK03	F1	4	円形	径(1.6)深1.4	SB04を切る	87
SK04	F1	4	隅丸長方形	長辺1.6短辺1.1深0.15		87
SK05	F1	4	隅丸長方形	長辺1.3短軸0.9深0.1		87
SK06	F1	4	隅丸長方形	長辺1.0短軸0.85深0.1		87
SK07	F1	3	不整形	東西3.0南北1.9深0.35		86
SK08	F1	2	隅丸長方形	長辺2.4短辺1.5深0.15	SB04・14を切る	29
SK09	F1	—	不明	東西(1.3)南北1.2深0.08		別9
SK10	F1	2	不明	東西1.2南北(1.25)深0.22		25
SK11	F1	2	楕円形	長軸1.35短軸0.55深0.25	SB11内	27
SK12	F1	2	不整楕円形	長軸(1.7)短軸0.9深0.3	SB12を切る	24
SK13	F1	2	円形	径0.5深0.22	SB01内	23
SK14	F1	4	円形	径0.75深1.0	SB04を切る	87
SK15	F1	2	楕円形	長軸0.8短軸0.62深0.3	SB02内	24
SK16	F1	—	不整楕円形	長軸0.75短軸深0.38	SB16を切る	別9
SK17	F1	2	楕円形	長軸0.72短軸0.5深0.1	SB16カマド	28
SK18	F1	—	楕円形	長軸0.55短軸深0.24	SB16を切る	別9
SK19	F1	2	楕円形	長軸(1.4)短軸0.9深0.1		28
SK20	F1	2	不整楕円形	長軸(0.65)短軸(0.45)深0.3	SB08内	24
SK21	F1	2	楕円形	長軸(0.75)短軸(0.4)深0.12	SB09内	23
SK22	F1	2	不明	東西(0.95)南北(0.35)深0.05	SB01内、SB01に切られる	23
SK23	F1	2	不整形	東西(2.5)南北0.7深0.1	SB01内、SB01に切られる	23
SK24	F1	2	楕円形	長軸(0.9)短軸0.7深0.06	SB01内、SB01に切られる	23
SK25	F1	2	隅丸長方形	長辺2.9短辺1.3深0.1	SB03内、SB03に切られる	25
SK26	F1	2	不明	東西(0.65)南北(0.7)深0.08	SB09内	23
SK27	F1	2	不明	東西(1.7)南北(1.5)深0.12	SB08に切られる	24
SK30	F3	4	不整楕円形	東西1.3南北3.6深0.35		89
SK31	F3	—	不整円形	東西0.6南北0.65深0.65		89
SK32	F3	—	隅丸方形	東西0.7南北0.65深0.6		89
SK33	F3	5	不整形	東西(0.8)南北(1.0)深0.28	SK30を切る	別9
SK34	F3	—	円形	径0.6深0.2		89
SK35	F3	2	不明(楕円形)	長軸(0.95)短軸(0.75)深1.25	柱穴か、SK37・P184に規模似る	33
SK36	F3	～4	不整楕円形	東西0.75南北1.1深0.3	SD21に切られる	89
SK37	F3	2	楕円形	長軸1.0短軸0.6深1.2	柱穴か、SK35・P184に規模似る	33
SK38	F3	—	不整形	長辺0.85短辺0.75深0.18		33
SK39	F3	—	楕円形	長軸0.75短軸0.65深0.5		35
SK40	F3	2	隅丸長方形	長軸1.8短軸0.7深0.45	SB22内	33
SK41	F3	—	不明	東西(1.6)南北0.96深0.36	P184に切られる	33
SK42	F3	—	円形	径0.6深0.18	SB21の南	別9
SK43	F3	—	不整形	東西(0.3)南北0.75深0.18	SB21を切る	別9
SK44	F3	—	不明	東西(0.65)南北(0.8)深0.2	SK30に切られる	33
SK45	F3	—	隅丸方形	長辺(0.75)短辺(0.6)深(0.45)	SK30に切られる	33
SK46	F3	2	不整楕円形	長軸(1.2)短軸1.0深0.1	SB24内	33
SK47	F3	—	不整形	東西(1.0)南北0.9深0.1	SB24に切られる	33
SK48	F3	—	楕円形	長辺1.2短辺0.6深0.1	SB20内	33
SK49	F3	2	不整形	東西0.75南北(0.6)深0.2	SK31に切られ、SB29を切る	33
SK50	F3	2	楕円形	長軸0.9短軸0.8深0.05	SB21内	33

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SK51	F3	2	円形	径(0.7)深0.4	SB27内	35
SK52	F3	2	不整形	東西(0.75)南北(0.8)深0.1	SB28内、SB26に切られる	35
SK53	F3	3	不整形	東西(1.5)南北(0.75)深0.12	SB28内、SB26に切られる	35
SK54	F3	2	不明(隅丸長方形)	長辺(2.6) 短辺1.0～1.2深0.4	SB26に切られる	15
SK55	F3	3	隅丸方形	長辺0.9短辺0.65深0.05	SB26内	35
SK56	F3	3	楕円形	長軸1.1短軸0.7深0.2	SB26内	35
SK57	F3	—	不整形	東西(0.85)南北(0.8)深0.1	SB26内	—
SK58	F3	3	不明	東西(0.7)南北(0.75)深0.2	SB22内	33
SK59	F3	3	不整楕円形	長軸1.7短軸1.1深0.28	SB26内	35
SK70	欠番					
SK71	欠番					
SK72	F2	—	楕円形	長軸0.65短軸0.3深0.04		別9
SK73	F2	4	楕円形	長軸2.2短軸1.1深1.15		別9
SK74	F2	4	不整形	東西1.5南北(0.7)深0.1		別9
SK75	F2	—	不整楕円形	東西0.7南北(0.6)深0.1		30
SK76	F2	4	楕円形	長軸1.25短軸1.0深0.3	礎含	88
SK77	F2	4	楕円形	長軸1.4短軸0.9深0.65		88
SK78	F2	2	楕円形	長軸(0.55)短軸0.7深0.3		32
SK79	F2	2	楕円形	長軸(0.9)短軸1.1深0.3		32
SK80	F2	—	不整楕円形	長軸1.05短軸0.9深0.54	SK81を切る	32
SK81	F2	—	不明	東西(0.1)南北0.6深0.1	SK80に切られる	32
SK82	F2	—	不整円形	東西0.6南北1.1深0.34	SK83を切る	32
SK83	F2	—	不明	東西(1.4)南北(0.8)深0.06	SK82に切られる	32
SK84	F2	—	不整形	東西1.15南北0.3深0.1		32
SK85	F2	—	不整円形	径0.44深0.18		30
SK86	F2	—	不明	東西(0.7)南北(0.29)深0.15		別9
SK87	F2	2	円形	径0.75深0.45		別9
SK88	F2	—	不整楕円形	長軸0.6短軸0.55深0.4		別9
SK89	F2	2	長方形	東西2.0南北0.8深0.15		30
SK90	F2	2	不整楕円形	長軸(1.3)短軸0.9深0.25		別9
SK91	F2	—	不整形	東西(1.3)南北(2.0)深0.15	SK85に切られる	32
SK92	F2	2	隅丸方形	長辺1.3短辺1.2深0.4		30
SK93	F2	4	楕円形	長軸1.2短軸(0.55)深0.65		88
SK94	F2	4	不整楕円形	長軸(0.9)短軸(0.8)深0.35		88
SK95	F2	4	不整円形	径(1.5)深2.0		88
SK96	F2	2	不明	長辺0.7短辺0.5深0.05		30
SK97	F2	2	不整形	東西0.7南北(1.4)深0.35		31
SK98	F2	2	不整楕円形	長軸1.4短軸(0.6)深0.6		31
SK99	F2	4	不整円形	径1.6深1.2		31
SK100	F2	—	不整形	東西0.85南北0.65深0.25		別9
SK101	F2	2	不整形	東西(1.2)南北(1.6)深0.16		31
SK102	F2	—	不整形	東西(1.1)南北(0.45)深0.18		31
SK103	F2	2	不明	東西(0.75)南北(0.9)深0.1		30
SK104	F2	—	不明	東西0.6南北(0.65)深0.2		30
SK105	F2	2	円形	径0.85深0.3		30
SK106	F2	—	不整楕円形	長軸0.45短軸0.35深0.3		別9
SK107	欠番					
SK108	F2	—	不整楕円形	長軸1.0短軸0.55深0.3		別9
SK109	F2	—	不明(楕円形)	長軸1.1短軸1.0深0.4	SX29を切る	32
SX01	F1	5	不整形	東西1.1南北(4.8)深0.45	土取り跡か	別9
SX02	F1	2	楕円形	長軸3.0短軸1.6深0.1		28
SX05	F3	5	不明	東西(5.5)南北(3.2)深0.28	近世以降の低地	別9
SX10	F2	5	不整形	東西1.0南北(0.9)深0.04		別9
SX11	F2	5	不整形	東西0.94南北(0.4)深0.04		別9
SX12	F2	5	不明	東西(2.2)南北(0.34)深0.1		—
SX13	F2	5	不整形	東西1.2南北0.32深0.06		別9

第42表　遺構一覧表（11）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SX14	F2	2	不整形	東西(2.6)南北(1.25)深0.4	SK90に切られる	別9
SX15	F2	2	不整形	長辺2.4短辺1.0深0.2	SK77・92に切られる	30
SX16	欠番					
SX17	F2	2	不整形	東西(0.7)南北(1.3)深0.2	SK91に切られる	32
SX18	F2	2	不整形	東西南北(1.4)深0.6	SX90・100に切られる	別9
SX19	F2	～2	不明	東西(6.0)南北(2.5)深0.3	西側低地	－
SX20	F2	2	方形	長辺(2.0)短辺(1.0)深0.25	SD40に切られる	32
P01	F1	2	円形	径0.55深0.62		23
P02	F1	－	円形	径0.22深0.19		別9
P03	F1	－	円形	径0.4深0.24	SB06を切る	別9
P04	F1	－	円形	径0.25深0.24	SB06を切る	別9
P05	F1	－	円形	径0.27深0.18	SB06を切る	別9
P06	F1	－	円形	径0.2深0.13	SB06を切る	別9
P07	F1	－	円形	径0.15深0.24		別9
P08	F1	－	円形	径0.2深0.27		別9
P09	F1	－	円形	径0.22深0.08		別9
P10	F1	－	円形	径0.3深0.23		別9
P11	F1	－	円形	径0.18深0.26		別9
P12	F1	－	円形	径0.33深0.33	SB04を切る	別9
P13	F1	－	円形	径0.36深0.18	SB04を切る	別9
P14	F1	－	円形	径0.29深0.12	SB04を切る	87
P15	F1	－	円形	径0.4深0.43		87
P16	F1	－	円形	径0.23深0.1		87
P17	F1	－	円形	径0.38深0.18	SD14を切る	87
P18	F1	－	円形	径0.2深0.16	SD14を切る	別9
P19	F1	－	楕円形	長軸0.4短軸0.3深0.6		別9
P20	F1	－	円形	径0.42深0.2		87
P21	F1	－	円形	径0.2深0.07		別9
P22	F1	－	円形	径0.28深0.12	SB03を切る	87
P23	F1	－	円形	径0.28深0.12	SB03を切る	87
P24	F1	－	円形	径0.4深0.51	SB03を切る	87
P25	F1	－	円形	径0.36深0.21	SB03を切る	87
P26	F1	－	円形	径0.23深0.19	SB03を切る	87
P27	F1	－	円形	径0.26深0.24		87
P28	F1	－	円形	径0.18深0.22		87
P29	F1	－	円形	径0.13深0.14		別9
P30	F1	－	円形	径0.23深0.2		別9
P31	F1	－	円形	径0.27深0.42	SB07を切る	別9
P32	F1	－	円形	径0.28深0.27	SB07を切る	別9
P33	F1	－	円形	径0.23深0.14		別9
P34	F1	－	円形	径0.21深0.22		別9
P35	F1	－	円形	径0.22深0.16	SB07を切る	別9
P36	F1	－	円形	径0.42深0.16	SB07を切る	別9
P37	F1	－	円形	径0.4深0.15	SB07を切る	別9
P38	F1	－	円形	径0.36深0.33	SB07を切る	別9
P39	F1	－	円形	径0.14深0.15	SB07を切る	別9
P40	F1	－	円形	径0.23深0.22	SB07を切る	別9
P41	F1	－	円形	径0.28深0.21	SB11を切る	別9
P42	F1	－	円形	径0.36深0.28	SB11を切る	別9
P43	F1	－	円形	径0.33深0.4		別9
P44	F1	5	円形	径0.2深0.06	近世耕土に似る	別9
P45	F1	5	円形	径0.22深0.08	近世耕土に似る	別9
P46	F1	5	円形	径0.23深0.08	近世耕土に似る	別9
P47	F1	5	円形	径0.25深0.07	近世耕土に似る	別9
P48	F1	5	円形	径0.3深0.09	近世耕土に似る	別9
P49	F1	－	円形	径0.4深0.3		別9

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P50	F1	－	円形	径0.32深0.27		別9
P51	F1	－	円形	径0.32深0.16	SD15を切る	別9
P52	F1	－	円形	径0.27深0.14	SD15を切る	別9
P53	F1	－	円形	径0.4深0.2	SD15を切る	別9
P54	F1	－	楕円形	長軸0.68短軸0.5深0.1	SD15を切る	別9
P55	F1	－	円形	径0.3深0.2		別9
P56	F1	－	楕円形	長軸0.3短軸0.16深0.06		別9
P57	F1	－	楕円形	長軸0.35短軸0.2深0.06		別9
P58	F1	－	円形	径0.22深0.16		別9
P59	F1	－	円形	径0.35深0.19		別9
P60	F1	－	円形	径0.25深0.2		別9
P61	F1	－	円形	径0.22深0.12		別9
P62	F1	－	楕円形	長軸0.44短軸0.28深0.12		47
P63	F1	－	楕円形	長軸0.48短軸0.3深0.17	SD11を切る	別9
P64	F1	－	円形	径0.26深0.21		47
P65	F1	－	円形	径0.32深0.14		47
P66	F1	－	円形	径0.24深0.05		86
P67	F1	－	円形	径0.18深0.06		86
P68	F1	－	円形	径0.48深0.18		47
P69	F1	－	楕円形	長軸0.45短軸0.33深0.1		86
P70	F1	－	円形	径0.22深0.63		別9
P71	F1	－	円形	径(0.18)深0.12		別9
P72	F1	－	円形	径0.22深0.09	SB02を切る	別9
P73	F1	－	円形	径0.19深0.18		別9
P74	F1	－	円形	径0.19深0.23		別9
P75	F1	－	楕円形	長軸0.36短軸0.28深0.09	SB02を切る	別9
P76	F1	－	円形	径0.17深0.32	SB01を切る	別9
P77	F1	2～	円形	径0.55深0.58	SB01を切る	23
P78	F1	－	円形	径0.34深0.24		別9
P79	F1	－	円形	径0.23深0.26	SB04を切る	別9
P80	F1	－	円形	径0.41深0.37	SB04を切る	別9
P81	F1	－	円形	径0.25深0.32	SK08を切る	別9
P82	F1	－	円形	径0.26深0.17	SK08を切る	別9
P83	F1	－	円形	径0.32深0.27		87
P84	F1	－	円形	径0.26深0.34		87
P85	F1	－	円形	径0.25深0.07		87
P86	F1	－	円形	径0.27深0.22		87
P87	F1	－	円形	径0.36深0.24		別9
P88	F1	－	円形	径0.28深0.22		別9
P89	F1	－	円形	径0.26深0.3		別9
P90	F1	－	円形	径0.32深0.4		別9
P91	F1	－	円形	径(0.28)深0.28		別9
P92	F1	－	円形	径(0.32)深0.32		別9
P93	F1	－	円形	径(0.35)深0.14		別9
P94	F1	－	円形	径0.18深0.05	SD15を切る	別9
P95	F1	－	円形	径0.42深0.18		別9
P96	F1	2	円形	径0.2深0.17	SB06内	23
P97	F1	2～	楕円形	長軸0.88短軸0.65深0.74	SB06を切る	23
P98	F1	2～	楕円形	長軸0.7短軸0.5深0.64	SB06を切る	23
P99	F1	－	円形	径0.3深0.38	SK05に切られる	87
P100	F1	－	円形	径0.3深0.48	SB04を切る	87
P101	F1	－	円形	径0.2深0.08		別9
P102	F1	－	円形	径0.2深0.11		別9
P103	F1	－	円形	径0.46深0.32		別9
P104	F1	－	円形	径0.36深0.18		別9
P105	F1	－	円形	径0.28深0.18		別9

第43表　遺構一覧表（12）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P106	F1	—	円形	径0.15深0.12		別9
P107	F1	—	円形	径0.27深0.17		別9
P108	F1	—	円形	径0.22深0.14		別9
P109	F1	—	円形	径0.25深0.1		別9
P110	F1	—	円形	径0.36深0.25		別9
P111	F1	—	楕円形	長軸0.59短軸0.34深0.2		別9
P112	F1	—	円形	径0.35深0.8		87
P113	F1	—	楕円形	長軸0.31短軸0.2深0.15		別9
P114	F1	—	円形	径0.28深0.18		別9
P115	F1	—	円形	径0.24深0.1		別9
P116	F1	—	円形	径0.2深0.1		別9
P117	F1	—	円形	径0.2深0.09		別9
P118	F1	—	円形	径0.24深0.1		別9
P119	F1	—	円形	径0.3深0.22		別9
P120	F1	—	楕円形	長軸0.6短軸0.4深0.5		別9
P121	F1	2	円形	径0.28深0.18	SB04内、P83に切られる	26
P122	F1	2	円形	径(0.16)深0.14	SB04内、P84に切られる	26
P123	F1	2～	円形	径0.46深0.3	SB04を切る	29
P124	F1	—	円形	径0.35深0.44		別9
P125	F1	—	円形	径0.24深0.09		別9
P126	F1	—	円形	径0.18深0.08		87
P127	F1	—	円形	径0.18深0.1		別9
P128	F1	—	円形	径0.22深0.05		別9
P129	F1	—	円形	径0.2深0.15	P98に切られる	—
P130	F1	2～	円形	径0.45深0.3	SB01を切る	23
P131	F1	2	楕円形	長軸0.72短軸0.63深0.24	SB11内	27
P132	F1	—	円形	径0.3深0.22		別9
P133	F1	—	楕円形	長軸0.55短軸0.3深0.11		別9
P134	F1	—	円形	径0.25深0.19		別9
P135	F1	—	円形	径0.12深0.05	SK08の下	—
P136	F1	2	楕円形	長軸0.55短軸0.23深0.11	SB01に切られる、SK23を切る	23
P137	F1	2	楕円形	長軸0.4短軸0.32深0.12	SB01に切られる、SK23を切る	23
P138	F1	2	円形	径0.37深0.2	SB01に切られる、SK24を切る	23
P139	F1	—	楕円形	長軸0.5短軸0.35深0.43	SK04の下、SK25を切る	別9
P140	F1	2	円形	径0.3深0.27	SB04内	26
P141	欠番					
P142	F1	—	円形	径0.32深0.13		別9
P143	F1	—	円形	径0.2深0.12		別9
P144	F1	—	不明	径(0.28)深0.26	北壁、SB13を切る	別9
P145	F1	—	不明	径0.3深0.28	北壁、SD15を切る	別9
P150	F3	—	円形	径0.34深0.18		89
P151	F3	—	円形	径0.3深0.3		89
P152	F3	—	楕円形	長軸0.54短軸0.45深0.46		別9
P153	F3	—	楕円形	長軸0.6短軸0.4深0.27		89
P154	F3	—	円形	径0.68深0.35	SD21を切る	89
P155	F3	—	円形	径0.16深0.05		別9
P156	F3	—	円形	径0.22深0.18		別9
P157	F3	—	円形	径0.68深0.16	SB20を切る	89
P158	F3	—	円形	径0.28深0.37		89
P159	F3	—	円形	径0.33深0.1		89
P160	F3	—	円形	径(0.36)深0.34		89
P161	F3	—	円形	径0.36深0.34		89
P162	F3	—	楕円形	長軸0.35短軸0.22深0.04		89
P163	F3	—	円形	径0.23深0.07		89
P164	F3	—	円形	径0.16深0.08	SK41を切る	—
P165	F3	—	円形	径0.25深0.28	SK30を切る	89

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P166	F3	—	円形	径0.22深0.16		89
P167	F3	—	円形	径0.42深0.3		89
P168	F3	—	円形	径0.3深0.08	SB25を切る	別9
P169	F3	—	円形	径0.32深0.14	SB25を切る	別9
P170	F3	—	円形	径0.2深0.08	SB25を切る	別9
P171	F3	—	円形	径0.37深0.11		別9
P172	F3	—	円形	径0.32深0.13		別9
P173	F3	3～4	円形	径0.45深0.25	銅銭出土、SB26を切る	89
P174	F3	—	円形	径0.28深0.26	SB26を切る	別9
P175	F3	—	円形	径0.21深0.06	SB24を切る	別9
P176	F3	—	円形	径0.26深0.27		89
P177	F3	—	円形	径0.25深0.15	SB20を切る	別9
P178	F3	—	円形	径0.34深0.08	SB20を切る	別9
P179	F3	—	円形	径0.29深0.31	SB20を切る	別9
P180	F3	—	円形	径0.36深0.5	SB20を切る	別9
P181	F3	—	楕円形	長軸0.41短軸0.26深0.18	SB20を切る	89
P182	F3	—	円形	径0.48深0.19	SB20を切る	別9
P183	F3	—	楕円形	長軸(0.55)短軸(0.3)深0.12	SB20を切る	89
P184	F3	2	楕円形	長軸0.8短軸(0.65)深1.45	SK35・37と規模似る	33
P185	F3	—	円形	径0.32深0.48		89
P186	F3	—	円形	径0.4深0.32	SB27を切る	別9
P187	F3	—	不明	径(0.3)深0.45		89
P188	F3	—	楕円形	長軸0.4短軸0.3深0.2		89
P189	F3	—	円形	径0.48深0.1	SB29を切る	89
P190	F3	—	円形	径0.3深0.17	SB23を切る	別9
P191	F3	—	円形	径0.16深0.16	SK30内	89
P192	F3	—	楕円形	長軸0.42短軸(0.2)深0.44	SB28を切る	35
P193	F3	2	円形	径0.43深0.58	SB26内	35
P194	F3	—	不明	径(0.33)深0.08	SB21を切る	別9
P195	F3	2	円形	径0.52深0.32	SB26内	35
P196	F3	2	円形	径0.27深0.12	SB26内	35
P197	F3	—	不明	径(0.22)深(0.12)	SB21を切る	別9
P198	F3	—	円形	径0.22深0.12		別9
P199	F3	—	円形	径0.33深0.32		別9
P200	F3	—	円形	径0.38深0.09	SB26を切る	—
P201	F3	—	円形	径0.2深0.14	SB24を切る	—
P202	F3	—	不整円形	径(0.3)深0.49	SB29を切る	33
P203	F3	—	円形	径0.16深0.21	SB29を切る	—
P204	F3	—	円形	径(0.26)深0.3		別9
P205	F3	2	円形	径(0.24)深(0.09)	SB26内	35
P206	F3	2	円形	径(0.15)深(0.05)	SB26内	35
P207	F3	—	楕円形	長軸0.5短軸0.38深0.24		別9
P208	F3	—	円形	径0.24深0.02	SB26を切る	—
P209	F3	—	不明	径(0.42)深0.36	SB25を切る	33
P210	F3	—	不明	径(0.44)深0.41	SB25を切る	33
P211	F3	—	円形	径(0.2)深(0.15)	SB24内	33
P212	F3	2	楕円形	長軸0.24短軸0.14深0.09	SB22を切る	33
P226	F2	—	楕円形	長軸0.34短軸0.28深0.1		30
P227	F2	—	楕円形	長軸0.38短軸0.3深0.25		別9
P228	F2	—	円形	径0.26深0.1		32
P229	F2	4～5	円形	径0.36深0.38		32
P230	F2	—	円形	径0.27深0.1		32
P231	F2	—	円形	径0.28深0.1		32
P232	F2	3	円形	径0.45深0.15		32
P233	F2	—	円形	径0.3深0.23		32
P234	F2	—	円形	径0.28深0.17		32

第44表　遺構一覧表（13）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P235	F2	—	円形	径0.2深0.17		32
P236	F2	—	円形	径0.3深0.14		32
P237	F2	—	楕円形	長軸0.5短軸0.37深0.12	石有	32
P238	F2	—	円形	径0.22深0.16		32
P239	F2	—	円形	径0.3深0.12		32
P240	F2	—	円形	径0.22深0.14		32
P241	F2	—	円形	径0.2深0.15		32
P242	F2	—	楕円形	長軸0.3短軸0.26深0.09		32
P243	F2	—	楕円形	長軸0.4短軸(0.25)深0.29		32
P244	F2	—	楕円形	長軸0.61短軸0.5深0.19		別9
P245	F2	—	楕円形	長軸0.21短軸0.16深0.18		32
P246	F2	—	円形	径0.3深0.11		32
P247	F2	2	楕円形	長軸0.5短軸0.35深0.22		30
P248	F2	2	円形	径0.25深0.14		30
P249	F2	—	円形	径0.2深0.1		別9
P250	F2	—	円形	径0.35深0.11		32
P251	F2	2	円形	径0.38深0.25		30
P252	F2	2	楕円形	長軸0.8短軸0.7深0.4	銅製巡方出土	30
P253	F2	4	円形	径0.26深0.28		30
P254	F2	—	円形	径0.3深0.3		30
P255	F2	—	円形	径0.24深0.15		30
P256	F2	—	円形	径0.4深0.24		30
P257	F2	—	円形	径(0.16)深(0.22)		30
P258	F2	—	円形	径0.24深0.14		30
P259	F2	2	円形	径0.38深0.34		88
P260	欠番					
P261	F2	—	円形	径0.38深0.34		88
P262	F2	—	円形	径0.32深0.28		88
P263	F2	—	楕円形	径0.42深0.37		88
P264	F2	2	円形	径0.38深0.16	石有	30
P265	F2	—	円形	径0.3深0.34		88
P266	F2	—	円形	径0.24深0.16		30
P267	F2	—	円形	径0.24深0.07		88
P268	F2	—	円形	径0.2深0.14		88
P269	F2	—	円形	径0.23深0.23		88
P270	F2	—	円形	径0.24深0.24		88
P271	F2	—	円形	径0.28深0.1		88
P272	F2	—	円形	径0.25深0.12		88
P273	F2	—	不明	径(0.3)深0.13		88
P274	F2	—	円形	径0.24深0.18		88
P275	F2	—	円形	径0.2深0.11		88
P276	F2	—	円形	径0.33深0.18		88
P277	F2	—	円形	径0.26深0.18		88
P278	F2	—	円形	径(0.12)深0.1		88
P279	F2	2	円形	径(0.43)深0.22		30
P280	F2	—	円形	径0.8深0.1		30
P281	F2	—	楕円形	長軸0.38短軸0.34深0.07		30
P282	F2	3	不明	径(0.23)深0.09		30
P283	F2	—	円形	径(0.18)深(0.27)		88
P284	F2	—	円形	径(0.18)深(0.09)		88
P285	F2	3	円形	径0.24深0.22		88
P286	F2	—	円形	径0.3深0.3		88
P287	F2	—	円形	径0.64深0.36		別9
P288	F2	—	円形	径0.16深0.04		88
P289	F2	—	円形	径0.33深0.27		別9
P290	F2	—	円形	径0.54深0.38		別9

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P291	F2	—	円形	径0.2深0.18		別9
P292	F2	3	円形	径(0.18)深(0.21)		別9
P293	F2	—	不明	径(0.1)深0.18		別9
P294	F2	—	円形	径0.34深0.18		88
P295	欠番					
P296	F2	—	楕円形	長軸0.36短軸0.3深0.21		別9
P297	F2	—	円形	径0.2深0.13		31
P298	F2	—	円形	径0.4深0.2		31
P299	F2	—	円形	径0.2深0.12		31
P300	F2	—	円形	径0.34深0.23		31
P301	F2	—	楕円形	長軸0.5短軸0.35深0.35		31
P302	F2	—	円形	径0.3深0.16		31
P303	F2	3	楕円形	長軸0.4短軸0.32深0.12		31
P304	F2	—	円形	径0.26深0.12		31
P305	F2	—	円形	径0.2深0.25		別9
P306	F2	—	円形	径(0.08)深(0.04)		別9
P307	F2	—		径0.45深0.18		32
P308	F2	—	円形	径0.62深0.4		30
P309	F2	—	楕円形	長軸0.5短軸0.4深0.27		30
P310	F2	—	円形	径0.25深0.1		30
P311	F2	—	円形	径0.22深0.12	SB80に切られる	—
P312	F2	—	円形	径0.28深0.24		30
P313	F2	—	不明	径(0.26)深0.08		30
P314	F2	—	円形	径0.34深0.35		88
P315	F2	—	円形	径0.18深0.09		30
P316	F2	—	円形	径0.15深0.1		30
P317	F2	—	円形	径0.2深0.13		別9
P318	F2	—	円形	径0.22深0.15		30
P319	F2	2	双円形	長軸0.8短軸0.5深0.35	須恵器埋納遺構	30
P320	F2	2	円形	径0.13深0.11	SB50内	別9
P321	F2	3	円形	径0.26深0.1		30
P322	F2	—	楕円形	長軸0.2短軸0.15深0.1		31
P323	欠番					
P324	F2	—	楕円形	長軸0.4短軸0.24深0.3		別9
P325	F2	—	円形	径0.45深0.18		30
P326	F2	3	円形	径0.4深0.44		30
P327	F2	—	円形	径0.2深0.23	SB60内	30
P328	F2	—	円形	径0.15深0.05		別9
P329	F2	—	楕円形	長軸0.48短軸0.29深0.2		別9
P330	F2	—	円形	径0.22深0.05		30
P331	F2	—	楕円形	長軸0.3短軸0.11深0.22		30
P332	F2	—	不整形	東西0.4南北0.5深0.3		31
P333	F2	—	円形	径(0.25)深0.14	SK89を切る	別9
P334	F2	3	円形	径(0.41)深0.25	SK89内	別9
P335	F2	3	円形	径0.17深0.15	SK89内	別9
P336	F2	—	円形	径0.37深0.18	SK89内	別9
P337	F2	—	楕円形	長軸(0.22)短軸0.16深(0.07)		30
P338	F2	—	楕円形	径(0.16)深(0.18)		別9
P339	F2	—	円形	径0.12深0.08		32
P340	F2	—	楕円形	長軸0.4短軸0.3深0.16		31
P341	F2	—	円形	径0.12深0.14		30
P342	F2	—	円形	径0.28深0.22	SK100に切られる	—
P343	F2	2	不明	径(0.23)深(0.27)	SK93に切られる	30
P344	F2	—	円形	径0.3深0.16		別9
P345	F2	—	楕円形	長軸0.4短軸(0.3)深0.08	SB62内	31
P346	欠番					

第45表　遺構一覧表（14）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P347	欠番					
P348	F2	—	円形	径0.25深0.11	南側攪乱内	30
P349	F2	—	楕円形	長軸0.25短軸0.22深0.07		30
P350	F2	—	円形	径0.3深0.36		別9
P351	F2	—	円形	径0.22深0.16	SK76に切られる	30
P352	欠番					

鷲山仙道遺跡A区

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SB01	A2	2	方形	東西(4.1)南北(3.5)深0.4		16
SB02	A2	2	方形	東西(2.0)南北(2.0)深0.1		16
SB03	A1	2	方形	東西(2.0)南北(5.0)深0.3		17
SB04	欠番					
SD01	A2	5	皿状	長(4.5)幅(2.5)深0.68	南北方向、SX01を切る	—
SD02	A2	4	V字形(墨研形)	長(5.0)幅1.25深0.75	南北方向	92
SD03	A2	4	逆台形	長(5.4)幅1.15深0.5	北西－南東方向	92
SD04	A2	4	皿状	東西長2.2幅0.4深0.15 南北長2.8幅0.4深0.2	プランL字状、土師器集積出土	92
SD05	A1	2	逆台形	長(5.6)幅1.3深0.55	北西－南東方向	36
SD06	A1	2	U字形	長(6.3)幅(0.2)深0.3	北西－南東方向、SD08に切られる	36
SD07	A2	4	皿状	長(2.0)幅0.4～0.6深0.25	南北方向、礫多量含	92
SD08	A1	2	U字形	長(6.4)幅0.95深0.45	北西－南東方向、SD06に切られる	36
SD09	A1	4	逆台形	長(5.1)幅2.5～2.6深0.75	やや蛇行する東西方向。SD10を切る	90
SD10	A1	2	逆台形	長(5.6)幅(0.8～1.6)深0.4	やや蛇行する東西方向。SD09に切られる	18
SD11	A2	3	皿状	長(12.2)幅1.2～1.5深0.3～0.55	北東－南西方向	48
SD12	A2	3	皿状	長(9.0)幅1.0深0.35	西北西－東南東方向、SD11に切られる	48
SD13	A2	2	皿状	長(3.2)幅1.2深0.1	北東－南西方向。SK19に切られる	37
SD14	A1	2	皿状	長(5.2)幅1.7深0.65	北西－南東方向、SD23を切る	36
SD15	A1	2	皿状	長(5.6)幅(1.2～1.6)深0.35	蛇行する東西方向	18
SD16	A1	—	皿状	長(5.0)幅0.2深0.05	西北西－東南東方向	90
SD17	A1	2	皿状	長(4.4)幅1.3深0.45	北東－南西方向、SD05に切られる	18
SD18	A1	4	U字形	長(4.7)幅0.36深0.23	東西方向、SE20に切られる	別12
SD19	A1	4～5	皿状	長(1.7)幅0.58深0.1	南北方向、畝溝か	別12
SD20	A1	4～5	皿状	長(1.6)幅0.34深0.08	南北方向、畝溝か	別12
SD21	A2	4	皿状	長(1.3)幅0.3深0.12	南北方向、SD04に切られる	92
SD22	A1	—	U字形	長(1.5)幅0.37深0.25	東西方向	別12
SD23	A1	2	逆台形	長(5.2)幅1.2～1.7深0.8	北東－南西溝、SD14に切られる	18
SD24	A2	—	皿状	長1.0幅0.2深0.1	東西方向	36
SD25	A1	—	皿状	長(1.2)幅0.2深0.1	南北方向、SD15に切られる	別12
SX01	A2	4	楕円形	長軸2.2短軸2.1深0.2	石集積	92
SK02	A2	4	不整楕円形	長軸1.7短軸0.9深0.25		別11
SK03	A2	4	不整形	東西(2.0)南北(1.4)深0.32	石集積	92
SK04	A1	5	不整楕円形	東西1.25南北2.9深0.25	SK05を切る	別12
SK05	A1	4	不整長方形	東西(2.0)南北(8.0)深1.1	大型土坑	90
SK06	A1	4	楕円形	東西(1.5)南北(3.8)深0.9		90
SK07	A2	5	不明	東西(1.2)南北(0.65)深0.3		別11
SK08	A2	4	不整円形	径(1.2)深0.25		92
SK09	A2	5	不整円形	径1.4深0.3	P85を切る	別11
SK10	A2	2	不整楕円形	長軸1.6短軸1.2深0.25	SD13を切る	37
SK11	A2	2	不明	東西(0.8)南北(0.75)深0.08	SX08に切られる	別11
SK12	A2	2	楕円形	長軸0.75短軸深0.48		別11
SK13	A1	4	隅丸長方形	長辺1.2短辺0.7深0.15		90
SK14	A1	4	隅丸長方形	長辺1.55短辺0.4深0.15		90
SK15	A1	4	隅丸長方形	長辺2.0短辺1.0深0.2		90
SK16	A1	4	隅丸長方形	長辺2.4短辺0.5深0.2		90
SK17	A1	4	隅丸長方形	長辺1.2短辺0.5深0.2		90
SK18	A1	4	隅丸長方形	長辺1.6短辺0.75深0.15		90
SK19	A1	—	隅丸長方形	長辺0.9短辺0.5深0.12		別12
SK20	A1	—	不明	東西(0.95)南北(1.3)深0.45		別12
SK21	A1	—	不明	東西(0.6)南北(0.6)深0.1		別12
SK22	A1	—	不整形	東西(1.0)南北(1.6)深0.2		別12
SK23	A1	4	楕円形	長軸1.25短軸0.95深0.2		別12
SK24	A1	—	不整楕円形	東西(0.65)南北1.5深0.14		36
SK25	A1	—	楕円形	長軸1.0短軸0.6深0.22		別12
SK26	A1	—	楕円形	長軸1.0短軸0.95深0.16		別12
SX01	A2	5	不明	東西(11.0)南北(5.0)深2.4	池状遺構	96
SX02	A2	～4	不明	東西(1.6)南北(4.5)深0.6	SX01に切られる	別11
SX03	A1	～2	不整形	東西(0.8)南北(1.05)深0.1	落ち込み	別12
SX04	A1	～2	不整形	東西(1.3)南北(1.4)深0.1	落ち込み	別12
SX05	A1	～2	不整形	東西(1.9)南北(3.2)深0.12	落ち込み	36
SX06	A1	～2	不整形	東西(0.8)南北(1.5)深0.1	落ち込み	別12
SX07	A1	～2	不整形	東西(1.4)南北(2.8)深0.75	落ち込み	36
SX08	A2	～3	不明	東西(11.0)南北(2.0)深0.1	落ち込み	37
SX09	A1	1	長方形	東西(3.4)南北2.5深0.2	落ち込み	11
P01	A2	—	円形	径0.22深0.08		別11
P02	A2	—	円形	径0.46深0.09		別11
P03	A2	—	楕円形	長軸0.56短軸0.24深0.11		別11
P04	A2	—	円形	径0.52深0.09		別11
P05	A2	—	楕円形	長軸0.7短軸0.55深0.22		別11
P06	A2	—	楕円形	長軸0.38短軸0.22深0.09		別11
P07	A2	—	円形	径0.17深0.04		別11
P08	A2	—	円形	径0.14深0.06		別11
P09	A2	—	不明	径(0.34)深0.07		別11
P10	A2	—	円形	径0.66深0.23		別11
P11	A2	—	円形	径0.32深0.06		別11
P12	A2	—	円形	径0.38深0.2		92
P13	A2	—	円形	径0.24深0.12		別11
P14	A2	—	不明	径(0.44)深0.4		92
P15	A2	—	円形	径0.5深0.35		92
P16	A2	—	円形	径(0.25)深0.28		92
P17	A2	—	円形	径0.28深0.21		別11
P18	A2	—	円形	径0.5深0.13		別11
P19	A2	—	円形	径0.4深0.11		別11
P20	A2	—	円形	径0.37深0.1		別11
P21	A2	—	円形	径0.25深0.1		別11
P22	A2	—	楕円形	長軸0.54短軸0.22深0.5		別11
P23	A2	—	円形	径(0.35)深0.4		別11
P24	A2	—	円形	径0.46深0.42		別11
P25	A2	—	円形	径0.5深0.6		別11
P26	A2	—	楕円形	長軸0.5短軸0.3深0.51		別11
P27	A2	—	円形	径0.4深0.6		別11
P28	A2	—	円形	径0.33深0.22		92
P29	A2	—	円形	径0.22深0.08		92
P30	A2	—	円形	径0.43深0.4		別11
P31	欠番					
P32	A1	—	円形	径(0.15)深0.07		別12
P33	A1	—	円形	径(0.25)深0.29		別12
P34	A1	—	円形	径0.2深0.13		別12
P35	A1	—	円形	径0.28深0.1		別12
P36	A1	—	円形	径0.24深0.13		別12
P37	A1	—	円形	径0.16深0.07		別12
P38	A1	—	円形	径0.2深0.19		別12
P39	A1	—	円形	径0.2深0.18		別12

第46表　遺構一覧表（15）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P40	A1	－	円形	径0.23深0.29		別12
P41	A1	－	円形	径0.24深0.21		別12
P42	A1	－	円形	径0.21深0.24		別12
P43	A1	－	円形	径0.18深0.06		別12
P44	A1	－	円形	径0.33深0.12		別12
P45	A1	－	円形	径0.33深0.12		別12
P46	A1	－	円形	径0.22深0.12		別12
P47	A1	－	円形	径0.27深0.12		別12
P48	A1	－	円形	径0.4深0.14		別12
P49	A1	－	円形	径0.2深0.12		別12
P50	A1	－	円形	径0.23深0.13		別12
P51	A1	－	円形	径0.32深0.1		別12
P52	A1	－	円形	径0.24深0.24	SD08を切る	－
P53	A1	－	円形	径0.38深0.27		別12
P54	A1	－	円形	径0.3深0.14		別12
P55	A1	－	円形	径0.21深0.07		別12
P56	A1	－	円形	径0.3深0.31		別12
P57	A1	－	円形	径0.32深0.13		別12
P58	A1	－	円形	径0.27深0.19		別12
P59	A1	－	円形	径0.22深0.17		別12
P60	A1	－	円形	径0.4深0.26		別12
P61	A1	－	楕円形	長軸0.45短軸0.23深0.32		別12
P62	A1	－	円形	径0.14深0.1		別12
P63	A1	－	円形	径0.32深0.14		別12
P64	A1	－	円形	径0.3深0.4		別12
P65	A1	－	円形	径(0.22)深(0.25)		別12
P66	A1	－	円形	径0.2深0.09		別12
P67	A1	－	円形	径0.2深0.05		別12
P68	A1	－	楕円形	長軸0.43短軸0.2深0.12		別12
P69	A1	－	円形	径(0.3)深(0.3)	SD05を切る	別12
P70	A1	－	円形	径0.35深0.06		別12
P71	A1	－	円形	径0.24深0.27		90
P72	A1	－	楕円形	長軸0.54短軸0.27深0.38		90
P73	A1	－	円形	径0.5深0.24		別12
P74	A1	－	円形	径0.38深0.24		別12
P75	A1	－	円形	径0.32深0.18		別12
P76	A1	－	円形	径0.28深0.08		別12
P77	欠番					
P78	A2	－	円形	径0.7深0.09		92
P79	A2	－	円形	径0.36深0.2		92
P80	A2	－	円形	径0.3深0.31		別11
P81	A2	－	円形	径0.42深0.25		別11
P82	A2	－	円形	径0.2深0.13		別11
P83	A2	－	円形	径0.25深0.22		別11
P84	欠番					
P85	A2	－	円形	径0.7深0.4		別11
P86	A2	－	円形	径0.35深0.18		92
P87	A2	－	円形	径0.53深0.55		92
P88	A2	－	円形	径0.3深0.17		92
P89	A2	－	円形	径0.27深0.25		92
P90	A2	－	円形	径(0.28)深0.24		92
P91	A2	－	円形	径0.36深0.22		92
P92	A2	－	円形	径0.29深0.55		92
P93	A2	－	円形	径0.2深0.12		別11
P94	A2	－	円形	径0.38深0.25		別11
P95	A2	－	円形	径0.5深0.4		別11

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P96	A2	－	円形	径0.25深0.24		別11
P97	A2	－	円形	径0.22深0.2		別11
P98	A2	－	円形	径0.1深0.27		別11
P99	A1	－	円形	径0.37深0.18	SD09を切る	90
P100	A1	－	円形	径0.21深0.22	SD09を切る	90
P101	A2	－	円形	径0.26深0.44		別11
P102	A2	－	円形	径0.33深0.36		別11
P103	A2	－	円形	径0.5深0.18		別11
P104	A2	－	円形	径0.37深0.18		別11
P105	A2	－	円形	径0.2深0.07		別11
P106	A1	－	円形	径0.2深0.12		90
P107	A1	－	円形	径0.3深0.1		90
P108	A1	－	円形	径0.34深0.15		90
P109	A1	－	楕円形	長軸0.65短軸0.55深0.16		90
P110	A1	－	円形	径0.2深0.08		90
P111	A1	－	円形	径0.25深0.16		90
P112	A1	－	円形	径0.36深0.27		90
P113	A1	－	楕円形	長軸0.72短軸0.4深0.36		90
P114	A1	－	円形	径0.17深0.18		90
P115	A1	－	円形	径0.35深0.29		90
P116	A1	－	円形	径(0.2)深0.27		90
P117	A1	－	円形	径0.4深0.3		90
P118	A1	－	円形	径0.37深0.24		90
P119	A1	－	円形	径0.16深0.13		90
P120	A1	－	楕円形	長軸0.5短軸0.36深0.34		90
P121	A1	－	円形	径0.2深0.1		90
P122	A1	－	円形	径0.24深0.15		90
P123	A1	－	円形	径0.23深0.14		90
P124	A2	－	楕円形	長軸0.63短軸0.3深0.16		別11
P125	A2	－	円形	径0.34深0.35		別11
P126	A2	－	円形	径0.22深0.29		別11
P127	A2	－	円形	径0.3深0.22		別11
P128	A2	－	円形	径0.36深0.29		37
P129	A2	－	円形	径0.5深0.36		37
P130	A2	－	円形	径0.3深0.26		37
P131	A2	－	楕円形	長軸0.55短軸0.4深0.15		37
P132	A2	－	円形	径0.34深0.22		37
P133	A2	－	円形	径0.45深0.18		37
P134	A2	－	円形	径0.35深0.2		37
P135	A2	－	円形	径0.3深0.11		別11
P136	A2	－	円形	径0.34深0.3		別11
P137	A2	－	円形	径0.29深0.38		別11
P138	A2	－	円形	径0.36深0.23		別11
P139	A2	－	円形	径(0.24)深0.14		別11
P140	A2	－	円形	径0.24深0.05		別11
P141	A2	－	円形	径0.36深0.25		別11
P142	A2	－	円形	径0.3深0.17		別11
P143	A2	－	円形	径0.3深0.2		別11
P144	A2	－	円形	径0.2深0.1		別11
P145	A2	－	円形	径0.35深0.23		別11
P146	A2	－	円形	径0.33深0.19		別11
P147	A2	－	円形	径0.28深0.32		別11
P148	A2	－	円形	径0.27深0.19		別11
P149	A2	－	円形	径0.26深0.15		別11
P150	A2	－	円形	径0.24深0.05		別11
P151	A2	－	円形	径0.23深0.14		別11

第47表　遺構一覧表（16）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P152	A2	－	円形	径0.25深0.14		別11
P153	A2	－	円形	径0.2深0.14		別11
P154	A2	－	円形	径(0.3)深0.38		別11
P155	A2	－	円形	径0.3深0.09		別11
P156	A2	－	円形	径0.38深0.2		別11
P157	A2	－	円形	径0.3深0.15		別11
P158	A2	－	円形	径0.3深0.16		別11
P159	A2	－	円形	径0.3深0.18		別11
P160	A2	－	円形	径0.2深0.14		別11
P161	A2	－	円形	径0.36深0.14		別11
P162	A2	－	円形	径0.3深0.3		92
P163	A2	－	楕円形	長軸(0.6)短軸0.25深0.52		別11
P164	A2	－	円形	径0.53深0.33		別11
P165	欠番					
P166	A2	－	円形	径0.28深0.22		別11
P167	A2	－	円形	径0.34深0.29		別11
P168	A2	－	円形	径0.45深0.2		別11
P169	A2	－	円形	径0.53深0.41		別11
P170	A2	－	円形	径0.34深0.22		別11
P171	A2	－	円形	径0.28深0.1		別11
P172	欠番					
P173	欠番					
P174	A2	－	円形	径0.38深0.26		別11
P175	A2	－	円形	径0.34深0.55		別11
P176	A2	－	円形	径0.28深0.39		37
P177	A2	－	円形	径0.42深0.6		37
P178	A2	－	円形	径0.26深0.15		37
P179	A2	－	円形	径0.44深0.23	SX08を切る	－
P180	A2	－	円形	径(0.3)深0.3	SK11を切る	別11
P181	A2	－	円形	径0.4深0.42	SD11を切る	別11
P182	A2	－	円形	径0.25深0.14		37
P183	A2	－	円形	径0.24深0.16		37
P184	A2	－	円形	径0.2深0.08		別11
P185	A2	－	円形	径0.18深0.08		別11
P186	A2	－	円形	径0.22深0.1		別11
P187	A2	－	円形	径(0.38)深0.3		別11
P188	A2	－	円形	径(0.38)深0.32		別11
P189	欠番					
P190	A1	－	楕円形	長軸0.74短軸0.42深0.36		90
P191	A1	－	円形	径0.37深0.19		90
P192	A1	－	円形	径0.22深0.08		90
P193	A1	－	円形	径0.35深0.19		90
P194	A1	－	円形	径0.26深0.25		90
P195	A1	－	円形	径0.42深0.54		90
P196	A1	－	円形	径0.5深0.13		90
P197	A1	－	円形	径0.3深0.14		90
P198	A1	－	円形	径0.25深0.3		90
P199	A1	－	円形	径0.3深0.24		90
P200	A1	－	円形	径0.35深0.11		90
P201	A1	－	円形	径(0.22)深0.12		90
P202	A1	－	円形	径0.34深0.14		90
P203	A1	－	円形	径0.2深0.11		90
P204	A1	－	円形	径0.2深0.1		90
P205	A1	－	円形	径0.22深0.12		90
P206	A1	－	円形	径0.23深0.08		別12
P207	A1	－	円形	径0.2深0.07		90

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P208	A1	－	円形	径0.22深0.11		90
P209	A1	－	円形	径(0.1)深(0.08)		90
P210	A1	－	円形	径0.26深0.05		90
P211	A1	－	楕円形	長軸0.5短軸0.38深0.14		別12
P212	A1	－	円形	径0.26深0.10		別12
P213	A1	－	円形	径0.24深0.2		別12
P214	A1	－	円形	径0.3深0.1		別12
P215	A1	－	円形	径0.2深0.11		別12
P216	A1	－	円形	径0.16深0.05		－
P217	A1	－	円形	径0.4深0.12		別12
P218	A1	－	円形	径0.23深0.07		別12
P219	A1	－	円形	径0.23深0.07		別12
P220	A1	－	円形	径0.32深0.13		別12
P221	A1	－	円形	径0.32深0.08		別12
P222	A1	－	楕円形	長軸0.78短軸0.4深0.14		別12
P223	A1	－	円形	径0.36深0.08		別12
P224	A1	－	円形	径0.2深0.13		別12
P225	A1	－	円形	径0.4深0.15		別12
P226	A1	－	楕円形	長軸0.6短軸0.38深0.16		別12
P227	A1	－	円形	径0.25深0.1		別12
P228	A1	－	円形	径0.3深0.15		別12
P229	A1	－	円形	径0.24深0.13		別12
P230	A1	－	楕円形	長軸0.8短軸0.34深0.04		別12
P231	A1	－	円形	径0.28深0.1		別12
P232	A1	－	円形	径0.27深0.13		別12
P233	A1	－	円形	径0.24深0.1		別12
P234	A1	－	円形	径0.34深0.17		別12
P235	A1	－	円形	径0.21深0.08		別12
P236	A1	－	円形	径0.26深0.07		別12
P237	A1	－	円形	径0.21深0.07		別12
P238	A1	－	円形	径0.28深0.1		別12
P239	A1	－	円形	径0.26深0.08		別12
P240	A1	－	円形	径0.2深0.11		別12
P241	A1	－	円形	径0.23深0.09		別12
P242	A1	－	円形	径0.16深0.14		別12
P243	A1	－	円形	径0.3深0.31	SX09を切る	別12
P244	A1	－	円形	径0.3深0.06		90
P245	A1	－	円形	径0.2深0.07		90
P246	A1	－	円形	径0.22深0.26		90
P247	A1	－	円形	径0.18深0.05		90
P248	A1	－	円形	径0.23深0.06		90
P249	A1	－	円形	径0.2深0.05		別12
P250	A1	－	円形	径0.37深0.38		別12
P251	A1	－	円形	径0.25深0.1		別12
P252	A1	－	不整楕円形	長軸0.5短軸0.36深0.32		別12
P253	A1	－	円形	径0.3深0.15		別12
P254	A1	－	円形	径0.35深0.13		別12
P255	A1	－	円形	径0.27深0.09	SX09を切る	別12
P256	A1	－	円形	径0.36深0.13		別12
P257	A1	－	不明	径(0.85)深0.2		別12
P258	A1	－	円形	径0.4深0.17		別12
P259	A1	－	円形	径0.28深0.1		別12
P260	A1	－	円形	径0.32深0.11		別12
P261	A1	－	円形	径0.63深0.16		別12
P262	A1	－	円形	径0.75深0.09		別12
P263	A1	－	円形	径0.24深0.15		90

第48表　遺構一覧表（17）

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
P264	A1	—	円形	径.18深0.09		90
P265	A1	—	円形	径0.36深0.23		90
P266	A1	—	楕円形	長軸0.48短軸0.35深0.14	SX09を切る	別12
P267	A1	—	円形	径0.32深0.17	SX09を切る	別12
P268	A1	—	円形	径0.2深0.09		90
P269	A1	—	円形	径0.2深0.14		別12
P270	A1	—	円形	径0.18深0.08		別12
P271	A1	—	不明	径(0.3)深0.19	SX05内、東壁のみ	—
P272	A1	—	不明	径(0.2)深0.1	SX05内、東壁のみ	—
P273	A1	—	円形	径(0.2)深0.28	SD14を切る	—

鷲山仙道遺跡B区

遺構名	調査区	時期	平面・断面形状	規模(m)	備考	図
SB01	B1	2	隅丸長方形	長辺(3.5)短辺(2.9)深0.1	SX04炉跡あり	19
SB02	B1	2	方形	長辺(4.9)短辺(4.0)深0.2		19
SB03	B1	—	隅丸方形	一辺2.9深0.1		19
SD01	B1	—	溝状	長(0.75)幅(0.4)深0.04	東西方向	別12
SD02	B1	5	溝状	長(5.2)幅1.5深0.15	東西方向	別12
SD03	B1	5	溝状	長3.7幅0.3深0.06	南北方向、畝溝か	別12
SD04	B1	5	溝状	長2.9幅0.3深0.2	南北方向、畝溝か	別12
SD05	B1	5	溝状	長1.1幅0.25深0.16	南北方向、畝溝か	別12
SD06	B1	2	U字形	長(7.2)幅0.7深0.5	北東－南西方向、SD07を切る	19
SD07	B1	2	溝状	長(8.0)幅(0.5)深0.25	北東－南西方向、SD06に切られる	19
SK01	B1	—	不整形	東西1.4南北1.2深0.1		別12
SK02	B1	—	不整円形	径1.4深0.35		別12
SK03	B1	—	不整形	長軸1.6短軸1.4深0.08		別12
SK04	B1	—	隅丸方形	長辺1.2短辺0.88深0.05		別12
SK05	B1	—	不明	東西(3.7)南北0.9深0.22	溝の可能性有	別12
SK06	B1	5	不整形	東西(1.4)南北(0.7)深0.6		別12
SK07	B1	—	隅丸方形	長辺1.6短辺1.4深0.08		別12
SK08	B1	—	不明	東西(0.4)南北0.95深0.4		別12
SK09	B1	—	不明	東西1.5南北1.8深0.2	SD02に切られる	別12
SK10	B1	2～	不明(楕円形)	長軸(0.9)短軸0.7深0.25		19
SK11	B1	2	楕円形	長軸1.4短軸1.25深0.4	SD02に切られる	別12
SE01	B1	5	不整楕円形	長軸1.9短軸1.7深1.15	水溜あり	96
SX01	B1	—	不整形	東西1.1南北0.7深0.1	SB01を切る	別12
SX02	B1	～2	不明	東西(5.0)南北(11.5)深0.35	低地	別12
SX03	B1	～2	不明	東西(6.7)南北(7.0)深0.2	低地、SB01～03に切られる	別12
SX04	B1	2	隅丸方形	長辺0.6短辺0.45深0.1	SB01内、炉跡	19
P01	B1	—	円形	径0.23深0.03		別12
P02	B1	—	不整形	長軸0.55短軸0.45深0.03		別12
P03	B1	—	円形	径0.18深0.25		別12
P04	B1	—	円形	径0.26深0.03		別12
P05	B1	—	円形	径0.27深0.04		別12
P06	B1	—	楕円形	長軸0.48短軸0.4深0.11		別12
P07	B1	—	楕円形	長軸0.34短軸0.18深0.05		別12
P08	B1	—	円形	径0.16深0.22		別12
P09	B1	—	円形	径0.18深0.12		別12
P10	B1	—	円形	径0.25深0.15		別12
P11	B1	—	円形	径0.18深0.1		別12
P12	B1	—	円形	径0.24深0.24	SB01を切る	19
P13	B1	—	円形	径0.24深0.31	SB01を切る	19
P14	B1	—	円形	径0.18深0.04		別12
P15	B1	—	円形	径0.3深0.35		別12
P16	B1	—	円形	径0.17深0.12		別12
P17	B1	—	円形	径0.27深0.07		別12
P18	B1	—	円形	径0.14深0.4		別12
P19	B1	—	円形	径(0.25)深0.26		別12
P20	B1	—	円形	径0.14深0.16		別12
P21	B1	—	円形	径(0.4)深0.25		別12
P22	B1	—	楕円形	長軸0.3短軸0.16深0.14		別12
P23	B1	—	円形	径0.15深0.15		別12
P24	B1	—	円形	径0.18深0.2		別12
P25	B1	—	円形	径0.3深0.05		別12
P26	B1	—	円形	径0.24深0.16		別12
P27	B1	—	円形	径0.3深0.15		別12
P28	B1	—	円形	径0.26深0.19		別12
P29	B1	—	円形	径0.14深0.07		別12
P30	B1	—	不明(楕円形)	長軸(0.4)短軸(0.1)深0.08		別12
P31	B1	—	不明(楕円形)	長軸(0.35)短軸(0.1)深0.1		別12
P32	B1	—	不明(円形)	径(0.2)深0.14		別12
P33	B1	—	円形	径0.17深0.19		別12
P34	B1	—	楕円形	長軸0.25短軸0.18深0.15		別12
P35	B1	—	円形	径0.3深0.08		別12
P36	B1	—	楕円形	長軸0.6短軸0.3深0.14		別12
P37	B1	2	円形	径0.3深0.2	SB02内	19
P38	B1	2	楕円形	長軸0.4短軸0.3深0.3	SB02内	19
P39	B1	—	円形	径(0.18)深0.18		別12

第49表　遺構一覧表（18）

第5章　まとめ

＜1期＞縄文時代晩期から弥生時代

1期の遺構・遺物は、鷺山蝉遺跡A・B区、鷺山仙道遺跡A・B区で確認した。鷺山蝉遺跡・鷺山仙道遺跡ではこれまで該当時期の遺構・遺物は確認されていなかった。今回遺構・遺物を確認できた調査区は主に微高地上、あるいは微高地縁辺部に位置しており、その範囲内でわずかに遺構を確認している。これ以外の部分は低地であったと考えられるが、微高地縁辺部でもわずかながら遺物が出土することから、人間活動が低地域まで及んでいた可能性も考えられる。1期の遺構検出レベルはT.P.＋14～15m程度であった。この時期以降、安定した微高地上には戦国時代（4期）に至るまで遺構が幾度も形成され、本来存在した1期の遺構面および遺構は削平を受け殆ど遺存しなかったと想定される。確認できた遺構は土器集積、溝、落ち込み、流路がある。弥生時代中期以降の遺物は寡少であった。当調査区域では時期的には連続しないが、鷺山蝉遺跡の東側、太田遺跡では弥生時代中期から後期の土器が出土しており（岐阜市1979）、集落が移動した可能性も考えられる。

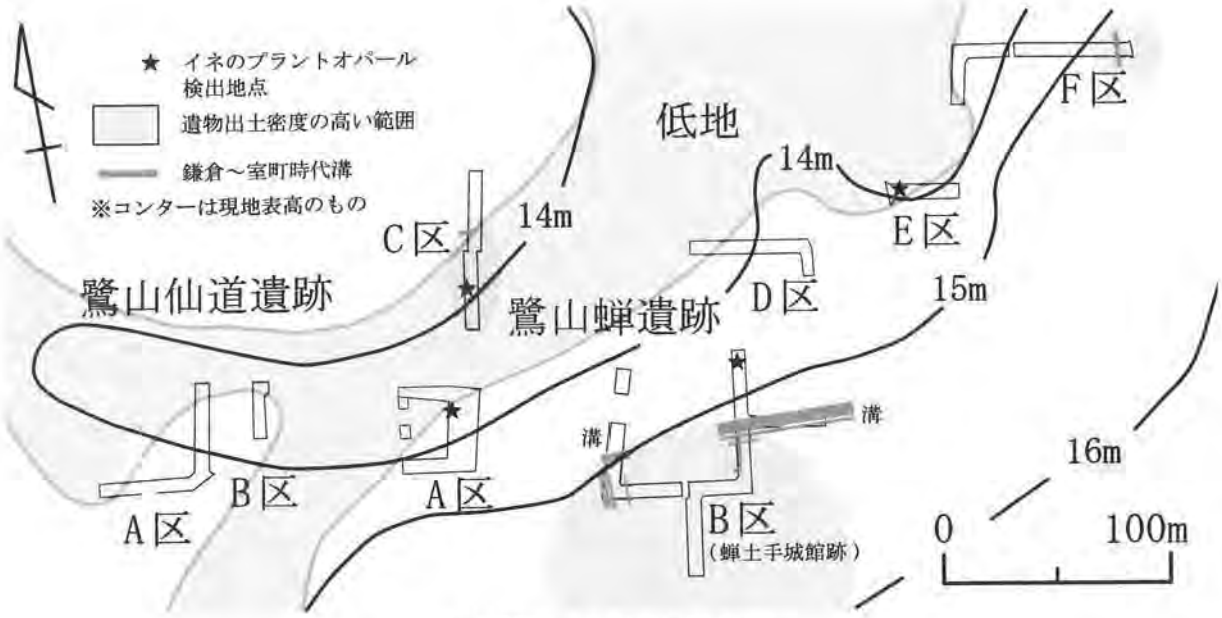
ちなみに、当調査区域では微高地の縁辺部において複数の溝が見つかることが多い。時期も弥生時代だけでなく、古墳時代、古代にも多く存在する。環濠などのように防御や区画を意識して作られた可能性も考えられるが、近接地で集落等を確認していないため、確証を得ない。低地域への排水に利用した溝の可能性が高いと考えたい。

＜2期＞古墳時代から古代

2期の遺構・遺物は、鷺山蝉遺跡B～F区、鷺山仙道遺跡A・B区と、調査区のほとんどで確認した。1期と同様、主に微高地上で確認した。ただし、その範囲は本調査区域全体に広がりを見せている。遺構・遺物を確認できた調査区は、遺構検出面はT.P.＋14m前後で、当該時期の遺構面も後世の削平を受けたと推定される。確認できた遺構は住居跡、土坑、溝が中心で、鷺山蝉遺跡F区、鷺山仙道遺跡A・Bでは集落域の様相を呈していた。

なお、遺構・遺物の時期に関しては、廻間Ⅱ式から松河戸Ⅰ式の時期（古墳時代前期）、美濃須衛編年Ⅲ期後半（古墳時代後期、7世紀後半）、美濃須衛編年Ⅴ－1期（平安時代初、9世紀初頭）、灰釉陶器の黒笹90号窯式期～丸石2号窯式期（平安時代中期～後期、9世紀後半～11世紀代）の、大きく4時期に分かれており、特に平安時代初（9世紀初頭）の遺物が多く出土することが特徴である。ちなみに、既報告においては鷺山仙道遺跡西側で宇田Ⅱ式（古墳時代中期、5世紀頃）の住居跡が確認されている（高木2002）。また、鷺山仙道遺跡のさらに西側に位置する鷺山市場遺跡では美濃須衛編年Ⅳ期（奈良時代、8世紀頃）の住居跡が多数確認されている（現在発掘調査継続中）。本遺跡においては7世紀後半、9世紀初頭以外の時期の遺物が出土せず、古墳時代から古代にかけての時期でも集落が移動していたと考えられる。

なお、当時期に低地域でも人間活動が及んでいた可能性を想定して、鷺山蝉遺跡A3区Ⅶ層および低地埋土、鷺山蝉遺跡E1区SX04低地埋土の土壌自然化学分析を実施した（詳細は第6章第1節参照）。その結果、鷺山蝉遺跡A3区・E1区いずれの試料もイネのプラント・オパールを検出できた。鷺山



第137図　3期の遺構配置

蝉遺跡E１区低地埋土は、数量が少なく水田跡としての認定は難しいものの、近接地において水田が営まれていた可能性、もしくはごく短期間水田が営まれていた可能性の２つを想定したい。また鷺山蝉遺跡B８区Ⅶ層ではプラント・オパールは確認できず、当遺跡においては古代以前より低地域など一部地域ではあるが生産域等に利用された可能性が高いと考えたい。

また、鷺山蝉遺跡F２区で見つかった巡方に関しては、本例のように単品で埋納した状態で見つかる例が普通で、革帯の帯金具すべてが見つかる例は希である。巡方を革帯に固定する方法は、まず巡方（表金具）を革帯に通し、鋲足部分を穿孔した方形状の裏金具を合わせて全体を固定する。なお、県内における巡方出土例で有名なものとして、大垣市の美濃国分寺跡があげられる。

本例のような黒漆を塗布した帯金具、もしくは革帯を所有できる人物は五位以下の役人クラスで、国府あるいは郡衙に関連する役人が使用したと推定される。この鷺山蝉遺跡周辺は美濃国方県郡衙推定地となっており、本出土品を所有した人物が所在した可能性が高いと考えたい。

＜３期＞鎌倉から室町時代

３期の遺構は調査区域全体で確認できた。遺構の広がりは１期・２期と同様、主として微高地上で確認できた。遺構検出高はT.P.＋14m前後で、Ⅶ層あるいはⅤ層上面をベースとして遺構面が展開する。但し、鷺山蝉遺跡F区周辺ではⅥ層上面、あるいはⅧ・Ⅸ層（地山層）上面が遺構検出面となり、同一面上で古代～戦国時代の遺構を確認する場合が多かった。また、この時期より低地域での人間活動が顕著となっていることが確認できた。具体的には、鷺山蝉遺跡のA区北側・C区・B区北側の低地部分のⅤ層土層中よりイネのプラントオパールが確認され、これら低地部分一帯が水田等の生産域として利用されていた可能性が高い（詳細は第6章第1節土壌自然科学分析参照）。しかし、アゼ等の遺構は確認できていない。

確認できた遺構は、溝、土坑等であった。鷺山蝉遺跡B区北側は居館等の存在を想定できる大規模な溝SD21が鷺山蝉遺跡B7区で見つかっている。SD21は幅5.6m、深さ1.3mで、ほぼ真東西方向であっ

た。規模から見れば戦国時代の堀と大差なく、また両肩にテラスを有する断面形状だけを見れば、戦国時代の枝広館（城之内遺跡）の南北溝と断面形状が似ている（岐阜市教育委員会2000）。このような断面形状の堀は大規模な居館跡にしか見られないことから、鎌倉時代の居館等をめぐる堀の可能性も考えられる。また、中国産磁器や墨書土器の出土など遺物組成をもって居館等の存在を想定したいが、本遺構内あるいはB６・B７区周辺の遺物出土密度はそれほど高くない。また、本遺構の約30m北、B８区付近は鎌倉～室町時代に生産域（水田）として利用されていたことが判明しており（第６章第1節参照）、このSD21を境として土地利用方法が変わる可能性は十分考えられる。また、鷺山蝉遺跡B２区でも条里に沿った平面L字状の溝SD01が確認でき、B7区SD21とともに区画がなされていた可能性が高い。なお、両溝の南側、鷺山蝉遺跡B４・B５区は土坑・溝が集中して見つかり、遺物出土密度も比較的高く集落域の様相を呈していた。

なお、遺構・遺物の時期に関しては山茶碗に限ってみると、南部系（尾張型）山茶碗の第3型式～７型式、北部系（東濃型）山茶碗の白土原１号窯式～生田２号窯式まで連続して出土している。このように、出土遺物等から判断すると継続して集落等が営まれていたと考えられる。

＜４期＞戦国時代

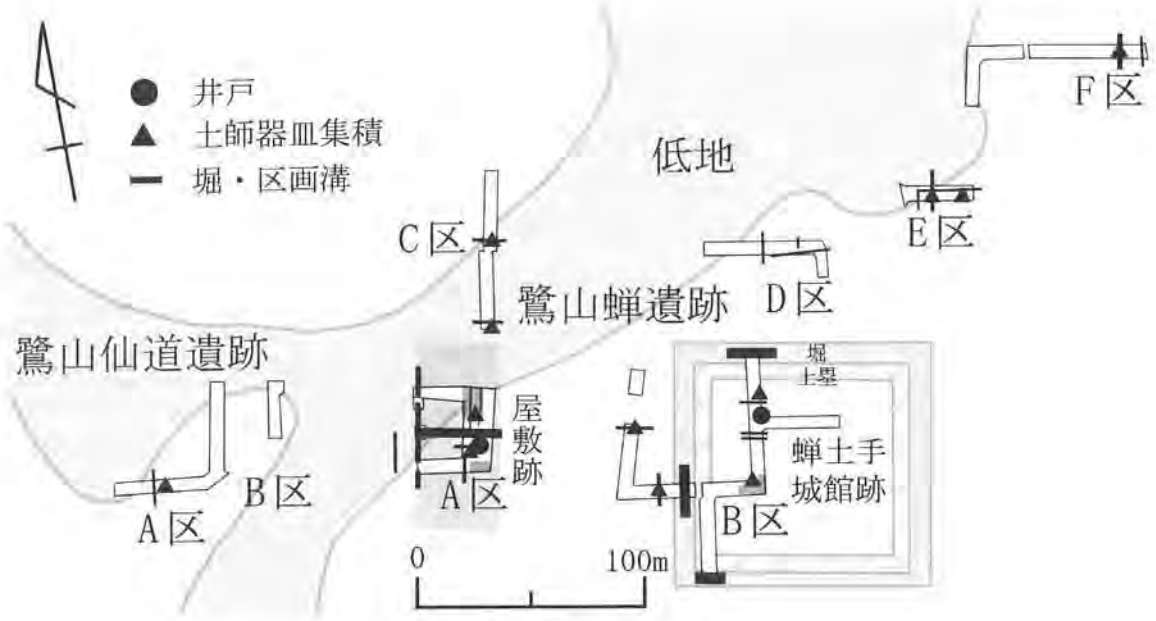
４期の遺構は当調査区域全体で確認できた。遺構密度、遺物量ともに他の時期を圧倒している。遺構は微高地上だけでなく低地部分でも確認でき、開発規模の拡大をうかがうことができる。遺構検出面はT.P.＋13.5m～14.8mの範囲で、主にⅤ層上面で遺構を検出できた。Ⅴ層は鷺山蝉遺跡A区・B区・D区・E区西側、鷺山蝉遺跡A区南側の範囲に存在する。これら以外の調査区ではⅧ～Ⅹ層（地山層）上面で遺構を検出しており、古代や中世の遺構と同一検出面となることから、上部が削平等を受けたと推測される。

鷺山蝉遺跡B区は、江戸時代の文献資料「中島両以記文」の記述、字絵図や地籍図等の検討、あるいは一部土塁が現存していることも合わせて、戦国時代の城館跡「蝉土手城館跡（「蝉封彊（せみどて）」）」に比定されていた。蝉土手城館跡は地籍図等より一辺約120mの方形であることが知られていた。北側には現存する土塁が存在し、今回の調査ではその土塁も含め南北および東西方向で110m以上にわたり調査を実施した。本調査区はその方画地割の西側に位置する。

調査では蝉土手城館跡の西辺、北辺、南辺を区画する堀を確認した。

西辺の堀は幅７m、遺構検出面からの深さ２mの規模であった。土塁は現存する北辺のものと、西辺、南辺で削平された土塁盛土の痕跡を確認した。今回確認した土塁は、砂礫と粘質土を交互に盛土している。このような土塁構築方法は戦国時代に盛んに用いられており、京都市の山科本願寺、県内では各務原市の承国寺遺跡でも同様な土塁構築例が見られる。以上のように城館跡にともなう堀・土塁等が複数箇所で確認できたことから、城館跡の規模が一辺約120mで、方画地割の１区画全てを占めることが明らかとなった。

堀・土塁の他には、城館跡内部を区画する溝のほか、東西12m、南北３mの規模をもつ、貯蔵施設とも考えられる石積施設と、周囲に建物跡を確認できた。また塀などの構築物の基礎となる石組と溝、土師器皿集積土坑、結桶積みの井戸を確認した。なお今回の調査区では中心となる建物施設を確認す



第138図　4期の遺構配置

ることはできなかったが、本調査区の東側にこれら建物施設が推定される。

なお、蝉土手城館跡の成立時期としては、永正6年（1509年）頃と推定されている「福光御構」普請から天文元年（1532年）の枝広館移転まで、福光の地に守護所が所在した約23年間を中心とした時期を想定している。しかしながら蝉土手城館跡の土塁出土遺物を見ると3期（鎌倉時代～室町時代）、井川編年Ⅰ期（15世紀前半、井川2006）に相当する遺物が出土している。このように土塁盛土出土遺物からのみ判断すれば、集落の時期と連続して土塁を構築したと考えられるが、蝉土手城館跡内の遺構出土の土師器皿は井川編年Ⅲ期（16世紀初頭～前葉、井川2006）に相当すること、井川編年Ⅱ期の様相がほとんど認められないことから、集落と土塁構築時期には時間差があると考えたい。3期の集落が一時的に断絶し、一定期間経たのち蝉土手城館跡を構築したということである。また蝉土手城館跡の外部、西側の鷺山蝉遺跡B1～B3の調査でも区画溝や柱穴列を確認している。遺構は建物もしくは塀などの構築物であったと推定される。

次に、蝉土手城館跡西隣の方形区画に相当する鷺山蝉遺跡A区では、蝉土手城館には規模で劣るものの、同時期の溝によって区画がなされた屋敷跡が確認できた。蝉土手城館跡の西側、約100m付近に本調査区は位置する。

鷺山蝉遺跡A区の調査では、調査区西端部で南北方向の区画溝が確認でき、方画地割の西辺部分に相当することが判明した。南北方向区画溝には入り口となる土橋が2カ所あり、区画溝西側は調査区外であるものの、街路であったと推定される。

鷺山蝉遺跡A区の屋敷地内は東西方向の区画溝でさらに北と南の2つに分けられ、南側区画では、内部をさらに区画する塀や区画溝が配される。東側で建物跡と建物に伴う整地が確認でき、周囲には土師器皿集積の土坑、井戸が確認できた。北側区画では広範囲で建物跡と建物に伴う整地が確認でき、周囲には土師皿集積の土坑、溝が確認できた。

また、屋敷地西辺を区画するSD14の北側延長部分では、平成16年度市内遺跡試掘調査において、先述の区画溝SD02とSD14とがT字に交わり、遺構の切り合いからSD02→SD14の順に埋没したこと

が確認されている。試掘調査報告では、①東西方向の区画溝SD02が埋没後に南北方向の区画溝SD14を掘削した、②南北方向のSD14が掘り直しされた、という2案を想定している。①の想定に当てはまるならば、戦国時代に区画溝の埋め戻し、屋敷地内の区画変更が行われた可能性も想定できよう。しかし遺物を見る限り、SD14よりSD02の遺物が古相であるとは言い切れない。よって本報告では②の想定、すなわち後世に屋敷地外周の区画溝を掘り直したと考えたい。なお、鷺山蝉遺跡A１区のSD14上層部分では、試掘調査報告で指摘のあった掘り直し後の埋土に相当する洪水堆積が確認できないことから、当調査区までは掘り直しが及んでいない可能性も考えられる。この掘り直しの時期は戦国期以降、もしくは近世まで下る可能性が考えられる。

戦国時代の区画溝は鷺山蝉遺跡A・B区以外でも存在し、多数の土師器皿が一括廃棄された地点を複数確認した。顕著な土師器皿集積は鷺山蝉遺跡A・B区では計６地点、これら以外の調査区で計６地点確認できた。鷺山蝉遺跡出土の土師器皿については、法量について注目すると、屋敷地一帯とそれ以外の地域では明確な差異が見られた。屋敷地周辺では直径14cm以上の大法量土師器皿が目立ち、それ以外の地域では14cm以上の土師器皿が寡少であったことから、先述した土地空間利用の差異とも合わせて、階層差の存在が指摘されている（井川2006）。

また、鷺山蝉遺跡における戦国期の方格地割は、先行する古代の条里型地割とは方向・規模を違えて施行されていた。戦国期の方画地割は蝉土手城館跡周辺だけでなく、鷺山一帯に整然と広がっていたと考えられ、区画溝だけでなく街路（道路）を伴っていたと考えられている（朝田2006）。なお、地籍図の検討では、遺跡群の北側（下土居北門遺跡）でも条里型地割を確認しており、同方向の溝を確認している。鷺山蝉遺跡B区周辺は条里型地割から戦国期の地割へと変わる好例といえよう。今後の調査進捗により、戦国期の地割だけでなく先行する条里型地割の広がり、あるいは規模等も把握できるであろう。

なお、戦国時代を一時期として報告したが、時期としては、蝉土手城館などと同様に永正６年（1509年）頃の「福光御構」普請から天文元年（1532年）の枝広館移転までに相当すると考えている。但し、福光城（福光御構）の所在地は現在のところ不明で、発掘調査等によっても確認されていない。これまでの鷺山の発掘調査成果では、既報告のものも含め古瀬戸では後Ⅳ期新段階が優勢で、一定量の大窯第１段階の遺物が出土しており、今回の発掘調査でも同様の出土状況が確認された。これらを藤澤編年での実年代観に当てはめると15世紀後半～16世紀前葉に相当するが（藤澤1991）、守護所関連遺跡を中心とした岐阜市域での発掘成果とは齟齬が生じている（内堀2006）。

＜５期＞近世

５期の遺構は調査区域全体で確認できた。遺構は微高地上だけでなく微低地上でも確認できる。基本的には近世以降に形成された３層上面をベース層として遺構が形成されるが、鷺山蝉遺跡F区、あるいは鷺山仙道遺跡A区の微高地上では、古代～近世の遺構を同一面上で確認する場合が多い。

なお、本節では近世を一時期として報告したが、区分としては17世紀以降、近現代までの時期である。遺構としては井戸、池状遺構、溝が確認できた。当地域では近世以降水田耕作等が盛んに行われたと考えられる。

<参考文献>
岐阜市　1979　『岐阜市史　資料編　考古・文化財』
岐阜市教育委員会　2000　『城之内遺跡（第２分冊）』
高木　晃編　2002　『鷺山仙道遺跡』（財）岐阜市教育文化振興事業団
高木　晃編　2005　『鷺山仙道遺跡Ⅱ』（財）岐阜市教育文化振興事業団
八賀晋・玉井力　1971　「岐阜県の条里」『岐阜県史通史編　古代』岐阜県
内堀信雄・高木晃・井川祥子　2003　「長良川右岸（長良・福光・鷺山）地域戦国時代遺跡群の研究」『プレシンポジウム守護所・戦国城下町を考える（当日配付資料）』守護所シンポジウム@岐阜研究会
内堀信雄　2006　「美濃における守護所・戦国城下町の展開」『守護所と戦国城下町』高志書院
井川祥子　2006　「美濃中世後期土師器皿の分類と編年」『守護所と戦国城下町』高志書院
藤沢良祐　1991　「瀬戸古窯址群Ⅱ～古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅹ』瀬戸市歴史民俗資料館
朝田公年　2006　「美濃の守護所関連遺跡　福光」『守護所と戦国城下町』高志書院

第６章　自然科学分析

第１節　土壌自然科学分析

１．はじめに

鷺山蝉遺跡の古代以前および戦国時代の古植生などを明らかにする一端として、池状遺構、井戸、堀、および溝内堆積物などの花粉化石群集を検討した。

新山雅広（パレオ・ラボ）

２．方法

花粉化石の抽出は、試料約４gを10％水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸1に対して無水酢酸９の混液で湯煎約５分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート全面を走査し、その間に出現した全ての種類について同定・計数した。ただし、クワ科は樹木と草本のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

３．分析試料と結果

＜平成15年度の分析報告＞

鷺山蝉遺跡Ｂ３区SD03（３試料）および鷺山蝉遺跡Ｂ２区SD01－Ｂ（１試料）より採取された合計4試料について行った（第50表、図版41）。同定された分類群数は、樹木花粉６、草本花粉６、形態分類で示したシダ植物胞子１である。以下に、各試料の記載と花粉化石群集を記載する。

［鷺山蝉遺跡Ｂ３区SD03（３試料：No.１～No.３）］Ｂ３区SD03は、16世紀初頭の人工溝である。試料は、溝埋土のうち、下層１（No.１）、下層２（No.２）、下層３（No.３）より採取された。各試料は、No.１が灰色粘土質粗砂で最大径４cmの礫をまばらに含む。No.2が灰色粘土で径5cmの角礫を含む。No.3が灰色粘土で径３～４cmの礫をまばらに含み、径1.5cm程度の木材、炭化物片を含む。なお、下層1の直上には、近世？の溝の埋め立て土が堆積し、下層３の直下には、溝最下層の砂礫層（黄褐色粗砂、礫（円礫）の最大径4cm程度）、その直下に地山（赤褐色粗砂）が堆積する。

いずれの試料も十分な花粉化石は産出せず、花粉化石分布図として示すことができなかった。下層１（No.１）は、単条型胞子が１点産出したのみであり、下層2（No.２）、３（No.３）では樹木花粉のマツ属、コウヤマキ属、スギ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、コナラ亜属、クリ属が僅かに産出した。また、草本花粉では、ガマ属、イネ科、クワ科、ナデシコ科、アブラナ科、ヨモギ属が産出し、イネ科、クワ科は下層２（No.２）で若干目立った。

［鷺山蝉遺跡Ｂ２区SD01－Ｂ（１試料：No.４）］Ｂ２区SD01－Ｂは、14世紀の人工溝である。試料は、

和名	学名	No.1	No.2	No.3	No.4
樹木					
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	-	1	-	-
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	-	1	1	-
スギ属	*Cryptomeria*	-	-	1	-
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	-	1	-	-
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	-	1	-	-
クリ属	*Castanea*	-	-	1	-
草本					
ガマ属	*Typha*	-	1	-	-
イネ科	Gramineae	-	8	1	-
クワ科	Moraceae	-	5	-	-
ナデシコ科	Caryophyllaceae	-	-	1	-
アブラナ科	Cruciferae	-	1	-	-
ヨモギ属	*Artemisia*	-	1	2	-
シダ植物					
単条型胞子	Monolete spore	1	-	-	-
樹木花粉	Arboreal pollen	0	4	3	0
草本花粉	Nonarboreal pollen	0	16	4	0
シダ植物胞子	Spores	1	0	0	0
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	1	20	7	0
不明花粉	Unknown pollen	0	0	0	0

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す

（No. 1：鷺山蝉遺跡B3区SD03下層、No. 2鷺山蝉遺跡B3区SD03下層2、
No. 3：鷺山蝉遺跡B3区SD03下層3、No. 4：鷺山蝉遺跡B2区SD01-B）

第50表　花粉化石産出一覧表（平成15年度報告）

埋土の最下層より採取され、オリーブ褐色粘土で褐鉄鉱が認められる。花粉・胞子化石は全く産出しなかった。　以上のように検討した結果、いずれの試料も十分な花粉化石が産出せず、周辺植生について推定することはできなかった。SD03は溝遺構であり、試料とした埋土は概ね灰色粘土であるため、水付き堆積物と予想されたが、花粉化石は良好に保存されていなかった。下層2（No.2）では、湿地性草本のガマ属が産出はしたが、安定した滞水環境ではなかったと考えられる。

［鷺山仙道遺跡A2区SX01］A2区SX01（池状遺構）の埋土より採取された1試料について行った。試料は、灰色粘土で砂が少し混じる。産出したのは、タンポポ亜科2点、単条型胞子1点、不明花粉1点のみであった。花粉化石は水成堆積物であれば、良好に保存されるが、検討した試料は十分な花粉化石を産出しなかった。従って、SX01埋土は、少なくとも安定した滞水環境で堆積したものとは考えがたく、池の可能性は低いように思われる。もし、池であったとしても水が干からびて乾燥することが頻繁に起こるような状況であったのではないだろうか。

＜平成16年度の分析報告＞

花粉化石群集の検討は、試料1～13の合計13試料について行った（第51表、図版41）。各試料の簡単な記載は、次の通りである。なお、試料1～12は鷺山蝉遺跡、試料13は鷺山仙道遺跡の試料である。試料1（鷺山蝉遺跡D2区SE01；井戸）は井枠内下層より採取され、暗灰黄色砂混じりシルト質粘

土で褐鉄鉱が発達する。試料２（鷺山蝉遺跡B6区SE01；井戸）は井枠内下層上部より採取され、黄灰色小礫・砂まじり粘土。試料３（鷺山蝉遺跡Ｅ１区SD03－No.３；区画溝）は最下層上部より採取され、黄灰色粘土で炭化物片が多く混じる。試料４（鷺山蝉遺跡E1区SD03－No.４；区画溝）は最下層下部より採取され、灰色粘土で砂が少し混じる。試料５（鷺山蝉遺跡Ｆ１区SK03－④；素掘り井戸）は暗灰黄色砂混じり粘土で褐鉄鉱が発達する。試料６（鷺山蝉遺跡Ｆ１区SK03－③；素掘り井戸）は暗灰黄色砂混じり粘土で褐鉄鉱が発達する。試料７（鷺山蝉遺跡Ｆ１区SK03－②；素掘り井戸）は灰色粘土で褐鉄鉱が発達する。試料８（鷺山蝉遺跡Ｆ１区SK03－①；素掘り井戸）は最下層より採取され、灰色粘土で不鮮明な褐鉄鉱が認められる。試料９鷺山蝉遺跡Ｆ１区SD13；区画溝）は暗灰黄色砂混じりシルト質粘土で褐鉄鉱が発達する。試料10（鷺山蝉遺跡Ｆ１区SD11；区画溝）は暗灰黄色砂混じりシルト質粘土で不鮮明な褐鉄鉱が認められる。試料11（鷺山蝉遺跡B7区SD21）は下層より採取され、暗灰黄色粘土質シルトで不鮮明な褐鉄鉱が発達する。試料12（鷺山蝉遺跡Ｅ１区SX04低地西壁中央）は暗オリーブ褐色シルト質粘土で砂が少し混じり、褐鉄鉱が発達する。試料13（鷺山仙道遺跡Ｂ１区SE01；井戸）は暗灰黄色砂混じりシルト質粘土で褐鉄鉱が発達する。　時代については、試料１、13が戦国時代～近世、試料２～９が戦国時代、試料10が室町時代、試料11が鎌倉時代、試料12が古墳時代と考えられている。

全試料で同定されたのは、樹木花粉5、草本花粉6、形態分類で示したシダ植物胞子2である。いずれの試料も十分な花粉化石が産出せず、花粉化石分布図として示すことができなかった。以下に、各試料の記載を示す。

古墳時代の試料（試料12）：シダ植物の単条型胞子と三条型胞子が僅かに産出した。

鎌倉時代の試料（試料11）：単条型胞子のみが僅かに産出した。

室町時代の試料（試料10）：花粉・胞子化石は全く産出しなかった。

戦国時代の試料（試料２～９）：試料２（鷺山蝉遺跡Ｂ６区SE01；井戸）は、樹木花粉のハンノキ

和名	学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
樹木														
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
スギ属	*Cryptomeria*	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ハンノキ属	*Alnus*	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
アカメガシワ属	*Mallotus*	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
草本														
イネ科	Gramineae	4	4	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
カヤツリグサ科	Cyperaceae	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クワ科	Moraceae	1	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ソバ属	*Fagopyrum*	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
アブラナ科	Cruciferae	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
アリノトウグサ属	*Haloragis*	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
シダ植物														
単条型胞子	Monolete spore	–	3	3	–	2	–	–	–	–	–	1	1	–
三条型胞子	Trilete spore	–	2	2	–	1	–	–	–	–	–	–	2	–
樹木花粉	Arboreal pollen	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
草本花粉	Nonarboreal pollen	8	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シダ植物胞子	Spores	0	5	5	0	3	0	0	0	0	0	1	3	0
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	12	12	12	0	3	0	0	0	0	0	1	3	0
不明花粉	Unknown pollen	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

試料１(鷺山蝉遺跡 D2 区 SE01)、試料２(鷺山蝉遺跡 B6 区 SE01)、試料３(鷺山蝉遺跡 E1 区 SD03-No.３)、
試料４(鷺山蝉遺跡 E1 区 SD03-No.４)、試料５(鷺山蝉遺跡 F1 区 SK03-④)、試料６(鷺山蝉遺跡 F1 区 SK03-③)、
試料７(鷺山蝉遺跡 F1 区 SK03-②)、試料８(鷺山蝉遺跡 F1 区 SK03-①)、試料９(鷺山蝉遺跡 F1 区 SD13)、
試料 10(鷺山蝉遺跡 F1 区 SD11)、試料 11(鷺山蝉遺跡 B7 区 SD21)、試料 12(E1 区 SX04 低地)、
試料 13(鷺山仙道遺跡 B1 区 SE01)〔１・13：近世、２～９：戦国、10・11：鎌倉～室町、12：古墳〕

第51表　花粉化石産出一覧表（平成16年度報告）

属、草本花粉のイネ科、クワ科、アリノトウグサ属、単条型胞子、三条型胞子を僅かに産出した。試料３（Ｅ１区SD03－No.３；区画溝）は、樹木花粉のコナラ亜属、アカメガシワ属、草本花粉のイネ科、クワ科、ソバ属、アブラナ科、単条型胞子、三条型胞子を僅かに産出した。その他の試料は、試料５で単条型胞子と三条型胞子が僅かに産出したほかは、花粉・胞子化石を全く産出しなかった。

戦国時代～近世の試料（試料１、13）：試料１（鷺山蝉遺跡Ｄ２区SE01；井戸）は、樹木花粉のマツ属複維管束亜属、スギ属、草本花粉のイネ科、カヤツリグサ科、クワ科、ソバ属を僅かに産出した。試料13は花粉・胞子化石を全く産出しなかった。

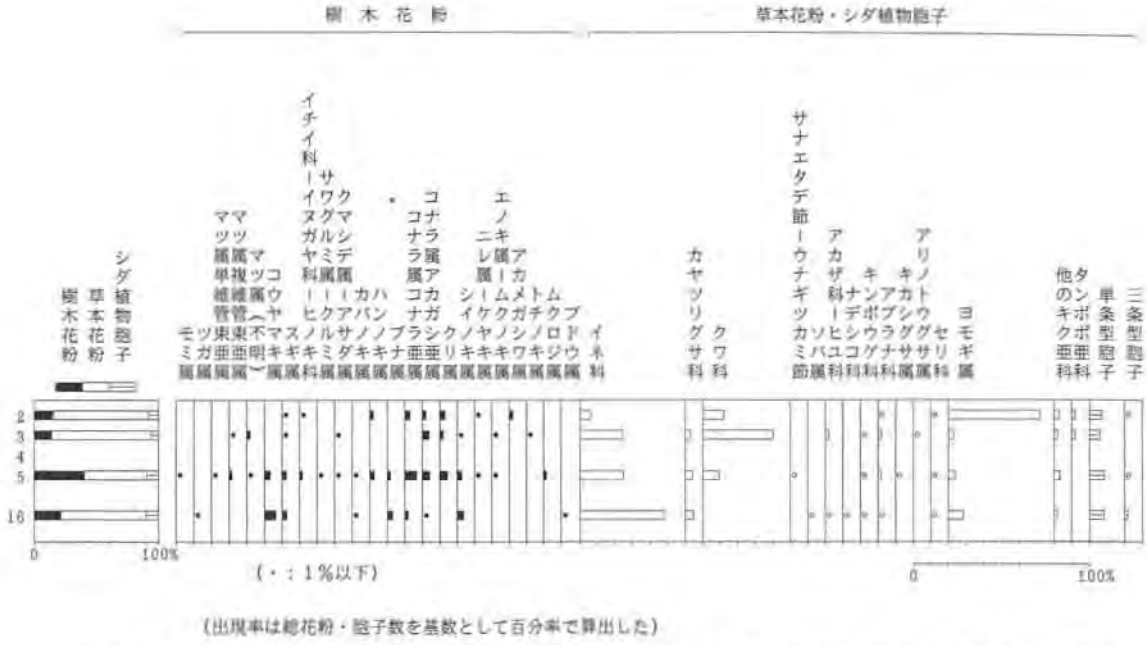
（考察）

検討した結果、いずれの試料も十分な花粉化石を産出しなかったため、古植生を復元することはできず、植物相を推定するにとどめざるを得ない。戦国時代には、落葉広葉樹のハンノキ属、コナラ亜属、アカメガシワ属が生育しており、二次林要素のアカメガシワ属の産出から、鷺山蝉遺跡Ｅ１区SD03（区画溝）付近には人為的に開かれた環境が存在していた可能性が考えられる。草本類は、鷺山蝉遺跡Ｂ６区SE01（井戸）付近には、イネ科、クワ科、アリノトウグサ属が生育していたであろう。アリノトウグサ属は人の干渉の強い草地などに見られることから、イネ科は草地優占種のススキ、シバなどに由来する可能性が考えられる。また、鷺山蝉遺跡Ｅ１区SD03（区画溝）付近には、イネ科、クワ科が生育しており、ソバ属の産出から、付近でソバ栽培が行われていたと予想される。アブラナ科は、野生種の可能性もあるが、有用植物を多く含む分類群であり、ソバと同様、アブラナ（ナタネ）などが栽培されていた可能性もある。戦国時代～近世には、針葉樹のマツ属複維管束亜属、スギ属が生育しており、鷺山蝉遺跡Ｄ２区SE01（井戸）付近には、イネ科、カヤツリグサ科、クワ科が見られたであろう。また、戦国時代に引き続き、ソバ栽培が行われていたであろう。

なお、花粉化石は水成堆積物であれば良好に保存されるが、土壌のような酸化条件下では、化学的風化により、分解・消失し、更にバクテリアによる蝕害も受ける。検討した試料は、概ね粘土であり、特に鷺山蝉遺跡Ｅ１区SD03や鷺山蝉遺跡Ｆ１区SK03の試料は、還元色で粘性の高い粘土であったことから、水付き堆積物と予想された。しかしながら、花粉化石が保存されていないことから、検討した試料は、少なくとも安定した滞水環境で堆積したものとは考え難い。試料は、井戸や区画溝の埋土より採取されたが、これらの遺構は水付きではなく、乾燥した環境下であったか、水が溜まることがあっても頻繁に乾燥し、常時滞水している環境ではなかったと予想される。

（まとめ）

戦国時代には、落葉広葉樹のハンノキ属、コナラ亜属、アカメガシワ属が生育しており、鷺山蝉遺跡Ｂ６区SE01（井戸）付近には、イネ科、クワ科、アリノトウグサ属が、鷺山蝉遺跡Ｅ１区SD03（区画溝）付近には、イネ科、クワ科、アブラナ科が生育しており、ソバ栽培が行われていたと予想された。戦国時代～近世には、針葉樹のマツ属複維管束亜属、スギ属が生育しており、鷺山蝉遺跡Ｄ２区SE01（井戸）付近には、イネ科、カヤツリグサ科、クワ科が見られ、ソバ栽培が行われていたと予想された。試料が採取された井戸や区画溝などの遺構は、常時滞水している環境ではなかったと予想された。



No. 2：鷲山蝉遺跡 A3区 SD02（堀）、No. 3：鷲山蝉遺跡 A4区 SD26（堀）、No. 4：鷲山蝉遺跡 B8区 SD81（堀）、
No. 5：鷲山蝉遺跡 C1区 SD02（溝）、No. 16：鷲山蝉遺跡 C1区 SX02 自然流路下層
（No. 2～5：戦国時代、No. 16：鎌倉室町以前）

第139図　花粉化石分布図

＜平成17年度の分析報告＞

花粉化石群集の検討は、No. 2～5および16の合計5試料について行った（第139図、第52表、図版42）。各試料の記載は、以下の通りである。なお、これら5試料は珪藻分析も行われ、No.5、16についてはプラント・オパール分析も行われた。No. 2：鷲山蝉遺跡A 3区SD02内埋土より採取され、暗灰黄色粘土質シルト。時代は戦国時代。No. 3：鷲山蝉遺跡A 4区SD26内埋土より採取され、黄灰色粘土。時代は戦国時代。No. 4：鷲山蝉遺跡B 8区SD85（堀）内埋土より採取され、暗灰黄色シルト質粘土で褐鉄鉱が認められる。時代は戦国時代。No. 5：鷲山蝉遺跡C 1区SD02内埋土より採取され、暗灰黄色粘土で褐鉄鉱が認められる。時代は戦国時代。No.16：鷲山蝉遺跡C 1区SX02自然流路下層より採取され、暗灰黄色シルト質粘土で褐鉄鉱が認められる。時代は鎌倉室町以前。

（花粉化石群集の記載）

全試料で同定された分類群数は、樹木花粉23、草本花粉15、形態分類で示したシダ植物胞子2である。いずれの試料も十分な樹木花粉が産出しなかったため、参考までに花粉・胞子総数を基数として花粉化石分布図に示した。以下に、各試料の花粉化石群集を記載する。

［鎌倉室町以前の試料（No.16）］

樹木花粉の占める割合は20%程度と低率である。コウヤマキ属、シイノキ属、スギ属・ブナ属、コナラ亜属の順に2～6%程度で出現し、ツガ属、カバノキ属、アカガシ亜属、ブドウ属も1%未満で出現する。草本花粉は、イネ科が50%弱で突出し、ヨモギ属（約8%）も若干目立つ。他は、カヤツリグサ科（約5%）、他のキク亜科（約2%）、ソバ属・アカザ科－ヒユ科・アブラナ科（1%未満）が出現する。［戦国時代の試料（No. 2～5）］

樹木花粉の占める割合は15～40%前後である。スギ属（1%未満～約3%）、アカガシ亜属・クリ

和名	学名	2	3	4	5	16
樹木						
モミ属	*Abies*	−	−	−	1	−
ツガ属	*Tsuga*	−	−	−	−	1
マツ属単維管束亜属	*Pinus* subgen. *Haploxylon*	−	−	−	1	−
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	−	1	−	2	−
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	−	2	−	1	−
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	−	−	−	4	7
スギ属	*Cryptomeria*	1	1	−	3	3
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	1	−	−	2	−
サワグルミ属－クルミ属	*Pterocarya-Juglans*	−	−	−	1	−
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	−	1	−	1	−
カバノキ属	*Betula*	−	−	−	1	1
ハンノキ属	*Alnus*	2	−	−	3	−
ブナ属	*Fagus*	−	−	−	2	3
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	3	−	−	8	2
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	2	4	−	5	1
クリ属	*Castanea*	3	2	−	5	−
シイノキ属	*Castanopsis*	−	1	−	3	4
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus - Zelkova*	1	−	−	1	−
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	−	1	−	1	−
アカメガシワ属	*Mallotus*	2	−	−	−	−
トチノキ属	*Aesculus*	−	1	−	−	−
ムクロジ属	*Sapindus*	−	−	−	2	−
ブドウ属	*Vitis*	−	−	−	−	1
草本						
イネ科	Gramineae	6	25	−	29	52
カヤツリグサ科	Cyperaceae	−	3	−	5	5
クワ科	Moraceae	12	41	−	11	−
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	−	−	−	1	−
ソバ属	*Fagopyrum*	−	−	−	−	1
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	−	2	−	−	1
ナデシコ科	Caryophyllaceae	−	−	−	−	1
キンポウゲ科	Ranunculaceae	−	1	−	1	1
アブラナ科	Cruciferae	1	2	−	2	1
キカシグサ属	*Rotala*	−	−	−	1	−
アリノトウグサ属	*Haloragis*	−	1	−	−	−
セリ科	Umbelliferae	1	−	−	1	1
ヨモギ属	*Artemisia*	52	3	−	4	9
他のキク亜科	other Tubuliflorae	3	2	−	4	2
タンポポ亜科	Liguliflorae	2	2	−	−	−
シダ植物						
単条型胞子	Monolete spore	7	6	2	10	9
三条型胞子	Trilete spore	1	−	−	1	2
樹木花粉	Arboreal pollen	15	14	0	47	23
草本花粉	Nonarboreal pollen	77	82	0	59	74
シダ植物胞子	Spores	8	6	2	11	11
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	100	102	2	117	108
不明花粉	Unknown pollen	12	15	0	20	14

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す
No.2：鷲山蝉遺跡A3区SD02（堀）、No.3：鷲山蝉遺跡A4区SD26（堀）、No.4：鷲山蝉遺跡B8区SD85（堀）、
No.5：鷲山蝉遺跡C1区SD02（溝）、No.16：鷲山蝉遺跡C1区SX02自然流路下層
（No.2～5：戦国時代、No.16：鎌倉室町以前）

第52表　花粉化石産出一覧表（平成17年度報告）

属（約２～４％）がNo.４を除く３試料で出現し、コナラ亜属もNo.２（約３％）、No.５（約７％）で出現する。また、マツ属複維管束亜属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、クマシデ属－アサダ属、ハンノキ属、シイノキ属、ニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属などがNo.４を除くいずれか2試料から３％未満で出現する。他は、No.２からアカメガシワ属、No.５からコウヤマキ属、ブナ属、ムクロジ属などが3%未満で出現する。草本花粉は、No.2ではヨモギ属が52%と突出し、クワ科（12%）、イネ科（６％）が比較的目立つ。他は、他のキク亜科（３％）、タンポポ亜科（２％）などが出現す

る。No.3はクワ科（約40%）、イネ科（約25%）の順に高率であり、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、アリノトウグサ属、ヨモギ属、タンポポ亜科などが1%未満～3%未満で出現する。No.5は、イネ科が約25%で最も高率であり、クワ科も約9%で比較的目立つ。他は、カヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属、他のキク亜科が2～4%程度、キカシグサ属などが1%未満で出現する。なお、No.4はシダ植物の単条型胞子が2点産出したのみであった。

（鎌倉室町以前の古植生）

樹木花粉の産出個数が少ないため、森林植生についての推定は困難である。当時の植物相は、針葉樹のコウヤマキ属、スギ属、落葉広葉樹のブナ属、コナラ亜属、常緑広葉樹のシイノキ属などを含むものであったと言うに止めざるを得ない。草本類については、鷺山蝉遺跡C1区SX02自然流路内ないし周辺にはイネ科が卓越し、ヨモギ属、カヤツリグサ科、他のキク亜科、シダ植物などが混じっていたと推定される。また、ソバ属の産出から、付近にソバの栽培地が存在していたと考えられる。

（戦国時代の古植生）

樹木花粉の産出個数が少ないため、森林植生についての推定は困難である。当時の植物相は、針葉樹のマツ属複維管束亜属、コウヤマキ属、スギ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、落葉のハンノキ属、コナラ亜属、クリ属、アカメガシワ属、常緑のアカガシ亜属、シイノキ属などを含むものであったと言うに止めざるを得ない。草本類については、各遺構内ないし周辺に次のような分類群が生育していたと推定される。鷺山蝉遺跡A3区SD02はヨモギ属をはじめ、クワ科、イネ科、鷺山蝉遺跡鷺山蝉遺跡A4区SD26はクワ科、イネ科をはじめ、アカザ科－ヒユ科、アリノトウグサ属、鷺山蝉遺跡C1区SD02はイネ科、クワ科をはじめ、キカシグサ属などである。鷺山蝉遺跡C1区SD02では、抽水植物のキカシグサ属が出現するが、これを除いて明らかな水湿地性草本は出現せず、むしろ乾き気味の場所に生育する分類群が目立つので、多産するイネ科もススキ、シバなどの草地優占種を含む可能性が多分に考えられる。なお、試料とした堀や溝内埋土は、花粉化石の産出個数が良好とは言えないので、これらの遺構は水付きではあったものの、時に乾燥することもあるような余り安定した滞水環境ではなかった可能性が考えられる。特に、花粉・胞子化石の産出個数が極めて乏しかった鷺山蝉遺跡B8区SD85（堀）は、珪藻分析の結果からも、乾燥した堆積環境であったと考えられ、空堀であったことが示唆される。

（おわりに）

樹木花粉の産出個数が少なかったため、鎌倉室町以前、戦国時代のいずれの時期も森林植生を推定するには至らず、植物相の一部が明らかになったに過ぎなかった。各遺構内ないし周辺には、イネ科、クワ科、ヨモギ属などが生育しており、鎌倉室町以前の鷺山蝉遺跡C1区SD02付近にはソバの栽培地が存在していたと考えられた。各遺構はあまり安定した滞水環境ではなく、鷺山蝉遺跡B8区SD85（堀）については乾燥した堆積環境であったと考えられた。

B. 遺構埋土の珪藻分析

パレオ・ラボ

1．はじめに

珪藻は、10～500μmほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉、1988；安藤、1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

2．試料の処理方法

遺構内堆積物より採取された試料は、以下の方法で処理し、珪藻用プレパラートを作成した。

（1）湿潤重量約1g程度取り出し、秤量した後ビーカーに移し30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥した。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作成した。作成したプレパラートは顕微鏡下1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。なお、珪藻化石が少ない試料は、プレパラート全面について精査した。

3．珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、安藤（1990）が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。以下に、安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

［上流性河川指標種群（J）］：上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらにはAchnanthes属が多く含まれるが、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

［中～下流性河川指標種群（K）］：中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

［最下流性河川指標種群（L）］：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

［湖沼浮遊生指標種群（M）］：水深が約1.5m以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

［湖沼沼沢湿地指標種群（N）］：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地におれる付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい。

［沼沢湿地付着生指標種群（O）］：水深１m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

［高層湿原指標種群（P）］：尾瀬ケ原湿原や霧ケ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

［陸域指標種群（Q）］：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている）。

4．分析試料と珪藻化石の特徴とその堆積環境

＜平成15年度の分析報告＞

藤根　久（パレオ・ラボ）

試料は、鷺山仙道遺跡A2区池SX01の堆積物1試料（試料⑥下層）、鷺山蝉遺跡溝SD03の堆積物１試料（試料⑦下層）の合計２試料である（第140図、第53・54表、図版43）。全試料から検出された珪藻化石は、淡水種が68分類群23属52種４亜種それぞれ検出された。これらの珪藻化石からは、淡水種は４環境指標種群に分類された（第53表）。以下では、各試料について検出された珪藻化石群集の特徴について述べる。なお、第140図には、遺構堆積物の珪藻化石分布図を示し、第54表に結果の概要をまとめた。

［池堆積物（鷺山仙道遺跡Ａ２区SX01）；試料⑥］堆積物１g当りの殻数は約7.03x103個、完形殻の出現率は約39%である。検出された珪藻化石は、汽水種が検出されるものの、陸域指標種群の珪藻化石が比較的多く検出された。こうしたことから、池遺構とされるものの池に生育する珪藻化石は検出されなかった。

［溝堆積物（鷺山蝉遺跡Ｂ３区SD03）；試料⑦］堆積物１g当りの殻数は約4.05x105個と比較的高率で出現し、完形殻の出現率は約77%と高い。検出された珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群のPinnularia gibbaやGomphonema gracileなどが多く検出された。なお、陸域指標種群のHantzschia amphioxysなども検出された。こうしたことから、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

（おわりに）

鷺山仙道遺跡Ａ２区池SX01の堆積物では、池堆積物を示すような珪藻化石は検出されず、むしろ陸域指標種群の珪藻化石が含まれていた。

鷺山蝉遺跡B3区溝SD03の堆積物では、完形の多い珪藻化石が検出され、陸域指標種群を伴う沼沢湿地付着生指標種群の珪藻化石が特徴的に含まれていたことから、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地と推定された。

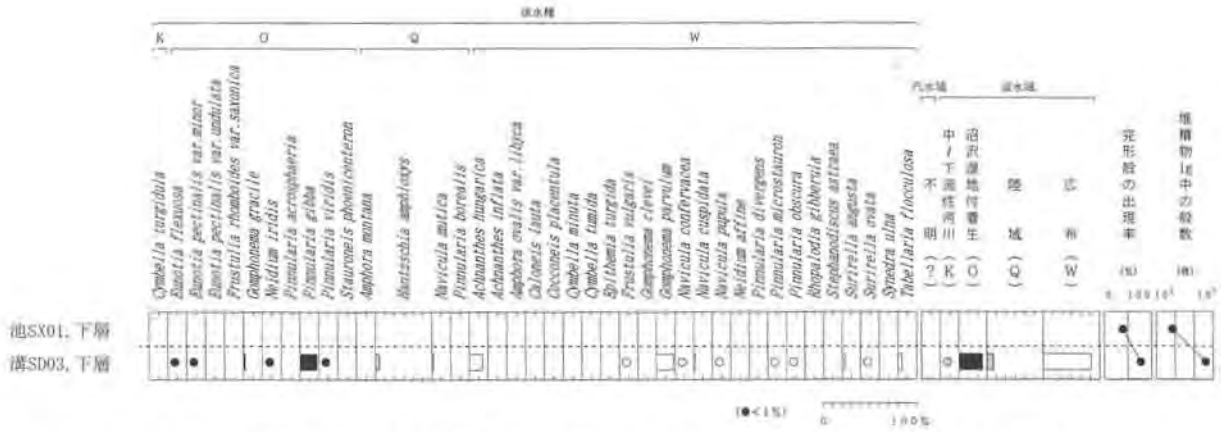
〔引用文献〕

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理，42，73－88.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，1－20.

分類群	種群	SX01	SD03
Achnanthes brevipes	?	2	-
A. hungarica	W	-	29
A. inflata	W	-	1
A. lanceolata	K	-	1
Amphora montana	Q	-	-
A. ovalis var.libyca	W	-	-
A. spp.	?	-	-
Caloneis bacillum	W	1	-
C. lauta	W	-	-
C. silicula	W	-	1
Cocconeis placentula	W	2	-
Cymbella aspera	O	-	1
C. minuta	W	1	-
C. naviculiformis	O	-	1
C. tumida	W	-	-
C. turgidula	K	1	1
C. spp.	?	-	1
Diploneis spp.	?	-	-
Epithemia turgida	W	-	1
E. spp.	?	-	-
Eunotia biareofera	W	-	-
E. flexuosa	O	-	2
E. pectinalis var.minor	O	-	2
E. pectinalis var.undulata	O	1	-
E. spp.	?	-	3
Frustulia rhomboides var.saxonica	O	-	-
F. vulgaris	W	-	3
Gomphonema acuminatum	O	-	-
G. augur	W	1	-
G. clevei	W	-	-
G. gracile	O	-	4
G. parvulum	W	-	39
G. spp.	?	-	1
Gyrosigma spp.	?	-	-
Hantzschia amphioxys	Q	12	9
Melosira distans	N	-	1
Navicula confervacea	W	-	2
N. cuspidata	W	-	5
N. elginensis	O	-	1
N. ignota	Q	-	-
N. kotschyi	W	-	-
N. mutica	Q	-	4
N. pupula	W	-	2
N. spp.	?	-	4
Neidium affine	W	-	1
N. bisulcatum	Q	-	-
N. iridis	O	2	2
N. spp.	?	1	1
Nitzschia spp.	?	-	4
Pinnularia acrosphaeria	O	-	-
P. borealis	Q	6	1
P. braunii	W	-	1
P. divergens	W	1	1
P. gibba	O	-	39
P. microstauron	W	-	3
P. obscura	W	-	2
P. viridis	O	-	2
P. spp.	?	1	9
Rhopalodia gibba	W	-	-
R. gibberula	W	-	-
Stauroneis phoenicenteron	O	-	-
S. spp.	?	2	1
Stephanodiscus astraea	W	-	-
Surirella angusta	W	-	6
S. ovata	W	-	2
S. spp.	?	1	1
Synedra arcus	W	-	-
S. ulna	W	2	1
Tabellaria flocculosa	W	-	9
Unknown	?	1	8
汽水不定・不明種（？）		2	-
中～下流性河川（K）		1	2
湖沼沼沢湿地（N）		-	1
沼沢湿地付着生（O）		3	54
陸域（Q）		18	14
広布（W）		8	109
淡水不定・不明種（？）		6	33
珪藻殻数		38	213

第53表　鷺山仙道遺跡A2区SX01、鷺山蝉遺跡B3区SD03堆積物中の珪藻化石産出表



第140図　鷺山仙道遺跡A2区SX01、鷺山蝉遺跡B3区SD03堆積物中の珪藻化石分布図

試料	調査区	遺構・層位	堆積物	備考	珪藻化石群集	堆積環境
⑥	A2区	SX01、下層	灰オリーブ色粘土		陸域	陸域
⑦	B3区	SD03、下層	黒灰色植物遺体混じり粘土		陸域・沼沢湿地付着生	ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地

第54表　資料の概要とその堆積環境

＜平成17年度の分析結果＞

黒澤　一男（パレオ・ラボ）

分析には、鷺山蝉遺跡A３調査区SD02（試料２）と鷺山蝉遺跡A４調査区SD26（試料３）、鷺山蝉遺跡B８調査区SD85（試料４）、鷺山蝉遺跡C１調査区SD02（試料５）と鷺山蝉遺跡SX02下層（試料16）から採取された溝または堀内堆積物の5試料を用いた（第141図、第55表、図版43）。本研究において検出された珪藻化石は、75分類群25属55種２亜種である（第55表）。これらの珪藻種から設定された環境指標種群は、広布種を含め４種群である。これら環境指標種群の出現状況より、３帯の珪藻化石分帯に区分され、またⅡ帯は種群の構成種の違いにより、２つに細分される。以下に分帯ごとにこれら種群の出現状況の特徴と堆積環境について述べる（第141図）。

［Ⅰ帯（試料２：鷺山蝉遺跡A３調査区SD02）］検出された珪藻殻数が５個と少ないため、珪藻化石より堆積環境を推定することはできない。

［Ⅱa帯（試料３：鷺山蝉遺跡A4調査区SD26・試料5：鷺山蝉遺跡C１調査区SD02）］堆積物１g中の珪藻殻数は2.64×105個、2.88×105個、完形殻の出現率は約70%と高い。これらの試料からは、広布種が多いものの、Pinnularia gibbaやPinnularia viridisなどの沼沢湿地付着生指標種群が特徴的に検出されている。このことから沼沢地もしくは湿地環境であったと推定される。

［Ⅱb帯（試料16：鷺山蝉遺跡C１調査区SX02自然流路下層）］堆積物１g中の珪藻殻数は4.73×104個、完形殻の出現率は約21%と低い。この試料からは、Ⅱa帯と同様に広布種が多いものの、Pinnularia viridisやStauroneis phoenicenteronなどの沼沢湿地付着生指標種群が特徴的に検出されている。このことからⅡa帯と同様に沼沢地もしくは湿地環境であったと推定される。

［Ⅲ帯（試料４：鷺山蝉遺跡B８調査区SD85）］堆積物１g中の珪藻殻数は3.53×105個、完形殻の出現率は約42%となる。この試料からは、Navicula muticaやHantzschia amphioxysなどの陸域指標種群が特徴的に検出され、沼沢湿地付着生指標種群のEunotia praerupta var. bidenが随伴して検出されている。これらのことから湿地を伴う陸域環境であると推定される。

（考察）

鷺山蝉遺跡より採取した堆積物試料を用いて珪藻分析を行った結果について考察する。

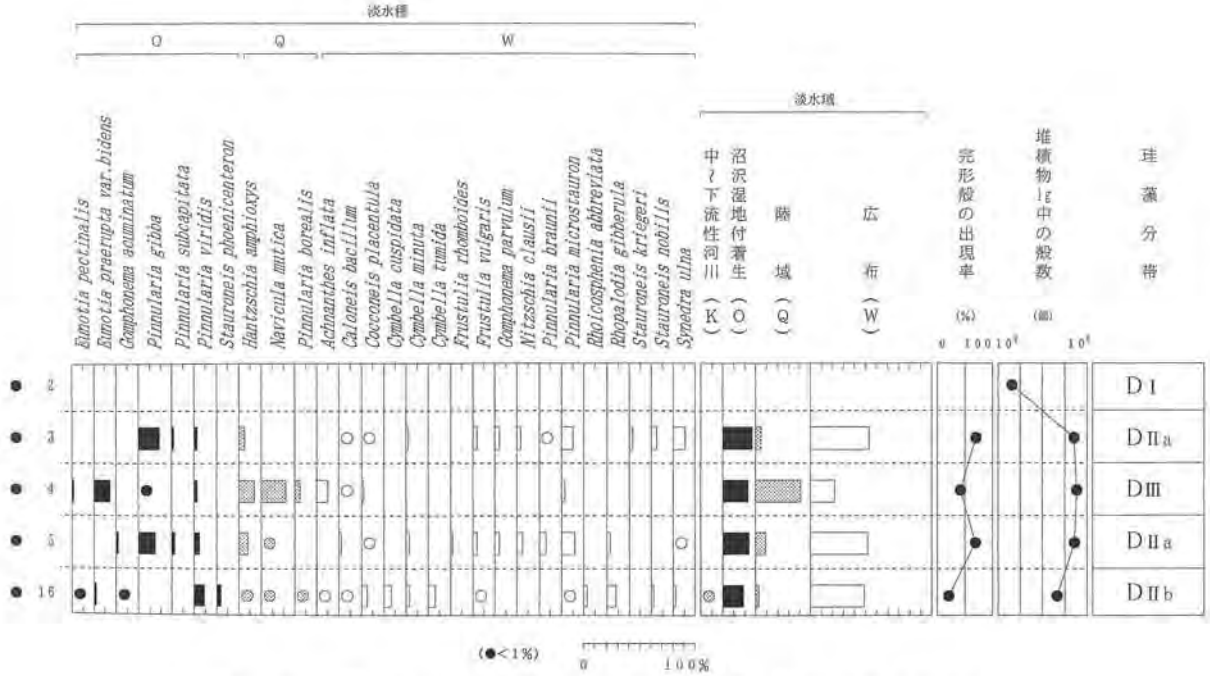
鷺山蝉遺跡A３調査区SD02を除く４試料については堆積環境を推定するのに必要な珪藻を検出することができた。鷺山蝉遺跡A３調査区SD02は堀内の堆積であるが、珪藻化石は少量の検出にとどまった。珪藻は水生植物であるため、水分のない所には生育できない。よって乾燥した陸域環境であったことが考えられる。またMurakami（1996）において珪藻殻が湿地で溶解することが報告されており、珪藻殻が堆積後溶解した可能性も考えられるが、理由が明らかにされていないので詳細な検討はできないため、可能性の示唆にとどめる。また同一の試料より花粉化石の分析が行われている。その結果、花粉化石は適量検出されている。花粉化石は乾燥した環境下では保存されにくいことから常時乾燥した環境下であったとは考えにくい。これらのことを考慮すると、常時水があるような環境や乾燥している環境ではなく、乾湿を繰りかえすような環境であったと考えられる。

鷺山蝉遺跡A４調査区SD26と鷺山蝉遺跡C１調査区SD02、鷺山蝉遺跡C１調査区SX02自然流路下層からは沼沢湿地付着生指標種群の珪藻が特徴的に検出された。このことから堀内は、沼沢地や湿地

分類群	種群	2	3	4	5	16
Achnanthes crenulata	W	-	1	-	-	2
A. hungarica	W	-	3	1	-	-
A. inflata	W	-	-	21	-	2
A. spp.	?	-	1	-	-	-
Amphora montana	W	-	-	-	2	-
A. ovalis var.libyca	W	-	-	-	1	2
Caloneis bacillum	W	-	3	3	5	1
C. schroederi	W	-	-	3	-	-
C. silicula	W	-	1	2	2	1
C. spp.	?	-	1	3	3	-
Cocconeis placentula	W	-	2	4	2	7
Cyclotella spp.	?	-	-	-	-	1
Cymbella aspera	O	-	-	-	-	2
C. cistula	O	-	-	-	-	1
C. cuspidata	W	-	-	-	1	11
C. minuta	W	-	5	1	6	5
C. tumida	W	-	1	-	1	9
C. turgidula	K	-	-	-	-	1
C. spp.	?	-	2	2	1	6
Diploneis finnica	W	-	-	-	-	1
D. spp.	?	-	-	1	-	2
Epithemia adnata	W	-	1	-	1	-
E. turgida	W	-	-	-	1	1
E. zebra	W	-	-	1	-	-
E. spp.	?	-	-	-	-	1
Eunotia pectinalis	O	-	-	5	1	1
E. praerupta var.bidens	O	-	-	32	-	3
E. veneris	W	-	-	-	-	1
E. spp.	?	-	2	2	2	4
Fragilaria spp.	?	-	-	1	-	1
Frustulia rhomboides	W	-	1	-	4	-
F. vulgaris	W	-	8	1	9	1
F. spp.	?	-	-	-	-	-
Gomphonema acuminatum	O	-	1	-	4	2
G. augur	W	-	3	-	-	-
G. clevei	W	-	1	1	-	-
G. gracile	O	-	2	2	-	-
G. parvulum	W	-	9	-	10	-
G. pseudoaugur	W	-	-	-	2	-
G. pseudosphaerophorum	W	-	-	-	3	-
G. truncatum	W	-	3	-	-	1
G. spp.	?	-	4	1	5	5

分類群	種群	2	3	4	5	16
Gyrosigma spp.	?	-	-	1	2	-
Hantzschia amphioxys	Q	-	10	30	18	1
Melosira spp.	?	-	-	2	-	-
Navicula cryptocephala	W	-	2	-	1	-
N. cuspidata	W	1	1	-	-	1
N. mutica	Q	-	-	47	2	2
N. spp.	?	-	3	5	7	-
Neidium iridis	O	-	1	-	-	-
N. spp.	?	-	2	1	6	3
Nitzschia amphibia	W	-	-	1	-	-
N. clausii	W	-	6	-	13	-
N. palea	W	-	-	-	3	-
N. spp.	?	-	-	3	2	3
Pinnularia acrosphaeria	O	-	1	1	-	-
P. borealis	Q	-	-	10	1	1
P. braunii	W	-	2	-	14	-
P. gibba	O	-	43	3	35	-
P. interrupta	W	-	-	-	2	-
P. microstauron	W	-	23	6	29	2
P. obscura	W	-	-	-	1	-
P. subcapitata	O	-	5	-	6	-
P. viridis	O	-	6	6	11	13
P. spp.	?	-	13	3	3	11
Rhoicosphenia abbreviata	W	-	-	-	1	4
Rhopalodia gibba	W	-	1	-	-	-
R. gibberula	W	-	1	-	7	12
Stauroneis kriegeri	W	-	6	-	-	-
S. nobilis	W	-	10	-	-	3
S. phoenicenteron	O	-	-	-	-	6
S. spp.	?	-	6	3	2	6
Surirella spp.	?	-	-	-	2	-
Synedra ulna	W	-	24	-	2	3
Tabellaria flocculosa	W	-	-	1	1	2
Unknown	?	-	1	1	-	-
中～下流性河川 (K)		-	-	-	-	1
沼沢湿地付着生 (O)		-	59	49	57	28
陸域 (Q)		-	10	87	21	4
広布種 (W)		1	118	46	124	72
不明 (?)		-	35	29	35	43
珪藻殻数		1	222	211	237	148

第55表　珪藻化石産出表（種群は安藤1990に基づく）



第141図　堆積物中の珪藻化石分布図（2％以上の分類群を表示）

のような流れがなく、水深のあまりないような環境下が推定される。鷺山蝉遺跡B８調査区SD85は堀内の堆積物であるが、検出された珪藻化石は陸域環境を示すものであった。よってB８調査区SD85の堀内には常時水が浸っているような状態ではなく、ジメジメとする陸域環境のような状態であったと推定される。

（おわりに）

鷺山蝉遺跡から採取された堆積物試料中の珪藻化石を検討した結果、鷺山蝉遺跡A4調査区SD26、鷺山蝉遺跡C１調査区SD02と鷺山蝉遺跡C１調査区SX02下層の堆積環境は、沼沢地や湿地のような環境であったと推定され、鷺山蝉遺跡B８調査区SD85はジメジメとした陸域環境、鷺山蝉遺跡A３調査区SD02は、乾燥した陸域環境と考えられた。

[引用文献]

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，73－88.

Murakami，T.（1996）Silicious Remains Dissolution at Sphagnum－bog of Nagano－yama Wetland in Aichi Prefecture，Central Japan，The Quaternary Research，35，17－23.

C．製塩土器付着物中の珪藻化石

藤根　久（パレオ・ラボ）

１．はじめに

鷺山蝉遺跡の調査では、土坑内から製塩土器が出土している。ここでは、製塩土器の内面に付着土壌について藻塩法による製塩の証拠を検討するために、珪藻化石を調べた。

２．試料と方法

分析は、鷺山蝉遺跡F２区SK96・97出土の製塩土器（焼塩土器）で、土器内面において黒～黒褐色の付着物が見られる試料を選んで、珪藻化石の有無を調べた（第56表、図版44）。

方法は、トールビーカーに蒸留水と土器片入れ、超音波洗浄器を用いて粘土粒子の分散を行った。

分類群	環境指標	土器試料	
		SK96	SK97
*Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属	海水種		1
Thalassionema nitzschiodes	海水種（外洋）	5	2
Cocconeis scutellum	海水種（藻場）		4
Diploneis interrupta	海水種	1	
*Caloneis*属	淡水種		1
Eunotia biareofera	淡水種	1	
Hantzschia amphioxys	陸域	18	4
Navicula mutica	陸域	1	1
Pinnularia borealis	陸域	1	
Pinnularia obscura	陸域		1
*Pinnularia*属	淡水種	1	3
不明種珪藻化石	－	6	7
骨針化石	水域	15	5

第56表　プレパラートの観察により検出された珪藻化石

土器試料を取り出した後、1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てた。この作業を7回ほど繰り返した後、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥した後、マウントメディアで封入しプレパラートを作成した。プレパラートは、光学顕微鏡（300－1000倍）を用いて全面を観察し、珪藻化石を同定・計数した。

3．結果および考察

鷺山蝉遺跡F2区SK96から出土した土器片では、プレパラートを光学顕微鏡で観察した結果、海洋指標種群のThalassionema nitzschiodesやDiploneis interruptaあるいは骨針化石が含まれるものの、藻場指標種群の珪藻化石は検出されなかった。なお、Hantzschia amphioxysなどの陸域指標種群の珪藻化石が多く検出された（第56表）。

一方、SK97から出土した土器片では、藻場指標種群のCocconeis scutellumが4個体検出された。その他では、海洋指標種群のThalassionema nitzschiodesや陸域指標種群のHantzschia amphioxysなどが検出された。また、淡水種の珪藻化石も検出された。

森（1991）は、古墳時代～平安時代の製塩遺構から出土した製塩土器内面に、白色～灰白色の付着物が見られることに注目し、これら付着物中の珪藻化石について検討している。その結果、ここで示した海水藻場指標種群の珪藻化石が多産することを見出し、土器製塩の海水濃縮過程において海藻が利用された可能性を指摘している。なお、陸域指標種群の珪藻化石が出現することが確認されている。名屋市勢山中学校遺跡において6世紀後半頃と推定される土坑内から密閉した状態で須恵器蓋杯が出土した。この内部からは臼玉や小石のほか、内面に暗オリーブ褐色の付着物が見られた。藤根・服部（2000）は、この付着物からは、海水藻場指標種群の珪藻化石が検出されたことから、藻塩法により作られた塩利用の痕跡とした。なお、これらの珪藻化石には、陸域指標種群の珪藻化石も多く含まれていた。

以上のことから、少なくともSK97から出土した土器片においては、海水藻場指標種群の珪藻化石が検出されたことから、藻塩法による塩の痕跡が確認された。

4．おわりに

鷺山蝉遺跡F2区SK97から出土した土器片では、海水藻場指標種群の珪藻化石が検出されたことから、藻塩法による製塩によって作られた塩である可能性が指摘された。

〔引用文献〕

藤根　久・服部哲也（2000）密閉して出土した須恵器蓋杯内の内容物―塩利用の証拠―．日本文化財科学会第17回大会研究発表要旨集，116－117.

森　勇一（1991）珪藻分析によって得られた古代製塩についての一考察．考古学雑誌，76，3，62－75.

D. 寄生虫卵分析

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

1．はじめに

鷺山蝉遺跡において行われた発掘調査で用途不明の石積施設SX21が検出され、この遺構は戦国時代の厩の可能性が考えられている。以下には遺構の性格を知る手掛かりを得る目的で行った寄生虫卵分析の結果・考察を示す。

2．試料と分析方法

試料は鷺山蝉遺跡B５区の用途不明遺構SX21の東西セクションより採取された３試料（試料番号①～③）である。各試料について、下部試料①は炭片が点在する黒褐色シルト質粘土、中部試料②は黒褐色シルト（土壌）、上部試料③は黒褐色シルトである。これら３試料について以下の手順にしたがって寄生虫卵分析を試みた。体積を測定した試料（湿重約４g）を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて小レキなどを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸９：１濃硫酸の割合の混酸を加え３分間湯煎）を行う。この残渣に適容量のグリセリンを加え保存用とし、全容量を測定する。検鏡はこの残渣よりプレパラートを作成し（使用量測定）、全面に渡り検鏡した。

3．分析結果および考察

検鏡の結果、３試料とも１個体の寄生虫卵も観察できなかった。よって石積施設SX21の用途について寄生虫卵分析から言及することは出来ない結果となった。なお、顕微鏡観察において以下のような花粉化石やシダ植物胞子化石が若干認められた（図版42）。樹木類では、マツ属、コウヤマキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属の４分類群、草本類ではイネ科、クワ科、アカザ科、ナデシコ科、アブラナ科、フウロソウ属、ヨモギ属、タンポポ亜科の８分類群、および形態分類を含むシダ植物胞子４（ヒカゲノカズラ属、ゼンマイ科、単条型胞子、三条型胞子）である。

E. プラント・オパール分析

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

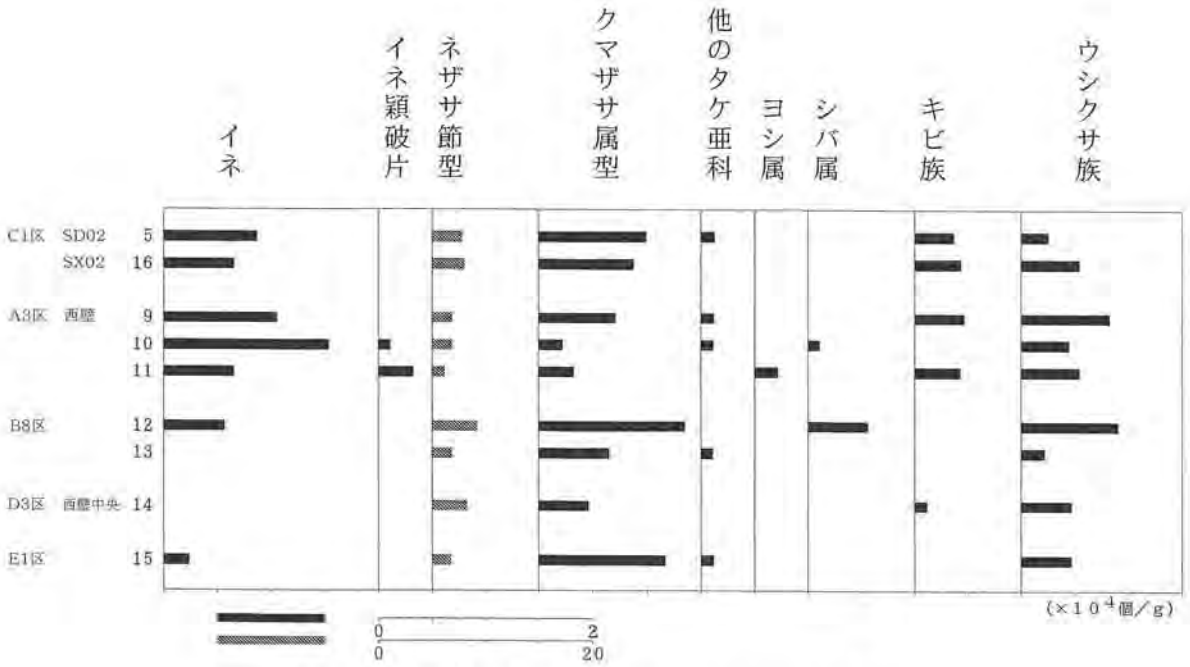
1. はじめに

プラント・オパールとは、根より吸収された珪酸分が葉や茎の細胞内に沈積・形成されたもの（機動細胞珪酸体や単細胞珪酸体などの植物珪酸体）が、植物が枯れるなどして土壌中に混入して土粒子となったものを言い、機動細胞珪酸体については藤原（1976）や藤原・佐々木（1978）など、イネを中心としたイネ科植物の形態分類の研究が進められている。また、土壌中より検出されるイネのプラント・オパール個数から稲作の有無についての検討も行われている（藤原　1984）。

鷺山蝉遺跡では溝や調査区断面より土壌試料が採取され、この土壌試料についてプラント・オパー

試料番号	調査区	遺構名	サンプル名	イネ (個/g)	イネ穎破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	クマザサ属型 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
5	C1	SD02	溝内堆積	8,700	0	28,400	9,900	0	0	3,700	2,500	2,500
9	A3	西壁	サンプル1	10,500	0	18,700	7,000	0	0	4,700	8,200	7,000
10			サンプル2	15,400	1,100	18,700	2,200	0	1,100	0	4,400	8,800
11			サンプル3	6,500	3,200	11,900	3,200	2,200	0	4,300	5,400	8,700
12	B8			5,600	0	41,500	13,500	0	5,600	0	9,000	5,600
13				0	0	18,300	6,500	0	0	0	2,200	4,300
14	D3			0	0	32,600	4,700	0	0	1,200	4,700	5,800
15	E1	西壁中央	低地サンプル	2,300	0	17,500	11,600	0	0	0	4,700	3,500
16	C1	SX02下層	サンプル1	6,500	0	30,400	8,700	0	0	4,300	5,400	10,900

第57表　資料1g当たりのプラント・オパール個数



第142図　鷺山蝉遺跡のプラント・オパール分布図

ル分析を行い、遺跡とイネおよびイネ科植生について検討した。

2．試料と分析方法

分析試料は仮番号5・9～16の9試料である（第142図、第57表、図版45）。各試料について、試料5（鷺山蝉遺跡C1区SD02）は褐色を帯びた黒灰色粘土、試料9（鷺山蝉遺跡A3区西壁サンプル1〔低地埋土下層〕）は黒褐色のシルト質粘土～粘土質シルト、試料10（鷺山蝉遺跡A3区西壁、サンプル2〔低地埋土上層〕）は灰褐色の粘土質シルト、試料11（鷺山蝉遺跡A3区西壁サンプル3〔V層〕）はやや粘土質の灰褐色シルトである。試料12（鷺山蝉遺跡B8区サンプル1〔V層〕）は黄褐色シルト、試料13（鷺山蝉遺跡B8区サンプル〔Ⅶ層〕）は黒褐色シルト、試料14（鷺山蝉遺跡D3区〔Ⅲ層〕）は黄褐色シルト、試料15（鷺山蝉遺跡E1区西壁中央SX04低地サンプル）は黒褐色のシルト質粘土、試料16（鷺山蝉遺跡C1区、SX02自然流路下層サンプル1）はややシルト質の暗褐色粘土である。また時期について、試料5が戦国時代、13・15が古代以前、9・10・11・16が鎌倉室町以前、12は鎌

倉室町時代、14が近世と考えられている。これら総計9試料について下記の手順に従ってプラント・オパール分析を行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約40μm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う*。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。

3．分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（第57表）、それらの分布を第142図に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、試料13,14の2試料を除く7試料よりイネのプラント・オパールが観察された。個数的には2,300個の試料15を除きすべて5,000個以上で、9,10では10,000個を越えている。またイネの穎に形成される珪酸体の破片も試料10,11で認められている。

イネ以外ではネザサ節型が最も多く、全試料10,000個を越えている。次いでクマザサ属型が多く、試料12,15で10,000個を越えている。これら2分類群と同様にウシクサ族も全試料で観察されており、個数的には約2,000個～9,000個を示している。その他キビ族，ヨシ属，シバ属などが若干得られている。

4．稲作について

上記したように7試料よりイネのプラント・オパールが検出された。検出個数の目安として水田址の検証例を示すと、イネのプラント・オパールが試料1g当り5,000個以上という高密度で検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原1984）。こうしたことから、稲作の検証としてこの5,000個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。鷲山蟬遺跡では5・9～12・16の6試料で上記の5,000個を越えるイネのプラント・オパールが得られており、検出個数のみからは稲作が行われていた可能性は高いと判断される。そのうち試料5は溝内堆積であることから、この溝内で稲作が行われていたとは考えられず、周辺の稲作地等よりもたらされたと推測されよう。また試料15では2,300個と5,000個に達していないことから稲作が行われていた可能性は低いと判断される。しかしながら少ないとは言えイネのプラント・オパールが検出されていることから、発掘状況や他の分析結果等を考え合わせ、稲作については判断されることが望まれる。

稲作の開始時期について、古代以前の試料9では稲作が考えられ、試料13ではその可能性が低いと判断される結果となっていることから、詳しい時期については不明であるが古代以前より一部地域において稲作が行われていたと推測される。

5．遺跡周辺のイネ科植物

最も多く検出されているネザサ節型のササ類（ゴキダケ，ケネザサ（ミヤコネザサ）など）やウシクサ族（ススキやチガヤなど）については日のあたる開けたところでの生育が考えられ、稲作地周辺や住居周辺の空き地、さらに遺跡周辺に成立していたであろう森林の林縁部などにネザサ節型のササ類やウシクサ族が進入して生育地を広げケネザサ－ススキ群集といった草地的景観をみせていたと推測される。

上記したように古代以前より稲作がおこなわれるようになり、稲作雑草と考えられるキビ族（タイヌビエなど）が稲作地内に生育していたとみられる。またシバ属（ノシバなど）も稲作地周辺の畦道などにみられたと思われ、溝や地下水位の高いところにはヨシやツルヨシといったヨシ属が生育していたと推測される。

〔引用文献〕

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－．　考古学と自然科学，9，p.15－29.

藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－，　考古学ジャーナル,227,p.2－7．

藤原宏志・佐々木彰（1978）プラント・オパール分析法の基礎的研究（2）－イネ（Oryza）属植物における機動細胞珪酸体の形状－．　考古学と自然科学,11,p.9－20.

第2節　樹種同定

A.出土木製品の樹種同定

（株）パレオ・ラボ

1．はじめに

ここでは、平成15年度～18年度に実施した樹種同定結果を報告する。対象としたものは、主に鷲山蝉遺跡の戦国時代遺構出土の比較的良好な状態の木製品で、時期は16世紀初頭から前半に相当するものである。

2．試料と方法

各出土木製品から材の3方向（横断面・接線断面・放射断面）を見定めて、剃刀を用い各方向の薄い切片を剥ぎ取り、スライドガラスに並べ、ガムクロラールで封入し、永久プレパラート（材組織標本）を作成した。この材組織標本を、光学顕微鏡で40～400倍に拡大し観察した。

材組織標本は、パレオ・ラボに保管されている。

3．結果

＜平成15年度・17年度漆容器の樹種同定結果＞

植田弥生（パレオ・ラボ）

戦国時代の溝内から出土した漆容器木胎20点の樹種同定結果を報告する。戦国時代の城下町で、使用または流通していた漆容器にはどのような木から作られたものであったのかを記録する。

平成15年度試料の漆容器11点の樹種は、トチノキ８点、カバノキ属２点、イイギリ１であった（第58表）。また、平成17年度試料の漆容器9点は、すべてトチノキであった（第58・59表）。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した（図版46・48）。

（１）カバノキ属　Betula　カバノキ科　図版46　１a－１c（H15－１）

やや小型の管孔が単独または放射方向に2～数個が複合して分布する散孔材。 道管の壁孔の孔口は交互状に密在し水平方向に流れて不規則な縞模様に見え、穿孔は階段数が15本前後の階段穿孔である。放射組織は異性、１～３細胞幅、多列部は平伏細胞から構成されている。

カバノキ属は、温帯から寒帯の山地の陽地に生育する落葉性の高木または低木で、約９種がある。本州以南に分布するミズメ、岐阜県以東に分布し崩壊地に二次林を形成するシラカンバ、高山に多いウダイカンバなどがある。樹皮は薄く剥げ細工物に利用されまたよく燃えるので付け木になる。材は重硬で有用材である。

（２）トチノキ　Aesculus turbinata Blume　トチノキ科　図版46　２a－２c（H15－10）　図版48　５a－５c（H17－９）

やや小型の管孔が単独または２～数個が複合して分布する散孔材。 道管の壁孔は交互状に接合して配列、穿孔は単穿孔、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で層階状に配列し、道管と放射組織の壁孔は交互状に密在する。

トチノキは、北海道以南の温帯の谷間に生育する落葉高木である。種子はアク抜きが必要だが食用となり、材は軽軟で緻密で加工し易いが、木理は不規則で耐久性は低く狂いがでやすい。容器などによく使われている。

（３）イイギリ　Idesia polycarpa Maxim. Cathayeia polycarpa （Maxim.）Ohwi　イイギリ科　図版46　３a－３c（H15－７）

中型の管孔が単独または２～数個が不規則に複合して分布する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は異性、１～２細胞幅、上下端に直立細胞が２～５層あり、道管との壁孔は比較的大きく輪郭は円形で交互状である。

イイギリは、本州以南の山中に稀に生育する落葉高木である。材質は軽軟で、耐朽性は低い。

（おわりに）

当遺跡において出土した漆容器20点の木胎樹種は、トチノキ17点、カバノキ属２点、イイギリ１点であった。 遺跡から出土する木胎の樹種は、針葉樹では主にヒノキであるが、広葉樹材が多く様々な種類の樹種が使われている。その中でも、大木となり木材量も多く材質が軽軟で加工容易なブナ属とトチノキは、特に多く利用されている樹種である。当遺跡からも、トチノキが最も多く検出された。また、周辺遺跡の鷺山仙道・正明寺城之前遺跡においても、戦国時代の漆器（椀・小杯）12点中10点がトチノキであった（未報告、現在調査中）。 当城下町ではブナ属よりトチノキの木胎が多く流通していた傾向が見られるが、この傾向は地域特性であるのか、戦国時代という時期にはブナ属よりトチノキが多く利用されていたのかは、今後の資料蓄積を待ち、周辺遺跡も含め検討する課題と思われる。

掲載番号	遺跡	調査区	遺構名		遺物		樹種	備考	時期	実測No.	試料No.
604	SS2	A1	SD14	S032	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	376	H17-9
605	SS2	A1	SD14		箸		ヒノキ	横断面多角形 一ヶ所折れる	16世紀初頭	379	H17-12
606	SS2	A1	SD14		箸		ヒノキ	横断面多角形 二ヶ所折れる	16世紀初頭	380	H17-13
608	SS2	A1	SD14	S033	矯木		アカマツ	削り出し加工	16世紀初頭	381	H17-14
609	SS2	A1	SD14	S057	折敷		ヒノキ	柾目,側板か?	16世紀初頭	384	H17-15
610	SS2	A1	SD14	S038	折敷		ヒノキ	柾目,側板	16世紀初頭	382	H17-17
—	SS2	A1	SD14	S041	箸		ヒノキ	横断面四角	16世紀初頭	—	H17-24
—	SS2	A1	SD14	確認調査	不明・竹		アカマツ	直径2cm,芯持ち丸木	16世紀初頭	—	H17-27-1
							タケ亜科(竹類)	幅1.8cm以上あり	16世紀初頭		H17-27-2
603	SS2	A1	SD14	S048	漆器杯		トチノキ		16世紀初頭	375	H17-7
614	SS2	A1	SD15	S097	蓋		ヒノキ	柾目	16世紀初頭	377	H17-10
615	SS2	A1	SD15	S098	蓋		ヒノキ	柾目	16世紀初頭	378	H17-11
613	SS2	A1	SD15	S101	箸		サワラ	横断面扁平四角～ 多角形	16世紀初頭	383	H17-16
—	SS2	A1	SD15	S100	不明		サワラ	板目板状	16世紀初頭	—	H17-23
—	SS2	A1	SD15	S095	折敷		ヒノキ	板目,底板?	16世紀初頭	—	H17-25
—	SS2	A1	SD15	S099	板		ヒノキ	柾目,片面炭化	16世紀初頭	—	H17-26
580	SS2	A1	SD02	S030	折敷		ヒノキ	柾目,底板?	16世紀初頭	385	H17-18
535	SS2	A3	SD02		漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	437	H17-21
581	SS2	A3	SD02	S033	蓋		ヒノキ	削り出し	16世紀初頭	438	H17-22
638	SS2	A4	SD26		折敷		ヒノキ	柾目,側板か?	16世紀初頭	386	H17-19
639	SS2	A4	SD26	S053	曲物	側板	ヒノキ		16世紀初頭	387	H17-20-1
						底板	ヒノキ		16世紀初頭		H17-20-2
						底板木釘	タケ亜科(竹類)		16世紀初頭		H17-20-3
						木釘	タケ亜科(竹類)		16世紀初頭		H17-20-4
—	SS2	B3	SD03	No.52	下駄		イイギリ	半分	16世紀初頭	—	H18-1
860	SS2	B3	SD03	S031	漆器椀		カバノキ属		16世紀初頭	373	H15-1
867	SS2	B3	SD03	S032	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	370	H15-2
866	SS2	B3	SD03	S039	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	361	H15-3
850	SS2	B3	SD03	S041	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	369	H15-4
854	SS2	B3	SD03	S043	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	363	H15-5
855	SS2	B3	SD03	S044	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	356	H15-6
863	SS2	B3	SD03	S046	漆器椀		イイギリ		16世紀初頭	365	H15-7
861	SS2	B3	SD03	S047	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	362	H15-8
859	SS2	B3	SD03	S051	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	357	H15-9
856	SS2	B3	SD03	S072	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	358	H15-10
857	SS2	B3	SD03	S073	漆器椀		モクレン属		16世紀初頭	364	H15-11
862	SS2	B3	SD03	S050	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	360	H17-1
865	SS2	B3	SD03	S049	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	366	H17-2
864	SS2	B3	SD03	S048	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	368	H17-3
851	SS2	B3	SD03	S028	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	371	H17-4
853	SS2	B3	SD03	S027	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	372	H17-5
849	SS2	B3	SD03	S033	箸		ヒノキ	横断面多角形	16世紀初頭	374	H17-6
858	SS2	B3	SD03	S045	漆器椀		トチノキ		16世紀初頭	359	H17-8

第58表　鷺山蝉遺跡出土木製品樹種同定結果（平成15～18年度報告）

木製品 樹種	漆器椀	箸	折敷	蓋	曲物			板		不明			合計
					側板	底板	木釘		板状	加工木	丸木	竹	
トチノキ	9												9
ヒノキ		4	5	3	1	1		1					15
サワラ		1							1				2
アカマツ										1	1		2
タケ亜科(竹類)							2					1	3
合計	9	5	5	3	1	1	2	1	1	1	1	1	31

第59表　鷺山蝉遺跡出土木製品器種ごとの樹種集計（平成17年度報告）

＜平成17年度の樹種同定結果＞

植田弥生（パレオ・ラボ）

鷺山蝉遺跡Ａ１区およびＡ３・Ａ４区出土の戦国時代木製品の樹種同定結果を報告する。

18試料から検出された分類群は、ヒノキ（15点）・サワラ（２点）・アカマツ（２点）・タケ亜科（３点）の４分類群であった（第58・59表）。曲物（H17－20）からは側板・底板・木釘を調べ、不明（H17－27）は異なる2点が含まれている。ヒノキが最も多く、箸・折敷・蓋・曲物・板の複数の木製品で多く使われていた。ヒノキと同属のサワラは、箸・板状から各1点が検出され、ヒノキと同様な製品に利用されている。アカマツは、不明の木製品（H17－14）と芯持ち丸木材（H17－27－１）である。曲物の木釘は、タケ亜科でいわゆる竹類から作られていた。H17－27－２の竹類は破片の幅が1.8cmあることら、それ以上に太い茎を持つ竹類である。以下に同定根拠とした材組織の特徴を分類配列順に記載し、材の3方向の組織写真を提示した（図版47・48）。

（１）アカマツ　Pinus　densiflora　Sieb.　et　Zucc.　マツ科　図版47　１a－１c（H17－14）

垂直と水平の樹脂道があり、早材から晩材への移行はゆるやかで年輪幅は広い針葉樹材である。分野壁孔は窓状、放射組織の上下端に鋸歯状肥厚が顕著な放射仮道管がある。

（２）ヒノキ　Chamaecyparis obtusa Endl. ヒノキ科　図版47　２a－２c（H17－17）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。晩材の量は少なく、分野壁孔は大きくその孔口はやや斜めに細く開いたヒノキ型で、１分野に２～４個あり、おもに２個が水平に整然と配列する。

（３）サワラ　Chamaecyparis pisifera（Sieb. et Zucc.）Emdl. ヒノキ科　図版47　3a・3c（H17－23）4c（H17－16）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。晩材の量は少なく、分野壁孔は孔口が大きく開いたヒノキ型で開孔の幅と壁孔縁の幅がほぼ同じで、１分野におもに２個であるが、ヒノキに比べで配置はやや乱れている分野が多い。

（４）タケ亜科　Gramineae subfam. Bambusoideae　イネ科　図版48　6a・6c（H17－20－３）　7a（H17－27－２）

厚みのある硬質の稈の破片で、稈の中心部は中空である。維管束は不整中心柱で多数が同心円状に均質に配置している。維管束の周りは厚壁の繊維細胞からなる維管束鞘が帽子状にある。稈の外周に位置する維管束鞘は特に厚く発達し、厚壁の繊維細胞だけの塊も島状に密在している。

タケ亜科は、いわゆるタケ類とササ類を含み、稈が堅く太いものであることから形態的に竹類といえるが、種類は特定できない。

（おわりに）

今回の同定結果では、ヒノキが最も多く検出され、箸・折敷・蓋・曲物・板の木製品に多く使用されていたことが判った。周辺遺跡の鷺山仙道遺跡から出土した井戸桶部材にはサワラが多い（（財）岐阜市教育文化振興事業団、2002、2005）。しかし、当遺跡ではヒノキの利用が多く、サワラは箸１点（H17－16）と不明１点（H17－23）だけであった。当遺跡周辺では、井戸桶部材以外の製品にはサワラはそれほど多くは利用されていないで、ヒノキ利用が優勢のようであることが判った。

芯持ち丸木材（H17－27－１）のアカマツは、棒状の木製品ではなく、樹皮が剥がれ落ちた枝材であるならば、アカマツが周辺に生育していたことも考えられる。

＜平成16年度の樹種同定結果＞

植田弥生（パレオ・ラボ）

戦国時代の結桶積み（３段）の井戸SE01（鷺山蝉遺跡Ｂ６区）から出土した井戸桶部材の樹種同定結果を報告する。鷺山蝉遺跡Ｂ６区SE01は、最上段の桶（１段目）は破損または腐朽して残っていないが、２段目（以下は上部桶と記す）とその下の３段目（以下は下部桶と記す）はほぼ形状を留めていた。残存していた上部桶の部材18点と下部桶の部材16点、そして井戸内に落ちていた桶部材３点、合計37点の樹種を調べた。井戸内に落ちていた部材は、最上段の桶部材が落ち込んだ可能性がある。このほかに、鷺山仙道遺跡のＢ１区から出土した井戸枠と思われる材料を調べた。

鷺山蝉遺跡の近隣に位置する鷺山仙道遺跡においては、平成11年度調査区から井戸SE１が、平成12年度調査区から井戸SE２が検出され（（財）岐阜市教育文化振興事業団、2002）、資料の蓄積が行なわれている。井戸の形態や地域内の用材利用と樹種選択性の資料蓄積は、各地でも行なわれつつある。岐阜市においては、鷺山一帯の戦国時代城下町には、３段重ねの結桶積みの井戸が多く、その用材にはサワラが強く選択利用されていた傾向が判りつつある。井戸ごとに資料の蓄積を行なうことは、地域一帯の井戸に関する資料を知るだけではなく、全国的な視点からも井戸の形態と時期変化、そして樹種利用の特徴や変化および地域差などを検討する詳細な資料となることが、期待される。

上部桶の部材18点は、サワラ12点・ヒノキ属6点であった。下部桶の部材16点は、すべてサワラであった（第60表）。井戸桶内部に落ち込んでいて、破損も大きい井戸桶部材３点も、すべてサワラであった。ヒノキ属と同定した試料は、ヒノキまたはサワラであるが、材の保存が悪く同定に重要な分野壁孔の特徴が充分に捉えられなかったものである。

部材の木取りは、上部桶と下部桶の各部材すべてが板目取りであった。しかし、井戸桶内部に落ち込んでいた部材３点は、１点が板目取りで、２点は柾目取りであった。

また、下部桶の部材は上部桶の部材に比べ、全般的に年輪幅は狭く非常に緻密であった。

鷺山仙道遺跡のＢ１区SE01の井戸枠は、細い丸木状のものが多数配列している構造であり、その一部を実体顕微鏡下でまず観察をおこなったが、保存が悪く同定はできなかった。未炭化の状態で、直径８mm前後の丸い茎であり、中心部は空洞、茎には立て筋が明瞭にあり、材組織を構成する細胞は見られなかった。恐らく細い単子葉類の茎部と思われる。

以下に桶部材同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した（図版49）。

（１）サワラ Chamaecyparis pisifera （Sieb. et Zucc.）Endl. ヒノキ科　図版49　１a－１c（内側に落下板材№３）２a（上部桶№1）３a・３c（上部桶№6）４a（下部桶№４）５a・５c（下部桶№７）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材で、晩材部の量は少ない。分野壁孔は同属のヒノキよりやや大型で、孔口は楕円形に大きく開き、孔口の短い幅と壁孔縁の幅はほぼ同じであり、１分野に２～４個、おもに２個が水平に整然と配列する。孔口の開口はヒノキより大きい。

（おわりに）

鷺山仙道遺跡の井戸SE１とSE２ではサワラが選択使用されていた（財団法人岐阜市教育文化振興事業団、2002）ことが知られているが、当遺跡においてもサワラが多く利用されていた事が判った。また、当遺跡の井戸Ｂ６区SX22では、上部桶（上から２段目）より下部桶（３段目：最下段）の方

掲載番号	遺跡	調査区	遺構名		遺物	樹種	木取り	時期	分析No.
—	SS2	B6	SE01	No.1	内側落下板材	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-1
—	SS2	B6	SE01	No.2	内側落下板材	サワラ	柾目	16世紀初頭	H16-2
—	SS2	B6	SE01	No.3	内側落下板材	ネズコ？	柾目	16世紀初頭	H16-3
—	SS2	B6	SE01	No.1	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-4
—	SS2	B6	SE01	No.2	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-5
—	SS2	B6	SE01	No.3	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-6
1014	SS2	B6	SE01	No.4	上部桶	ヒノキ属	板目	16世紀初頭	H16-7
1015	SS2	B6	SE01	No.5	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-8
1016	SS2	B6	SE01	No.6	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-9
—	SS2	B6	SE01	No.7	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-10
—	SS2	B6	SE01	No.8	上部桶	ヒノキ属	板目	16世紀初頭	H16-11
—	SS2	B6	SE01	No.9	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-12
—	SS2	B6	SE01	No.10	上部桶	ヒノキ属	板目	16世紀初頭	H16-13
—	SS2	B6	SE01	No.11	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-14
—	SS2	B6	SE01	No.12	上部桶	ヒノキ属	板目	16世紀初頭	H16-15
—	SS2	B6	SE01	No.16	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-16
—	SS2	B6	SE01	No.17	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-17
—	SS2	B6	SE01	No.18	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-18
—	SS2	B6	SE01	No.19	上部桶	ヒノキ属	板目	16世紀初頭	H16-19
—	SS2	B6	SE01	No.20	上部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-20
—	SS2	B6	SE01	No.22	上部桶	ヒノキ属	板目	16世紀初頭	H16-21
1017	SS2	B6	SE01	No.1	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-22
1018	SS2	B6	SE01	No.2	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-23
1019	SS2	B6	SE01	No.3	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-24
—	SS2	B6	SE01	No.4	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-25
—	SS2	B6	SE01	No.5	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-26
—	SS2	B6	SE01	No.6	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-27
—	SS2	B6	SE01	No.7	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-28
—	SS2	B6	SE01	No.8	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-29
—	SS2	B6	SE01	No.9	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-30
—	SS2	B6	SE01	No.10	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-31
—	SS2	B6	SE01	No.11	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-32
—	SS2	B6	SE01	No.12	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-33
—	SS2	B6	SE01	No.13	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-34
—	SS2	B6	SE01	No.14	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-35
—	SS2	B6	SE01	No.15	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-36
—	SS2	B6	SE01	No.16	下部桶	サワラ	板目	16世紀初頭	H16-37
—	SS2	A3	SE05	No. 1なし	井戸枠	スギ	板目	16世紀初頭	H18-2
—	SS2	A3	SE05	No. 1内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-3
—	SS2	A3	SE05	No. 1破片	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-4
—	SS2	A3	SE05	No. 2内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-5
—	SS2	A3	SE05	No. 2破片	井戸枠	針葉樹	板目	16世紀初頭	H18-6
—	SS2	A3	SE05	No. 3内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-7
—	SS2	A3	SE05	No. 4内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-8
—	SS2	A3	SE05	No. 7内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-9
—	SS2	A3	SE05	No. 8内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-10
—	SS2	A3	SE05	No. 9内	井戸枠	スギ	板目	16世紀初頭	H18-11
—	SS2	A3	SE05	No. 10なし	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-12
—	SS2	A3	SE05	No. 11内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-13
—	SS2	A3	SE05	No. 12内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-14
—	SS2	A3	SE05	No. 13内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-15
—	SS2	A3	SE05	No. 14内	井戸枠	スギ	板目	16世紀初頭	H18-16
—	SS2	A3	SE05	No. 15内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-17
—	SS2	A3	SE05	No. 16内	井戸枠	スギ	板目	16世紀初頭	H18-18
813	SS2	A3	SE05	No. 17内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-19
—	SS2	A3	SE05	No. 17破片	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-20
814	SS2	A3	SE05	No. 18内	井戸枠	スギ	板目	16世紀初頭	H18-21
—	SS2	A3	SE05	No. 19内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-22
815	SS2	A3	SE05	No. 20内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-23
—	SS2	A3	SE05	No. 21内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-24
—	SS2	A3	SE05	No. 22内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-25
—	SS2	A3	SE05	No. 23内	井戸枠	サワラ	板目	16世紀初頭	H18-26
—	SS2	A3	SE05	No. 無しA	井戸枠	ヒノキ属	柾目	16世紀初頭	H18-27
—	SS2	A3	SE05	No. 91	井戸枠	ヒノキ属	斜め柾目	16世紀初頭	H18-28

第60表　鷲山蝉遺跡出土井戸側材樹種同定結果（平成16・18年度報告）

が、年輪幅の狭い材が使われていた。年輪幅の緻密な材の方が、強度があり重圧に耐え易いと推測され、意図的にそのような材を下部桶に使用していたのかも知れない。また、上部桶と下部桶は、ほとんどが板目取りの板材であったことから、規格が統一されていた可能性もある。

〔引用文献〕
財団法人 岐阜市教育文化振興事業団 2002 『鷺山仙道遺跡－岐阜市鷺山・下土居土地区画整理事業における太平町西郷線建設に伴う緊急発掘調査－』

＜平成18年度の樹種同定結果＞

野村敏江・植田弥生（パレオ・ラボ）

鷺山蝉遺跡から出土した中世の井戸（鷺山蝉遺跡A3区SE05）の枠材23点と下駄1点（鷺山蝉遺跡B3区SD03 No.52）の樹種について同定を行ない、先立って行なわれた岐阜城千畳敷遺跡と鷺山仙道遺跡との結果とも照らし合わせて報告を行なう。

方法としては材組織の切片採取にあたっては木取りを観察したのち、材の組織標本の作成のため片刃の剃刀を用いて材の横断面（木口）・接線断面（板目）・放射断面（柾目）の３方向を薄くそぎ取ってスライドガラスの上に並べ、ガムクロラールで封入し永久プレパラートを作成した。作成したプレパラートは光学顕微鏡下で観察した。なお、同じ試料番号でも異なる袋（例 ： No.１なし、No.１「内、No.１破片など）に分割されていたNo.１、No.２、No.17はそれぞれを別試料として扱い同定を行なった。

同定を行った試料のうち、各分類群を代表する試料については写真図版（図版48・50）を添付し、その材組織を結果に記載した。

樹種同定の結果、井戸枠27試料のうち、サワラがもっとも多く19点検出された（第60表）。それに続きスギ５点、ヒノキ属が2点検出された。また、保存状態が悪いため、針葉樹の同定のポイントとなる放射断面（柾目と同義）の分野壁孔の観察を行なえず、科以下の同定を行なうことができなかった針葉樹が1点認められた。なお、木取りはほぼ板目で構成されており、一部柾目、斜め柾目のものはヒノキ属であった。下駄1点はイイギリであった。なお、同定された樹種の一覧は表59に示した。

次に同定された樹種の記載を行う。

（１）スギ　Cryptomeria japonica （L.fil.）D.Don　スギ科　図版50（１a－１c No.14内 井戸枠）

仮道管・樹脂細胞・放射柔細胞からなる針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で、放射組織は２～15細胞高になる。放射断面（柾目）の放射組織と仮道管との間の分野壁孔は孔口の大きく開いたスギ型で、１分野に２～３個存在する。スギは高さ30～40mになる常緑高木で、自生状態では山地の沢沿いに多く生育する。材は比較的軽軟で切削などの加工は容易であり、乾燥も容易で割裂性が大きい。

（２）サワラ　Chamaecyparis pisifera （Sieb. et Zucc.） Endl.　ヒノキ科　図版50（２a－２c No.13内 井戸枠）

仮道管・放射柔組織・樹脂細胞からなる針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やか、放射組織は２～15細胞高になる。放射断面の放射組織と仮道管との間の分野壁孔は孔口のやや開いたスギ型で

あるがスギよりも孔口縁が広く、1分野に2～3個存在する。高さ30mになる常緑高木で岩手県以南から四国を除き九州まで分布する。山の中腹以下の渓流沿いなどに多い。材は軽軟なため、切削などの加工はきわめて容易で、乾燥も容易で割裂性は大きく、水湿によく耐えるので様々な用途がある。

（3）ヒノキ属　Chamaecyparis　ヒノキ科 図版50（3a－3c No.91内 井戸枠）

仮道管・樹脂細胞・放射柔細胞からなる針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、放射組織は2～10細胞高になる。放射断面の放射組織と仮道管との間の分野壁孔は小型で、丸いヒノキ型であり1分野に2～3個存在する。しかし、ヒノキ属と同定した2試料は保存が悪いため、分野壁孔の開孔部が不明瞭で孔口の狭いヒノキと、広く開くサワラとの識別ができなかった試料である。日本に自生するヒノキ属にはヒノキとサワラの2種がある。ヒノキは常緑高木で高さ30mになり、本州（福島県以南）・四国・九州（屋久島まで）に分布し、山地に生育する。切削などの加工は容易で割裂性も大きい。心材の保存性は著しく高く狂いは少ない。

（4）イイギリ　Idesia polycarpa Maxim.　イイギリ科 図版48（4a－4c No.52下駄）

やや角張った中庸から小型の道管が、単独ないし放射方向に2～5個複合して散在する散孔材である。放射組織は異性で2列のものが多く、4～30細胞高である。道管は単穿孔、側壁には交互壁孔があり、道管と放射組織には大きく開いた壁孔が存在する。イイギリは高さ15mに達する落葉高木で、本州・四国・九州・琉球の山地に分布する。材は軽軟で耐久性は低い。

（考察）

16世紀後半の岐阜城千畳敷遺跡での井戸遺構の樹種同定（植田2000）では井戸土台木からアカマツやクロマツが、桶部材からはサワラが優勢でそれにヒノキとヒノキ属の数点を伴って同定されている。同じく、戦国時代にあたる鷺山仙道遺跡での井戸遺構の樹種同定（植田2002）では19点の桶部材が全てサワラであったこと、それらの木取りの構成が柾目取り15点、板目取り4点であったことが報告されている。今回、これら2遺跡と当遺跡の出土樹種傾向はほぼ一致しているが、スギが出現したことと木取りが板目取りのものが主であったことが異なっていた。こうした差異を除くと、全体的な樹種構成としてはサワラが卓越することはこれら3遺跡の特徴を示しているといえる。このことは、植田（2002）が指摘したように、鈴木（2000）が述べている木材利用文化圏において当地域はサワラ文化圏の西方に位置することを示しており、今回このことを改めて確認することができたといえる。

なお下駄材については、下駄に使用される材は選択性が低く、広葉樹や針葉樹を含めてさまざまな樹種が利用されている（島地・伊東 1988）。また、島地・伊東（1988）の遺跡出土事例では示されていないが、イイギリはキリの代用として下駄に利用されることが知られている（平井 1996）。このことからも、当遺跡出土の下駄は、下駄材として適材の一種を利用していたと考えられる。

［引用文献］

島地謙・伊東隆夫編（1988）「日本の遺跡出土木製品総覧」　296p 雄山閣

鈴木三男（2000）第6章 木材「考古学と植物学」151－187 同成社

平井信二（1996）イイギリ「木の大百科」485－486 朝倉書店

植田弥生（2000）岐阜城千畳敷遺跡井戸遺構の樹種同定.「千畳敷Ⅲ」189－193（財）岐阜市教育文化振興事業団

植田弥生（2002）出土木製品の樹種同定.「鷺山仙道遺跡」135－141（財）岐阜市教育文化振興事業団

B. 岐阜市鷺山蝉遺跡出土木製品の樹種調査結果

（株）吉田生物研究所

1．試料

試料は岐阜市鷺山蝉遺跡から出土した遊戯具1点である。

2．観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3．結果

樹種同定結果（針葉樹1種）と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

（1）ヒノキ科アスナロ属（Thujopsis sp.）（図版45）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

第3節　漆膜構造調査

A. 岐阜市鷺山蝉遺跡出土漆器の塗膜構造調査

（株）吉田生物研究所

1．はじめに

岐阜市に所在する鷺山蝉遺跡から出土した漆器20点について、その製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

2．調査資料

調査した資料は、第61表に示す中～近世の漆器20点である。その内訳は地色で分類すると、内外とも黒色は15点、内面赤色外面黒色4点、内外とも赤色は1点である。

3．調査方法

第61表の資料本体の内外面から数mm四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した（図版53～56）。

4．断面観察結果

塗膜断面の観察結果を第62表に示す。

塗膜構造：下層から下地、漆層という構造をとる。

下地：20点中、19点は柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地で、1点（No.11）は漆に砥の粉を混和した砥の粉下地であった。

漆層：下地の上に地色の漆層が１～２層、その上に文様が施される場合にはさらに赤色漆が１層重なる、という比較的単純な漆層のものが19点、下地の上に複数層の漆層が重なるものが１点（No.11）認められた。

前者の内訳には、地色が黒色のものは透明漆1層のみ、地色が赤色のものは赤色漆1層のみが2点（No.13，15）と透明漆の上に赤色漆が重なるものが１点（No.18）、赤色漆の上に透明漆が重なるものが１点（No.19）である。No.19には、さらにその上に複数層の透明漆が認められた（写真No.43）が、これは何らかの漆膜の付着と判断する。

後者の１点は砥の粉下地の上に複数層の漆層が重なる。２～３回の塗り直しの痕跡と判断する。

顔料：黒色の顔料として油煙の使用（No.11内外高台内、No.19）と、赤色顔料として朱の使用が認められた。

No.	報告番号	品名	内面の地色	内面の文様	外面の地色	外面の文様	その他	整理No.	保存処理No.
1	855	漆器椀	黒	○	黒	○		356	1
2	859	漆器椀	黒	－	黒	○		357	2
3	856	漆器椀	黒	－	黒	○		358	3
4	862	漆器椀	黒	○	黒	○		360	4
5	866	漆器椀	黒	○	黒	○		361	5
6	861	漆器椀	黒	－	黒	○		362	6
7	854	漆器椀	黒	－	黒	○		363	7
8	857	漆器椀	黒	－	黒	○		364	8
9	863	漆器椀	黒	○	黒	○		365	9
10	865	漆器椀	黒	○	黒	○		366	10
11	852	漆器椀	赤	－	赤	－	高台内は黒色	367	11
12	864	漆器椀	黒	○	黒	○		368	12
13	850	漆器椀	赤	－	黒	－		369	13
14	867	漆器椀	黒	○	黒	－		370	14
15	851	漆器椀	赤	－	黒	－		371	15
16	853	漆器椀	黒	－	黒	－		372	16
17	860	漆器椀	黒	○	黒	○		373	17
18	603	漆器椀	赤	－	黒	○		375	19
19	603	漆膜	赤	－	黒	不明	木胎欠損	375	20
20	858	漆器椀	黒	－	黒	○		359	21

第61表　漆膜構造分析調査試料

No.	報告番号	器種	部位	写真No.	塗膜構造(下層から)			
					下地		漆層構造	顔料
					膠着剤	混和剤		
1	855	漆器椀	内面	1	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
			外面	2	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
2	859	漆器椀	内面	3	柿渋	木炭粉	透明漆	―
			外面	4	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
3	856	漆器椀	内面	5	柿渋	木炭粉	透明漆	―
			外面	6	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
4	862	漆器椀	内面	7	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
			外面	8	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
5	866	漆器椀	内面	9	柿渋	木炭粉	透明漆※	―
			外面	10	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
6	861	漆器椀	内面	11	柿渋	木炭粉	透明漆	―
			外面	12	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
7	854	漆器椀	内面	13	柿渋	木炭粉	透明漆	―
			外面	14	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
8	857	漆器椀	内面	15	柿渋	木炭粉	透明漆	―
			外面	16	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
9	863	漆器椀	内面	17	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
			外面	18	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
10	865	漆器椀	内面	19	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
			外面	20	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
11	852	漆器椀	内面	21, 22	漆	砥の粉	黒色漆2層/赤色漆2層/透明漆1層/赤色漆	油煙、朱
			外面	23, 24	漆	砥の粉	黒色漆2層/赤色漆1～2層/透明漆1層/赤色漆	油煙、朱
			高台内	25, 26	漆	砥の粉	黒色漆2層/透明漆1～2層/透明漆1層	油煙
12	864	漆器椀	内面	27	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
			外面	28	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
13	850	漆器椀	内面	29	柿渋	木炭粉	赤色漆	朱
			外面	30	柿渋	木炭粉	透明漆	―
14	867	漆器椀	内面	31	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
			外面	32	柿渋	木炭粉	透明漆	―
15	851	漆器椀	内面	33	柿渋	木炭粉	赤色漆	朱
			外面	34	柿渋	木炭粉	透明漆	―
16	853	漆器椀	内面	35	柿渋	木炭粉	透明漆	―
			外面	36	柿渋	木炭粉	透明漆	―
17	860	漆器椀	内面	37	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
			外面	38	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
18	603	漆器椀	内面	39	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
			外面	40	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱
19	603	漆膜	内面	41	柿渋	木炭粉	赤色漆/透明漆	朱
			外面	42	柿渋	木炭粉	黒色漆1層/透明漆2層	油煙
20	858	漆器椀	内面	44	柿渋	木炭粉	透明漆	―
			外面	45	柿渋	木炭粉	透明漆/赤色漆	朱

※試料No. 5内面は文様部ではなく黒色部分から試料を採取した

第62表　断面観察結果

5．摘要

岐阜市鷺山蝉遺跡から出土した、内外面黒色椀15点、内面赤色外面黒色椀4点、内外面赤色椀1点の合計20点について塗膜構造調査を行った。

下地は炭粉渋下地19点と砥の粉下地1点が認められた。砥の粉下地の資料には複数回の塗り直しの痕跡が認められた。炭粉渋下地の上には、地色の漆層1層のみのものが17点、複数層の漆層が重なるものが2点あった。黒色顔料としては油煙が、赤色顔料としては朱が使用された。

B．巡方の表面観察

（株）吉田生物研究所

1．はじめに

岐阜市に所在する鷺山蝉遺跡から出土した1の青銅製巡方の表面には、やや光沢のある黒色の膜状の付着物が観察された。この付着物について以下に報告する。

2．調査資料および調査方法

調査した資料は、やや光沢を有する黒色の膜状物質である。調査方法としては、資料本体の内外面から数mm四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、断面の剥片プレパラートを作成した。これに落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

3．断面観察結果

膜様物の断面の観察結果を示す（図版56）。

土壌と黒色の膜様物質、青銅の錆が層状に重なる様子が観察された。黒色の物質はほとんど厚みを持たず、やや波打っている。また部分的に途切れている様子もみられた。

4．摘要

岐阜市の鷺山蝉遺跡から出土した膜様物の断面を観察した。光沢のある黒色の部分から資料を採取したところ、黒色で極めて薄くやや波打つ膜様物が認められた。古代の帯金具の一種である巡方には、黒漆が施されていたことが分かっている。よって今回認められた黒色の物質は、漆である可能性が極めて高い。

第4節　土器付着物の材質分析

藤根　久（パレオ・ラボ）

1．はじめに

鷺山蝉遺跡の調査では、戦国時代の土師器皿間ににぶい黄褐色物が挟まって付着していた。また、9世紀初めの須恵器内面に黒色の漆質物が付着していた。ここでは、これら付着物の材質を検討するために顕微型による赤外分光分析（FT－IR分析）を行った。

2．試料と方法

試料は、鷺山蝉遺跡B6区SK31内から出土した土師器皿間に挟まっていたにぶい黄褐色付着物（試料No.１）と、鷺山蝉遺跡F2区SK95から出土した須恵器内面の黒色付着物（試料No.２）である（第63表、図版56）。

試料No.	付着器種	付着物の色調	遺構	整理No.	調査区	時 期
1	土師器皿	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	SK31	2083	B5	戦国時代
2	須恵器	黒色付着物（2.5Y 2/1）	SK95	782	F2	9世紀初め

第63表　付着物の材質分析を行った試料とその詳細

分析は、これら付着物を同定するために顕微型の赤外分光分析を行った。各分析の試料採取と分析方法は以下の通りである。

赤外分光分析の測定試料は、付着物表面において手術用メスなどを用いて0.2mm角程度を薄く削り取った。採取した試料は、押しつぶして厚さ１mm程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に挟んで、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光㈱製FT/IR－410、IRT－30－16）を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

なお、試料No.1は、鷺山蝉遺跡B6区SK31内から出土した土師器皿間に挟まっていたにぶい黄褐色付着物であるが、実体顕微鏡観察において付着物表面には複数条におよぶ繊維痕が確認された。そのため、５mm角破片をエポキシ樹脂で包埋して光学顕微鏡観察用の薄片を作成した。

3．結果および考察

第143図に、生漆とともに各試料の赤外吸収スペクトル図を示す。縦軸は透過率（%T）、横軸が波数（Wavenumber （cm－１）；カイザー）である。なお、スペクトルは、ノーマライズしてあり（よって縦軸は透過率（%R）と表示）、吸収スペクトルに示した数字は、生漆の赤外吸収位置を示す。第64表には、生漆の吸収位置とその強度を示す。

吸収No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
位置(cm-1)	2927.41	2856.06	1716.34	1621.84	1455.99	1344.14	1272.79	1211.08	1062.59	800.31	727.03
強度	81.6891	86.4500	89.3721	90.9537	89.4537	91.3015	89.4162	90.1583	91.0574	96.7658	96.3414

第64表　生漆の吸収位置とその強度

その結果、いずれの付着物も赤外線吸収位置は概ね生漆の吸収位置と一致していた。このことから、これらの付着物は漆と同定される。なお、試料No.1吸収位置1030 （cm－１）付近に大きな吸収が見られるが、劣化によりゴム質が卓越した結果である。

鷺山蝉遺跡Ｂ６区SK31内から出土した土師器皿間に挟まっていたにぶい黄褐色付着物（試料No.１）は、その表面（上面および下面ともに）には繊維状痕が見られたが、光学顕微鏡による薄片観察では、同様に繊維痕が見られたことから（図版1－1d）、繊維が混和している。

一方、鷺山蝉遺跡Ｆ２区SK95から出土した須恵器内面に付着する黒色付着物（試料No.２）は、墨炭などが混入された黒漆であることから、容器あるいはパレットとして利用されていたものと考えら

れる。

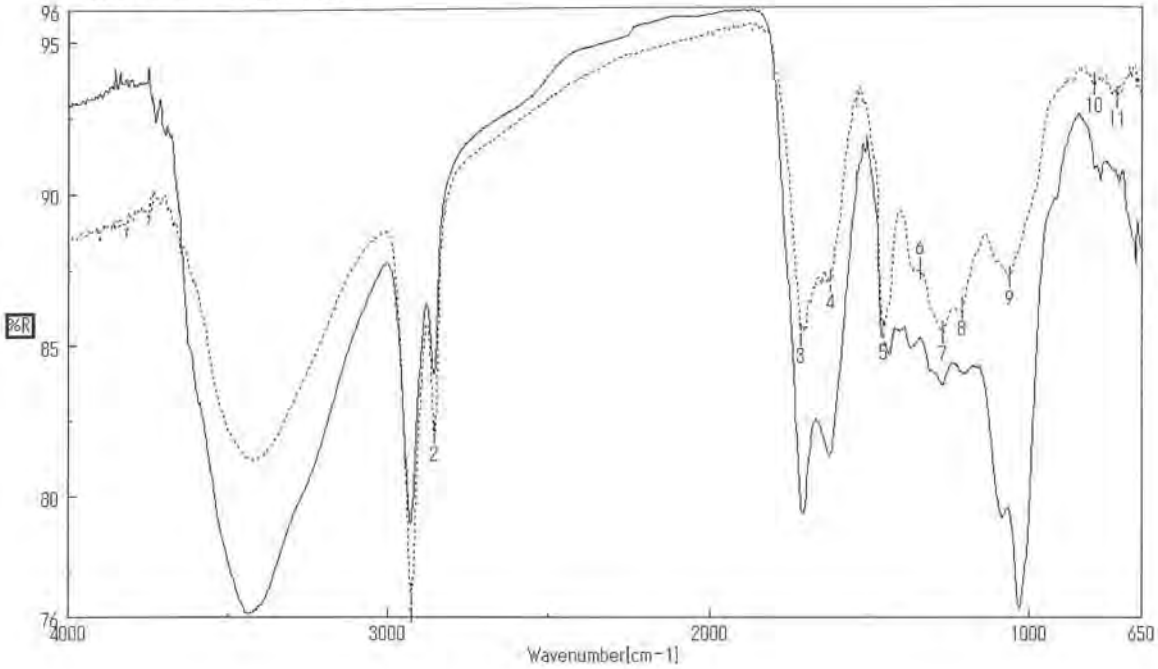
4. おわりに

鷺山蝉遺跡B６区SK31内から出土した土師器皿間のにぶい黄褐色付着物、および鷺山蝉遺跡F2区SK95から出土した須恵器内面の黒色付着物は、赤外分光分析により漆と同定された。

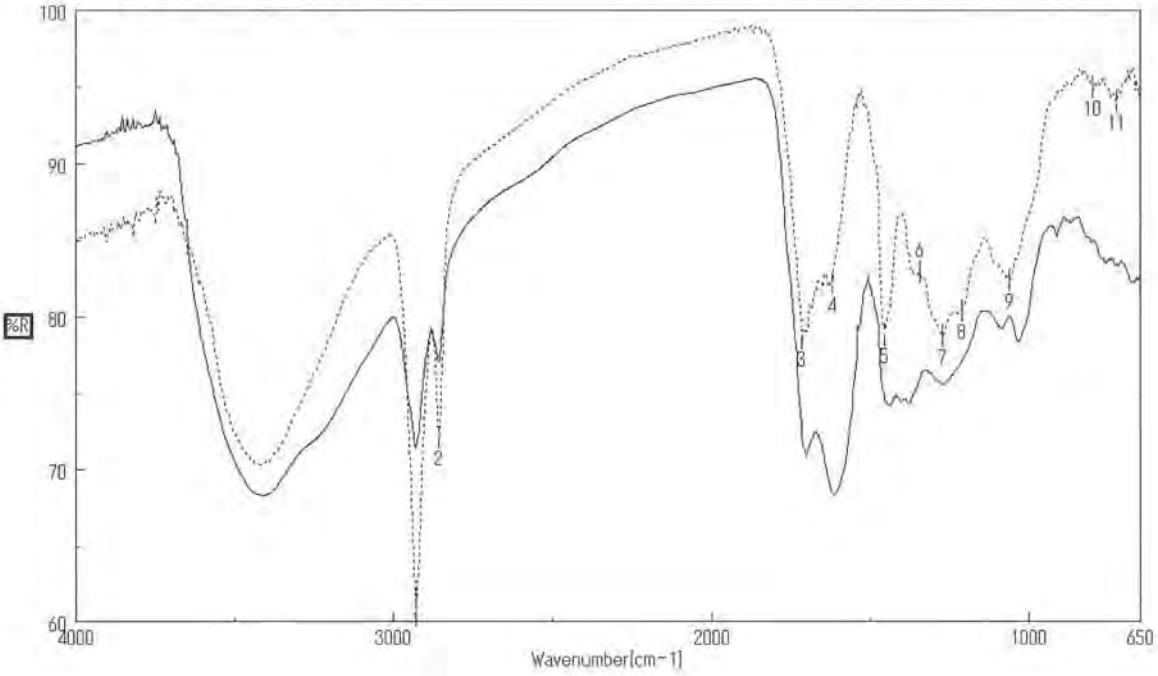
鷺山蝉遺跡B６区SK31内から出土した土師器皿間に挟まっていたにぶい黄褐色漆は、その表面（上面および下面ともに）には繊維状痕が見られ、光学顕微鏡による薄片観察においても確認されたことから、繊維が混入していたことが確認された。

一方、鷺山蝉遺跡F２区SK95から出土した須恵器内面に付着する黒色付着物は、墨炭などが混入された黒漆であることから、容器あるいはパレットとして利用されていたものと考えられる。

[SK31付着物]



[SK95付着物]



（縦軸は透過度（%T）、横軸が波数（Wavenumber（cm-1）；カイザー）
［上段］　SK31出土土師器皿間に挟まれていた付着物
［下段］　SK95出土須恵器内面付着物

第143図　付着物の赤外分光スペクトル図

第５節　出土動物遺体の同定

黒澤 一男（パレオ・ラボ）

１．はじめに

岐阜県岐阜市の鷺山蝉遺跡より動物骨・貝類が出土した。以下にその同定結果を記す。なお同定に際して、国立歴史民俗博物館の西本研究室にて所蔵されている骨格標本を観察させていただいた。また同博物館の西本豊弘教授には試料の一部についてご教授いただいた。この場をお借りして感謝の意を表する。

２．出土動物遺体

鷺山蝉遺跡Ａ１区SD14からは、貝類ではアカニシが検出された。また骨については、ヒトとイヌ、ウシが検出された。以下に遺構ごとの検出状況について述べる（第65表、図版51・52）。

鷺山蝉遺跡Ｂ８区SD86からはウシの肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中足骨、基節骨、中節骨、肋骨が出土している。いずれの骨も脆弱で、骨幹部のみの検出がほとんどであり、骨端部の検出された橈骨では骨幹と骨端は癒合しておらず、化骨化が完成していない。これらのことから子ウシと考えられる。骨端の化骨化の進行状況により年齢推定をおこなうことができ、今回の試料においては橈骨と中足骨の遠位端が化骨化していないことが確認されたことから、２歳以下の子ウシであると推定できる。出土状況から、前肢と胴体は切り離されていたものと考えられ、検出されていない頭蓋骨や後肢骨も切り離され、別にされたと考えられる。

地区	遺構		種名	部位	左右	状態	備考	試料番号
B8区	SD86		ウシ	上腕骨	左	骨幹部		No. 1
				肋骨		破片		No. 2
				橈骨	右	骨幹～遠位部	骨端部は未融合	No. 3
				尺骨	右	近位～骨幹部		No. 4
				上腕骨	右	骨幹～遠位部		No. 5
				肩甲骨	左			No. 6の1
					右			No. 6の1
				橈骨	左	骨幹～遠位部		No. 6の2
				手根骨			3個	
				肋骨			多数	No. 7
				不明		破片		No. 7
				不明		破片		No. 8
				肋骨		破片		No. 9
				基節骨		近位部破片		No. 9の下
						遠位部破片		
				肋骨		破片		
				不明		破片		No. 10
				尺骨	左	骨幹部		No. 11
				中足骨	左	遠位部		No. 12
				基節骨		完存	2個，遠位部未融合	
				中節骨		骨幹～遠位部	2個	
				肋骨		破片		(No. なし)
				不明		破片		
B3区東	SD03	上層	二枚貝			破片		
		下層	イヌ	頭蓋骨		破片	上顎骨(左)，切歯骨含む破片多数	No. 25
			ヒト	頭蓋骨		破片		No. 42
				踵骨	左	外側面欠損		No. 56
		下層北半	イヌ	頭蓋骨		破片	上顎骨(右)含む破片多数	
				上顎第3小臼歯	左			
				上顎第1大臼歯	左			
		下層南半	ヒト	椎骨		破片		
A1区	SD14		アカニシ					No. 45

第65表　鷺山蝉遺跡出土動物遺体同定結果

鷲山蝉遺跡B３区SD03（蝉土手城館跡堀）からはヒトの頭蓋骨、椎骨と踵骨、イヌの頭蓋骨が検出されたいずれの骨も破片化しており、保存状態が悪く、骨の内部はビビアナイト化し、暗青灰色になっている。ヒトの頭蓋骨は数cm程度の破片となっており、骨表面は変質している。椎骨や踵骨なども同様に破片であるが、踵骨はおおよその大きさのわかる程度は残存しており、その大きさから考えると、成人の骨であると考えられる。イヌは、左右上顎骨、切歯骨、左上顎第４小臼歯、左上顎第1大臼歯が検出されている。重複する部位がないことや、左右の上顎骨の大きさがほぼ同じであることから同一個体と考えられる。

鷲山蝉遺跡Ａ１区SD14からはアカニシが検出されている。アカニシは水深30m以浅の沿岸域に生息し、食用とされている。各地の遺跡でも検出されており、その大型の貝殻から食用のみならず、腕輪などの加工用にも用いられている。

３．おわりに

鷲山蝉遺跡から検出された動物遺体には、ヒト、ウシやイヌ、アカニシが含まれていた。いずれの試料についても状態が悪く、詳細な検討にはいたらなかったが、検出された人骨は成人のものと考えられる。

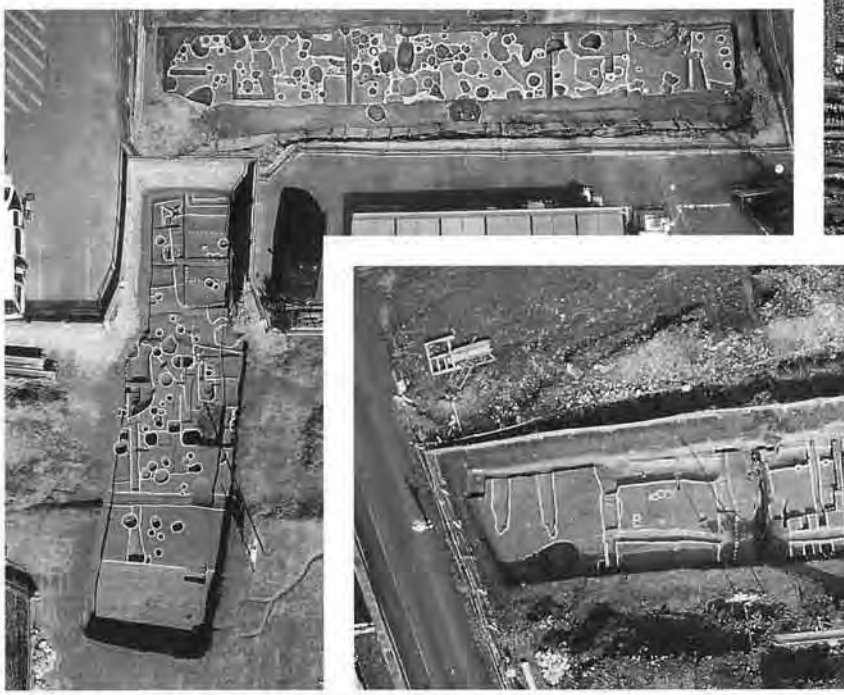
図版 1

鷺山蝉遺跡Ａ１～４区全景（モザイク写真、上方が北）

図版 2

鷲山蝉遺跡B1～8区全景（モザイク写真、上方が北）

鷺山蝉遺跡D1～4区全景（モザイク写真、上方が北）



鷺山蝉遺跡F2・3区全景（モザイク写真、上方が北）

鷺山蝉遺跡E1区全景（モザイク写真、上方が北）

鷺山蝉遺跡F1区全景（上方が北）

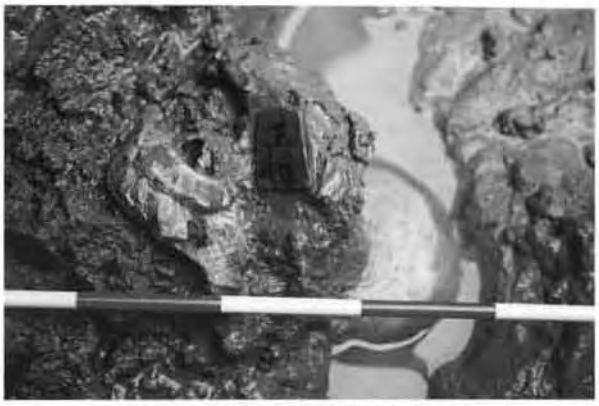
図版 4

鷺山蝉遺跡C1・2区全景(モザイク写真、上方が北)

鷺山仙道遺跡B1区全景（上方が北）

鷺山仙道遺跡A1・2区全景(モザイク写真、上方が北)

A1区SD14・15、SS01通路完掘状況（東から）



A1区SD14将棋駒出土状況（南から）

A1区SD15断面（北から）

A1区SD14断面（南から）

A1・3区SD01掘削状況（北から）

A3区SD28掘削状況（東から）

A1・3区SD02完掘状況（西から）

図版6　鷺山蝉遺跡A区

A4区SD26、SX28石積、SS02通路完掘状況(北から)

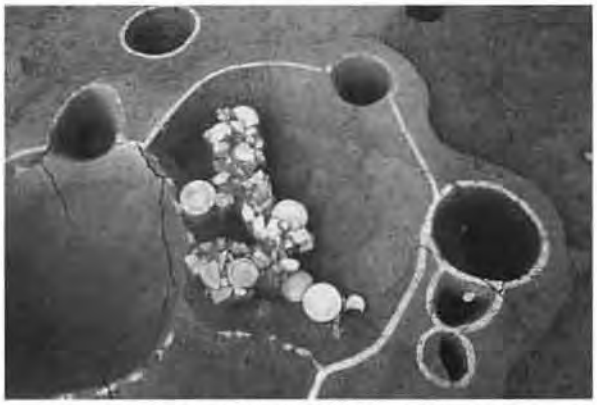
A4区SX28石積完掘状況（北から）

A4区SD26曲物出土状況（東から）

A1・2区南側完掘状況（西から）

A3・4区北側完掘状況（北から）

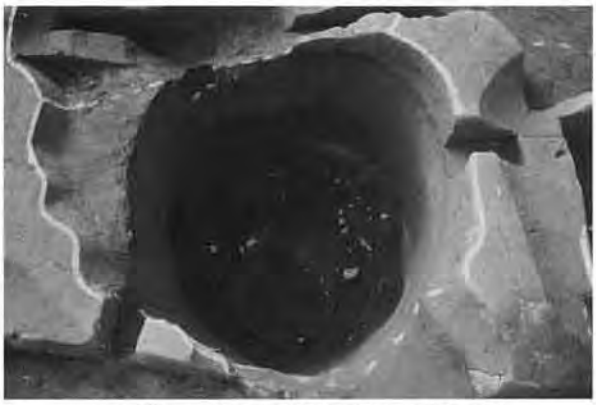
A3区SX22落ち込み遺物出土状況（西から）



A3区SK37遺物出土状況（南から）

A2区SK07犬形土製品出土状況（東から）

A3区SK35鉄製品出土状況（南から）



A3区SE05井戸側検出状況（東から）

A1区SE01完掘状況（南から）

A3区SE05井戸側内掘削状況（北から）

A1区SE02完掘状況（南から）

A3区SE05井戸側内完掘状況（北から）

A1区SE03完掘状況（南から）

図版8　鷺山蝉遺跡B区

B8区下層遺構面完掘状況（北から）

B8区SX33土器集積出土状況（東から）

B6区SD24完掘状況（南西から）

B7区SD30完掘状況（北東から）

B2区北側完掘状況（北から）

B4区SD53ロクロ土師器出土状況（西から）

B7区SD21・27完掘状況（東から）

B7区SD21断面（東から）

B1区SD12・14完掘状況（北東から）

B2区SD01完掘状況（南から）

B6区SD77・78完掘状況（西から）

B4区北側完掘状況（東から）

B4区南側完掘状況（南から）

B1区完掘状況（南から）

B3区東側完掘状況（北東から）

図版10　鷺山蝉遺跡B区

B3区SD03完掘状況（北から）

B3区SD03石出土状況（南から）

B3区SD03古瀬戸小壺出土状況（北から）

B3区SD03漆器椀出土状況（北から）

B3区SD03漆器椀出土状況（東から）

B3区SD03漆器椀出土状況（東から）

B4区SD32完掘状況（東から）

B4区SD32断面（西から）

B8区SA01土塁、SD85完掘状況（北から）

B8区SA01土塁、SD85完掘状況（東から）

B8区SA01土塁断面（西から）

B8区SD85断面（西から）

B5区SX21石積施設掘削状況（西から）

B5区SX21石積施設残存状況（南から）

B5区SX21石積施設完掘状況（西から）

図版12　鷺山蝉遺跡B区

B2区SD04遺物出土状況（東から）

B3区SD07掘削状況（南から）

B6区SD22、SX20石積掘削状況（西から）

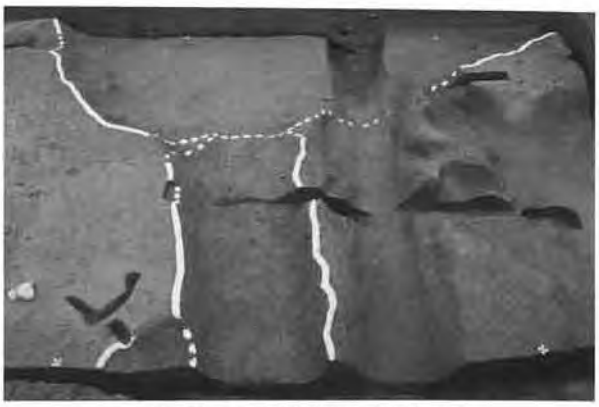
B5・6区SK31遺物出土状況（南から）

B6区SK33遺物出土状況（西から）

B6区SE01井戸側検出状況（東から）

B6区SE01井戸側内完掘状況（東から）

C1区SX02自然流路掘削状況（北から）



C2区SD16完掘状況（西から）

C2区SK10完掘状況（西から）

C1区SD02掘削状況（東から）

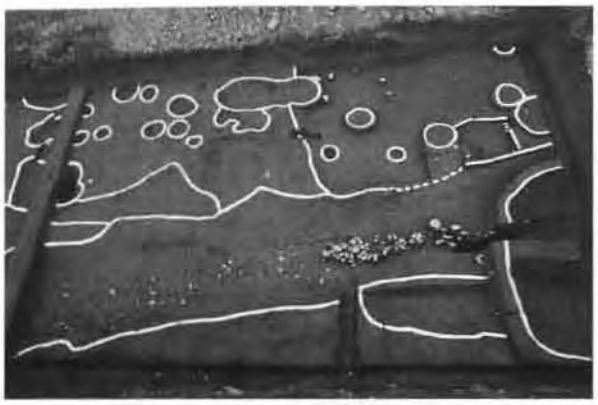
C1区SX03土師器皿集積出土状況（南から）

C2区SD17完掘状況（東から）

C2区SD17遺物出土状況（北から）

図版14　鷺山蝉遺跡D区

D1区SK08遺物出土状況（南から）



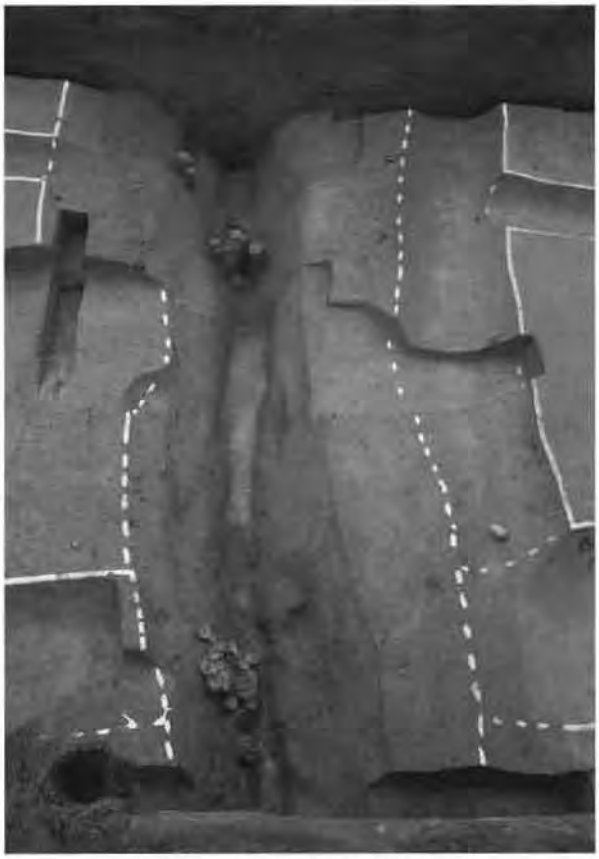
D3区SD01、SB01完掘状況（南から）

D2区SD01完掘状況（東から）

D4区SD16完掘状況（南から）

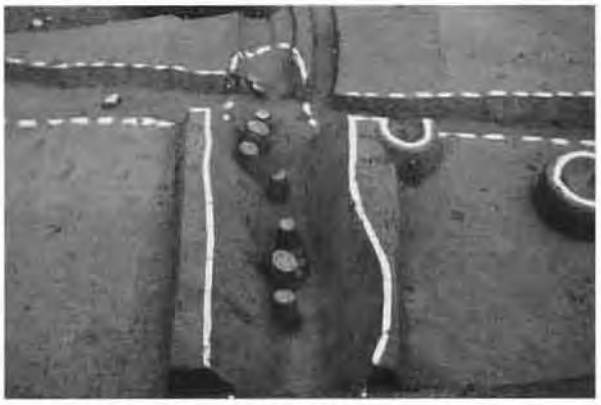
D1区SK05掘削状況（南から）

D4区柱穴列完掘状況（西から）

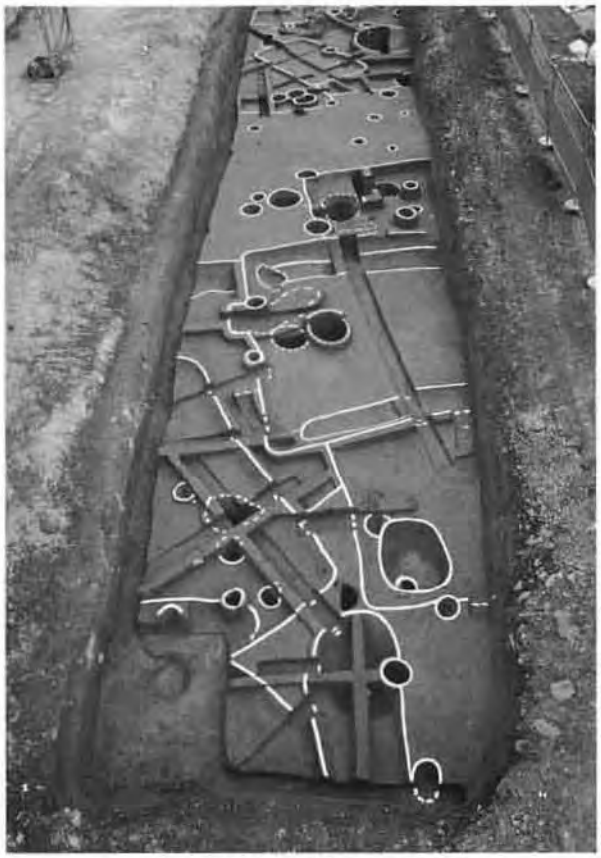


E1区SD03完掘状況（北から）

E1区SD03断面、遺物出土状況（南から）

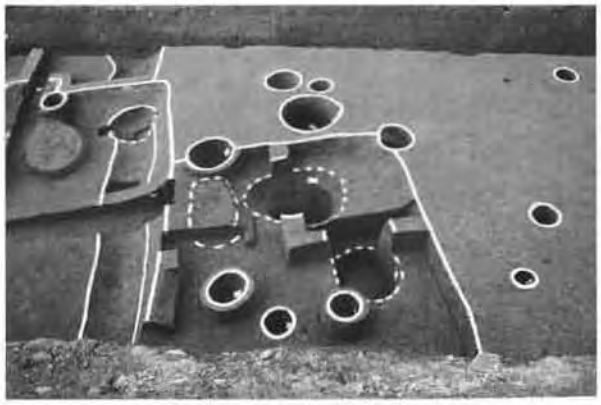


E1区SD08遺物出土状況（南から）



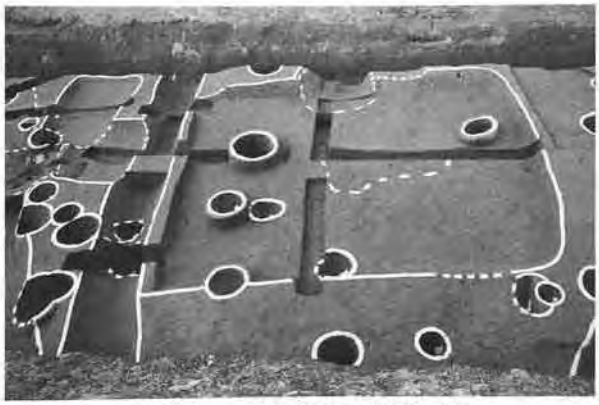
F1区西側完掘状況（西から）

F1区SB01完掘状況（南から）



F1区SB02完掘状況（南から）

図版16　鷺山蝉遺跡F区

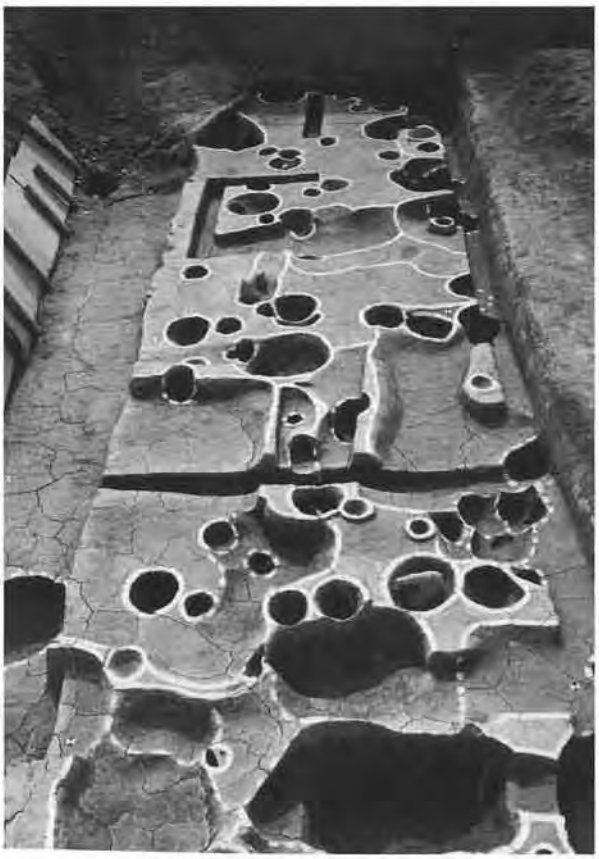


F1区SB03完掘状況（南から）

F1区SB04、SK08完掘状況（南から）

F1区SB07・11完掘状況（東から）

F1区SB04カマド掘削状況（西から）



F2区西側完掘状況（東から）

F2区SB61～64完掘状況（西から）

F2区SD40、SK78掘削状況（東から）

F2区巡方出土状況（東から）

F2区Pit319遺物出土状況（南から）

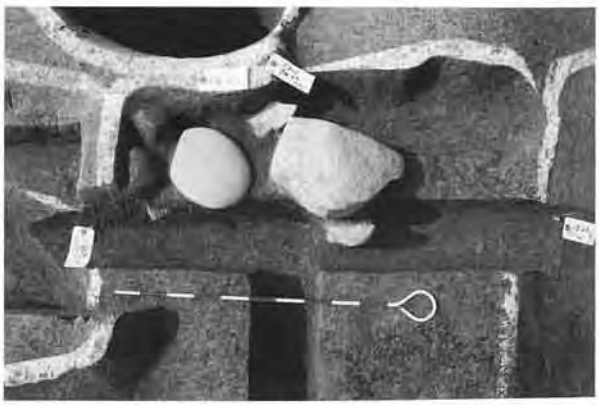
F2区SK98遺物出土状況（南から）

F2区Pit319掘削作業状況（西から）

F3区完掘状況（北から）

F3区SB23完掘状況（東から）

F3区SK35完掘状況（北から）


F3区SB23カマド掘削状況（東から）

図版18　鷺山蝉遺跡F区

F1区SD13掘削作業状況（西から）

F1区SD11・13完掘状況（西から）

F1区SD13遺物出土状況（南から）

F1区SD13漆器鉢出土状況（北から）

F1区SK04遺物出土状況（北から）

F1区SD12遺物出土状況（北から）

F1区SK03断面（北から）

F1区SK03古瀬戸出土状況（北から）

F2区SK76・77掘削状況（東から）

F3区SK30完掘状況（南から）

A1区SB03、SX09完掘状況（南から）

A2区SB01完掘状況（東から）

A1区SD15完掘状況（南東から）

A1区中央完掘状況（北から）

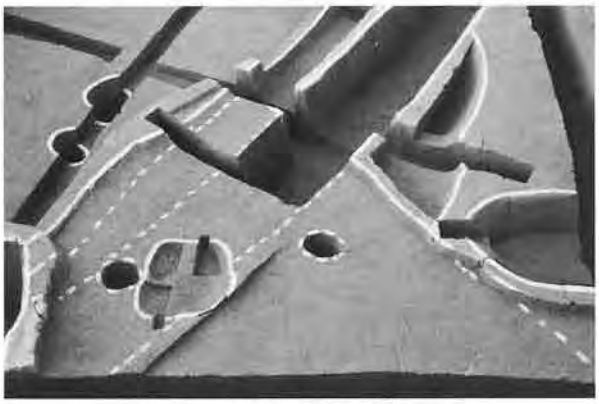
図版20　鷺山仙道遺跡A・B区

A2区SD04掘削作業状況（北から）

A1区SK05掘削状況（北東から）

A2区SD03・04完掘状況（西から）

A1区SX01池状遺構掘削状況（東から）



B1区SB01完掘状況（南から）

B1区SB02、SD06・07完掘状況（南から）

B1区SB01内SX04炉跡掘削状況（南から）

B1区SE01井戸側内完掘状況（北東から）

1

2

1412

488

722

1458

3

58

1384

1385

358

551

1380

28

6

26

7

8

15

11

878

9

10

27

図版22

70

61

66

73

55

35

48

62

40

46

165

159

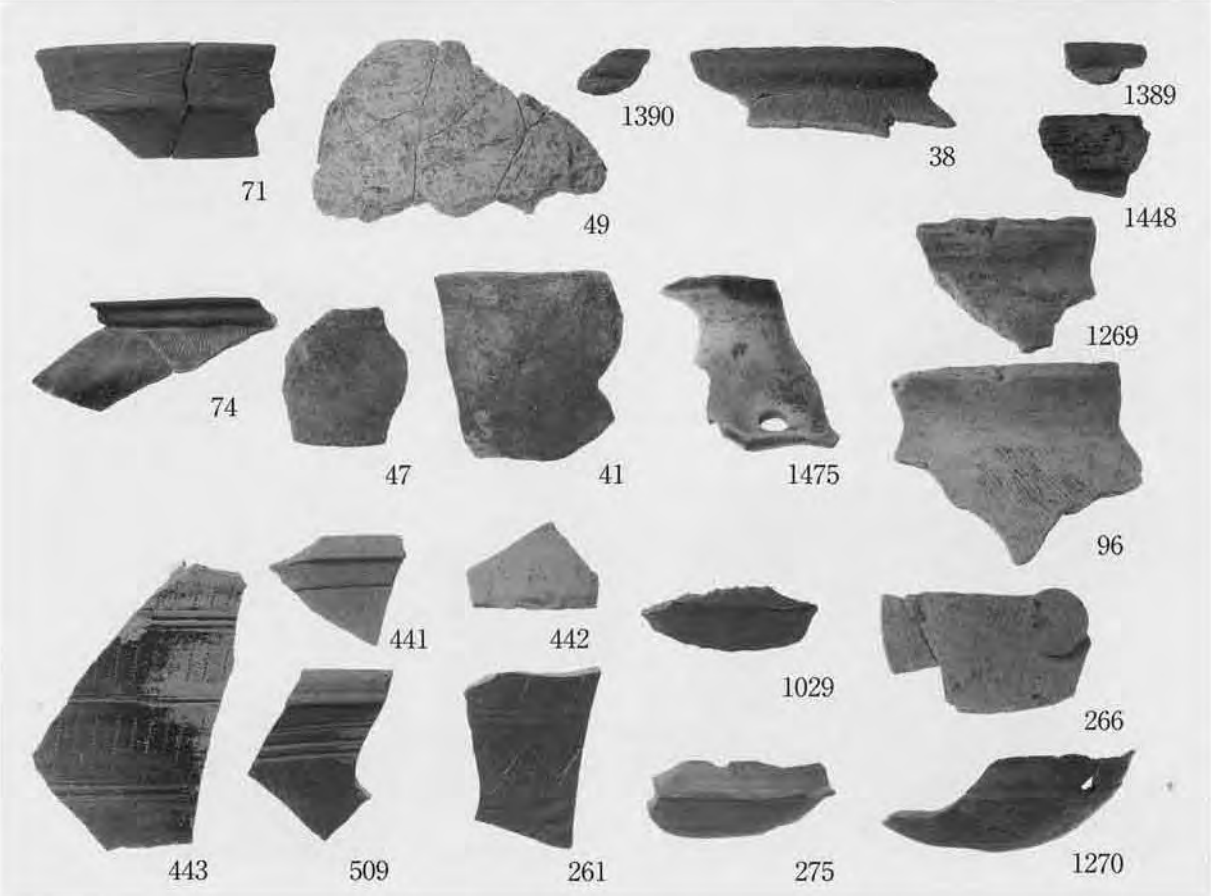
288

164

438

163

1392



図版24

134

121

138

88

189

284

154

279

136

259

187

228

222

277

277墨書

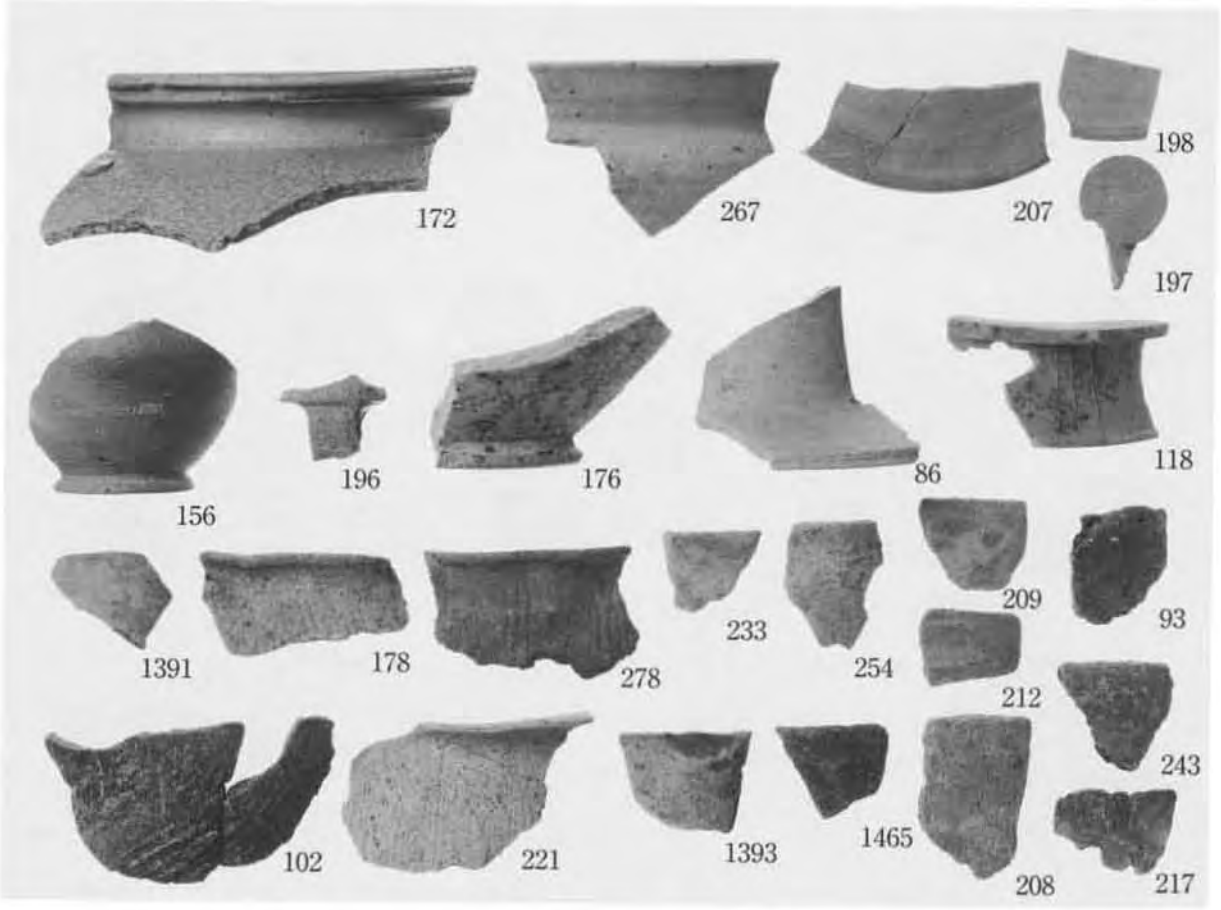
252墨書

252

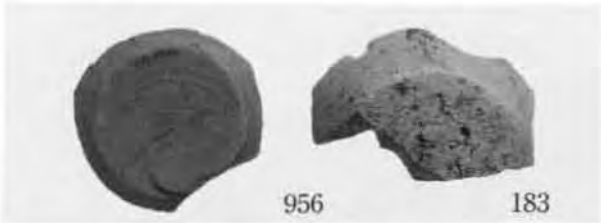
253

107

251



図版26


956
183

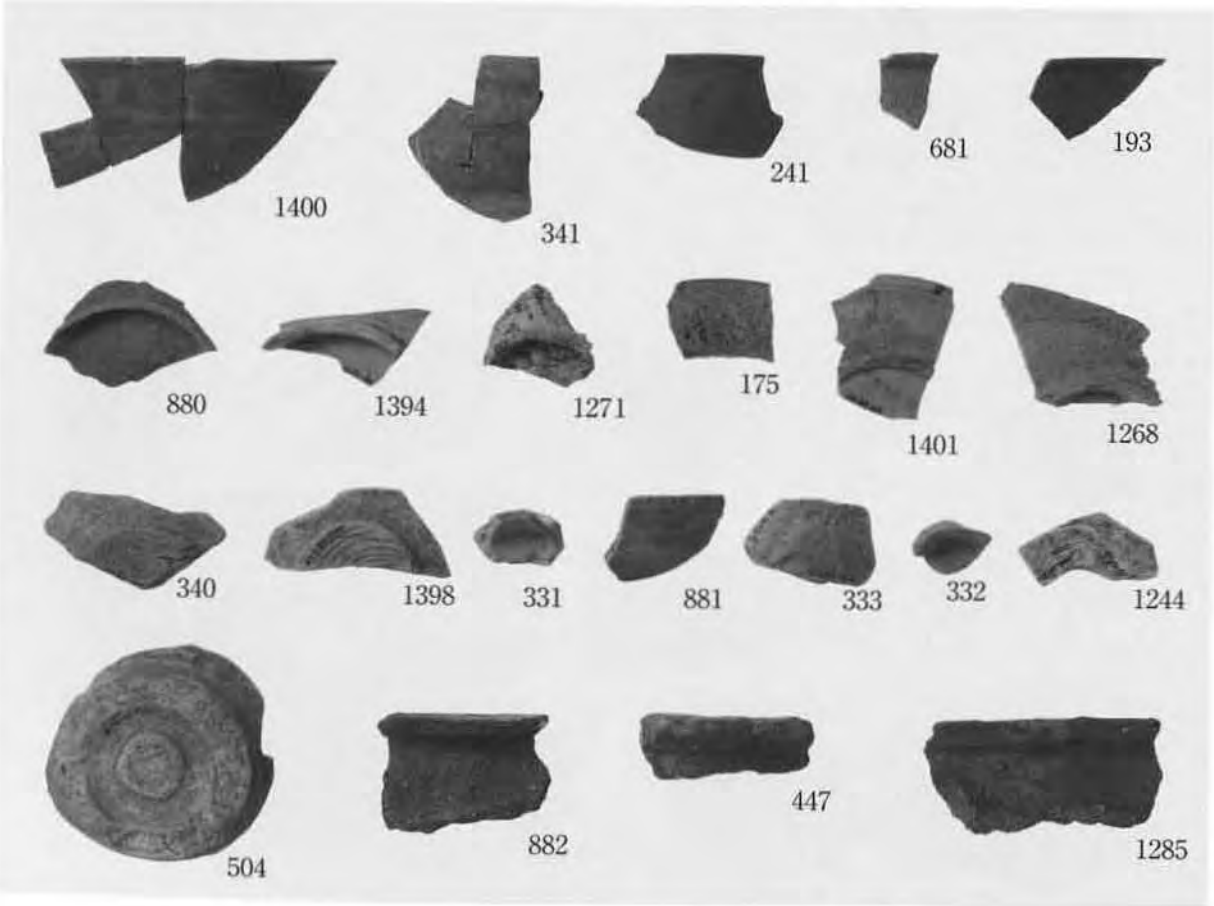
1369

76

1265

78

79


1400
341
241
681
193
880
1394
1271
175
1401
1268
340
1398
331
881
333
332
1244
504
882
447
1285

1436

342

417

893

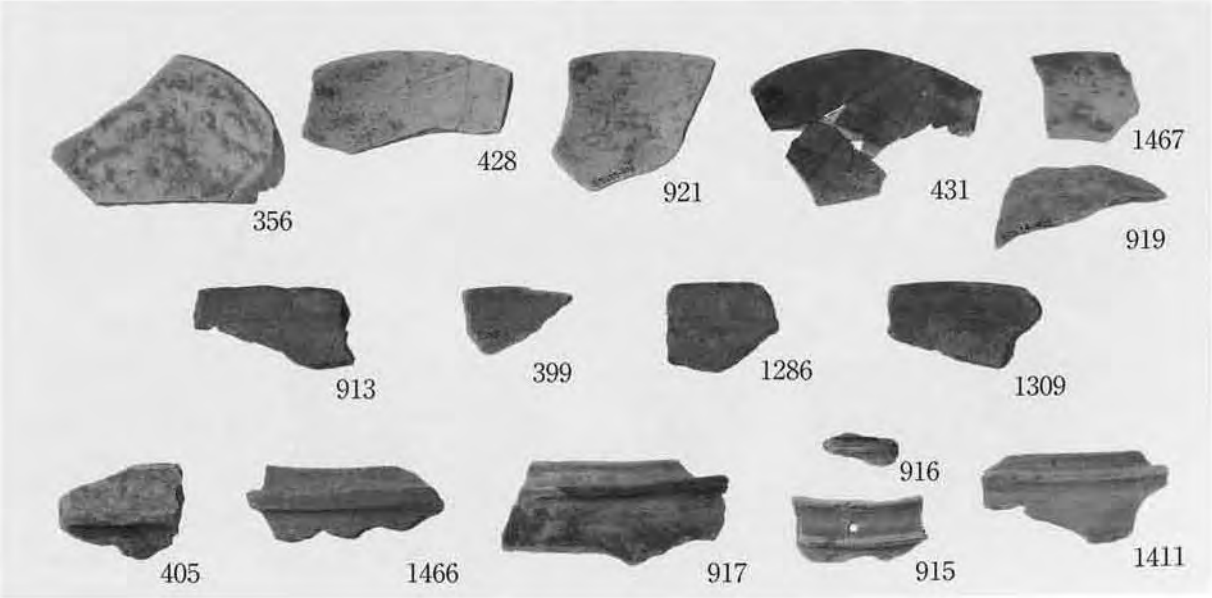
424

352

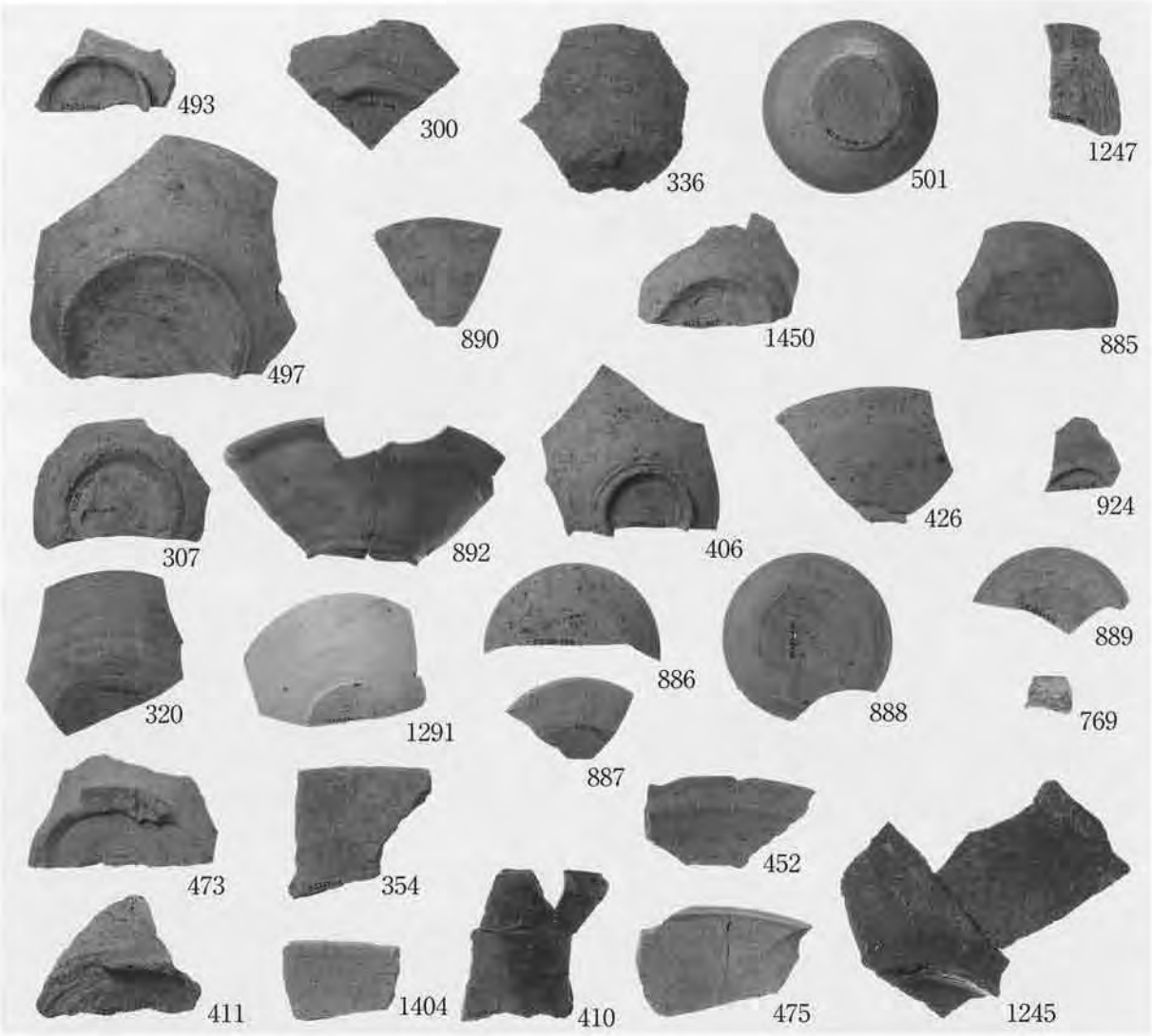
355

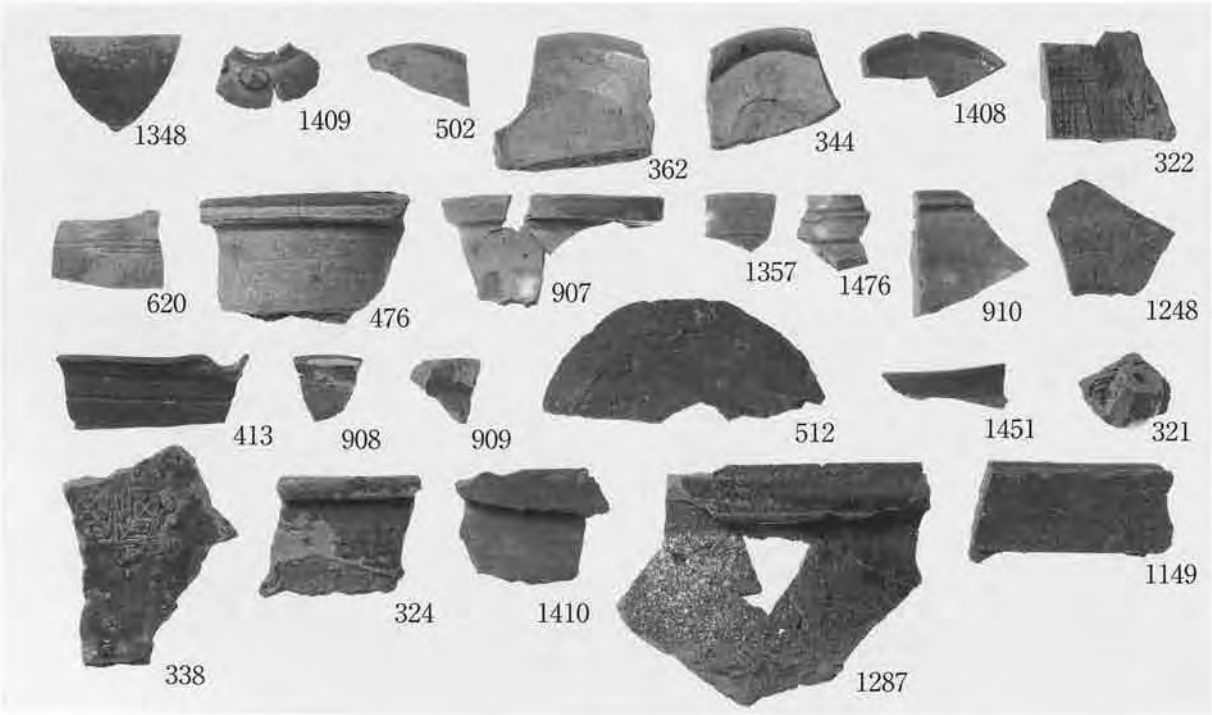
353

1310



図版28


493
300
336
501
1247
497
890
1450
885
307
892
406
426
924
320
1291
886
888
889
887
769
473
354
452
411
1404
410
475
1245


1348
1409
502
362
344
1408
322
620
476
907
1357
1476
910
1248
413
908
909
512
1451
321
338
324
1410
1287
1149

963

584

936

972

920

980

929

730

570

1039

1185

918

726

1168

595

842

1204

1300

図版30

鷺山蝉遺跡A区
土師器皿集積
(SD02・14・26、SX22)

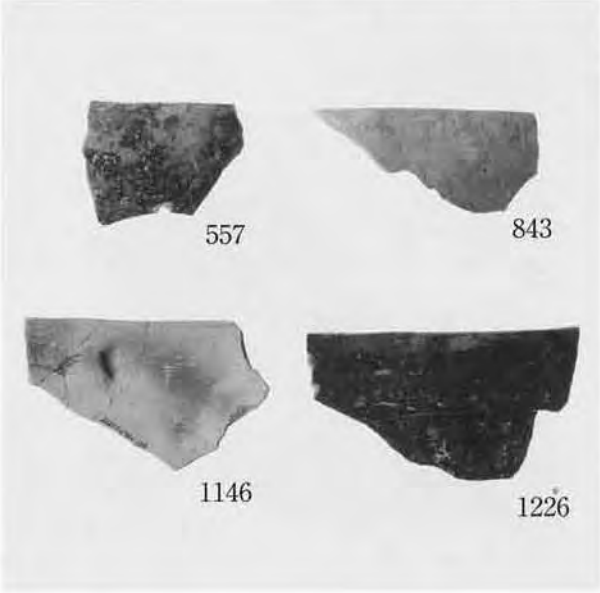
鷺山蝉遺跡B区
土師器皿集積
(SK31・33)

鷺山蝉遺跡C区
土師器皿集積
(SD17、SX03)

鷺山蝉遺跡E区
土師器皿集積
(SD03・08)

鷺山蝉遺跡F区
土師器皿集積
(SD13)

1147



557 843 1146 1226

図版32

1224

958

764

660

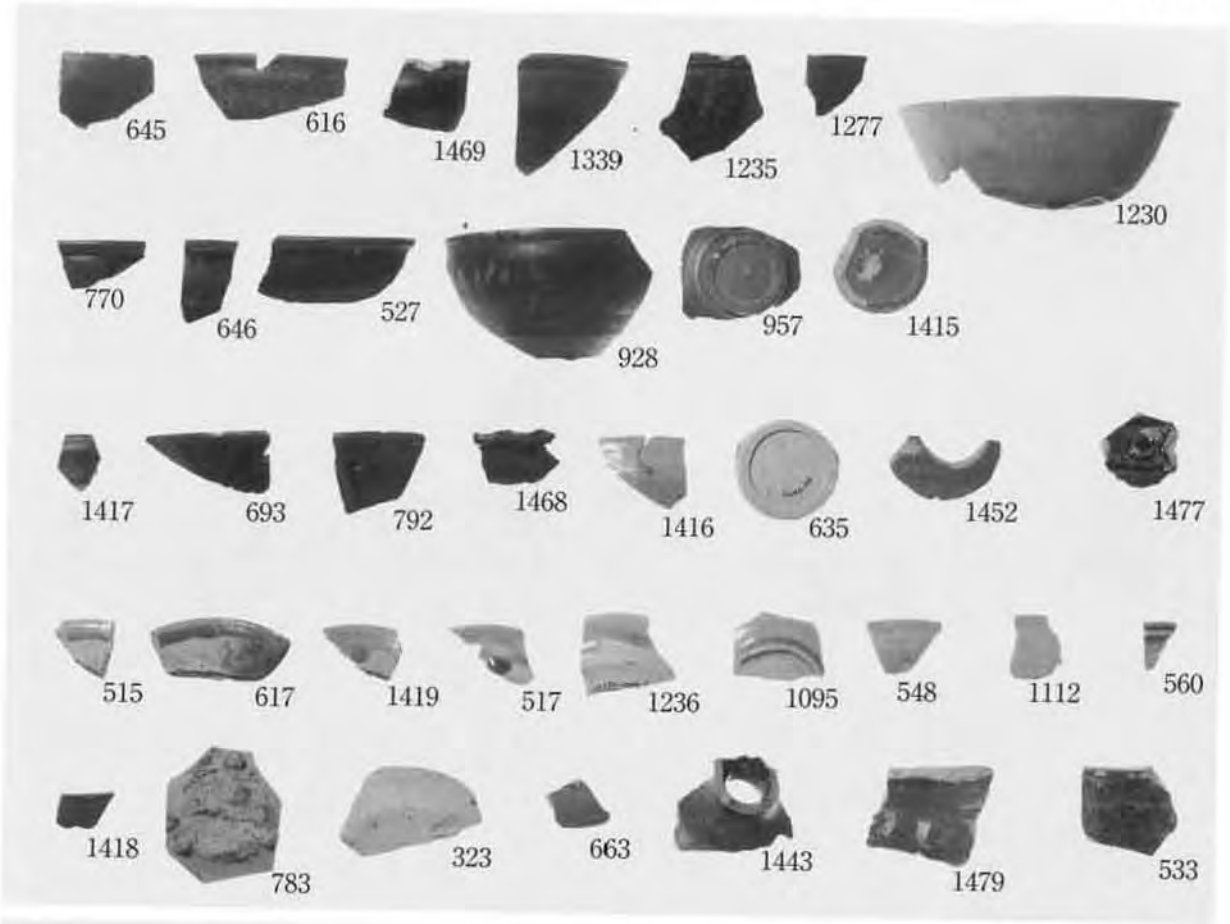
556

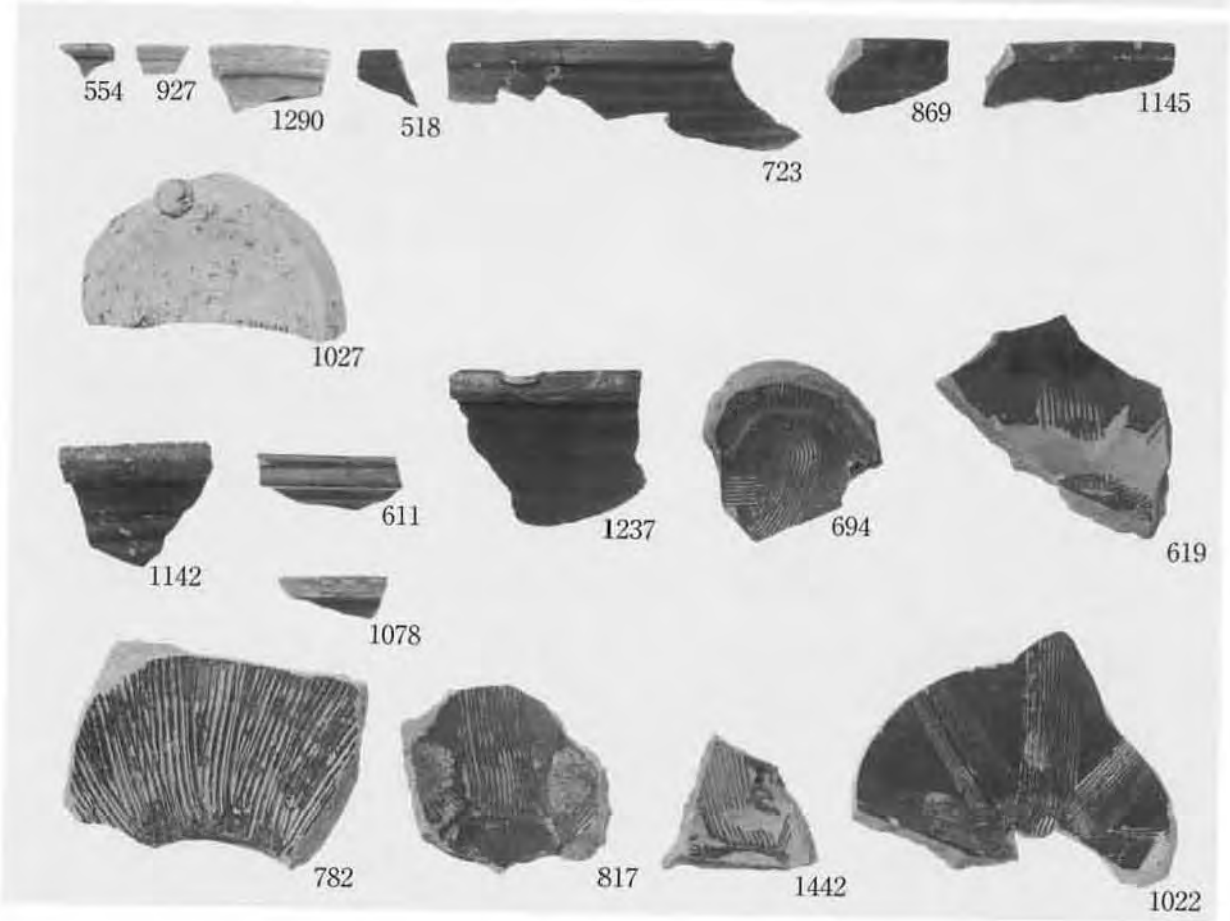
838

1480

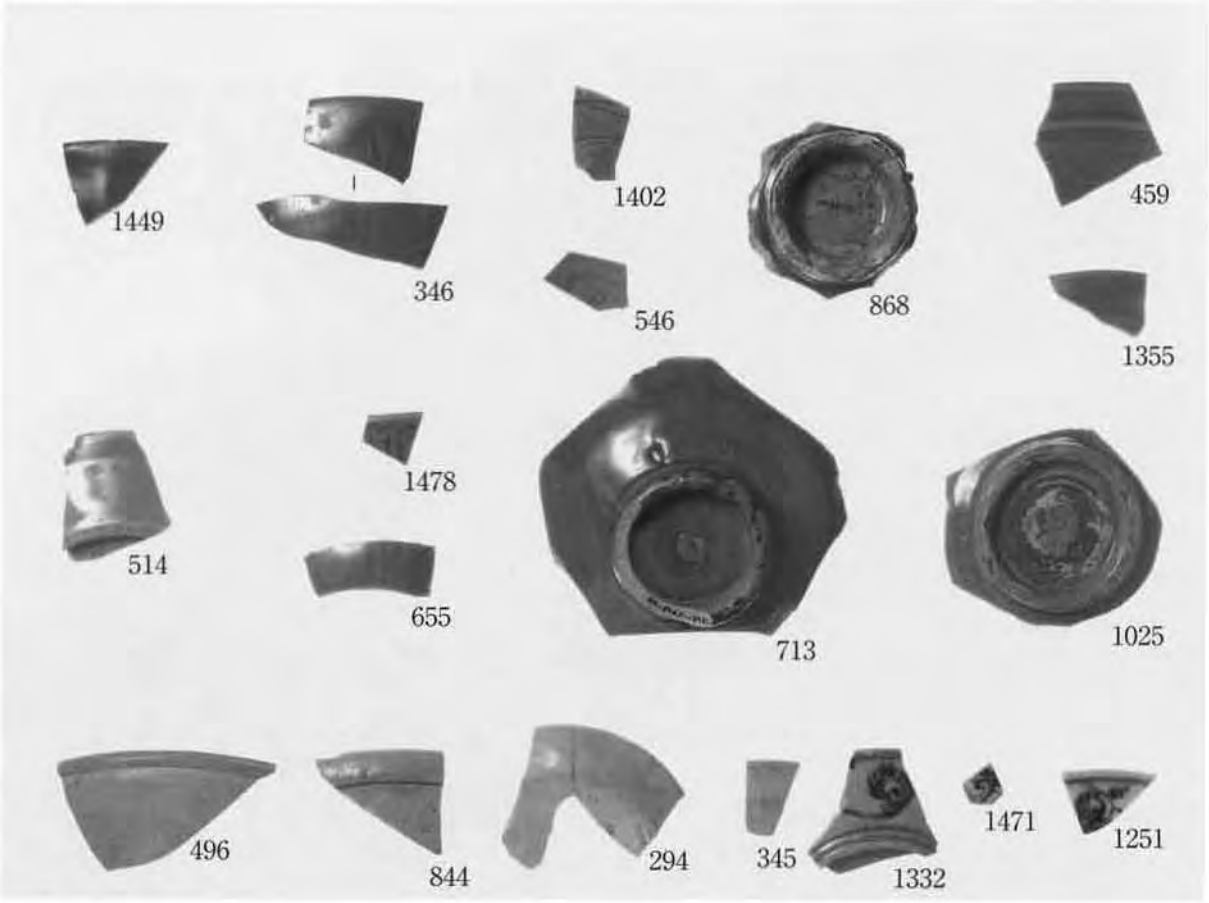
1140

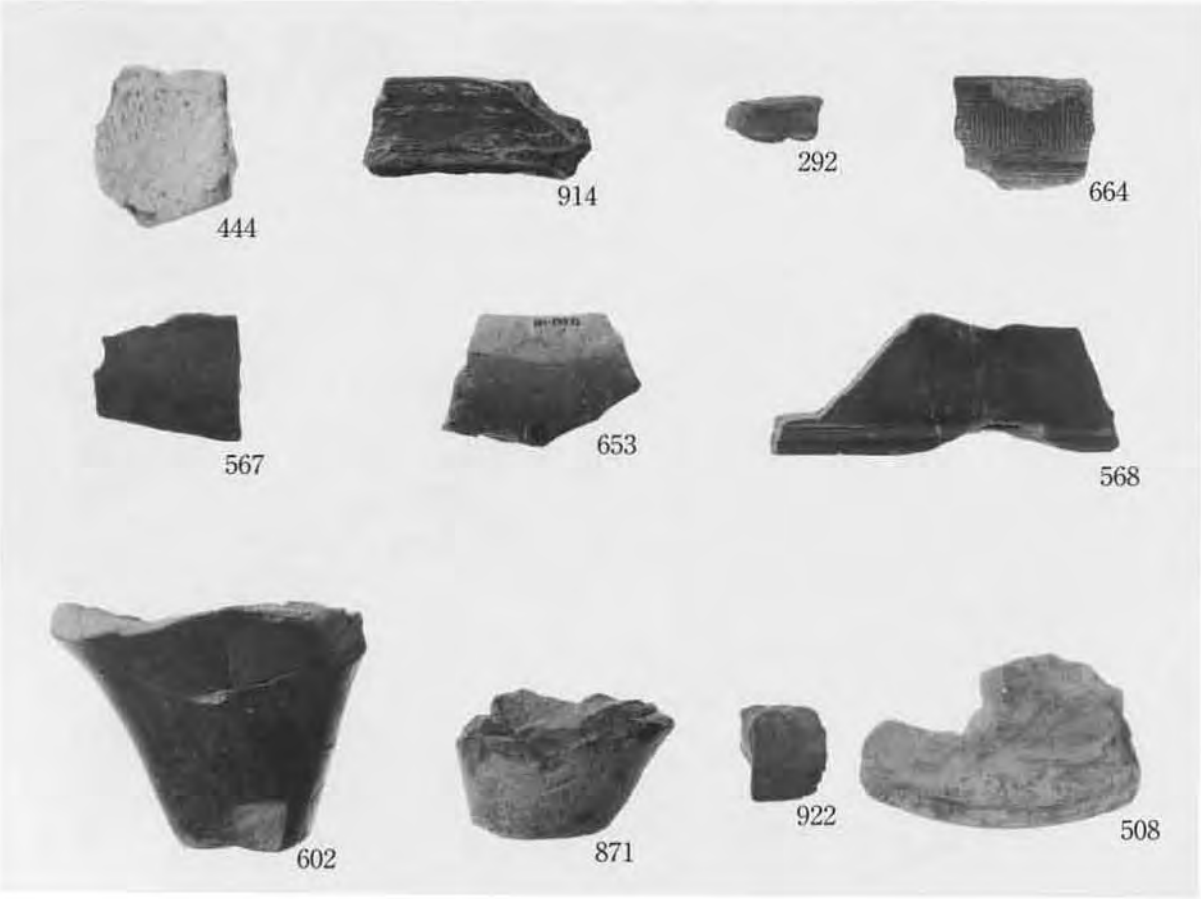
566

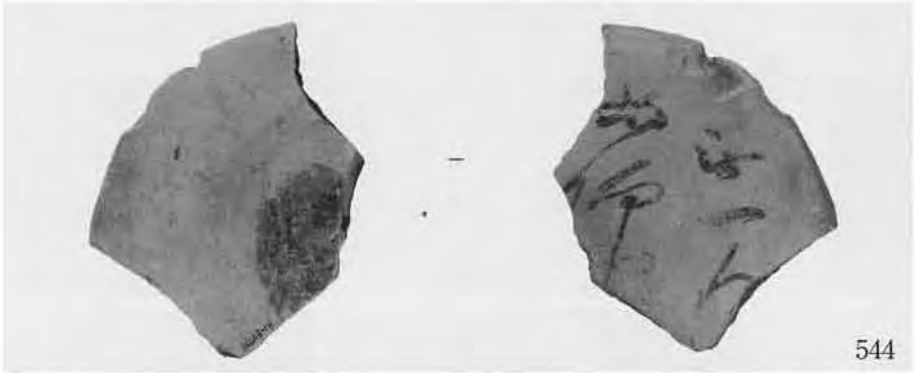

645
616
1469
1339
1235
1277
1230
770
646
527
928
957
1415
1417
693
792
1468
1416
635
1452
1477
515
617
1419
517
1236
1095
548
1112
560
1418
783
323
663
1443
1479
533


554
927
1290
518
723
869
1145
1027
1142
611
1237
694
619
1078
782
817
1442
1022

図版34


1449
346
1402
546
868
459
1355
514
1478
655
713
1025
496
844
294
345
1332
1471
1251


444
914
292
664
567
653
568
602
871
922
508


544

1193

482

830

955

950

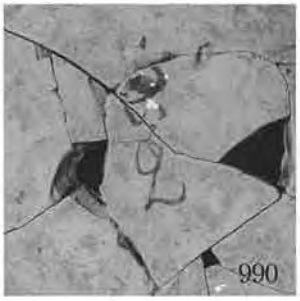
983

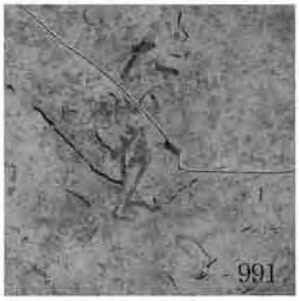
985

986

987

988


990


991

1191

1192

1194

1195

図版36

347

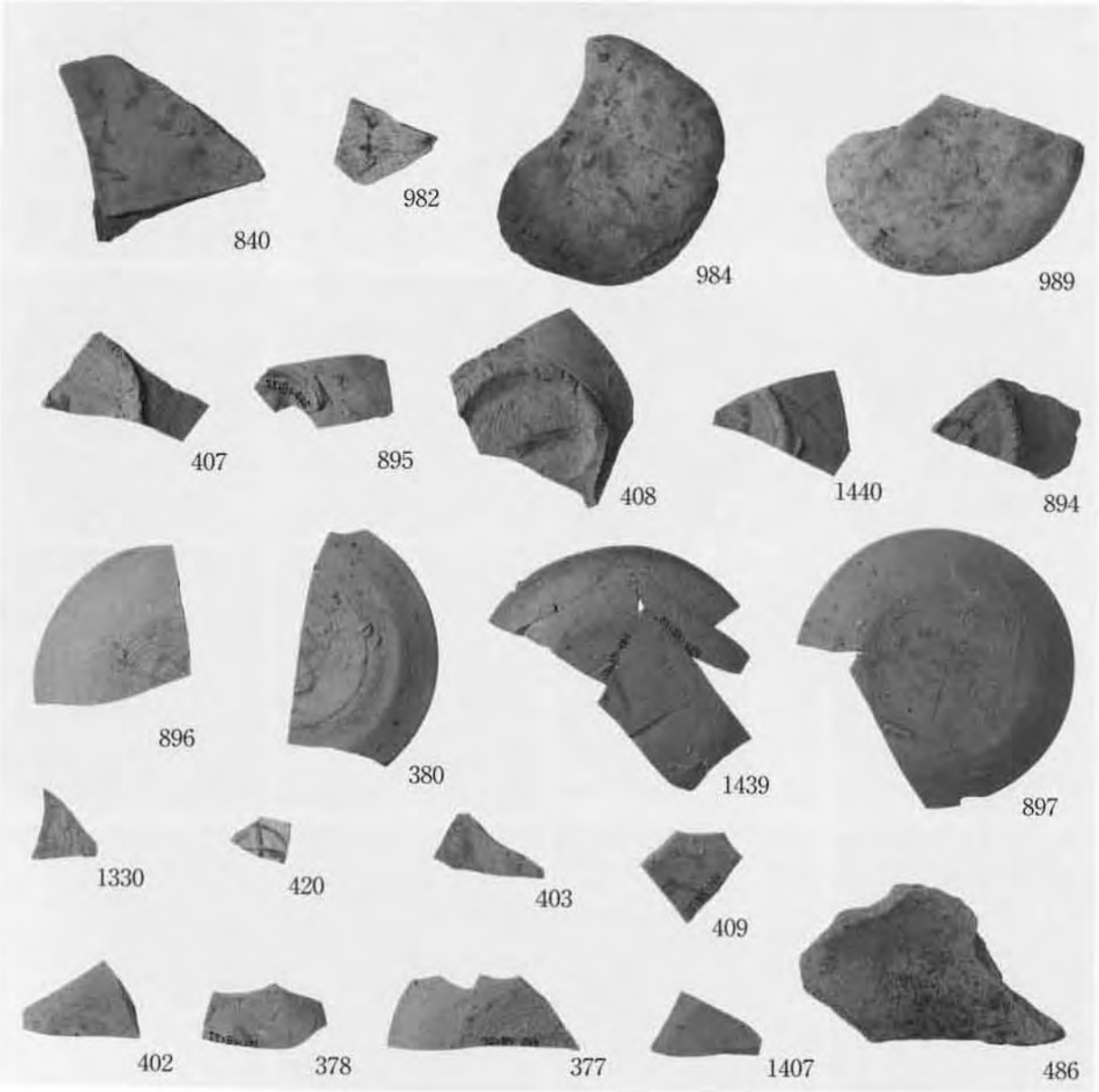
379

404

423

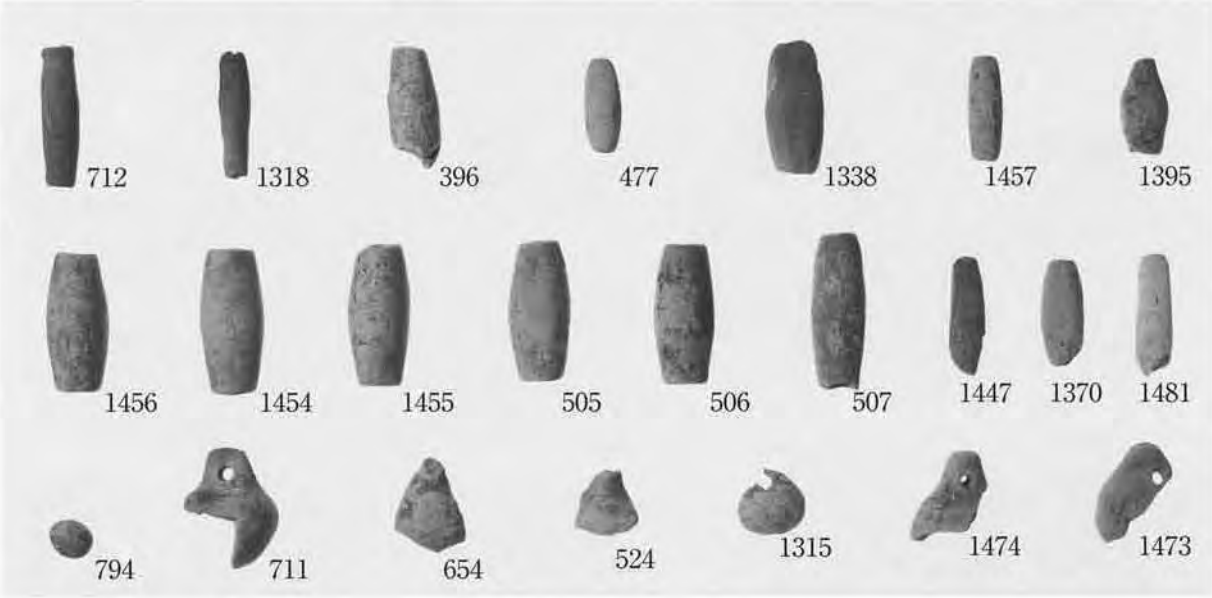
425

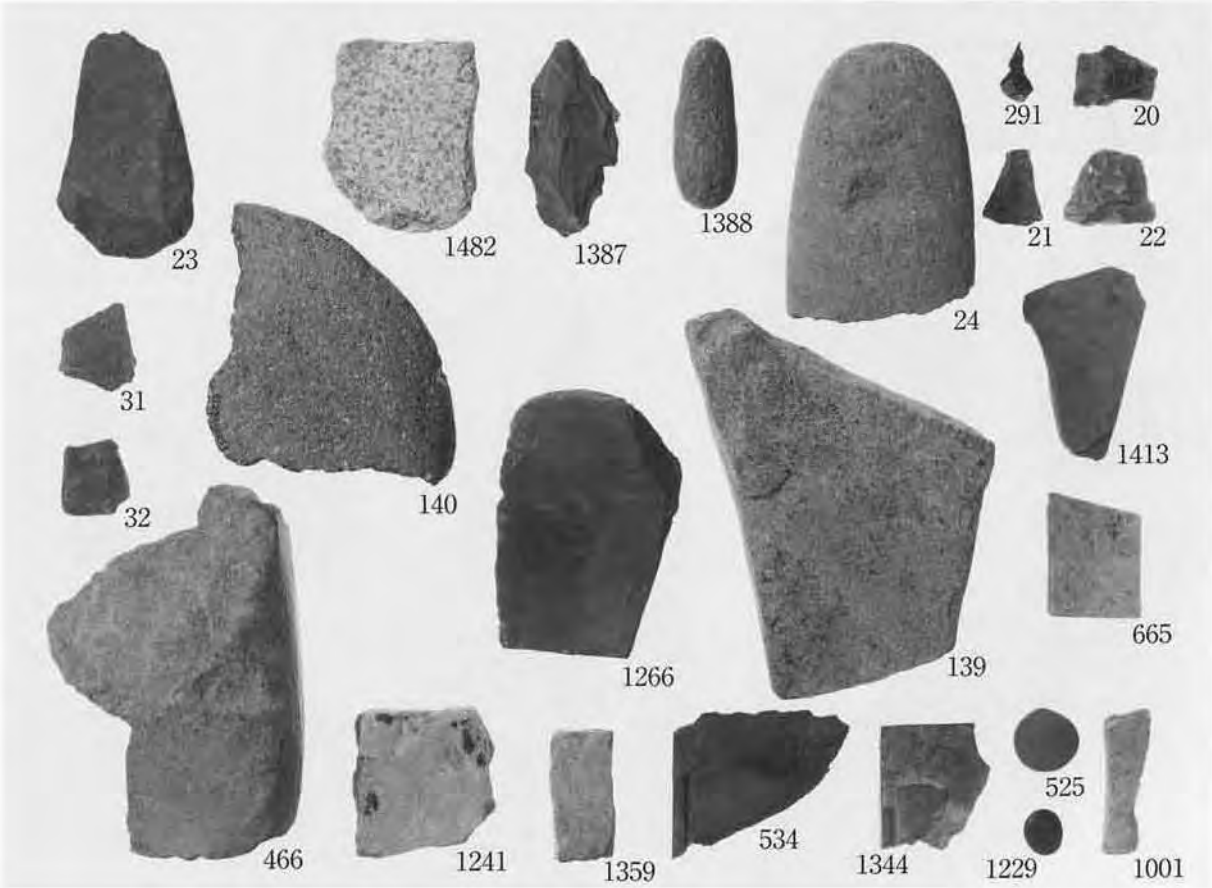
847


840
982
984
989
407
895
408
1440
894
896
380
1439
897
1330
420
403
409
402
378
377
1407
486

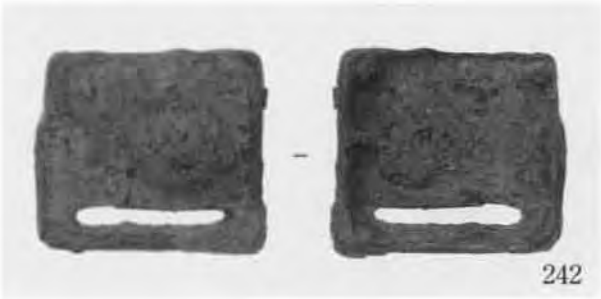
710

877

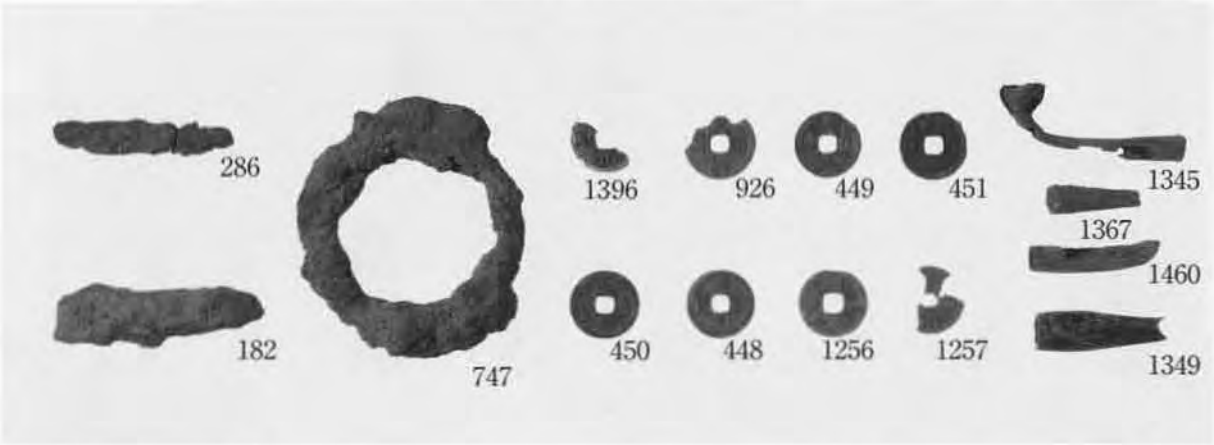

712
1318
396
477
1338
1457
1395
1456
1454
1455
505
506
507
1447
1370
1481
794
711
654
524
1315
1474
1473

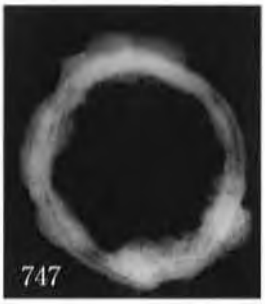

23
1482
1387
1388
291
20
21
22
24
31
140
1413
32
1266
139
665
466
1241
1359
534
1344
525
1229
1001

図版38


242

491

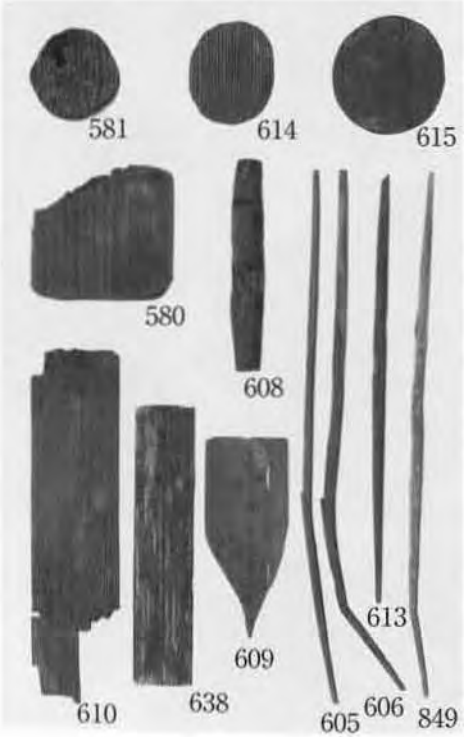

286
182
747
1396
926
449
451
450
448
1256
1257
1345
1367
1460
1349

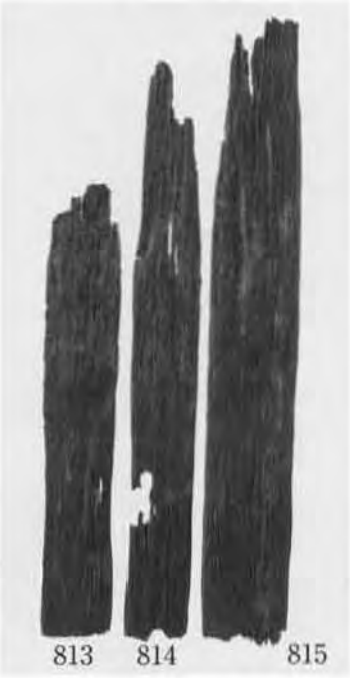

747

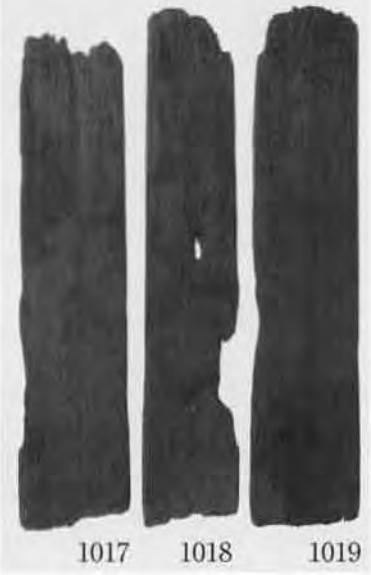
607

639

1014
1015
1016


581
614
615
580
608
610
638
609
605
606
613
849


813
814
815


1017
1018
1019

856

857

861

867

866

854

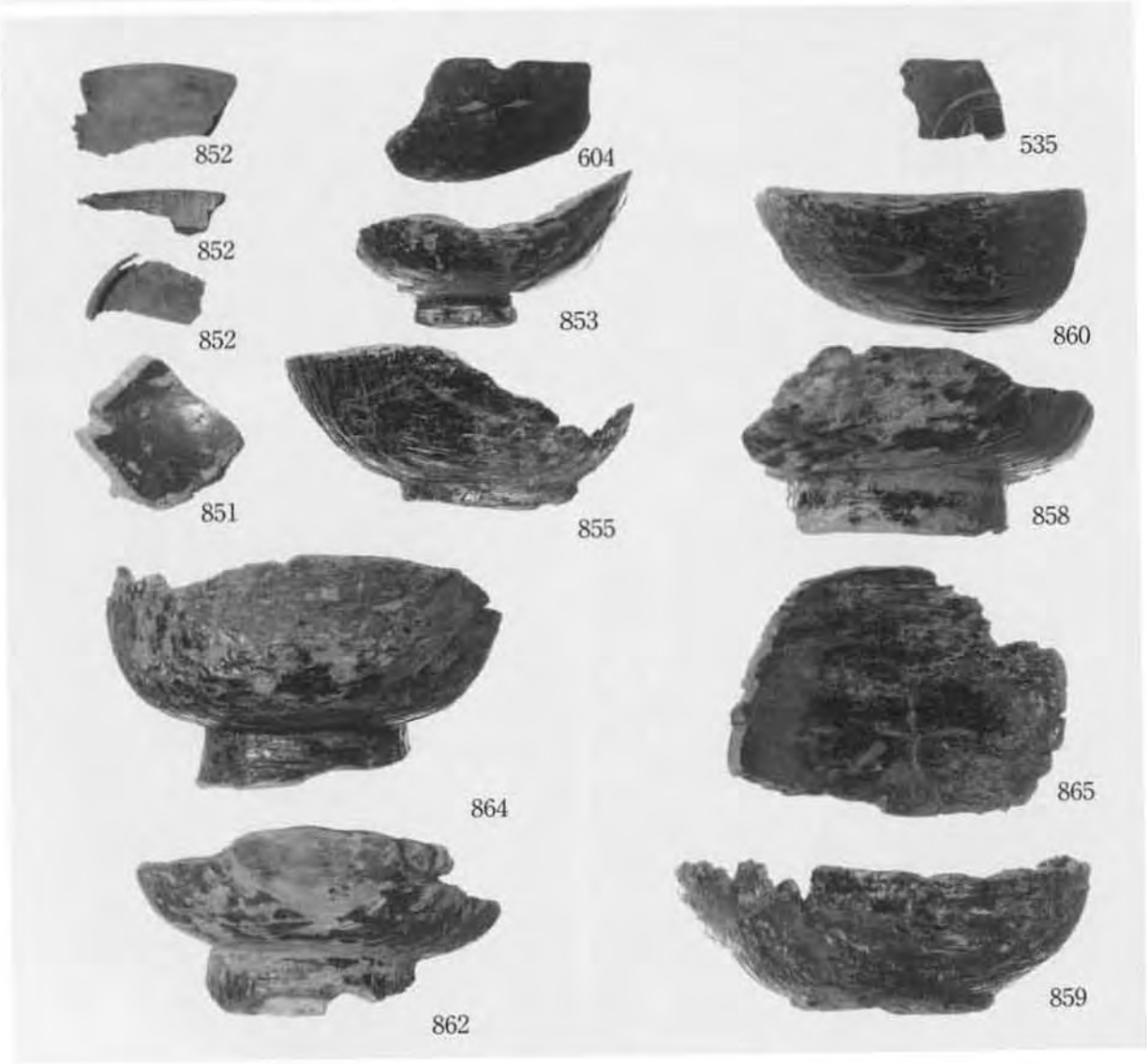
863

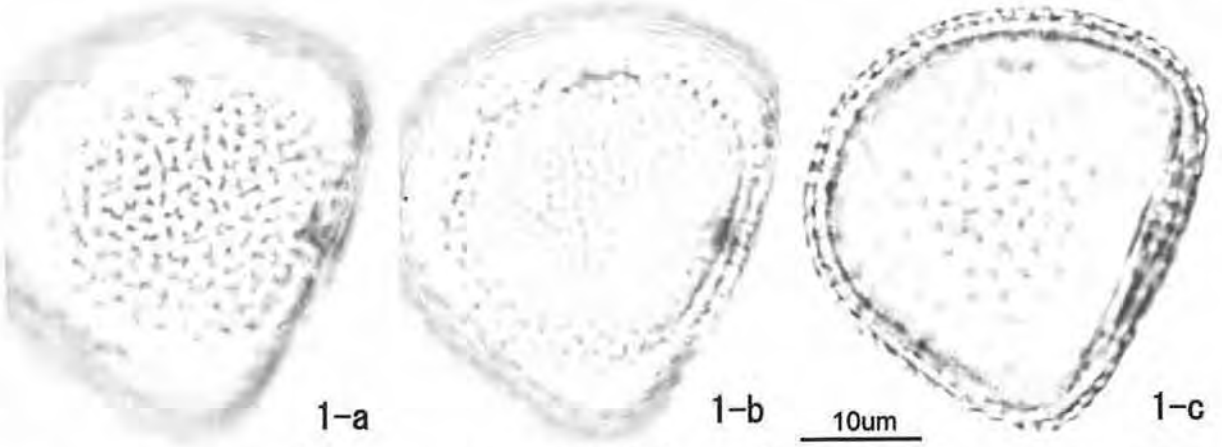
図版40

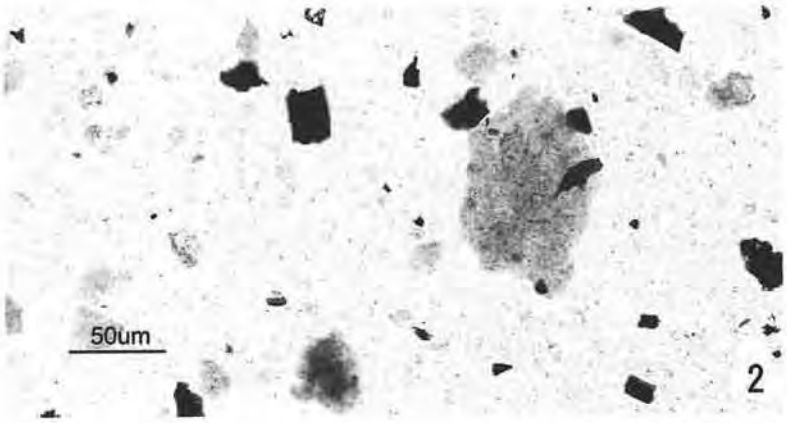
850

603

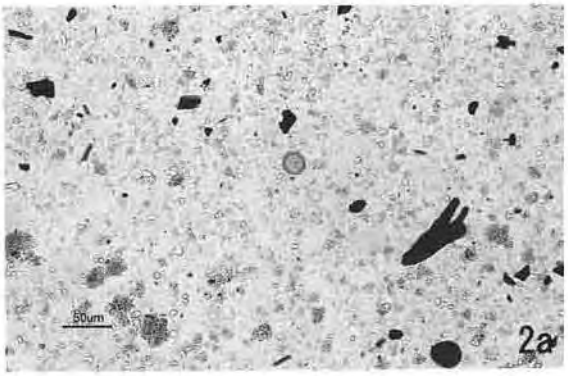
1217

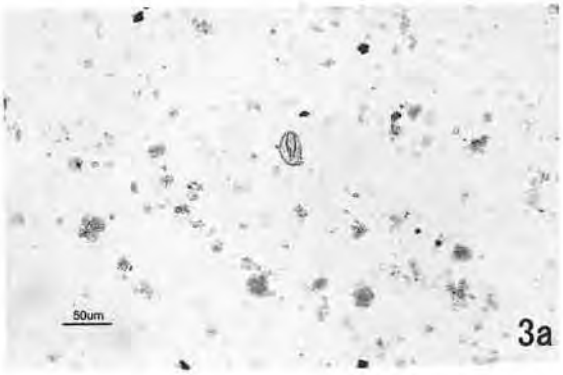

852
604
535
852
853
860
852
851
855
858
864
865
862
859





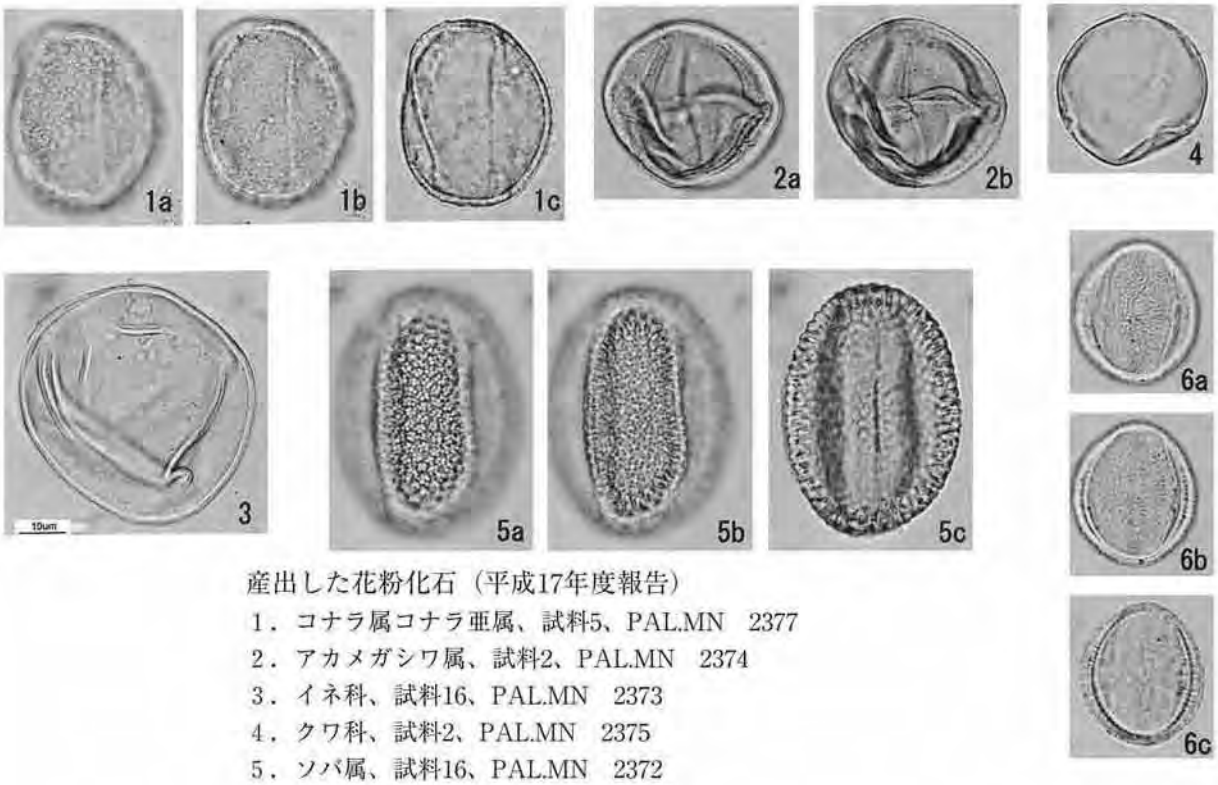
産出した花粉化石(平成15年度報告)
1.ガマ属、SD03－2（下層2)、
PAL.MN　2086
2.プレパラート状況、
SD03－2（下層2)





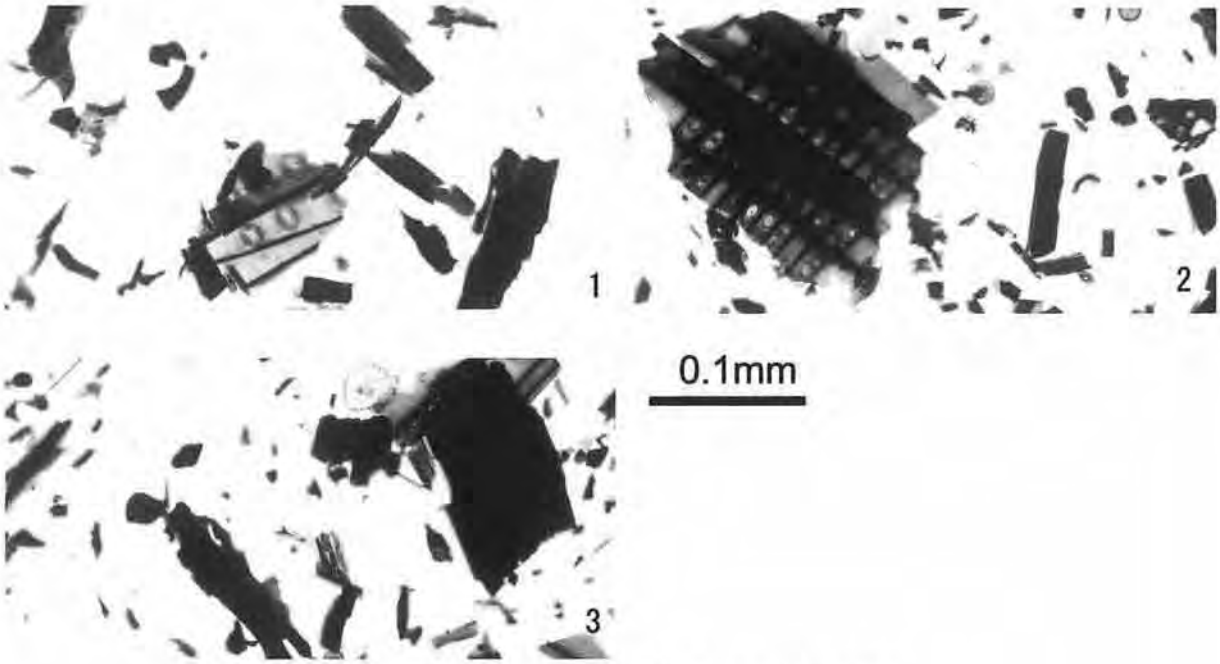
産出した花粉化石（平成16年度報告）
1．ソバ属（破片)、試料3（鷺山蝉遺跡E1区SD03－No.3)、PAL.MN　2218
2．プレパラート状況（中央はアリノトウグサ属、2－bは2－aの拡大)、試料2（鷺山蝉遺跡B6区SE01)
3．プレパラート状況（中央はコナラ亜属、3－bは3－aの拡大)、試料3（鷺山蝉遺跡E1区SD03－No.3)

図版42



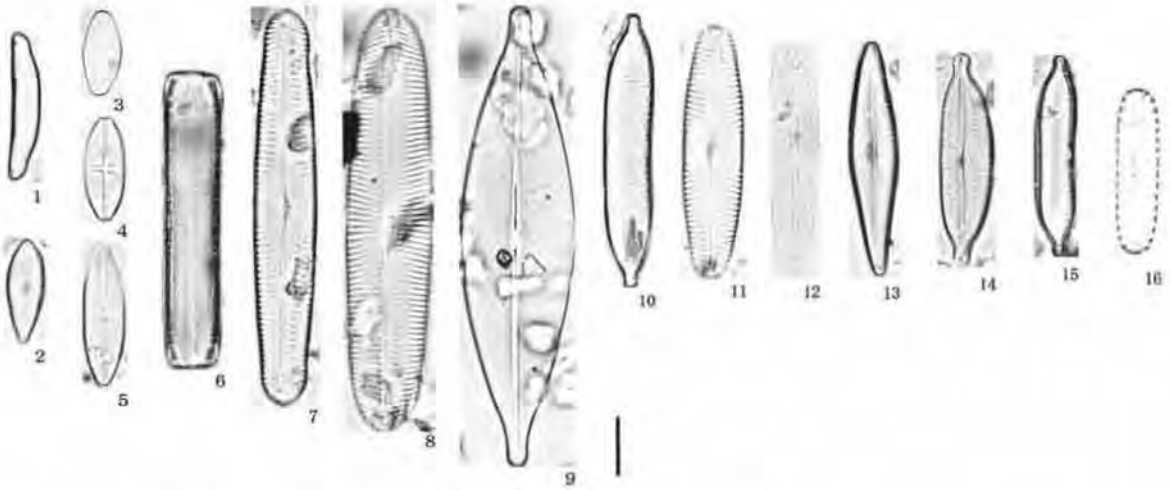
産出した花粉化石（平成17年度報告）

1．コナラ属コナラ亜属、試料5、PAL.MN　2377
2．アカメガシワ属、試料2、PAL.MN　2374
3．イネ科、試料16、PAL.MN　2373
4．クワ科、試料2、PAL.MN　2375
5．ソバ属、試料16、PAL.MN　2372
6．ヨモギ属、試料2、PAL.MN　2376



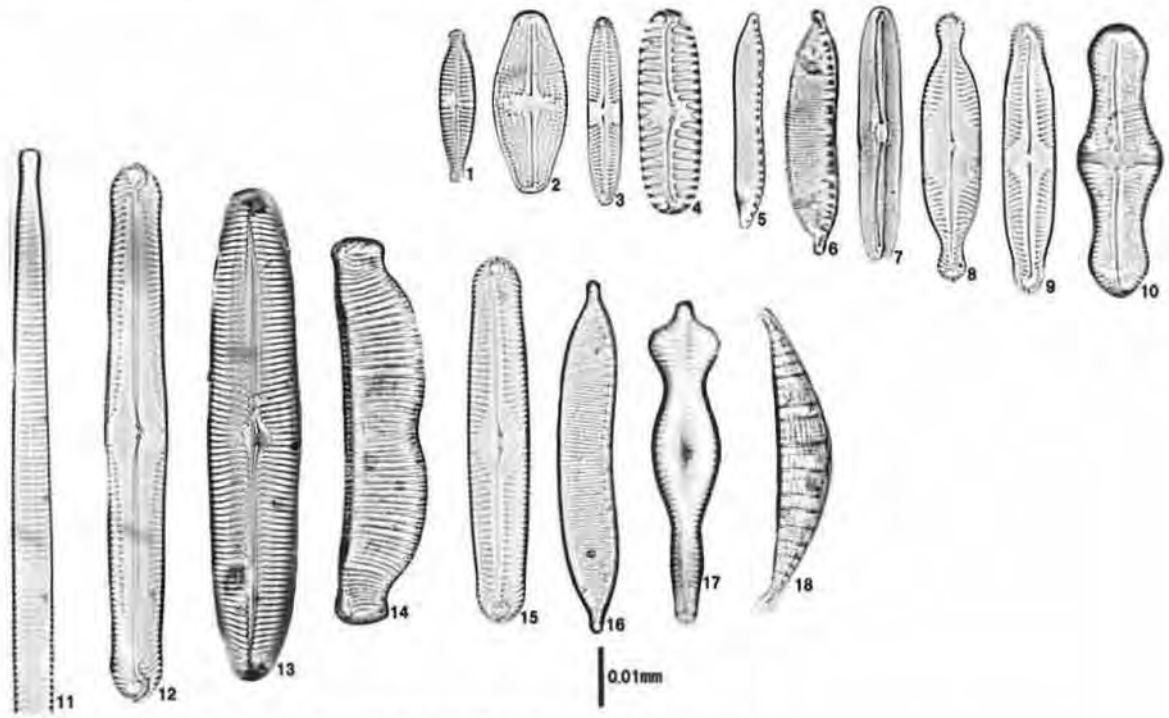
鷺山蝉遺跡B5区SX21石積施設遺構試料の顕微鏡写真

1．プレパラートの状況　試料③
2．プレパラートの状況　試料②
3．プレパラートの状況　試料①



堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真（平成15年度報告）　Scale：10 μm

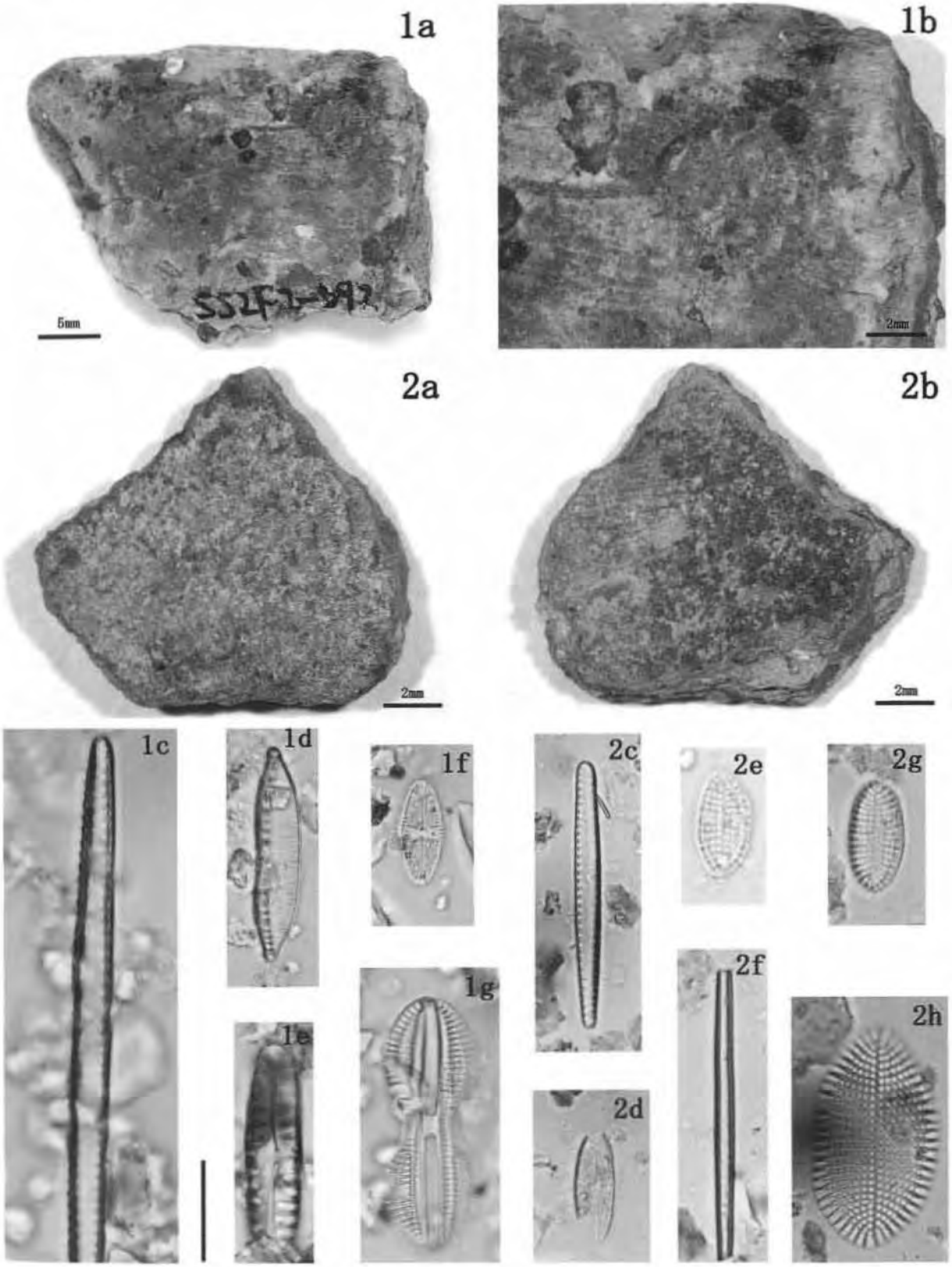
1．*Eunotia pectinalis var.minor*　2．*Gomphonema parvulum*
3．*Navicula mutica*　4．*Achnanthes hungarica*　5．*Achnanthes hungarica*
6．*Hantzschia amphioxys*　7．*Pinnularia gibba*　8．*Pinnularia viridis*
9．*Navicula cuspidate*　10．*Hantzschia amphioxys*　11．*Pinnularia microstauron*
12．*Frustulia vulgaris*　13．*Gomphonema gracile*　14．*Cymbella naviculiformis*
15．*Hantzschia amphioxys*　16．*Pinnularia borealis*（16：試料⑥SX01、1～15：試料⑦SD03）



堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真（平成17年度報告）　Scale：0.01mm

1．*Gomphonema parvulum*　2．*Navicula mutica*　3．*Pinnularia microstauron*
4．*Pinnularia borealis*　5．*Nitzschia clausii*　6．*Hantzschia amphioxys*
7．*Frustulia vulgaris*　8．*Pinnularia braunii*　9．*Pinnularia microstauron*
10．*Achnanthes inflata*　11．*Synedra ulna*　12．*Pinnularia gibba*
13．*Pinnularia vilidis*　14．*Eunotia praerupta var. bid*　15．*Pinnularia gibba*
16．*Hantzschia amphioxy*　17．*Gomphonema acuminatum*　18．*Rhopalodia gibberula*
（1・3・5・9・10・11・12・15：No.3、2・4・6・14：No.4、7・8・13・17・18：No.5）

図版44



分析した土器片と付着珪藻化石（平成17年度報告）Scale：20 μm

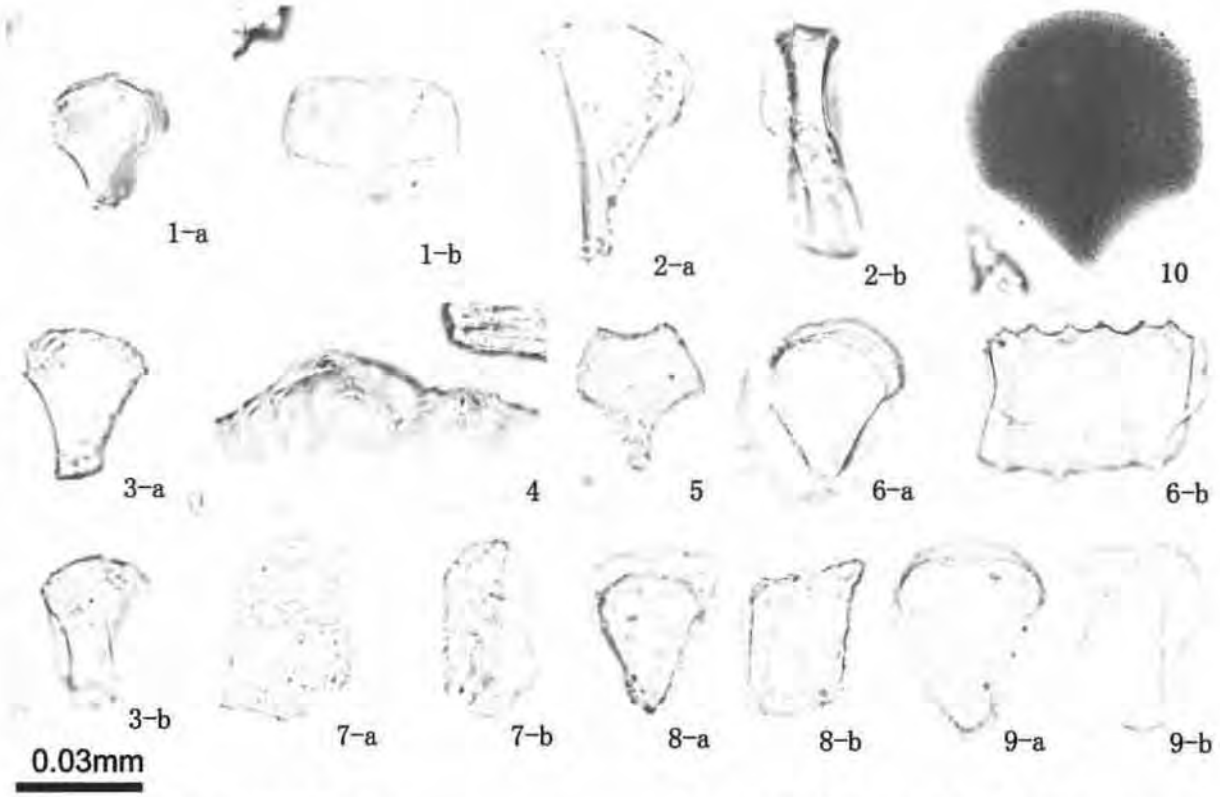
1a・1b. SK96出土土器片　2a・2b. SK97出土土器片

1c. *Thalassionema nitzschioides*　1d. *Hantzschia amphioxys*　1e. *Pinnularia borealis*

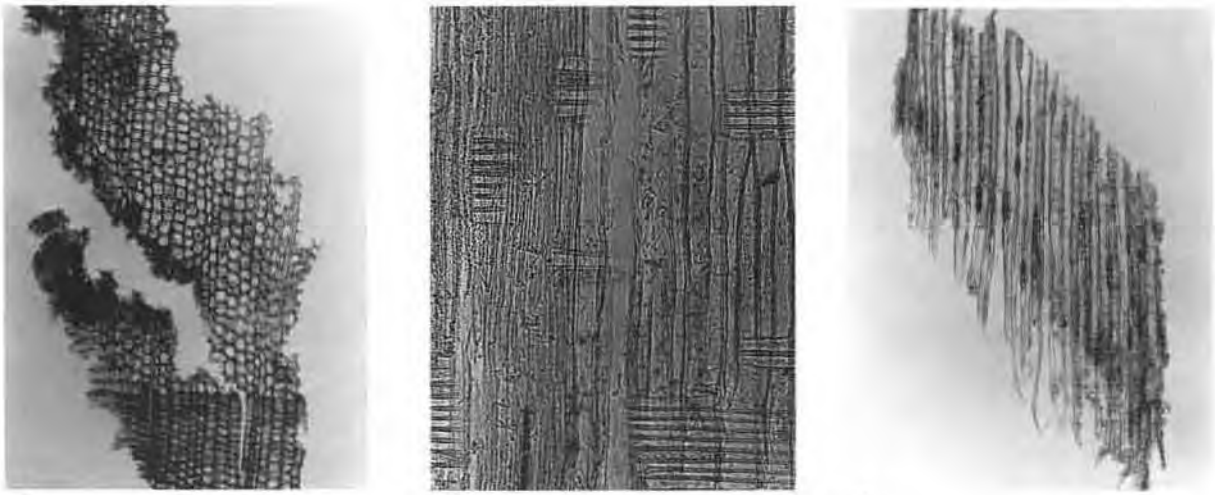
1f. *Navicula mutica*　1g. *Diploneis interrupta*

2c. *Thalassionema nitzschioides*　2d. *Navicula mutica*　2e. *Cocconeis scutellum*

2f. 骨針化石　2g. *Cocconeis scutellum*　2h. *Cocconeis scutellum*



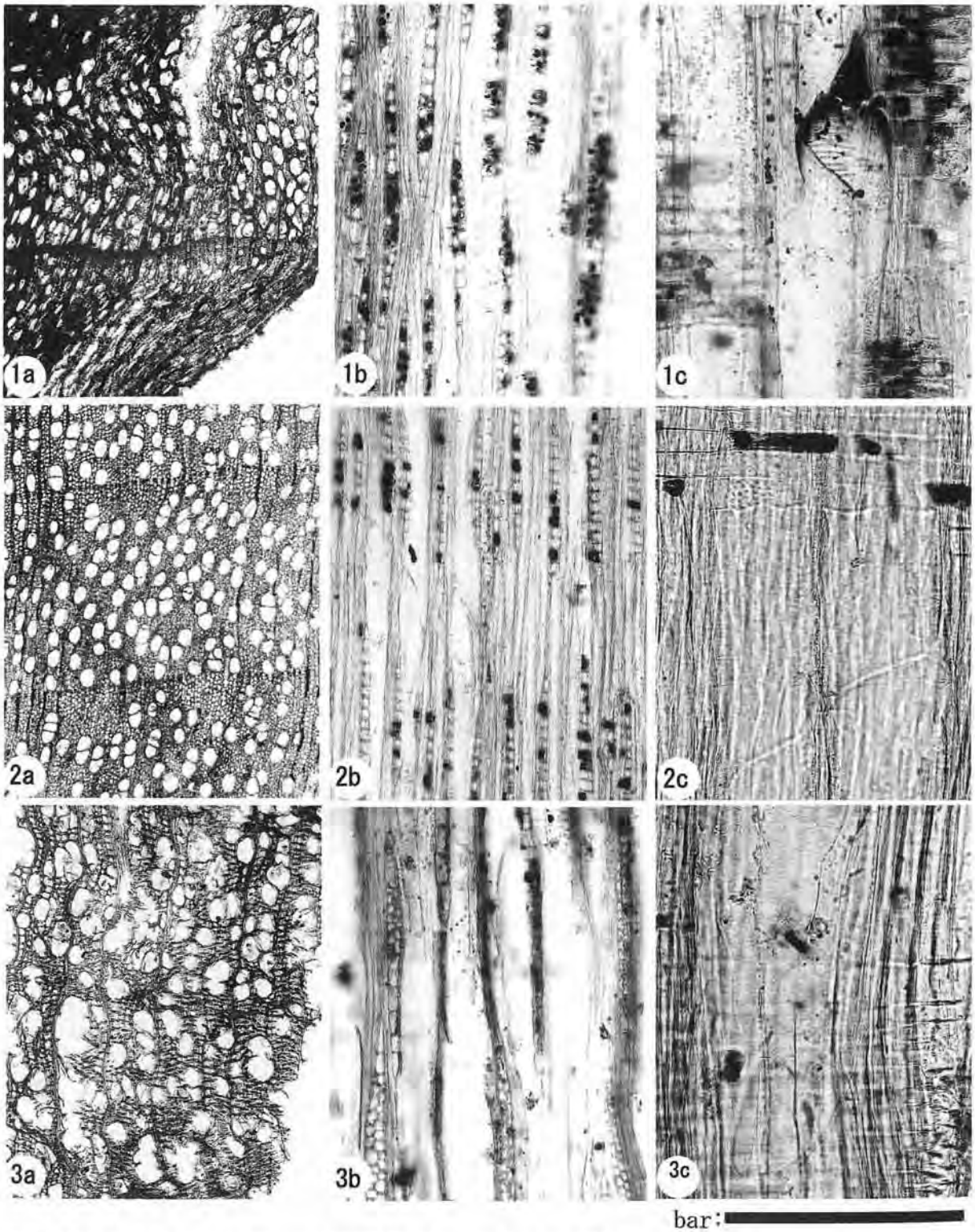
鷺山蝉遺跡のプラント・オパール
1～3.イネ（a：断面、b：側面）
1：No.5、2：No.16、3：No.14
4．イネ穎部破片　No.10
5．シバ属（断面）No.12
6．ネザサ節型（a：断面、b：側面）No.13
7．クマザサ属型（a：断面、b：側面）No.14
8．他のタケ亜科（a：断面、b：側面）No.13
9．ウシクサ族（a：断面、b：側面）No.16
10．ヨシ属（断面）No.11



1　2　3

鷺山蝉遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真（鷺山蝉遺跡A1区SD14将棋駒）
No.1　ヒノキ科アスナロ属
1.木口（×40）　2.柾目（×100）　3.板目（×40）

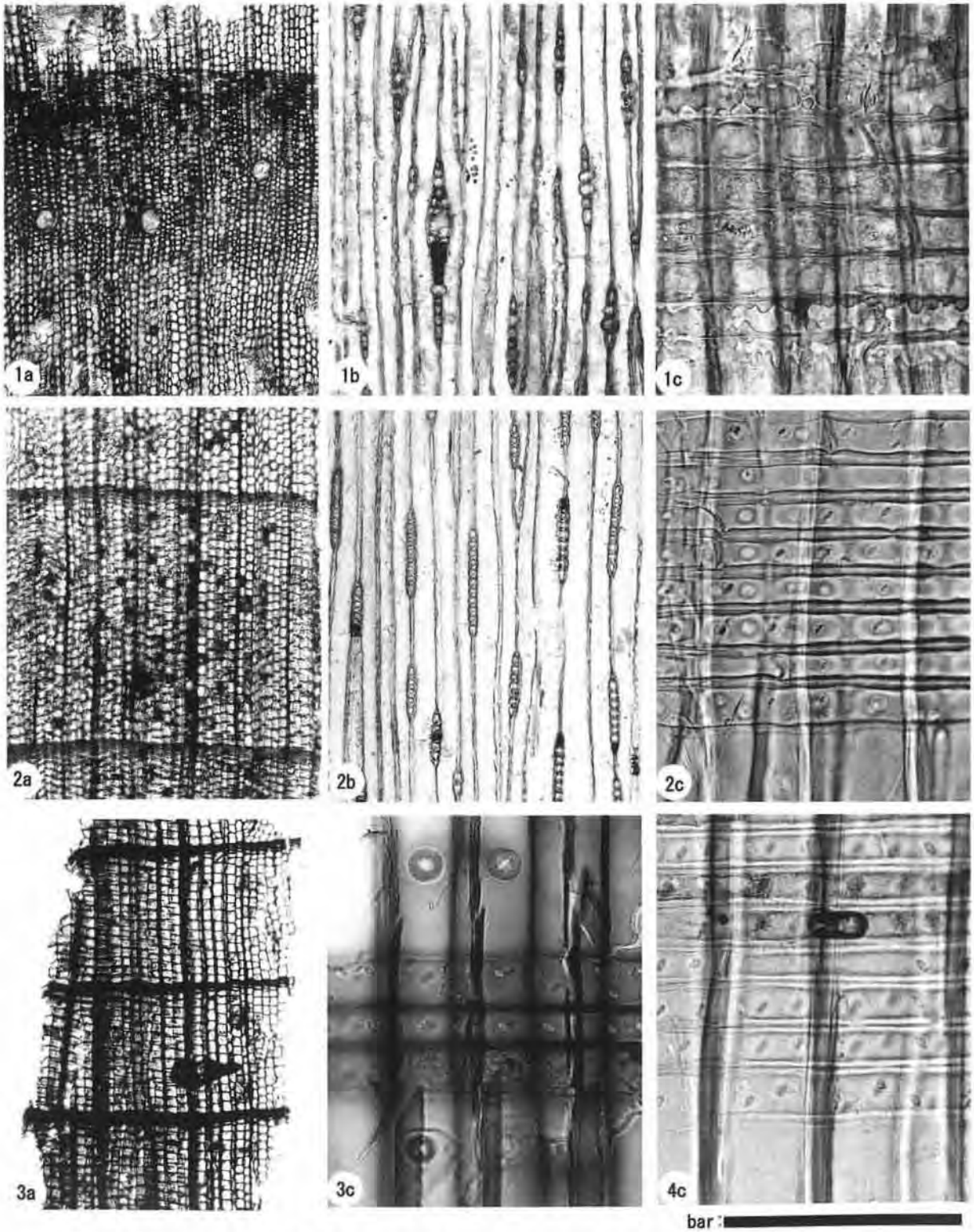
図版46



鷲山蝉遺跡出土漆容器材組織の光学顕微鏡写真（平成15年度報告）

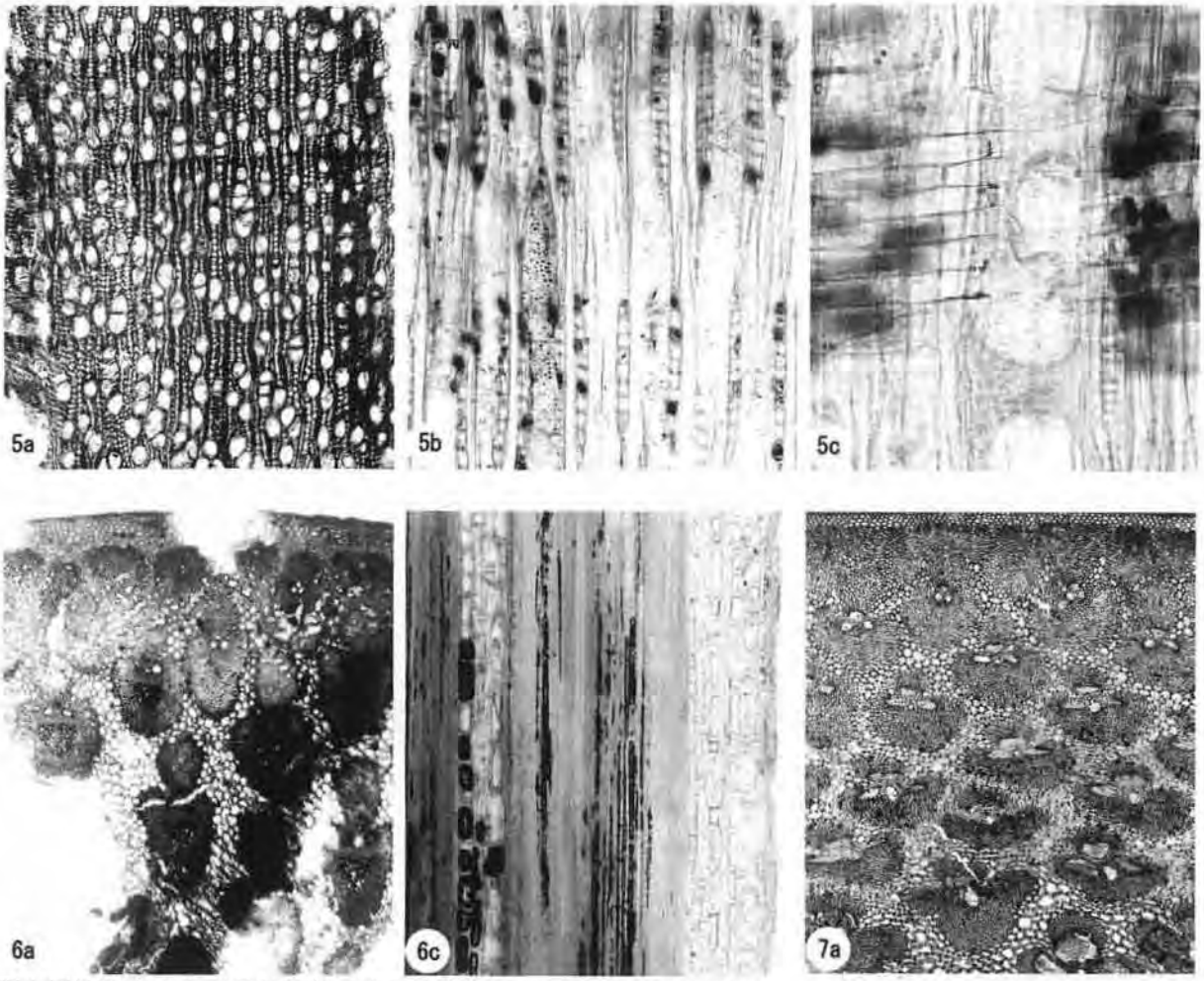
1a－1c：カバノキ属（試料H15－1）　2a－2c：トチノキ（試料H15－10）　3a－3c：イイギリ（試料H15－7）

a：横断面　b：接線断面　c：放射断面　Scale bar：a＝1.0mm，　b＝0.4mm，　c＝0.2mm



鷲山蝉遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真（平成17年度報告）
1a－1c：アカマツ（試料H17－14、矯木）　2a－2c：ヒノキ（試料H17－17、折敷）
3a・3c：サワラ（試料H17－23、不明）　4c：サワラ（試料H17－16、箸）
a：横断面　b：接線断面　c：放射断面　Scale bar：a＝1.0mm，　b＝0.4mm，　c＝0.1mm

図版48

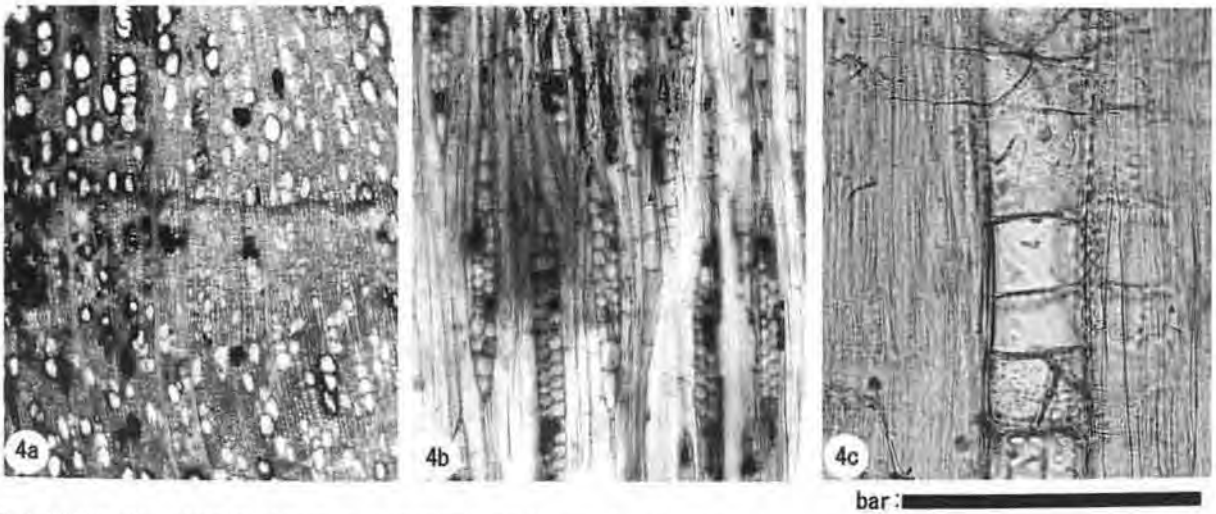


鷲山蝉遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真（平成17年度報告）

5a－5c：トチノキ（試料H17－9、漆器椀）　6a・6c：タケ亜科（竹類）（試料H17－20－3、曲物木釘）

7a：タケ亜科（竹類）（試料H17－27－2、不明）

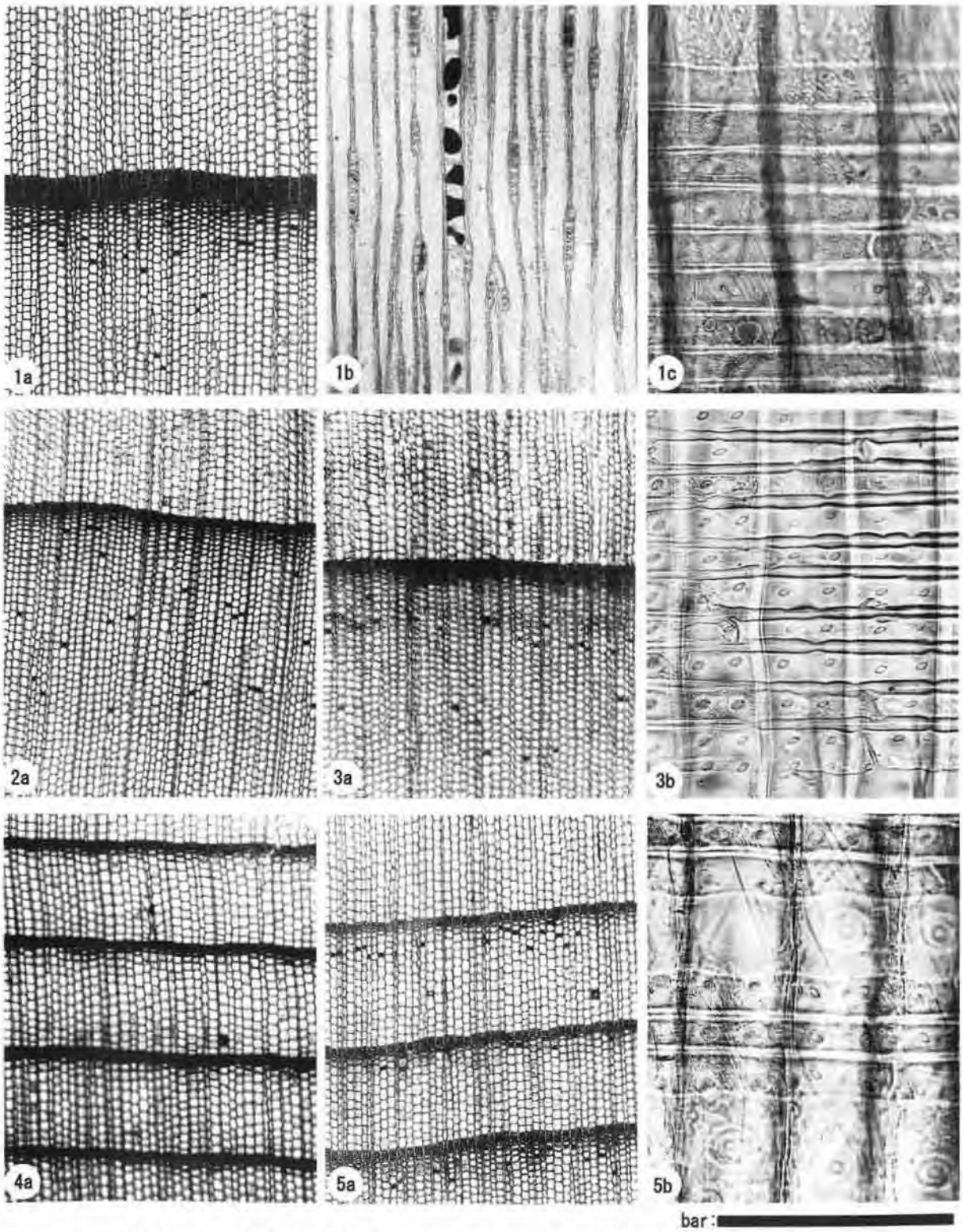
a：横断面　b：接線断面　c：放射断面　Scale bar：a＝1.0mm，　b・6c＝0.4mm，　5c＝0.2mm



鷲山蝉遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真（平成18年度報告）

4a－4c：イイギリ（試料H18－1、下駄）

a：横断面？b：接線断面？c：放射断面　Scale bar：a＝1.0mm，　b＝0.4mm，　c＝0.2mm



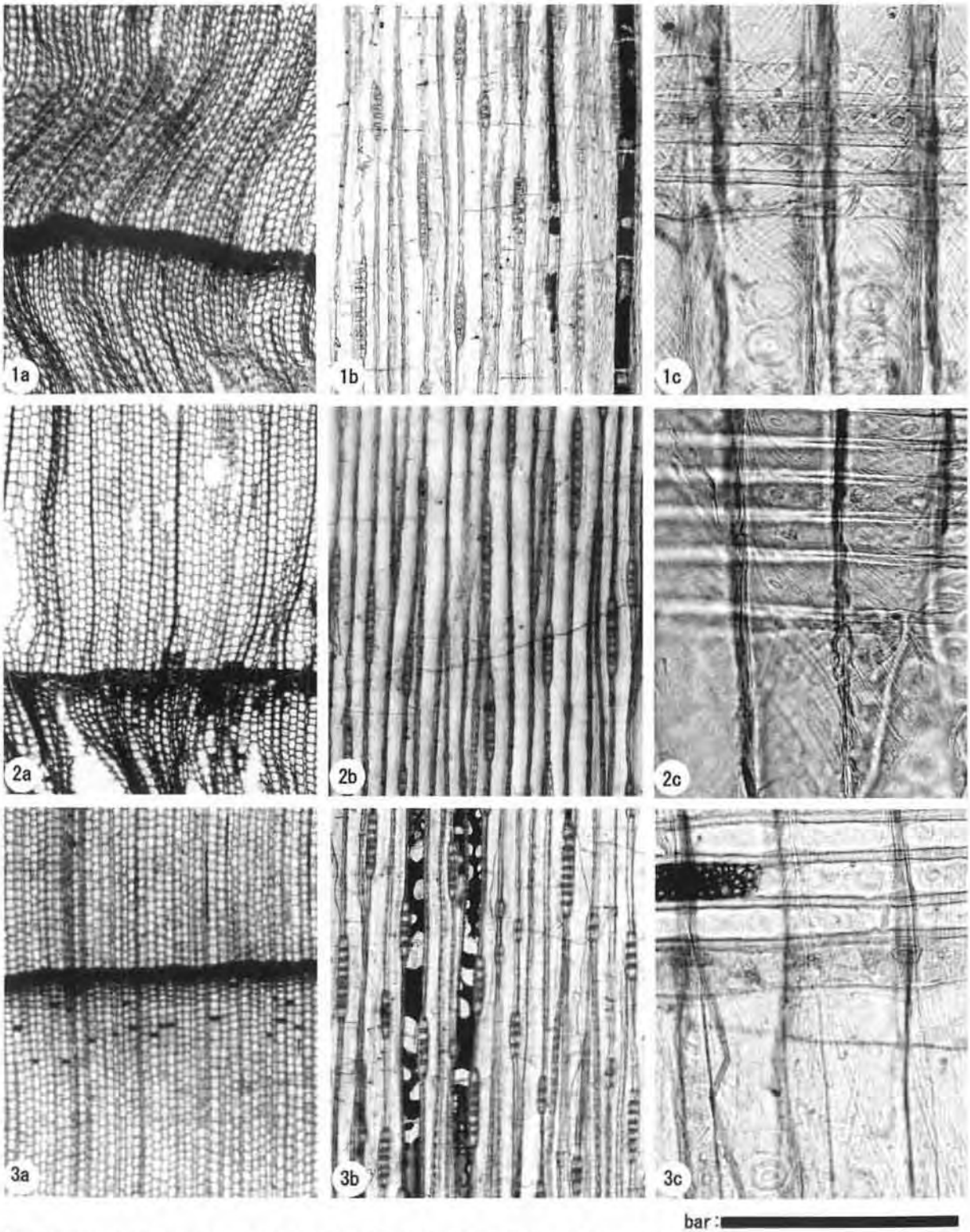
鷺山蝉遺跡B6区SE01井戸側部材の材組織光学顕微鏡写真（平成16年度報告）

1a－1c：サワラ（内側に落下板材№3） 2a：サワラ（上部桶№1） 3a・3c：サワラ（上部桶№6）

4a：サワラ（下部桶№4） 5a・5c：サワラ（下部桶№7）

a：横断面 b：接線断面 c：放射断面 Scale bar：a＝1.0mm， b＝0.4mm， c＝0.1mm

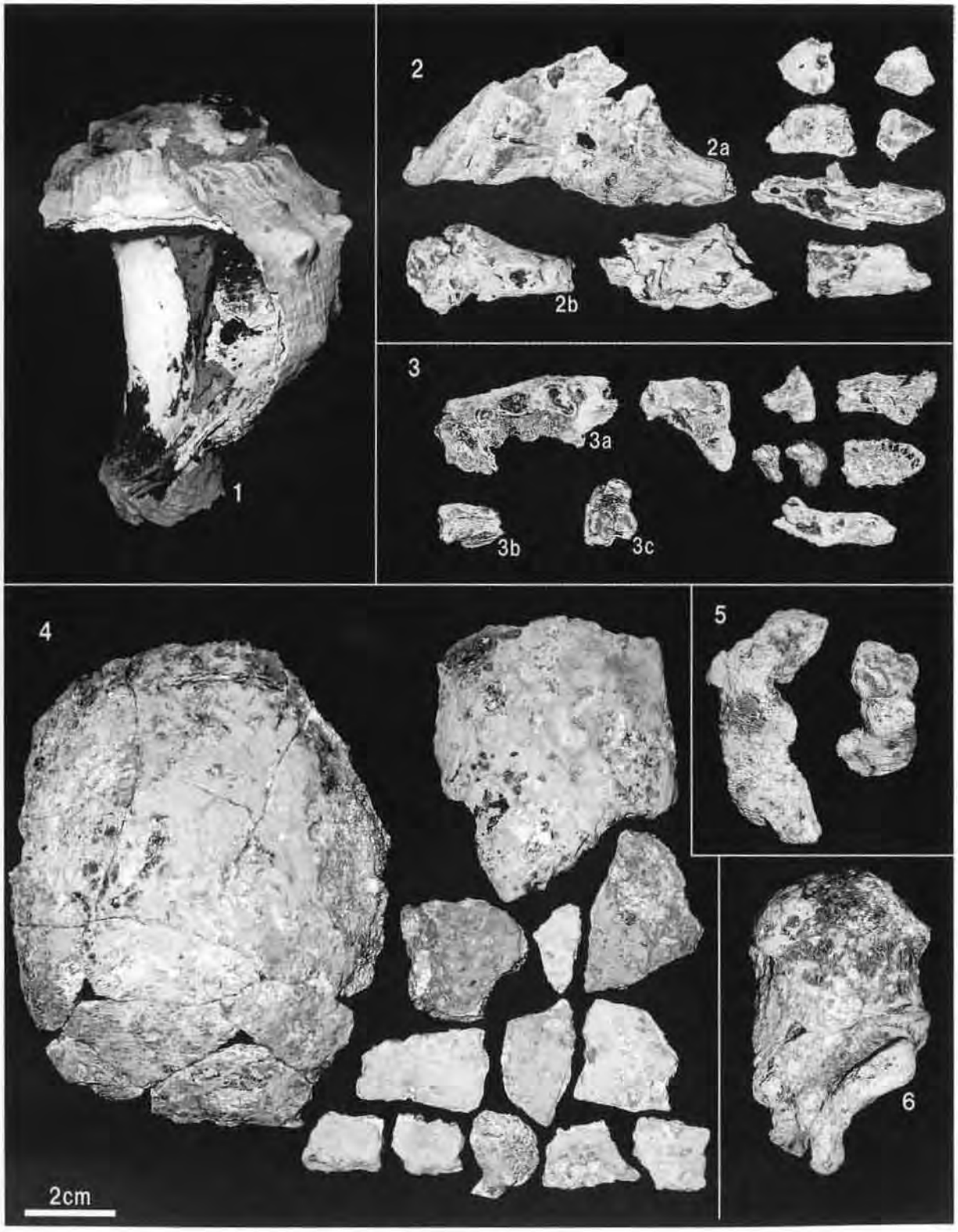
図版50



鷺山蝉遺跡A3区SE05井戸側部材の材組織光学顕微鏡写真（平成18年度報告）

1a－1c：スギ（No.14内 井戸枠）2a－2c：サワラ（No.13内 井戸枠）3a－3c：ヒノキ属（No.91 井戸枠）

a：横断面？b：接線断面？c：放射断面 Scale bar：a＝1.0mm, b＝0.4mm, c＝0.1mm



鷺山蝉遺跡出土動物遺体（1）

1．アカニシ（鷺山蝉遺跡A1区SD14）

2・3．イヌ　頭蓋骨　破片（鷺山蝉遺跡B3区SD03）

2a；上顎骨　左，2b；切歯骨，3a；上顎骨　右，

3b；左上顎第4小臼歯，3c；左上顎第1大臼歯

4～6．ヒト（鷺山蝉遺跡B3区SD03）

4頭蓋骨，5椎骨，6踵骨

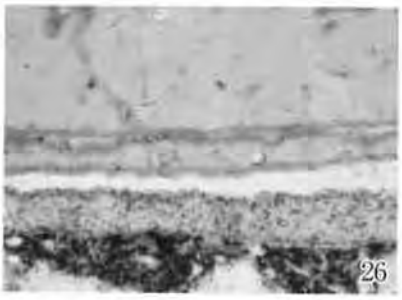
図版52

鷺山蝉遺跡出土動物遺体（2）
ウシ（鷺山蝉遺跡B8区SD86出土）
1・2．肩甲骨（1右，2左）　3・4．上腕骨（3右，4左）
5．中足骨　左　6・7．基節骨　8・9．中節骨
10・11．尺骨（10右，11左）　12・13．橈骨（12右，13左）　14．肋骨

漆膜構造調査断面顕微鏡写真（1）

1．No.1内面（×400）
2．No.1外面（×800）
3．No.2内面（×400）
4．No.2外面（×800）
5．No.3内面（×800）
6．No.3外面（×800）
7．No.4内面（×800）
8．No.4外面（×800）
9．No.5内面（×800）
10. No.5外面（×400）
11. No.6内面（×800）
12. No.6外面（×800）
13. No.7内面（×800）
14. No.7外面（×400）

図版54



漆膜構造調査断面顕微鏡写真（2）

15. No.8内面（×400）
16. No.8外面（×400）
17. No.9内面（×400）
18. No.9外面（×400）
19. No.10内面（×400）
20. No.10外面（×400）
21. No.11内面（×200）
22. No.11内面（×800）
23. No.11外面（×200）
24. No.11外面（×800）
25. No.11高台内（×200）
26. No.11高台内（×800）
27. No.12内面（×400）
28. No.12外面（×400）

29

30

31

32

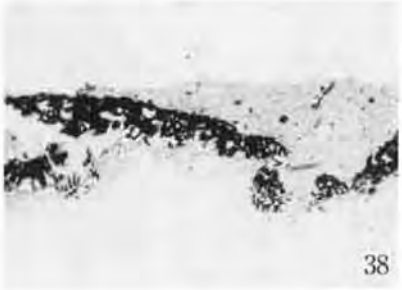
33

34

35

36

37


38

39

40

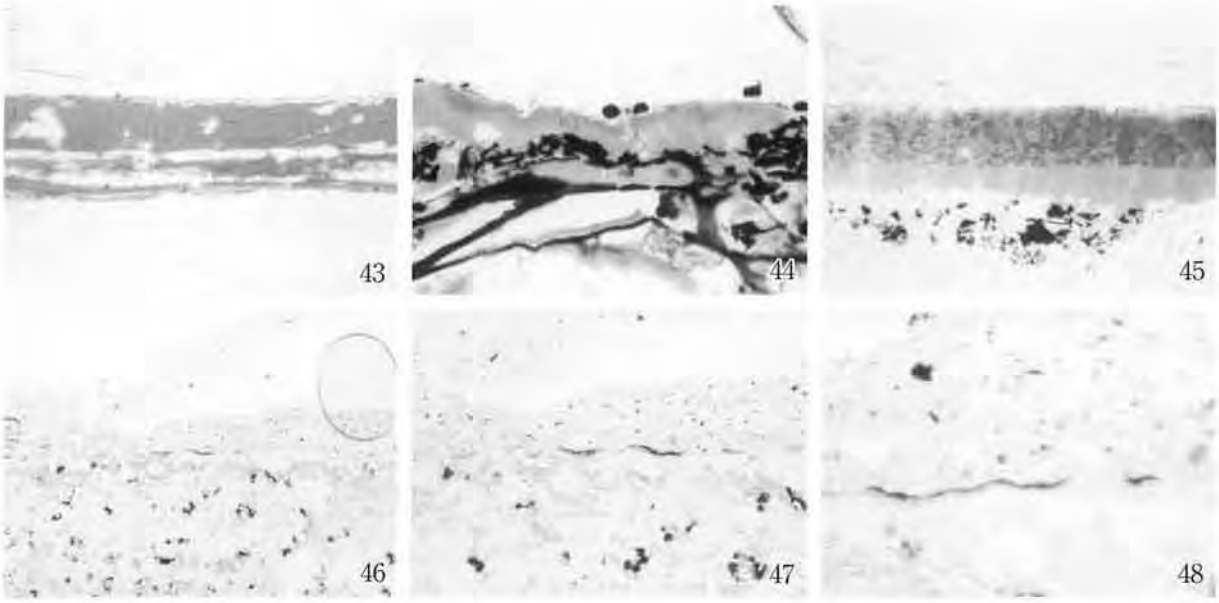
41

42

漆膜構造調査断面顕微鏡写真（3）

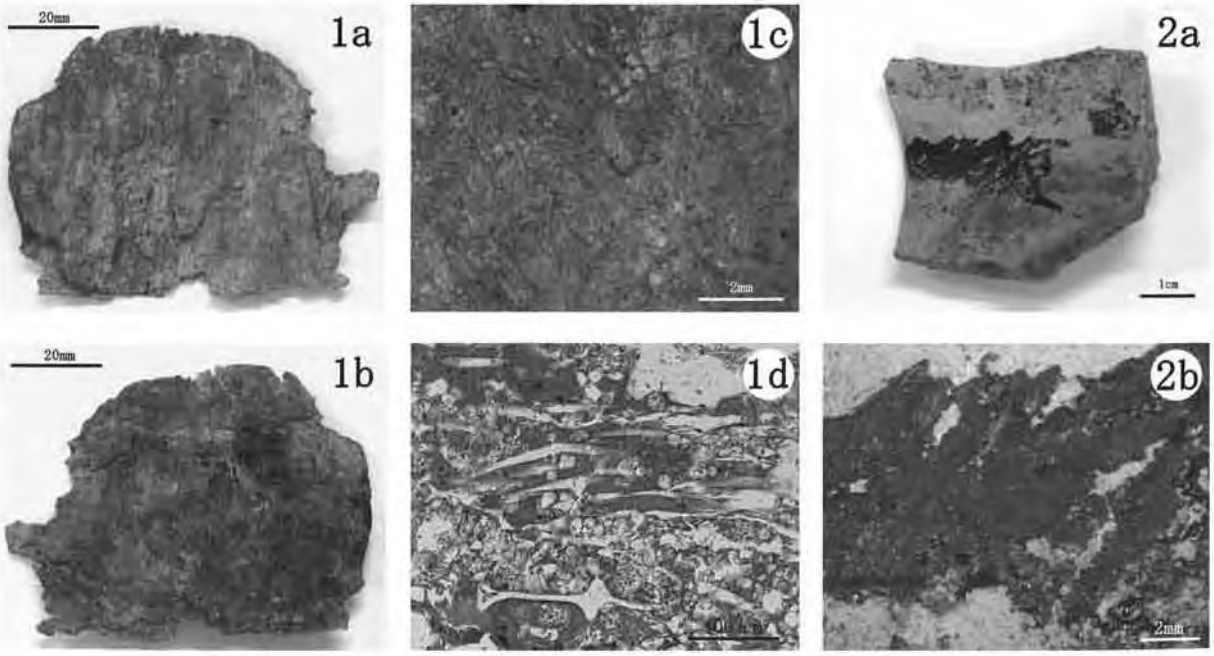
29. No.13内面（×400）
30. No.13外面（×800）
31. No.14内面（×800）
32. No.14外面（×800）
33. No.15内面（×400）
34. No.15外面（×400）
35. No.16内面（×800）
36. No.16外面（×400）
37. No.17内面（×200）
38. No.17外面（×400）
39. No.18内面（×400）
40. No.18外面（×400）
41. No.19内面（×400）
42. No.19外面（×800）

図版56



漆膜構造調査断面顕微鏡写真（4）

43. No.19内面付着漆膜（×400）
44. No.20内面（×800）
45. No.20外面（×800）
46. 銅製巡方表面付着物の断面（×200）
47. 銅製巡方表面付着物の断面（×400）
48. 銅製巡方表面付着物の断面（×800）



付着物の外観と実体顕微鏡写真

1. SK31出土土師器皿間に挟まれていた付着物
（a：上面、b：下面、c：上面の拡大、d：断面薄片の顕微鏡写真）
2. SK95出土須恵器内面付着物
（a：付着状況、b：拡大）

報告書抄録

フリガナ	サギヤマセミ・サギヤマセンドウイセキ
書名	鷺山蟬・鷺山仙道遺跡
副書名	岐阜市鷺山第二土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査
巻次 シリーズ名	（財）岐阜市教育文化振興事業団
シリーズ番号	第15集
編著者名	朝田公年・大嵩崎泰明・内堀信雄・新山雅弘・藤根久・植田弥生・野村敏江・鈴木茂・黒澤一男・（株）吉田生物研究所
編集機関	財団法人　岐阜市教育文化振興事業団
所在地	〒500−8245　岐阜市上川手770番地
発行年月日	平成19年3月15日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村　遺跡番号	北緯	東経	調査面積	調査期間	調査原因
鷺山蟬遺跡	岐阜市 鷺山字東蟬・ 字雨屋	21201 G33G07183	35° 26′ 42″	136° 45′ 54″	600㎡	2003.5.29 ～ 2007.3.15	岐阜市鷺山第二土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査
鷺山仙道遺跡	岐阜市 鷺山 字西蟬	21201 G33G08651	35° 26′ 43″	136° 45′ 52″	3,358㎡		

所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鷺山蟬遺跡・鷺山仙道遺跡	縄文時代 晩期	土器集積・溝・落ち込み・低地	縄文土器（晩期稲荷山式～馬見塚式）	晩期中葉稲荷山式土器の出土 突帯文土器の出土
	弥生時代	溝・流路・土器集積・低地	弥生土器（遠賀川系土器・条痕文土器）	遠賀川系土器と条痕文系土器の出土。微高地縁辺部に溝を確認。
	古墳時代	竪穴式住居・溝・土坑・低地	土師器（S字状口縁台付甕・柳ヶ坪型壺・小型丸底壺） 須恵器（杯など）	竪穴住居跡確認。微高地縁辺部に溝を確認。
	古代	竪穴式住居・土坑・ピット・溝・低地	土師器（伊勢型甕・平底甕等） 須恵器（美濃須衛・猿投等） 焼塩土器（美濃式製塩土器） 灰釉陶器・銅製品（巡方）	竪穴住居跡多数確認。 ピット内より銅製の巡方が出土。須恵器を重ねて埋納したピットを確認。
	中世	土坑・ピット・堀・溝・流路	土師器（皿・鍋・羽釜） 山茶碗・陶器（古瀬戸・常滑） 中国産磁器（青磁・白磁） 銅銭（渡来銭）	蟬土手城館跡内、あるいは近接地で旧来の条里に沿った溝を複数確認。
	戦国時代	掘立柱建物・石組遺構・土坑・ピット・井戸・溝・堀・土塁	土師器（皿・鍋） 陶器（古瀬戸・大窯・常滑） 中国産磁器（青磁・染付） 木製品（漆器椀・折敷・箸・将棋駒）銅銭（渡来銭）	蟬土手城館跡の堀と土塁を確認。蟬土手城館跡西側で屋敷跡を確認。戦国期の地割が旧来の条里と規模・方向と合わないことが判明。

鷺山蝉・鷺山仙道遺跡

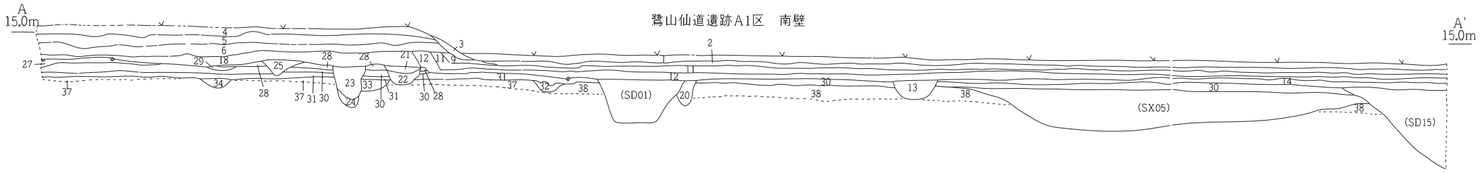
－岐阜市鷺山第二土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査－

平成19年3月

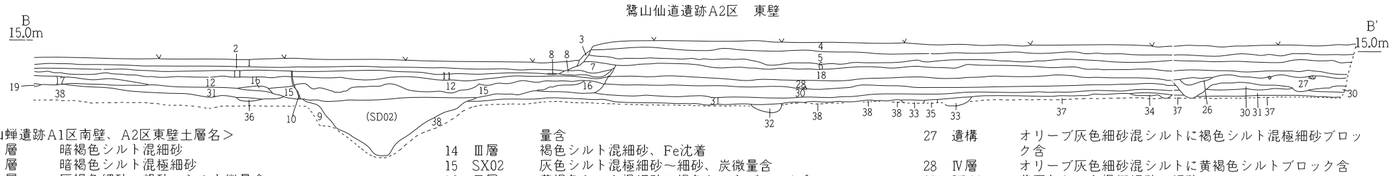
発行　（財）岐阜市教育文化振興事業団
岐阜市上川手770番地

印刷　西濃印刷株式会社
岐阜市七軒町15番地

鷺山仙道遺跡A1区　南壁



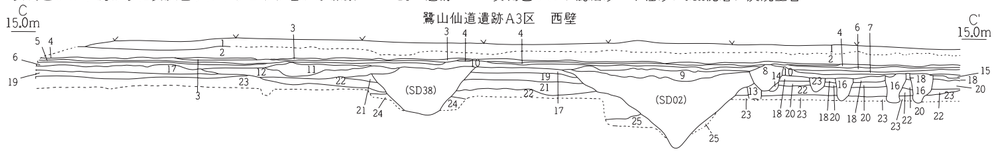
鷺山仙道遺跡A2区　東壁



＜鷺山蝉遺跡A1区南壁、A2区東壁土層名＞

1	Ⅰ層	暗褐色シルト混細砂
2	Ⅰ層	暗褐色シルト混極細砂
3	Ⅰ層	灰褐色細砂～粗砂、シルト微量含
4	Ⅰ層	灰褐色細砂～中粒砂、シルト微量含
5	Ⅰ層	灰褐色極細砂～細砂、シルト微量含（ややしまる）
6	Ⅰ層	褐色シルト混細砂（ややしまる）
7	Ⅰ層	暗灰色シルト混細砂、炭微量含
8	Ⅰ層	灰色シルト混極細砂～細砂
9	Ⅰ層	灰色シルト混極細砂～細砂
10	噴砂	黄褐色細砂
11	Ⅱ層	オリーブ灰色シルト混細砂
12	Ⅱ層	褐色シルト混極細砂(Fe沈着)
13	SD10	黄褐色シルト混細砂に黄灰色シルトブロック含、小礫微量含
14	Ⅲ層	褐色シルト混細砂、Fe沈着
15	SX02	灰色シルト混極細砂～細砂、炭微量含
16	Ⅲ層	黄褐色シルト混細砂に褐色シルトブロック含
17	Ⅲ層	黄褐色細砂に黄灰色シルトブロック含、炭微量含
18	Ⅲ層	褐色シルト混極細砂～細砂（ややしまる）
19	Ⅲ層	黄褐色シルト混細砂
20	Pit124	灰褐色シルト混細砂
21	Pit	灰褐色シルト混細砂～小礫
22	Pit	灰褐色シルト混細砂に黄褐色シルトブロック含
23	Pit117	灰褐色シルト混細砂～小礫
24	Pit117	灰褐色シルト混細砂に黄褐色シルトブロック含
25	Pit118	灰褐色シルト混細砂～小礫
26	遺構	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、Mn沈着、炭焼土含
27	遺構	オリーブ灰色細砂混シルトに褐色シルト混極細砂ブロック含
28	Ⅳ層	オリーブ灰色細砂混シルトに黄褐色シルトブロック含
29	SD09	黄灰色シルト混極細砂～細砂
30	Ⅴ層	黄褐色シルト混細砂
31	Ⅴ層	黄褐色シルト混極細砂
32	SD11	黄褐色シルト混細砂に黄灰色シルトブロック含
33	SD13	灰褐色シルト混極細砂に褐色細砂ブロック含
34	SX13	灰褐色シルト混極細砂に褐色細砂ブロック含
35	Pit122	黄褐色シルト混細砂
36	遺構	黄褐色極細砂混シルト
37	低地	褐色細砂、シルト微量含
38	Ⅸ層	黄灰色細砂(上部にFe沈着)

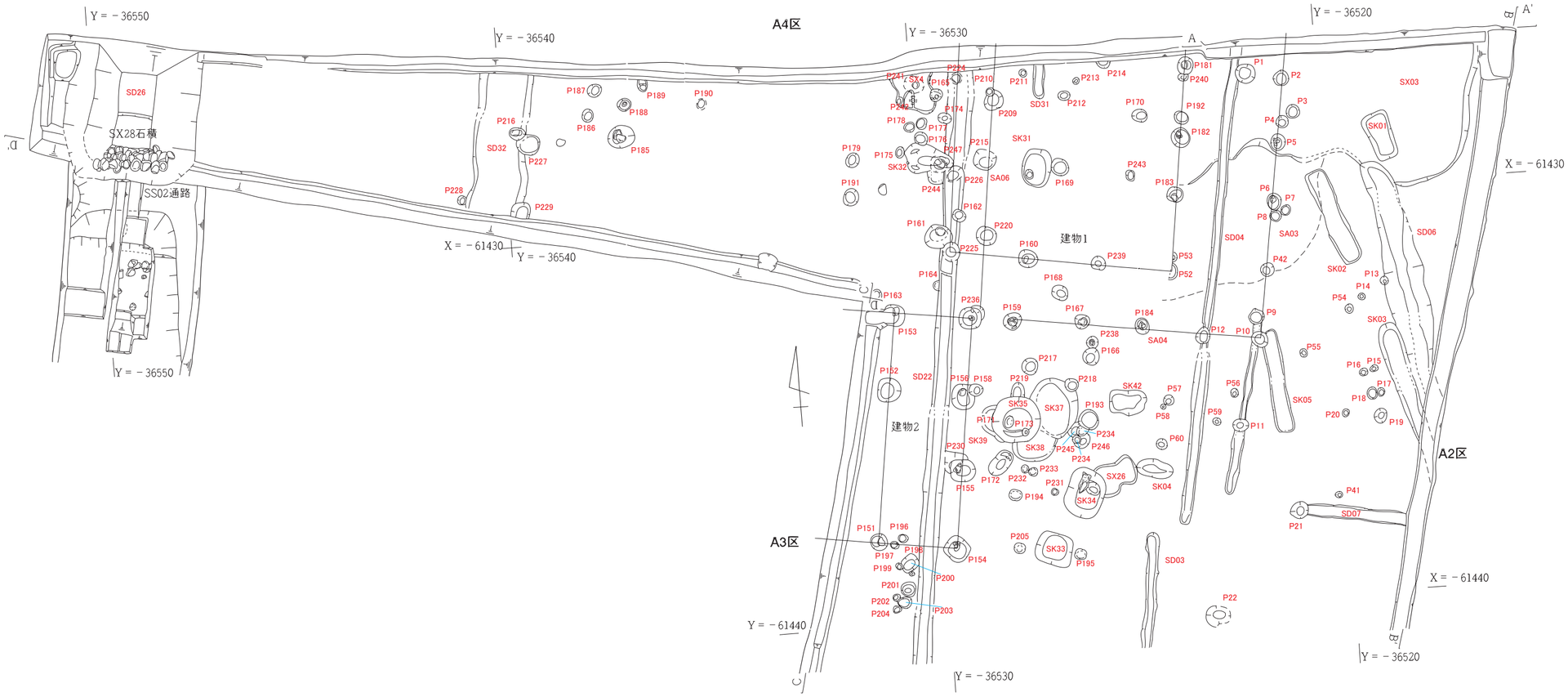
鷺山仙道遺跡A3区　西壁



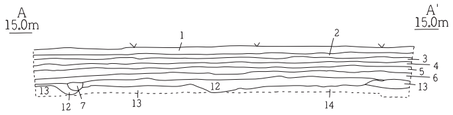
＜鷺山蝉遺跡A3区西壁土層名＞

1	0層	H15年度調査時残土
2	Ⅰ層	褐灰色シルト混細砂、Fe沈着
3	Ⅰ層	黄色シルト混細砂
4	Ⅱ層	褐灰色シルト混細砂、Mn・Fe沈着
5	Ⅱ層	灰黄褐色シルト混細砂、Mn・Fe沈着
6	Ⅱ層	黄灰褐色細砂、シルト微量含、Mn沈着
7	Ⅲ層	黄褐色細砂、シルト・焼土・炭微量含、Mn沈着
8	SD24	茶褐色シルト混細砂、Mn沈着
9	SX02	灰色シルト混極細砂～細砂、炭微量含
10	Ⅲ層	灰褐色細砂～中粒砂、Mn沈着（しまりなし）
11	SX22	にぶい黄褐色細砂～中粒砂混シルト、黄褐色粗砂ブロック含、炭微量含（Mn粒含）
12	SX22	黄灰褐色シルト混細砂～中粒砂、炭・焼土、遺物含（Mn粒含）
13	Pit248	黄褐色シルト混細砂に暗褐色シルトブロック含、炭含
14	Pit249	黄褐色シルト混細砂に暗褐色シルトブロック含、炭含
15	遺構	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、Mn沈着、炭焼土含
16	Pit	黄褐色シルト混細砂に暗褐色シルトブロック含、炭含
17	Ⅳ層	黄褐色シルト混細砂、Mn・Fe沈着
18	Ⅳ層	黄灰色シルト混細砂～中粒砂、Mn・Fe沈着、炭微量含
19	Ⅴ層	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、Mn沈着
20	Ⅴ層	黄灰色シルト混極細砂～細砂、Mn・Fe沈着
21	SX05	灰黄褐色細砂混シルト、Fe沈着
22	SX05	黄灰色シルト、Fe沈着
23	Ⅶ層	褐色シルト混細砂、Mn沈着
24	Ⅸ層	黄褐色細砂、Mn・Fe沈着
25	Ⅸ層	灰色細砂～中粒砂

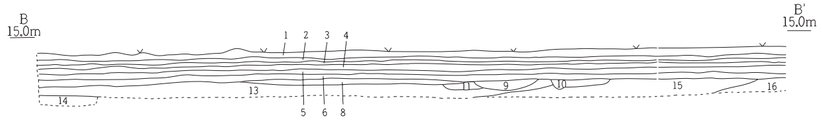
別添図１　鷺山蝉遺跡A1~3区全体図、土層断面図



鷺山蝉遺跡A2区　北壁



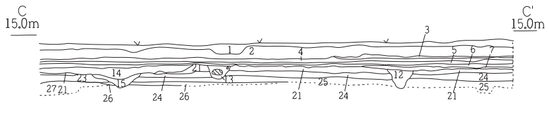
鷺山蝉遺跡A2区　東壁



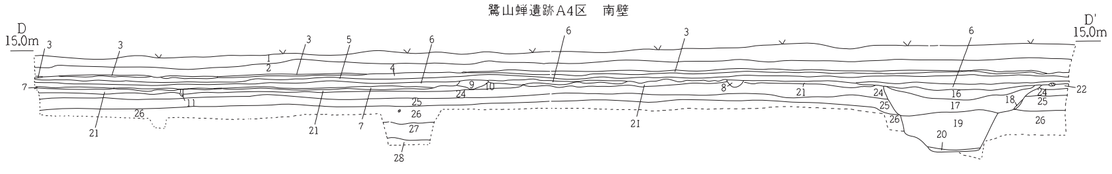
＜鷺山蝉遺跡A2区東壁・北壁土層名＞

1	Ⅰ層	暗褐色シルト混細砂
2	Ⅰ層	暗褐色シルト混極細砂
3	Ⅱ層	オリーブ灰色シルト混細砂
4	Ⅱ層	褐色シルト混極細砂、Fe沈着
5	Ⅲ層	黄褐色細砂に黄灰色シルトブロック含、炭微量含
6	Ⅲ層	黄灰色シルト混細砂
7	SD04	黄灰色細砂混シルト
8	低地	暗灰褐色シルト混極細砂
9	SK03	灰褐色シルト混極細砂～細砂
10	SD07	黄灰色細砂混シルト
11	SD06	灰褐色シルト混極細砂
12	SX03低地	灰褐色シルト混極細砂～細砂
13	低地	暗褐色シルト混極細砂
14	低地	明黄褐色シルト混極細砂
15	Ⅶ層	褐色細砂、シルト微量含
16	Ⅸ層	黄褐色細砂、上層にFe沈着

鷺山蝉遺跡A3区　西壁



鷺山蝉遺跡A4区　南壁

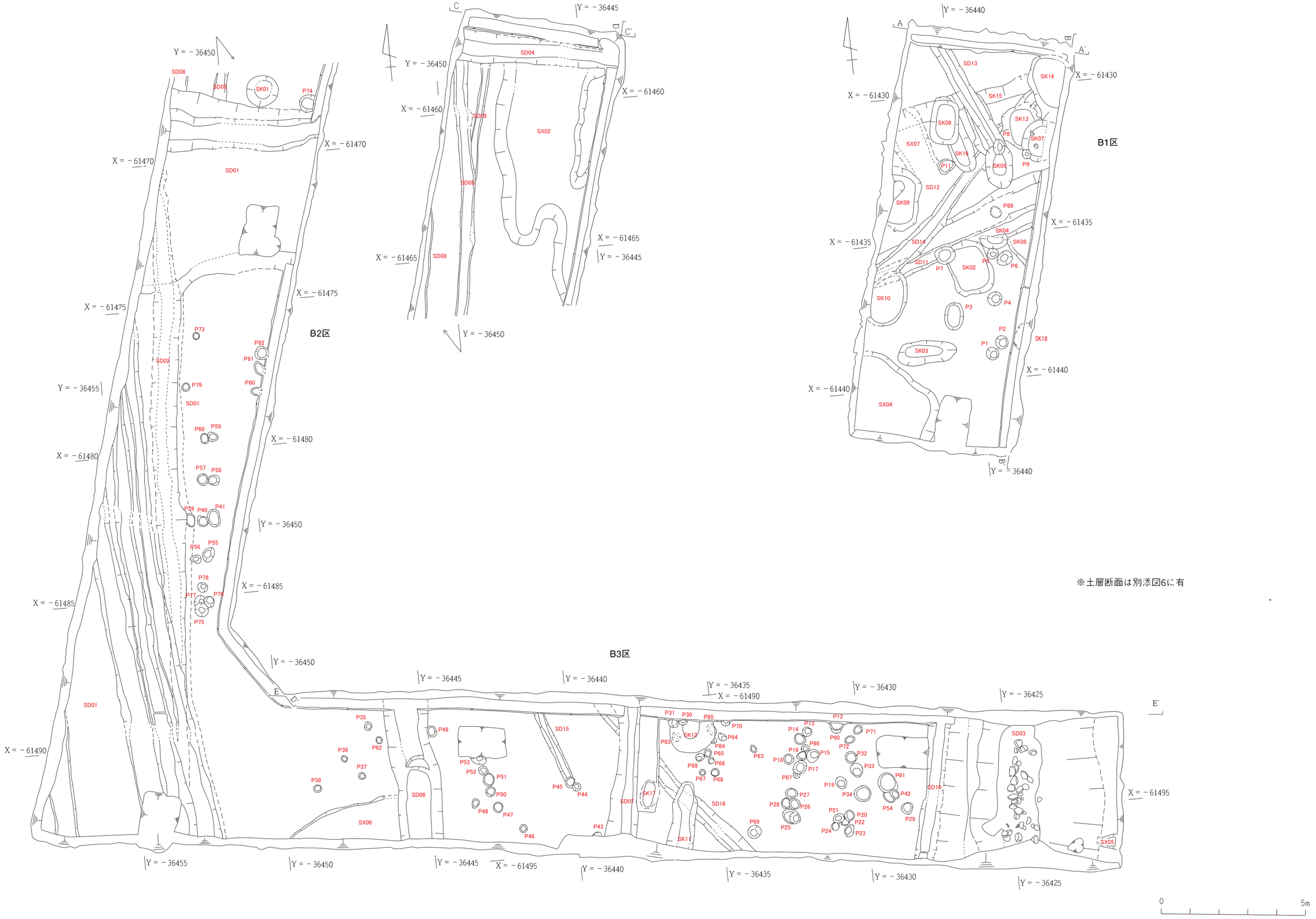


＜鷺山蝉遺跡A3区西壁、A4区南壁土層名＞

1	0層	H15年度調査時残土
2	Ⅰ層	褐灰色シルト混細砂、Fe沈着
3	Ⅰ層	黄色シルト混細砂
4	Ⅱ層	褐灰色シルト混細砂、Mn・Fe沈着
5	Ⅱ層	黄灰褐色細砂、シルト微量含、Mn沈着
6	Ⅲ層	黄褐色細砂、シルト・焼土・炭微量含、Mn沈着
7	Ⅲ層	黄褐色シルト混細砂に褐色粗砂含、焼土微量含、Mn沈着
8	Pit	黄色シルトに黄褐色シルトブロック含
9	遺構	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、シルト・炭化物微量含
10	SD32	茶褐色中粒砂～粗砂、シルト微量含、Mn沈着
11	生物擾乱	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、シルト微量含
12	Pit	黄褐色シルト混細砂に暗褐色シルトブロック含、炭含
13	Pit	灰褐色シルト混中粒砂～粗砂、小礫微量含、Mn沈着
14	遺構	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、Mn沈着、炭焼土含
15	遺構	褐色シルト混細砂、Mn・Fe沈着
16	SD26	黄褐色シルト混細砂、炭焼土微量含(Mn沈着)
17	SD26	黄灰色シルト混細砂炭焼土微量含
18	SD26	黄灰色細砂
19	SD26	緑灰色シルト混粘土、細砂微量含
20	SD26	褐色シルト混粘土、細砂微量含
21	Ⅳ層	黄灰色シルト混細砂～中粒砂、Mn・Fe沈着、炭微量含
22	Ⅳ層	灰褐色シルト混極細砂、Mn沈着、炭微量含
23	Ⅴ層	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、Mn沈着
24	Ⅴ層	黄灰色シルト混極細砂～細砂、Mn・Fe沈着
25	低地	黄灰色極細砂混シルト、Mn沈着
26	低地	暗茶褐色シルト混極細砂～細砂
27	Ⅶ層	褐色シルト混細砂、Mn沈着
28	Ⅸ層	黄灰色極細砂～細砂、Fe沈着

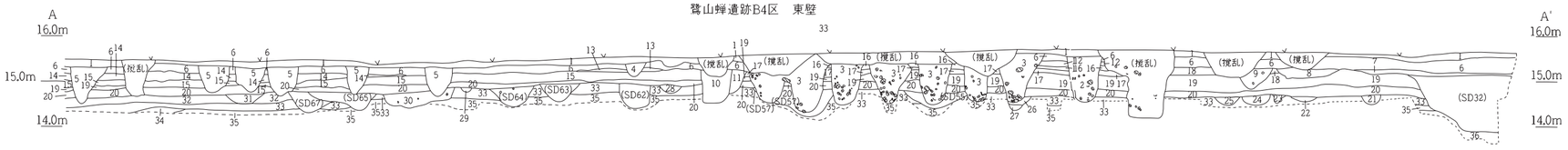
0　5m

別添図２　鷺山蝉遺跡A2～4区全体図、土層断面図

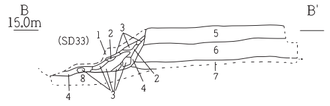


別添図３　鷺山蝉遺跡B1～3区全体図

鷲山蝉遺跡B4区　東壁



B4区

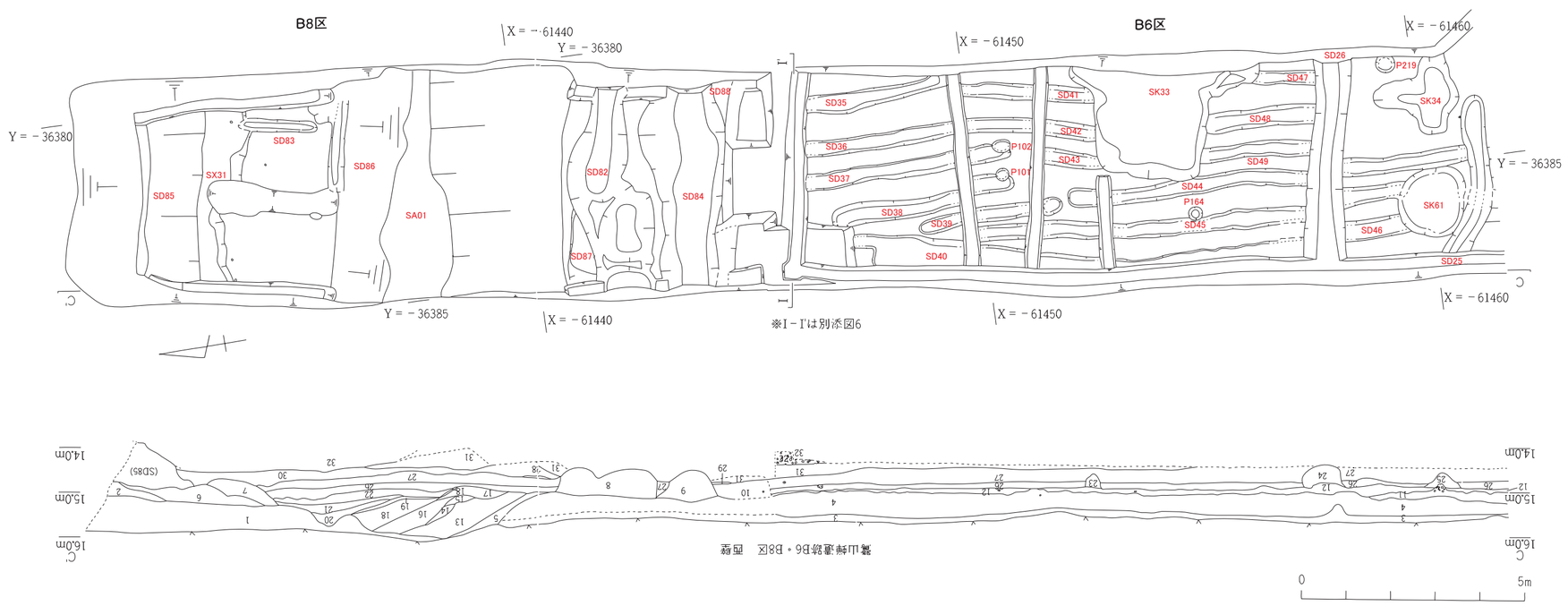


＜鷲山蝉遺跡B4区東壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰黄褐色シルト混細砂、小礫微量含
2	根跡	暗黄褐色中粒砂～粗砂、5～15cm大の礫含
3	根跡	黄褐色細砂～中粒砂、5～20cm大の礫含
4	根跡	黄褐色細砂混シルト、2～5cm大の礫含、炭含
5	根跡	黄褐色シルト混細砂～粗砂、2～15cm大の礫微量含、炭含
6	Ⅱ層	灰黄褐色シルト混細砂～粗砂、2～5cm大の礫微量含
7	Ⅱ層	灰黄褐色シルト混中粒砂～粗砂、3～5cm大の礫含、しまりなし
8	Ⅱ層	灰黄褐色シルト混中粒砂～粗砂、3～5cm大の礫含
9	SD28	灰褐色小礫混細砂～粗砂、しまりなし
10	根跡	灰黄褐色シルト混細砂～粗砂
11	根跡	黄褐色細砂混シルト、にぶい黄褐色シルトブロック含
12	Ⅱ層	にぶい黄褐色シルト混細砂、小礫含、しまりなし
13	Ⅱ層	灰褐色細砂混シルトに黄色細砂～中粒砂ブロック含
14	Ⅱ層	にぶい黄褐色シルト混細砂～粗砂、小礫微量含（しまりなし）
15	Ⅱ層	黄褐色シルト混細砂、小礫微量含、Mn沈着（しまりなし）
16	Ⅲ層	暗褐色シルト混細砂、小礫、炭化物微量含
17	Ⅲ層	にぶい黄褐色細砂～中粒砂混シルト、小礫、炭化物微量含
18	Ⅲ層	黄褐色細砂混シルトに黄色粗砂含、3～5cm大の礫含
19	SA02・07土墨盛土	黄褐色細砂混シルト、小礫微量含（しまりあり）
20	Ⅴ層	黄褐色極細砂～細砂混シルト
21	Pit240	暗褐色極細砂～細砂混シルト、黄色シルトブロック含
22	SD73	暗褐色極細砂～細砂混シルト、黄色シルトブロック含
23	Pit241	暗褐色極細砂～細砂混シルト、黄色シルトブロック含
24	SD74	暗褐色極細砂～細砂混シルト、黄色シルトブロック含
25	SD75	暗褐色極細砂～細砂混シルト、黄色シルトブロック含
26	SD53	灰褐色シルト混細砂～粗砂
27	SD53	暗褐色シルト混細砂～粗砂、小礫含
28	SD61	暗黄褐色細砂～粗砂混シルト
29	Pit242	にぶい黄褐色細砂混シルトに暗褐色細砂ブロック含
30	SK59	にぶい黄褐色中粒砂～粗砂、小礫微量含
31	SD66	黄褐色シルト混細砂
32	SK55	にぶい黄褐色細砂混シルト、Mn沈着
33	Ⅶ層	暗褐色シルト混細砂～中粒砂
34	低地	黄褐色細砂混シルトに黄橙色細砂ブロック含
35	Ⅸ層	黄褐色中粒砂～粗砂
36	Ⅹ層	暗褐色粗砂～小礫、2～10cm大の礫含

＜鷲山蝉遺跡B4区SA07土墨、SD33土層名＞

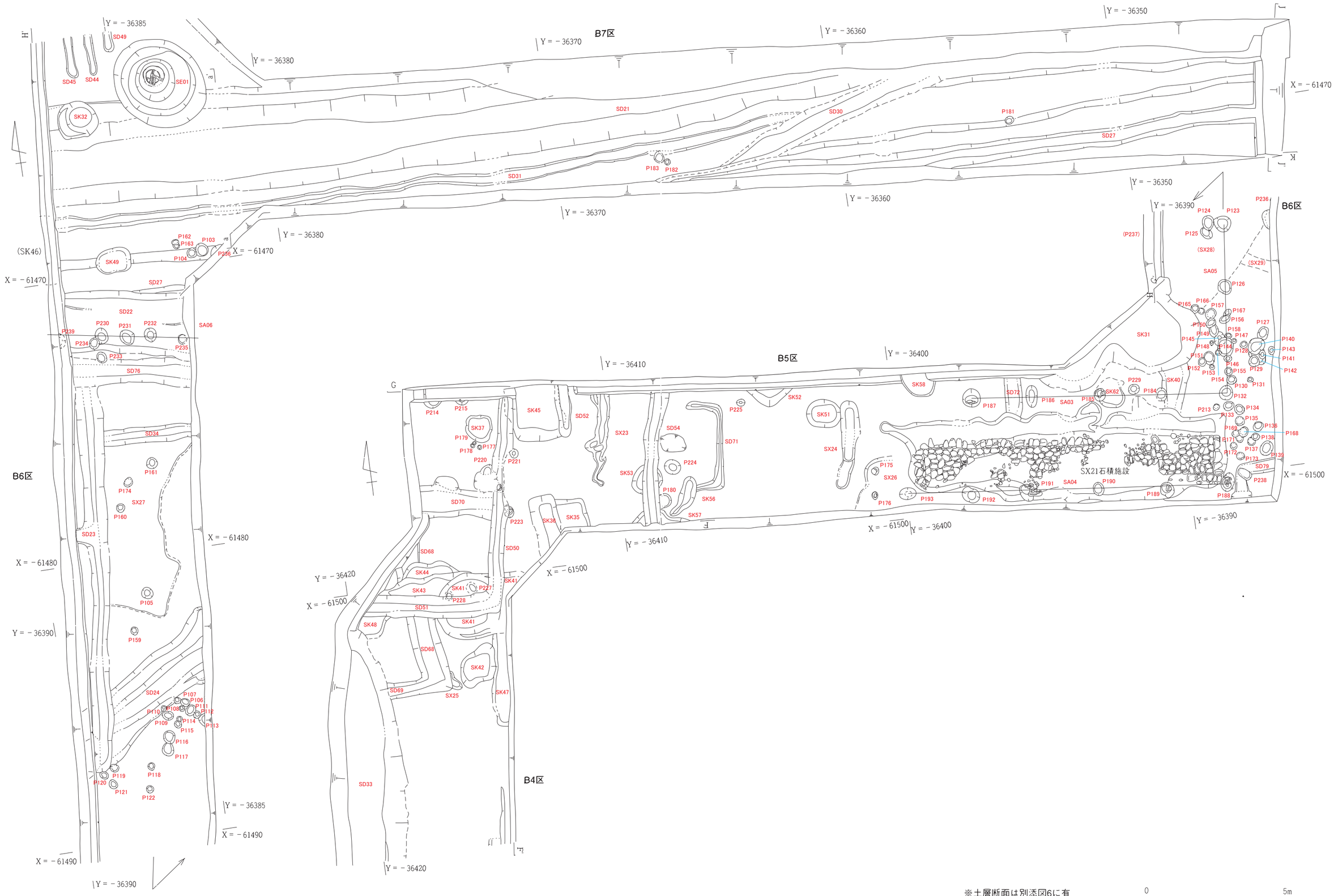
1	SD33	灰黄色粗砂、2～8cm大の礫含む
2	SD33	灰褐灰色シルト
3	SD33	黄褐色シルトブロック（堅くしまる）
4	SD33	灰褐色粗砂、シルト微量含（地山流出土）
5	SA07土墨盛土	黄褐色細砂混シルト、小礫微量含（しまりあり）
6	Ⅴ層	黄褐色極細砂～細砂混シルト
7	Ⅶ層	暗褐色シルト混細砂～中粒砂
8	Ⅸ層	黄褐色中粒砂～粗砂



＜鷲山蝉遺跡B6・B8区北壁土層名＞

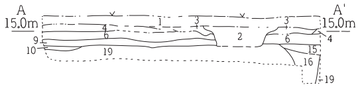
1	0層	褐色礫混粗砂
2	0層	灰褐色小礫混シルト
3	Ⅰ層	灰色小礫混細砂～粗砂、シルト微量含
4	Ⅱ層	灰褐色小礫混細砂～粗砂、シルト微量含
5	Ⅱ層	灰褐色シルト混細砂～粗砂、小礫多量含
6	SX31	黄褐色細砂混シルト、2～5cm大の礫含
7	SX32	暗褐色細砂混シルト、2～5cm大の礫含
8	SD82	褐色粗砂混シルト、礫多量含
9	SD84・87	褐灰色粗砂混シルト、礫多量含
10	Ⅲ層	黄灰褐色粗砂混シルト
11	Ⅲ層	褐色シルト混細砂～粗砂、小礫含
12	Ⅲ層	黄褐色シルト混細砂
13	SA01	茶褐色シルト混細砂、礫微量含
14	SA01	茶褐色シルト混細砂、礫含
15	SA01	茶褐色細砂、礫含
16	SA01	黄灰色細砂、礫多量含
17	SA01	5～10cm大の礫
18	SA01	茶褐色シルト混細砂、礫微量含
19	SA01	茶褐色シルト、礫多量含
20	SA01	黄茶褐色シルト、小礫微量含
21	SA01	黄茶褐色シルト、礫多量含
22	SA01	茶褐色シルト混細砂
23	Pit243	褐色シルト混細砂、小礫微量含
24	SD26	黄褐色シルト混極細砂～細砂、小礫微量含
25	SD25	黄褐色シルト混細砂、小礫含
26	Ⅴ層	黄灰色シルト混極細砂～細砂
27	Ⅶ層	暗茶褐色細砂、シルト微量含
28	SD89	茶褐色シルト混細砂
29	SD88	灰褐色シルト
30	Ⅶ層	にぶい茶褐色細砂～粗砂
31	Ⅸ層	黄灰色細砂
32	Ⅹ層	灰褐色粗砂、5～10cm の礫多量含

別添図４　鷲山蝉遺跡B4・6・8区全体図

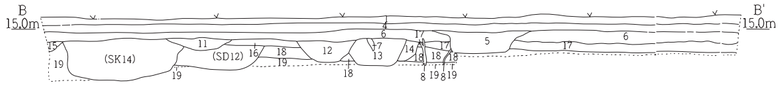


別添図５　鷺山蝉遺跡B5～7区全体図

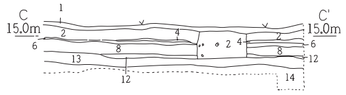
鷺山蝉遺跡B1区　北壁



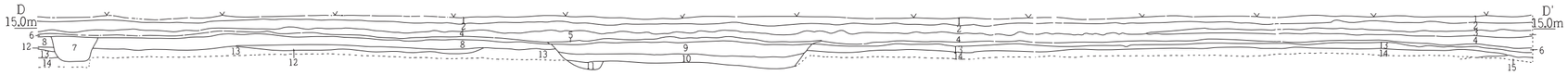
鷺山蝉遺跡B1区　東壁



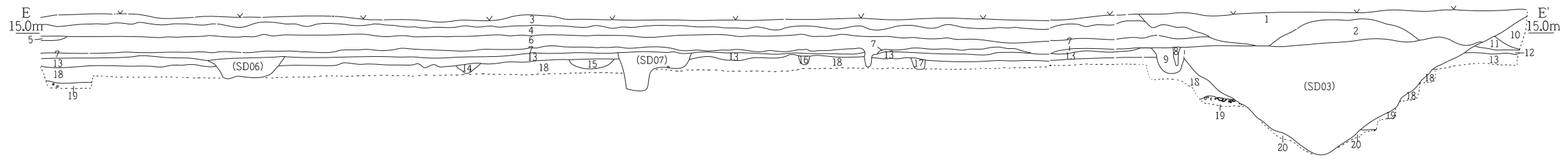
鷺山蝉遺跡B2区　北壁



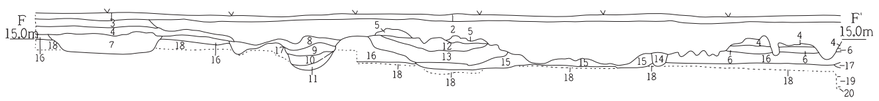
鷺山蝉遺跡B2区　東壁



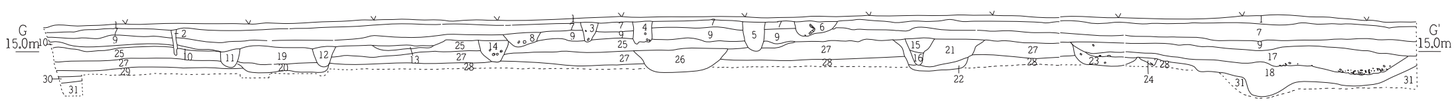
鷺山蝉遺跡B3区　北壁



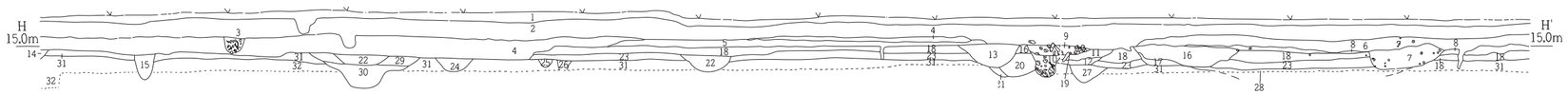
鷺山蝉遺跡B4区　東壁



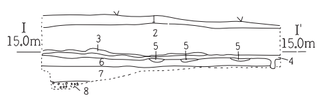
鷺山蝉遺跡B5区　北壁



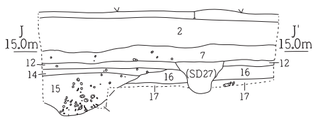
鷺山蝉遺跡B6区　西壁



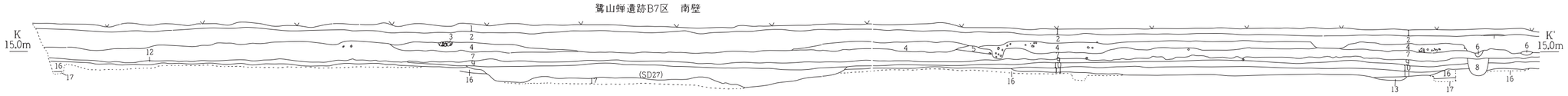
鷺山蝉遺跡B6区　北壁



鷺山蝉遺跡B7区　東壁



鷺山蝉遺跡B7区　南壁



＜鷺山蝉遺跡B1区北壁・東壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰褐色細砂～粗砂、シルト微量含
2	試掘トレンチ	
		黄褐色細砂～粗砂、シルト・礫微量含
3	Ⅰ層	黄灰色細砂
4	Ⅱ層	黄褐色細砂～粗砂、シルト微量含
5	SK18	黄褐色シルト混細砂に褐色シルトブロック含
6	Ⅲ層	黄褐色シルト混極細砂～細砂、小礫微量含
7	根跡	黄褐色細砂、シルト微量含
8	噴砂	黄灰色細砂～中粒砂
9	Ⅲ層	褐色細砂～粗砂、シルト微量含
10	SD13	褐色粗砂～小礫、シルト微量含
11	SK07	黄褐色シルト混細砂、小礫微量含
12	SD11	褐色シルト混極細砂
13	SK08	黄褐色細砂混シルト
14	Pit	褐色細砂混シルト
15	SD14	茶褐色シルト混細砂～粗砂、小礫含
16	SD14	茶褐色シルト混極細砂～細砂
17	Ⅴ層	黄褐色シルト混極細砂に茶褐色シルト混細砂ブロック含
18	Ⅸ層	黄灰色細砂
19	Ⅹ層	黄灰色粗砂、1～5cmの礫含

＜鷺山蝉遺跡B2区北壁・東壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰褐色細砂～粗砂、シルト微量含
2	Ⅱ層	黄褐色細砂～粗砂、シルト微量含
3	Ⅱ層	黄褐色極細砂～細砂、シルト・粗砂微量含
4	Ⅲ層	黄褐色シルト混極細砂～細砂、小礫微量含
5	Ⅲ層	黄褐色シルト混極細砂に茶褐色シルト混細砂ブロック含
6	Ⅲ層	黄褐色シルト混極細砂
7	SD04	黄灰色シルト混極細砂、小礫微量含
8	Ⅴ層	茶褐色シルト混極細砂、小礫微量含
9	SD01	黄褐色極細砂混シルト、2～5cm大の礫含
10	SD01	黄褐色細砂混シルト、小礫微量含
11	SD01	茶褐色シルト混細砂、2～5cm大の礫含
12	SX02低地	茶褐色極細砂混シルト
13	Ⅶ層	茶褐色シルト混細砂
14	Ⅸ層	黄灰色極細砂～細砂、シルト微量含
15	Ⅸ層	黄灰色細砂

＜鷺山蝉遺跡B3区北壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰褐色細砂～粗砂、シルト微量含、5cm大の礫含
2	Ⅰ層	褐色粗砂～小礫、シルト微量含、2～5cm大の礫含
3	Ⅰ層	灰褐色細砂～粗砂、シルト微量含
4	Ⅱ層	黄褐色細砂～粗砂、シルト微量含
4	Ⅱ層	黄褐色シルト混極細砂～細砂
5	Ⅱ層	黄褐色極細砂～細砂、シルト・粗砂微量含
6	Ⅲ層	黄褐色シルト混極細砂～細砂、小礫微量含
7	Ⅲ層	黄褐色シルト混極細砂
8	生物擾乱	灰色シルト混極細砂
9	SD10	黄褐色シルト混細砂
10	SA02土墨	黄褐色シルト混極細砂、粗砂微量含
11	SA02土墨	黄褐色シルト混極細砂
12	Ⅴ層	黄褐色シルト混細砂
13	Ⅶ層	茶褐色シルト混細砂
14	SD15	褐色シルト混細砂
15	SD16	褐色細砂混シルト
16	Pit	褐色シルト混細砂
17	Pit	茶褐色シルト混細砂
18	Ⅸ層	黄灰色細砂
19	Ⅹ層	灰褐色小礫、2～5cm大の礫多量含
20	Ⅹ層	灰褐色粗砂

＜鷺山蝉遺跡B4区東壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰黄褐色シルト混細砂、小礫微量含
2	Ⅰ層	黄褐色シルト混細砂～粗砂、2～15cm大の礫微量含、炭含
3	Ⅱ層	灰黄褐色シルト混細砂～粗砂、2～5cm大の礫微量含
4	Ⅱ層	にぶい黄褐色シルト混細砂～粗砂、小礫微量含（しまりなし）
5	Ⅲ層	黄褐色シルト混細砂、小礫微量含、Mn沈着（しまりなし）
6	SA02土墨盛土	
		黄褐色細砂混シルト、小礫微量含（しまりあり）
7	SK57	にぶい黄褐色細砂混シルト
8	SK35	黄褐色細砂混シルト（しまりなし、Mn粒含）
9	SK36	黄灰褐色細砂混シルト（しまりなし、Mn粒含）
10	SK36	淡灰褐色シルト混細砂（Mn粒含）
11	SK36	淡褐灰色細砂混シルト（Mn粒含）
12	SK41	褐灰色極細砂～細砂混シルト（Mn粒多量含）
13	SK41	黄褐色細砂混シルト、2～5cm礫微量含（Mn粒含）
14	Pit	黄褐色小礫混シルト
15	SK47	茶褐色シルト混極細砂～細砂
16	Ⅴ層	黄褐色極細砂～細砂混シルト
17	SK55	にぶい黄褐色細砂混シルト（Mn沈着）
18	Ⅶ層	暗褐色シルト混極細砂～細砂
19	低地	黄褐色細砂混シルトに黄橙色細砂ブロック含
20	Ⅸ層	黄褐色中粒砂～粗砂

＜鷺山蝉遺跡B5区北壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰色小礫混細砂～粗砂、シルト微量含
2	杭跡	褐灰色シルト混細砂
3	根跡	褐色細砂混シルト、2cm大の礫含
4	根跡	明黄褐色細砂混シルト、炭化物・2cm大の礫含
5	根跡	褐色小礫混シルト
6	根跡	明黄褐色細砂混シルト、炭化物・2cm大の礫含（しまりなし）
7	Ⅱ層	灰褐色小礫混細砂～中粒砂
8	根跡	明黄褐色細砂混シルト、炭化物含（しまりなし）
9	Ⅲ層	褐色シルト混細砂～粗砂、小礫含
10	SA02土墨盛土	
		淡黄褐色細砂混シルト(しまりあり、小礫微量含)
11	SD50	淡黄褐色細砂～中粒砂混シルト(Mn粒含)
12	SD52	黄褐色細砂混シルトに、淡黄色シルトブロック含(しまりなし、Mn粒含)
13	SX23	明黄褐色シルト混細砂に黄色シルトブロック含、2～5cm大の礫含
14	SD54	淡黄褐色細砂混シルト、2～5cm大の礫含、炭化物微量含
15	Pit	灰褐色シルト混細砂
16	Pit	黄褐色細砂混シルト
17	SK31	黄褐色シルト混細砂～礫、中礫含
18	SK31	黄褐色シルト混極細砂～細砂、2～5cm大の礫微量含
19	SK45	褐色シルト混極細砂
20	SK45	灰褐色シルト混極細砂
21	SK58	にぶい黄褐色シルト混細砂に黄色極細砂～細砂ブロック含
22	SK58	暗褐色シルト混細砂に黄色極細砂～細砂ブロック含
23	SD72	にぶい黄褐色細砂混シルト
24	Pit	にぶい黄褐色シルト混細砂
25	Ⅴ層	黄褐色極細砂～細砂混シルト
26	SK52	にぶい黄褐色シルト
27	Ⅴ層	黄褐色細砂混シルト
28	Ⅶ層	褐色シルト混細砂
29	低地	暗褐色シルト混極細砂～細砂
30	Ⅸ層	黄褐色細砂～中粒砂
31	Ⅸ層	暗褐色中粒砂～粗砂

＜鷺山蝉遺跡B6区西壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰色小礫混細砂～粗砂、シルト微量含
2	Ⅱ層	灰褐色小礫混細砂～粗砂、シルト微量含
3	暗渠	褐色シルト混細砂～粗砂、小礫多量含
4	Ⅱ層	黄褐色シルト混細砂、小礫微量含
5	Ⅲ層	黄灰色シルト混細砂（しまりなし）
6	Ⅲ層	褐色シルト混細砂～粗砂、小礫多量含
7	遺構	灰褐色シルト混細砂～粗砂、小礫多量含
8	Ⅲ層	黄灰色シルト混極細砂～細砂
9	SD22上撹乱	
		褐色シルト混細砂、炭・焼土・小礫含
10	Pit239	灰褐色シルト混細砂～粗砂、炭・焼土多量含
11	SD22	灰褐色シルト混極細砂～細砂、炭・焼土・小礫含
12	SD22	灰褐色シルト混極細砂～細砂、炭多量含
13	SD76	灰褐色シルト混極細砂～細砂、小礫微量含
14	SK31	黄褐色シルト混細砂～礫、中礫含
15	Pit237	黄褐色シルト混極細砂～細砂、炭微量含
16	SK46	黄褐色粗砂混シルト、小礫含
17	SK46	黄褐色粗砂混シルト
18	Ⅴ層	黄褐色シルト混極細砂～細砂
19	生物擾乱	灰褐色シルト混細砂
20	SD77	灰色細砂混シルト、小礫微量含
21	SD78	黄灰色細砂混シルト、小礫微量含
22	SD23	黄褐色シルト混極細砂
23	Ⅴ層	黄灰色シルト混極細砂～細砂
24	Pit	黄褐色シルト混極細砂、小礫含
25	Pit	褐色シルト混極細砂～細砂
26	Pit	褐色シルト混極細砂
27	SD27	黄灰色シルト混極細砂～細砂、小礫微量含
28	SD21	褐色シルト混細砂～粗砂、小礫多量含
29	SD24	褐色細砂混シルトに灰褐色細砂混シルトブロック含
30	SD24	褐色細砂混シルト
31	Ⅶ層	暗茶褐色細砂、シルト微量含
32	Ⅸ層	黄灰色細砂

＜鷺山蝉遺跡B6北壁土層名＞

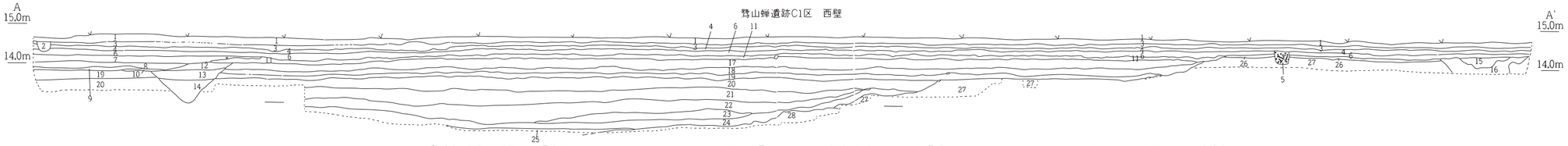
1	Ⅰ層	灰色小礫混細砂～粗砂、シルト微量含
2	Ⅱ層	灰褐色小礫混細砂～粗砂、シルト微含
3	Ⅲ層	黄褐色シルト混細砂
4	Ⅴ層	黄灰色シルト混極細砂～細砂
5	SD35～37	黄灰色シルト混細砂
6	Ⅶ層	暗茶褐色細砂、シルト微量含
7	Ⅶ層	にぶい茶褐色細砂～粗砂
8	Ⅹ層	灰褐色粗砂、5～10cmの礫多量含

＜鷺山蝉遺跡B7区南壁・東壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰色小礫混細砂～粗砂、シルト微量含
2	Ⅱ層	褐色小礫混細砂～粗砂、シルト微量含
3	暗渠	褐色粗砂混礫
4	Ⅱ層	褐色シルト混細砂～粗砂、小礫多量含
5	Ⅱ層	黄褐色シルト混細砂、小礫微量含
6	Pit	褐色シルト混細砂～粗砂
7	Ⅲ層	黄褐色シルト混粗砂、礫多量含
8	Pit236	褐色シルト混極細砂
9	Ⅴ層	黄褐色シルト混極細砂～細砂
10	Ⅴ層	黄灰色シルト混極細砂～細砂
11	SD21	灰黄褐色細砂混シルト、1～5cm礫微量含
12	SD21	黄灰色細砂
13	SD31	褐灰色細砂混シルト、小礫微量含、Fe沈着
14	SD21	黄褐色シルト混細砂、1～5cm礫微量含
15	SD21	黄褐色細砂混シルト、5cm大礫多量含
16	Ⅶ層	暗茶褐色細砂、シルト微量含
17	Ⅸ層	黄灰色細砂

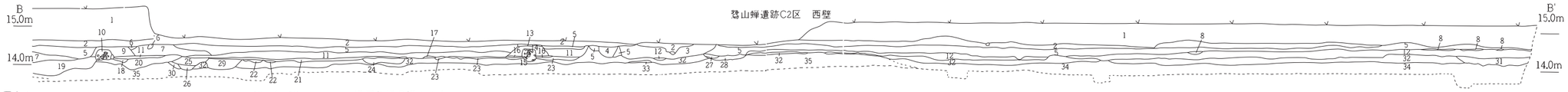
0　　5m

別添図６　鷺山蝉遺跡B区土層断面図



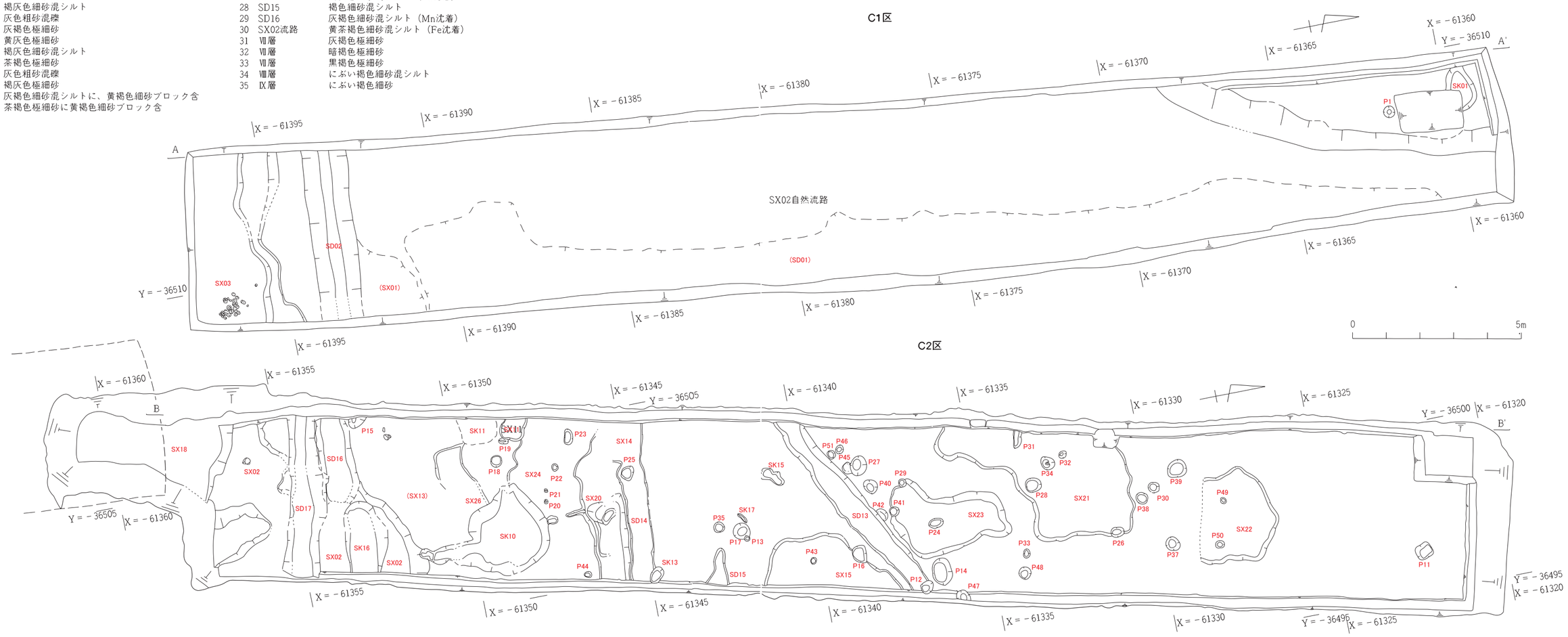
＜鷺山蝉遺跡C1区西壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰色シルト混極細砂、植物遺体多量含
2	暗渠	灰色シルト混礫
3	Ⅰ層	灰色シルト、極細砂微量含
4	Ⅱ層	灰褐色極細砂混シルト
5	暗渠	灰色礫混粗砂
6	Ⅱ層	灰褐色細砂混シルト
7	SX01落ち込み	灰褐色シルト混細砂
8	SX01落ち込み	褐色細砂、シルト微量含
9	SX01落ち込み	褐色細砂
10	SX01落ち込み	灰褐色シルト
11	Ⅲ層	褐色細砂、シルト微量含
12	SD02	黄褐色シルトに灰褐色シルトブロック含
13	SD02	灰褐色シルト、黄褐色シルトブロック含（Mn沈着）
14	SD02	緑灰色シルト質粘土、灰色シルトブロック含
15	SK01	灰色シルト
16	遺構	黄灰色シルト
17	SX02流路	茶褐色シルト混細砂(Mn沈着)
18	SX02流路	灰褐色シルト混極細砂～細砂
19	SX02流路	灰褐色シルト混極細砂
20	SX02流路	茶褐色シルト混極細砂～細砂
21	SX02流路	灰色シルト
22	SX02流路	暗褐色シルト
23	SX02流路	暗褐色シルトに灰色細砂ブロック含
24	SX02流路	灰色細砂に暗褐色シルトブロック含
25	SX02流路	茶褐色シルト混極細砂、木片多量含
26	Ⅶ層	黄褐色細砂、シルト微量含
27	Ⅸ層	黄灰色細砂
28	Ⅸ層	灰色細砂混シルト

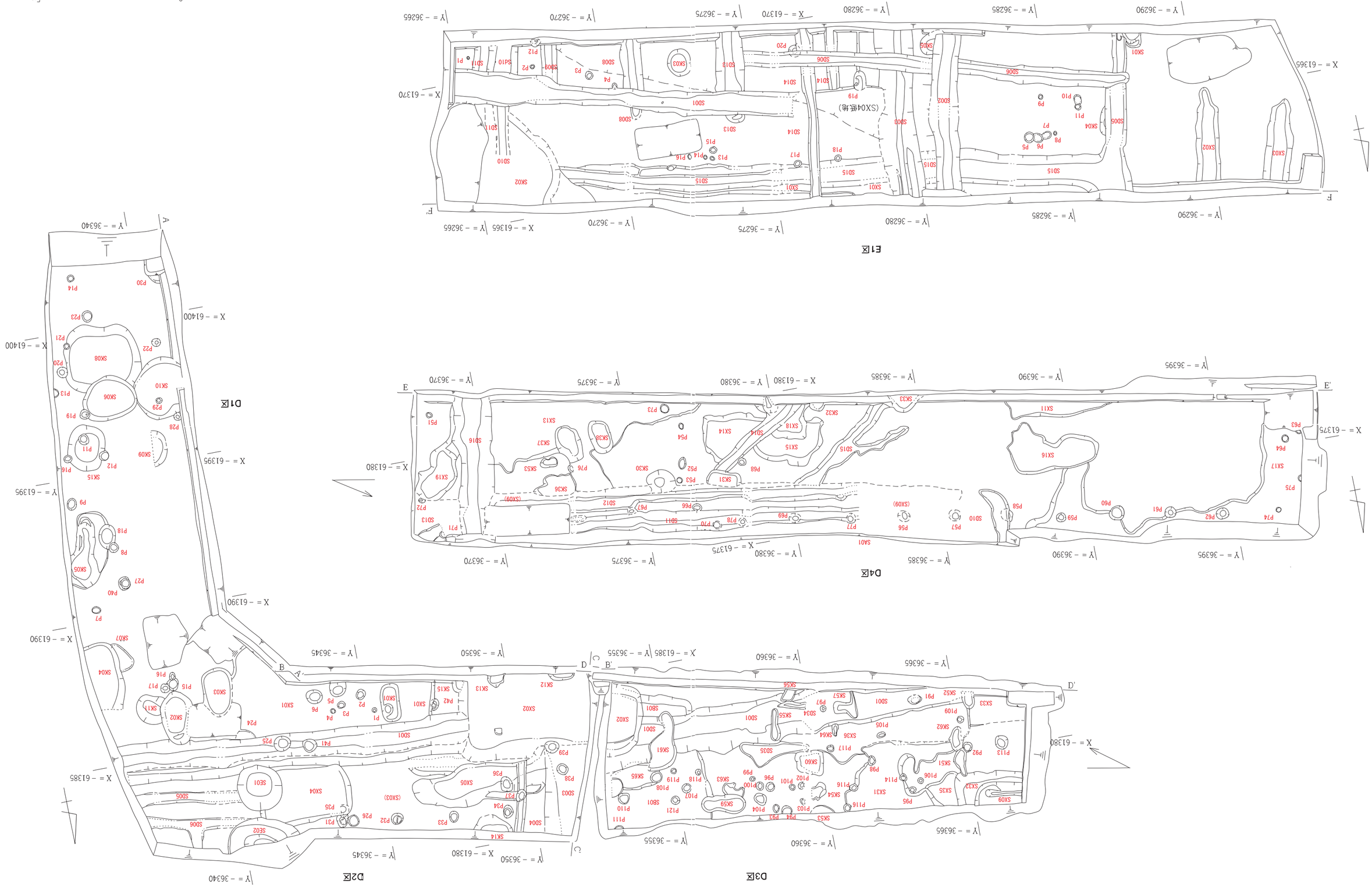


＜鷺山蝉遺跡C2区西壁土層名＞

1	0層	現代造成土
2	Ⅰ層	暗灰色シルト
3	Ⅰ層	青灰色極細砂
4	Ⅰ層	褐灰色細砂
5	Ⅱ層	褐灰色極細砂
6	杭跡？	灰色砂混シルト（Mn沈着）
7	Ⅱ層	茶褐色細砂混シルト
8	Ⅱ層	暗灰色細砂混シルト
9	近現代水田畦畔	褐灰色細砂混シルト
10	暗渠	灰色粗砂混礫
11	Ⅱ層	灰褐色極細砂
12	Ⅱ層	黄灰色極細砂
13	近現代水田畦畔	褐灰色細砂混シルト
14	近現代水田畦畔	茶褐色極細砂
15	暗渠	灰色粗砂混礫
16	近現代水田畦畔	褐灰色極細砂
17	Ⅲ層	灰褐色細砂混シルトに、黄褐色細砂ブロック含
18	Ⅲ層	茶褐色極細砂に黄褐色細砂ブロック含
19	SX12	褐灰色細砂混シルト
20	SX18	茶褐色細砂混シルト（Mn沈着）
21	SX13	灰褐色細砂混シルトに、黄褐色細砂ブロック含
22	Ⅲ層	灰色極細砂（Mn沈着）
23	Ⅲ層	灰色細砂混シルト（Mn沈着）
24	SK11	灰褐色細砂混シルト
25	SD17	褐色細砂混シルト（Mn沈着）
26	SD17	灰色細砂混シルト（粘性有）
27	SD15	褐灰色細砂混シルト（Fe沈着）
28	SD15	褐色細砂混シルト
29	SD16	灰褐色細砂混シルト（Mn沈着）
30	SX02流路	黄茶褐色細砂混シルト（Fe沈着）
31	Ⅶ層	灰褐色極細砂
32	Ⅶ層	暗褐色極細砂
33	Ⅶ層	黒褐色極細砂
34	Ⅷ層	にぶい褐色細砂混シルト
35	Ⅸ層	にぶい褐色細砂



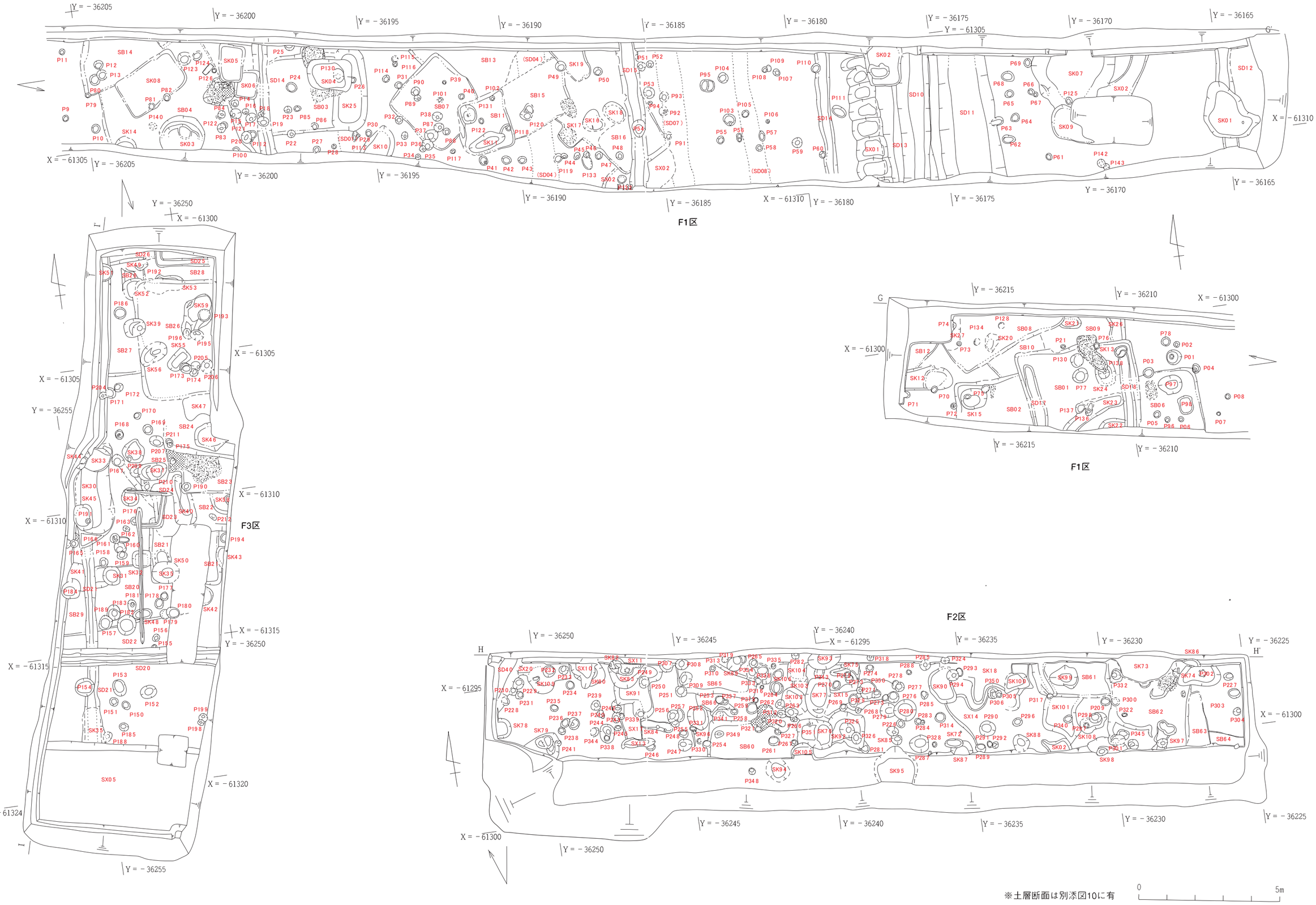
別添図７　鷺山蝉遺跡C区全体図、土層断面図



D3区
D2区
D4区
D1区
E1区
Y＝－36365
Y＝－36360
Y＝－36355
Y＝－36350
Y＝－36345
Y＝－36340
X＝－61380
X＝－61385
X＝－61390
X＝－61395
X＝－61400
Y＝－36395
Y＝－36390
Y＝－36385
Y＝－36380
Y＝－36375
Y＝－36370
X＝－61375
Y＝－36290
Y＝－36285
Y＝－36280
Y＝－36275
Y＝－36270
Y＝－36265
X＝－61365
X＝－61370
SX09
SX32
SX35
P95
SX31
P116
SK53
P94
P93
P103
P104
SK59
P121
SB01
P111
P110
P114
P106
SK54
P102
P101
P96
P100
P99
SK63
P107
P118
P119
P108
SK65
SK51
P98
SK60
P113
P92
P117
SD35
SK61
SX36
SK64
P105
SK62
SD01
SX02
P109
SD34
SK55
SX33
SK52
P91
SK57
P97
SK56
SK14
SD04
P33
P32
P26
P31
SE02
SD06
P34
P35
SD03
P37
(SX03)
SX04
SD05
P38
P36
SX05
SE01
P39
P41
P25
SD01
P24
SK02
SK11
P1
P4
P3
P2
P6
P5
SX01
P42
SK01
SK15
SX02
SK12
SK13
SK03
P15
P17
P16
SK04
SK07
P7
P40
P27
SK05
P8
P18
P9
SK15
P12
P16
P11
SK09
P28
P29
SK10
SK06
P19
P13
P20
SK08
P22
P21
P23
P30
P14
P74
P62
P61
P60
P59
P58
SD10
P57
P56
(SX09)
SA01
P77
P69
P78
P70
SD11
P66
P67
SD12
SD13
P71
P72
P75
SX17
SX16
P64
P63
SX11
SK33
SK32
SD15
SX15
SX18
SD14
SX14
P68
SK31
P53
P52
SX30
P54
P73
SK36
P76
SK53
SK38
SK37
SX13
SX19
SD16
P51
SX03
SX02
SD15
P8
P6
P5
P7
SD05
SK04
P11
P10
P9
SK01
SD06
SX01
SD15
P18
SD03
SD02
(SX04低地)
P19
SD14
SD06
SK05
P20
SX01
P17
SD15
P13
P14
P16
P15
SD13
SD01
SD14
SD08
SD13
SK03
SD08
P4
P3
SK02
SD10
SD11
SD09
P2
P12
Sd10
SD11
P1
0
5m

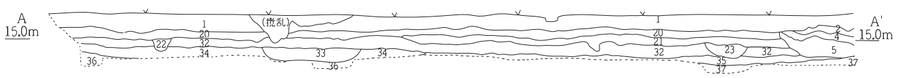
※土層断面は別添図10に有

別添図８　鷺山蝉遺跡Ｄ・Ｅ区全体図

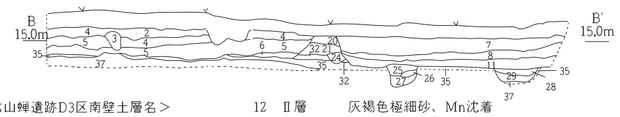


別添図 9　鷺山蝉遺跡F区全体図

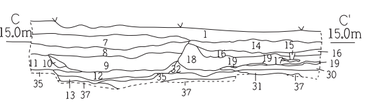
鷺山蝉遺跡D1区　西壁



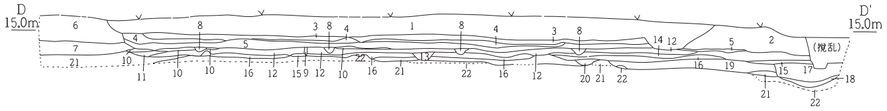
鷺山蝉遺跡D2区　南壁



鷺山蝉遺跡D2区　西壁



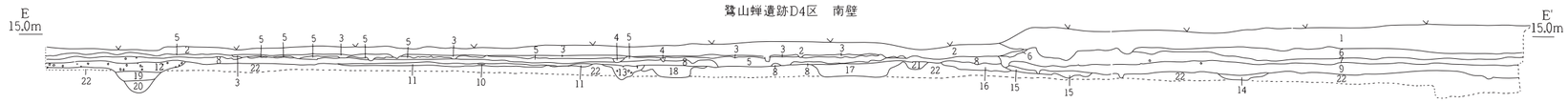
鷺山蝉遺跡D3区　南壁



＜鷺山蝉遺跡D3区南壁土層名＞

1	0層	褐色礫混粗砂
2	Ⅰ層	灰褐色シルト
3	Ⅰ層	黒褐色シルト
4	Ⅰ層	黒灰色シルト
5	Ⅰ層	暗灰色細砂混シルト
6	Ⅰ層	灰褐色シルト
7	SX02	にぶい黄褐色シルト
8	暗渠	褐色シルト混細砂
9	生物擾乱	灰褐色シルト
10	Ⅱ層	黄灰色細砂混シルト
11	Ⅱ層	灰色極細砂、Mn沈着
12	Ⅱ層	灰褐色極細砂、Mn沈着
13	SK56	暗褐色シルト混細砂
14	SX36	灰褐色細砂混シルト、灰色ブロック含、Mn沈着
15	SX36	灰色極細砂、Mn沈着
16	Ⅲ層	にぶい褐色極細砂、Mn沈着
17	SX33	明褐色細砂混シルト、Mn沈着
18	SX33	明褐色細砂混シルト
19	SD01	褐色細砂混シルト、Fe沈着
20	SK57	暗褐色シルト混細砂
21	Ⅶ層	暗褐色細砂
22	Ⅸ層	黄褐色粗砂～小礫

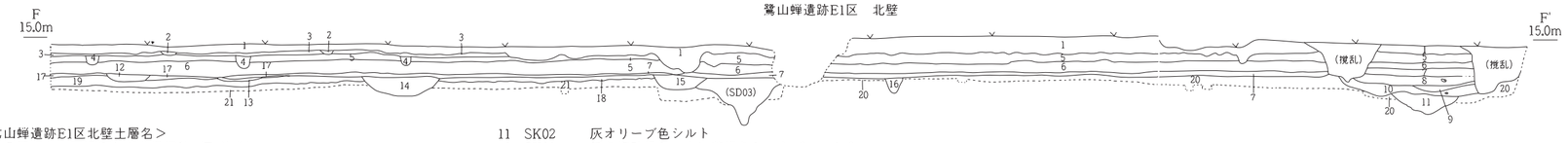
鷺山蝉遺跡D4区　南壁



＜鷺山蝉遺跡D4区南壁土層名＞

1	Ⅰ層	黄褐色細砂
2	Ⅰ層	灰褐色細砂
3	Ⅱ層	褐灰色細砂
4	Ⅱ層	灰色極細砂
5	Ⅱ層	黄灰色極細砂
6	Ⅱ層	黄褐色極細砂（粘性有）
7	Ⅱ層	黄褐色極細砂
8	Ⅲ層	明褐灰色極細砂
9	Ⅲ層	明赤褐色シルト（粘性有）
10	SD06	褐色シルト混細砂
11	SX03	褐色極細砂
12	SX10	褐色礫混細砂～粗砂
13	SX18	褐色極細砂（小礫含）
14	遺構	にぶい黄褐色細砂混シルト
15	SX11	黄褐色極細砂～細砂混シルト
16	遺構	褐色細砂混シルト
17	SK33	褐色細砂混シルト
18	SD14	黄褐色細砂混シルト
19	SD16	明褐色細砂（小礫少量含）
20	SD16	褐灰色細砂混シルト（粘性有、小礫少量含）
21	Pit79	黄褐色細砂
22	Ⅸ層	にぶい黄褐色細砂

鷺山蝉遺跡E1区　北壁



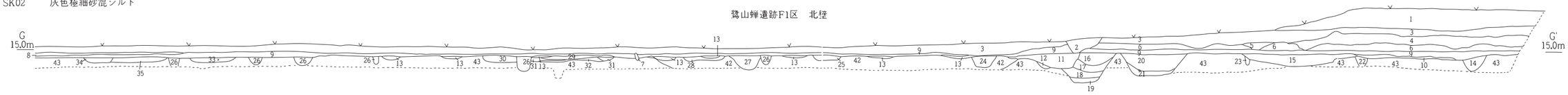
＜鷺山蝉遺跡E1区北壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰褐色シルト混細砂（Fe沈着）
2	暗渠	灰褐色粗砂、シルト微量含
3	Ⅱ層	黄灰色細砂、シルト微量含（Mn、Fe多量含）
4	暗渠	茶褐色細砂～粗砂(Fe沈着)
5	Ⅱ層	灰黄褐色細砂～粗砂、シルト微量含（炭微量含、Mn、Fe多量含）
6	Ⅲ層	灰オリーブ色細砂混シルト（Fe沈着）
7	Ⅲ層	灰オリーブ色細砂混シルト（Mn、Fe沈着）
8	SK02	黄褐色シルト混板細砂～細砂、小礫微量含
9	SK02	にぶい黄褐色細砂混シルト
10	SK02	灰色極細砂混シルト
11	SK02	灰オリーブ色シルト
12	SX02	灰色細砂混シルトに茶褐色シルトブロック含
13	SX03	灰色細砂混シルトに茶褐色シルトブロック含
14	SD15	灰色細砂混シルトに黄褐色細砂～中粒砂ブロック含(Mn沈着)
15	SD02	黄褐色シルト混細砂、炭微量含
16	SD14	淡黄褐色シルト混細砂～中粒砂
17	Ⅴ層	黄灰色シルト、細砂微量含
18	Ⅶ層	褐色極細砂混シルト
19	SX04低地	黒褐色シルト(Fe沈着)
20	Ⅸ層	黄褐色シルト混細砂

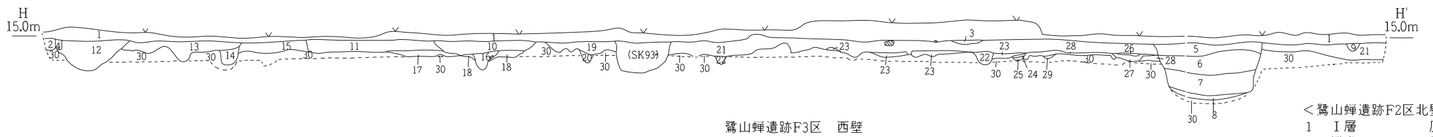
＜鷺山蝉遺跡D1区西壁、D2区南壁・西壁土層名＞

1	Ⅰ層	茶褐色シルト混細砂～中粒砂、小礫微量含（Mn沈着）
2	SX01落ち込み	明黄褐色シルト混細砂～中粒砂（小礫微量含）
3	根跡	黄灰色シルト、礫含
4	SX01落ち込み	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、黄灰色細砂混シルトブロック含、小礫含（Mn、Fe沈着）
5	SX01落ち込み	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、黄灰色シルトブロック多量含、小礫含（Mn、Fe沈着）
6	SX01落ち込み	黄灰色細砂混シルト、礫含（Mn沈着）
7	SX02落ち込み	黄褐色シルト混細砂～中粒砂（0.2～3cm礫微量含）
8	SX02落ち込み	灰黄色細砂～中粒砂混シルト（Mn、Fe、0.2～3cm礫微量含）
9	SX02落ち込み	黄褐色粗砂、明黄褐色細砂混シルトブロック含（遺物多量含、0.2～5cm礫微量含）
10	SX02落ち込み	にぶい黄褐色シルト混細砂～中粒砂（炭微量含）
11	SX02落ち込み	にぶい黄褐色細砂混シルト（Mn、Fe、0.2～3cm礫含）
12	SX02落ち込み	黄灰褐色細砂～中粒砂混シルト（Mn、Fe多量含）
13	SX02落ち込み	褐灰色シルト混細砂～粗砂（Mn、Fe含）
14	SX03落ち込み	明黄褐色シルト混細砂（Mn、Fe、小礫含）
15	生物擾乱	灰色細砂混シルト
16	SX03落ち込み	黄褐色シルト混細砂、灰褐色細砂混シルトブロック含（Mn、Fe含）
17	SX03落ち込み	灰褐色細砂混シルト
18	SX03落ち込み	褐灰色細砂混シルト（Mn含、Fe多量含）
19	SX03落ち込み	黄褐灰色細砂混シルト（Fe多量含）
20	Ⅲ層	茶褐色シルト混細砂～中粒砂、小礫含（Mn沈着）
21	Ⅲ層	明黄褐色シルト混細砂～中粒砂（Mn、炭微量含、2～3cm礫含）
22	Pit	明黄褐色細砂混シルト（炭・焼土少量含）
23	遺構	明黄褐色シルト、灰黄色シルト混細砂～中粒砂ブロック含（Mn含、炭、小礫微量含）
24	SK16	黄褐色シルト混極細砂～細砂（Mn、Fe含）
25	SK13	黄褐色細砂混シルト（Mn、Fe含、2～3cm礫微量含）
26	SK13	黄褐色中粒砂（3～8cm礫多量含）
27	SK13	灰褐色細砂～中粒砂混シルト（Mn、Fe含、0.2～5cm礫微量含）
28	SK12	にぶい黄褐色シルト混細砂～中粒砂、灰黄色ブロック含（Mn、Fe、小礫含）
29	SK12	灰黄色シルト（炭、小礫微量含、Mn、Fe含）
30	SD03	褐灰色シルト混細砂（Mn含、Fe多量含）
31	SD03	褐灰色細砂混シルト（Mn含、Fe多量含）
32	Ⅴ層	明黄褐色シルト混細砂、黄色細砂混シルトブロック含（Mn、炭、2～3cm礫微量含）
33	SK10	明黄褐色細砂混シルト（炭少量含、Mn、0.2～10cm礫含）
34	Ⅶ層	褐色細砂混シルト、2～8cm大の礫含（Mn沈着）
35	Ⅸ層	明黄褐色細砂～中粒砂、2～8cm大の礫含（Mn沈着）
36	Ⅸ層	明黄褐色シルト～細砂、2～8cm大の礫含（Mn沈着）
37	Ⅹ層	暗黄褐色中粒砂、5～10cm大の礫含

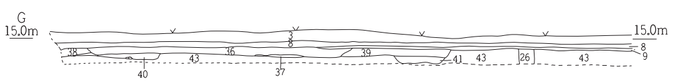
鷺山蝉遺跡F1区　北壁



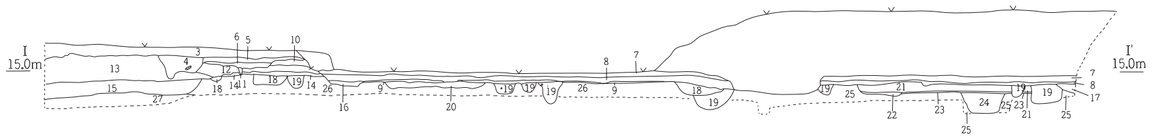
鷺山蝉遺跡F2区　北壁



鷺山蝉遺跡F1区　北壁



鷺山蝉遺跡F3区　西壁



＜鷺山蝉遺跡F3区西壁土層名＞

1	0層	灰黄色砂礫
2	Ⅰ層	灰褐色シルト混細砂、粗砂～小礫微量含
3	Ⅰ層	灰褐色細砂～中粒砂、シルト微量含
4	攪乱	灰褐色シルト混細砂
5	Ⅰ層	褐色細砂、シルト微量含
6	Ⅰ層	暗褐色シルト混細砂
7	Ⅰ層	暗灰色シルト混細砂
8	Ⅰ層	灰色細砂混シルト
9	Ⅱ層	灰色細砂混シルトに謳歌色細砂ブロック含(Mn沈着)
10	Ⅱ層	灰褐色シルト混極細砂
11	生物擾乱	灰褐色シルト混細砂、Mn沈着
12	Ⅱ層	灰褐色シルト混細砂、Mn沈着
13	Ⅱ層	黄褐色細砂～中粒砂
14	Ⅲ層	灰褐色シルト混細砂に黄褐色細砂ブロック含
15	SX05	黄灰色細砂混シルト
16	SD20	灰黄色シルト混細砂
17	SD26	灰色シルト混極細砂
18	SK30等遺構	灰褐色シルト混細砂、黄褐色ブロック含
19	SK44等遺構	茶褐色シルト混極細砂～細砂
20	SB29	褐色シルト混細砂、黄褐色細砂ブロック含
21	SB27	灰褐色シルト混細砂に灰褐色シルトブロック含、炭・焼土微量含
22	SB27	灰褐色シルトに黄褐色細砂ブロック微量含、炭・焼土微量含
23	SB27	黄褐色細砂に灰褐色シルトブロック含
24	SK54	灰褐色シルト混極細砂
25	Ⅶ層	黄褐色シルト
26	Ⅸ層	黄褐色極細砂～細砂
27	Ⅸ層	黄灰色シルト～極細砂

＜鷺山蝉遺跡F2区北壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰褐色シルト
2	攪乱	褐灰色シルト、黄褐色シルトブロック含
3	暗渠	灰褐色シルト
4	暗渠	灰色極細砂
5	SK73	灰褐色シルト、小礫多量含
6	SK73	褐灰色細砂混シルト、小礫多量含
7	SK73	青灰色シルト、小礫含
8	SK73	青灰色シルト
9	Pit	褐色シルト、焼土多量含
10	SK89	灰褐色極細砂
11	遺構	灰褐色シルト混極細砂
12	SD40	褐色シルト、焼土含
13	SX20落ち込み	灰褐色細砂
14	SK80	褐色シルト
15	SK91	灰褐色極細砂
16	P319	褐色シルト
17	SB65	褐色シルト、炭・焼土多量含
18	SB65	灰褐色極細砂
19	SK104	灰褐色極細砂
20	SK104	灰褐色極細砂混シルト
21	Ⅵ層	灰褐色シルト混極細砂～細砂
22	P324他	褐色シルト
23	SX18	灰色シルト、焼土微量含
24	Pit	褐灰色シルト、焼土微量含
25	Pit	灰色シルト
26	SB65	褐色シルト、焼土多量含
27	SB65	褐灰色シルト
28	SB65	灰褐色シルト
29	SB65	褐灰色シルト
30	Ⅶ層	黄褐色シルト

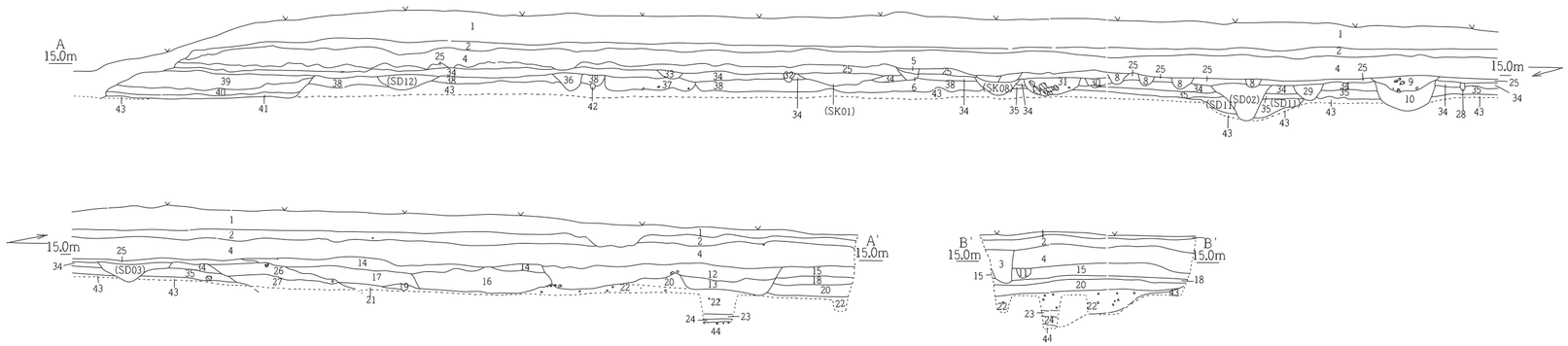
＜鷺山蝉遺跡F1区北壁土層名＞

1	0層	赤褐色粗砂混礫(現代盛土)
2	攪乱	暗灰色シルト
3	Ⅰ層	緑灰色シルト混細砂(Mn・Fe沈着)
4	Ⅱ層	褐色細砂に緑灰色シルトブロック含
5	Ⅱ層	灰色シルト混細砂～粗砂、小礫含
6	Ⅱ層	灰褐色細砂～粗砂、Mn、Fe沈着
7	生物擾乱	灰色シルト混極細砂
8	Ⅲ層	オリーブ灰色シルト混細砂、Mn、Fe沈着
9	Ⅲ層	オリーブ灰色シルト混細砂、Mn、Fe多量沈着
10	Ⅲ層	灰褐色細砂～粗砂、Mn、Fe沈着
11	SX01	灰色細砂、シルト微量含
12	SX01	灰色シルト
13	暗渠	灰黄色シルト混細砂～中粒砂
14	SD12	灰黄色細砂、シルト微量含
15	SK07	オリーブ灰色シルト混極細砂～細砂
16	SD10	褐色細砂、シルト微量含
17	SD13	灰褐色シルト混細砂
18	SD13	灰色シルト混細砂
19	SD13	灰色シルト、細砂微量含
20	SD11	灰褐色シルト混細砂
21	SD11	灰色シルト、細砂微量含
22	Pit	褐色シルト混極細砂
23	Pit	灰褐色シルト
24	SD16	灰色シルト混極細砂
25	遺構	黄褐色シルト混極細砂～細砂
26	Pit・SD14	褐色シルト混極細砂～細砂
27	SD15	灰褐色シルト混細砂
28	SK19	灰褐色シルト混細砂、炭微量含
29	SB13	灰褐色シルト混細砂
30	SB13	褐色シルト混細砂、炭・焼土微量含
31	SB13	褐色シルト混細砂、炭・焼土多量含
32	SB13	褐色シルト混細砂ブロック含
33	SB04	褐色シルト混細砂、炭・焼土微量含
34	SB14	茶褐色シルト混細砂
35	SB14	褐色シルト混細砂
36	SB08	褐色シルト混細砂、炭・焼土微量含
37	SB08	褐色シルト混細砂、炭・焼土多量含
38	SB12	茶褐色シルト混細砂、炭微量含
39	SB09	茶褐色シルト混極細砂、炭・焼土含
40	SK27	茶褐色シルト混細砂、炭含
41	SK26	褐色シルト混細砂
42	Ⅶ層	黄灰色シルト
43	Ⅸ層	黄褐色細砂

0　5m

別添図10　鷺山蝉遺跡D・E・F区土層断面図

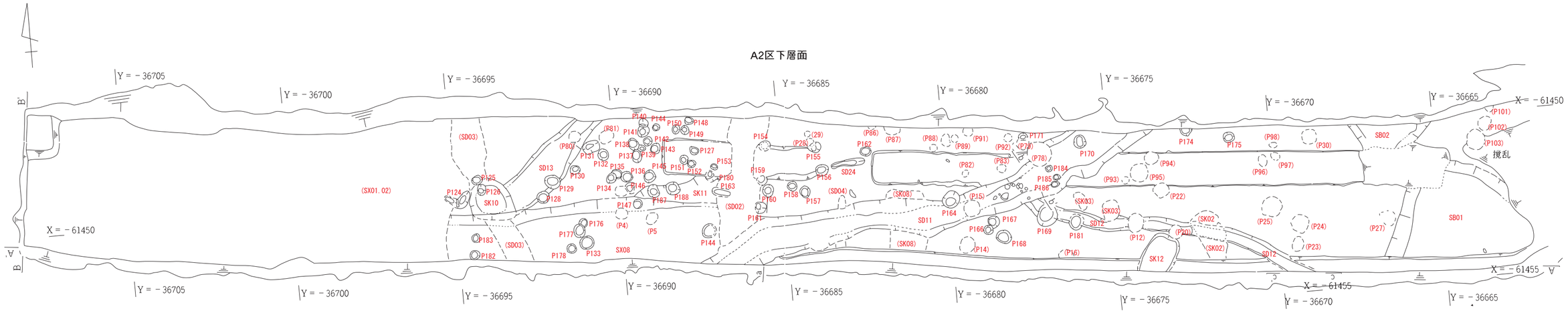
鷲山仙道遺跡A2区　南壁



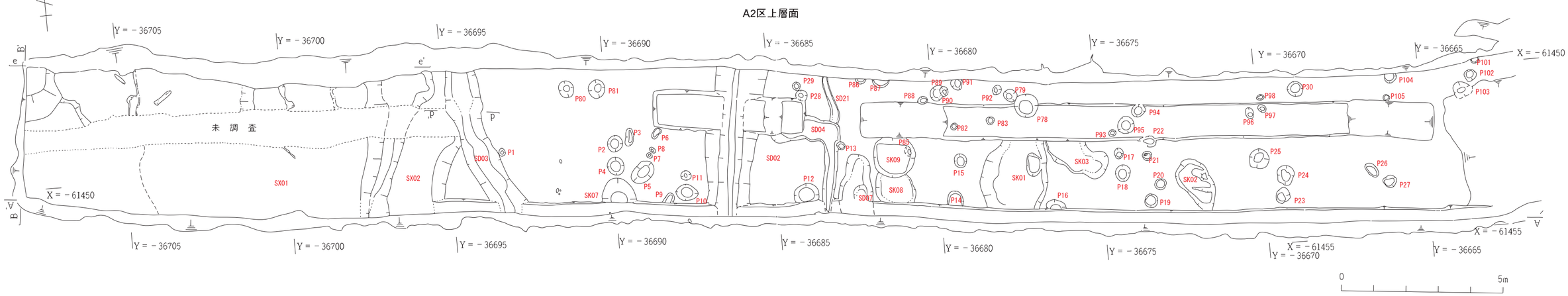
＜鷲山仙道遺跡A2区南壁・西壁土層名＞

1　0層　黄褐色細砂混礫（現代盛土）
2　Ⅰ層　灰色シルト混細砂、小礫微量含
3　攪乱　灰褐色礫混粗砂
4　Ⅱ層　褐色細砂、シルト・小礫微量含
5　Pit　褐色小礫混シルト
6　Pit　褐色シルト混細砂～中粒砂
7　Pit　褐色シルト混細砂～中粒砂、小礫微量含
8　畝溝　灰褐色細砂に褐色シルト混細砂ブロック含、小礫微量含
9　SK07　オリーブ灰色細砂、シルト微量含
10　SK07　黄褐色シルト混極細砂
11　Pit　褐色小礫混シルト
12　SD01　黄褐色細砂シルト微量含
13　SD01　褐色細砂
14　SX01池状遺構　灰色シルト混細砂～中粒砂に褐色細砂ブロック含
15　SX01池状遺構　褐色シルト混細砂～中粒砂
16　SX01池状遺構　灰色シルト混細砂～中粒砂に黄褐色細砂ブロック含
17　SX01池状遺構　灰色シルト混細砂～中粒砂
18　SX01池状遺構　茶褐色シルト混細砂
19　SX01池状遺構　灰褐色シルト混細砂～中粒砂、1～2cmの礫、有機物含
20　SX01池状遺構　褐色シルト混細砂～中粒砂
21　SX01池状遺構　灰色シルト、1～2cmの礫含
22　SX01池状遺構　灰褐色シルト混細砂～中粒砂、小礫・有機物含
23　SX01池状遺構　灰色シルト混極細砂～細砂
24　SX01池状遺構　緑灰色極細砂混シルト、有機物微量含
25　Ⅲ層　褐色シルト混細砂に茶褐色シルト混細砂ブロック含
26　SX02落ち込み　褐色細砂混シルト、小礫微量含
27　SX02落ち込み　黄褐色細砂混シルト
28　生物擾乱　褐色細砂混シルト、小礫微量含
29　Pit　黄褐色シルト混細砂、小礫微量含
30　SD04　褐色シルト混極細砂
31　SD07　黄褐色細砂～中粒砂、シルト微量含
32　Pit　黄褐色シルト混細砂、小礫含
33　Pit　灰褐色シルト混極細砂～細砂
34　Ⅴ層　暗茶褐色シルト混細砂に、褐色シルト混細砂ブロック含
35　SX08低地　茶褐色シルト混細砂
36　Pit　茶褐色小礫混シルト、細砂微量含
37　遺構　茶褐色シルト混細砂
38　Ⅶ層　暗茶褐色シルト混細砂
39　SB01　暗茶褐色シルト混極細砂～細砂、炭微量含
40　SB01　暗茶褐色シルト混極細砂～細砂に黄褐色細砂ブロック含、炭微量含
41　SB01　黄褐色シルト混細砂に、黒褐色シルト混細砂ブロック含
42　生物擾乱　黄褐色細砂混シルト
43　Ⅸ層　黄灰色細砂～中粒砂
44　Ⅹ層　黄褐色粗砂混礫

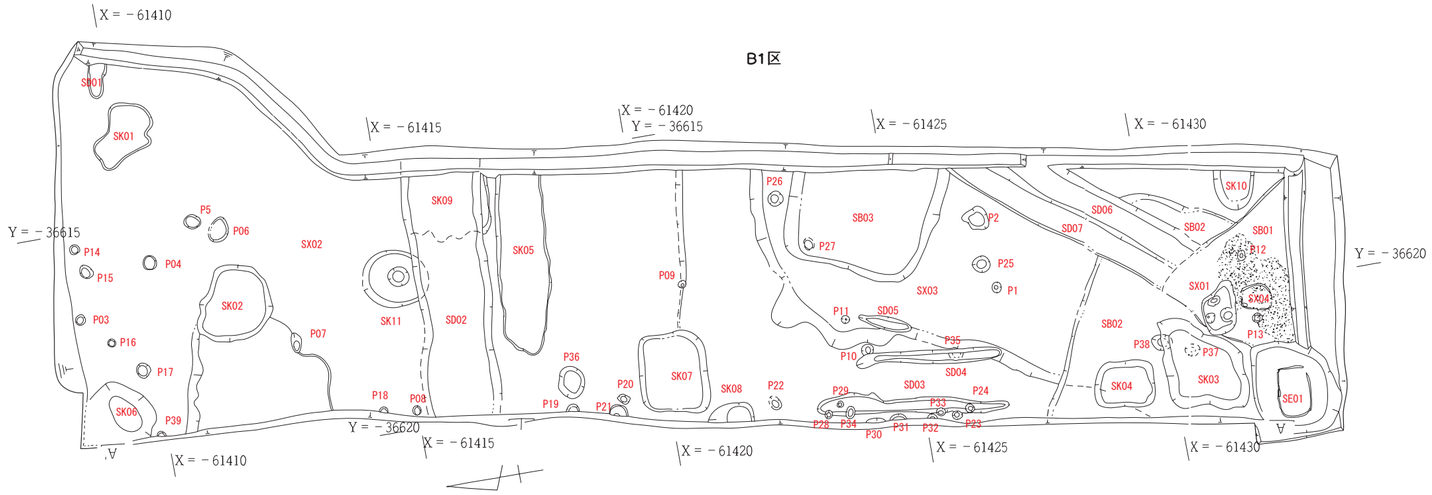
A2区下層面

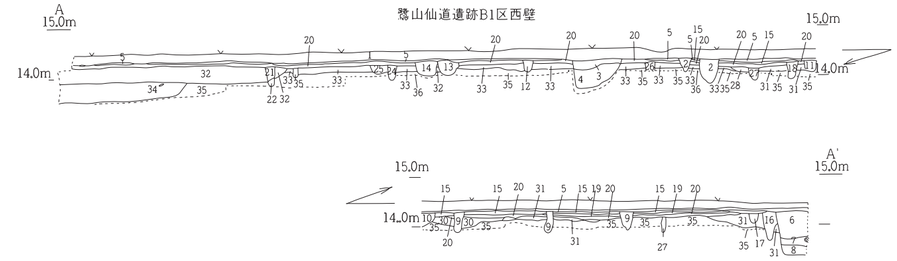


A2区上層面



別添図11　鷲山仙道遺跡A2区全体図、土層断面図

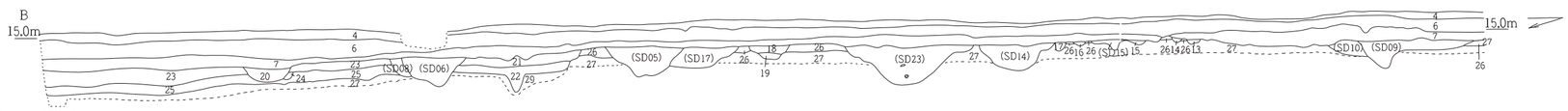


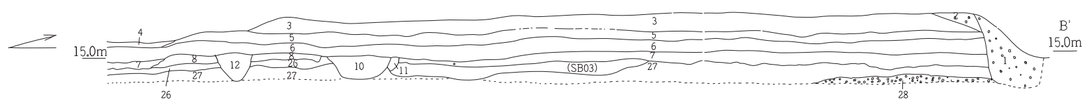


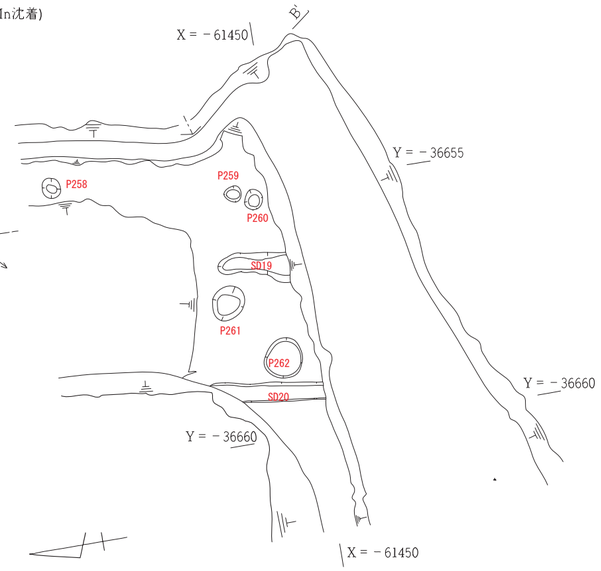
＜鷲山仙道遺跡B1区西壁土層名＞

1	Ⅰ層	灰色細砂混シルト
2	Pit21等	褐灰色シルト混細砂、Fe沈着
3	SK08	黄褐灰色細砂混シルト、Fe沈着
4	SK08	褐灰色シルト混細砂、Fe沈着
5	Ⅱ層	褐灰色シルト混極細砂
6	SK06	黄灰色細砂混シルトに褐灰色シルトブロック含（Mn・Fe沈着）
7	SK06	褐灰色中粒砂混シルト、3～5cm大の礫含（Fe沈着）
8	SK06	褐灰色粗砂混シルト（Fe沈着）
9	Pit18等	褐灰色シルト混極細砂～細砂(Mn沈着)
10	Pit	褐灰色中粒砂混シルト（Mn・Fe沈着）
11	Pit	淡褐灰色中粒砂混シルト（Mn・Fe沈着）
12	Pit	黄褐色シルト混極細砂～細砂（Mn沈着）
13	Pit30	黄褐色細砂混シルト（Mn沈着）
14	Pit31	にぶい黄褐色シルト（Mn沈着）
15	Ⅱ層	褐灰色シルト混細砂
16	Pit	黄褐色シルト混細砂に灰褐色中粒砂混シルトブロック含（Mn・Fe沈着）
17	Pit39	にぶい黄褐色極細砂混シルト(Mn沈着)
18	Pit	褐灰色細砂混シルト（Mn沈着）
19	Ⅲ層	灰褐色シルト混細砂（Mn沈着）
20	Ⅲ層	褐灰色シルト混細砂（Mn・Fe沈着）
21	Pit	黄褐色細砂混シルト
22	Pit	灰褐色シルト（Mn沈着）
23	Pit	黄褐色細砂混シルト
24	Pit32	灰褐色シルト混細砂（Mn沈着）
25	Pit	にぶい黄褐色シルト混極細砂～細砂（Mn沈着）
26	Pit	灰褐色シルト混細砂(Mn沈着)
27	Pit19	にぶい黄褐色細砂混シルト（Mn沈着）
28	Pit	黄褐色シルト混細砂に灰褐色シルトブロック含(Mn沈着)
29	Pit	褐灰色中粒砂混シルト（Mn沈着）
30	SD02	淡褐灰色細砂混シルト（Mn・Fe沈着）
31	SX02	黄褐色細砂混シルト
32	SB02	にぶい黄褐色シルト、細砂・炭化物微量含（Mn沈着）
33	Ⅶ層	褐色シルト混細砂
34	SX03	黄褐色シルト混極細砂～細砂
35	Ⅸ層	黄褐色細砂

鷲山仙道遺跡A1区　東壁

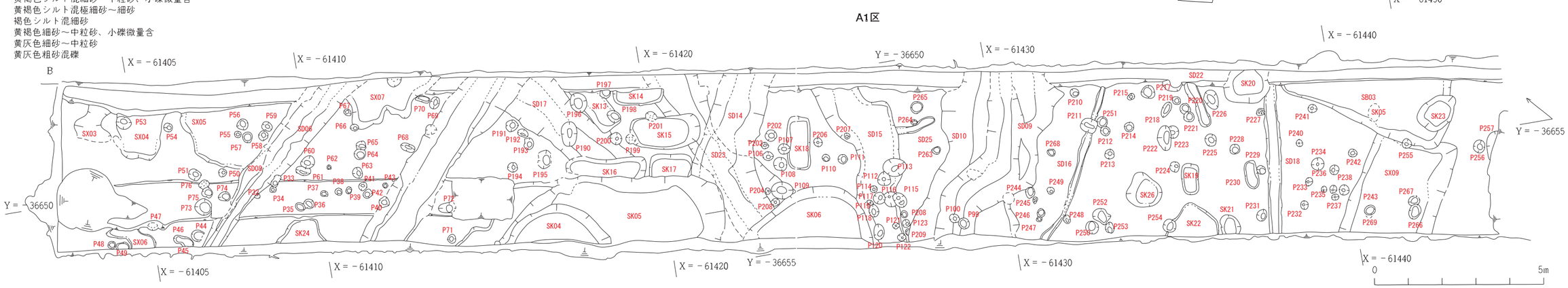






＜鷲山仙道遺跡A1区東壁土層名＞

1	0層	褐色礫混細砂、シルト微量含（現代盛土）
2	0層	黄褐色礫混細砂（現代盛土）
3	0層	黄褐色細砂混礫（現代盛土）
4	Ⅰ層	灰褐色シルト混細砂、小礫微量含
5	Ⅰ層	灰色シルト混細砂、小礫微量含
6	Ⅱ層	褐色細砂、シルト・小礫微量含
7	Ⅲ層	褐色シルト混細砂に黄灰色細砂～中粒砂ブロック含
8	Ⅴ層	黄灰色細砂～中粒砂に褐色シルト混細砂ブロック含
9	Ⅴ層	褐色シルト混細砂に黄灰色細砂～中粒砂ブロック含
10	SK22	暗褐色シルト混細砂
11	SD18	黄褐色細砂、シルト・小礫微量含
12	SD22	褐色細砂、シルト・小礫微量含
13	Pit	褐色細砂に黄褐色細砂混シルトブロック含
14	Pit	褐色細砂に黄褐色細砂混シルトブロック含
15	Pit	褐色シルト混細砂、小礫微量含
16	Pit	褐色細砂に黄褐色細砂混シルトブロック含
17	Pit	褐色細砂に黄褐色細砂混シルトブロック含
18	SK13	褐色細砂、シルト、小礫微量含
19	SK13	褐色シルト混細砂
20	Pit271	褐色シルト混細砂
21	SX07	黄褐色シルト混細砂に褐色シルト混細砂ブロック含
22	SX07	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、小礫微量含
23	低地	黄褐色シルト混細砂～中粒砂、小礫微量含
24	Pit272	黄褐色シルト混極細砂～細砂
25	Ⅶ層	褐色シルト混細砂
26	Ⅶ層	黄褐色細砂～中粒砂、小礫微量含
27	Ⅸ層	黄灰色細砂～中粒砂
28	Ⅹ層	黄灰色粗砂混礫



別添図12　鷲山仙道遺跡A1区・B1区全体図、土層断面図